

# 第 49 回

## 足立区政に関する世論調査

2020(令和2)年 8 月 実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／  
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／  
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区の取り組み

## はじめに

コロナに始まりコロナに暮れたといっても過言ではなかった令和2年。その渦中の8月に実施した「第49回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。調査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

ステイホームや在宅勤務の影響があったのか、回収率は58.2%と前年比5.2ポイントのアップ。また、刑法犯認知件数の減少率に比較すると一昨年まで横這いだった「体感治安が良い」との回答割合も上昇し、過去最高の61.6%。

「令和元年度は区内の認知件数が戦後最少」と繰り返し広報したことの成果かもしれません。

昨年は「特別定額給付金」の支給という、これまで区が経験したことのない大規模かつ複雑な事業の実施があり、給付時期等で他の自治体との厳しい競争にもさらされました。そうした状況下にあって、「区政満足度」が前年から4.4ポイントアップし、現在の調査項目に変更以来、過去最高の66.5%の数字をいただけたことは、職員にとって何よりの励みとなります。

緊急事態宣言が関東1都3県に発出されるなど、まだまだ厳しい毎日が続きますが、今後もなお一層、区民の皆様のご期待にお応えすべく、本調査結果を最大限活用し、施策や事業をブラッシュアップしてまいります。

令和3年2月

足立区長 近藤やよい



# 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b>	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
<b>第 2 章 調査結果の要約</b>	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	26
8 環境・地域活動	28
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	29
10 協働・協創	30
11 区の取り組み	31
<b>第 3 章 調査結果の分析</b>	39
1 定住性	41
（1）居住地域の評価	43
（2）居住地域評価の経年比較	58
（3）地域の暮らしやすさ	65
（4）特に暮らしにくいと感ずること	71
（5）定住意向	75
2 大震災などの災害への備え	83
（1）備蓄や防災用具などの用意	85
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	89
（3）備蓄量	94
（4）災害発生時の水や食料の確保	100
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	103
（6）対策をしていない理由	106
（7）地域の 3 種の避難場所とその意味の認知	109

(8) 避難場所の認知経路	116
(9) 大規模災害時の避難生活場所	118
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	120
3 洪水対策	125
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	127
(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定	131
(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所	134
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	137
(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	140
4 区の情報発信のあり方	149
(1) 区の情報の入手手段	151
(2) 重要と考える区の情報	157
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況	161
(4) 区の情報が得られない理由	163
(5) 区の情報が得られない理由の詳細	165
5 健康	167
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	169
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	171
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	174
(4) 1日野菜 350g 以上の摂取	176
(5) 体調や習慣	178
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	183
(7) 自身の健康状態について	186
(8) がん検診の受診状況	189
(9) 受けたがん検診の種類	191
(10) 感染症予防のための手洗いの実践状況	193
(11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	195
6 スポーツ・読書	197
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	199
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	201
(3) 運動・スポーツを行っている場所	204
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ	207
(5) 東京 2020 年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	209
(6) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	212
(7) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	214
(8) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ	217
(9) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	219
(10) 読書に関わる行動状況	221
(11) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	223

7	ビューティフル・ウィンドウズ運動	225
(1)	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	227
(2)	参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	231
(3)	『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	235
(4)	治安が改善していることの認知	239
(5)	居住地域の治安状況	242
(6)	区内の治安が良いと感じる点	246
(7)	区内の治安が悪いと感じる点	249
(8)	治安対策として区に力を入れてほしいこと	253
(9)	駐車時の鍵かけ状況	257
8	環境・地域活動	263
(1)	環境のために心がけていること	265
(2)	「食品ロス」という言葉の認知	268
(3)	食品ロス削減のために心がけていること	270
(4)	この1年間に参加した活動と今後の参加意向	272
9	「孤立ゼロプロジェクト」など	279
(1)	「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	281
(2)	「地域包括支援センター」の認知状況	284
(3)	高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	287
(4)	協力意向がある活動内容	290
(5)	「フレイル」の認知と予防活動の実践状況	292
(6)	「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況	295
10	協働・協創	299
(1)	「協創」の認知	301
(2)	協働・協創の実践	303
(3)	区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	304
11	区の取り組み	307
(1)	満足度と重要度	309
(2)	区政への区民意見の反映度	349
(3)	区に対する気持ち	352
(4)	区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	375
(5)	区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	379
(6)	本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	385
第4章 使用した調査票		387







# 第 1 章 調査の概要



## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

## 3 調査の設計

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域                 |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の個人       |
| (3) 標本数      | 3,000サンプル             |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法   |
| (5) 調査期間     | 令和2年8月19日（水）～9月11日（金） |
| (6) 調査機関     | （株）マーケティング・サービス       |

## 4 調査地域

図1 地域区分図

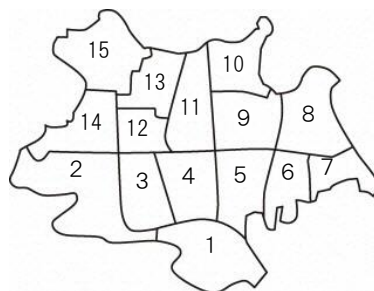


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）  
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

## 6 回収結果

- (1) 標本数 3,000票  
 (2) 有効回収数 1,746票 有効回収率 58.2%  
 (3) 回収不能数 1,254票 回収不能率 41.8%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	584,626	100.0%	3,000票	1,746票	58.2%
第1地域	66,532	11.4	337	207	61.4
第2地域	41,346	7.1	213	133	62.4
第3地域	34,720	5.9	179	105	58.7
第4地域	50,216	8.6	259	154	59.5
第5地域	53,063	9.1	273	158	57.9
第6地域	38,196	6.5	197	120	60.9
第7地域	28,032	4.8	145	93	64.1
第8地域	47,208	8.1	243	137	56.4
第9地域	38,581	6.6	199	112	56.3
第10地域	27,537	4.7	142	80	56.3
第11地域	47,785	8.2	246	129	52.4
第12地域	24,391	4.2	126	73	57.9
第13地域	28,532	4.9	147	81	55.1
第14地域	31,684	5.4	163	93	57.1
第15地域	26,803	4.6	131	71	54.2

(20歳以上人口は令和2年7月1日現在)

## 第1章 調査の概要

### (5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,746票	58.2%
男性（計）	1,547	770	49.8
20 代	237	59	24.9
30 代	219	70	32.0
40 代	313	150	47.9
50 代	269	158	58.7
60 代	196	129	65.8
70歳以上	313	204	65.2
女性（計）	1,453	930	64.0
20 代	212	92	43.4
30 代	190	112	58.9
40 代	251	166	66.1
50 代	266	179	67.3
60 代	175	142	81.1
70歳以上	359	239	66.6
そ の 他		3	
無 回 答		43	

（注）この表での『その他』は、「性」の回答において、令和元年度より選択肢が新設追加された「その他」を選んだサンプルの数を掲載している。

（注）この表での『無回答』は「性」の回答がなかったサンプルの数を掲載している。なお、令和2年度調査では、「性」を回答していて「年代」を回答していないサンプルはみられなかった。（但し、「性」を回答しておらず、「年代」のみ回答している人は計9人あり、上記の表では『無回答』に含めている）

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団（足立区在住の満20歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,746人のうち43.6%であった。

回答者数が1,746人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.34%であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体（母集団）の41.3%から45.9%であると推定できる。

〈 標本誤差算出式 〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数（足立区の20歳以上人口）

n = 比率算出の基数（回答者数）

P = 回答の比率（ $0 \leq P \leq 1$ ）

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,746	± 1.44	± 1.91	± 2.19	± 2.34	± 2.39
1,500	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,200	± 1.73	± 2.31	± 2.65	± 2.83	± 2.89
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 － 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,746	± 1.44	± 1.91	± 2.19	± 2.34	± 2.39
男性 (計)	770	± 2.16	± 2.88	± 3.30	± 3.53	± 3.60
20 代	59	± 7.81	±10.42	±11.93	±12.76	±13.02
30 代	70	± 7.17	± 9.56	±10.95	±11.71	±11.95
40 代	150	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
50 代	158	± 4.77	± 6.36	± 7.29	± 7.79	± 7.96
60 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
70歳以上	204	± 4.20	± 5.60	± 6.42	± 6.86	± 7.00
女性 (計)	930	± 1.97	± 2.62	± 3.01	± 3.21	± 3.28
20 代	92	± 6.26	± 8.34	± 9.56	±10.22	±10.43
30 代	112	± 5.67	± 7.56	± 8.66	± 9.26	± 9.45
40 代	166	± 4.66	± 6.21	± 7.11	± 7.60	± 7.76
50 代	179	± 4.48	± 5.98	± 6.85	± 7.32	± 7.47
60 代	142	± 5.04	± 6.71	± 7.69	± 8.22	± 8.39
70歳以上	239	± 3.88	± 5.17	± 5.93	± 6.34	± 6.47

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。



## (9) 分類した項目の定義

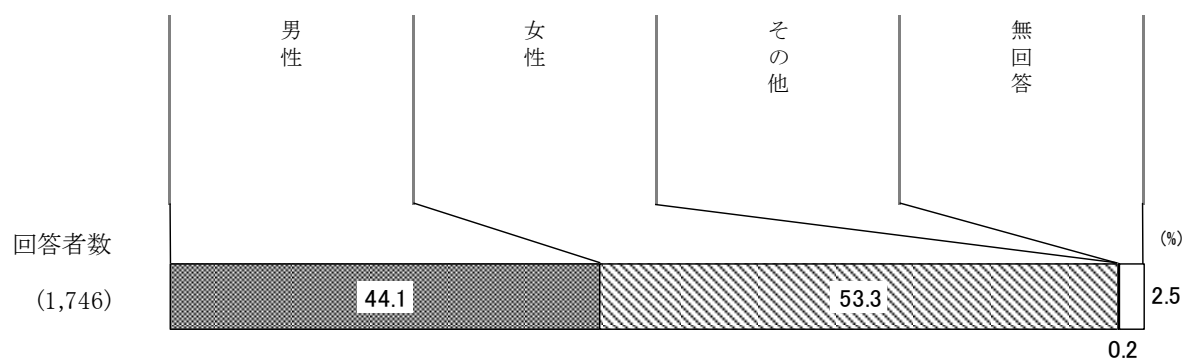
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地 域 別 …… (15カテゴリー)
- ② 性 別 …… (2カテゴリー) ※性別の「その他」は3サンプルのみ  
だったので表側からは割愛した
- ③ 性 ・ 年 代 別 …… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …… (7カテゴリー)
  - ・ 独身期 40歳未満の独身者
  - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人  
(家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人  
(家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人  
(一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人  
(夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人  
(その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦  
(壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身  
(壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別① …… (9カテゴリー)
- ⑥ エリアデザイン別② …… (2カテゴリー)
- ⑦ 住 居 形 態 別 …… (8カテゴリー)
- ⑧ 職 業 別 …… (8カテゴリー)
- ⑨ 就労（就学）場所別 …… (6カテゴリー)
- ⑩ 居 住 年 数 別 …… (6カテゴリー)

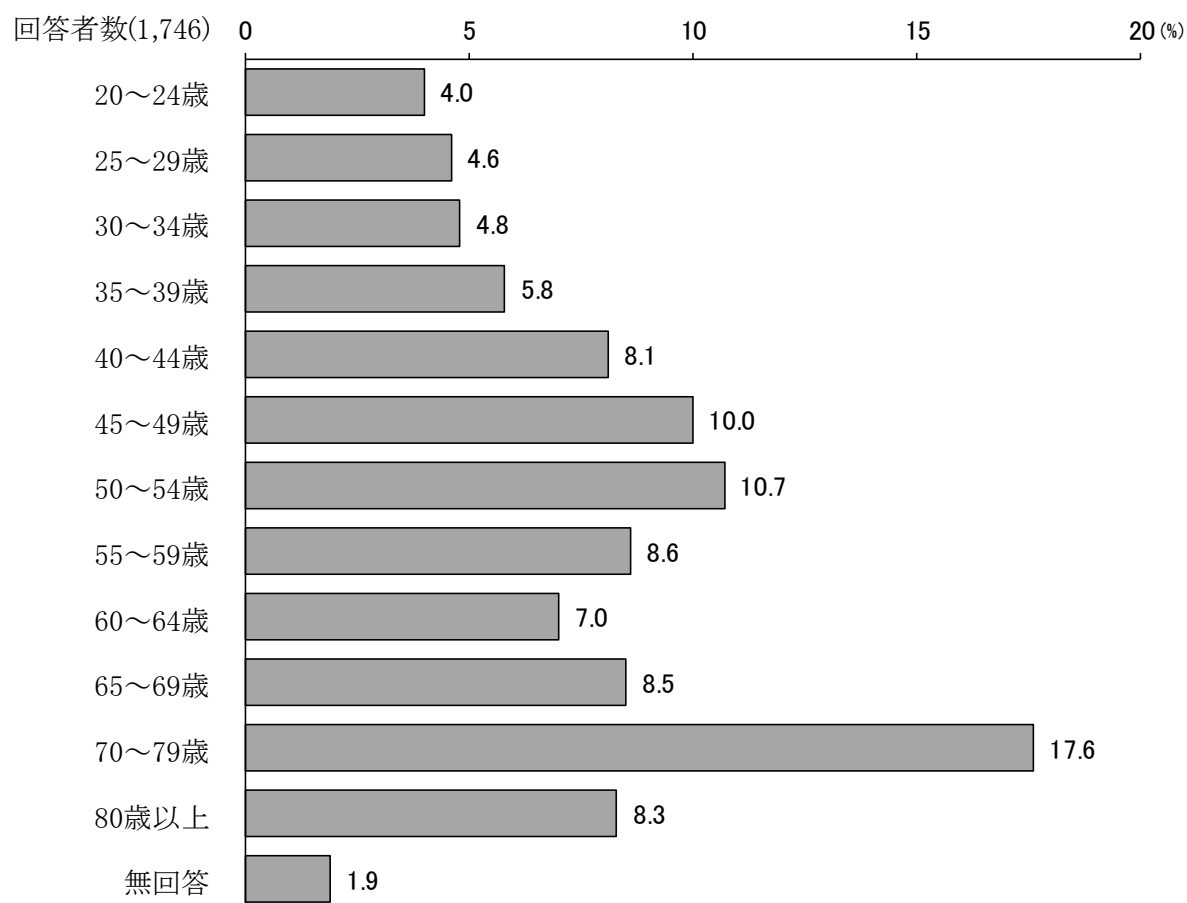
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

## 8 標本構成

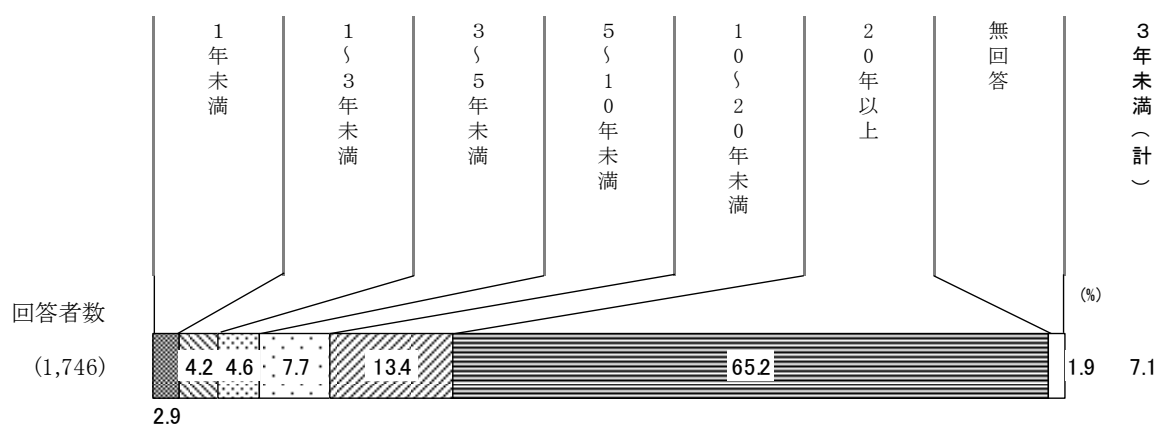
### F 1 性別



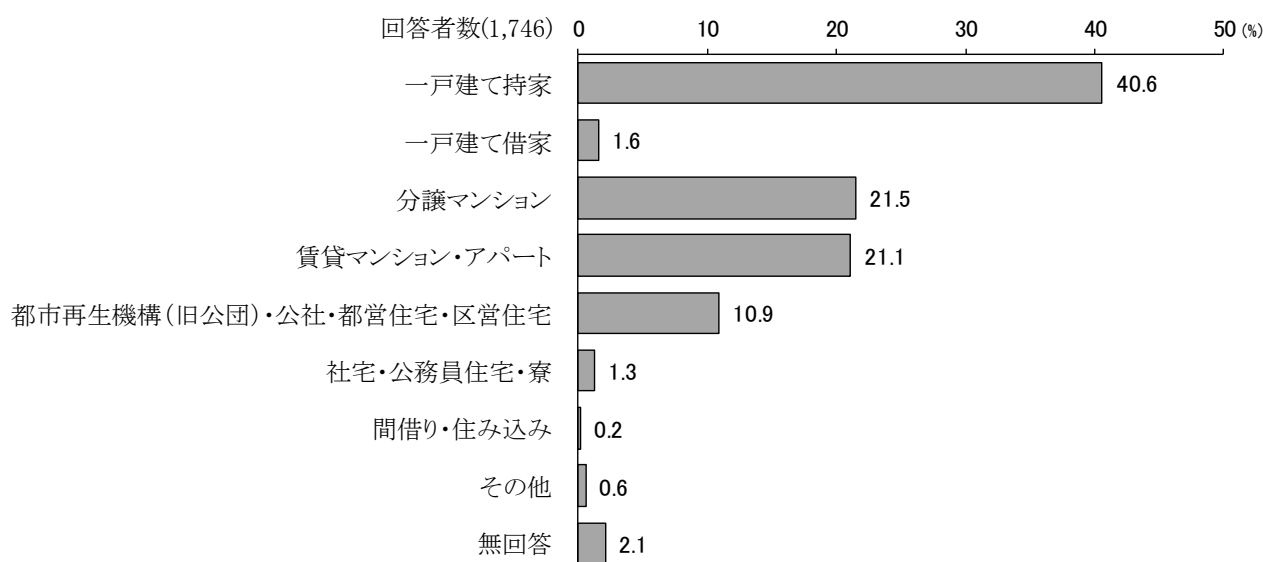
### F 2 年齢



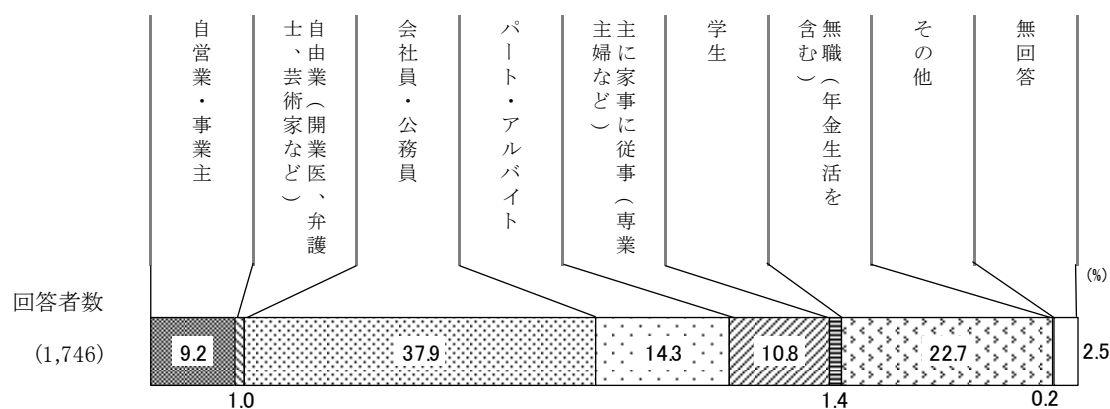
## F 3 居住年数



## F 4 住居形態

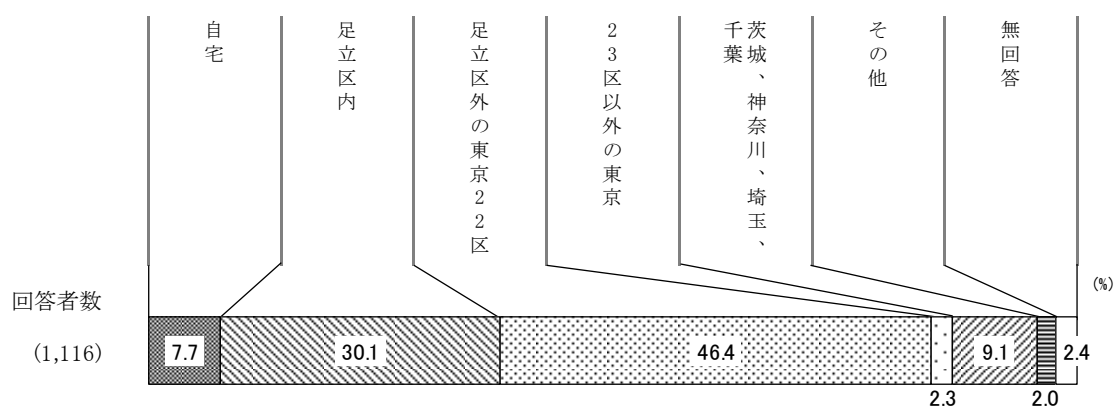


## F 5 職業

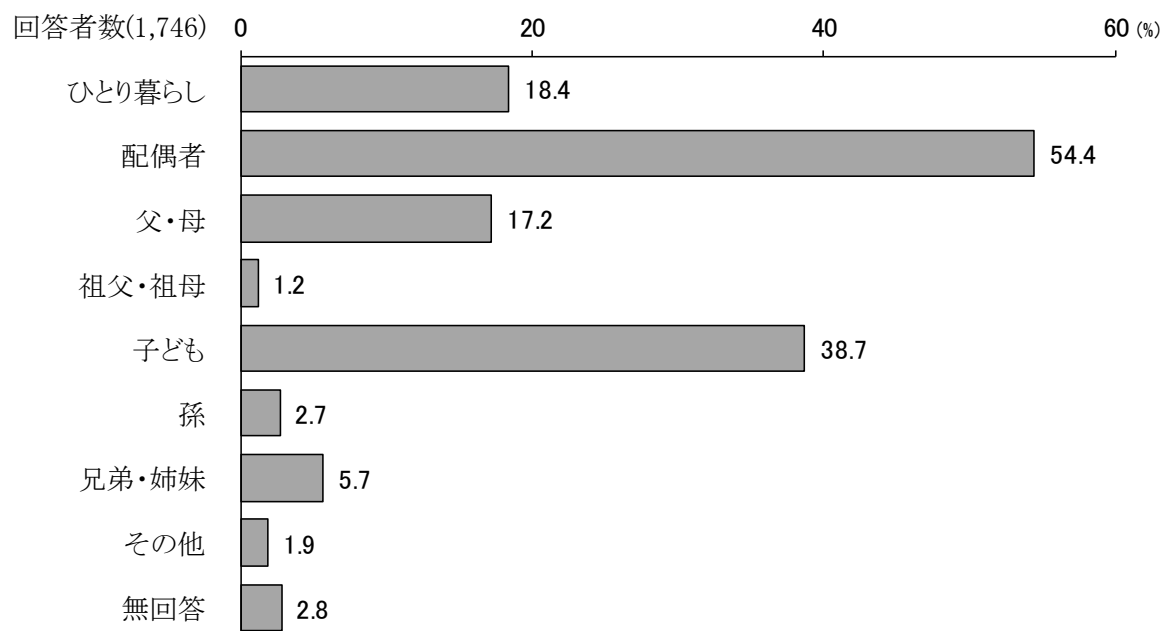


## 第1章 調査の概要

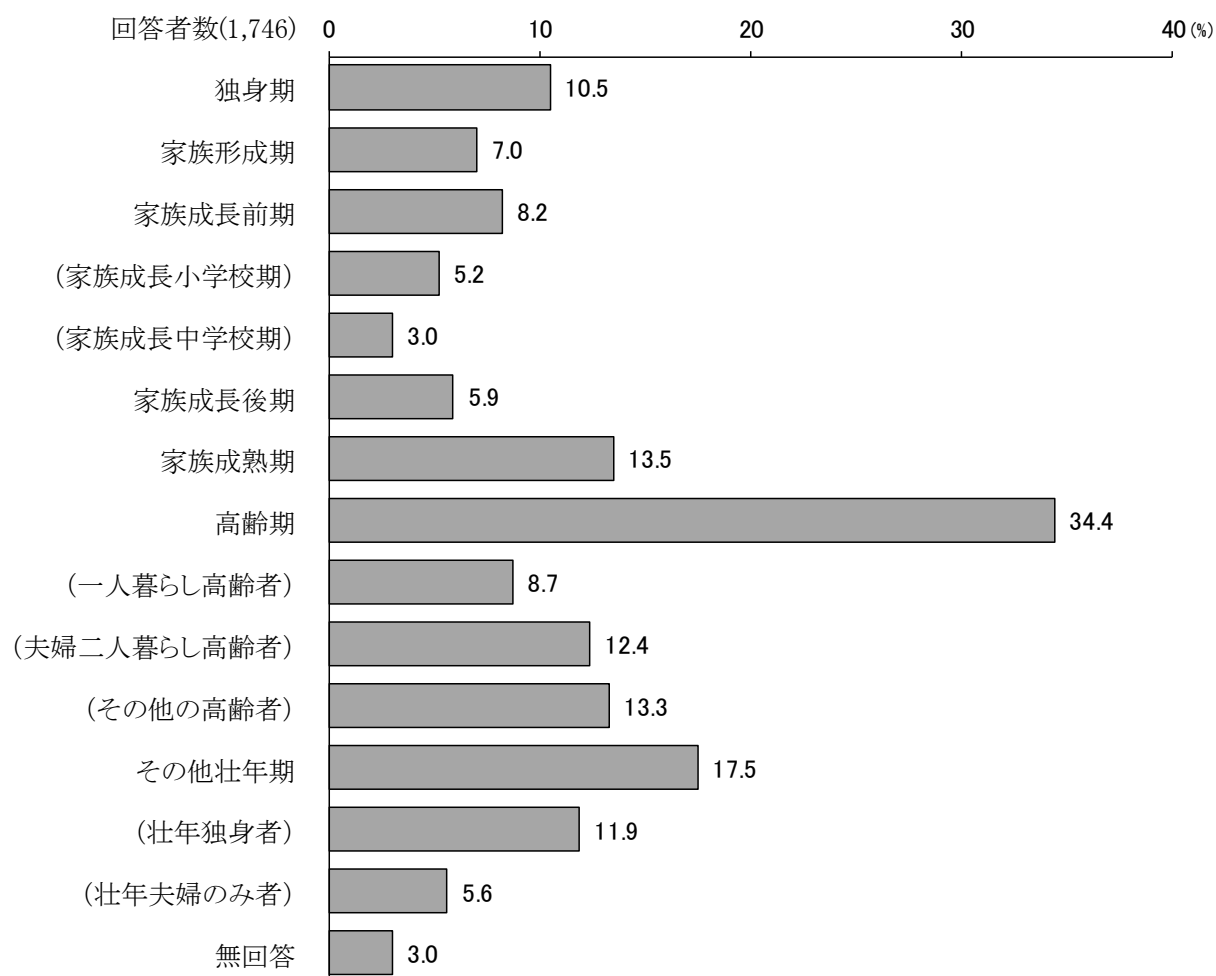
### F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



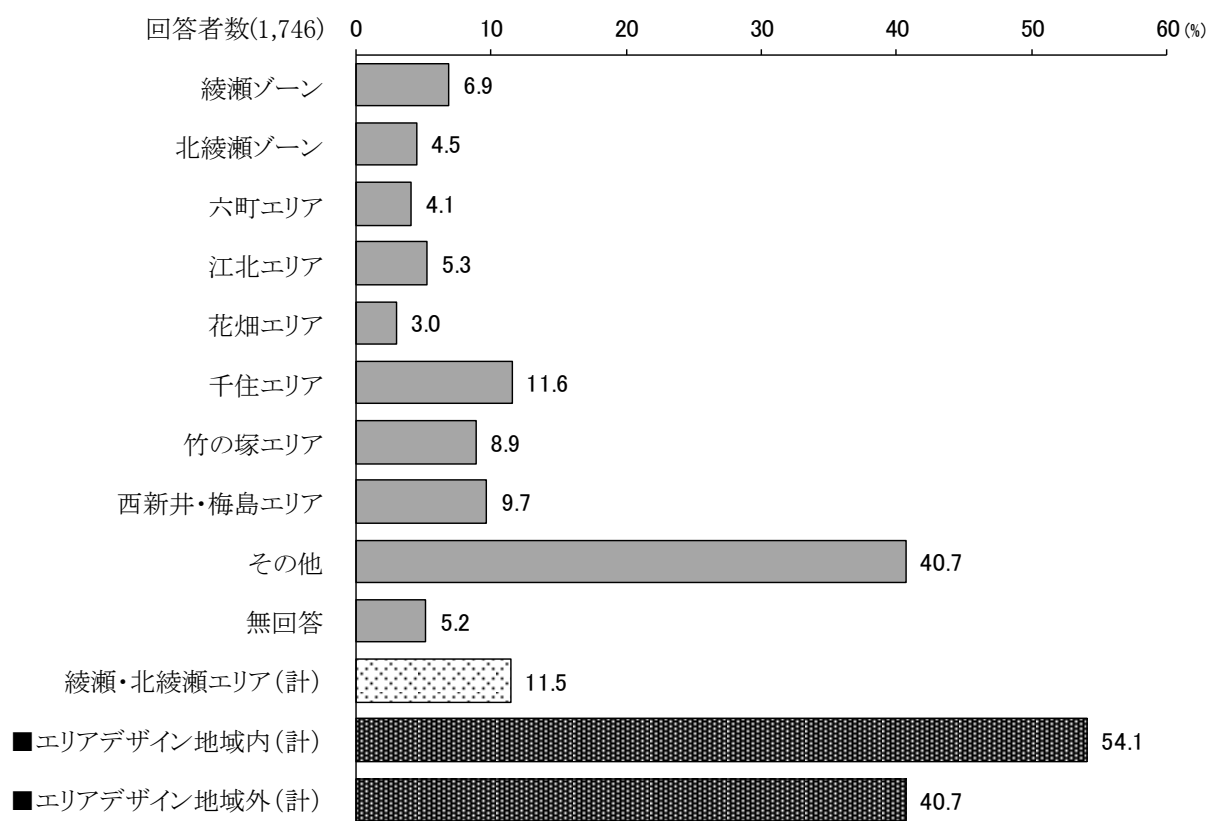
### F 7 同居家族（複数回答）



## F 8 ライフステージ



F 9 エリアデザイン



## 第2章 調査結果の要約





## 1 定住性

### (1) 「普段の買い物が便利である」と感じている人は7割台半ば

居住地域の評価については、〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈快適で安全なまちである〉〈景観・街並みが良好である〉の4項目で、肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が半数を超えて高い評価となっている。

また、居住地域の状況について経年変化で聴取した設問では、〈ペットのふん〉と〈ごみやタバコのポイ捨て〉で【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）がともに半数以上を占めており、前回5割に届かなかった〈ペットのふん〉では、【減っている】が前回の令和元年調査に比べて4.2ポイント増加して5割台に戻した。

一方、居住地域の評価のうち、前回から〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉に表現をかえて否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が7割弱と多かった項目の評価も、今回はやや改善されたが、肯定的な評価はまだ3割にとどまることから、引き続き、区民の交通マナー意識の向上が求められる。また、全体では肯定的評価が7割弱を占めた〈通勤や通学などの交通の便が良い〉を地域別にみると、第1地域と第6地域の両地域で9割弱と高い一方で、第8地域と第10地域の2地域では肯定的評価が5割以下にとどまり、引き続き地域差が顕著になっている。

### (2) 「暮らしやすい」は4年連続で8割強

地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は、全体で8割強と例年と同様の高い水準となっているが、これを地域別にみると、第3地域、第8地域、第14地域などでは他地域に比べて低くなっており、この3地域では【暮らしにくい】との否定的な評価が2割強～2割台半ばとなっている。

【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）と回答した人に、特に暮らしにくいと感じることを聴いた結果は、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばで最も高く、これに「交通の便が悪いこと」が4割強で続き、この2項目がこれまでの例年と同様に、上位となっている。

### (3) 定住意向がある人は、前回と同じく8割弱

【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は8割弱と、例年と同様の高い水準を示しており、地域別にみても、全15地域で7割以上となっている。

居住地域の利便性や快適性、美化意識の向上は肯定的にとらえられ、全体としての暮らしやすさへの評価や定住意向は、高い水準を維持している。しかしながら、〈マナー意識の低さ〉や一部の地域では〈交通の便の悪さ〉、〈買い物のしにくさ〉などが感じられており、それらが暮らしやすさへの評価が低い水準にとどまっている要因のひとつと推察される。

### (4) 今後の課題

今後は、これらの地域差の解消を図るとともに、住民のマナー意識の啓発など、各種の取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価をさらに向上させることによって、区民の定住意向をより強めていくことが必要となろう。

## 2 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約9年半が経過した令和2年調査時における、区民の防災意識や日頃の備えはどのようにになっているのだろうか。

### (1) 家庭備蓄をしている人はほぼ4人に3人の割合

食料の備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は73.3%と、令和元年調査結果（66.4%）より約7ポイント伸びて、震災半年後の平成23年調査結果（73.6%）とほぼ同レベルの水準まで比率が増加している。このように、震災2年後以降から続いていた家庭備蓄にみる区民の防災への意識低減の状況は、今回、改善の傾向がみられたが、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていないものと考えられる。

### (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が8割台半ば、「あかり」「食料」が8割

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「あかり」「食料」が8割から8割台半ばと高くなっているのに対して、「医薬品」は4割台半ば、「水の確保用品」や「簡易トイレ」などは2割台にとどまっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が「水」と「食料」とともに4割強から4割台半ばと多くなっているのに対し、「1週間分以上」は「水」と「食料」とともに1割強にとどまっている。

この結果は、例年の調査結果とほぼ同様であり、今後も、医薬品やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に少しでも近づくよう、引き続き区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の水や食料の確保については、「通常どおりスーパーなどで購入する」（33.3%）が前回より増加して3割台前半で最も多く、前回から新設した「避難所でもらう」（17.4%）も2割弱で、「考えていない」という人がこれまでより約10ポイント減少して3割となっている。

このように、これまでの、震災直後に比べて区民の防災への危機意識が低下しつつあった状況には改善の傾向がみられて、災害発生時の水や食料の確保に関する意識にも変化の兆しがうかがえるこの機会を好機と捉えて、日頃から災害への備えをしてもらうよう、今後も継続的に啓発していくことが重要である。

### (3) 転倒・落下・移動防止対策をしている家具類は少ない・対策を行っていないが7割

家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は27.0%と、前回（26.7%）とほぼ同様となっており、平成25年以降8年間にわたって3割弱のまま推移している。

また、全体の7割を占める【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人たちのその理由としては、例年同様「面倒である」が3割弱で、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」を僅かに上回って最も高くなっており、引き続き家具類の転倒・落下・移動の危険性を区民に啓発していく必要がある。

**(4) 避難場所について、自分の地域の避難場所を知っている人は、4割弱**

今回の令和2年調査から、3種の避難場所の＜意味＞と＜場所＞を聴取する形式に設問方法を変更した「避難場所」に関する結果をみると、「知っている」は【避難場所＜地域の場所＞】が36.9%で最も高く、区民の認知浸透度は【避難場所】＞【一時集合場所】＞【第一次避難所】の順となっており、引き続き、「あだち防災マップ&ガイド」や「あだち広報」、スマートフォン対応アプリ「足立区防災ナビ」等のさまざまな情報媒体を活用して、区民の【3種の避難場所】についての＜意味＞と＜地域の場所＞の認知浸透度をさらに向上させていく必要がある。

**(5) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が4割台半ばで最多ながら、前回より10ポイント近く減少して、「別居の家族や親戚の家」が3割弱に増加**

区民の半数近くが、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として「避難所」を想定していることを踏まえて、避難所における良好な生活環境の確保に力を入れていくことは引き続き重要なが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、「避難所」を避ける傾向も窺えることから、避難所における感染拡大防止対応など、新たな生活様式に備えた工夫や対策も必要である。

**(6) 大地震の際の防災対策で区に力を入れてほしいこととして、「衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフライン確保」が6割弱で並んで上位**

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の3項目が、いずれも6割弱の僅差で並んで上位3位を占めるという回答傾向に今回も変化はみられず、今後もこれらの分野への取り組みを推進する必要がある。

### 3 洪水対策

令和元年台風第19号により、河川氾濫の危険が高まり、区内全域に避難勧告を発令した。この経験による区民の水害への意識の変化はみられるのだろうか。

**(1) 「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがある人は8割台半ばで、5年続けて確実に上昇**

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「見て、自宅の浸水深を確認した」＋「見て、内容は確認した」＋「見たが、内容までは覚えていない」）は今回84.7%と、前回の78.6%より6.1ポイントも増加して、初めて聴取した平成27年の52.8%以降、各年順調に伸びている。また、今回新たに選択肢を細分化した「見て、自宅の浸水深を確認した」（26.5%）も2割台半ばを占め、僅かながら「見て、内容は確認した」（24.3%）を上回っている。よって、「そのような地図は見たことがない」という人は1割強まで減ったものの、今後も、このマップの存在を広く区民に周知して、自宅の浸水深を確認してもらうなど、起こり得る水害への理解を深めてもらうことが重要である。

**(2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人が8割弱と多いが、事前に決めている人の3人に2人が「自宅にとどまる」と回答**

河川がはん濫する恐れがある場合の避難する場所を事前に決めている人は77.0%と多いが、決めていると回答した人の避難場所では、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」（65.8%）が6割台半ばを占め、次点の「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（18.7%）を大きく上回っている。一方、全体の2割強に相当する、避難場所を事前に決めていない人の主な理由では「避難する場所がわからないから」（43.9%）が4割台半ばを占めて多くなっている。

**(3) 河川はん濫時の対処として「避難する」の割合が高いのは、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉と〈自宅付近が浸水したとき〉がともに6割台前半で上位**

河川がはん濫し、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の対処について、「避難する」の割合が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が64.1%と最も高いものの、前回より約14ポイント減少し、逆に前回より約10ポイント増加した〈自宅付近が浸水したとき〉が僅差の62.0%で続き、以下、新設の〈区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき〉で38.2%、〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉で36.8%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で25.8%、〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉で24.1%の順で続いている。

**(4) 今後の課題**

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』の内容理解の一層の向上と認知度の更なるアップを図るとともに、荒川の大規模水害から命を守るための早めの広域避難や自宅近くの避難所開設場所の広報など、洪水が迫っている場合に、浸水する自宅にとどまるつもりの人が多い区民が適切に対処できるよう、幅広い支援を行っていくことが課題である。

## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報の入手手段として、「あだち広報」が7割弱で、変わらずに首位

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が今回68.9%と、平成25年の調査結果(79.7%)からはやや漸減傾向にあるものの、依然として高い水準を維持してトップにある。一方、前回33.4%で次点だった「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」は、今回より内訳4種の選択肢に細分化されて比率が分散したが、4種のいずれかを回答した割合を算出すると42.7%であり、電子媒体(インターネット)による情報の入手が前回より約10ポイント増加しており、電子による情報発信の需要がさらに高まっていることがわかる。トップの「あだち広報」の次点には「ときめき」(32.4%)が入り、以下「区のホームページ」(29.4%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(28.7%)、「テレビ、ラジオ」(24.3%)、「A-メール」(19.6%)などが続いて上位となっている。性・年代別にみると、「あだち広報」および「ときめき」や「町会・自治会の掲示板・回覧板」の紙媒体は、男女ともに60代以上の高齢層で高くなっているのに対して、「区のホームページ」と「A-メール」は、男女ともに30代から50代の年代層で多く利用されている。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」や「ときめき」、「町会・自治会の掲示板・回覧板」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して「区のホームページ」や「A-メール」などから自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な媒体で適切な情報を発信していくことが必要である。

### (2) 重要と考える区の情報として、「災害や気象」と「健康や福祉」が6割強で並んで上位

区が発信する情報で重要と考えるのは、「災害や気象に関する情報」(63.4%)と「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(61.3%)が6割強で並んで上位2項目となっており、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が52.8%で続き、概ね例年と同様な結果となっている。この結果を性・年代別にみると、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」が男女ともに30代(男性42.9%、女性62.5%)でとくに高くなっている。

### (3) 必要な時に必要とする区の情報が「得られている」が前回より微増して7割台半ば

区の情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)は、今回73.9%で、経年比較でみると、平成25年の60.5%から10ポイント以上増加している。一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は、平成25年の17.3%から、今回12.5%と漸減傾向にあり、これらの結果から、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいる様子が窺える。

しかしながら、依然として区民の1割強は、必要なときに区の情報が【得られない】と答えており、その主な理由としては、「情報の探し方がわからない」(29.4%)と「情報が探しにくい」(25.2%)の2項目がそれぞれ2割台後半で多くなっている。

### (4) 今後の課題

今後も、区からの情報が必要な時に【得られている】という層を更に増やし、【得られない】という層を減らしていくためには、多角的かつ効果的に行政情報を届けることが求められる。

なお、「区の情報に関心が無い」と答えた人も依然として少数(4.4%)ながら存在するため、このような区民にどのように関心をもってもらいかも、引き続き今後の課題となろう。

## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズを「知っている」はほぼ4割

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が10.7%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」を合わせた【知っている】は39.6%で、「知らない（初めて聞いた）」が58.3%となっている。経年でみると、今回の【知っている】(39.6%)は、平成28年調査の30.6%からは9.0ポイント増加しており、健康な生活を送るうえでの野菜摂取の重要性についての認識は、区民の間に徐々に浸透してきている様子が窺える。

しかしながら、性・年代別にみると、【知っている】は、女性の30代と40代及び60代と70歳以上ではそれぞれ5割以上と高い一方で、男性の20代から50代の若中年層および女性の20代では2割から3割弱と低くなっている。このように、区民の認知度には性別、年代による差があることから、区のキャッチフレーズの周知活動を一層推進していくことが重要である。

### (2) 糖尿病の進行による病気や障がいとして知っているものとして、「失明」と「足の壊疽」が6割台で上位

糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいで“知っているもの”についての結果は、“そう思うもの”で聴取していた前回までの数年の回答傾向と同様に、今回も「失明」「足の壊疽（えそ）」「人工透析」「口の渇き」などが高くなっているものの、「神経障がい（手足のしびれ）」や「網膜症」のような《重篤な合併症の兆候》を示すものについては、依然として2割台半ばから3割弱程度にとどまっている。

### (3) 野菜から「食べている」人は6割台半ば

糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われていることに対し、「(野菜から)食べている」という人は64.8%を占めており、経年でみると平成28年の64.7%からほぼ横ばい状態となっている。

また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされているが、実際に【できている】(「できている」＋「だいたいできている」)は、今回40.3%であり、平成25年以降各年4割前後と大きな変化はみられない。

今後も、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについて、継続して区民の理解を深めていくとともに、あらゆる性別、年代の区民に対し、糖尿病予防における野菜摂取の重要性を一層周知していくことが重要である。

### (4) 自分は「健康である」と自認している人はほぼ7割

健康維持のために実行している、心がけていることとしては、平成25年以降、「毎日朝ごはんを食べている」と「毎年健康診断を受けている」がともに6割台で高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

また、前回の令和元年調査より4段階評定で聴取している「自身の健康状態」の結果をみると、「健康な方だと思う」(63.2%)が6割強を占めて多く、これに「非常に健康だと思う」(5.8%)を合わせた【健康である】が69.1%とほぼ7割に達している。一方、【健康ではない】(「あまり健康ではない」＋「健康ではない」)と感じている人は、29.9%とほぼ3割となっており、性・年代別では、男性の50代がほぼ4割と高いのを筆頭に、男性の30代と50代では、同年代の女性より10ポイント前後高く、性差が大きくなっている。

なお、平成25年から今回令和2年までを経年的にみると、喫煙率が減少し、運動習慣がない人の割合も減少、一方、主観的な健康観は上昇し、健診受診率も高まっている様子が窺え、あだちベジタベライフの取組みが、こうした生活習慣等に良い影響を与えていると推測できる。

**(5) この一年間のがん検診の受診率は4割弱で、受診率は、乳がん検診や子宮頸がん検診が中核の女性が4割台半ばで、大腸がん検診や胃がん検診が中心の男性の3割弱より高い**

今回の令和2年調査からの聴取となる、この1年間のがん検診の受診状況をみると、「受けた」が38.3%、「受けていない」が59.5%となっているが、「受けた」は性別では女性(46.5%)が男性(28.2%)を約18ポイント上回って高い。受けた人のがん検診の種類をみると、女性は、年代では30代から60代を中心に、「乳がん検診」(56.9%)と「子宮頸がん検診」(52.5%)がともに5割を超えて高く、男性は、年代では60代と70歳以上を中心に、「大腸がん検診」(62.2%)と「胃がん検診」(55.3%)が6割前後と高くなっている。なお、区民のがん検診受診率が4割に届かない現状を考えると、今後も引き続き、区民ががん検診を受けやすい環境を整備し、受診率の向上を図っていくことが重要であると考えられる。

**(6) 感染症予防として「日常的に手洗いを実践している」人が8割台半ばで、1割強の“汚れたときは実践”を合わせた【実践している】は9割台半ばを超えている**

今回の令和2年調査から聴取した、日頃からの感染症予防としての手洗いの実践状況の結果は、「日常的に手洗いを実践している」が86.0%を占めて多く、これに「汚れたときは手洗いを実践している」(10.8%)を合わせた【実践している】(96.7%)は9割台半ばを超えており、「日常的に手洗いを実践している」は男性(78.4%)より女性(91.9%)の方が高い。

**(7) 「ゲートキーパー」という言葉を「知らない(初めて聞いた)」が8割台半ば**

前回の令和元年調査から聴取している「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が2.3%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が13.4%で、これらを合わせた【知っている】は15.7%で前回(14.1%)より微増しているが、「知らない(初めて聞いた)」(83.6%)が前回(83.5%)同様に8割以上を占めて多い。

## 6 スポーツ・読書

### (1) 日常的に運動・スポーツは「していない」という人が4割弱

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」(21.6%)が2割強で、以下「年に数回(時間は問わない)」までを含めた【運動している】(59.1%)はほぼ6割に達するものの、「運動・スポーツはしていない」(37.9%)も4割弱を占めている。【運動している】は2年続けて微増しているものの、ほぼ前回までと類似した回答分布となっている。性・年代別にみると、「30分以上の運動を週2回以上」している人は、男女ともに20代と70歳以上の若年と高齢の計4層でそれぞれ2割台半ばから3割弱と他の年代よりやや高くなっている。

### (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割強で突出

【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果は、「ウォーキング」が51.1%で最も高く、これに「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(24.8%)と「筋力トレーニング」(20.8%)が2割台半ばと2割強で続いて上位となっている。

この結果を、性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の60代と70歳以上でともに6割台後半と高く、「健康体操」は女性の50代で4割台半ばと最も高いものの、女性の20代、40代、70歳以上の3年代層もそれぞれ3割強から3割台半ばで続き、「筋力トレーニング」は男女の20代でともに4割台半ば以上と高くなっている。また、選択肢を一部変更した運動・スポーツの実施場所については、これまで同様「自宅周辺」(56.1%)と「自宅」(37.1%)が、これまでより比率を伸ばして上位となっている。

これらの結果から、男女ともに高齢層中心に、若年層も加わった幅広い年齢層で、継続的かつ定期的な運動の重要性がより強く認識されるようになり、自宅を含む周辺地域で気軽にできる運動が好まれる傾向が定着化しつつあると推察される。

### (3) していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけの上位は、“身近な場所でできる”と“手軽な価格で利用できる施設”の2項目

日常的に「運動・スポーツをしていない」人に、どのようなきっかけがあれば運動・スポーツを行いたいと思うかを選んでもらった結果は、「身近な場所で運動・スポーツができる」(35.9%)、「手軽な価格で施設を利用できる」(31.3%)、「レベルを気にせず参加できる機会がある」(21.8%)などが上位で、これらの項目は男性より女性の方が高めとなっている。

### (4) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があることとして、「交通網・交通インフラの整備」が2割で最多も、各年増加の「特にない」が4割に達する

来年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があることでは、「交通網・交通インフラの整備」が20.0%で最も高く、以下「会場外での観戦(パブリックビューイングなど)」(13.5%)、「選手の育成や支援」(10.5%)が上位で、この設問を初めて聞いた平成28年には17.8%で次点だった「会場での応援活動」は漸減傾向を続け、今回は8.5%で7番目となっている。一方、平成28年の29.4%から各年漸増傾向を続ける「特にない」は今回40.1%となっている。



**(5) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動について、始めたい活動がある人は2割弱みられるも、「ない」人が7割強と多数**

オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無について、「ある」と回答した人は、前回より1.3ポイント増の17.5%と2割弱で、「今までの活動を継続」と回答した人も前回より1.6ポイント増の7.3%となっている。一方、新たに始めたい活動は「ない」と回答した人は、前回より3.0ポイント減の71.3%で、依然7割以上を占めている。性・年代別にみると、「ある」との回答は、女性の30代の4割弱をピークに山型の分布で年代差が大きめとなっているが、男性では1割未満の70歳以上を除くと、20代～60代は2割弱から2割程度で並んでおり、年代差はほとんどみられない。

新たに始めたい活動が「ある」、または「今までの活動を継続」と回答した人に、その活動の内容を聴いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が61.9%で最も高く、以下「文化活動をする・伝統文化などを観る」(31.4%)、「語学(英語等)」(25.2%)、「ボランティア活動」(22.9%)の順で並んでいる。

新たに始めたい活動が「ない」と回答した、全体の7割強を占める人たちに、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思うか聴いたところ、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.8%)、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(8.3%)、「外国人との交流」(7.1%)がそれぞれ1割弱で、「始めようとは思わない」(68.0%)が7割強を占めて多い結果で、前回までと同じような回答傾向となっている。

**(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続すべき」が、例年同様、4割台半ばで主流**

足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度(高齢者免除制度)については、35.5%が何らかの制度改正を望んでいるものの、これまでと同様に「現行のまま継続すべき」が前回と同率の43.8%で最も高くなっている。

**(7) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割台半ばで、「新聞を読む」が5割超、「本を読む」が4割台半ばで上位。1割強の“しなかった”人の理由では「忙しいから」が3割強で最も高い**

今回の令和2年調査から新たに聴取した、最近1か月間にした読書に関わる行動は、「新聞を読む」が50.5%で最も高く、これに「本を読む」(45.9%)、「雑誌を読む」(39.5%)、「書店・古書店に行く」(30.9%)、「漫画(アニメ)を読む」(30.4%)などが続き、【読書に関わる行動あり】(85.0%)の人が8割台半ばに達している。上位項目を性・年代別にみると、男女ともに「新聞を読む」は高齢層になるほど高く、「漫画(アニメ)を読む」は若年層ほど高く、この2項目で年代差が大きい。一方、「したかったが、できなかった」(2.3%)と「しなかった」(9.9%)は合わせても1割強にとどまり、その理由としては「忙しいから」(33.2%)が最も高くなっている。

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を知っている人が半数近く

足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が今回45.8%と、前回より0.8ポイント減少して、ピークだった平成28年調査の47.6%には届かず、依然として地域や性・年代で差がみられる状況が続いている。

なお、「知っていて、活動を実践している」区民は、一部の地域と性・年代層で1割超とやや高めながら、全体では平成22年以降長期にわたって5.0%以下となっている。また、今回も前回までと同様、今後の参加意向が各項目にわたって総じて低めなのを踏まえると、これまで以上に、この取り組みへの認知と理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが必要である。

### (2) 「花のビュー坊プレート」「ビュー坊のガーデンピック」の認知状況は、依然3割程度

『花のビュー坊プレート』と『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況については、「すでに使用している」は2.5%と0.9%で、ともに極めて少数のままで、【知っている】（「すでに使用している」＋「見たことがあり、名称なども知っている」「見たことはあるが、名称などは知らなかった」＋「名称などは知っているが、見たことはない」）でみても、31.3%と26.3%でともに3割前後にとどまり、区民への認知浸透度は依然として低いままとなっている。

### (3) 治安が改善していることを「知っている」は4割強

足立区内の刑法犯認知件数がピークだった平成13年と比較して1万件以上減少していることを「知っている」人は42.0%と4割強で、ほぼ同じ設問文であった平成30年（36.0%）と比較すると、6.0ポイント増加している。（設問文に一部変更があったので、平成29年以前との経年比較は行っていない。また前回までの直近2回は“ピーク時と比較して”という質問文で聴取していることに留意）

### (4) 居住地域の治安状況が「良い」と感じている人は61.6%で、平成23年以降で最も高い

居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が今回61.6%と、前回最高値を更新した58.3%を更に3.3ポイント上回り、区民の体感治安は一定の良好レベルから更に向上している様子が窺える。しかし、治安状況に対する評価には地域によって大きな差がみられるほか、20代の男女では【悪い】との評価も4割前後と多めで、今後も、地域や性別、年代にかかわらずすべての区民が安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいく必要がある。

治安が【良い】と評価した人のその理由としては、過去7年間の調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が49.9%で最も高いが、平成25年以降の漸減傾向は続いており、代わりに次点の「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」が、前回よりは3.0ポイント減も、今回も3割強を維持して、経年での漸増傾向を保っている。

また、治安対策として区に力を入れてほしいことについても、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が今回51.4%と、平成25年以降続けてトップを維持しており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高い。以下「安全に配慮した道路、公園の整備」と「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」もともに4割弱で続き、これまで同様高くなっている。

一方、治安が【悪い】と感じる人のその理由では、今回も「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が51.3%で突出しているが、これまで最も高かった平成29年の61.1%に比べると約10ポイント減少している。

前述したように、居住地域の治安状況が【良い】と評価する区民は6割強まで達して、治安改善への区の取り組みは着実に成果をあげていると考えられるが、治安が【悪い】という人も23.5%と依然2割台半ばみられ、20代の男女を中核に、依然として悪いと評価されている面もある。

#### (5) 今後の課題

今後も引き続き足立区をより安全安心な街にしていくために、防犯カメラや街路灯の設置促進などの取り組みに力を入れていくとともに、治安向上に資する施策などを通じて、区民の協力も得ながら官民が一緒に力を携えて、足立区を安全安心な街に協創していくことが重要となる。

## 8 環境・地域活動

- (1) 環境のために心がけていることでは「ごみと資源の分別」が9割弱で依然高いが、7月からのレジ袋有料化の影響から「レジ袋を断る」が20ポイント近く伸長して7割台半ば

環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も87.2%と最も高く、平成23年以降各年僅かな増減はあるものの、8割台半ばから9割弱で推移しており、《ごみの分別》が区民の間にはほぼ定着したことがわかる。また、ここ数年5割を超えて次点となっている「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が、7月からの小売店でのレジ袋有料化の影響からか、今回75.9%と、前回より19.4ポイントも増加しており、男性(65.1%)より女性(85.2%)でとくに高くなっている。今回3位の「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は46.4%で、平成23年以降のここ10年間の経年でみると漸減傾向にある。

- (2) 9割超の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知者が心がけていることでは「残さず食べる」が8割弱

平成30年から聴取している「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が90.9%で、前回の87.4%より3.5ポイント増加して、初めて9割を超えており、平成30年では5割程度だった20代男女の認知率もそれぞれ7割、8割を超えるなど、「食品ロス」という言葉が区民に浸透してきている様子がみられる。なお、知っていると回答した人に“食品ロス削減のために心がけていること”を聴いた結果は、「残さず食べるようにしている」が77.6%で最も高く、「外食時に食べられる分だけ注文する」が55.1%で続き、各項目について前回からの大きな変動はみられない。

- (3) この1年間に参加した活動では「区が主催する各種のイベントや催し物」や「町会などのイベントや催し」がコロナ禍の影響で大きく減少も、今後の参加意向では「区が主催する各種のイベントや催し物」がトップをキープ

この1年間に参加した活動をみると、具体的な活動内容としては、ここ数年2割弱で最も高かった「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回11.9%と前回より6.0ポイント減少して次点となり、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(13.5%)が最も高くなっており、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(8.8%)も前回より4.9ポイント減少して、前回の3位から5位に後退するなど、コロナ禍の拡大によるイベントや催しの中止を反映した例年とは異なる結果となっており、「特に参加していない」は今回48.1%と、前回より2.6ポイント増加して、平成27年以降は漸増傾向が続いている。

一方、今後の活動への参加意向をみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(20.6%)が2割超で最も高く、これに、“区内の”の表現を割愛して新設扱いの「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に楽しむ機会」(19.5%)、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(17.2%)が2割弱で続いているものの、「特にない」(32.0%)と「無回答」(23.8%)が合わせて半数以上を占めるなど、前回の今後の参加意向の結果とほぼ同様の回答傾向が示されている。

## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知っている」は2割台後半で、「知らない（初めて聞いた）」が7割強

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回26.7%で、前回より2.5ポイント減少して、平成25年以降各年3割前後で推移して横ばい状態が続いている。

【知っている】は、地域別では第10地域と第13地域とともに3割台前半とやや高い一方、第4地域では2割強と低めで、性・年代別では男女ともに概ね高齢層ほど高くなる傾向がみられるなど、地域や年代によって認知度に差がみられる。

### (2) 「地域包括支援センター」を「知っている」は6割弱

「地域包括支援センター」の認知状況については、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）が今回57.7%で、前回の56.3%から1.4ポイント増加して、経年でみると、ここ数年の漸増傾向を維持している。

### (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は約2割

高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回19.8%と、前回の18.6%より微増しているものの、経年では平成25年以降各年2割弱で横ばい状態にある。性・年代別でみると、【協力したい】が2割以上に達しているのは、男性の60代と70歳以上及び女性の40代以上の世代で、うち女性の60代は約3割になっている。男性の30代と50代や女性の30代と40代では「協力したいが、時間などに余裕がない」という回答が、それぞれ4割強から5割を占める。

協力意向のある人では、その活動内容として、これまで同様「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が57.8%と最も高く、これに「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」が37.0%で続いている。

### (4) 「フレイル」予防に大切なことの認知率は5割強で、予防活動の実践率は1割台半ば

今回から聴取した「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が14.6%で、これに「知っているが、特に何もしていない」（37.1%）を合わせた【知っている】が51.7%と5割強になっており、その認知度は、男性より女性の方が高く、性・年代別では、6割強の男性の70歳以上と7割前後の女性の60代と70歳以上で高い一方、男性の30代と40代や女性の20代と30代ではいずれも3割台で、性差と性・年代差がみられる結果となっている。

### (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況は「食べている」が8割台半ば

今回から聴取した、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）を毎食1種類以上食べているかの結果は、「食べている」が85.2%を占めて多く、「食べていない」（9.3%）を大きく上回り、性・年代別にも大きな違いはみられない。

### (6) 今後の課題

地域包括支援センターの認知度は、漸増傾向を維持して6割弱に達しているものの、孤立ゼロプロジェクトの認知度は、最近4年間は3割に届かずに伸びはみられず、高齢者の孤立防止・見守り活動への協力意向も、平成25年以降2割弱で推移してあまり変化はみられない。

地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、区民の事業に対する認知度の向上に継続的に強く取り組むとともに、活動への積極的な参加を促進していくことに資する環境の整備や参加へのハードルを下げる工夫などが必要と思われる。

## 10 協働・協創

### (1) 「協創」の認知度は少しずつ増加も、まだ1割台半ば

「協創」について4年目の聴取となる今回、「知っている」は3.8%で、これに「聞いたことはある」(12.3%)を合わせた【知っている】は16.1%で、前回(15.2%)より0.9ポイントと僅かながら増加している。一方、「知らない」は今回81.4%で、前回(81.7%)とほとんど変わらず、今後も引き続き、この考え方について広く区民に周知を図っていくことが必要である。

### (2) 「関心はあるが、特に活動していない」が6割弱で、「関心がない」が約2割に増加

全体の約16%に相当する「協創」を知っていると回答した人の協働・協創の実践状況を見ると、今回は、「すでに、活動を実践している」が前回より微減の22.7%、「関心はあるが、特に活動していない」が前回より約7ポイント減の57.6%で、「関心がない」が19.7%と前回(11.9%)より増加しており、“協働・協創に関心あり”の人の割合(80.3%)は前回(88.1%)より減少して、活動を実践している人も微減で、なぜ協働・協創に関する活動のハードルが高く思われているのかを、引き続き検証していく必要がある。

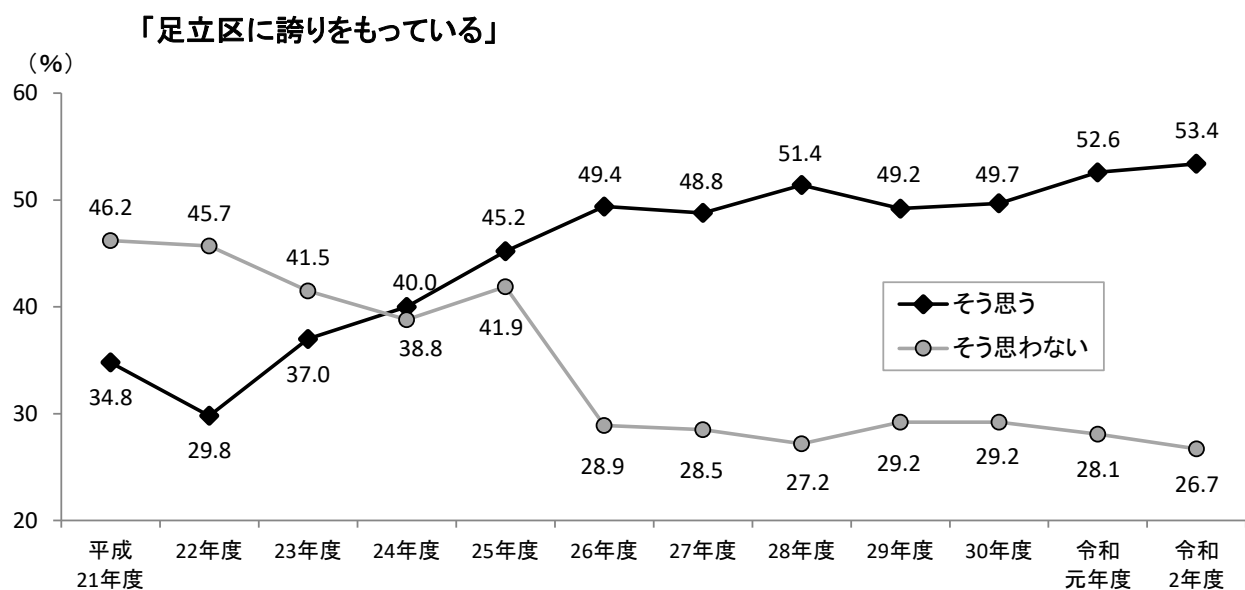
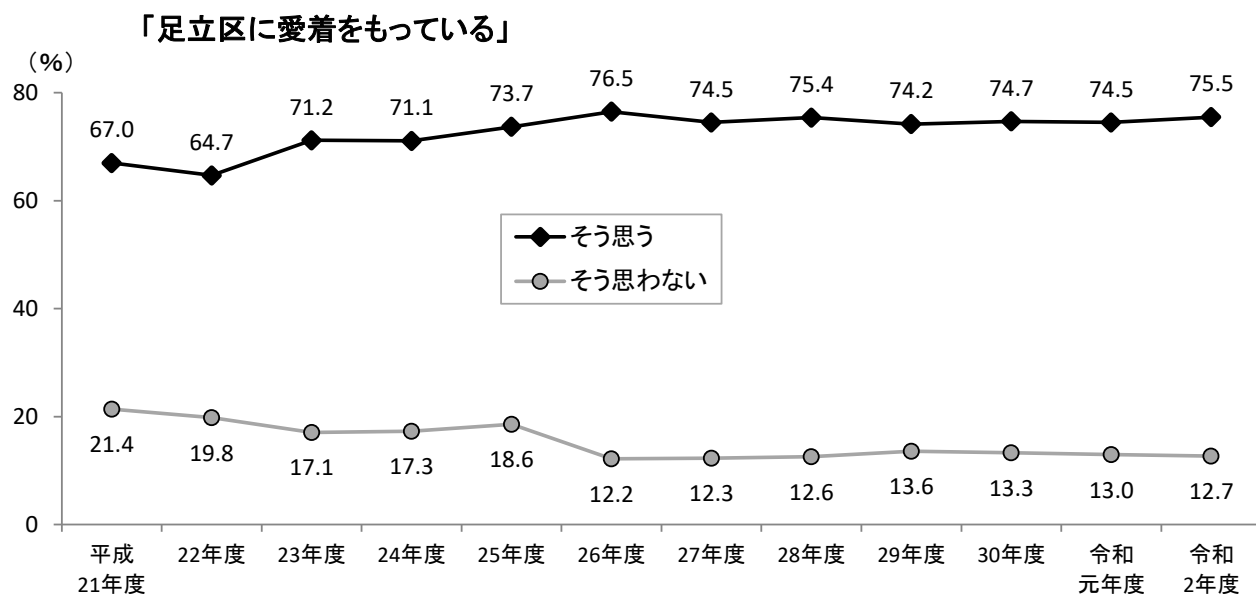
### (3) 協働や協創により事業が進んでいると感じている人は年々増えて、今回は2割台半ば

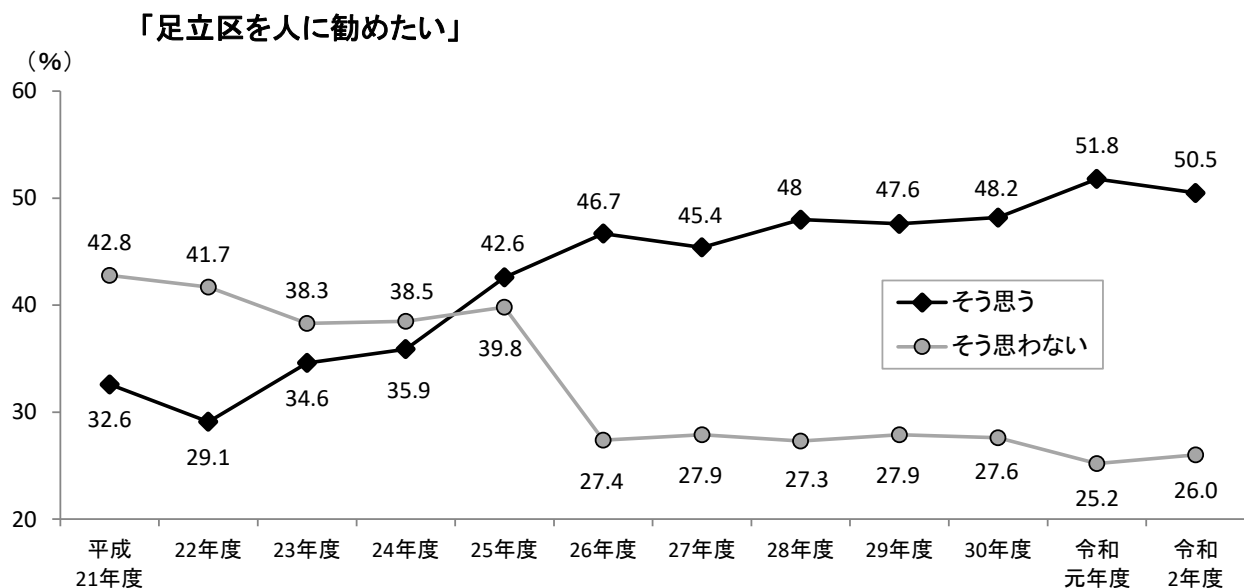
“協働・協創による事業が進んでいると思うか”については、今回、【そう思う】(「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」)が24.0%と、前回(22.1%)より1.9ポイント増加して2割台半ばとなり、【そう思わない】(「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」)の17.0%を7.0ポイント上回って、【そう思う】という人の方が多くなっている。ただし、「わからない」という回答も53.8%で依然として5割台半ばと多いことから、協働・協創による事業の内容等を、「わからない」と答えた区民へ具体的に示して可視化することにより、認知を高めていくことが引き続き必要である。

## 11 区を取り組み

### (1) 「足立区に愛着をもっている」と「足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する」がともに7割台後半

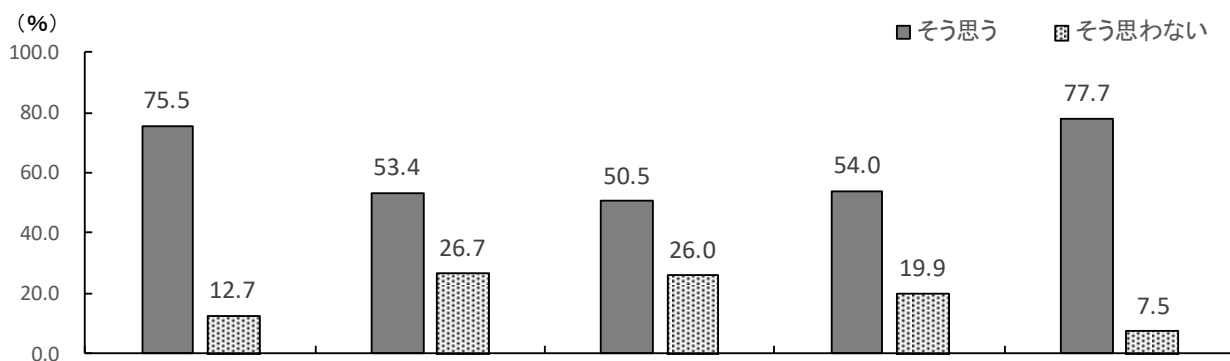
平成21年調査から今回の令和2年調査まで12年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は75.5%、〈足立区に誇りをもっている〉は53.4%、〈足立区を人に勧めたい〉は50.5%となっている。今回は、〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉の2項目が比率を伸ばして、3項目ともに高い水準を維持しており、区に対する愛着や誇りが、区民に広く根付いてきて、さらに醸成されていることを示す結果となっている。





また、前々回の平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目も、【そう思う】がそれぞれ54.0%と77.7%で、ともに前年（52.8%と75.3%）を上回るレベルにあり、前述の3項目に並ぶ高い水準となっている。併せて〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思っている人は、男性では60代と70歳以上で、女性では30代と40代で、それぞれ6割弱と高めながらも、前回同様、男女ともそれぞれ大きな年代差はみられていない。これらの結果から、“愛着のある足立区をさらに誇りを持てる良いまちにするために何かしたい”と考えている区民が半数以上に達していることは、これまでの区の様々な取り組みと区民や様々な団体、民間事業者の活動が相乗効果を発揮し、一定以上の成果を示している結果の反映ととらえることが出来よう。

回答者数(1,746)



足立区に愛着をもっている	足立区に誇りをもっている	足立区を人に勧めたい	足立区を良いまちにするために何かしたい	足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する
※平成30年より追加された2項目の平成30年の結果⇒			52.3%	19.7%
※平成30年より追加された2項目の令和元年の結果⇒			52.8%	19.8%
			75.7%	7.7%
			75.3%	8.4%



平成30年から追加された項目のひとつである〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉、および〈区政満足度〉の5項目との関係を、下記のクロス集計表で確認すると、これらの5項目で【**そう思う**】と回答している人では、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ多くなっていることがわかる。中でも、〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の3項目では、いずれも7割前後と高い水準に達しており、〈足立区に愛着をもっている〉でも6割台半ばにあることから、今後も引き続き、区民が“人に勧めたい”と思う、“誇りや愛着がもてる”ような区にしていくことで、足立区のために活動したいと考える人がさらに増えていくものと推察される。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
<b>全 体</b>		1746	54.0	19.9
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1319	<b>64.6</b>	16.0
	そう思わない(計)	222	32.4	<b>51.4</b>
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	932	<b>70.3</b>	14.4
	そう思わない(計)	466	44.4	<b>38.6</b>
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	882	<b>72.6</b>	14.4
	そう思わない(計)	454	45.8	<b>38.5</b>
足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	そう思う(計)	1356	<b>67.8</b>	15.3
	そう思わない(計)	131	8.4	<b>87.0</b>
区政満足度	満足(計)	1161	<b>62.4</b>	17.8
	不満(計)	353	45.0	<b>31.4</b>

(%)

※ 濃いグレーに白字：全体に比べて10ポイント以上高い

※ 薄いグレーに黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

### (2) 区政全体に対する満足層は、これまでで最高の6割台半ばで、2割の不満層を大きく上回っている

地域の暮らしやすさへの評価や定住意向については、すでに一定のレベルに達して、今回も安定的に推移しており、区政全体に対する満足度も【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が66.5%と、現行と同じ聴取方法となった平成25年以降最高だった前回の令和元年（62.1%）を更に4.4ポイント上回る、これまでで最も高い評価を得ている。

なお、今回調査においても、平成28年以降の4年間と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は327頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が平均値より低い”分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「行政改革」「学校教育対策」であるとの結果は、前回から「障がい者支援」がこのゾーンから抜けて、「学校教育対策」が新たに加わったのを除くと、平成28年から令和元年の最近4年間とほとんど変わっていない。

しかし、平成29年以降の4年間は、多くの分野において【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成28年以前の調査結果を上回っており、「子育て支援」「学校教育対策」「高齢者支援」「低所得者対策」「資源環境対策」「防災対策」「行政改革」などの満足度の高まりが、最近4年間の区政全体への評価の向上につながっていると思われ、とくに今回の令和2年度ではほとんどの項目で【満足層】が前回より更に3.0ポイント以上増加しており、10ポイント前後の大きい伸びをみせた項目も多い。

また、区政全体に対する満足度と、「区への愛着や誇り」、そして「足立区を人に勧めたい」「足立区を良いまちにするために何かしたい」といった区への思いとの間には正の相関も認められる。

### (3) 今後の課題

今後も、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「行政改革」「学校支援対策」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することによって、区民の区政全体への満足度の向上を継続し、足立区を、すべての区民が愛着と誇りをもって、より良いまちにするために何かしたいと思える「まち」に発展させていくことが求められよう。

## 区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

## 1 足立区に愛着をもっている

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5

(%)

男性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5
70代以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9

女性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1
70代以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6

## 2 足立区に誇りをもっている

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4

(%)

男性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0
70代以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2

女性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2
70代以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1

## 3 足立区を人に勧めたい

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5

(%)

男性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3
70代以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3

女性	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7
70代以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3

## 第2章 調査結果の要約

### 4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成 30年	令和 元年	令和 2年
	52.3	52.8	54.0

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	令和 2年
20代	45.8	39.1	44.1
30代	52.3	56.1	57.1
40代	60.5	57.5	54.0
50代	57.4	58.5	57.0
60代	46.5	47.9	58.1
70代以上	53.8	56.9	59.8

女性	平成 30年	令和 元年	令和 2年
20代	41.6	39.4	41.3
30代	54.5	51.7	58.0
40代	52.5	63.7	58.4
50代	52.5	60.4	53.6
60代	59.4	45.8	49.3
70代以上	48.5	45.1	49.8

### 5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成 30年	令和 元年	令和 2年
	75.7	75.3	77.7

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	令和 2年
20代	64.4	59.4	67.8
30代	76.7	79.3	82.9
40代	76.7	80.0	75.3
50代	78.3	80.3	77.2
60代	75.2	72.7	76.7
70代以上	74.5	72.9	80.9

女性	平成 30年	令和 元年	令和 2年
20代	61.0	66.7	66.3
30代	79.1	71.2	81.3
40代	80.3	80.3	84.3
50代	79.0	83.2	77.7
60代	82.5	75.0	81.7
70代以上	71.7	72.8	74.1

## 区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	令和 2年	(%)
満足	53.2	53.3	57.7	61.5	60.0	62.1	66.5	
不満足	27.6	27.4	25.6	24.0	23.9	21.8	20.2	

## 1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	4.6	17.5	2.2	0.3	3.0
どちらかといえば暮らしやすい	2.5	33.9	9.5	1.4	7.3
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	6.4	4.4	1.4	1.7
暮らしにくい	0.0	0.4	0.3	0.6	0.5

## 2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住みたい	3.7	20.4	4.0	0.8	5.8
当分は住みたい	2.9	27.9	7.6	1.2	4.0
区外に転出したい	0.1	2.8	1.3	0.9	0.5
わからない	0.7	6.4	3.4	0.9	2.5

## 3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
十分に得られている	1.0	2.0	0.1	0.1	0.5
ある程度得られている	5.7	45.6	10.3	1.7	6.9
得られないことが多い	0.2	4.7	2.9	0.7	1.9
まったく得られない	0.2	0.7	0.4	0.3	0.5
必要と思ったことがない	0.2	3.4	1.6	0.3	1.1
区の情報に関心がない	0.2	1.8	0.7	0.6	1.0

## 4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	2.1	5.3	0.5	0.1	1.1
どちらかといえば良い	4.0	35.0	6.8	1.0	5.7
どちらかといえば悪い	0.9	11.1	5.3	1.1	1.8
悪い	0.0	0.9	1.1	1.0	0.3
わからない	0.4	6.1	2.6	0.7	2.9



## 第3章 調査結果の分析





# 1 定 住 性

- 
- (1) 居住地域の評価
  - (2) 居住地域評価の経年比較
  - (3) 地域の暮らしやすさ
  - (4) 特に暮らしにくいと感じること
  - (5) 定住意向
-



## 1 定住性

## (1) 居住地域の評価

■ 〈 普段の買い物が便利である 〉と感じている人は7割台半ば

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか

(○はそれぞれ1つずつ)。

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

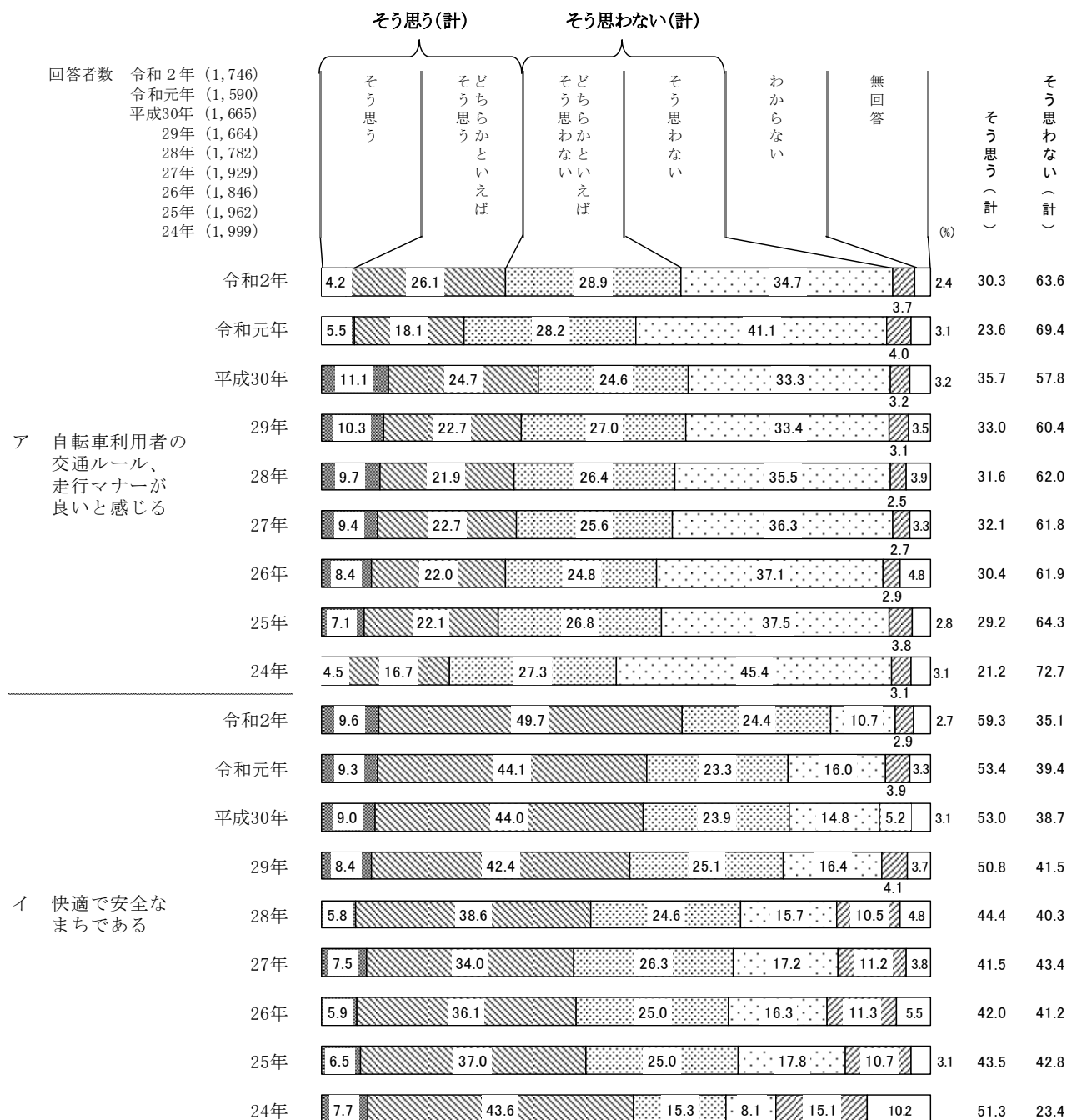


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価

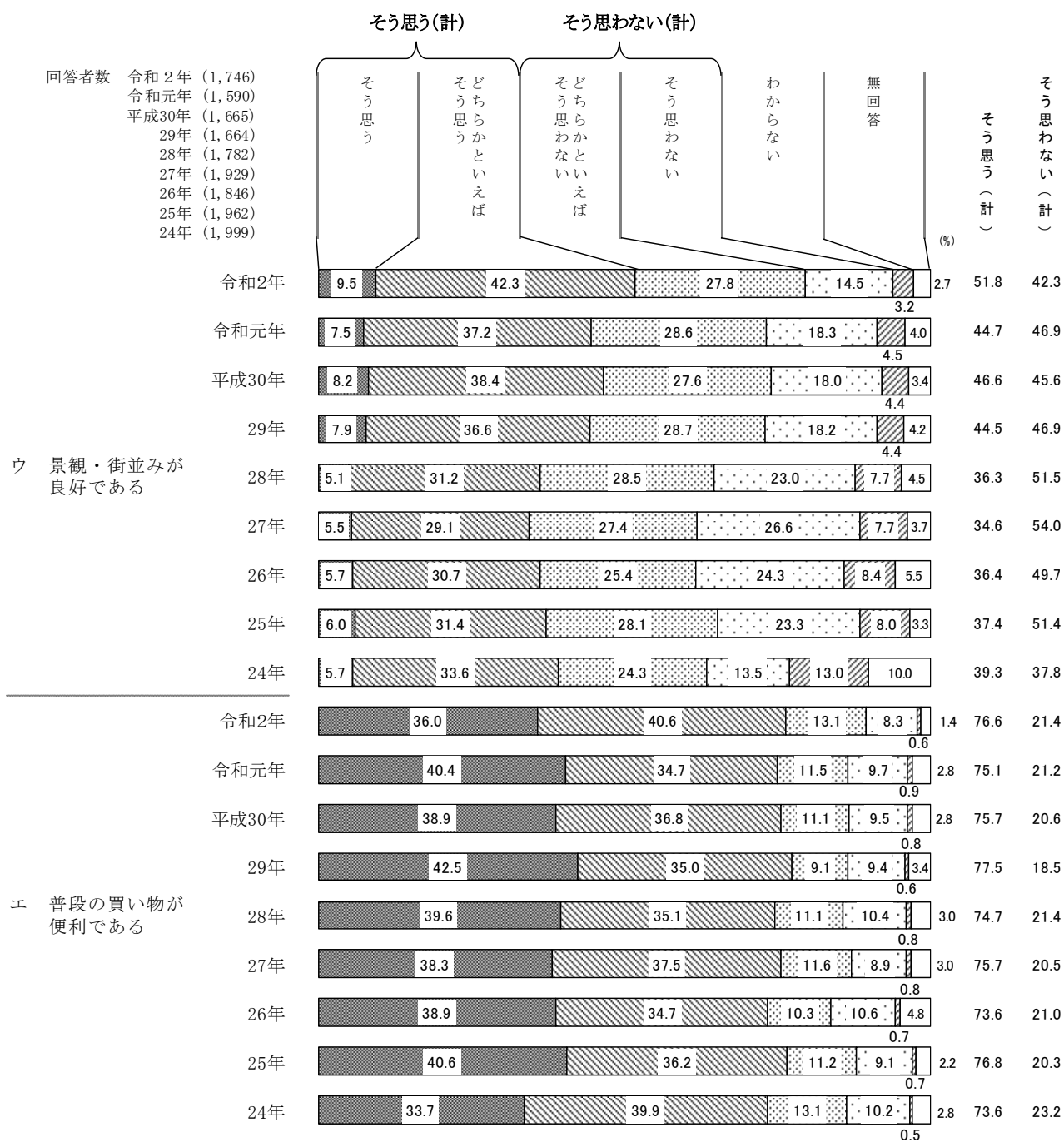


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

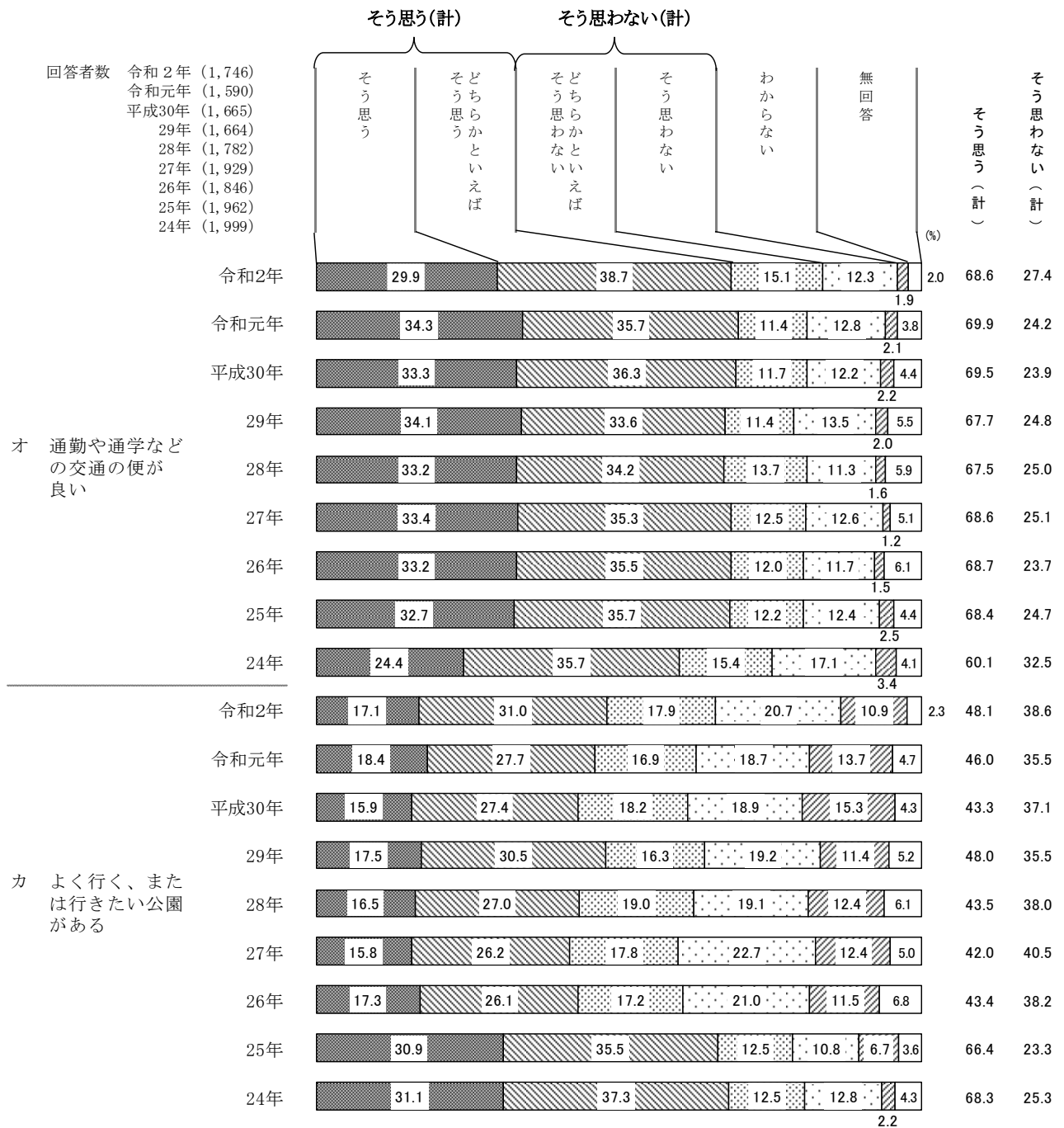
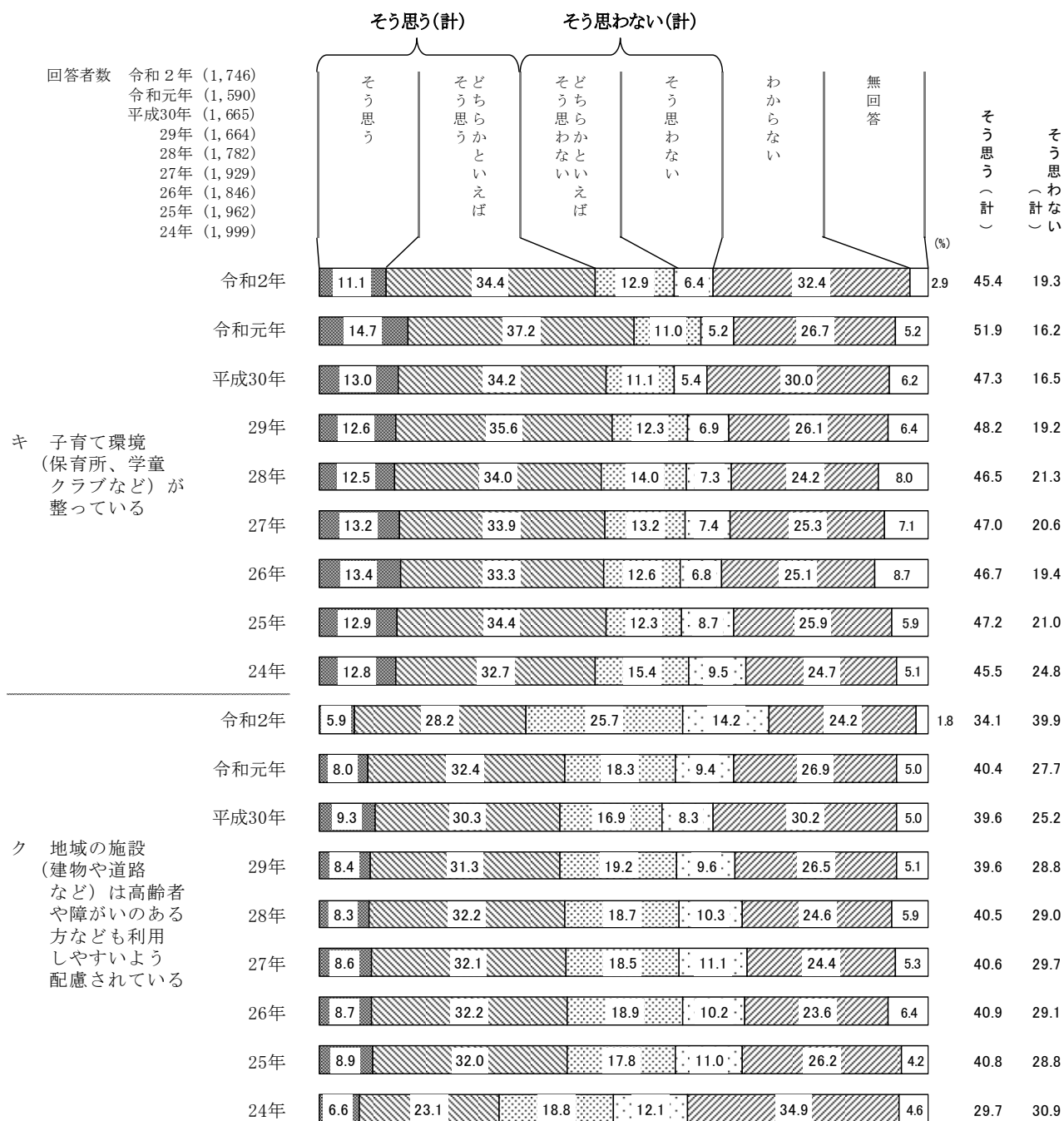
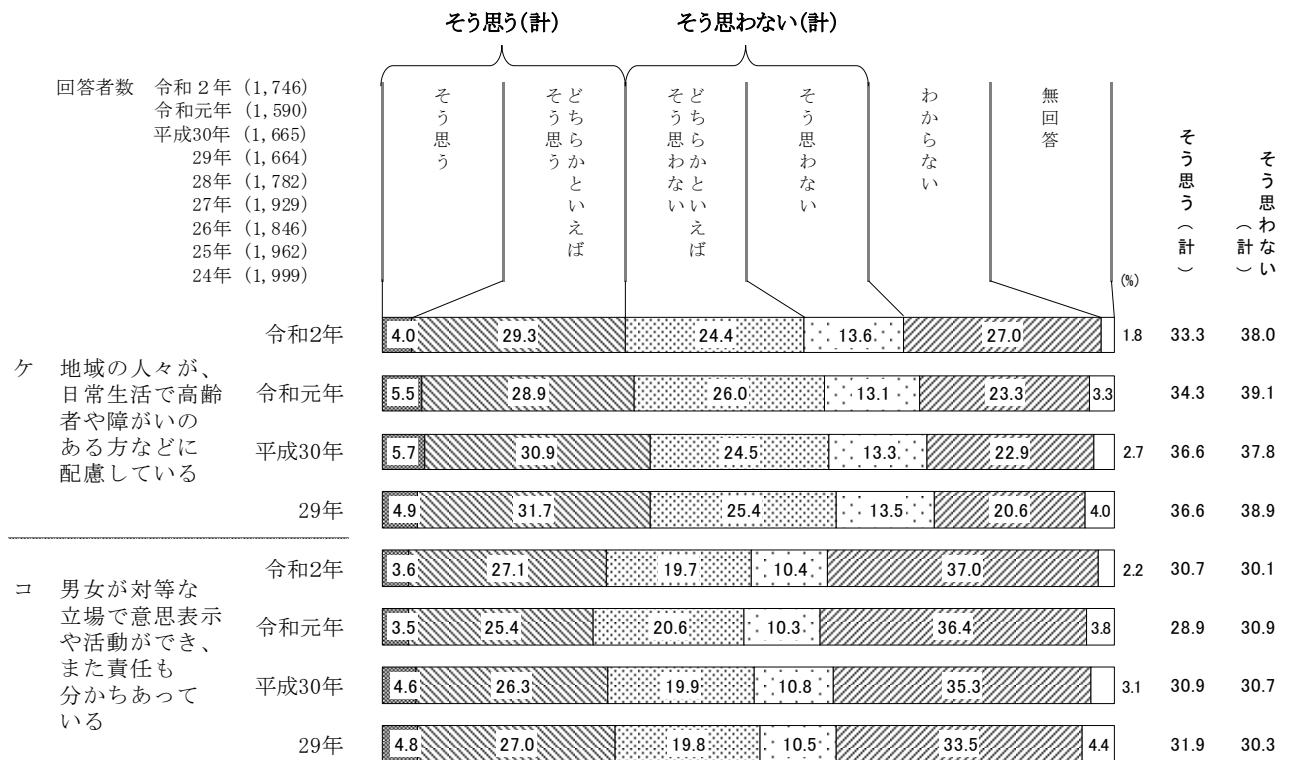


図1-1-1-④ 経年比較／居住地域の評価



- ※ アは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。  
 ※ イは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。  
 ※ ウは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。  
 ※ カは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。  
 ※ クは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえて、令和2年度に「地域の施設」の部分に「地域の施設（建物や道路など）」に表現をかえた。

図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価



住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が76.6%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便が良い〉68.6%、〈快適で安全なまちである〉59.3%の順となっている。

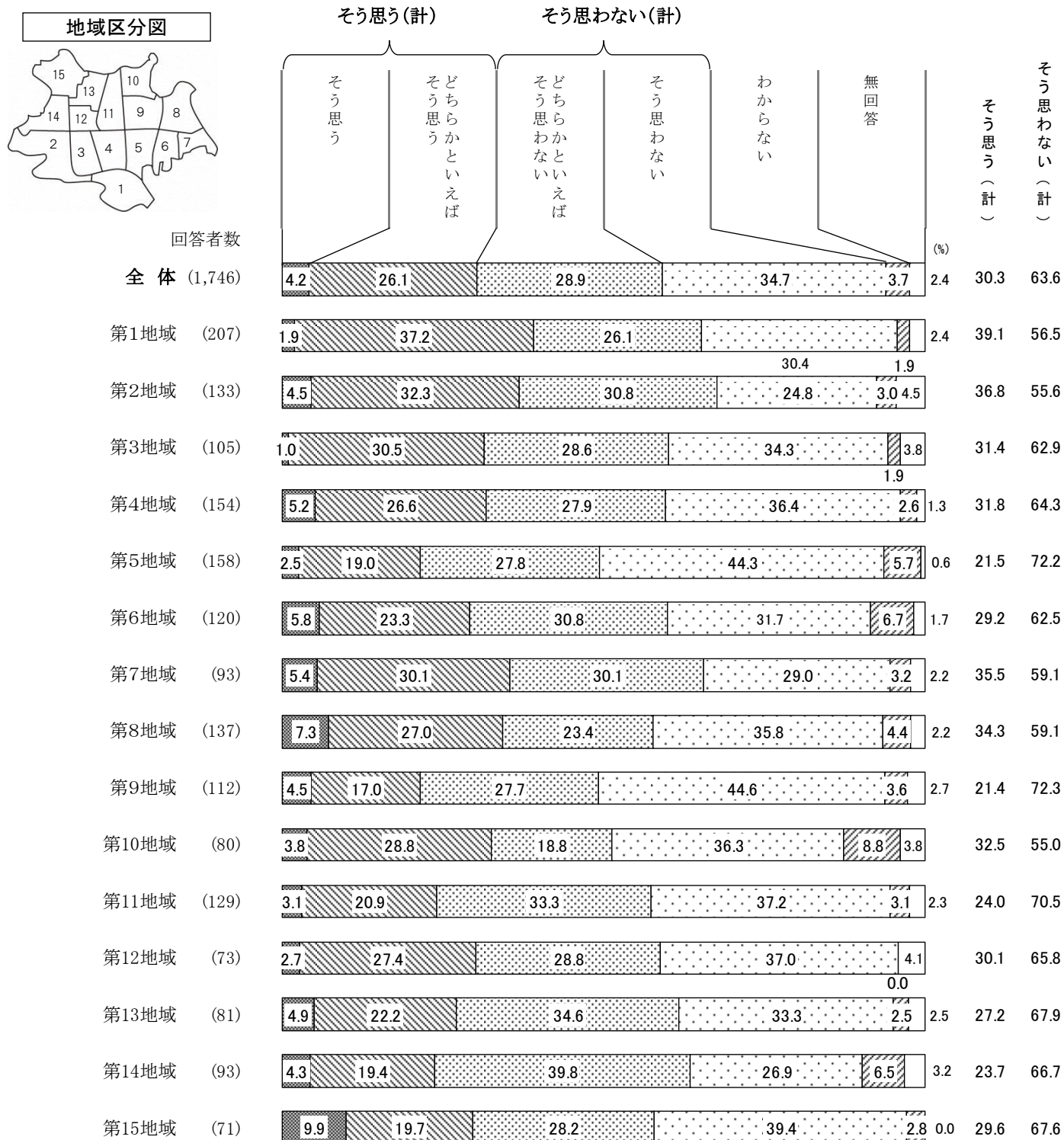
経年で比較すると、今回の調査では、10項目のうち6項目で【そう思う】が令和元年調査に比べて増加しており、中でも〈景観・街並みが良好である〉(+7.1ポイント)、〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(+6.7ポイント)、〈快適で安全なまちである〉(+5.9ポイント)の3項目で増加幅が大きめとなっている。一方で、10項目のうち4項目で【そう思う】が令和元年調査に比べて減少しており、中では〈子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている〉(-6.5ポイント)と〈地域の施設(建物や道路など)は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉(-6.3ポイント)の2項目で減少幅が大きめとなっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

次に、各項目について、地域別でみた。

〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【そう思う】は第1地域で39.1%と最も高く、次いで第2地域が36.8%となっている。一方、【そう思わない】は第9地域で72.3%と最も高く、第5地域が72.2%と僅差で続くが、第11地域でも7割を超えて高くなっている。

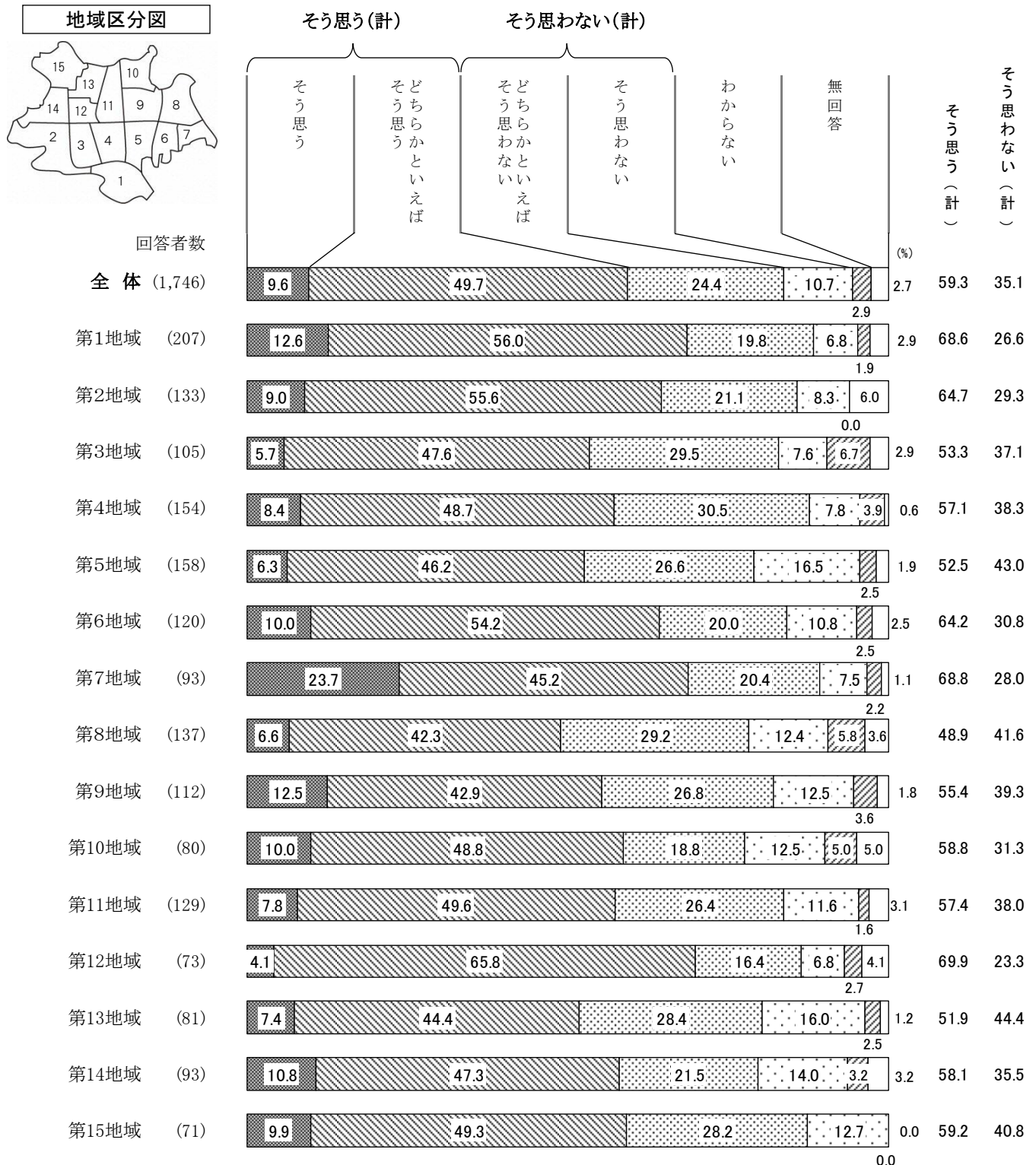
図1－1－2－① 地域別／居住地域の評価  
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる





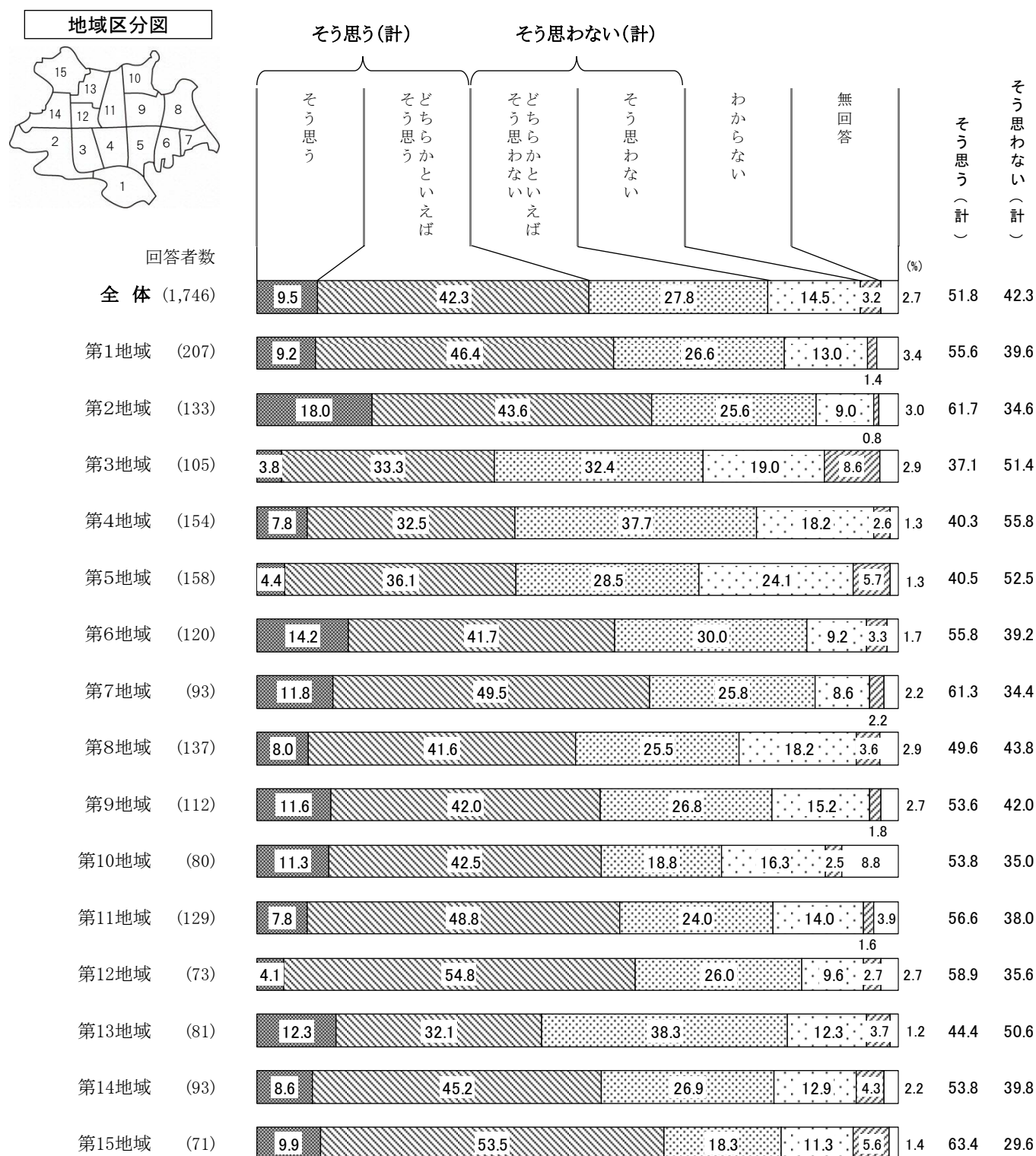
〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第12地域で69.9%と最も高く、次いで第7地域が68.8%、第1地域が68.6%の僅差で続き高くなっている。一方、【そう思わない】は第13地域で44.4%と最も高く、次いで第5地域が43.0%で高くなっている。

図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



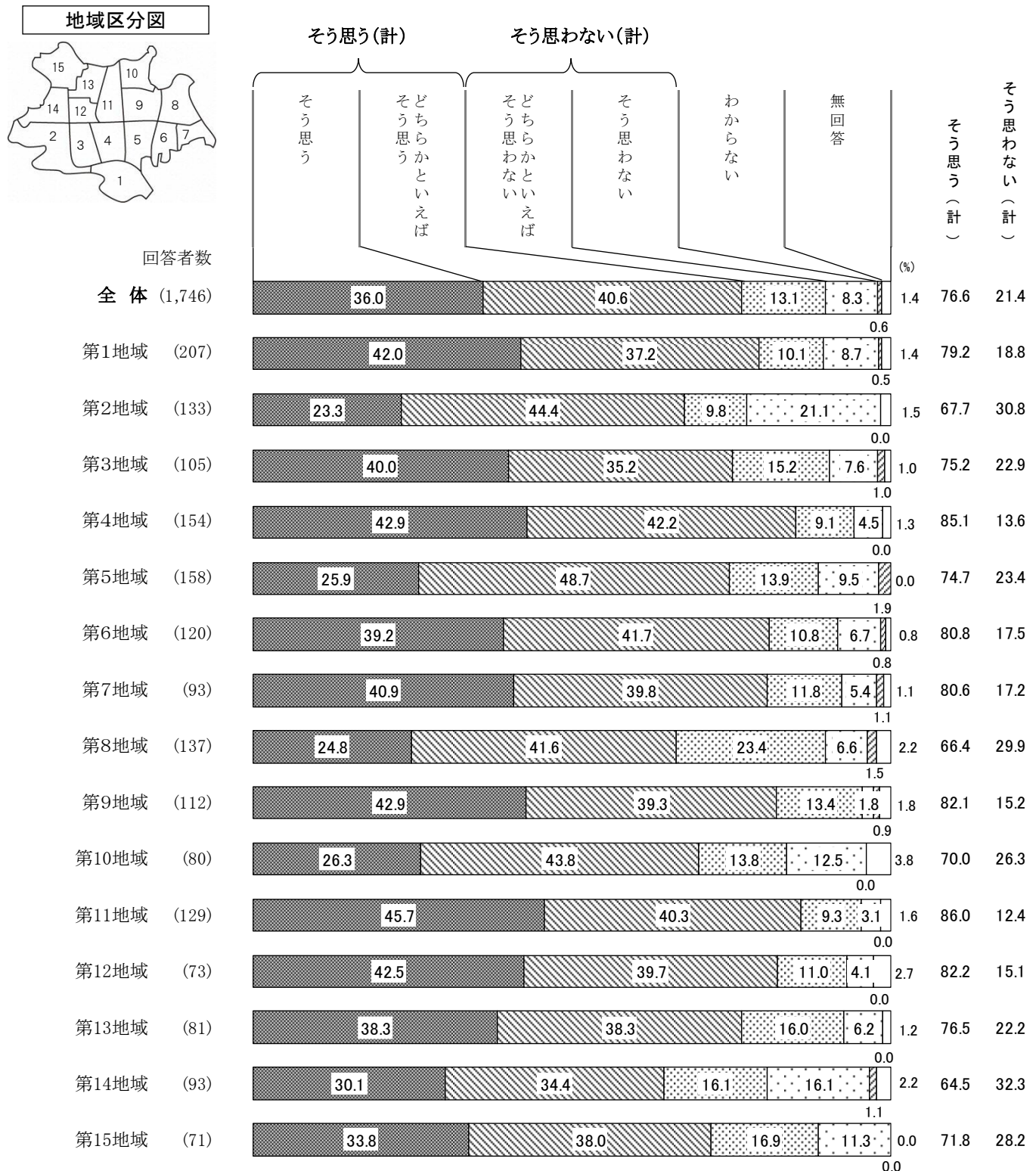
〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第15地域で63.4%と最も高く、これに第2地域と第7地域が6割台で続き高くなっている。一方、【そう思わない】は第4地域で55.8%と最も高く、次いで第5地域で52.5%となっている。

図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



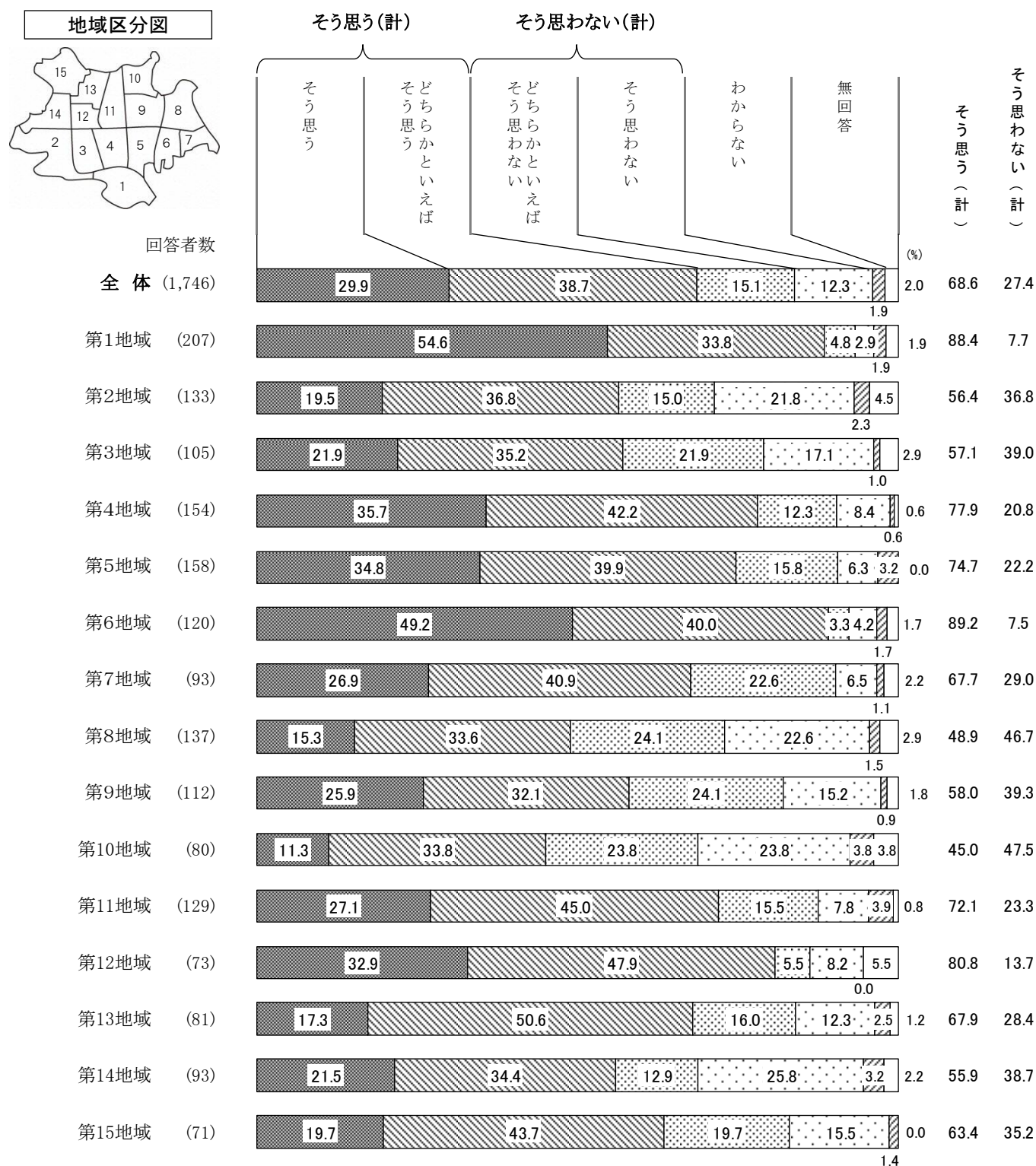
〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第11地域が86.0%で最も高く、次いで第4地域が85.1%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で32.3%と最も高く、次いで第2地域が30.8%となっている。

図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



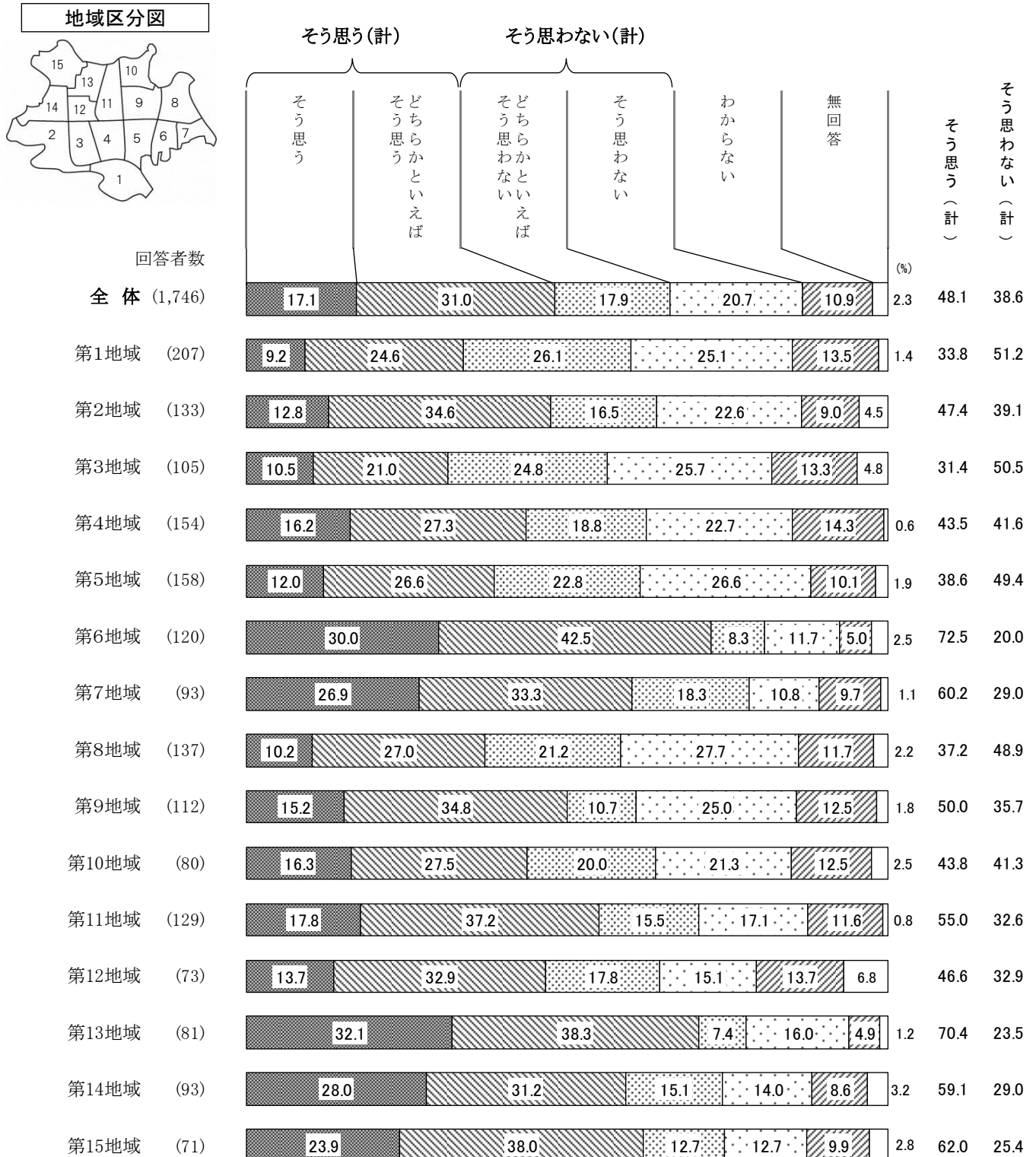
〈通勤や通学などの交通の便が良い〉について、【そう思う】は第6地域が89.2%と最も高く、次いで第1地域が88.4%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で47.5%と最も高く、これに第8地域が46.7%で続き、この2地域で高くなっている。

図1-1-2-⑤ 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い



〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第6地域で72.5%と最も高く、次いで第13地域が70.4%で続き、この2地域で高くなっている。一方、【そう思わない】は第1地域で51.2%と最も高く、次いで第3地域が50.5%、第5地域が49.4%で続き高くなっている。

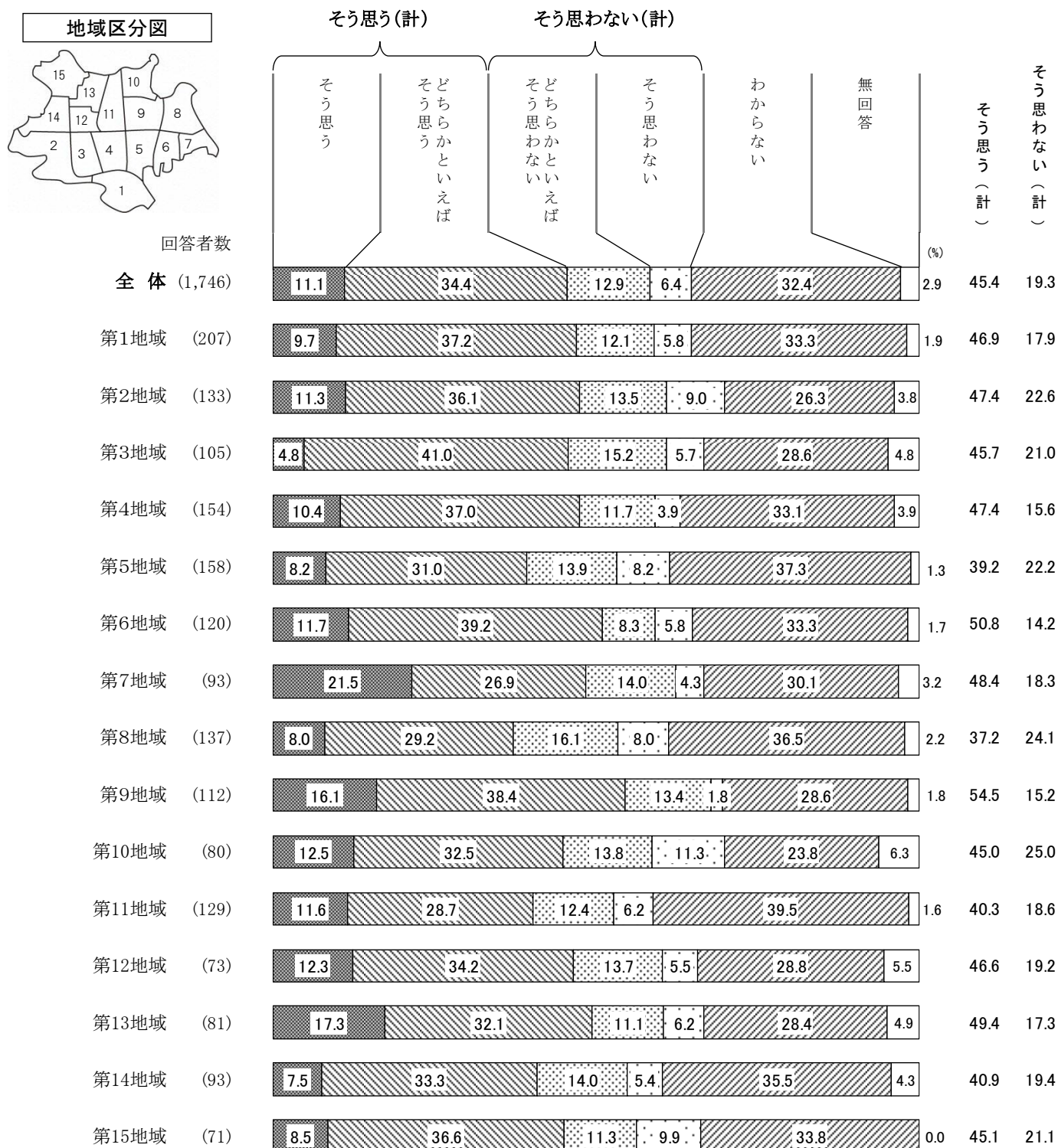
図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある





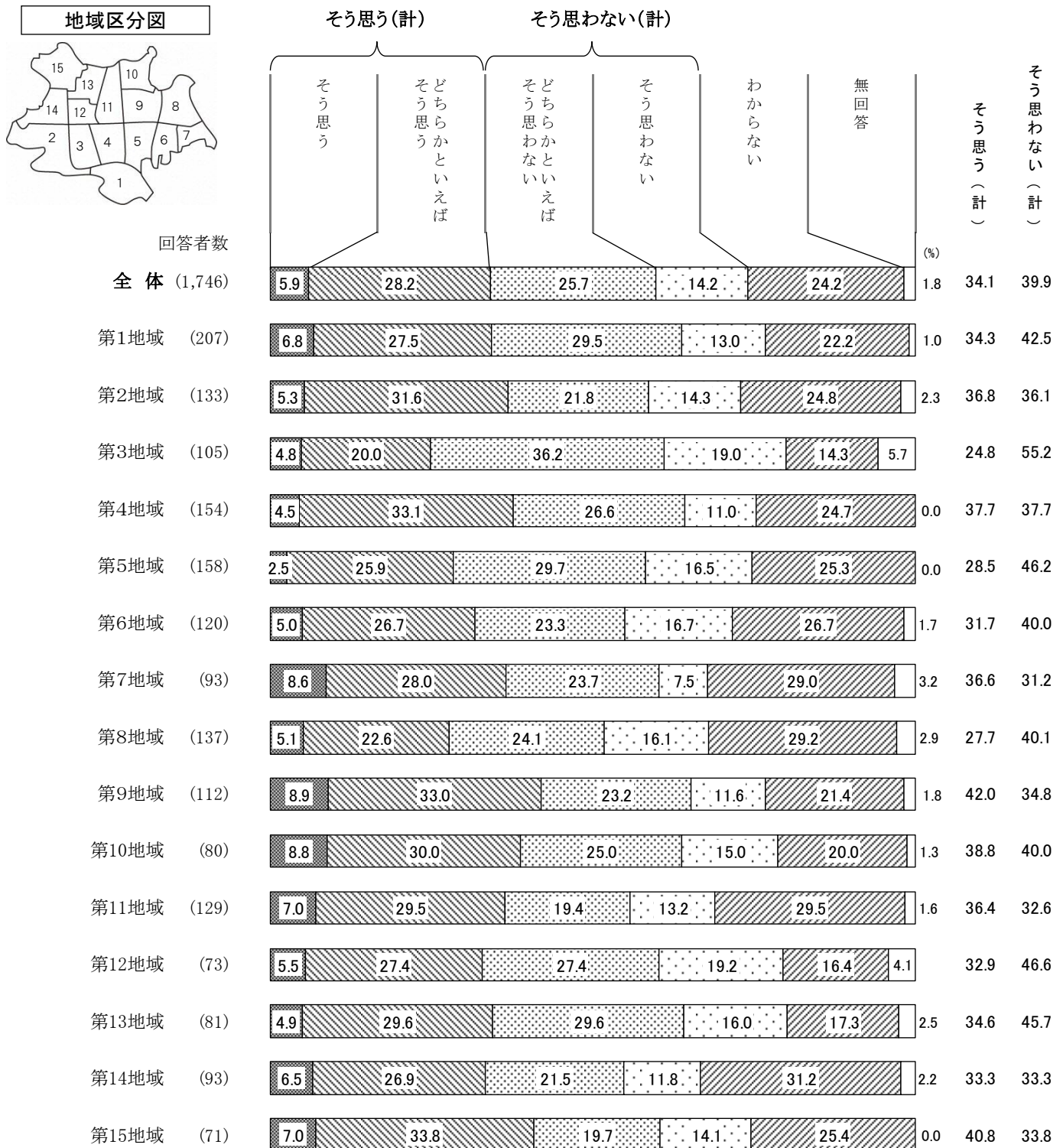
〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第9地域で54.5%と最も高く、次いで第6地域が50.8%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で25.0%と最も高く、次いで第8地域が24.1%で高くなっている。

図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている



〈地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第9地域が42.0%で最も高く、次いで第15地域で40.8%となっている。一方、【そう思わない】は第3地域で55.2%と最も高くなっている。

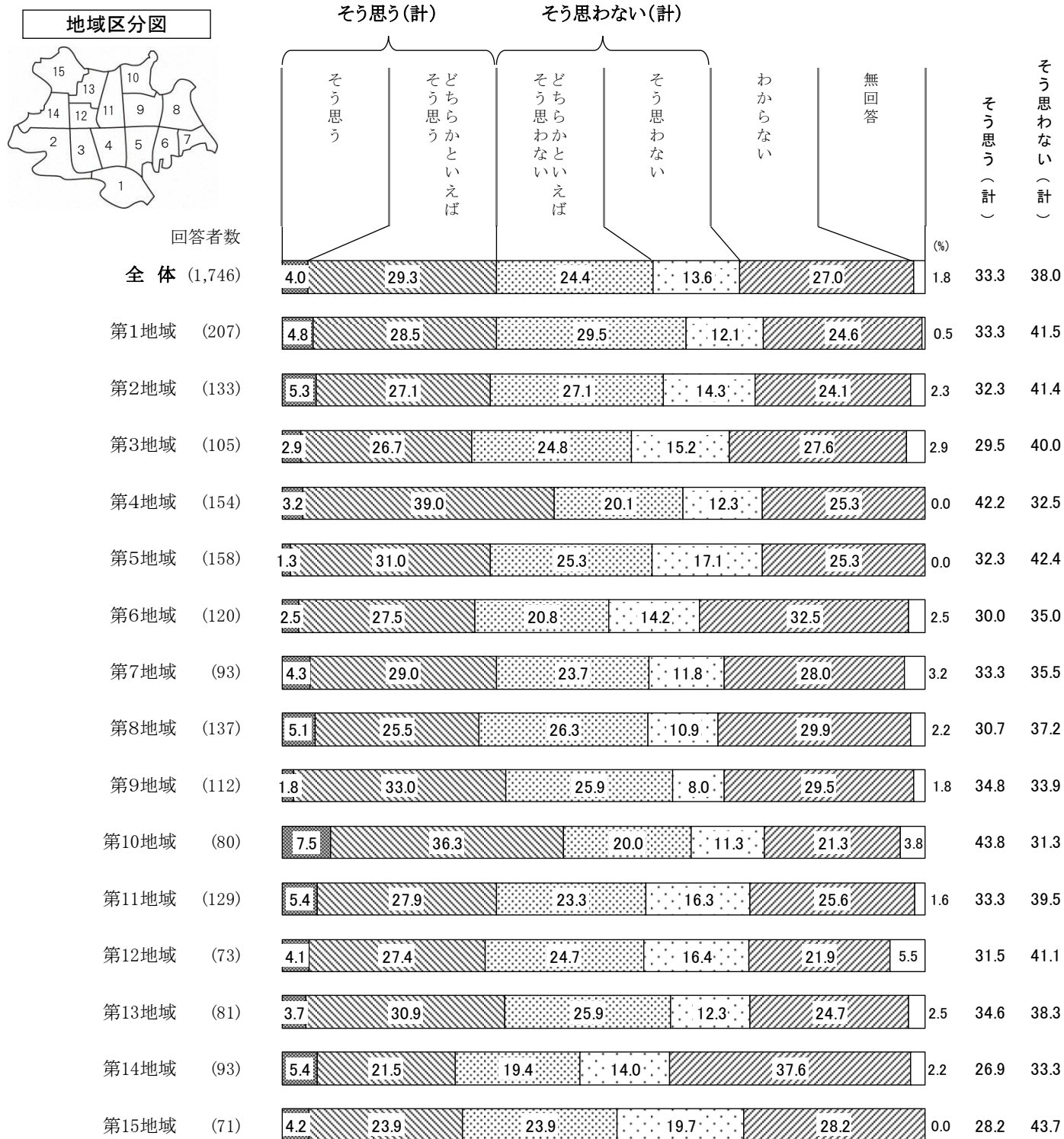
図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、  
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第10地域が43.8%と最も高く、これに第4地域が42.2%で続いて、この2地域で高くなっている。一方、【そう思わない】は第15地域で43.7%と最も高く、第5地域が42.4%で続いている。

図1-1-2-⑨ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

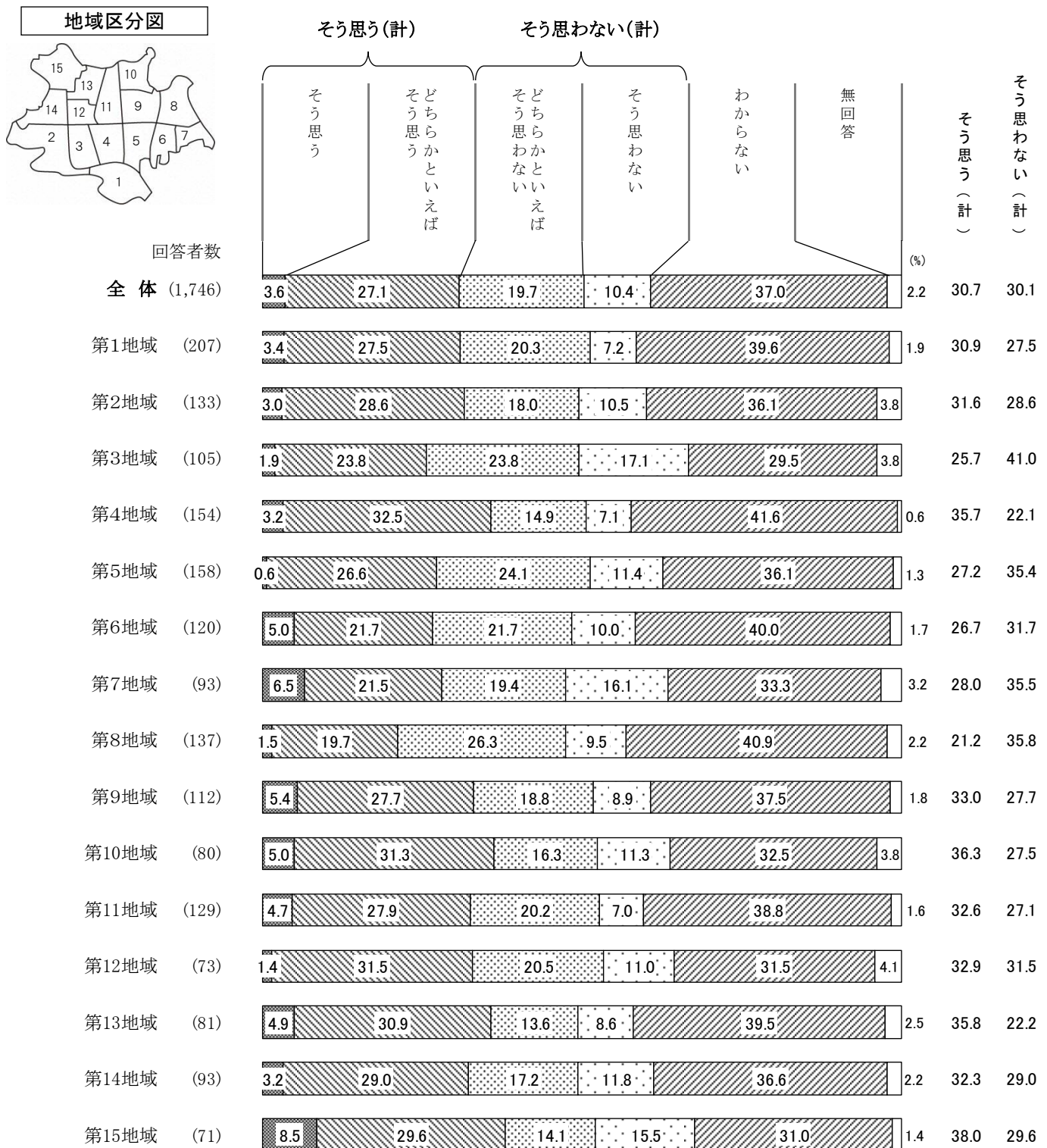




〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【そう思う】は第15地域で38.0%と最も高く、第10地域が36.3%で続いている。一方、【そう思わない】は第3地域で41.0%と最も高くなっている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉及び〈ペットのふん〉で、【減っている】がともに5割強

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図1-2-1-① 経年比較／居住地域評価

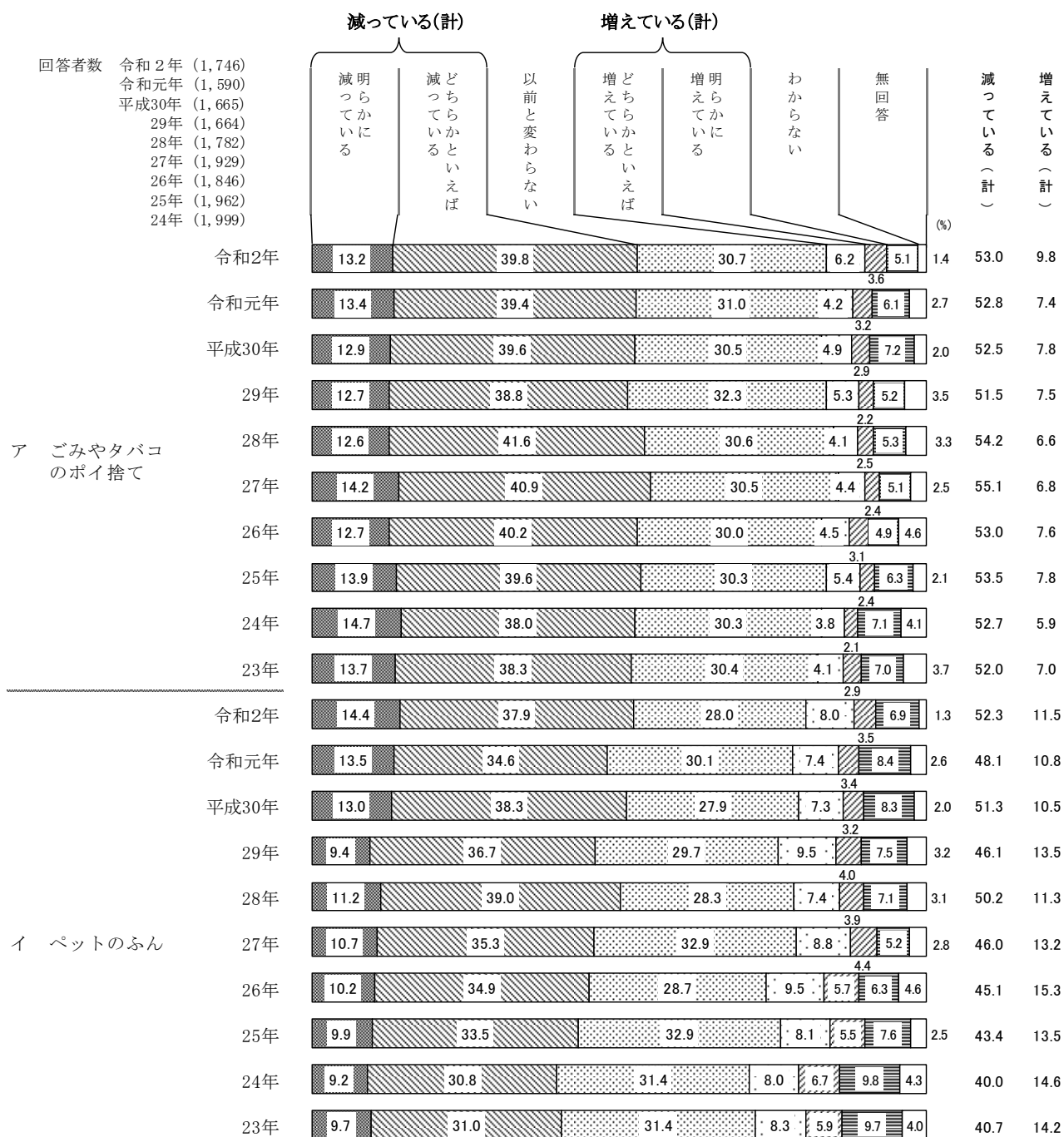
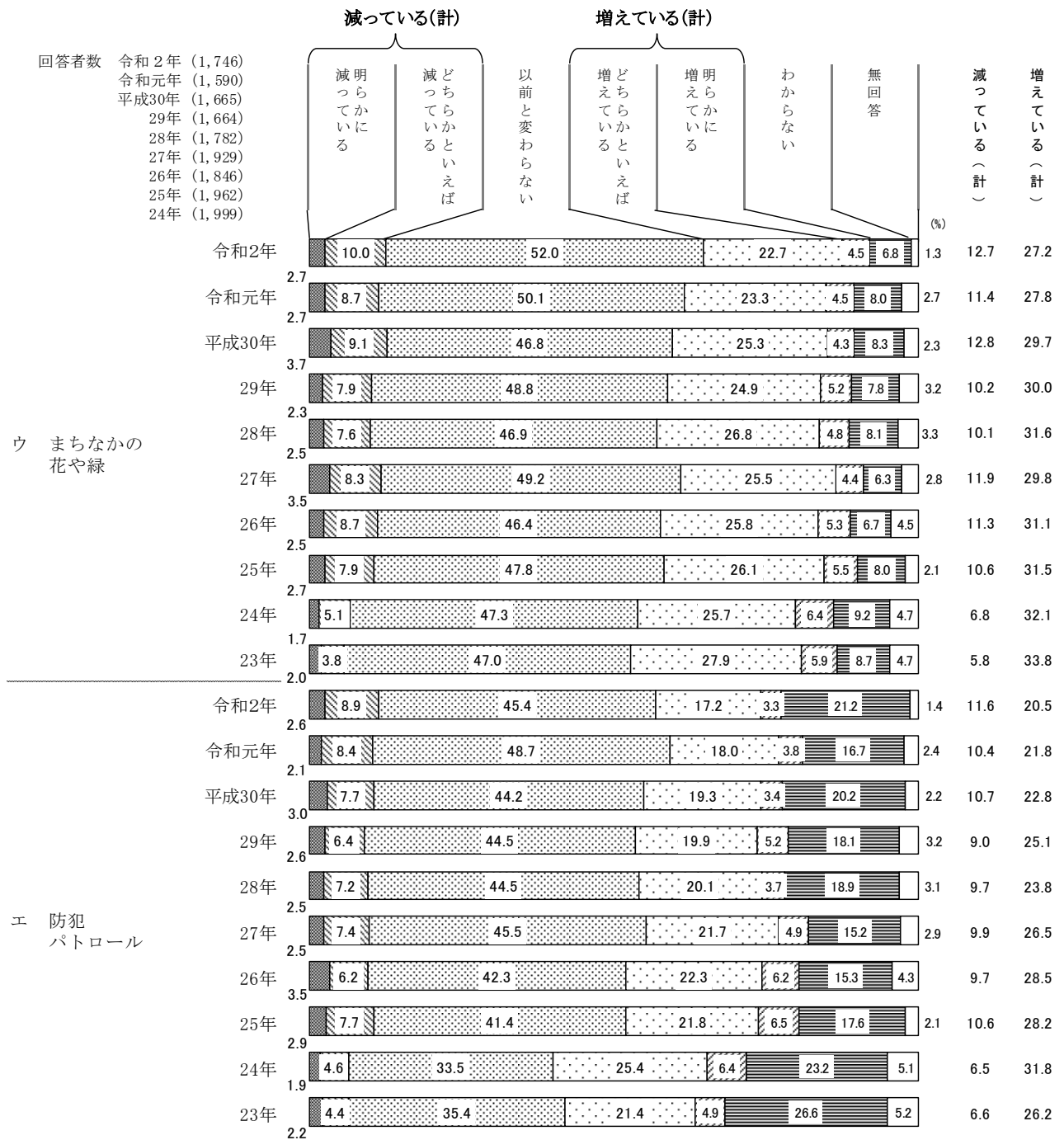


図1-2-1-② 経年比較／居住地域評価



### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

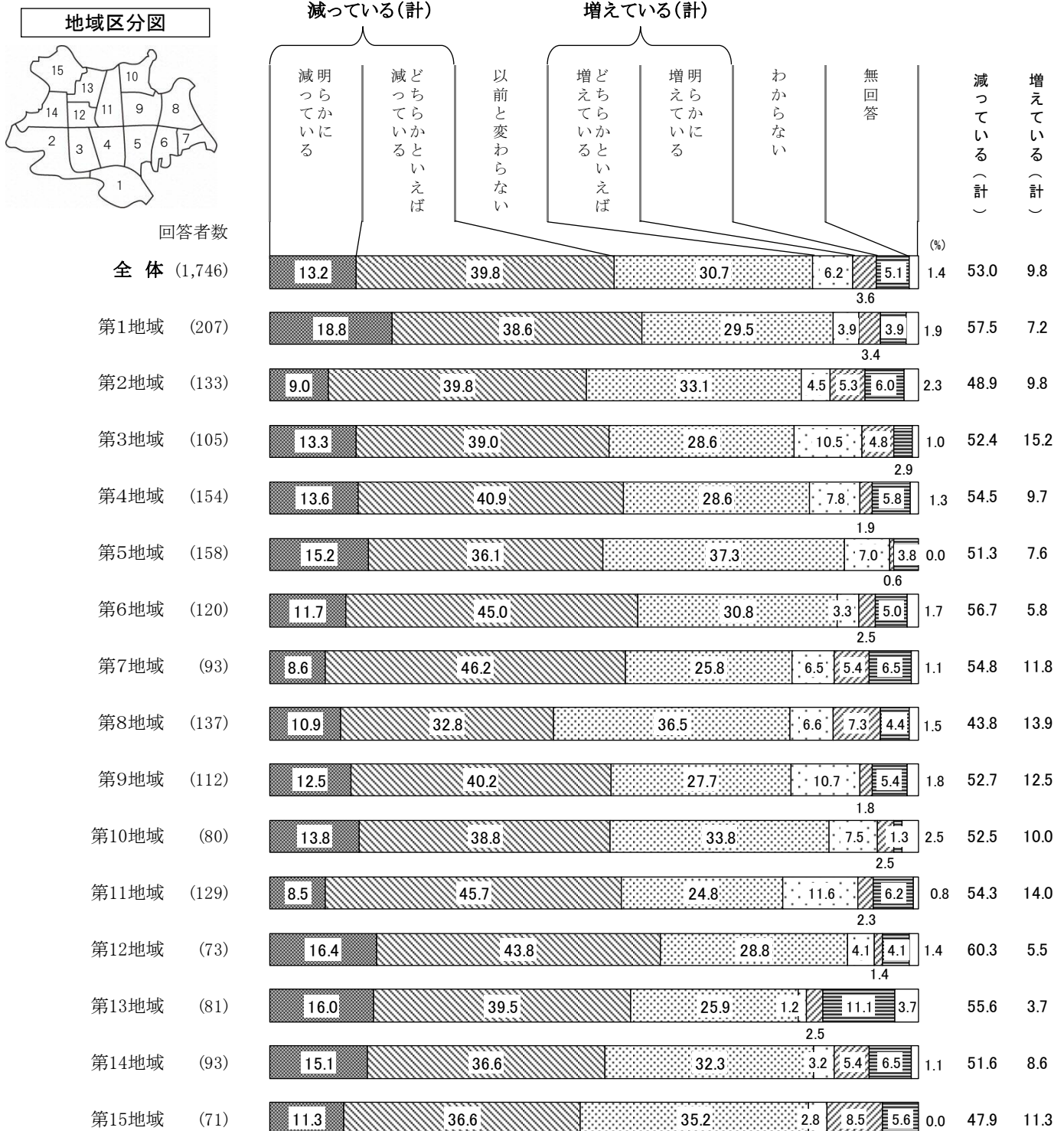
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が53.0%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉が52.3%の僅差で続き、ともに5割台前半に達している。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】の高い順にみると、〈まちなかの花や緑〉が27.2%で最も高く、次いで〈防犯パトロール〉が20.5%となっている。

経年で比較すると、〈ペットのふん〉について【減っている】が今回52.3%と前回の令和元年調査の48.1%より4.2ポイント増加して、平成23年以降で最も高くなっており、〈ごみやタバコのポイ捨て〉も【減っている】が前回より僅かながら増加している。一方、〈防犯パトロール〉について【増えている】が今回20.5%と前回の21.8%より1.3ポイント減少し、〈まちなかの花や緑〉も【増えている】が前回より微減している。

各項目について、地域別でみた。

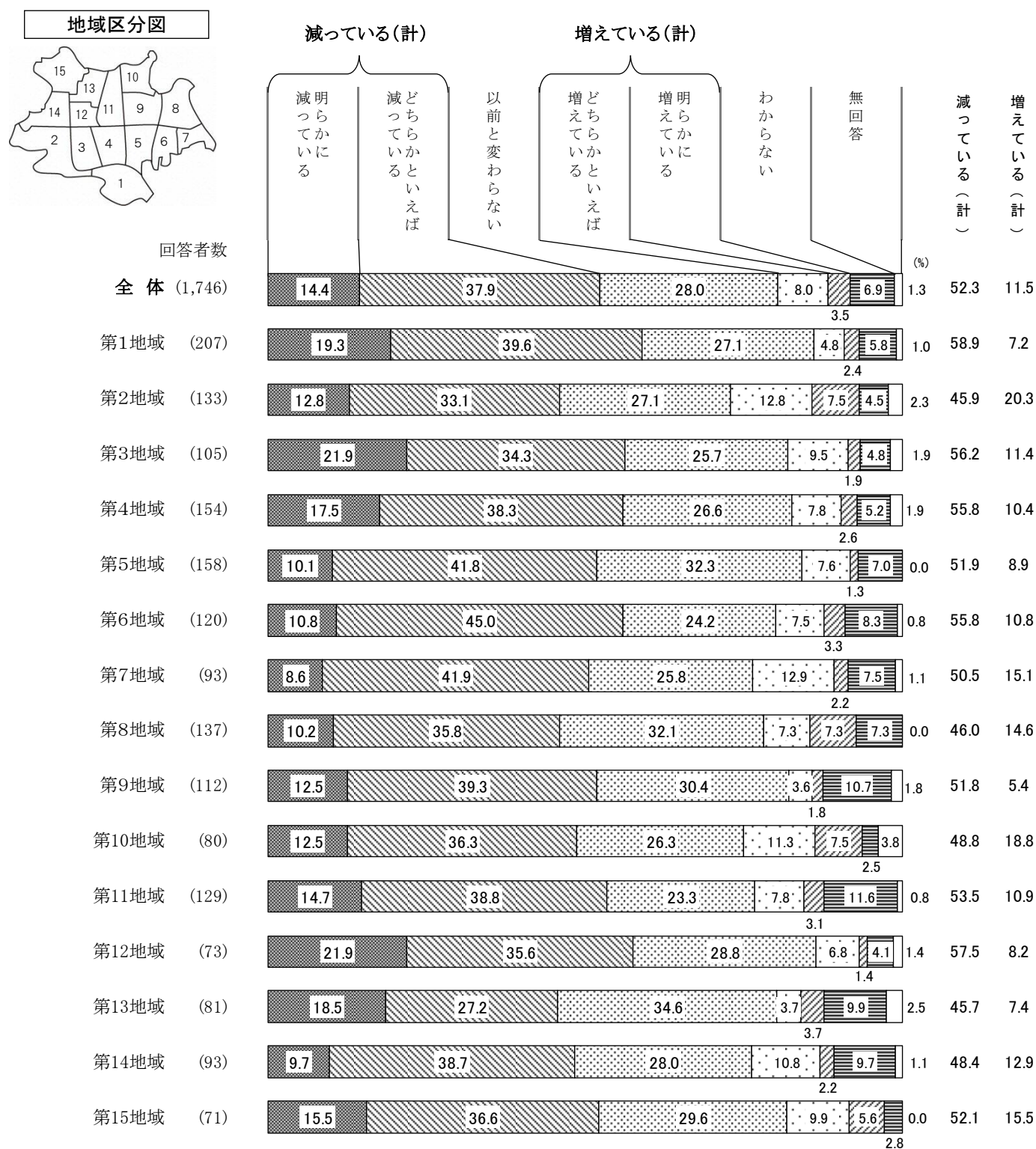
〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第12地域で60.3%と最も高く、次いで第1地域で57.5%と高めとなっている。一方、【増えている】は第3地域で15.2%と最も高く、これに第11地域が14.0%、第8地域が13.9%で続いている。

図1-2-2-① 地域別／ごみやタバコのポイ捨て



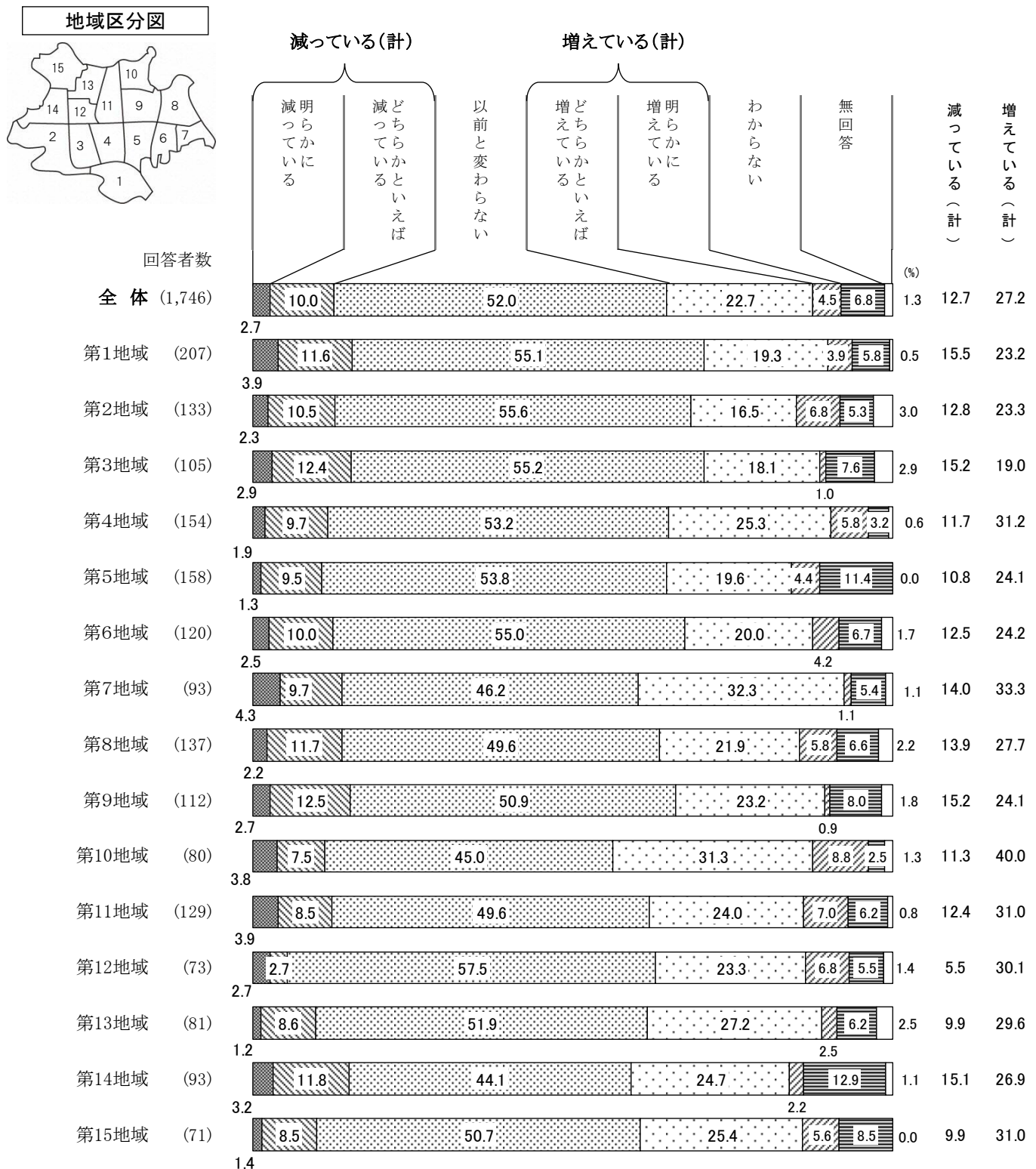
〈ペットのふん〉について、【減っている】は第1地域が58.9%と最も高く、次いで第12地域が57.5%で続いている。一方、【増えている】は第2地域で20.3%と最も高く、次いで第10地域が18.8%と高くなっている。

図1-2-2-② 地域別／ペットのふん



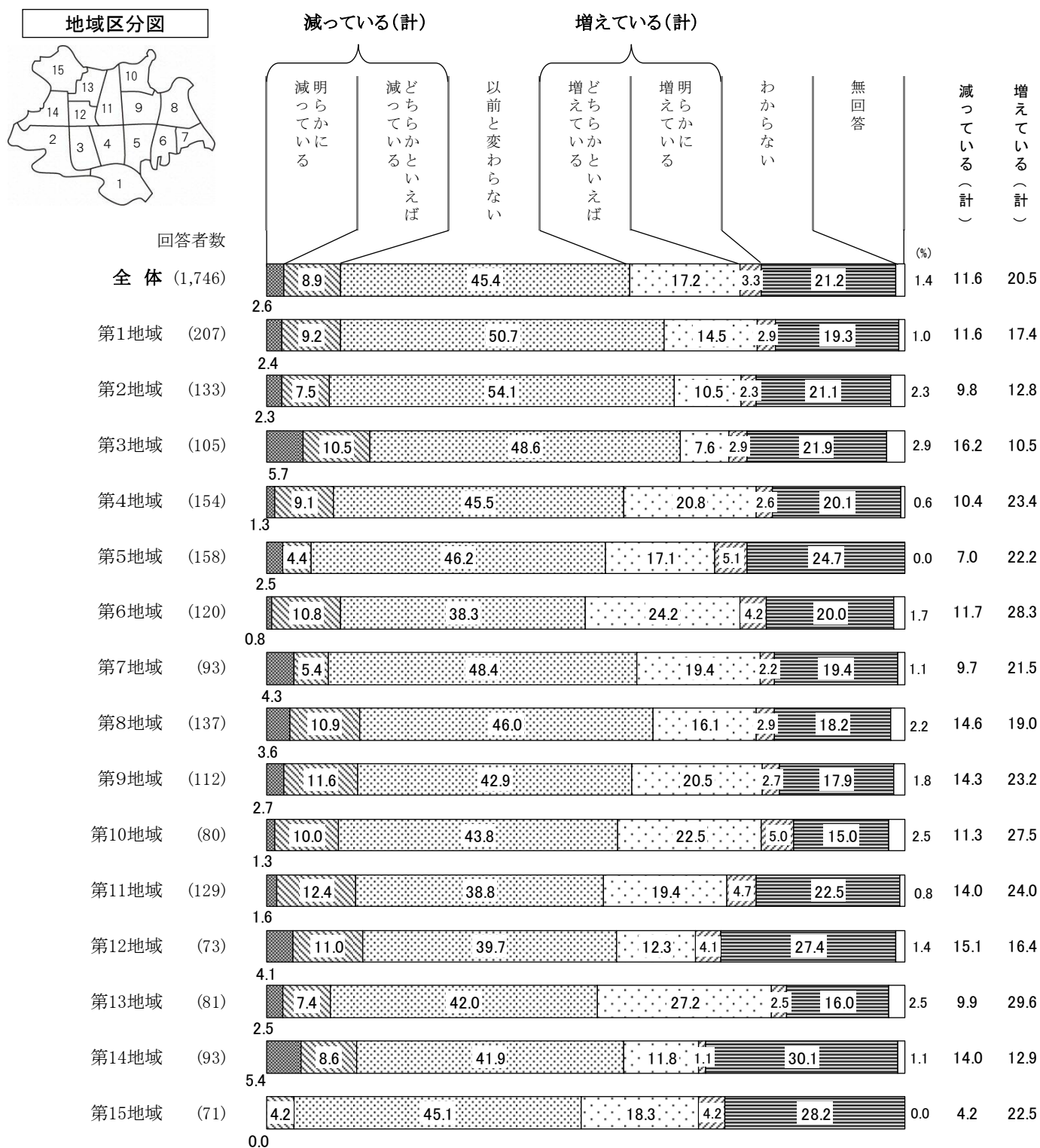
〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第10地域で40.0%と最も高く、次いで第7地域が33.3%で続いている。一方、【減っている】については第1地域が15.5%で最も高いが、第3地域、第9地域、第14地域の3地域も僅差の15%台で並び、それぞれ高めとなっている。

図1-2-2-③ 地域別／まちなかの花や緑



〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第13地域が29.6%と最も高く、これに第6地域と第10地域が2割台半ば以上で続いている。一方、【減っている】は第3地域で16.2%と最も高く、次いで第12地域の15.1%となっている。

図1-2-2-④ 地域別／防犯パトロール





## (3) 地域の暮らしやすさ

■【暮らしやすい】は4年続けて8割を超えている

問3 問1、問2を踏まえてお聞きます。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は1つだけ）。

図1-3-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

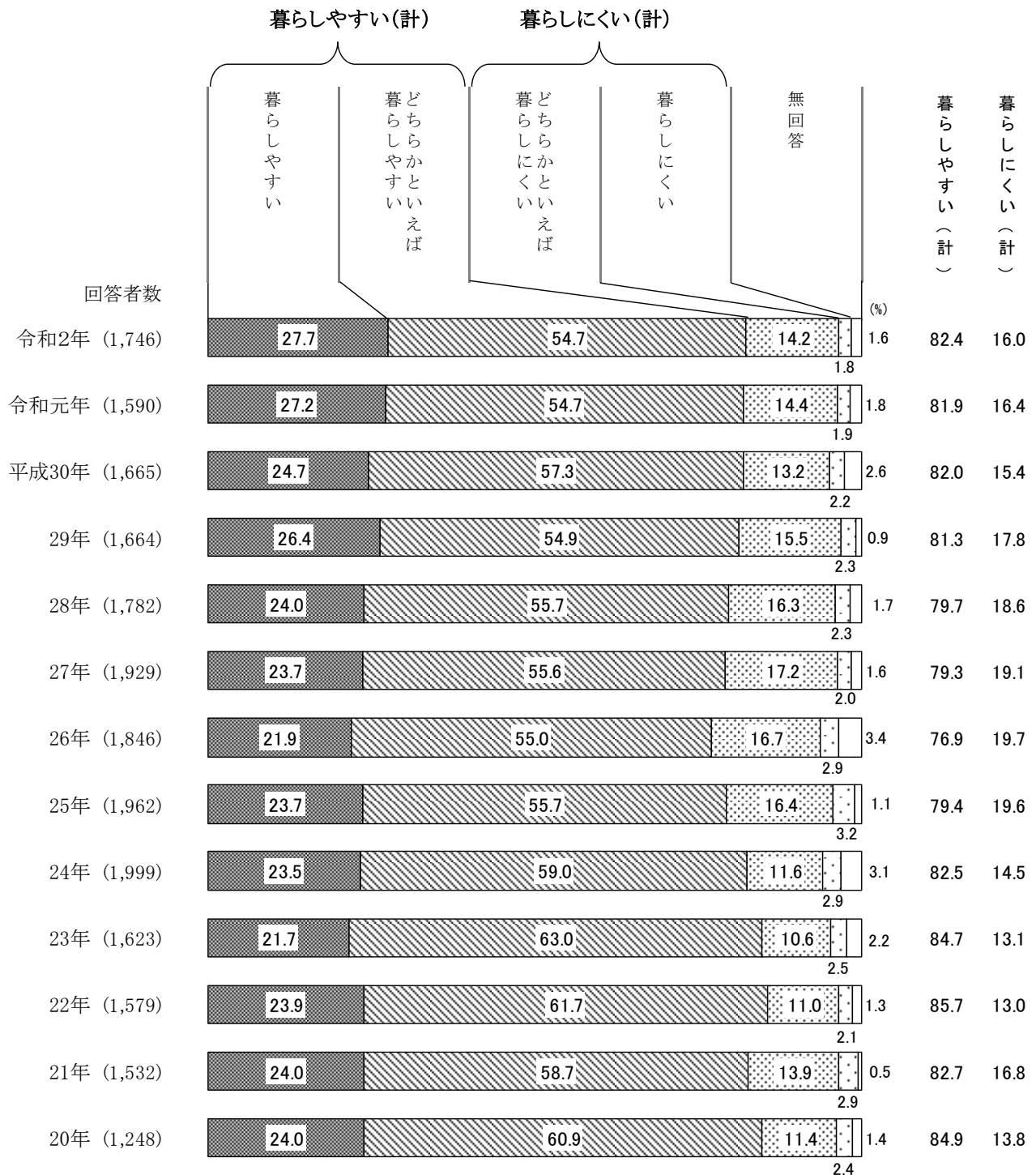
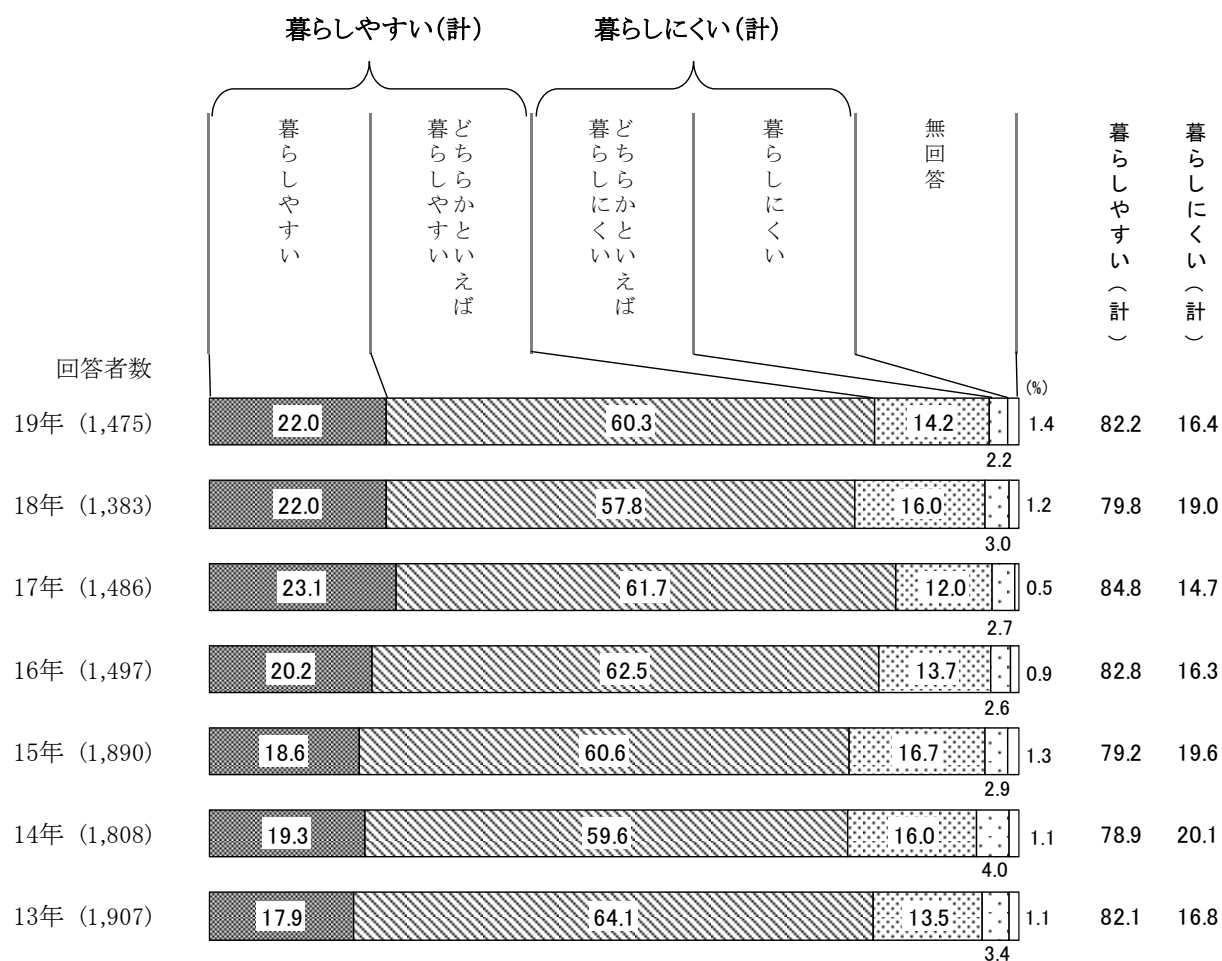


図1-3-1-② 経年比較／地域の暮らしやすさ

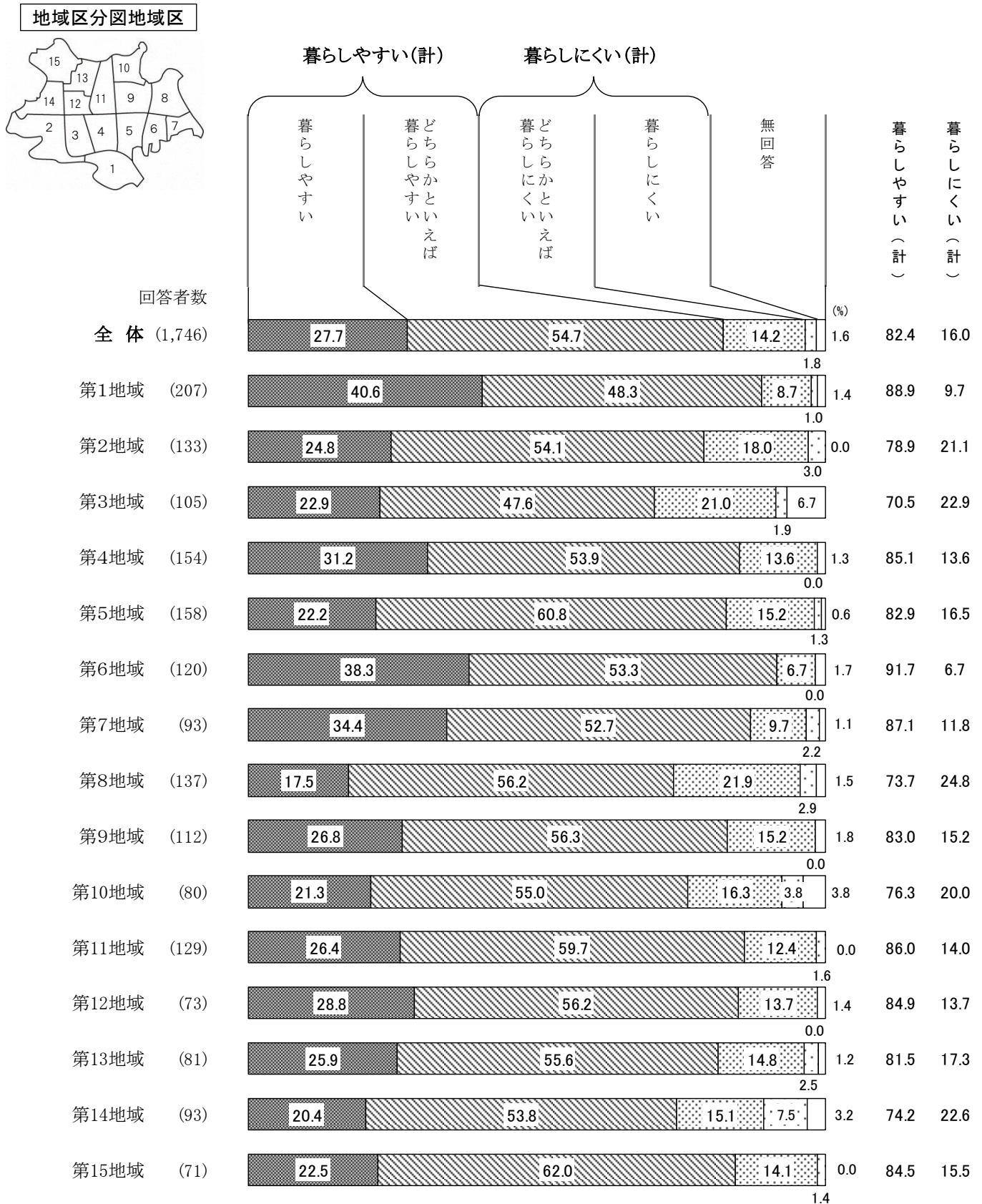


地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は27.7%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(54.7%)を合わせた【暮らしやすい】(82.4%)は8割強を占めている。一方、「暮らしにくい」は1.8%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(14.2%)を合わせた【暮らしにくい】(16.0%)は1割台半ばである。

経年でみると、【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として以降4年続けて漸減傾向にあったが、平成27年調査で79.3%と増加に転じ、今回調査でも前回の令和元年調査(81.9%)に近い82.4%と、平成29年以降4年続けて8割を超えている。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、今回の調査では16.0%と、前回の令和元年調査(16.4%)に比べて大きな増減はみられず、平成25年～平成29年の5年間と比べると引き続き低めにとどまる傾向が継続している。

地域別でみると、【暮らしやすい】は第6地域で91.7%と最も高く、次いで第1地域（88.9%）と第7地域（87.1%）が9割弱で続いている。一方、【暮らしにくい】は第8地域が24.8%と最も高く、次いで第3地域（22.9%）と第14地域（22.6%）がともに2割強で続いている。

図1-3-2 地域別／地域の暮らしやすさ



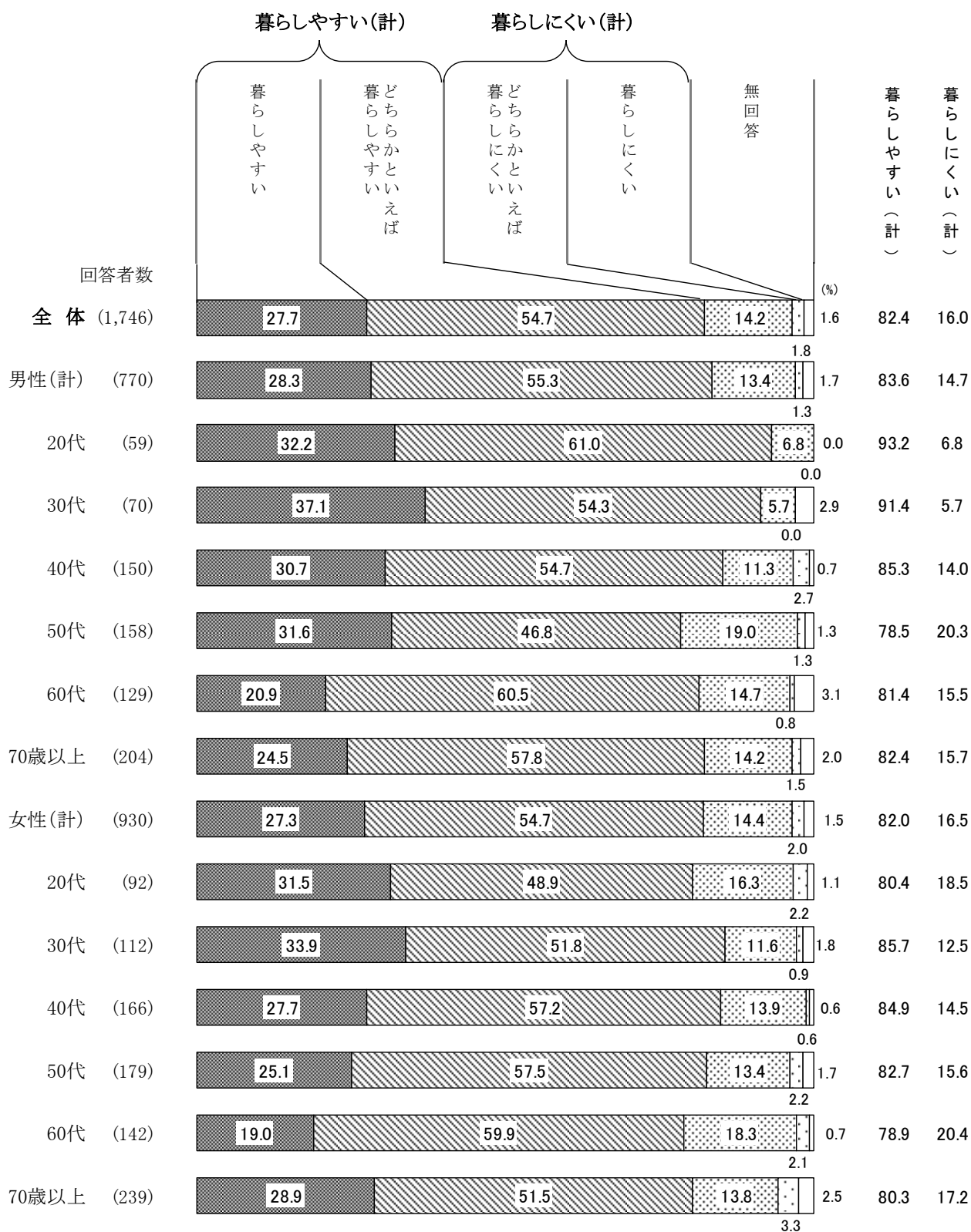
### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

性別でみると【暮らしやすい】は、男性83.6%、女性82.0%となっている。

性・年代別でみると、男性では、【暮らしやすい】は20代（93.2%）と30代（91.4%）で9割を超えて高く、【暮らしにくい】は50代で20.3%と2割を超えて最も高くなっている。

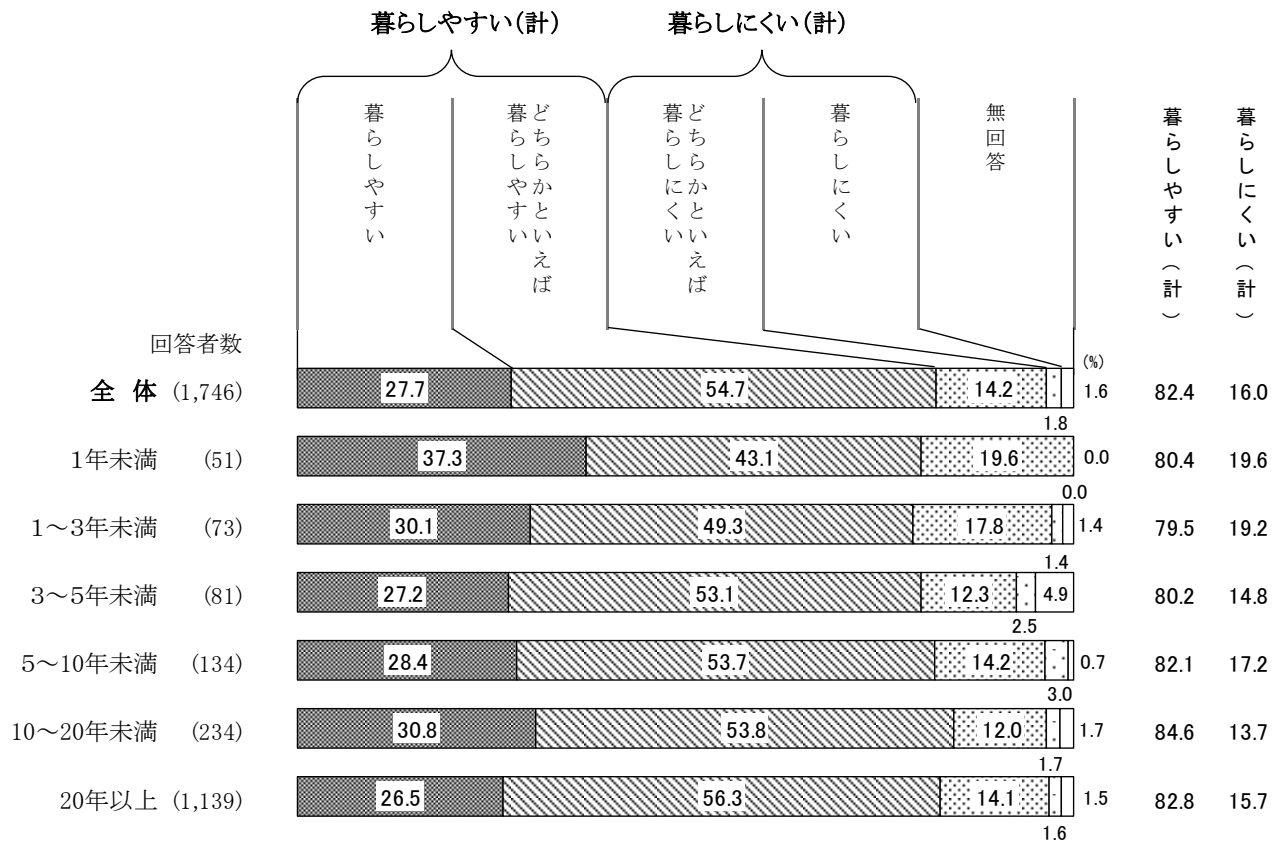
女性では、【暮らしやすい】は30代で85.7%と最も高く、【暮らしにくい】は60代で20.4%と最も高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



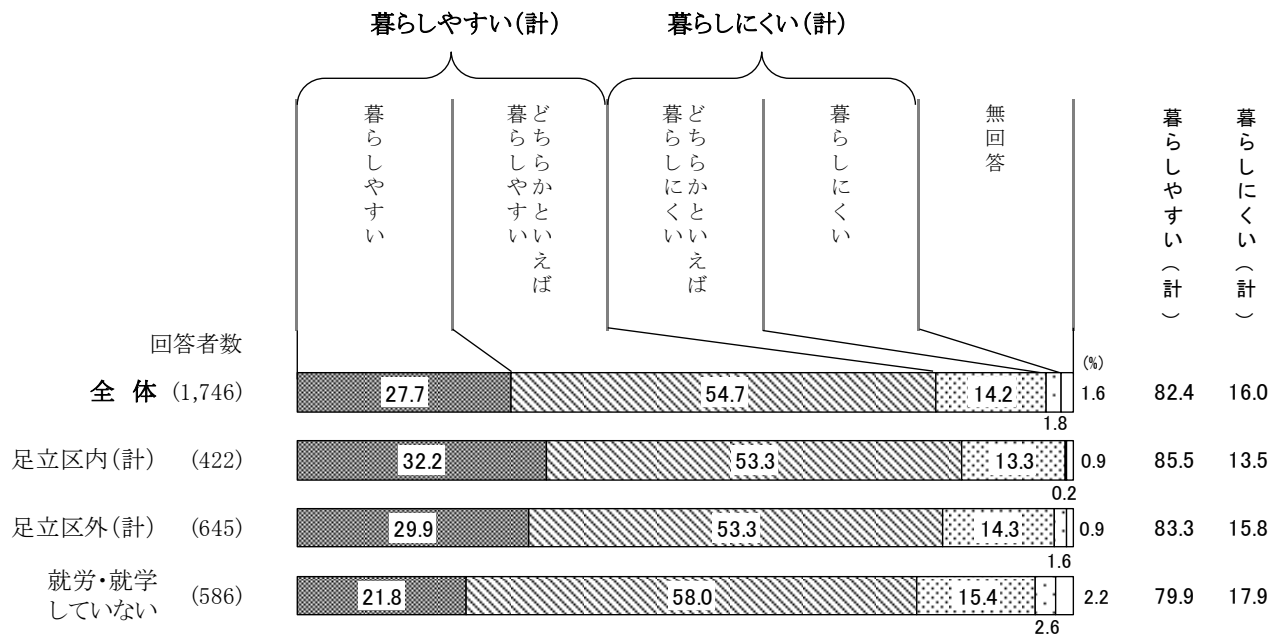
居住年数別でみると、大きな違いはみられない中で、【暮らしにくい】は「1年未満」と「1～3年未満」の両層で2割近くとやや高い傾向がみられる。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



就労・就学場所別にみると、大きな違いはみられない中で、【暮らしやすい】は「就労・就学していない」で最も低めとなっている。

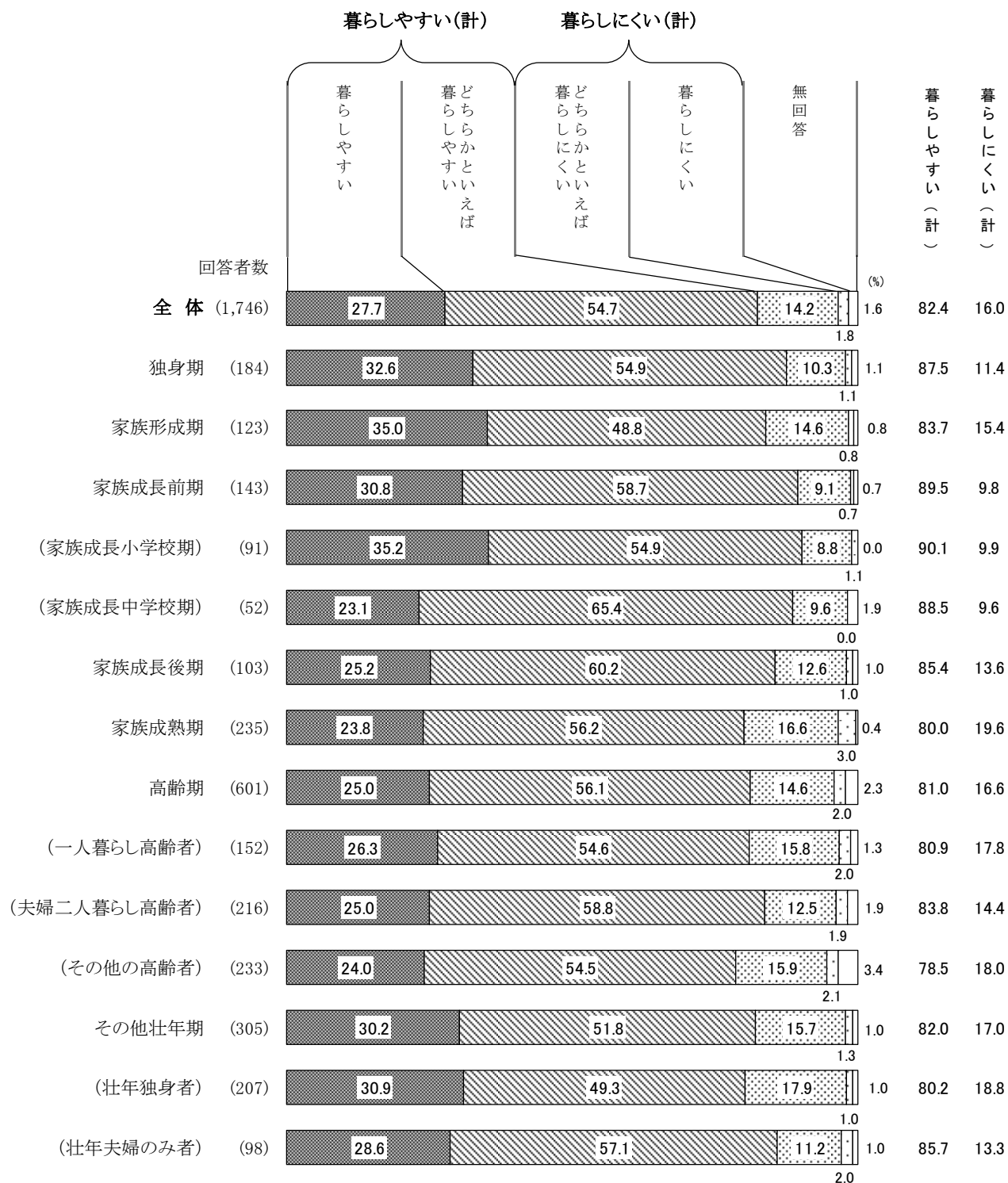
図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

ライフステージ別でみると、いずれのステージでも【暮らしやすい】が8割台と大きな違いはみられないが、中では家族成長前期が89.5%で最も高い。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台半ばで最多、“交通の便の悪さ” が4割強

問3で「3 どちらかといえば暮らしにくい」、または「4 暮らしにくい」とお答えの方に  
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

図1-4-1-① 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

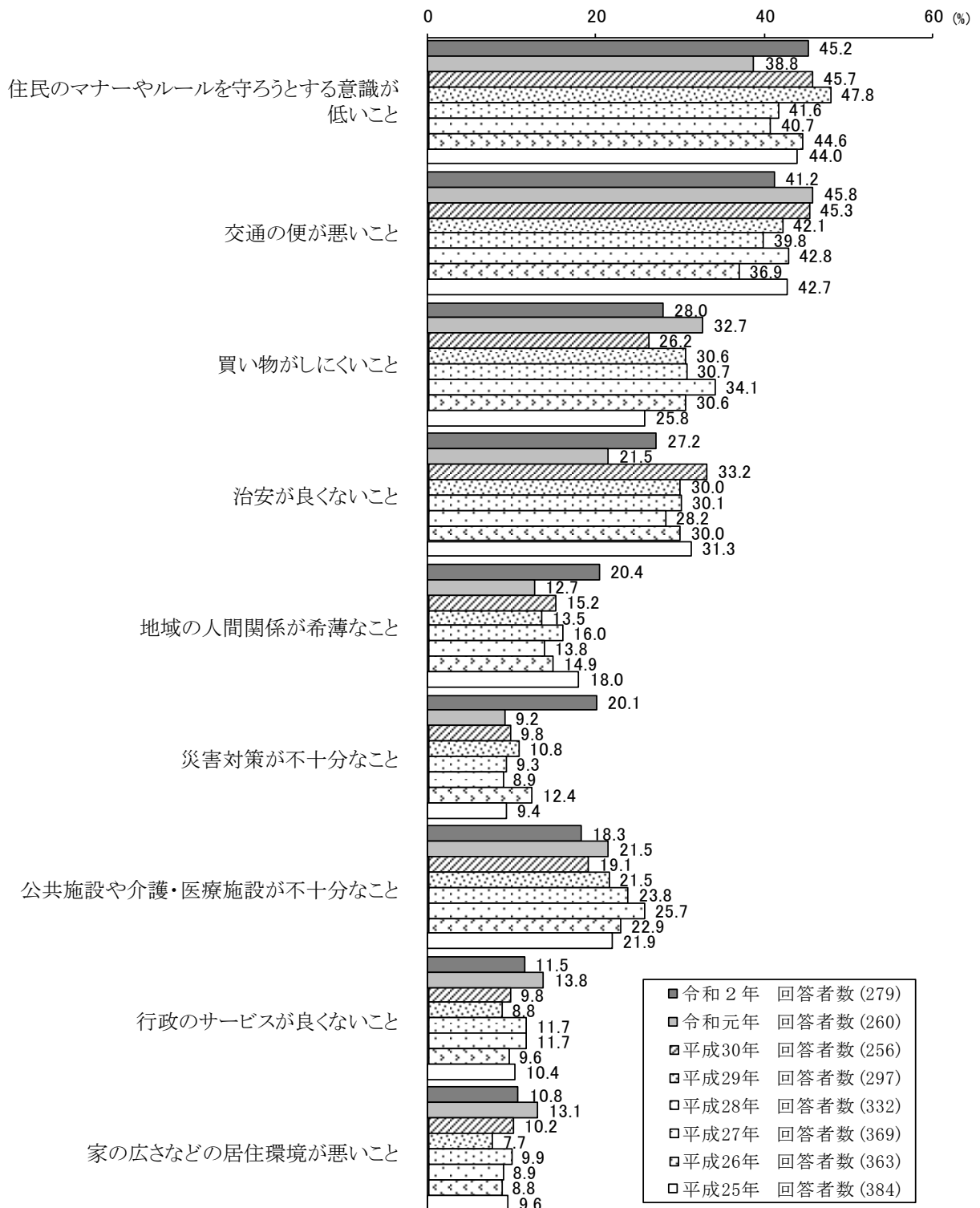
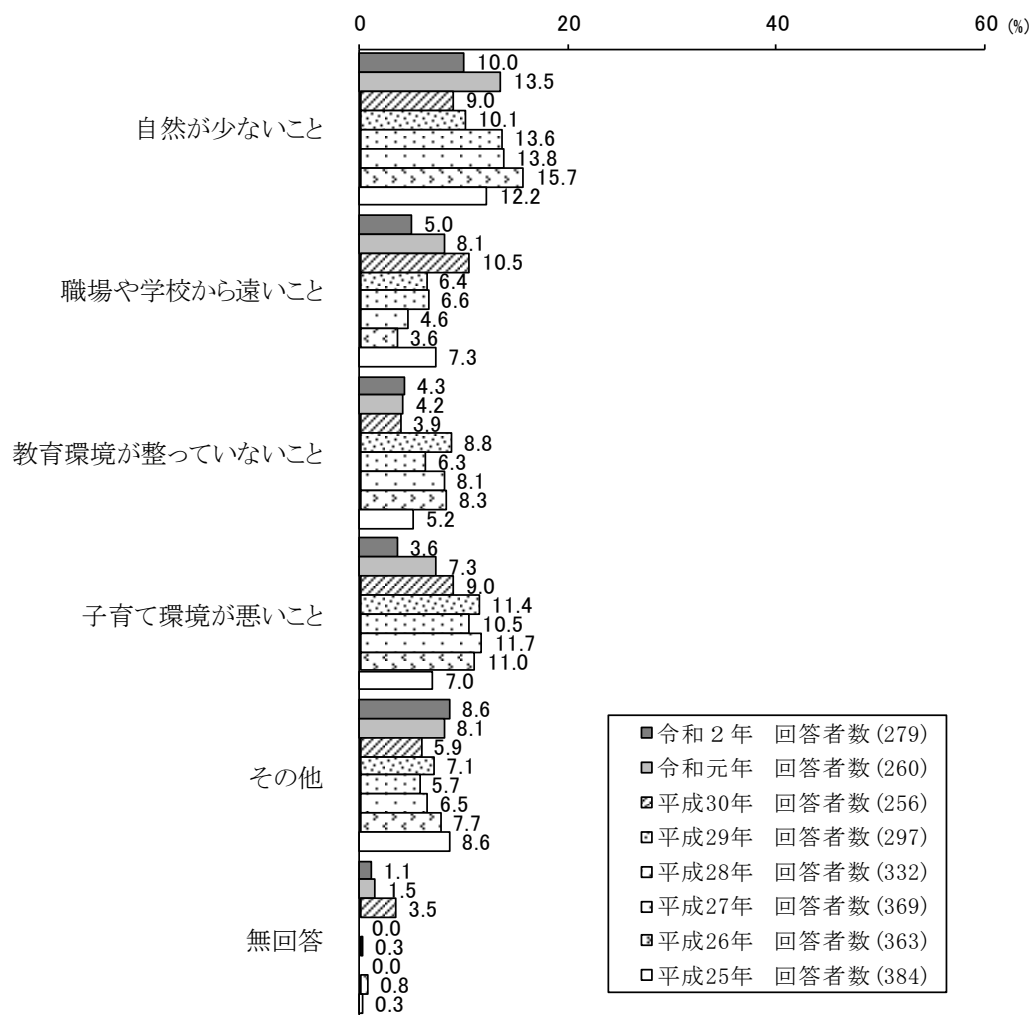


図1-4-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



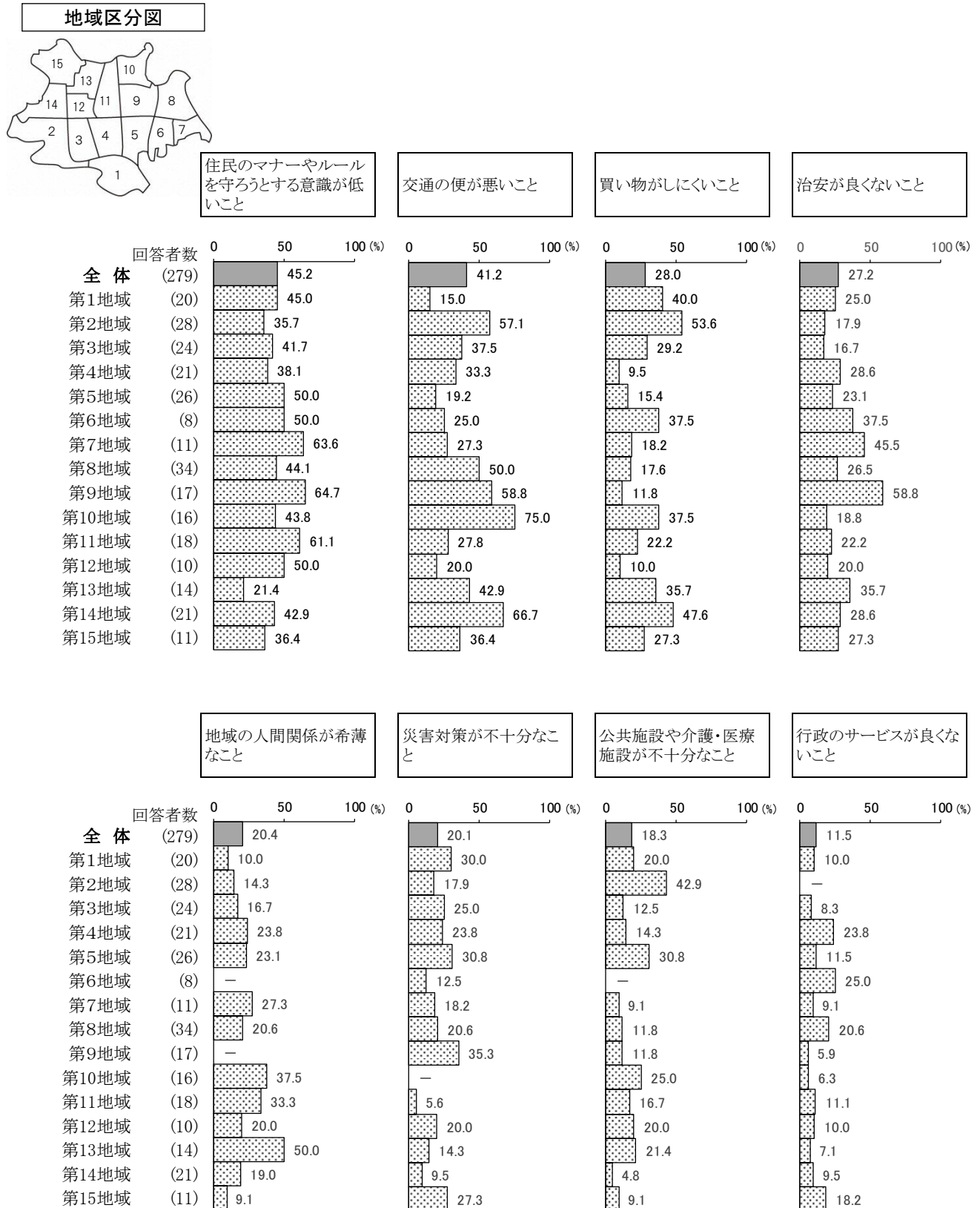
【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（45.2％）が4割台半ばで最も高く、次いで「交通の便が悪いこと」（41.2％）が4割強で続き、「買い物がしにくいこと」（28.0％）と「治安が良くないこと」（27.2％）も3割弱と高くなっている。

上位項目について経年でみると、令和元年調査に比べて、トップの「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と4位の「治安が良くないこと」が6ポイント前後増加しているのに対し、2位の「交通の便が悪いこと」と3位の「買い物がしにくいこと」はそれぞれ5ポイント近く減少している。その中で、「災害対策が不十分なこと」は前回の9.2％から今回20.1％と10.9ポイント増加して、増加幅が最も大きくなっている。



地域別でみると、地域によって回答者数が少ないところがあることから参考値にとどめる必要があるものの、「交通の便が悪いこと」は第10地域で7割台半ば、「治安が良くないこと」は第9地域で6割弱と、それぞれ全地域中最も高くなっている。

図1-4-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

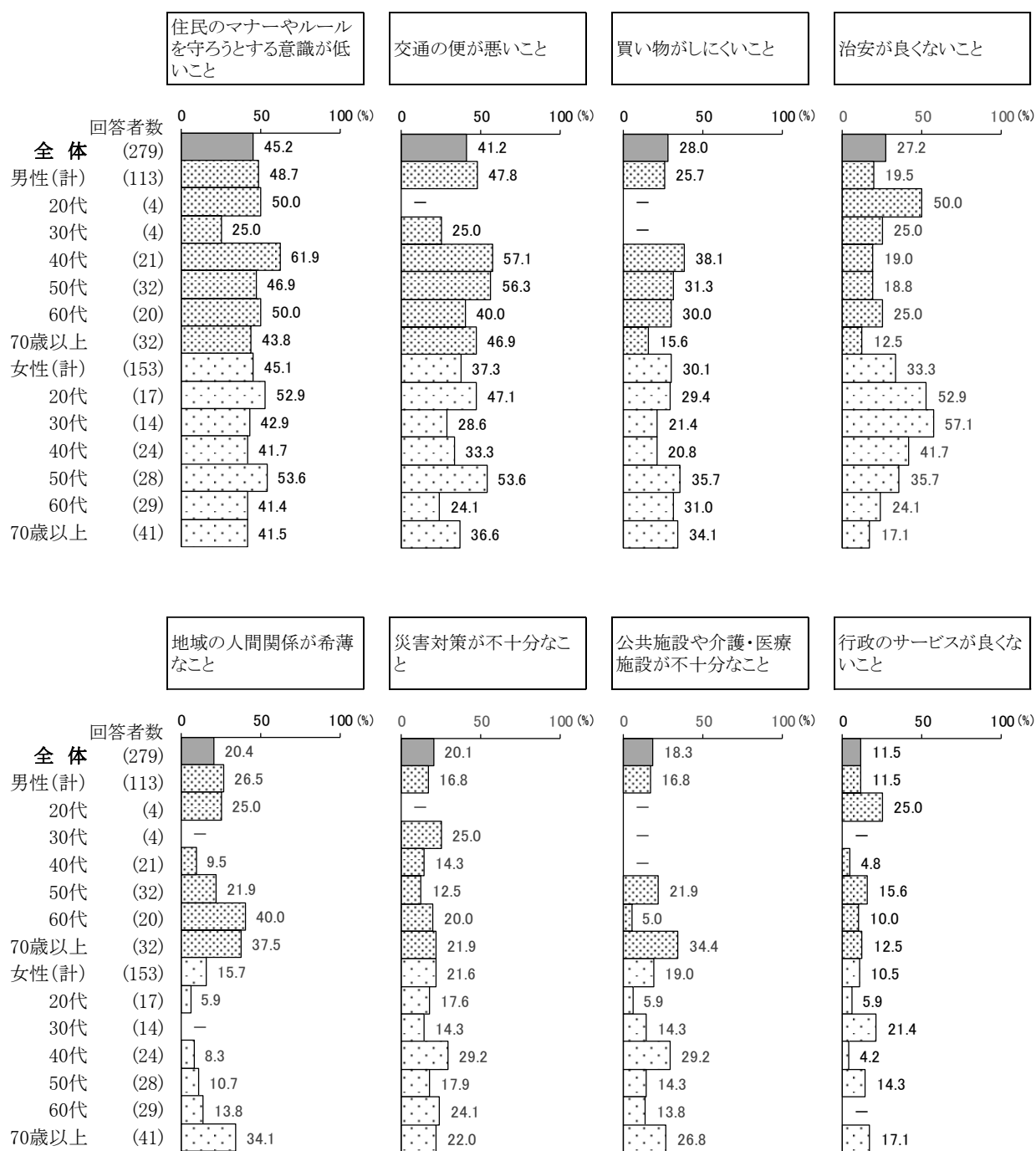


### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

性別でみると、「交通の便が悪いこと」は女性より男性で、「治安が良くないこと」は男性より女性で、それぞれ10ポイント以上高くなっている。

性・年代別でみると、サンプル数が少ない層が多いことからあくまで参考値ながら、性差の大きかった「交通の便が悪いこと」は男性の40代と50代で、「治安が良くないこと」は女性の20代と30代で、それぞれ高めとなっている。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

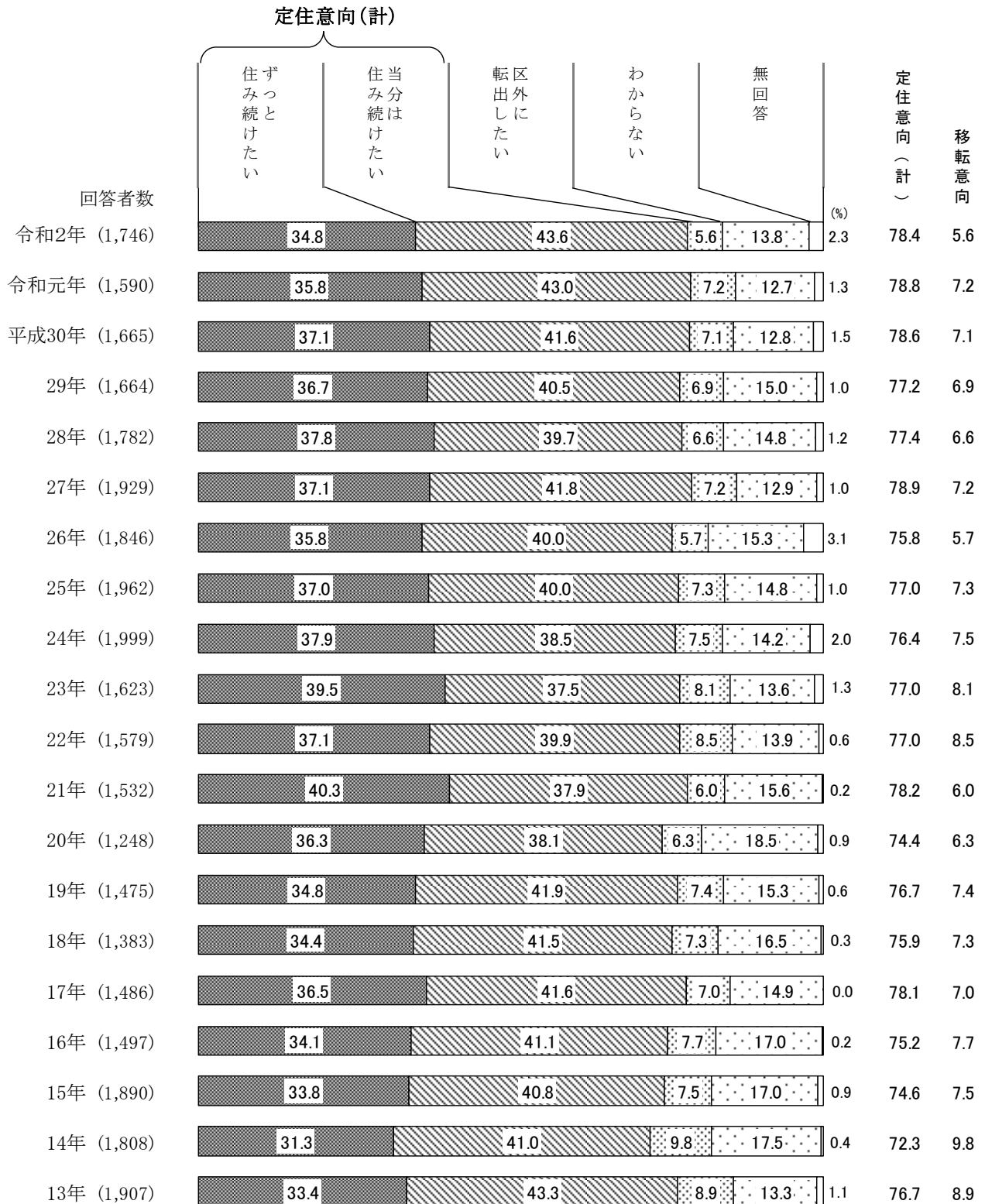


## (5) 定住意向

■【定住意向】がある人は、8割弱で、平成27年以降の最近6年間はほぼ横ばい

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

図1-5-1 経年比較／定住意向



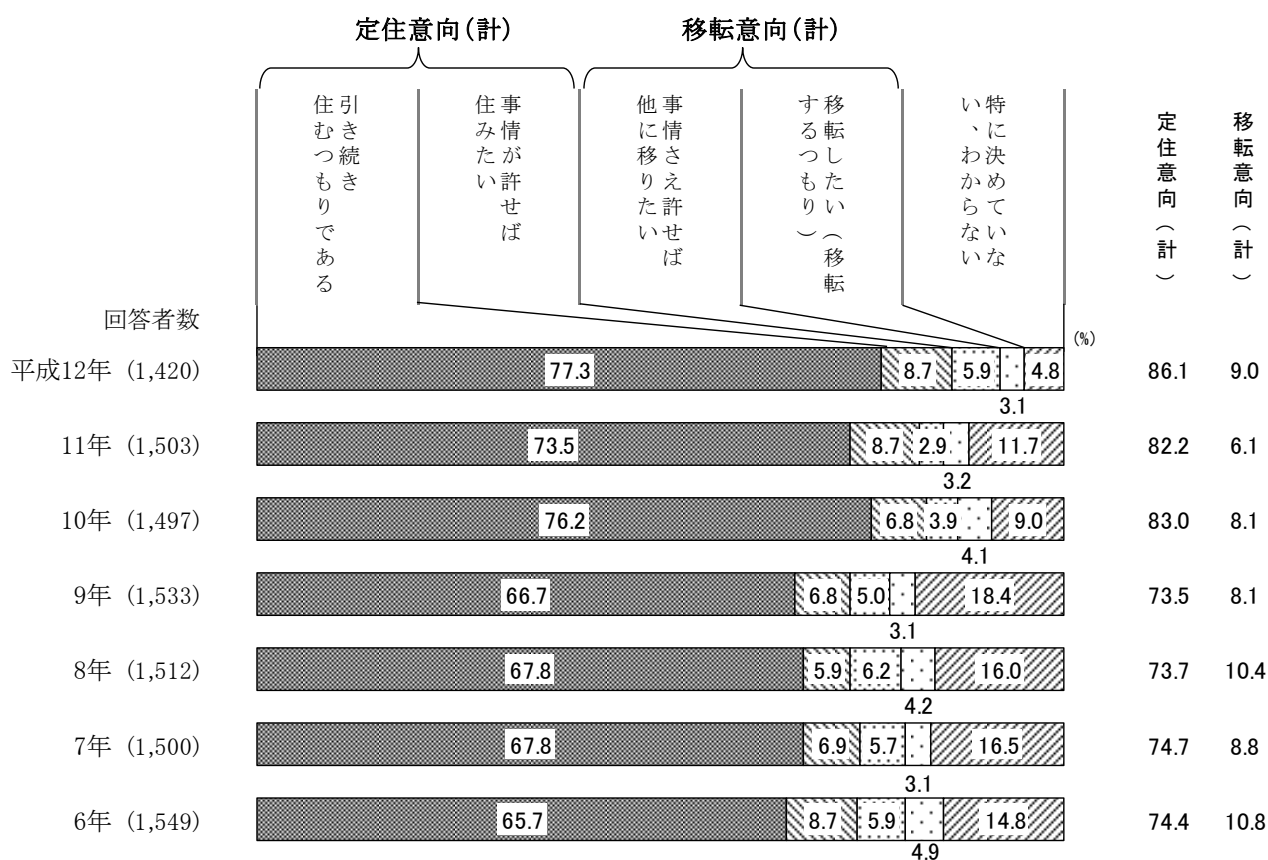
### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は34.8%で、「当分は住み続けたい」(43.6%)を合わせた【定住意向】は78.4%と8割弱を占めている。一方、「区外に転出したい」は5.6%と1割未満である。

経年でみると、現行の選択肢となった平成13年以降、大きな変動はみられないが、今回の【定住意向】は78.4%と、平成30年以降3年続けてほぼ同レベルとなっている。

#### 参考／定住・移転意向の推移

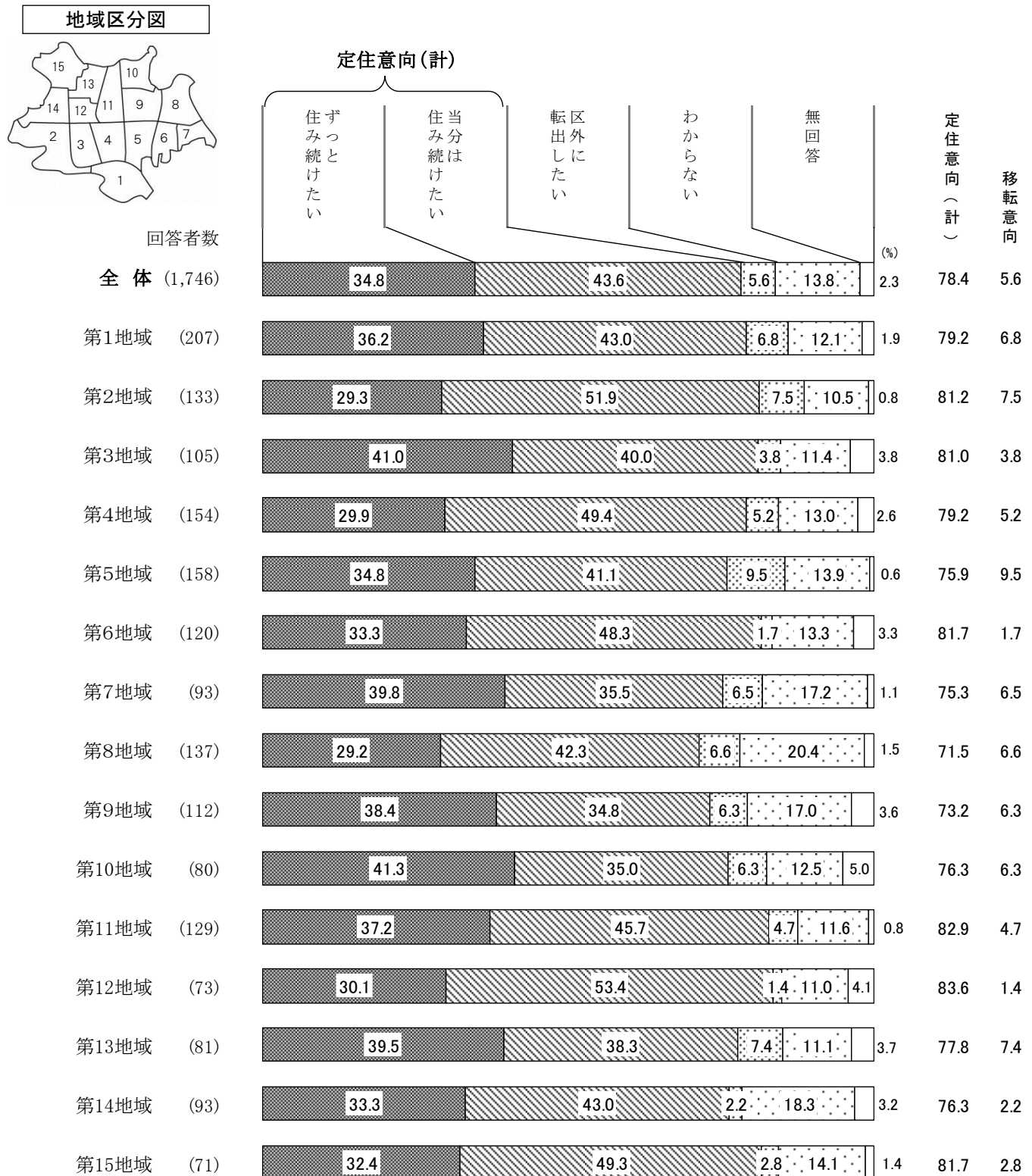
問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。  
(○は1つ)



※ 平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域別でみると、【定住意向】は第12地域で83.6%と最も高く、次いで第11地域が82.9%が続くが、第2地域、第3地域、第6地域、第15地域も僅差の81%台で並んでいる。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第5地域で9.5%と最も高い。

図1-5-2 地域別／定住意向

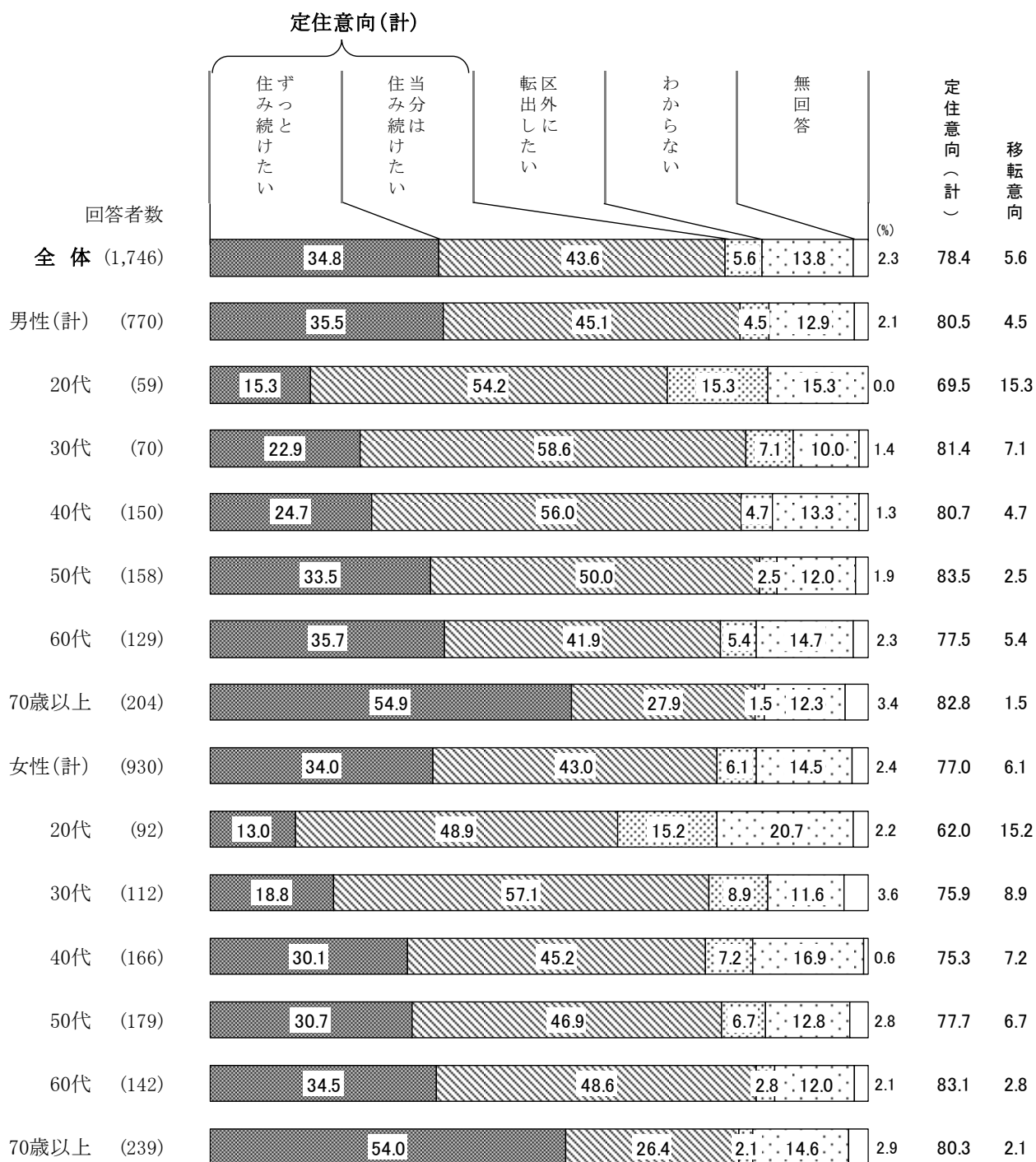


### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

性別でみると、【定住意向】は、男性80.5%、女性77.0%となっている。

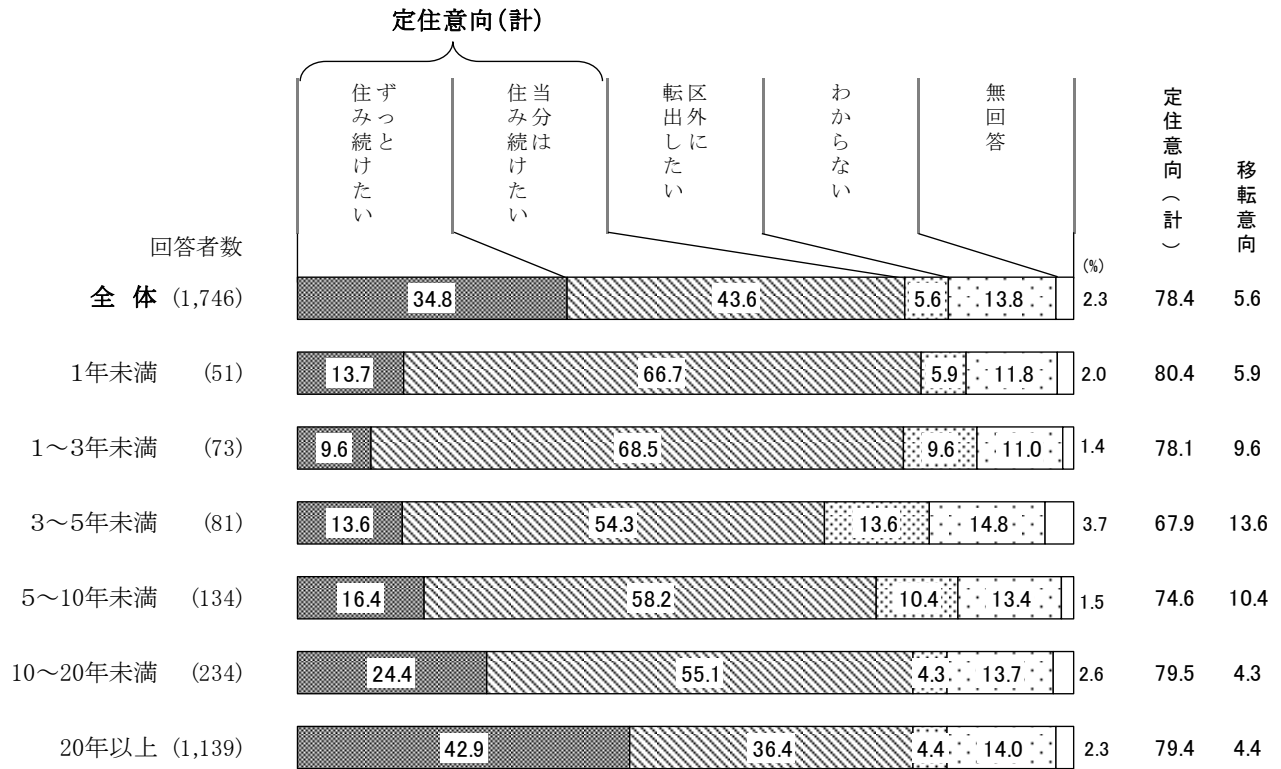
性・年代別でみると、【定住意向】は、男性では50代が83.5%で、女性では60代が83.1%でともに最も高く、男女ともに20代（男性69.5%、女性62.0%）で低くなっている。

図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



居住年数別でみると、【定住意向】は1年未満（80.4%）と10～20年未満（79.5%）、20年以上（79.4%）の3層で8割前後と高く、3～5年未満（67.9%）で7割弱と低くなっており、居住年数の長短による一定の傾向はみられない。

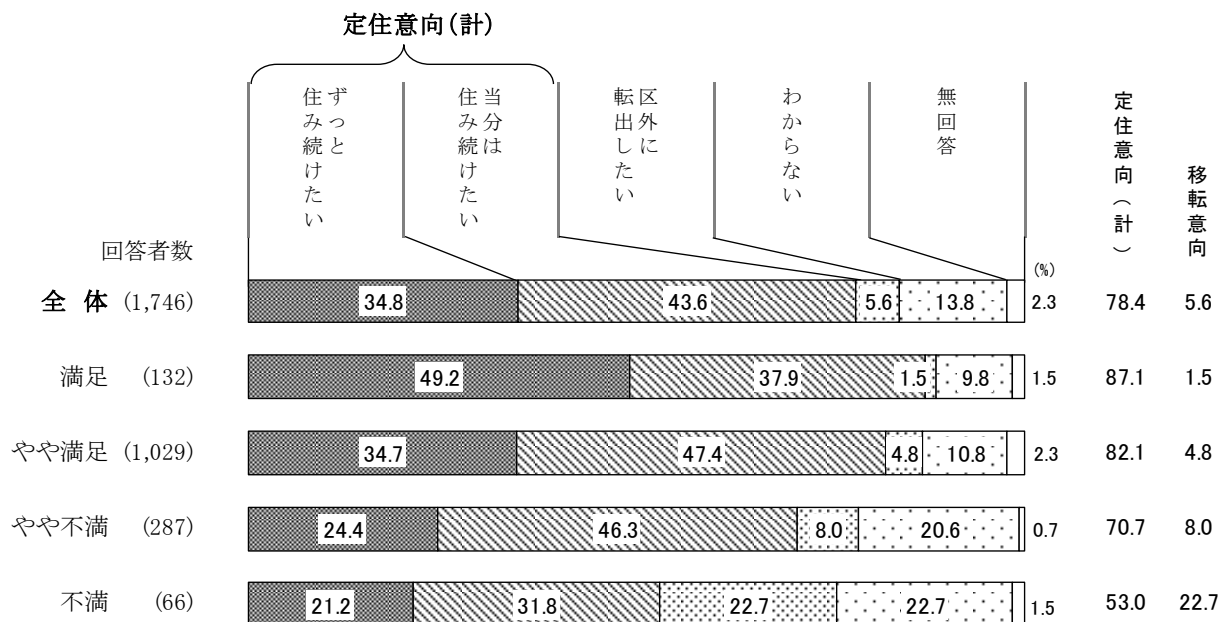
図1-5-4 居住年数別／定住意向



### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

区政への満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では87.1%と9割弱となっている。一方で、不満という層では【移転意向】(22.7%)が2割強と高くなっている。

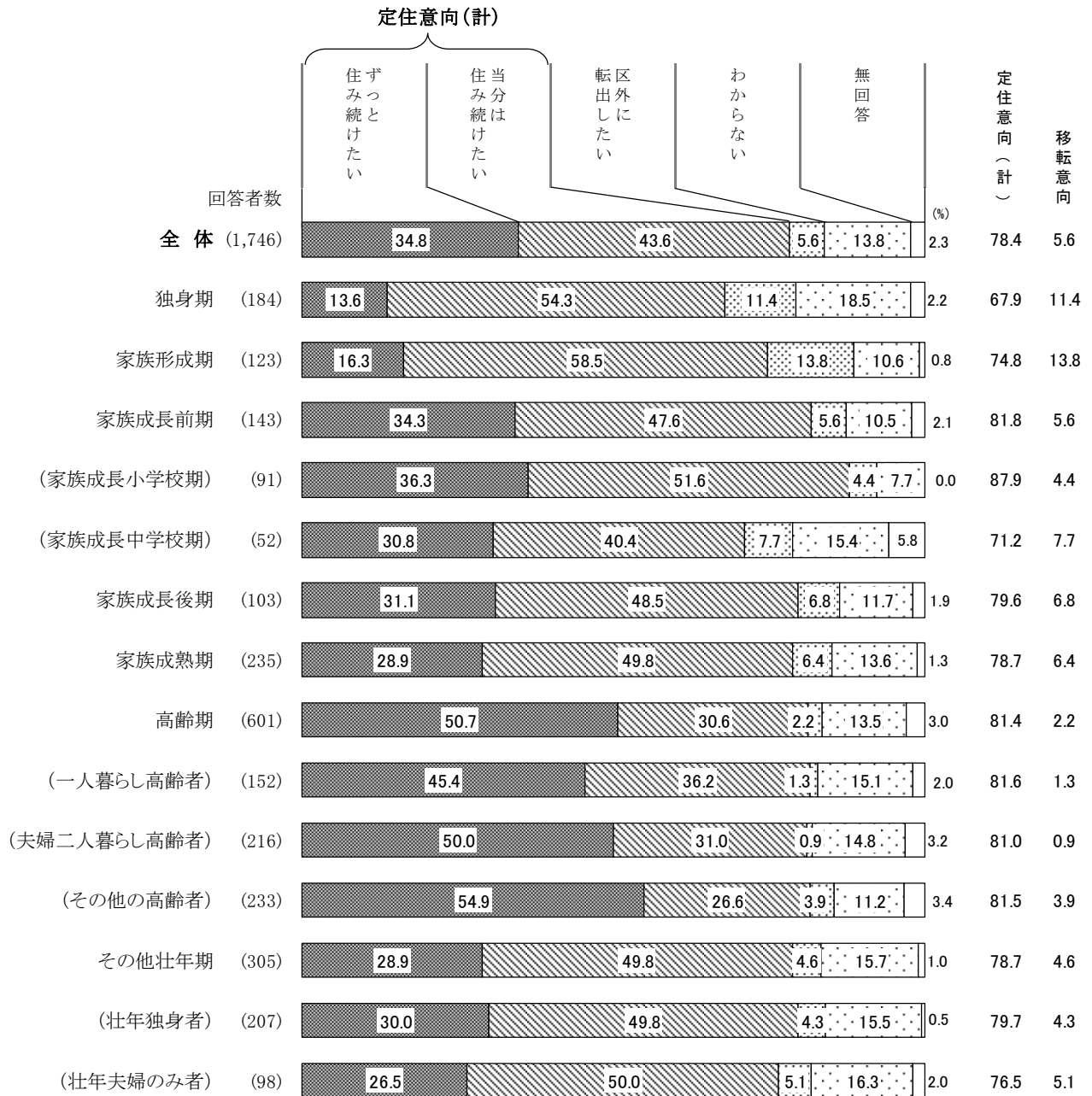
図1-5-5 区政満足度別／定住意向





ライフステージ別でみると、【定住意向】は家族成長前期で81.8%と最も高く、高齢期（81.4%）家族成長後期（79.6%）の両層も8割前後で高めとなっているが、独身期（67.9%）では7割弱と最も低くなっている。

図1-5-6 ライフステージ別／定住意向





## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 災害発生時の水や食料の確保
  - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
  - (6) 対策をしていない理由
  - (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
  - (8) 避難場所の認知経路
  - (9) 大規模災害時の避難生活場所
  - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-



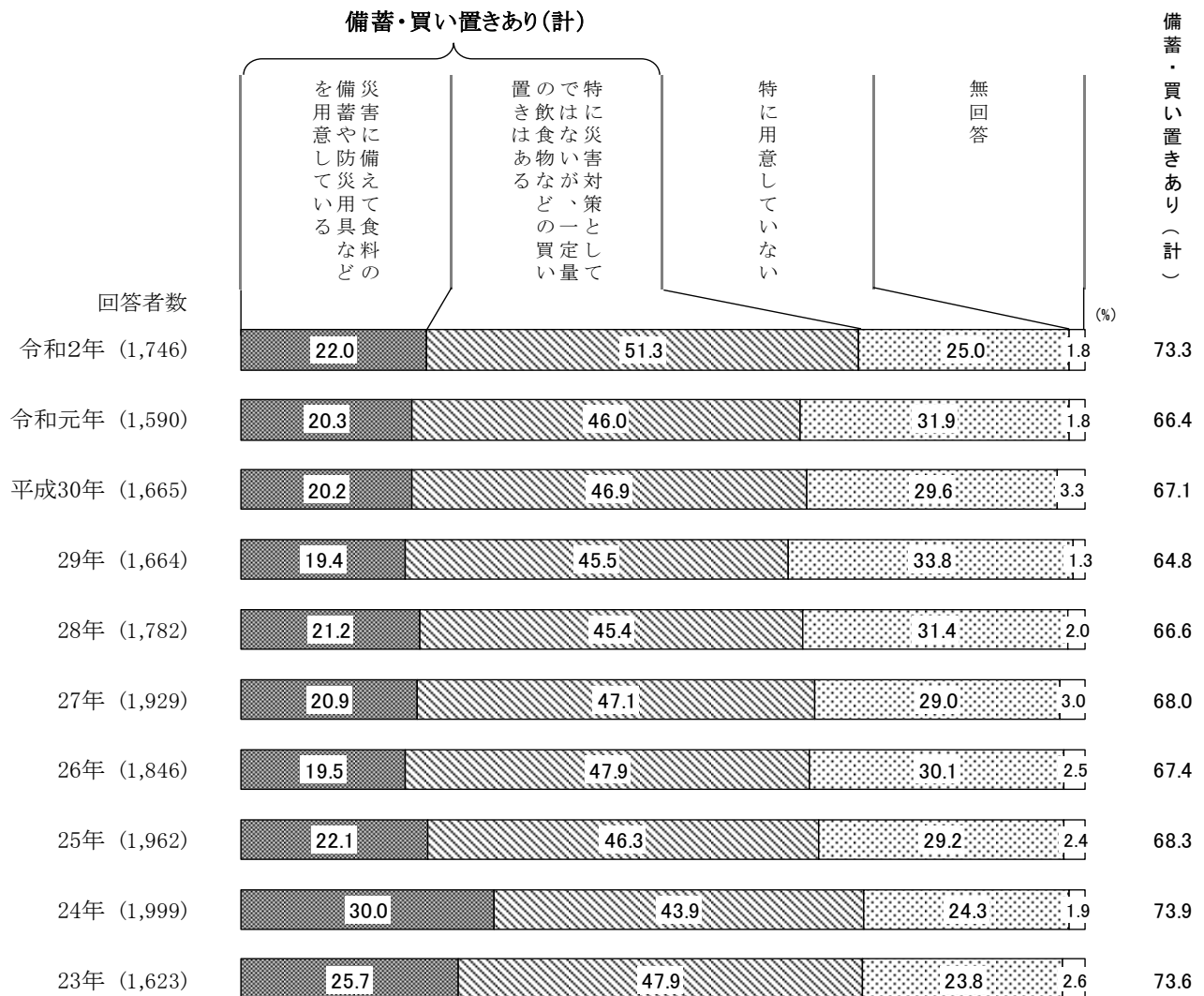
## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 備蓄や防災用具などの用意

#### ■ 備蓄・買い置きを用意している人は、4人に3人近くの割合

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.0%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が51.3%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は73.3%となっている。一方、「特に用意していない」は25.0%となっている。

経年でみると、前回より1.7ポイント増の「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」と5.3ポイント増の「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は今回73.3%と、令和元年調査（66.4%）に比べて6.9ポイント増加している。

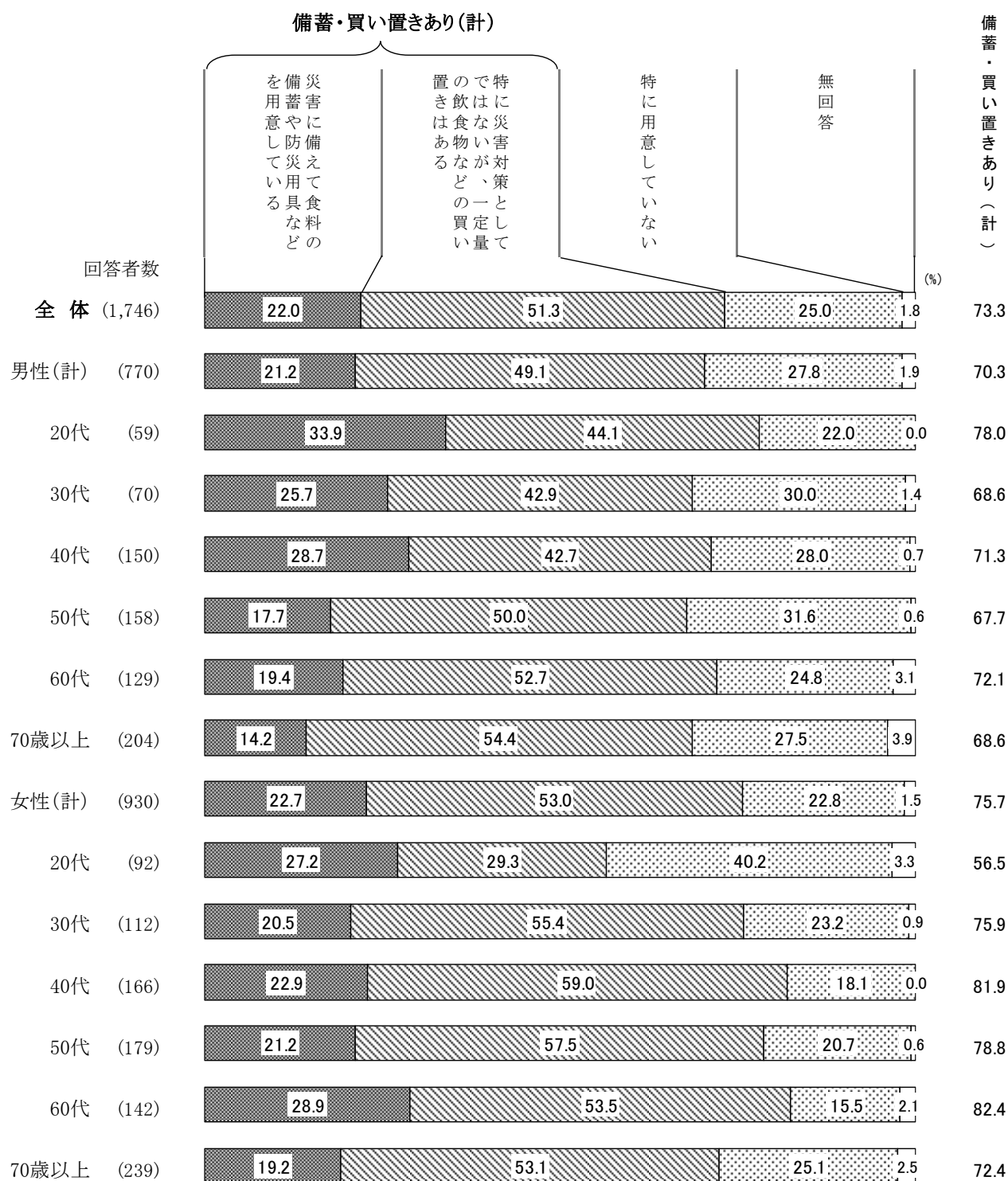
### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が75.7%と、男性（70.3%）より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では20代で【備蓄・買い置きあり】が78.0%と最も高くなっている。

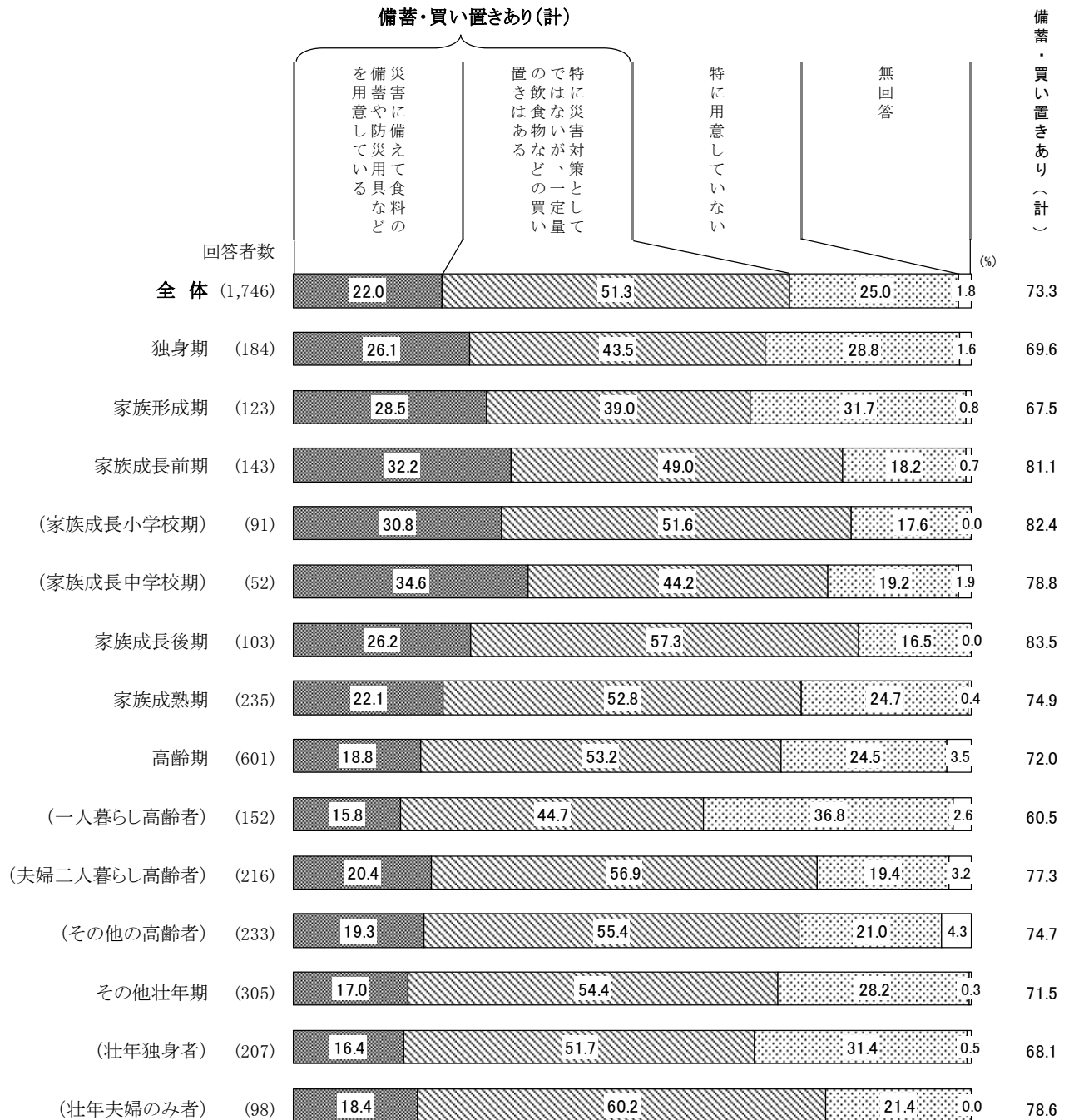
女性では、60代で【備蓄・買い置きあり】が82.4%と高くなっている。一方、20代で「特に用意していない」が40.2%と他の年代に比べて高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長後期で83.5%と最も高く、家族成長前期（81.1%）がこれに続くが、家族形成期では67.5%で最も低くなっている。

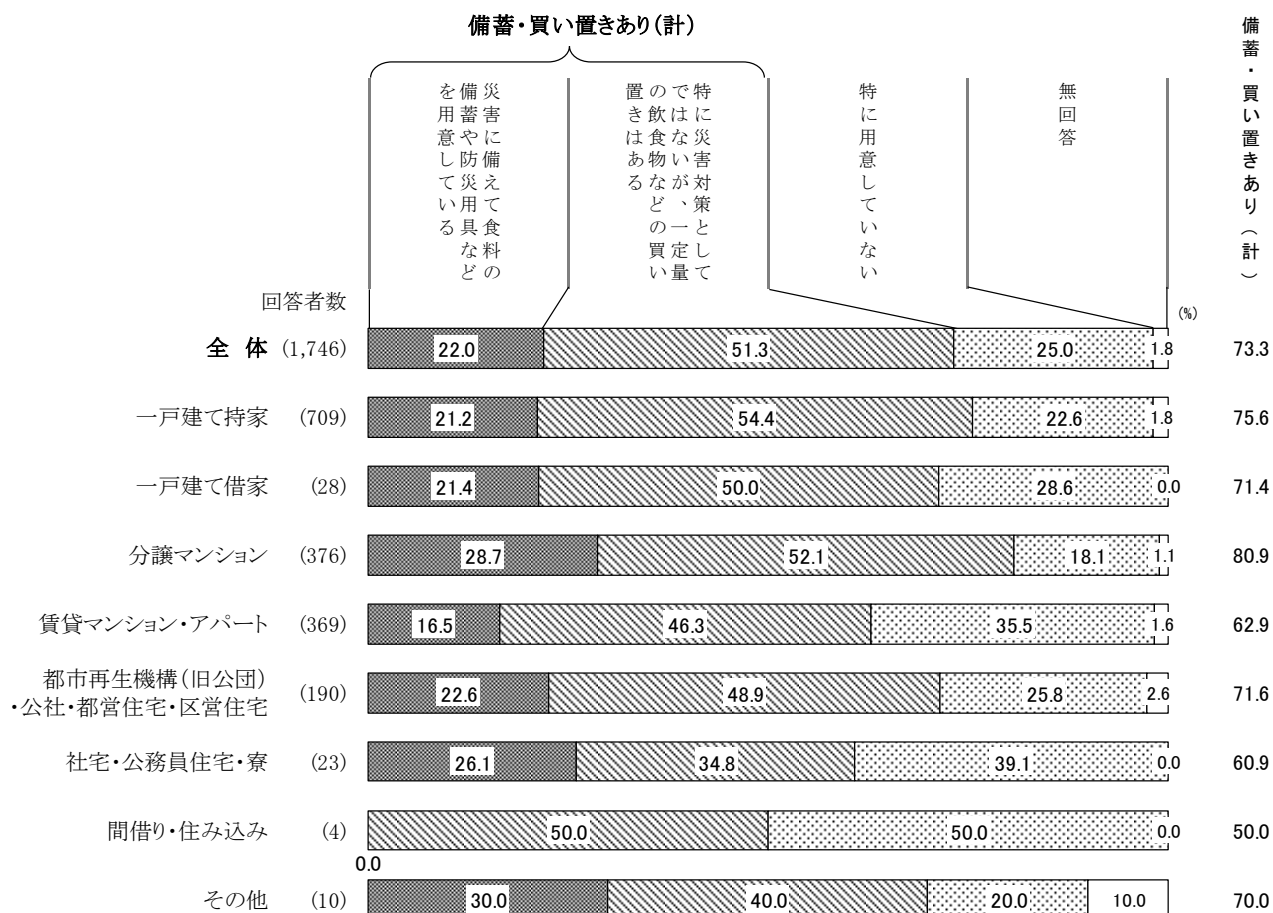
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、分譲マンションでは【備蓄・買い置きあり】が80.9%と、他の住居形態に比べて高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「特に用意していない」が35.5%と高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■「水」が8割台半ば、「あかり」と「食料」が8割を超えて並んで上位

問5で「1 災害に備えて～」、または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5－1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

(○はあてはまるものすべて)。

図2－2－1－① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

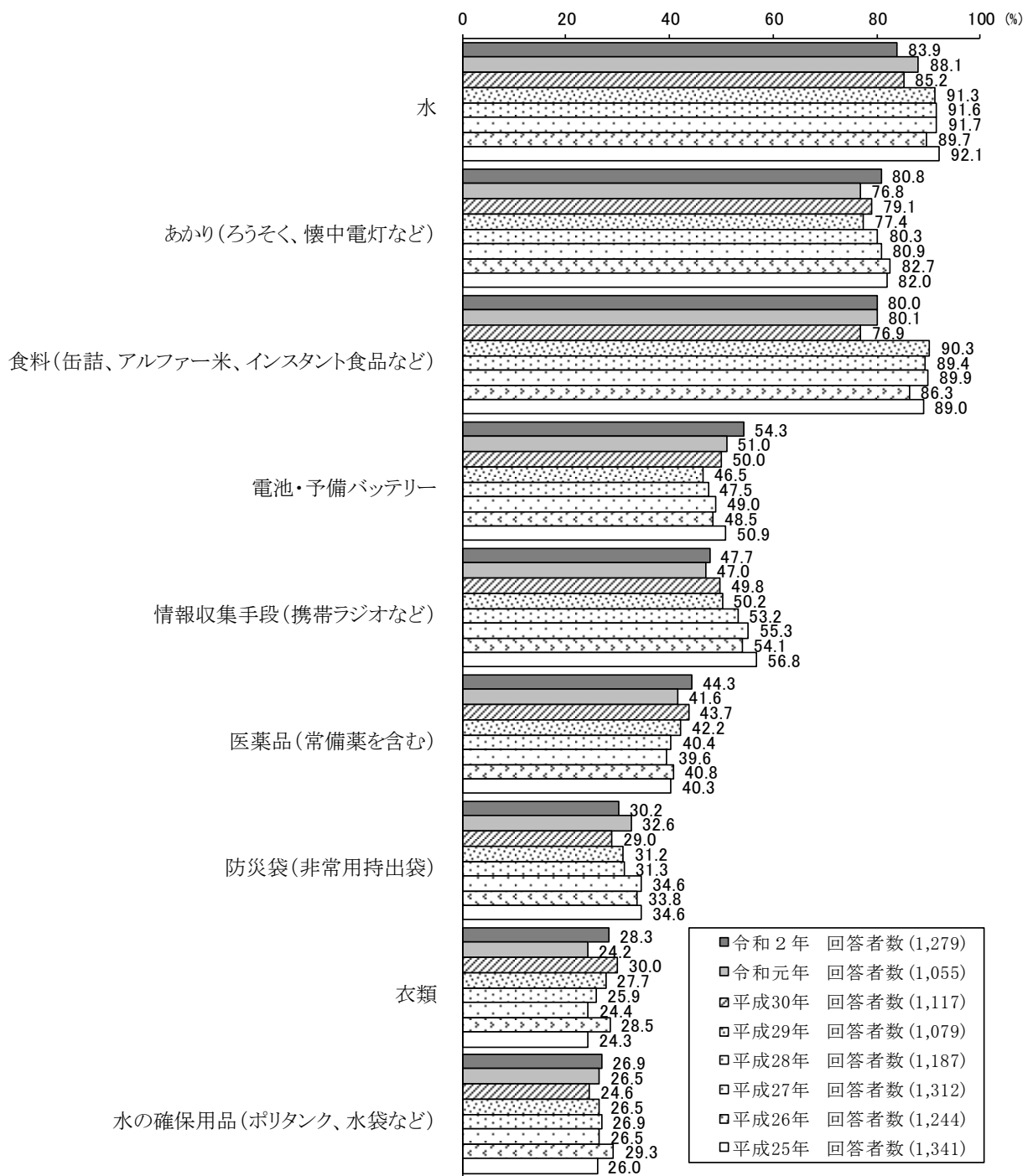
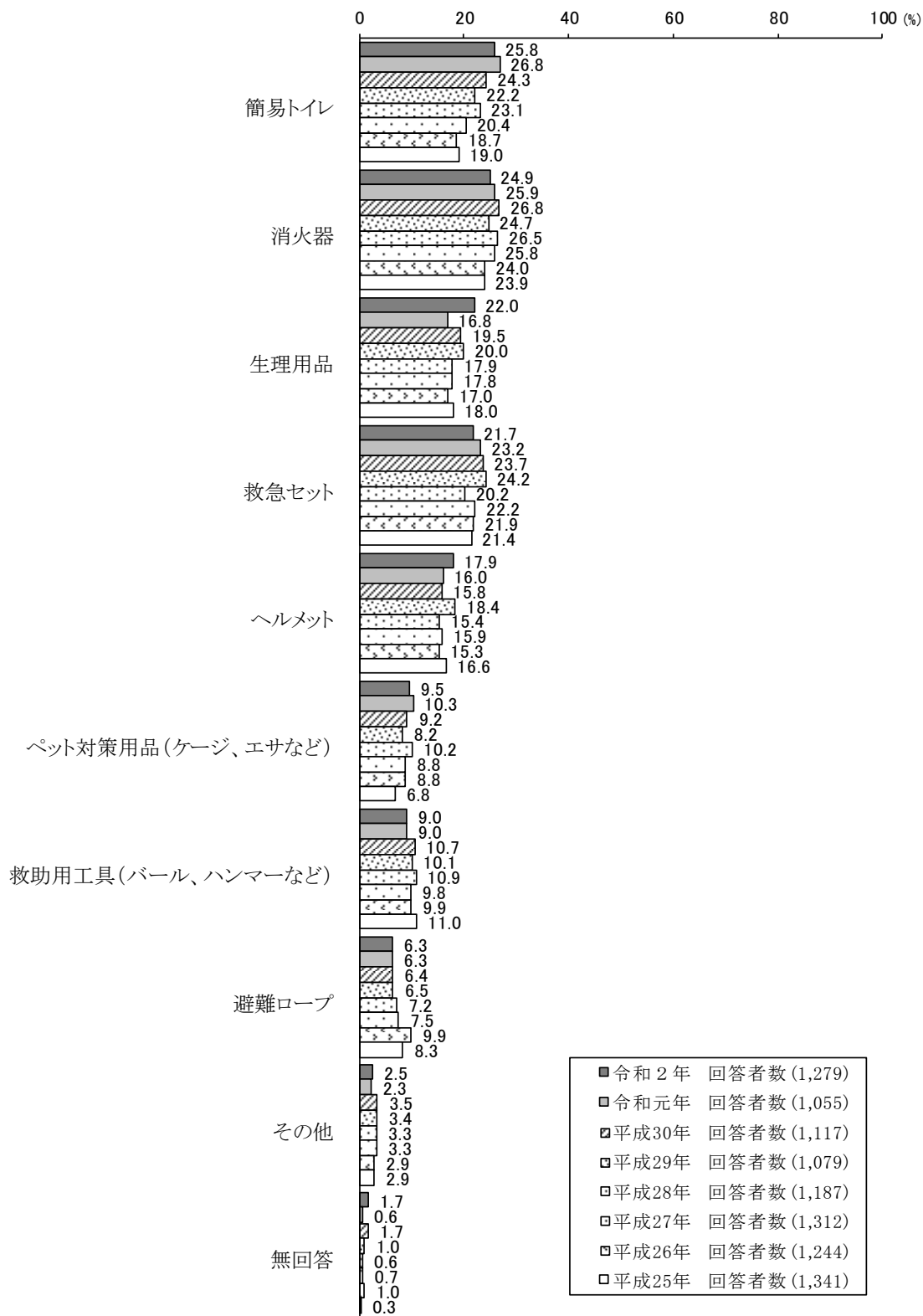


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聴いたところ、「水」が83.9%で最も高く、以下「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（80.8%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（80.0%）の順となっている。

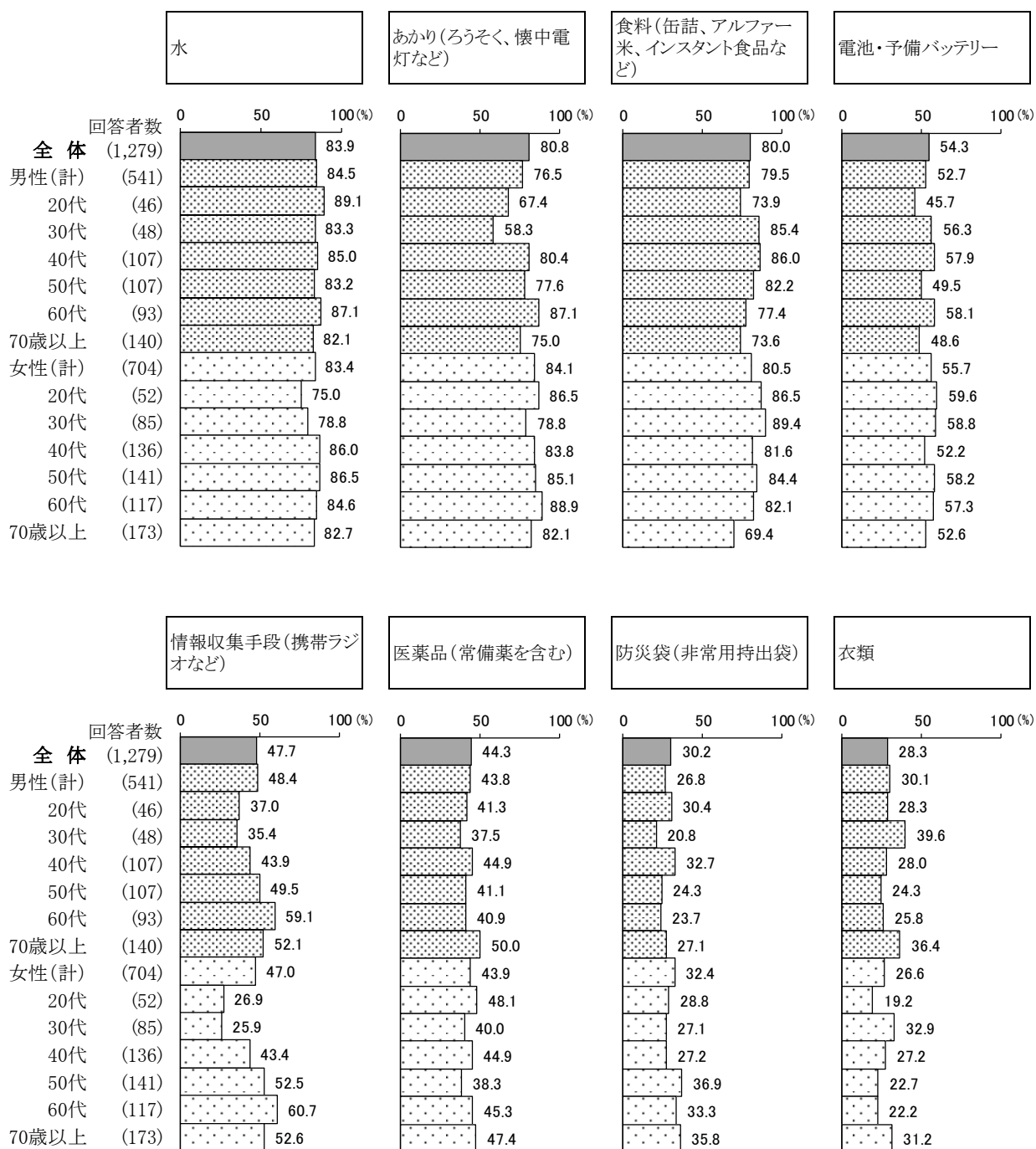
経年でみると、平成25年から前回令和元年までの調査と同様に、「水」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」が上位3項目に挙げられるものの、今回の調査では「水」（83.9%）は前回に比べて4.2ポイント減少、「あかり」（80.8%）は逆に前回より4.0ポイント増加して、前回（80.1%）とほとんど変わらない「食料」（80.0%）を僅かに上回って2位に順位を戻している。

### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

上位項目を中心に、性別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」では男女で大きな違いはみられないが「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」では女性（84.1%）の方が男性（76.5%）より7.6ポイント高くなっている。

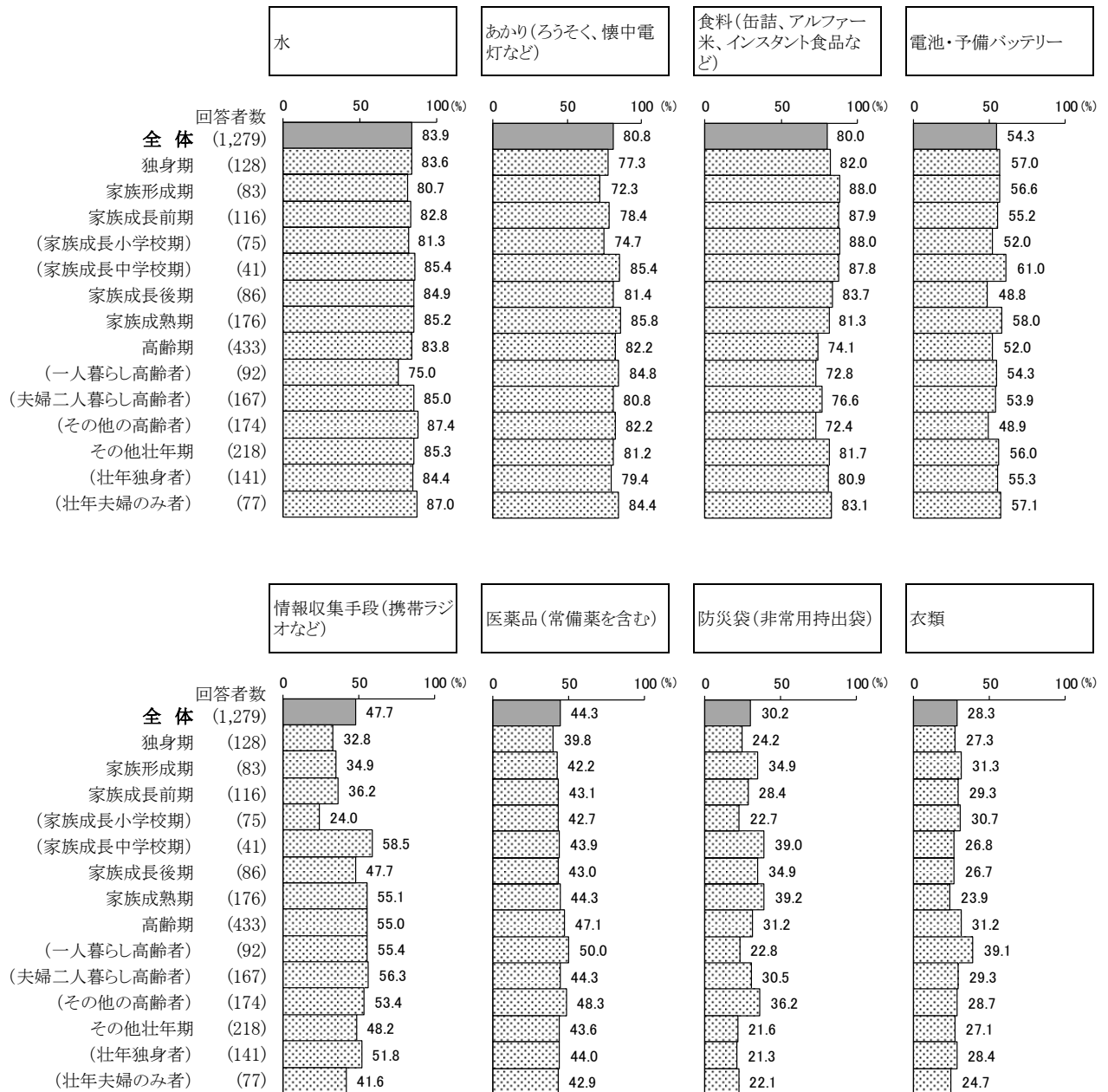
性・年代別でみると、男性では、「あかり」は30代や20代で低めな一方、「食料」は30代や40代で高めとなっており、「情報収集手段」は60代で6割弱と最も高くなっている。一方、女性では、「食料」で70歳以上が約7割と低く、「情報収集手段」は20代と30代で低くなっている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、上位項目に大きな違いがみられないが、「情報収集手段」は家族成熟期と高齢期で5割台半ばと高いのに対し、独身期、家族形成期、家族成長前期の3層では3割強から3割台半ばにとどまり、ライフステージ別の格差がみられる項目となっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



### (3) 備蓄量

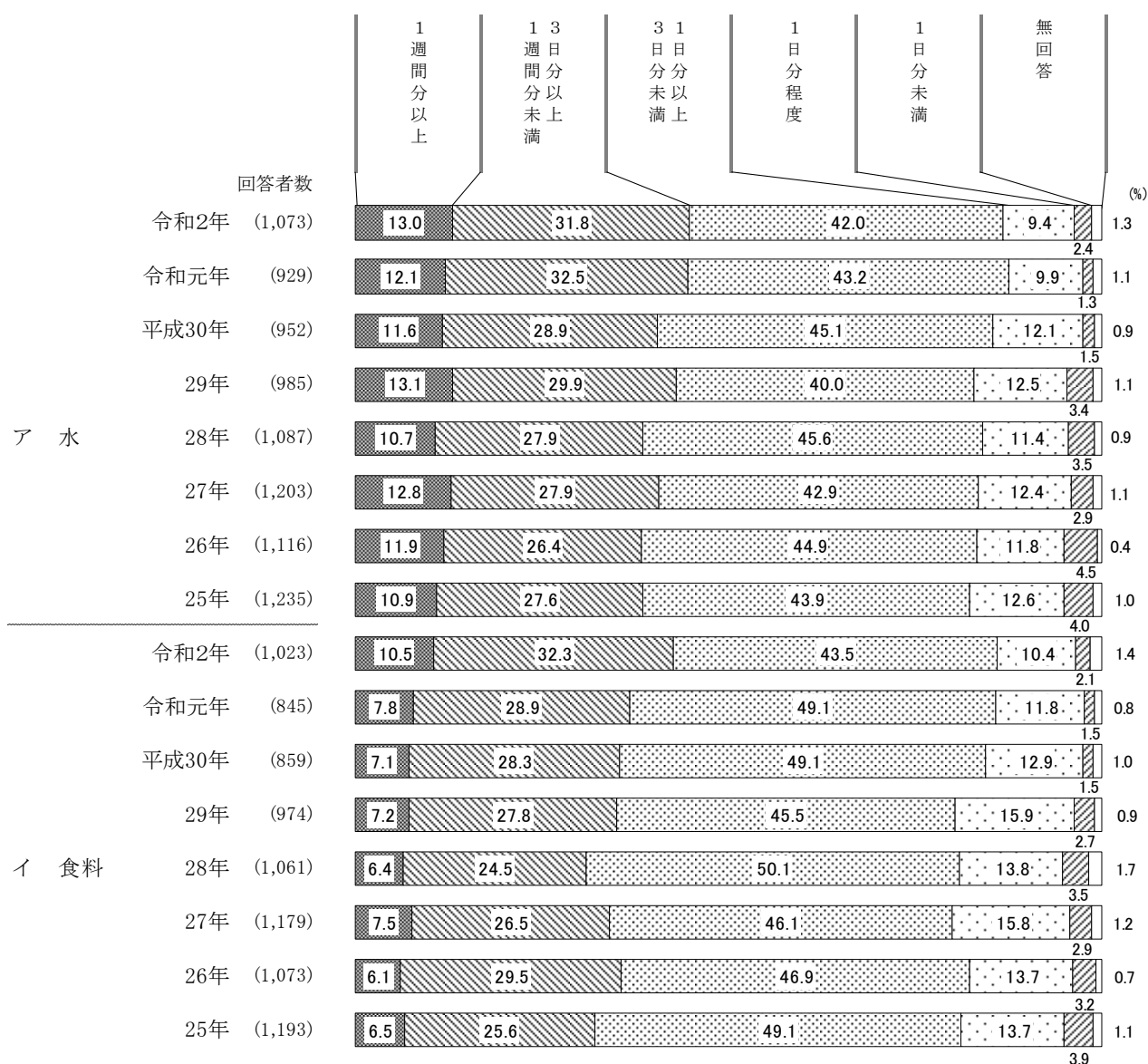
■ 備蓄ありの人の中で、3日分以上の備蓄ありは、〈水〉で4割台半ば、〈食料〉で4割強

問5-1で「1 水」、または「2 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。  
「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



「水」か「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」を備蓄している人に、それぞれの備蓄量を聞いたところ、〈水〉については「1日分以上3日分未満」が42.0%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（31.8%）となっている。

一方、〈食料〉については「1日分以上3日分未満」が43.5%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（32.3%）となっている。

経年でみると、「1日分以上3日分未満」は、前回の令和元年に比べて、〈食料〉では5.6ポイント減少、〈水〉では1.2ポイント減少している。一方、「1週間分以上」と「3日分以上1週間分未満」を合わせた【3日分以上の備蓄を持つ人】は前回より、〈食料〉では6.1ポイント増加し、〈水〉でも0.2ポイントながら増加している。

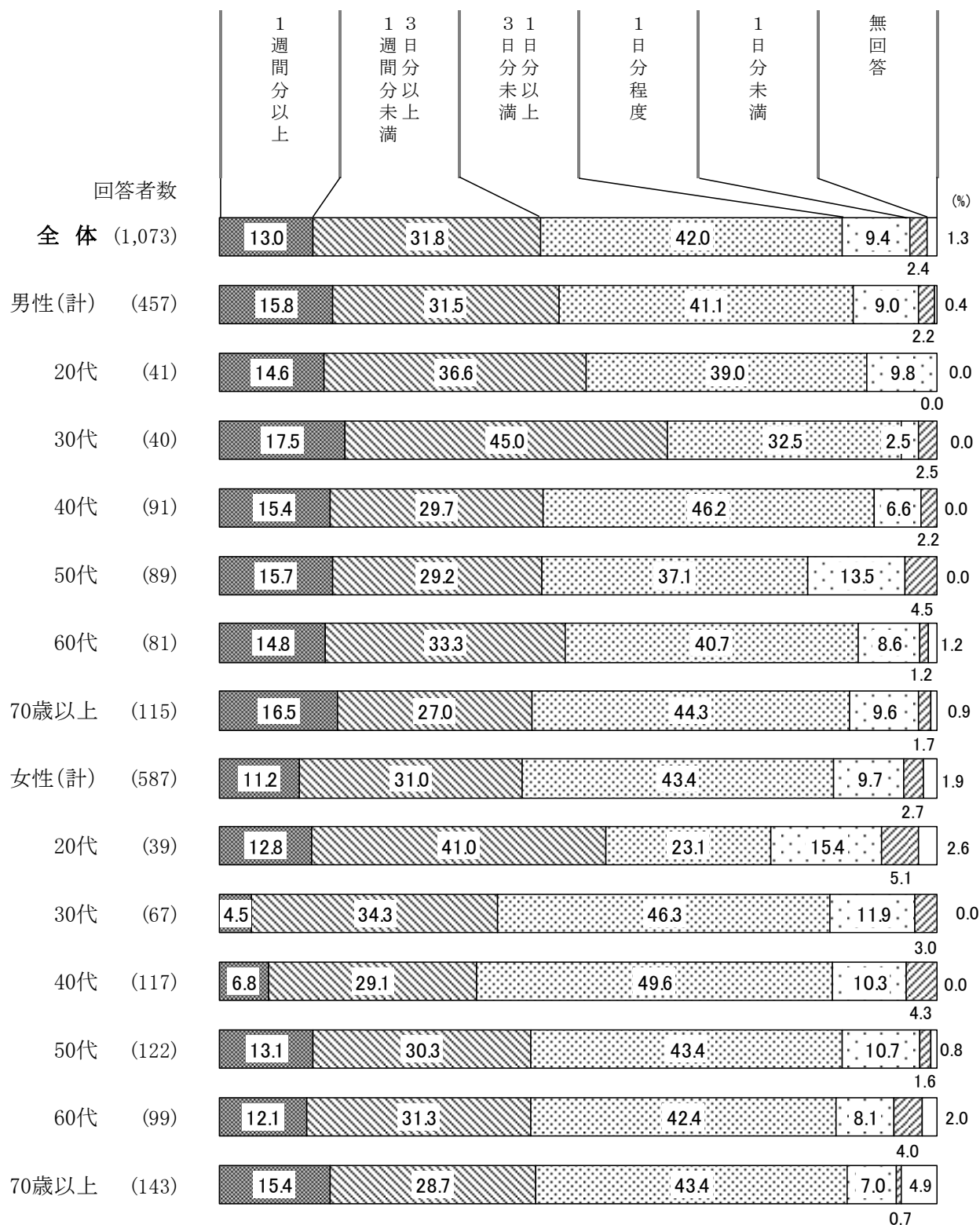
### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、40代と70歳以上で「1日分以上3日分未満」が4割台半ばと多く、3日分以上の備蓄を持つ人の割合を上回っているのを除くと、他の年代層では3日分以上の備蓄を持つ人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っており、中でも30代で6割強と高い。

女性では、50代以上の3年代層では3日分以上の備蓄を持つ人の割合と「1日分以上3日分未満」の割合がそれぞれ4割強ずつで拮抗しているが、20代では3日分以上の備蓄を持つ人の割合の方が高く、30代と40代では「1日分以上3日分未満」の割合の方が高くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

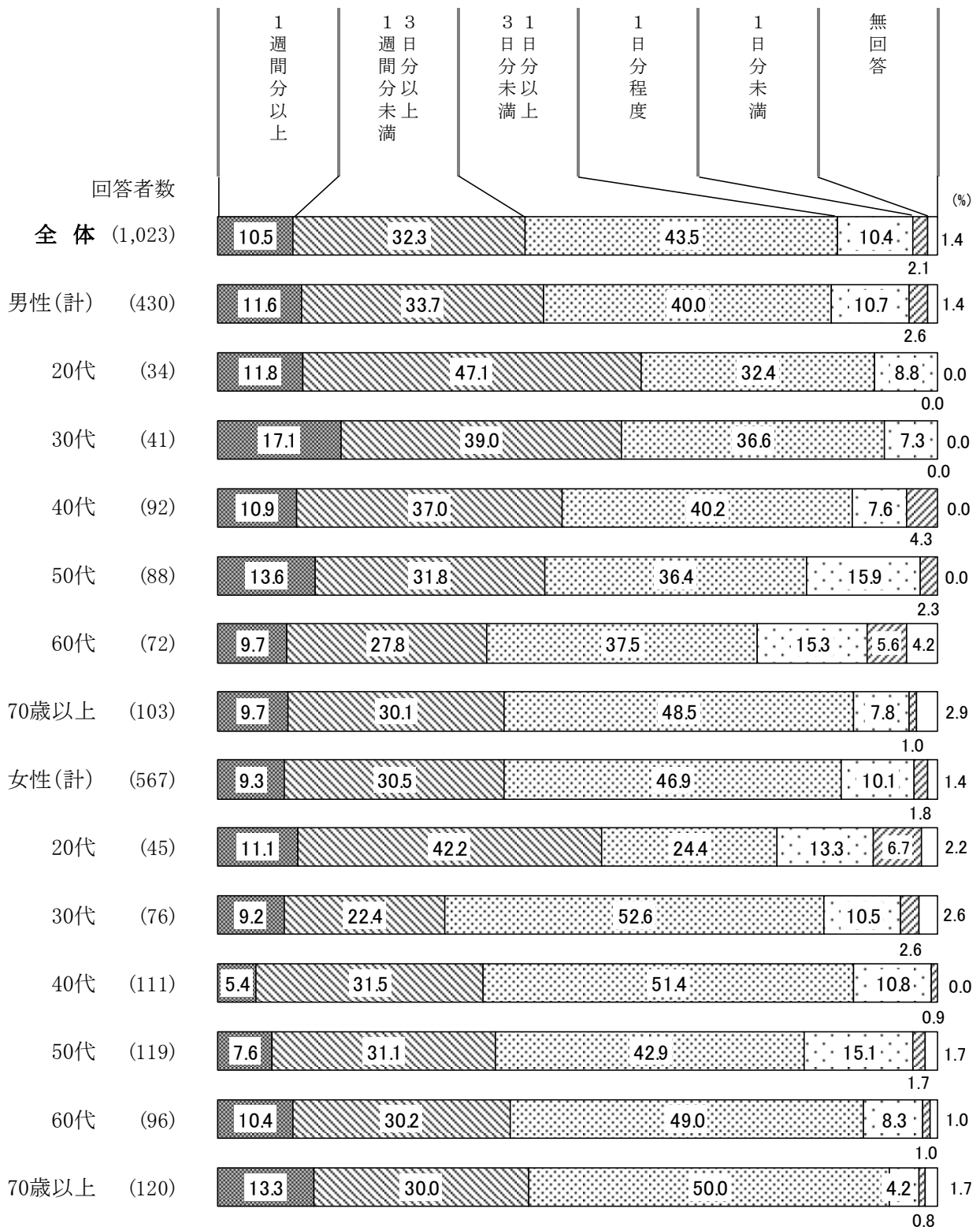




食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられないが、3日分以上の備蓄を持つ人の割合は、男性（45.3%）の方が女性（39.8%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、3日分以上の備蓄を持つ人の割合は、男女ともに20代で最も高く、男性では年代が高くなるにつれてその割合が下がる傾向がみられるのに対し、女性では20代で高いのを除くと、年代が高くなるにつれてその割合も少しずつ高まる傾向がみられる。

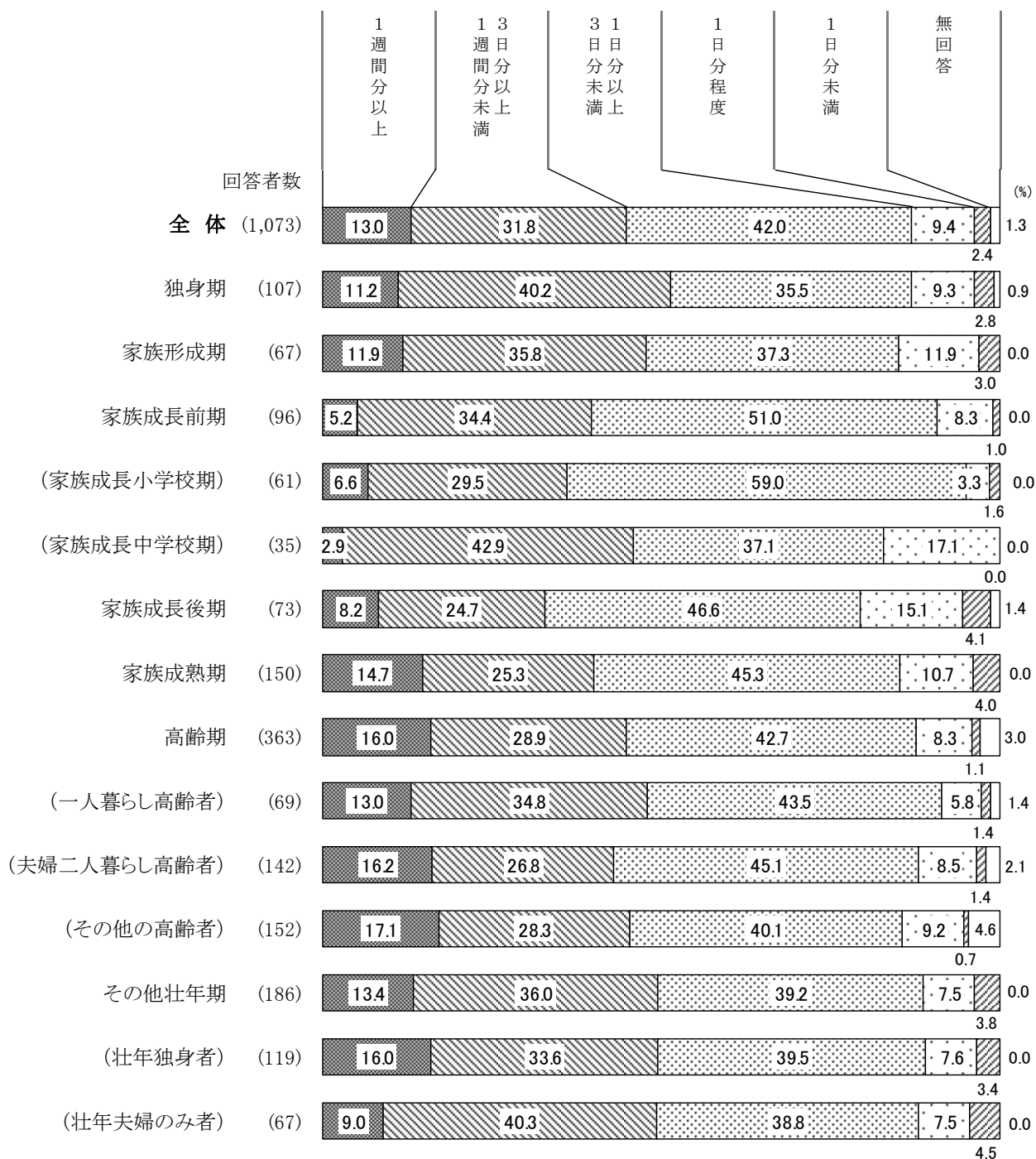
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

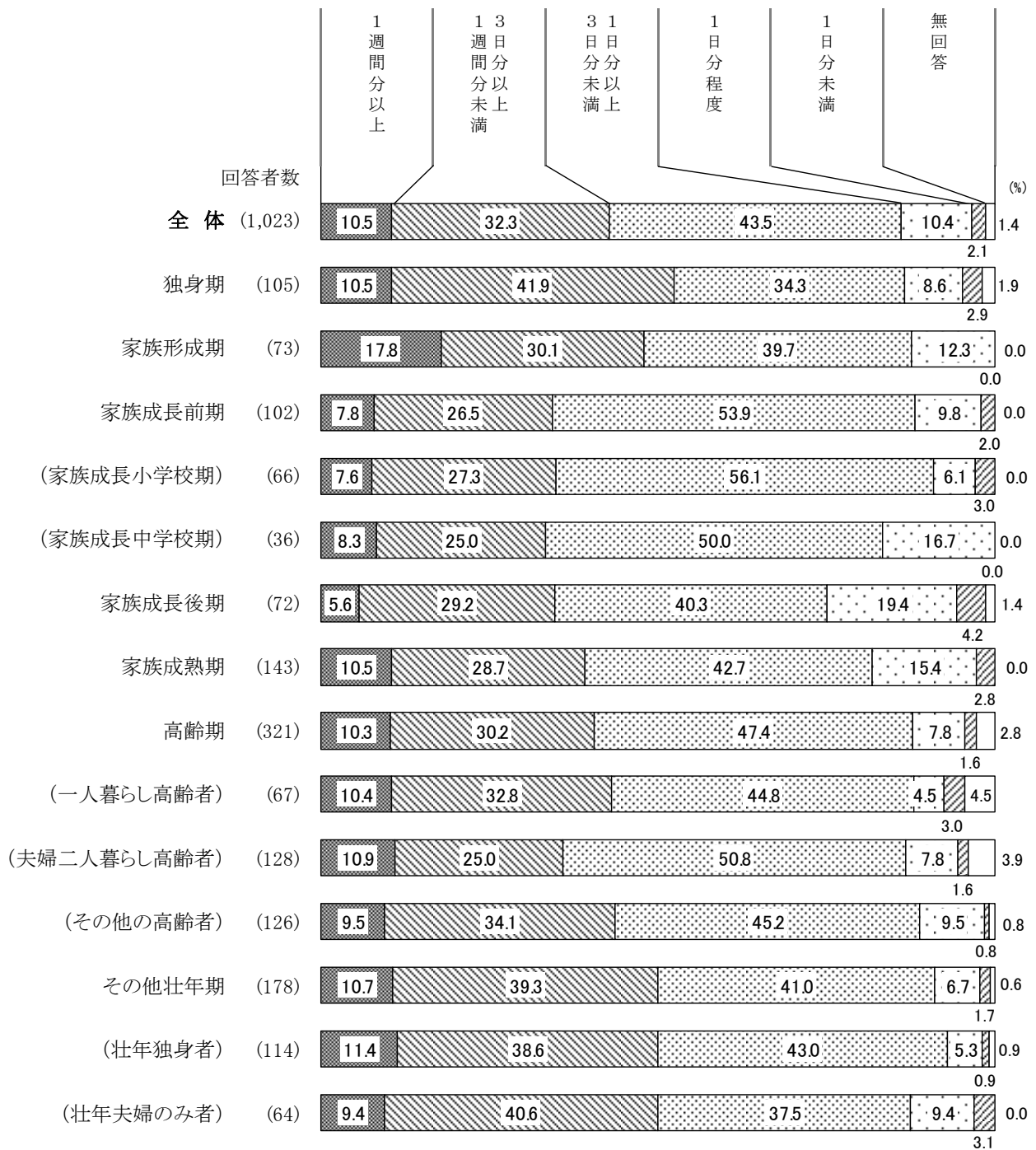
水の備蓄量をライフステージ別でみると、3日分以上の備蓄がある人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っているのは、独身期、家族形成期、高齢期、その他壮年期の4層となっている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をライフステージ別にみると、3日分以上の備蓄がある人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っているのは独身期と家族形成期、その他壮年期の3層のみで、「1日分以上3日分未満」の割合は家族成長前期（53.9%）で最も高く、高齢期（47.4%）も高めとなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



#### (4) 災害発生時の水や食料の確保

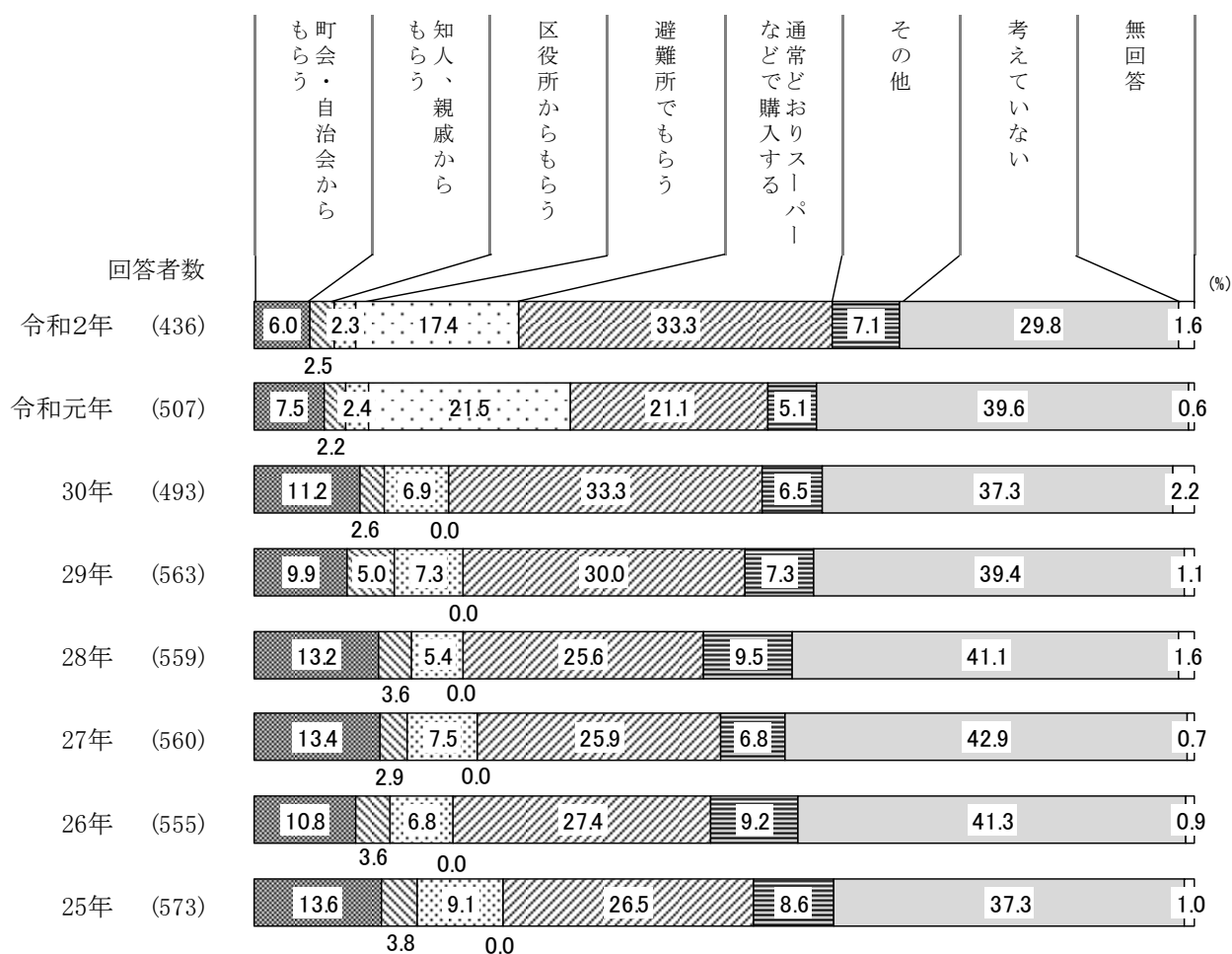
■「スーパー等で購入」が3割強で、3割の「考えていない」を上回って最多

問6は、問5で「3 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(〇は1つだけ)。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



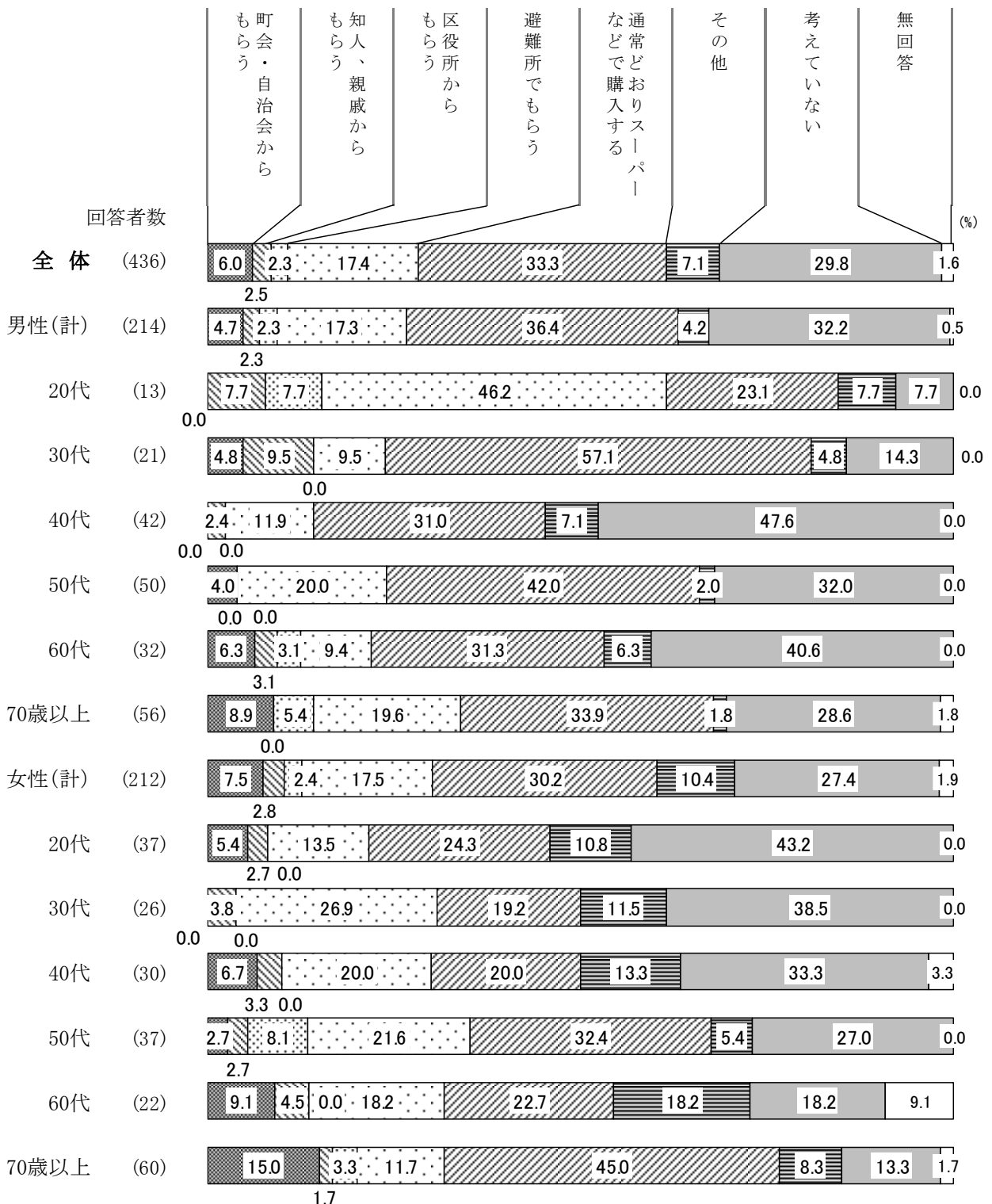
【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」(33.3%)が3割強で、約3割の「考えていない」(29.8%)を上回って最多となっており、前回令和元年から新設された「避難所でもらう」(17.4%)が2割弱で続いている。

経年でみると、前回に「避難所でもらう」の新設で大きく比率を下げた「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回より12.2ポイント増加して、前回より9.8ポイント減の「考えていない」を上回って最多となり、「避難所でもらう」も前回に比べると4.1ポイント減少するなど、今回の令和2年度の回答分布は、「考えていない」が最多だった前回や平成25年から30年の回答分布とは異なる傾向となっている。

性別でみると、男女で大きな違いはみられないものの、「通常どおりスーパーなどで購入する」と「考えていない」の2項目はそれぞれ男性の方が女性より5～6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「通常どおりスーパーなどで購入する」は男性の30代（57.1%）と女性の70歳以上（45.0%）で高く、「考えていない」は男性の40代（47.6%）と女性の20代（43.2%）で高くなっている。

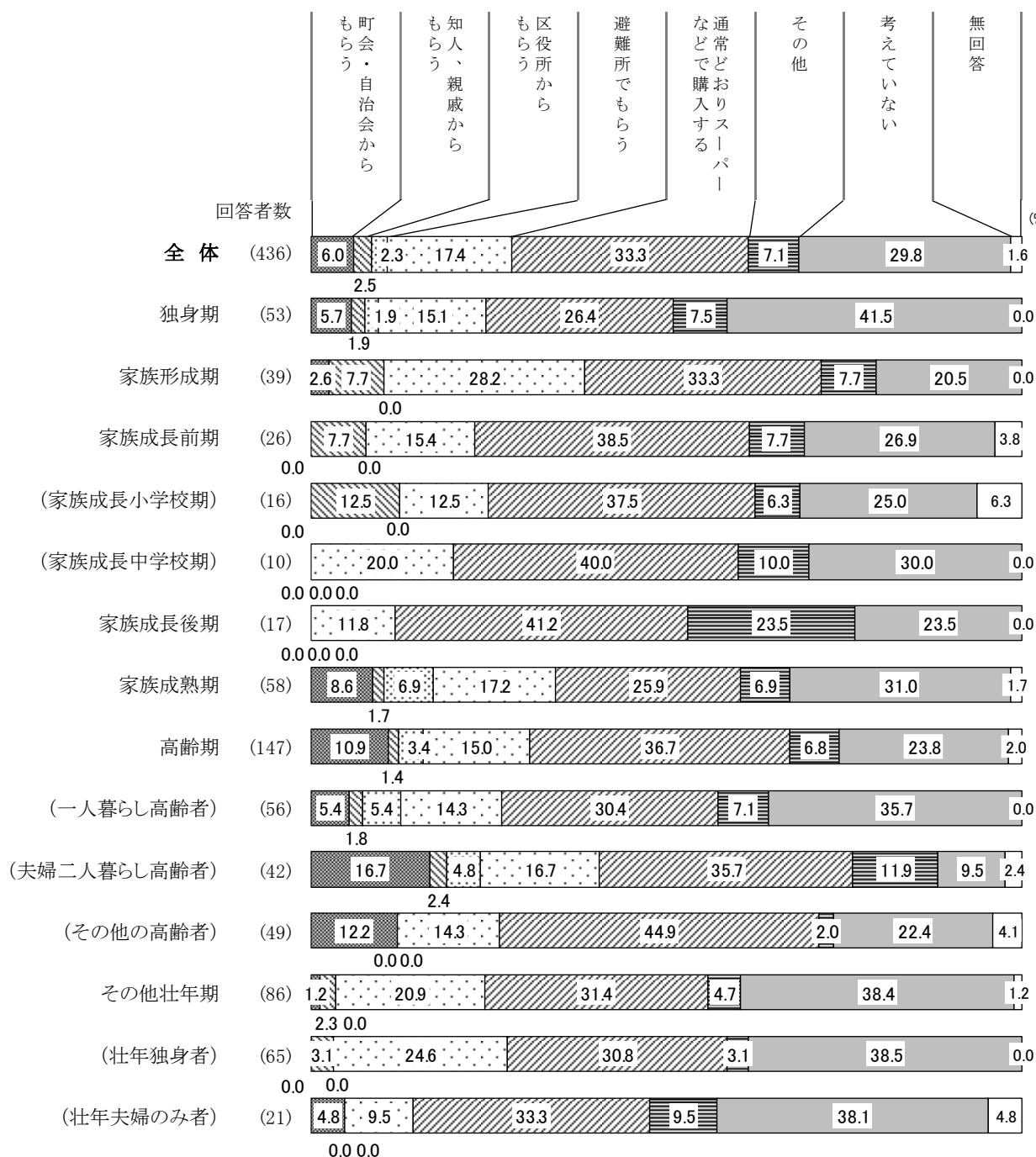
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別でみると、「通常通りスーパーなどで購入する」は家族成長前期と家族成長後期で4割前後と高く、「考えていない」は独身期で、「避難所でもらう」は家族形成期でそれぞれ高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



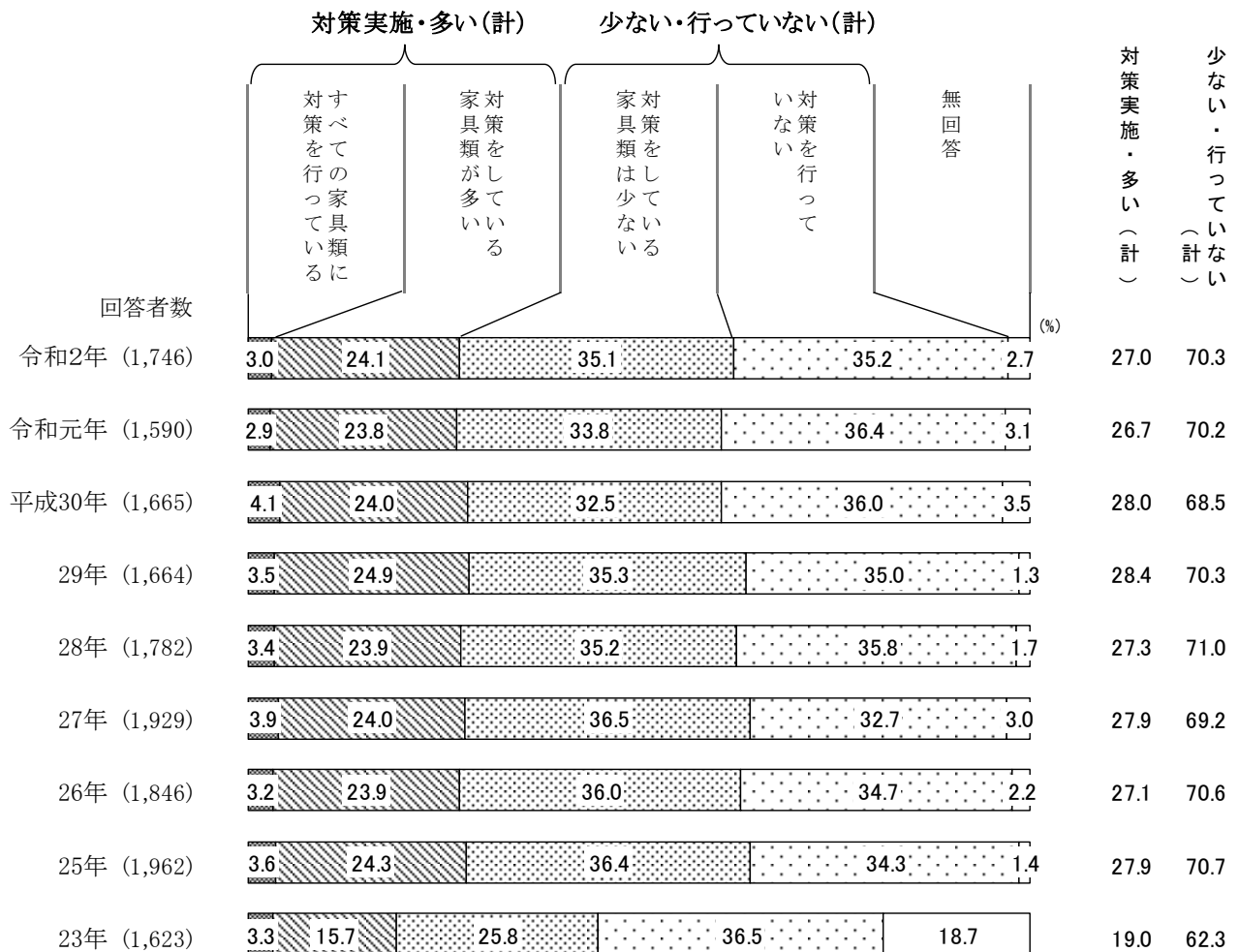
## (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策は少ない・行っていない人が、これまで同様7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.0%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.1%を合わせた【対策実施・多い】は27.0%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は35.1%、「対策を行っていない」は35.2%で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は70.3%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は平成25年以降各年2割台後半で横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も平成25年以降各年7割前後でほぼ横ばいの状態が続いている。

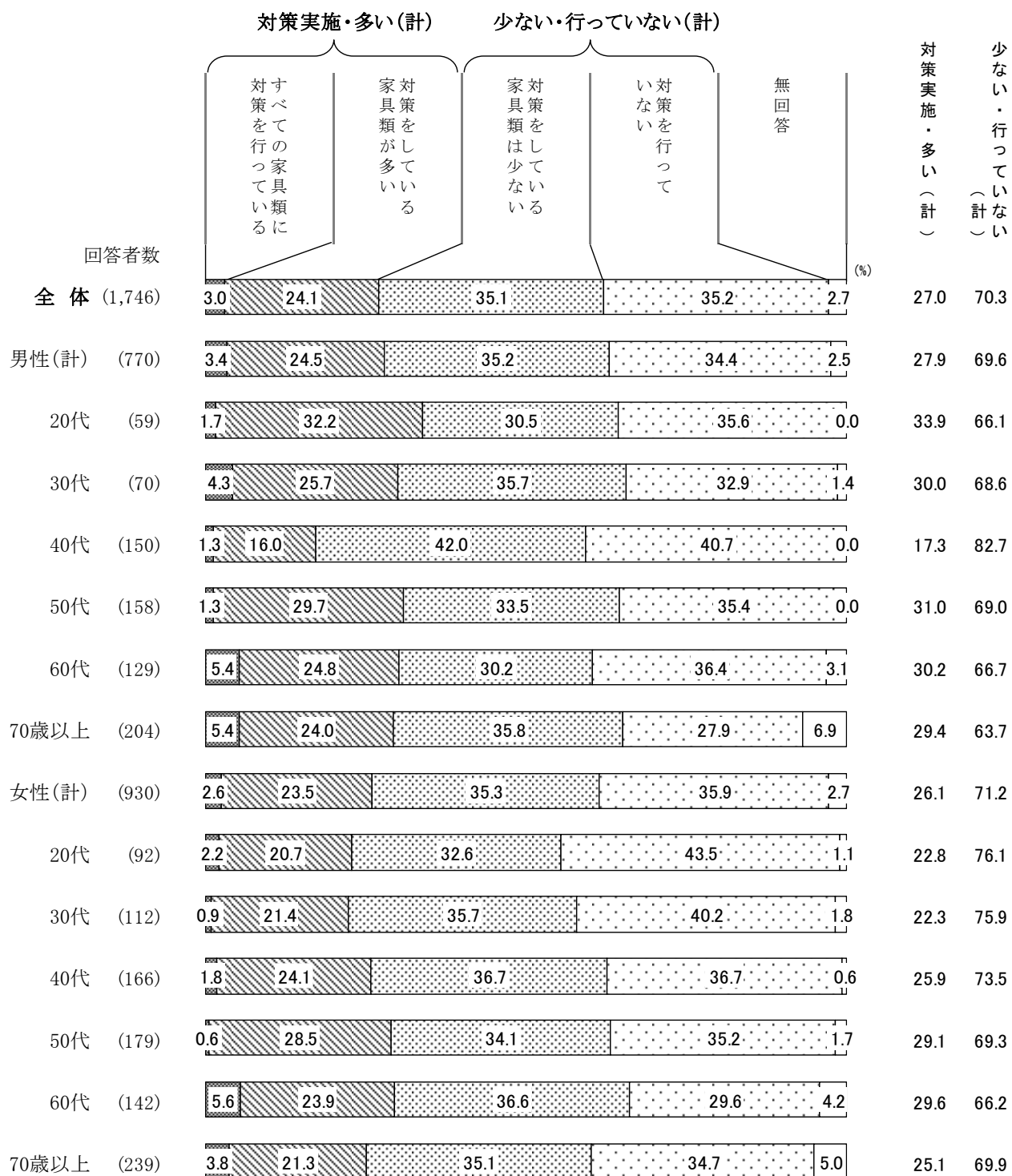
### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代で【対策実施・多い】が3割台半ばとやや高くなっている一方、40代では【少ない・行っていない】が8割強と高くなっている。

女性では、50代と60代で【対策実施・多い】がともに3割近くとやや高くなっている一方、20代と30代では【少ない・行っていない】が7割台半ばとやや高くなっている。

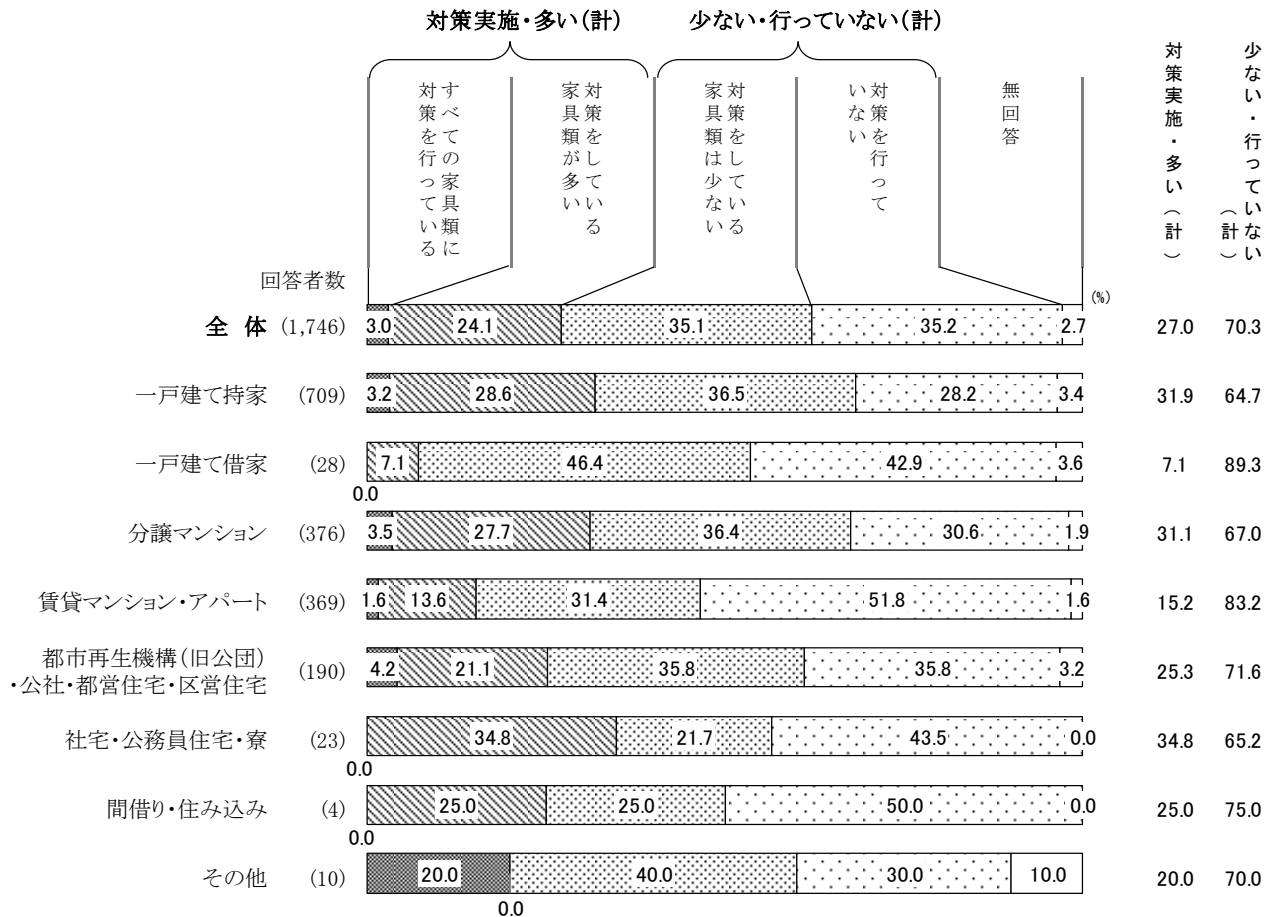
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策





住居形態別でみると、一戸建て持家と分譲マンションでは【対策実施・多い】がそれぞれ31.9%、31.1%と3割を超えてやや高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】が83.2%と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

■「面倒である」と「危険な家具類なく不要」がともに3割弱で上位

問7で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1-① 経年比較／対策をしていない理由

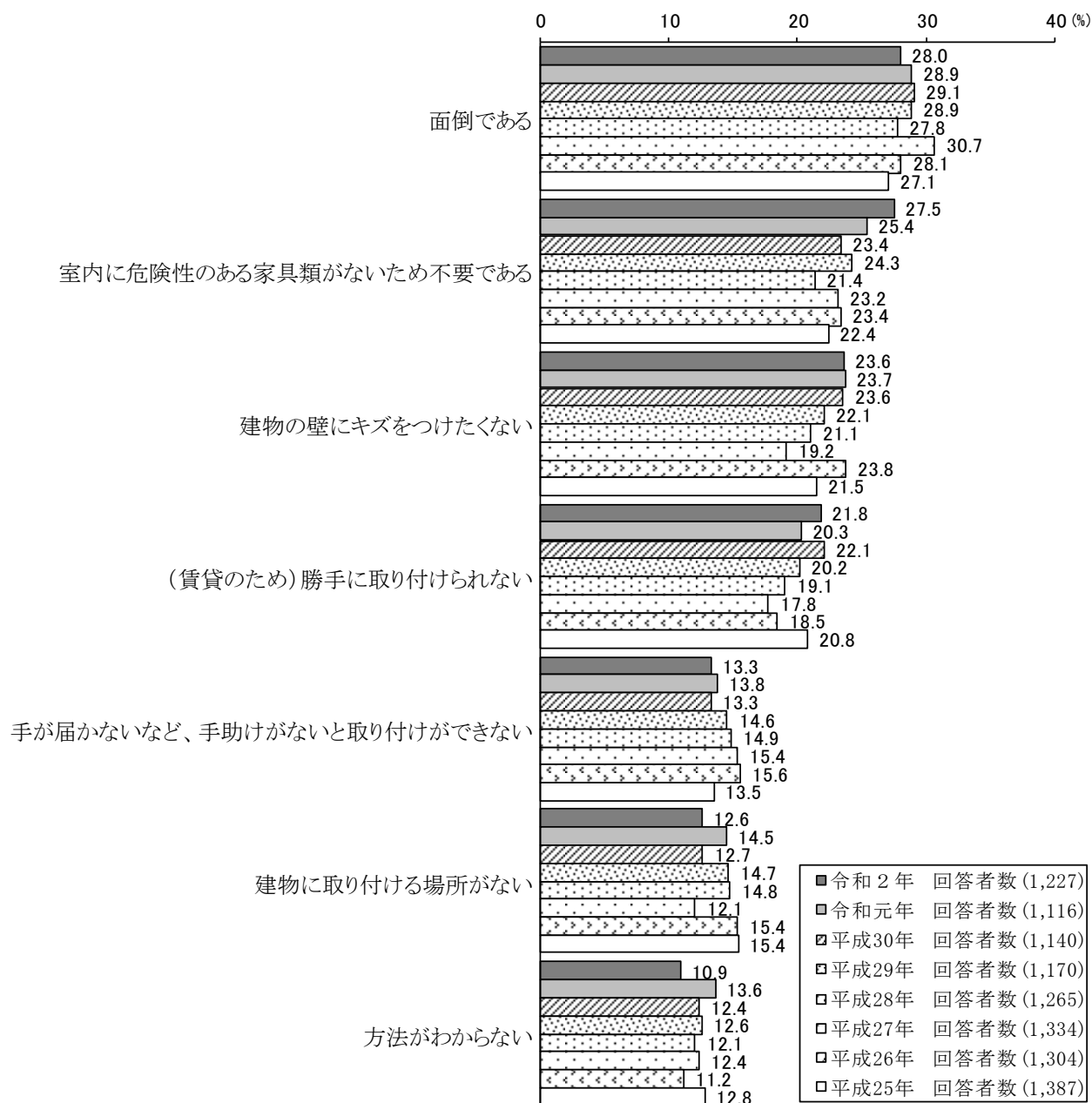
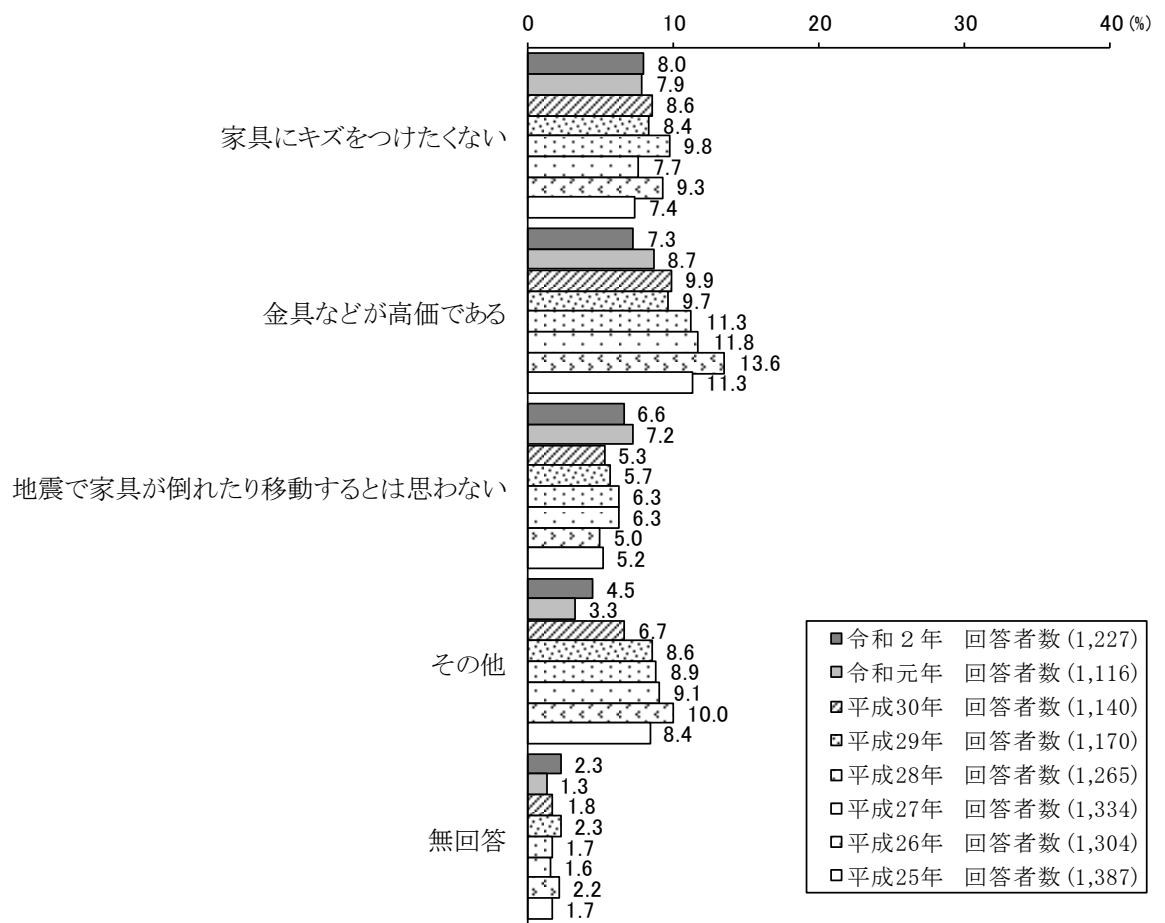


図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



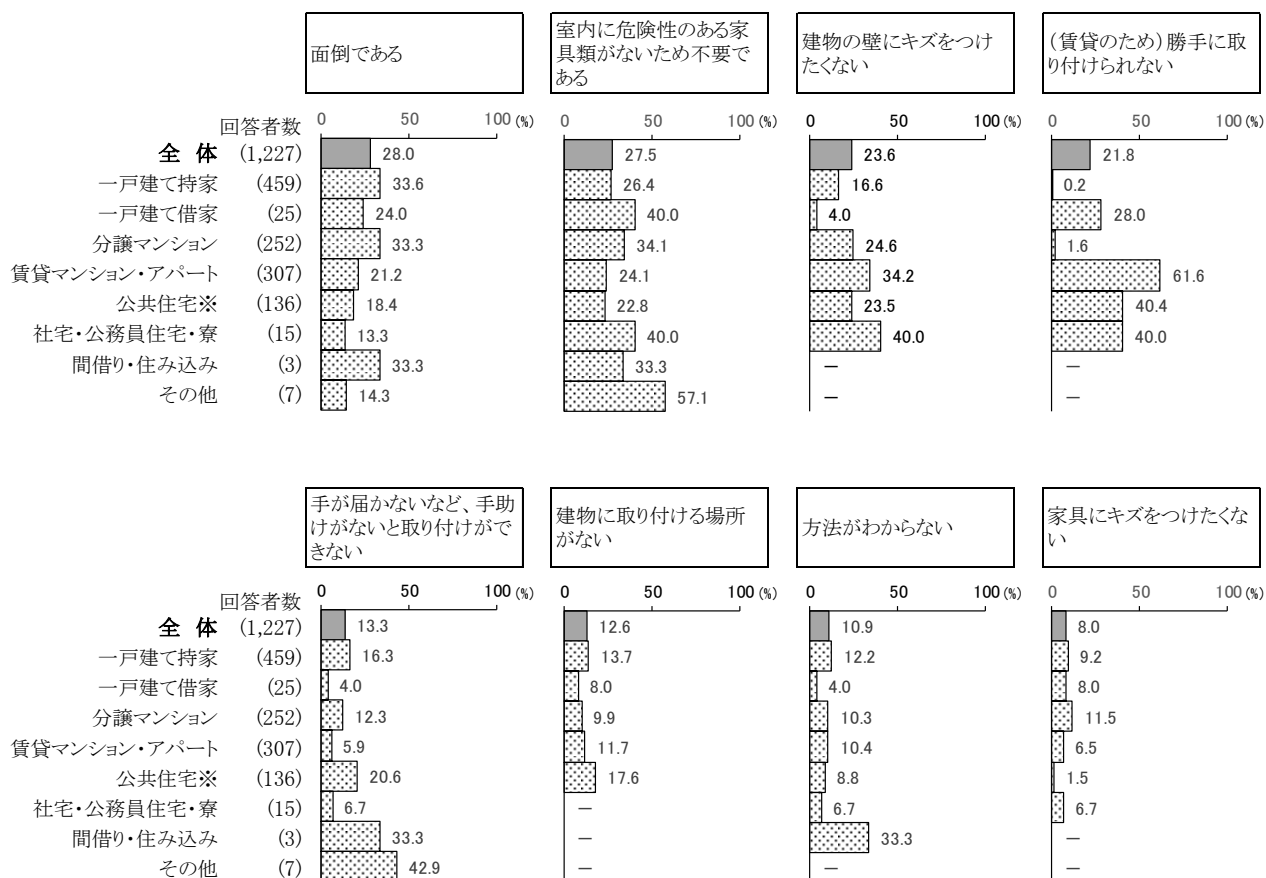
家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.0%で最も高いが、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が27.5%の僅差で続き、以下「建物の壁にキズをつけたくない」(23.6%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(21.8%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられず、数値にも大きな変動はみられないが、次点の「室内に危険性のある家具類がないため不要である」は2年続けて微増している。

### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、「面倒である」は一戸建て持家で（33.6%）と分譲マンション（33.3%）でやや高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「建物の壁にキズをつけたくない」（34.2%）と「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（61.6%）が高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

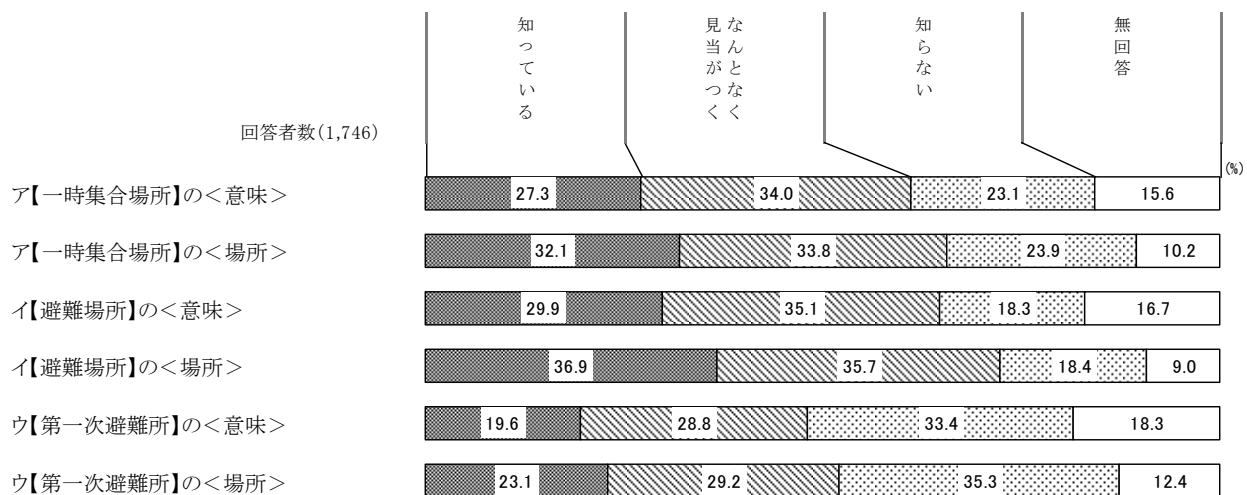
※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

## (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

■「知っている」では、自分の地域の「避難場所」の場所が3割台半ばを超えて最多

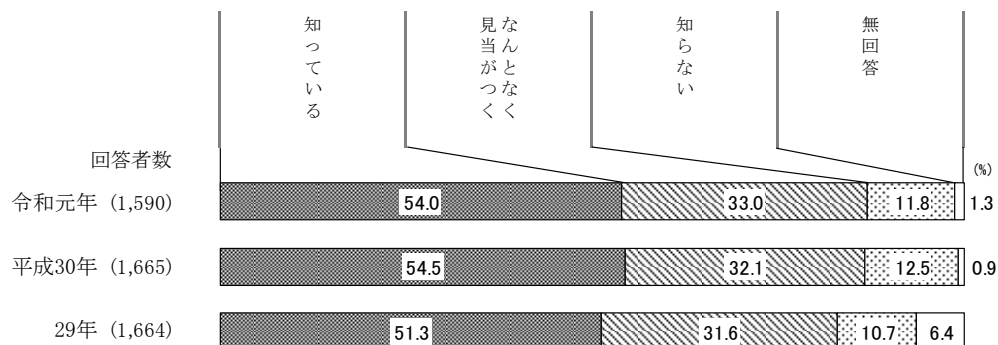
問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図2-7-1 地域の3種の避難場所とその意味の認知



### 参考／地域の避難場所の認知

問 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。



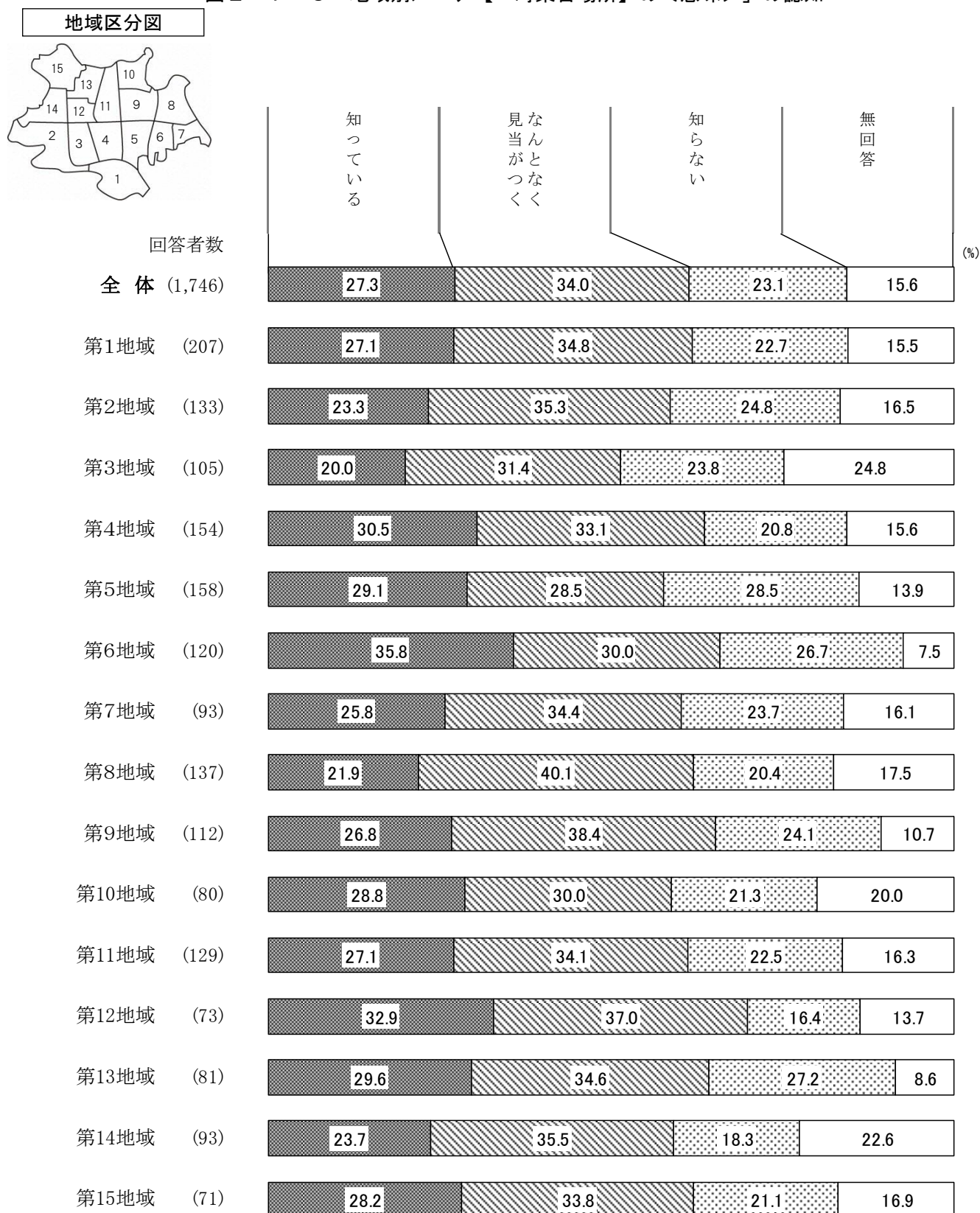
地域の3種の避難場所の意味と場所の認知状況をみると、「知っている」の割合は、【イ「避難場所」の場所】(36.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、以下【ア「一時集合場所」の場所】(32.1%)が3割強、【イ「避難場所」の意味】(29.9%)が約3割、【ア「一時集合場所」の意味】(27.3%)が3割弱で続いているが、【ウ「第1次避難所」の場所】(23.1%)と【ウ「第一次避難所」の意味】(19.6%)はともに約2割～2割強と相対的に低めとなっている。

今回からの質問形態の変更で単純な経年比較はできないが、今回の【イ「避難場所」の場所】の結果を前回の令和元年調査と比べると、「知っている」は17.1ポイント減少し、「なんとなく見当がつく」(2.7ポイント増)と「知らない」(6.6ポイント増)、「無回答」(7.7ポイント増)がそれぞれ増えている。

### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

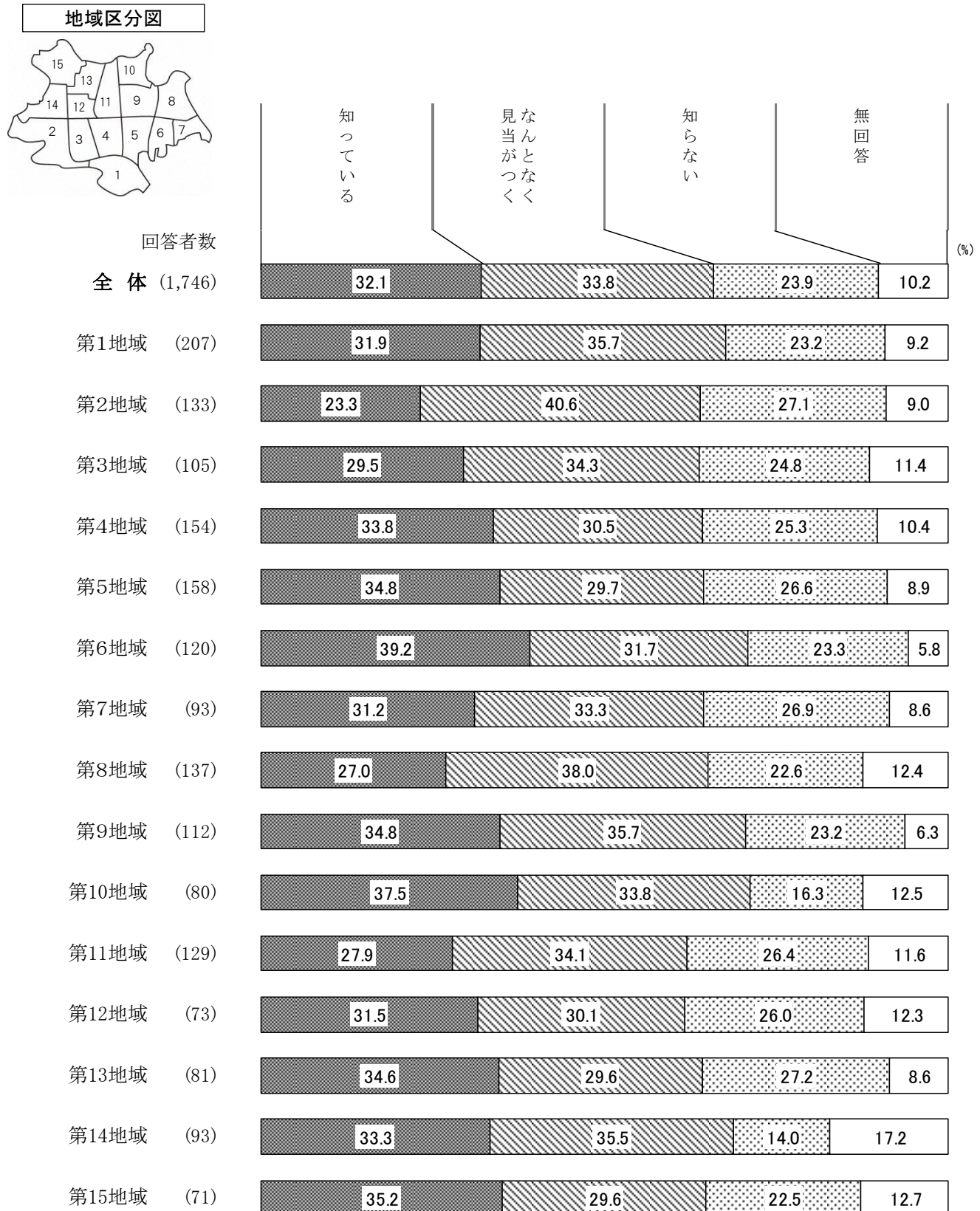
「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第6地域が3割台半ばで最も高く、第12地域が3割強で続くが、第3地域では2割と最も低くなっている。

図2-7-3 地域別／「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知



「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第6地域で4割近くと最も高く、第10地域が4割弱で続くが、第2地域では2割台前半で最も低くなっている。

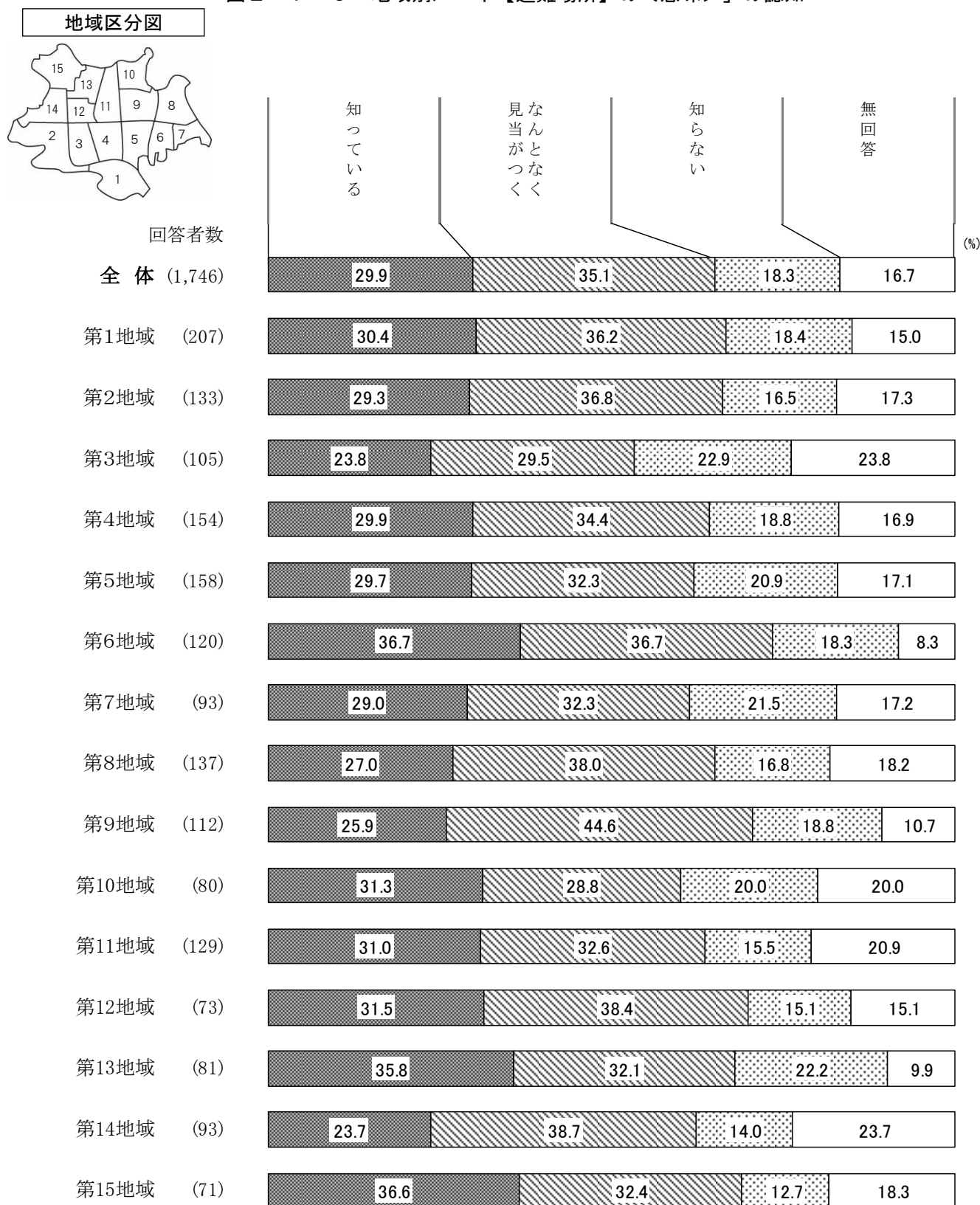
図2-7-4 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第6地域、第13地域、第15地域の3地域でそれぞれ3割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第3地域と第14地域では「知っている」が2割台前半で他の地域より低めとなっている。

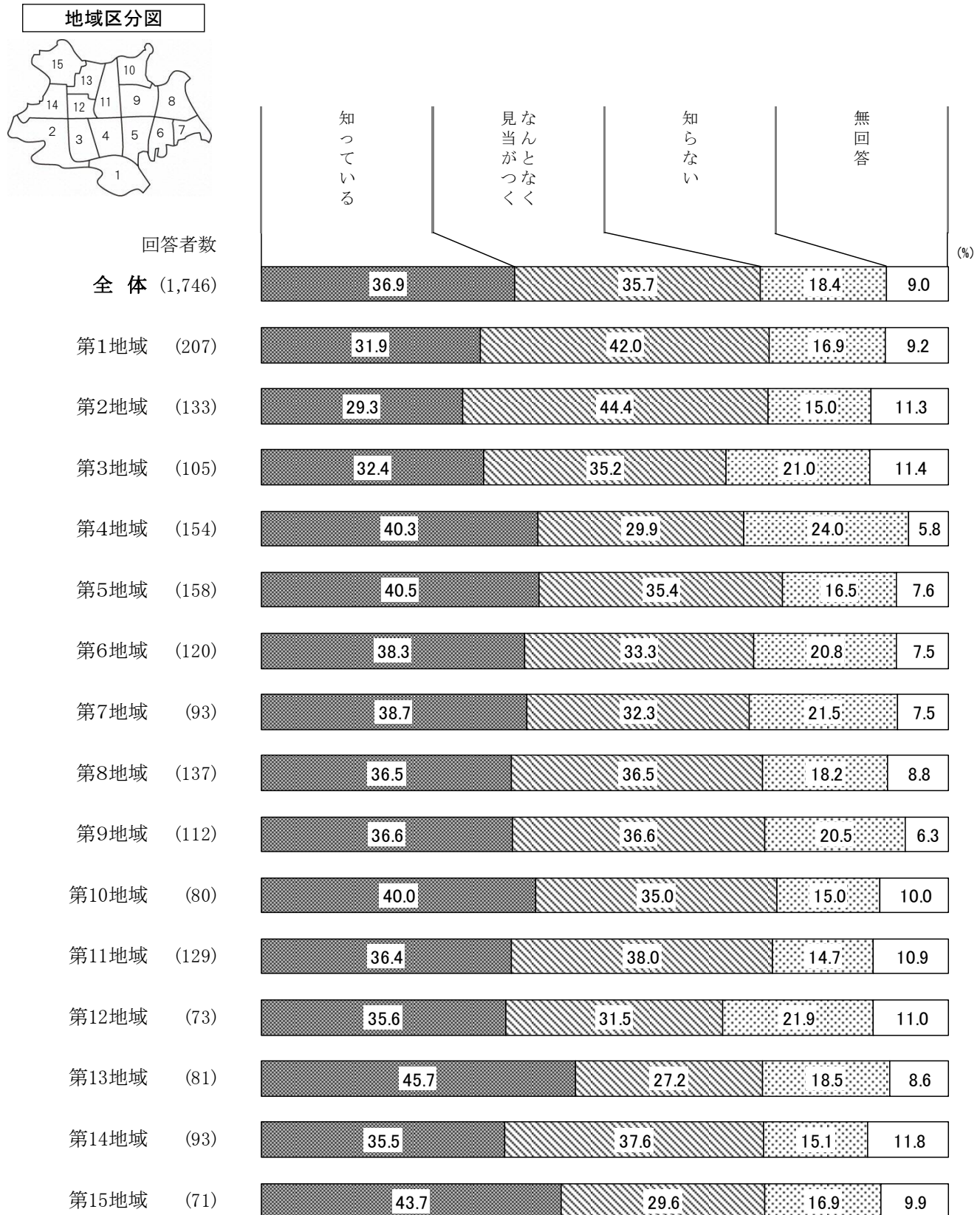
図2-7-5 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知





「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域と第15地域の2地域でそれぞれ4割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第2地域では3割に届かず最も低くなっている。

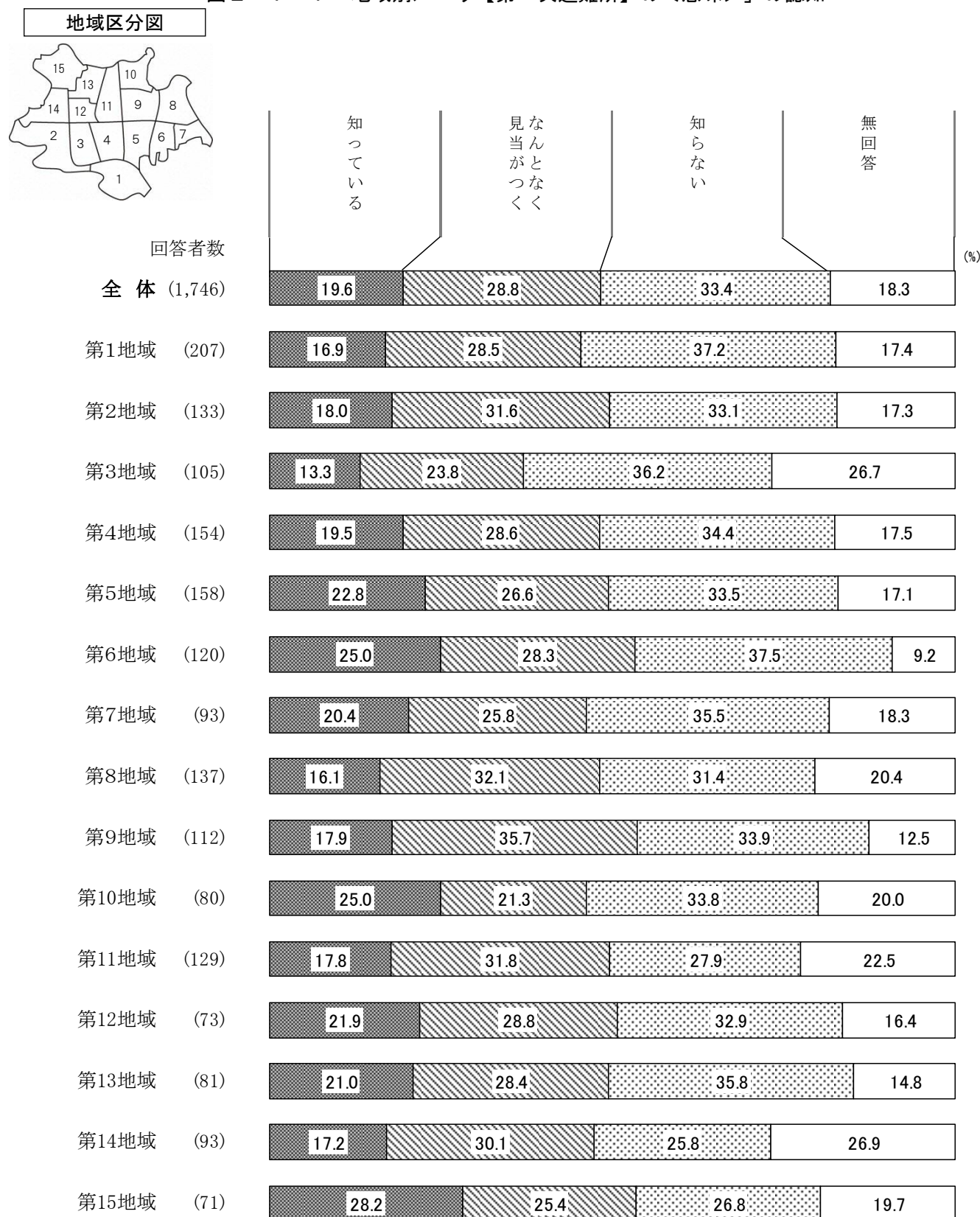
図2-7-6 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

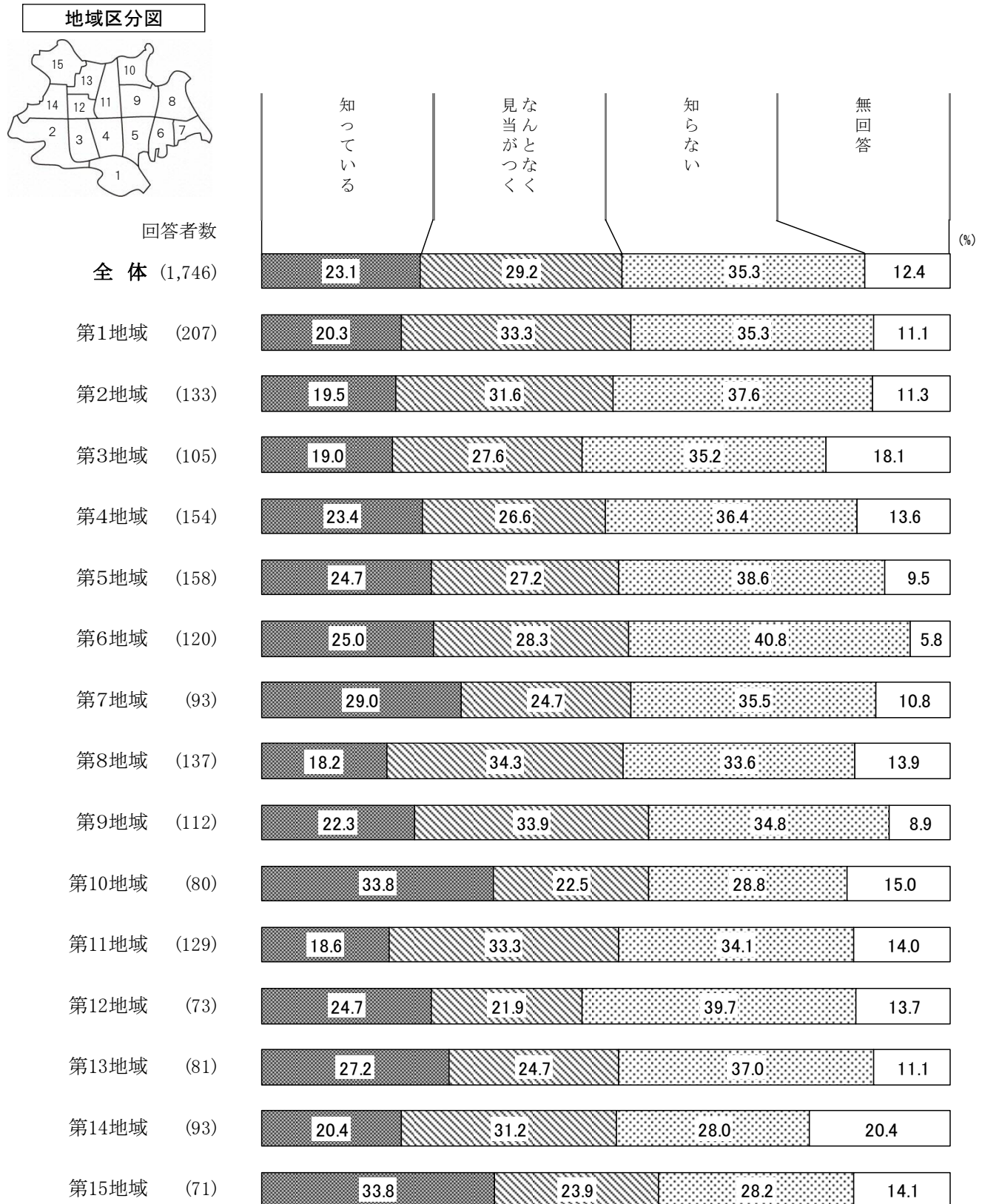
「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が3割弱で最も高く、第6地域と第10地域もそれぞれ2割台半ばで他の地域より高くなっている。一方、第3地域では「知っている」が1割台前半で最も低くなっている。

図2-7-7 地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知



「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第10地域と第15地域でそれぞれ3割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第2地域、第3地域、第8地域、第11地域の4地域は「知っている」がそれぞれ2割に届かず相対的に低めとなっている。

図2-7-8 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



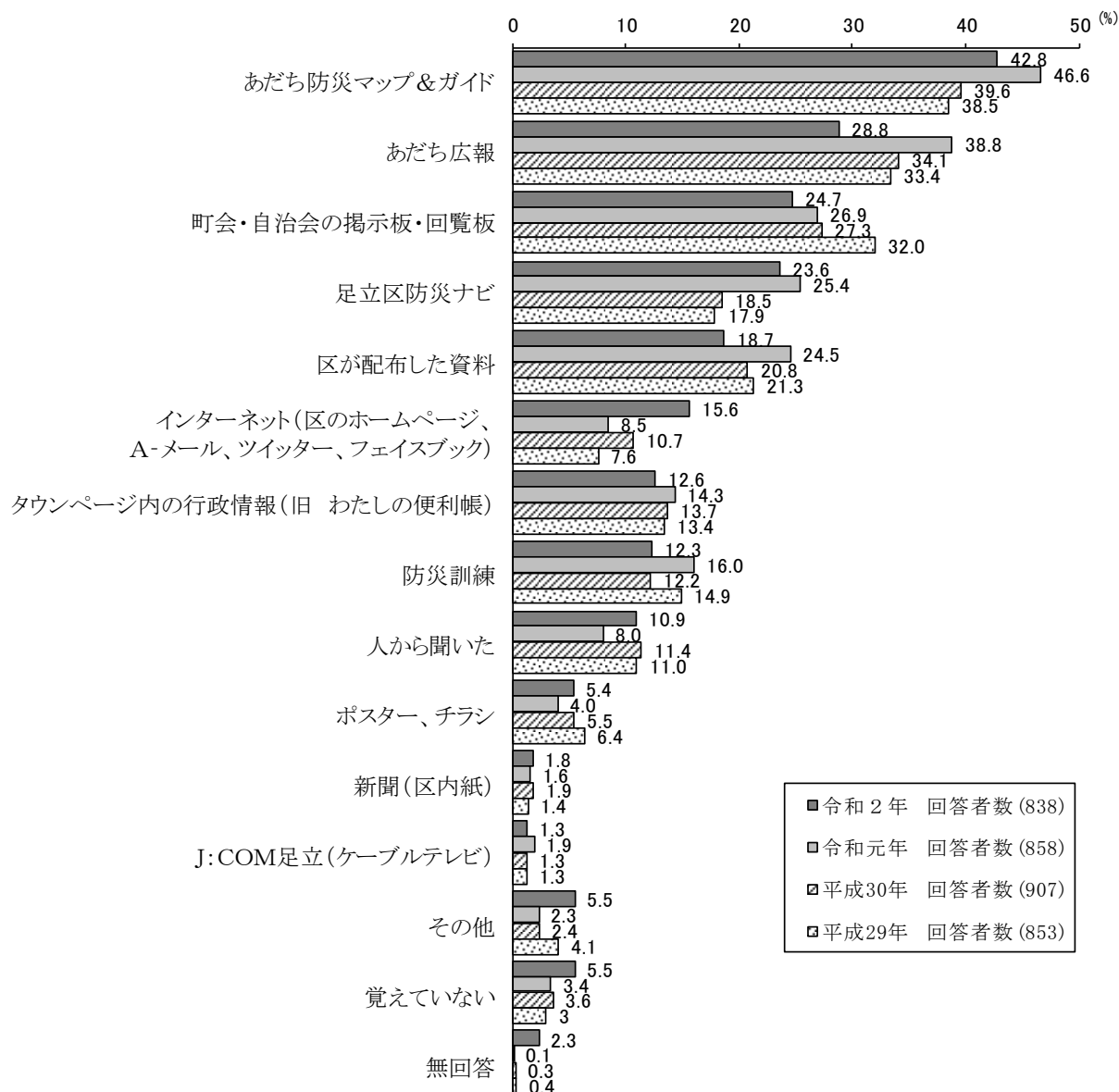
## (8) 避難場所の認知経路

### ■ “防災マップ&ガイド” が4割強と最も高く “広報” が3割弱で次点

問8のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に

問8-1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-8-1 経年比較／避難場所の認知経路



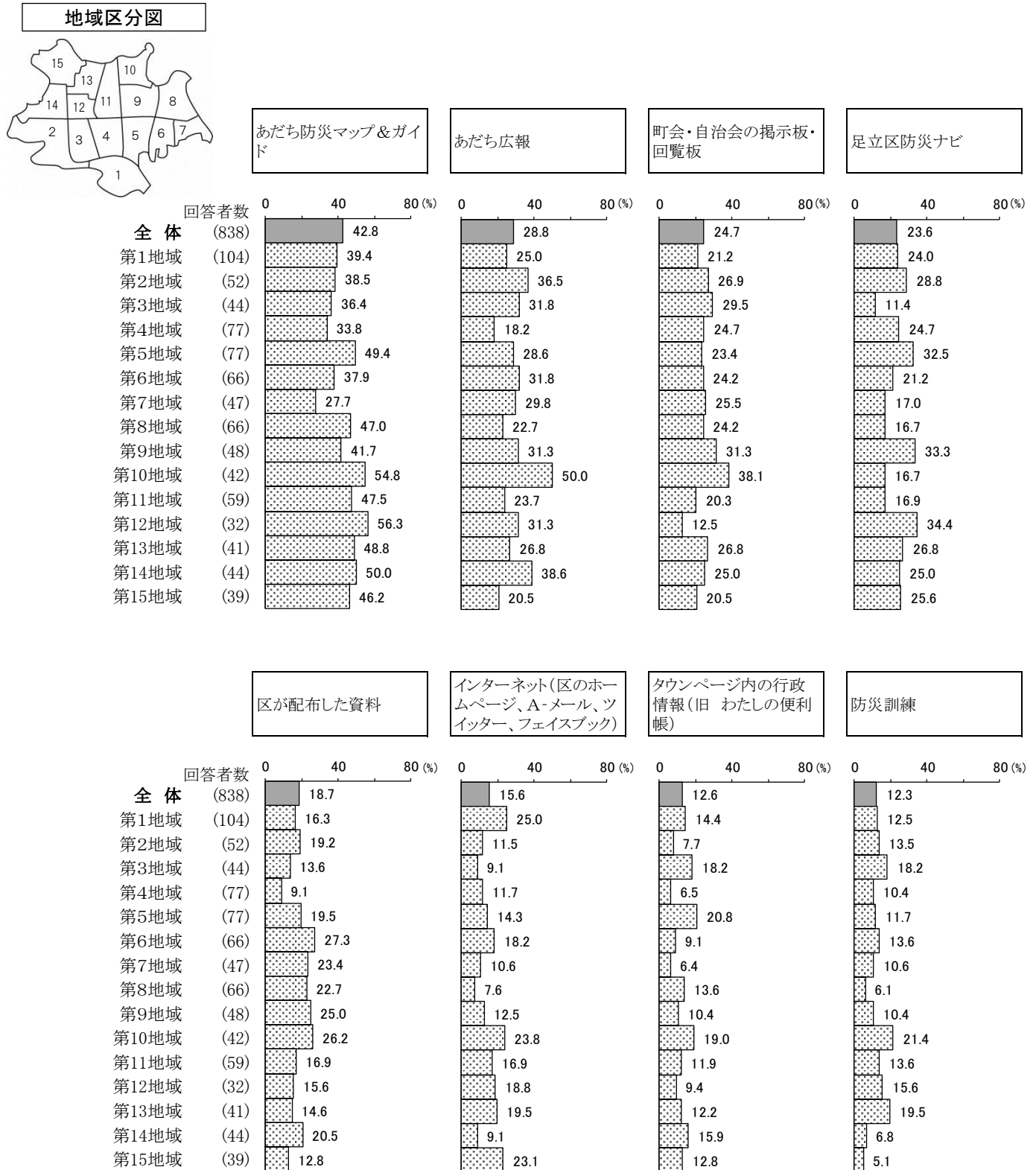
※ 前年度まであった「区公式アプリ『アダチさん』」は、令和2年度は割愛された。

問8の地域の3種の避難場所の場所か意味のいずれかを認知している人のその認知経路をみると、「あだち防災マップ&ガイド」が42.8%で最も高く、以下「あだち広報」(28.8%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(24.7%)、「足立区防災ナビ」(23.6%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないが、次点の「あだち広報」は前回に比べて10.0ポイント減少している。(ただし、前回は地域の避難場所の認知経路の設問だったことに留意)

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第10地域と第12地域で5割台半ばと高く、第10地域は「あだち広報」(50.0%)や「町会・自治会掲示板・回覧板」(38.1%)でも高くなっている。なお、「インターネット」が高めなのは第1地域、第10地域、第15地域の3地域である。

図2-8-2 地域別／避難場所の認知経路／上位8項目

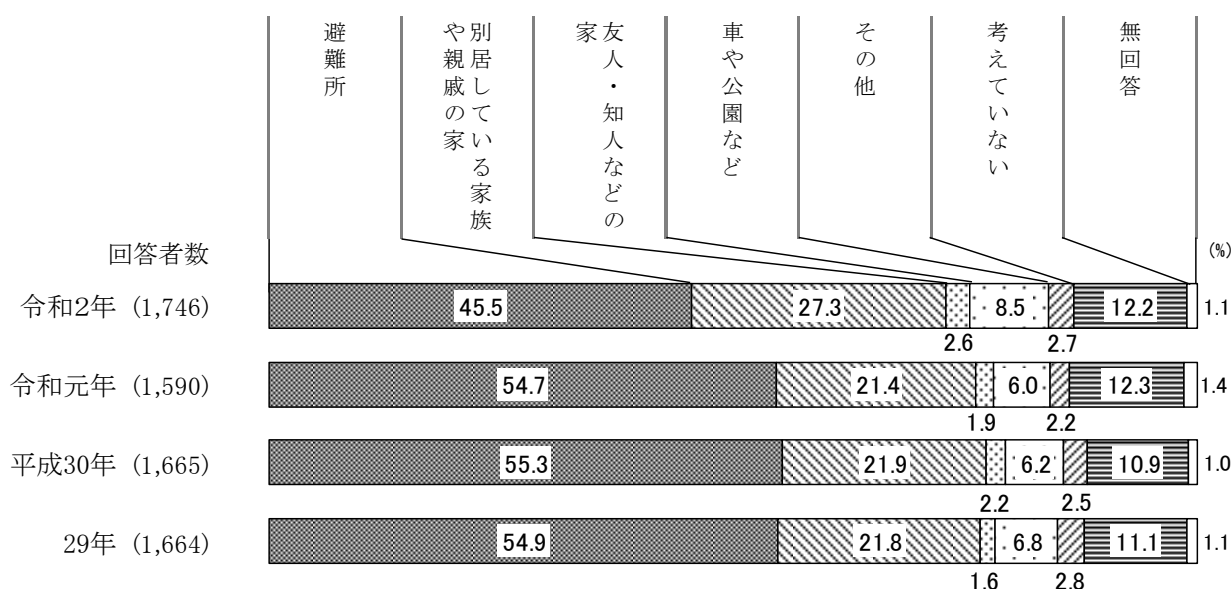


(9) 大規模災害時の避難生活場所

■「避難所」が4割台半ばで最多ながら、令和元年までの3年間に比べると約10ポイント減

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所

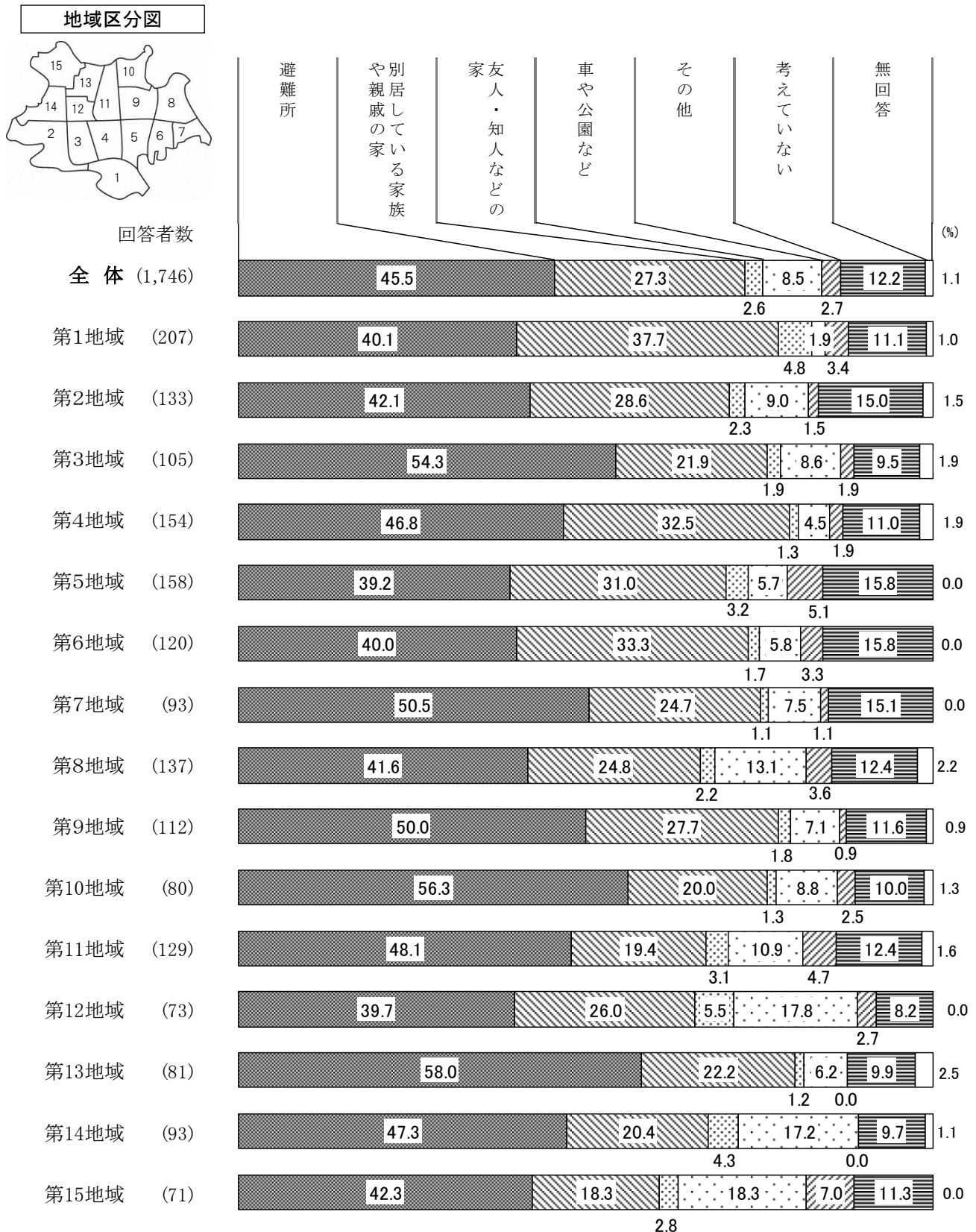


大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が45.5%で最も多く、次いで「別居している家族や親戚の家」が27.3%となっている。

経年でみると、今回トップの「避難所」は前回より9.2ポイント減少した一方で、「別居している家族や親戚の家」は5.9ポイント増加しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてか、今回の結果は令和元年までの3年間の回答分布とは異なる傾向をみせている。

地域別でみると、「避難所」は第13地域（58.0%）、第10地域（56.3%）、第3地域（54.3%）などで高いが、「別居している家族や親戚の家」は第1地域（37.7%）や第6地域（33.3%）、第4地域（32.5%）などで高くなっており、「車や公園など」は第15地域（18.3%）、第12地域（17.8%）、第14地域（17.2%）などで高くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “水・食料の備蓄充実” “ライフライン確保” が6割弱で並んで上位

問10 あなたが大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

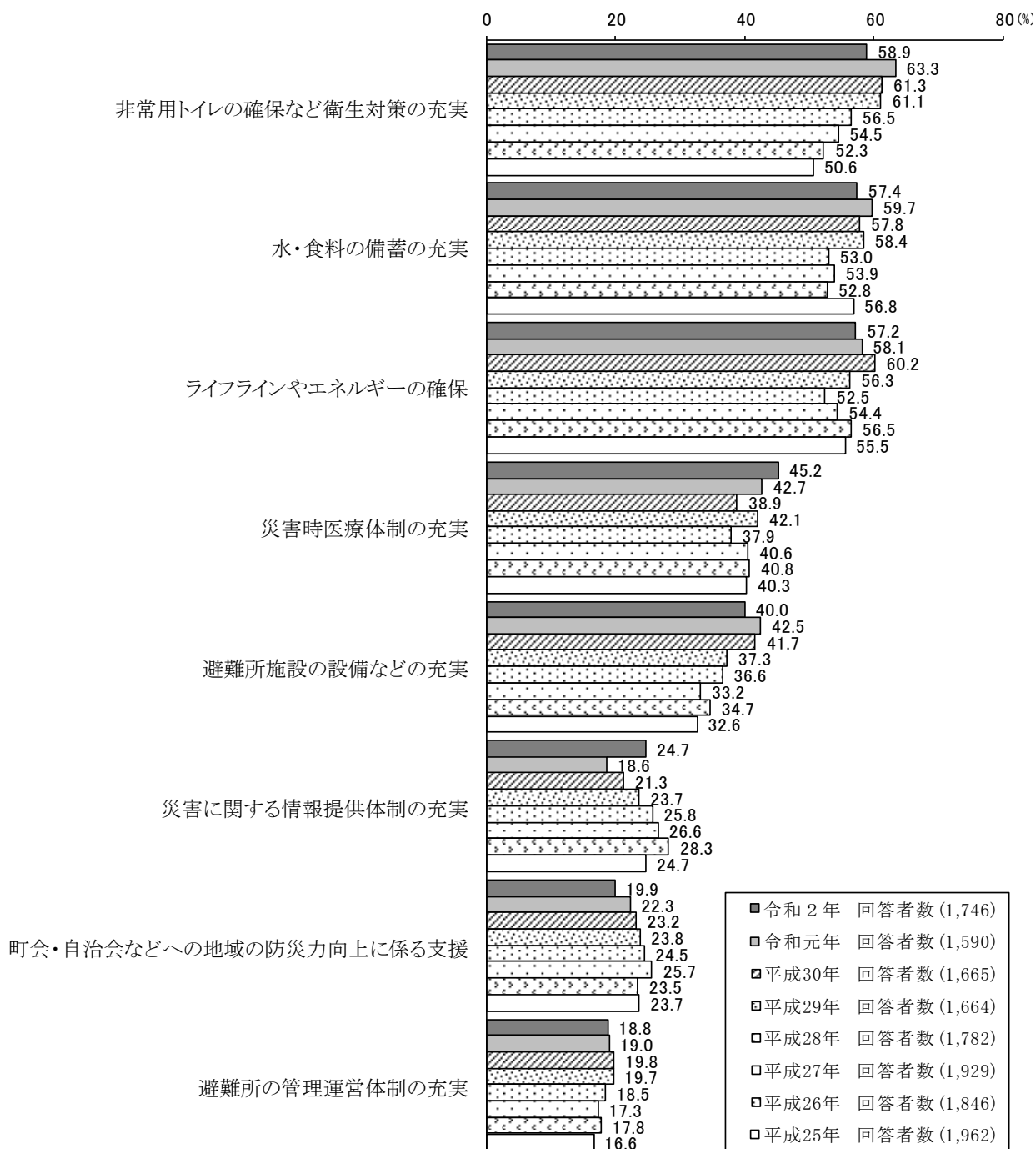




図2-10-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

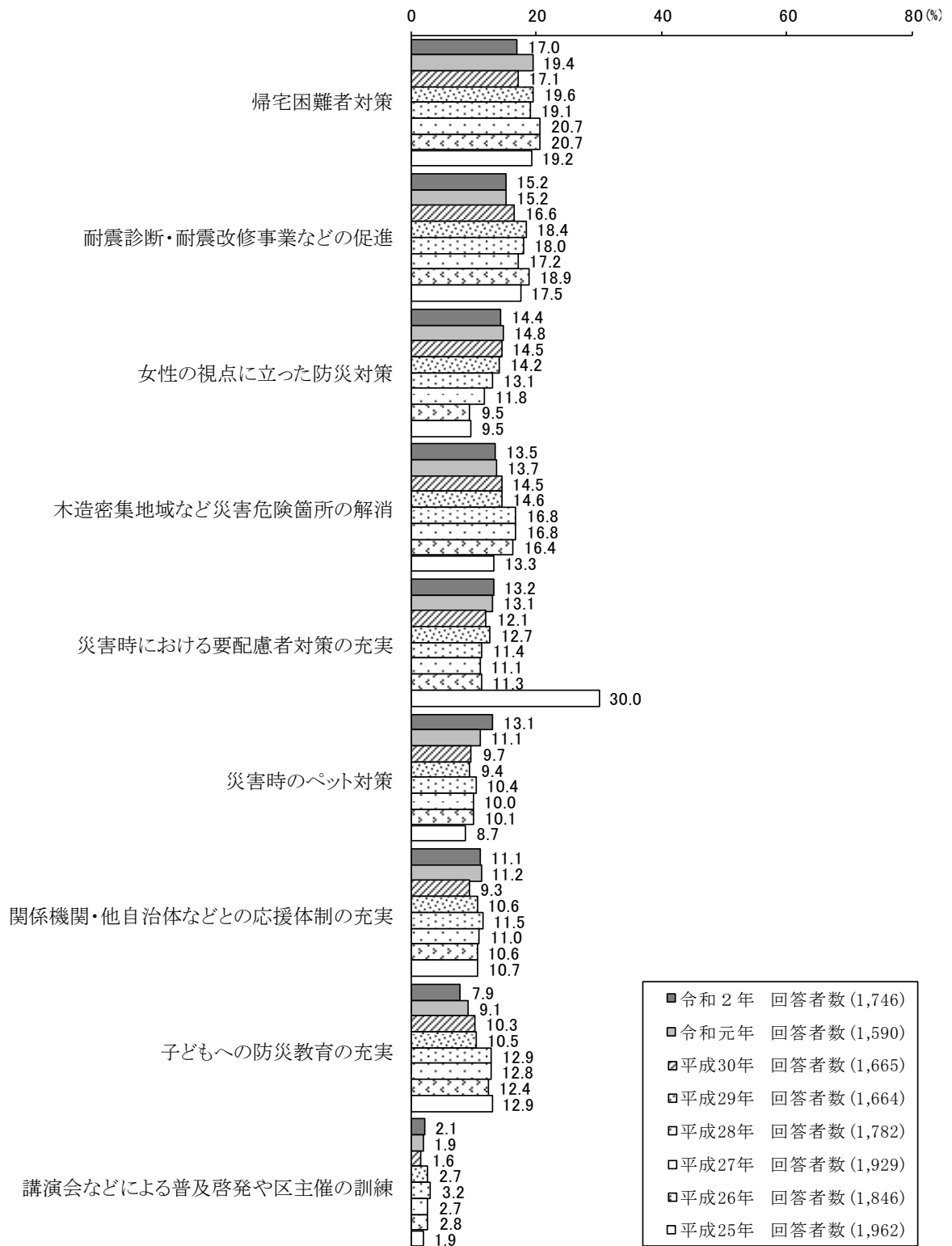
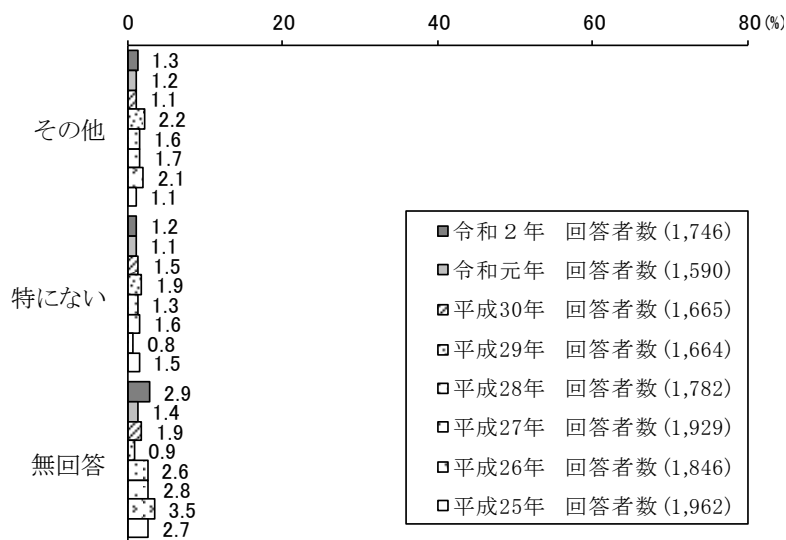


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（58.9%）、「水・食料の備蓄の充実」（57.4%）、「ライフラインやエネルギーの確保」（57.2%）の3項目がそれぞれ6割弱で並んで上位となっている。

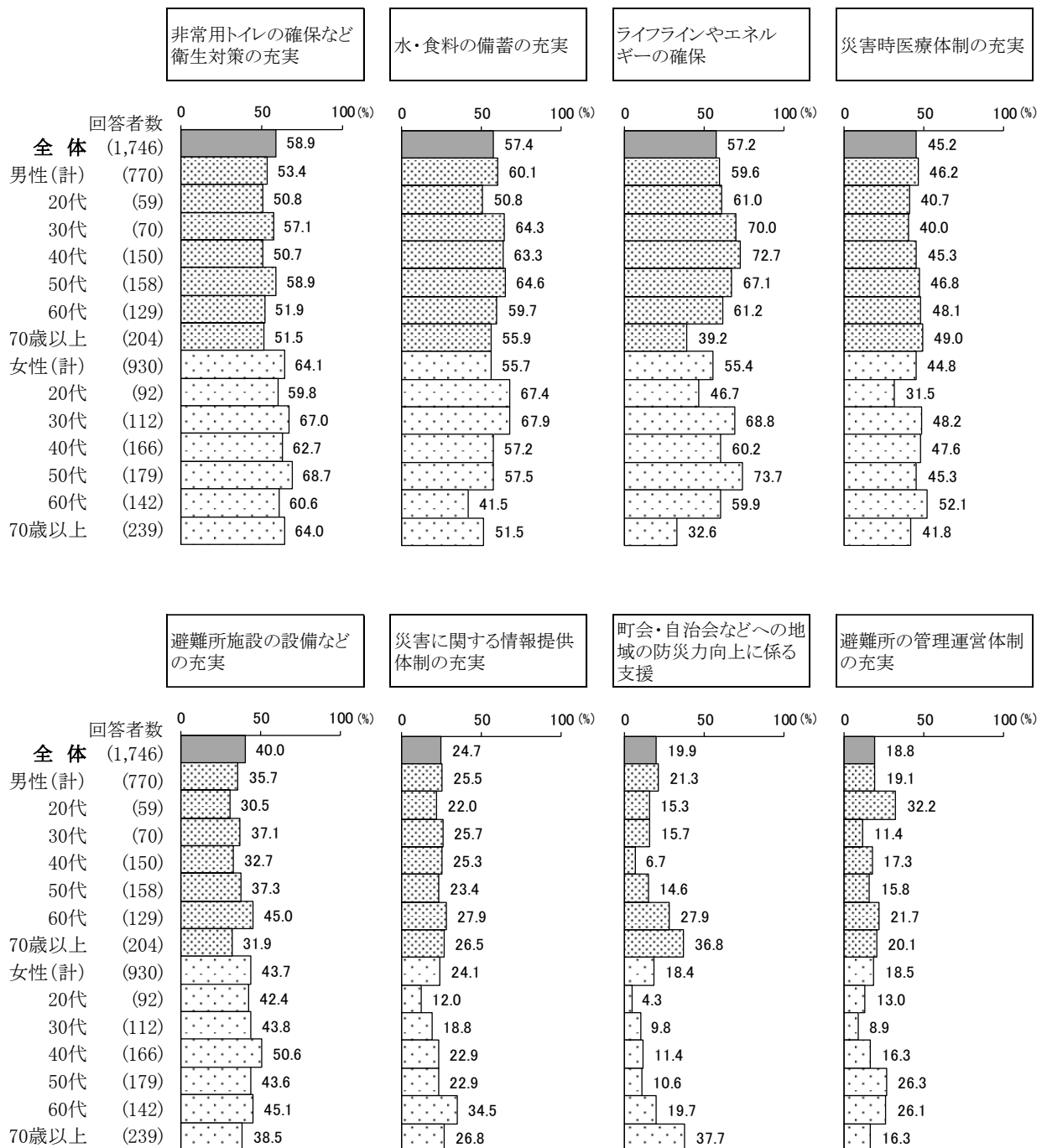
経年でみると、上位項目の順位に変化はみられないが、上位項目のほとんどが前年より比率を微減させている中で、今回4位の「災害時医療体制の充実」は前回より2.5ポイント増加し、今回6位の「災害に関する情報提供体制の充実」は前回より6.1ポイント増加している。

性別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「避難所施設の設備などの充実」の2項目は女性の方が男性より10ポイント前後上回って高くなっている。

性・年代別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「ライフラインやエネルギーの確保」は女性の50代が最も高く、「水・食料の備蓄の充実」は女性の20代と30代で高く、男性の30代～50代の3層でも高めとなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

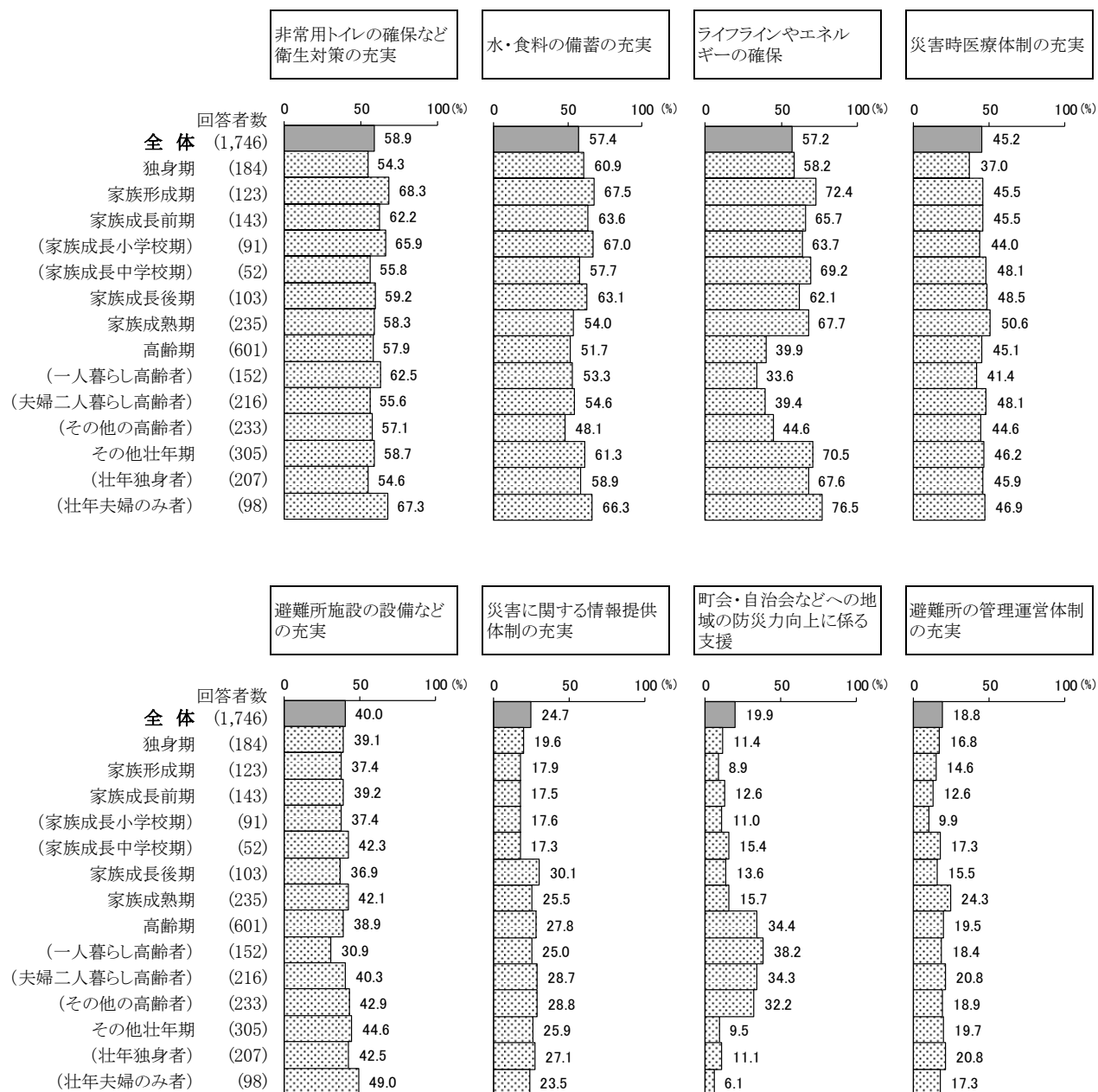


### 第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の上位3項目は、いずれも家族形成期が7割弱～7割強で最も高く、逆に高齢期で総じて低めとなっており、中でも「ライフラインやエネルギーの確保」でその格差が大きくなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



### 3 洪水対策

- 
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
  - (2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定
  - (3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所
  - (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
  - (5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
-



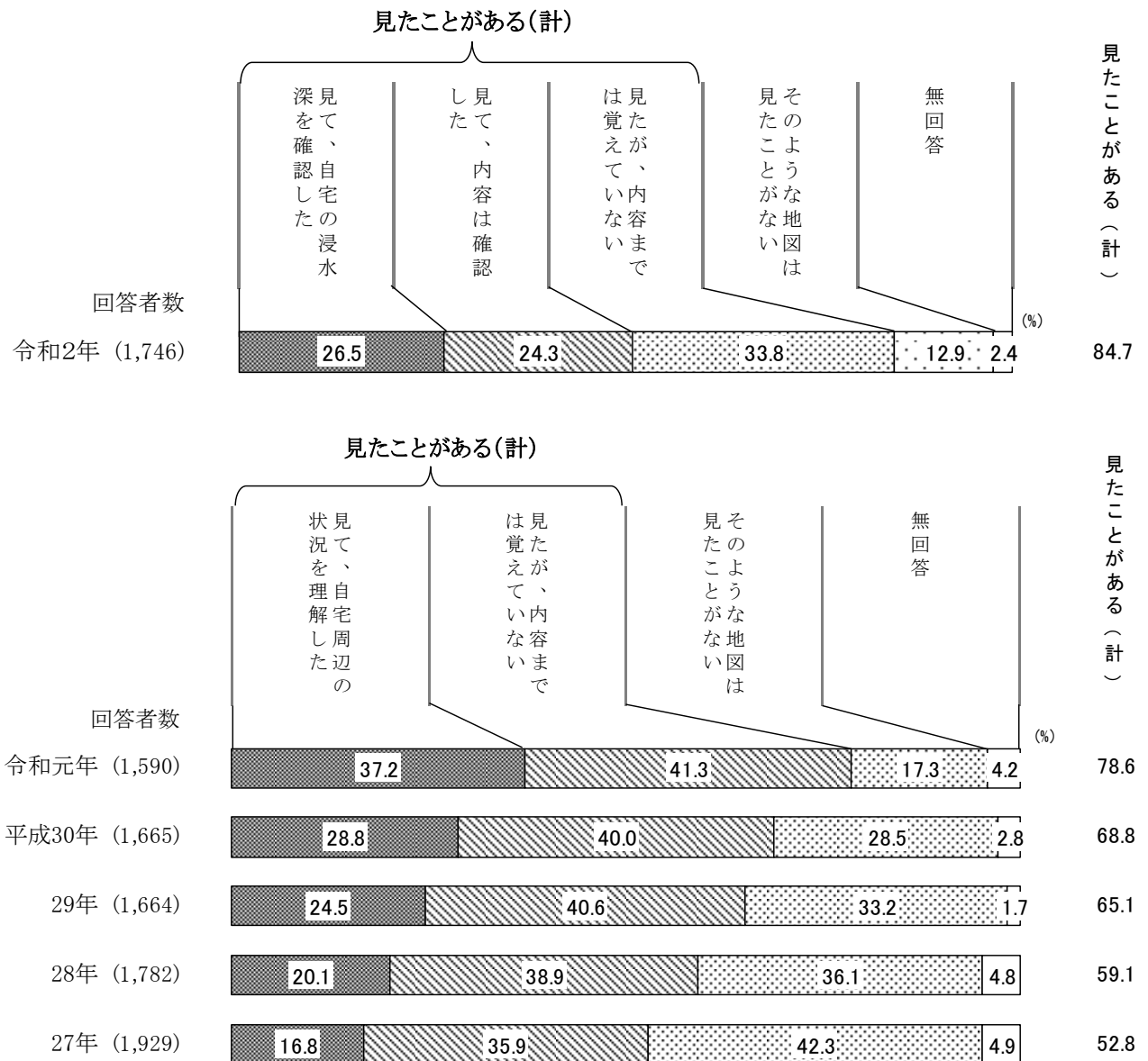
### 3 洪水対策

#### (1)「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■【見たことがある】は8割台半ばとなり、5年続けて確実に上昇

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 今回の令和2年度から、前年までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

### 〈第3章 調査結果の分析〈洪水対策〉〉

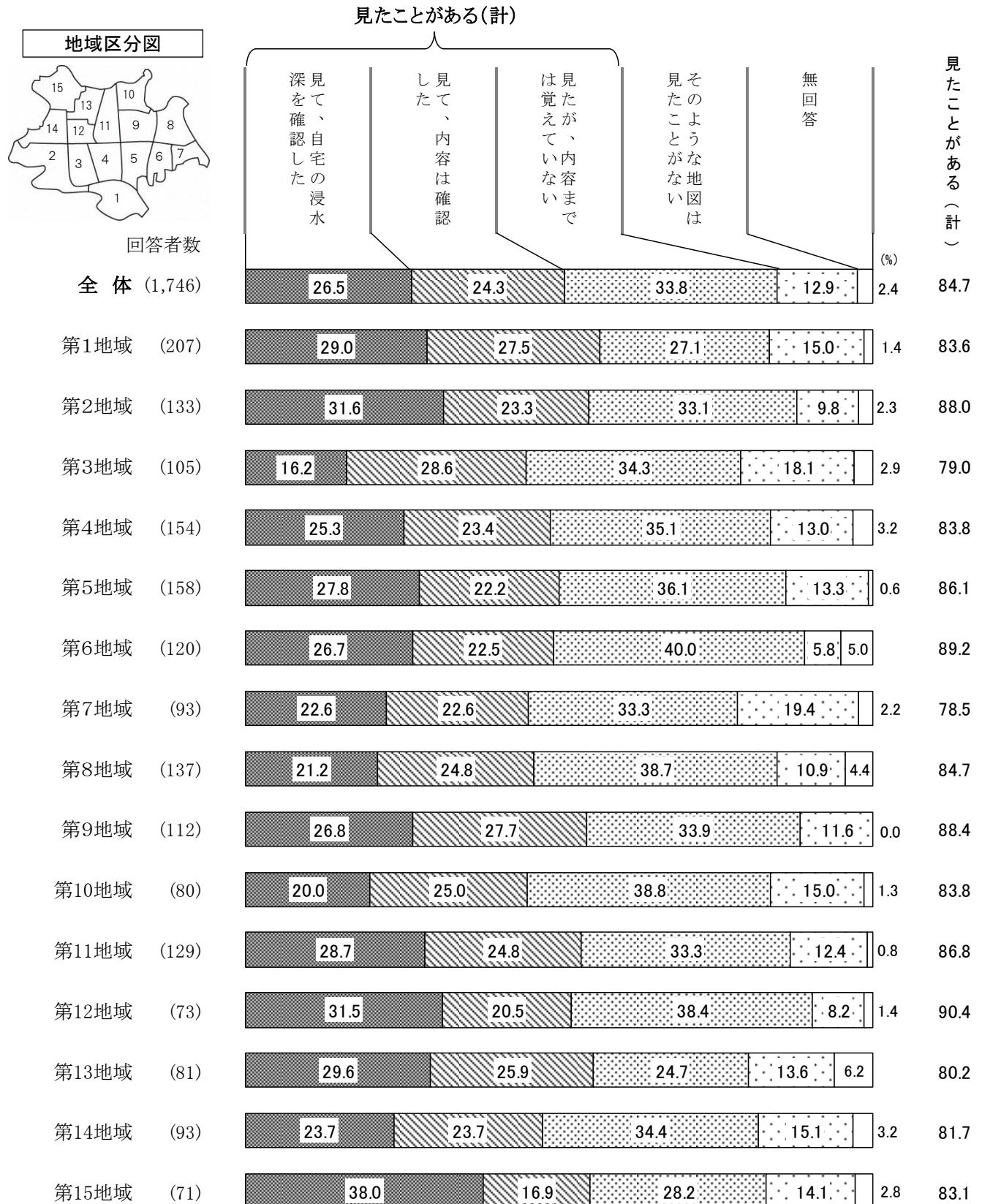
『足立区洪水ハザードマップ』で「見て、自宅の浸水深を確認した」が26.5%で、これに「見て、内容は確認した」の24.3%を合わせた、前回令和元年調査までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」に相当する割合は50.8%と5割を超えている。これらに「見たが、内容までは覚えていない」(33.8%)を合わせた【見たことがある】は84.7%と8割台半ばを占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は12.9%となっている。

経年でみると、今回は選択肢の細分化などあり単純な比較はできないが、今回の「見て、自宅の浸水深を確認した」(26.5%)と「見て、内容は確認した」(24.3%)を合わせた、前回令和元年調査までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」に相当する割合は、前回の37.2%から今回50.8%と13.6ポイント増加しており、これらに「見たが、内容までは覚えていない」を合わせた【見たことがある】は、平成27年の52.8%から年々増加しており、令和2年の今回は、前回(78.6%)より6.1ポイント増加して、84.7%となっている。



地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第15地域で38.0%と最も高く、第3地域で16.2%と低い。一方、【見たことがある】は第12地域で90.4%と最も高く、次いで第2地域、第6地域、第9地域が9割弱で高くなっている。

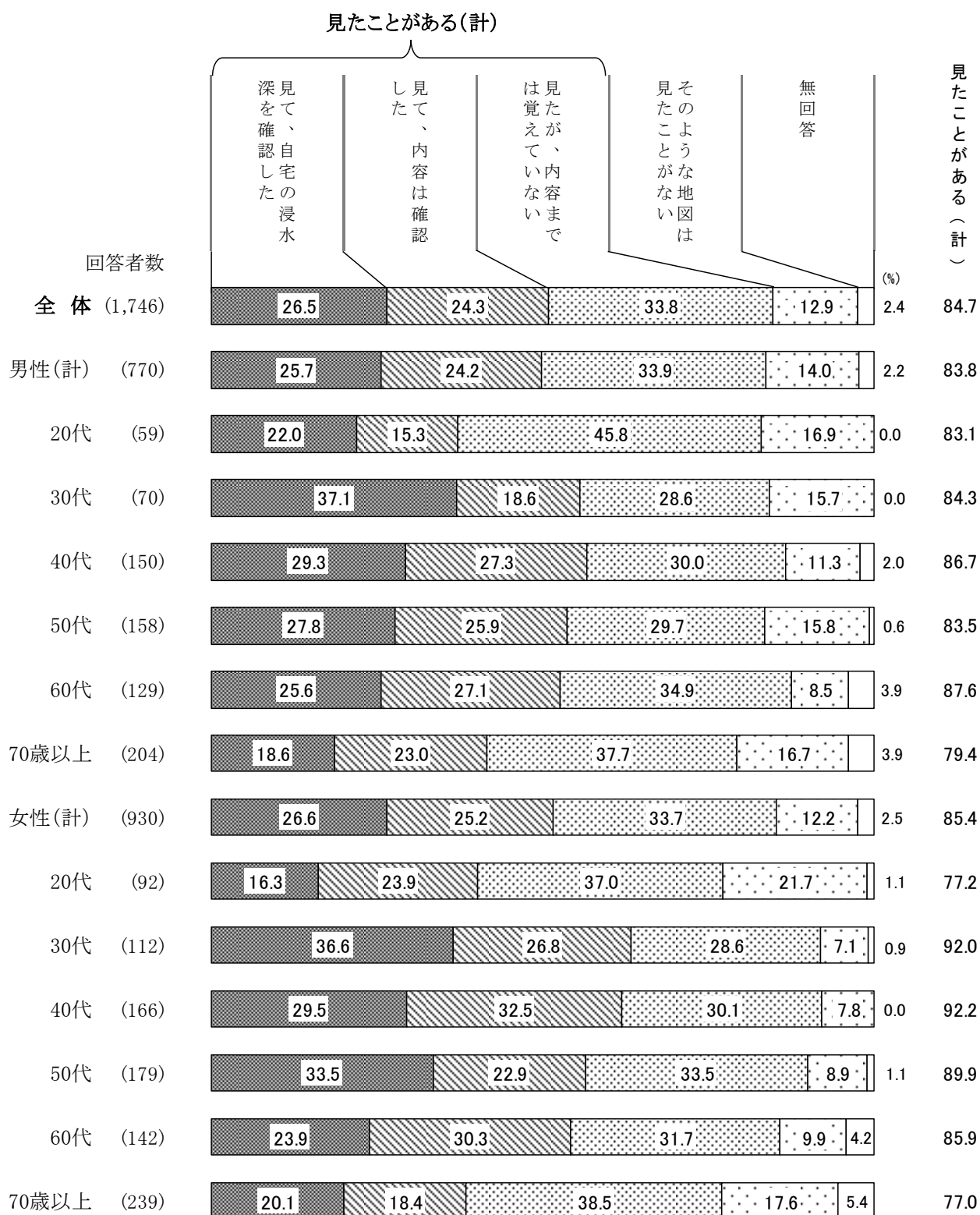
図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、回答分布に大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は男女の30代と女性の50代で3割台半ば以上と高く、【見たことがある】は女性の30代と40代で9割を超えて高く、女性の20代と男女の70歳以上で8割に届かず低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

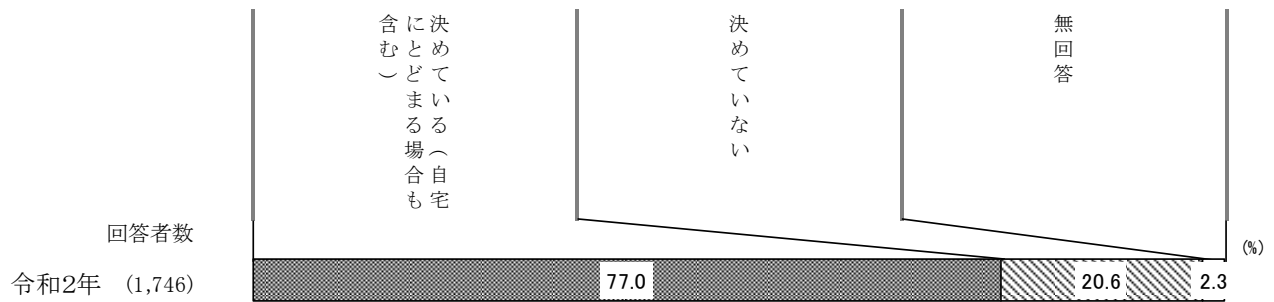


(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定

■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が8割弱を占めて多数

問12 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか  
(○は1つだけ)。

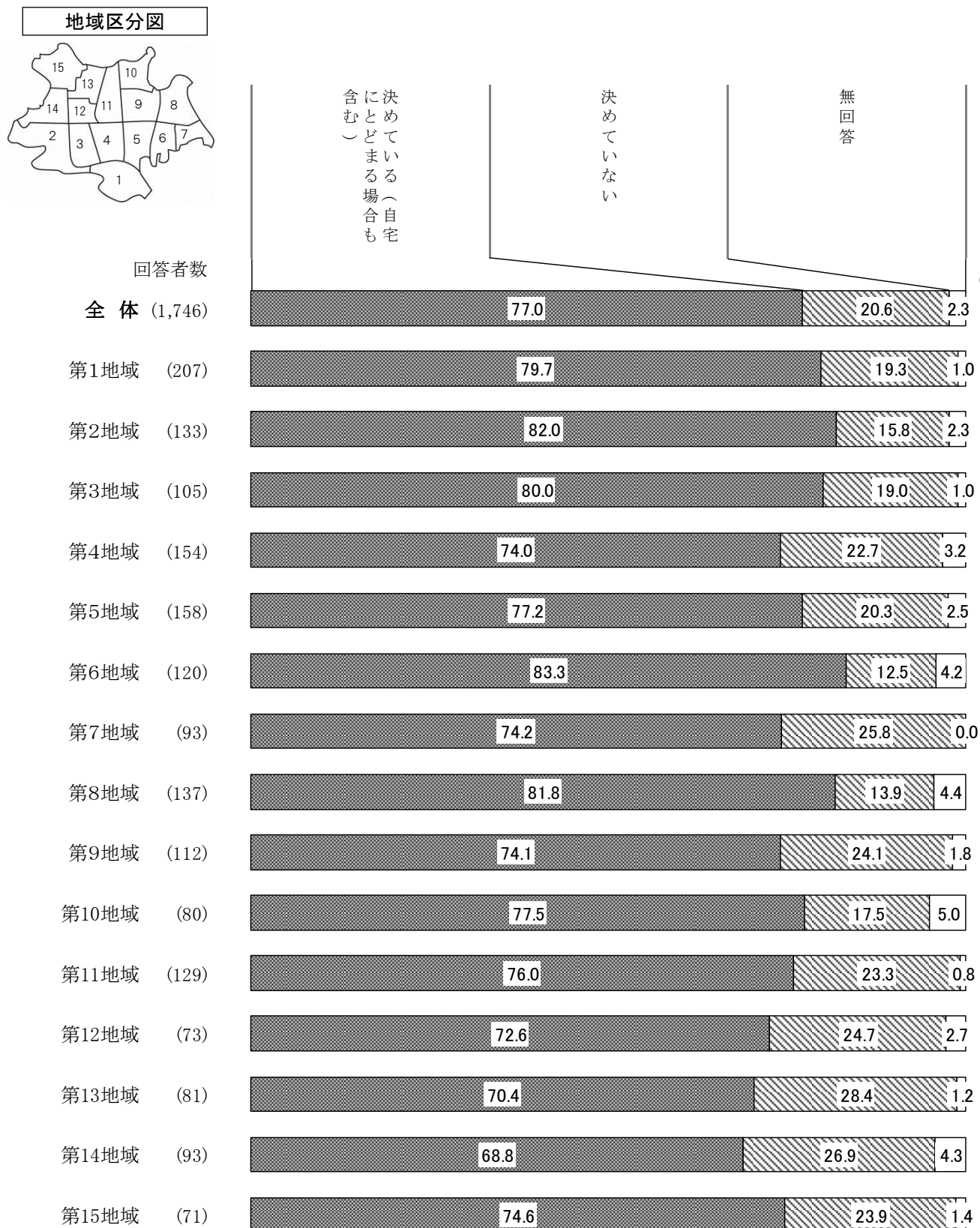
図3-2-1 河川はん濫時の避難場所の事前決定



今回の令和2年調査から新設された、河川はん濫の恐れがある場合の避難する場所の事前決定有無は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が77.0%と8割弱を占めて多く、2割強にとどまる「決めていない」（20.6%）を大きく上回っている。

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第6地域が83.3%と最も高く、第2地域（82.0%）、第3地域（80.0%）、第8地域（81.8%）の3地域も8割を超えてやや高いが、第14地域（68.8%）と第13地域（70.4%）では7割前後と低くなっている。

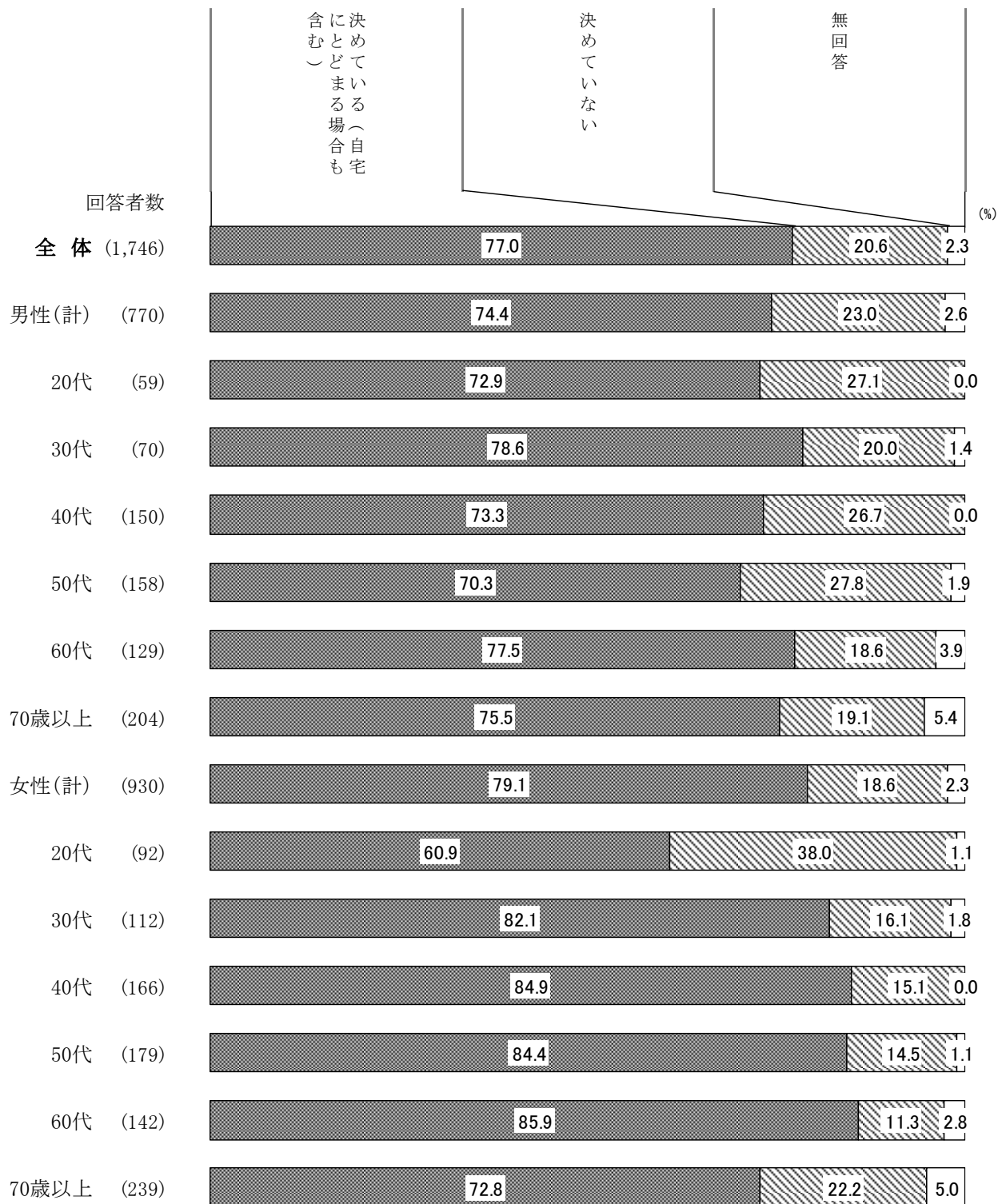
図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定



性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、女性の方が4.7ポイント高い。

性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は女性の20代（60.9％）で最も低いのを除くと、男女ともに目立った大きな違いはみられない。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定



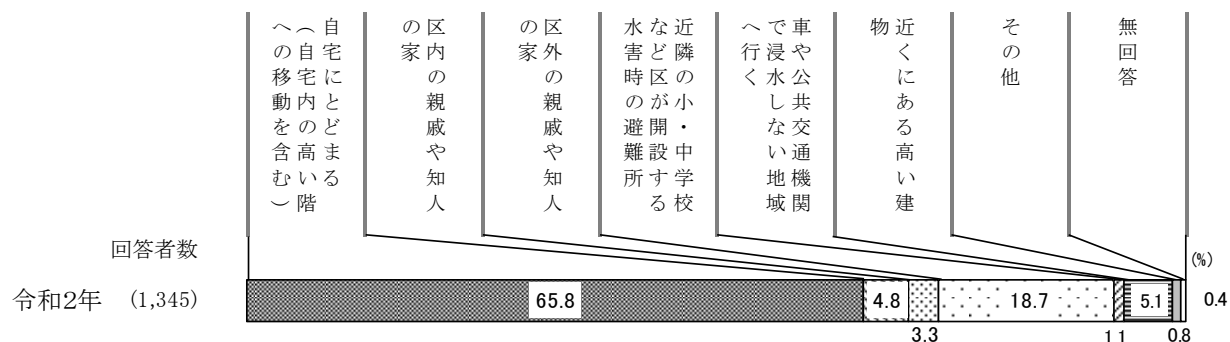
### （3）事前に決めている河川はん濫時の避難場所

■「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割台半ばで最多

問12で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に

問12-1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。

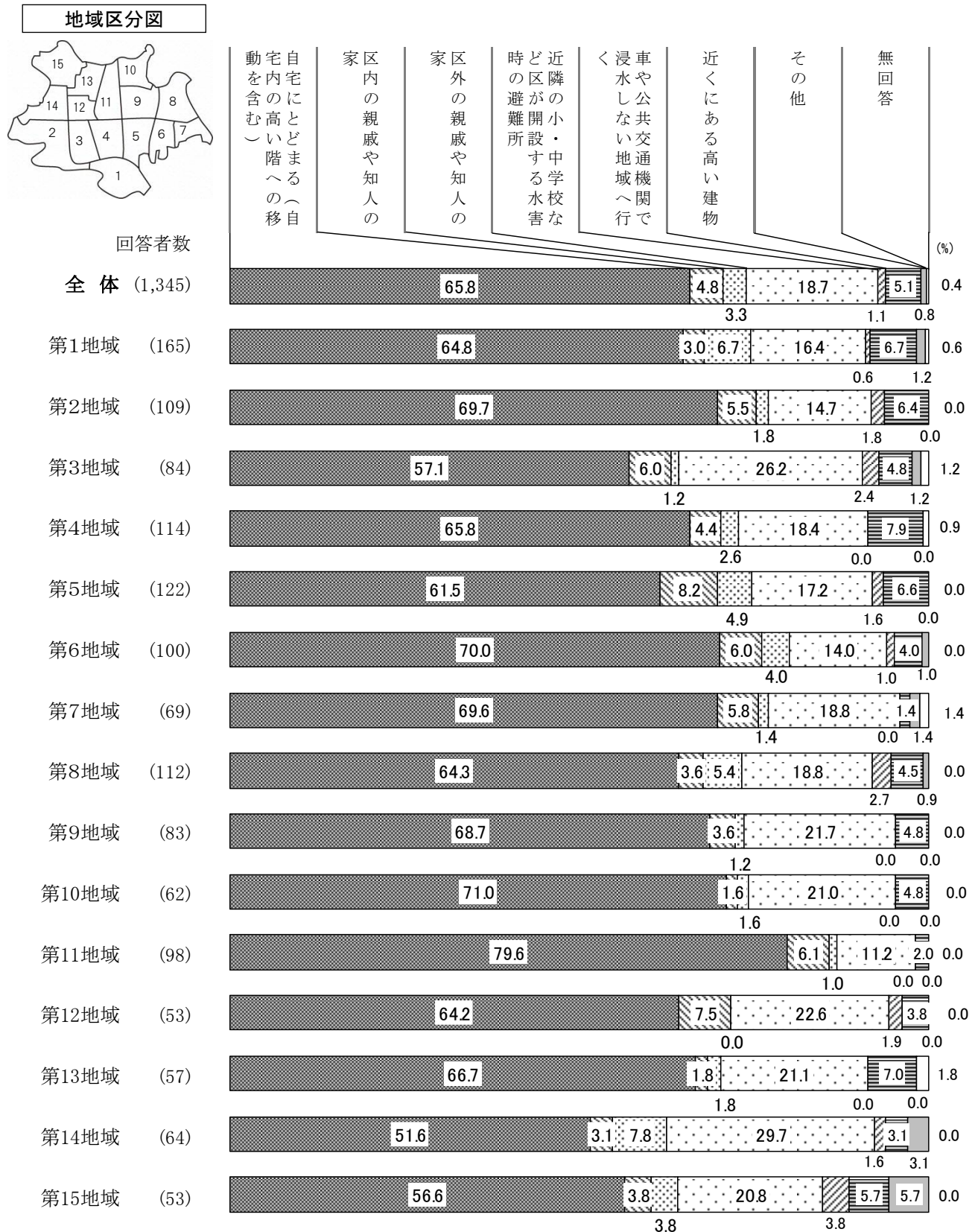
図3-3-1 事前に決めている河川はん濫時の避難場所



河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」と回答した人に、事前に決めている避難場所を聞いた結果（単数回答）は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が65.8%と6割台半ばを占めて最も多く、これに「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（18.7%）が2割弱で続くが、3位以下の「近くにある高い建物」（5.1%）、「区内の親戚や知人の家」（4.8%）、「区外の親戚や知人の家」（3.3%）などはいずれも1割未満となっている。

地域別にみると、「自宅にとどまる」は第11地域で79.6%とほぼ8割で最も高い一方で、第14地域で51.6%と5割強で最も低くなっており、第15地域（56.6%）や第3地域（57.1%）でも5割台で低めとなっており、これら「自宅にとどまる」が低めの地域では「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難場所」が総じて高めとなっている傾向がみられる。

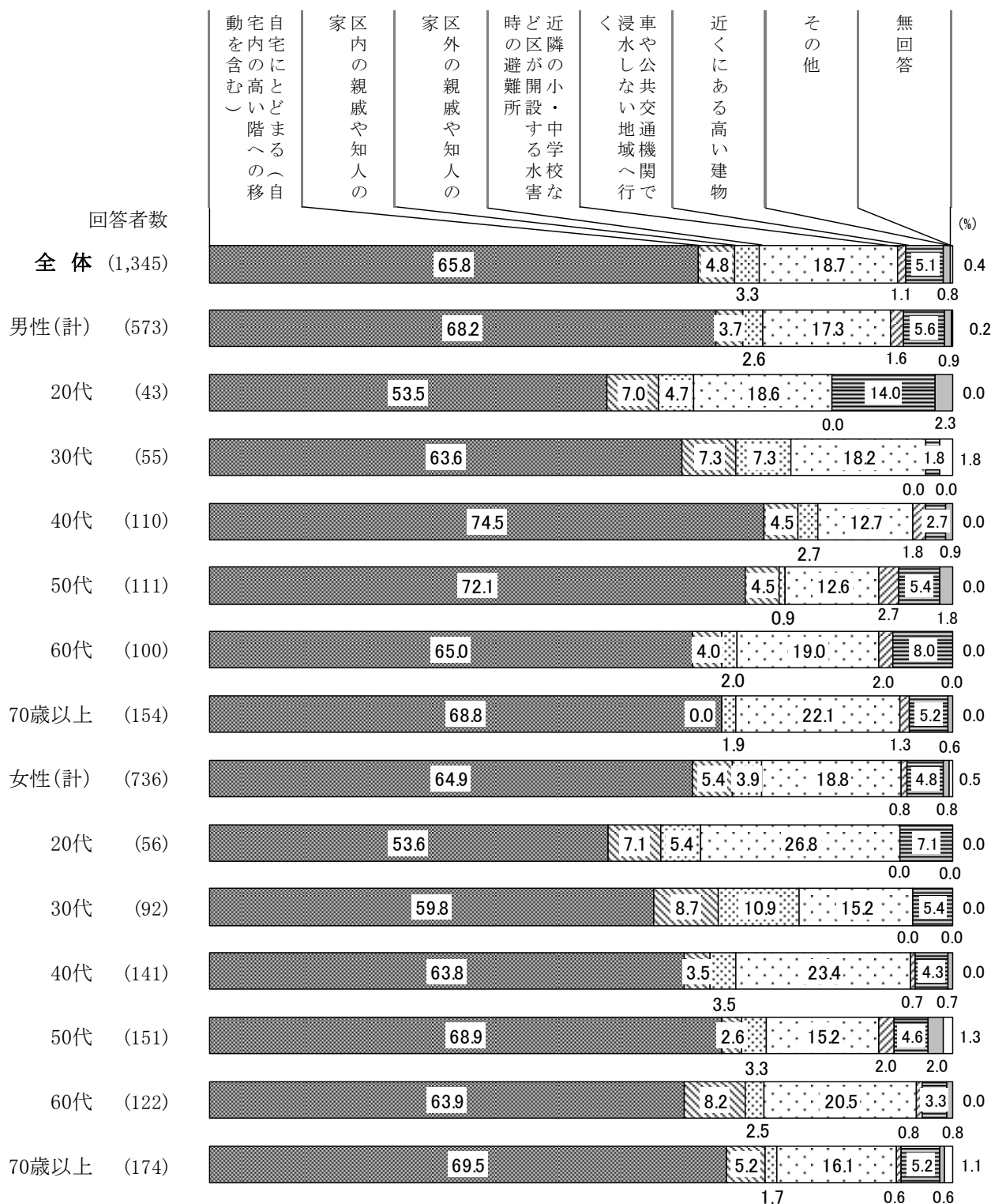
図3-3-2 地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



性別にみると、「自宅にとどまる」で男性の方が3.3ポイント高いのを除くと、男女の回答分布に目立った大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「自宅にとどまる」は男性の40代（74.5%）と50代（72.1%）で高い一方、男女の20代でともに5割前半で低くなっている。なお、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難場所」は女性の20代（26.8%）で最も高く、「近くにある高い建物」は男性の20代（14.0%）で最も高い。

図3-3-3 性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所





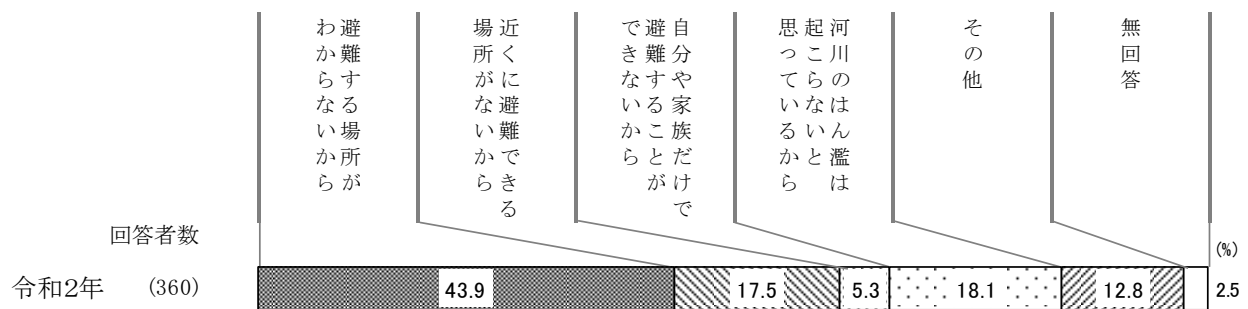
## (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

■「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最多

問12で「2 決めていない」とお答えの方に

問12-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか（○は1つだけ）。

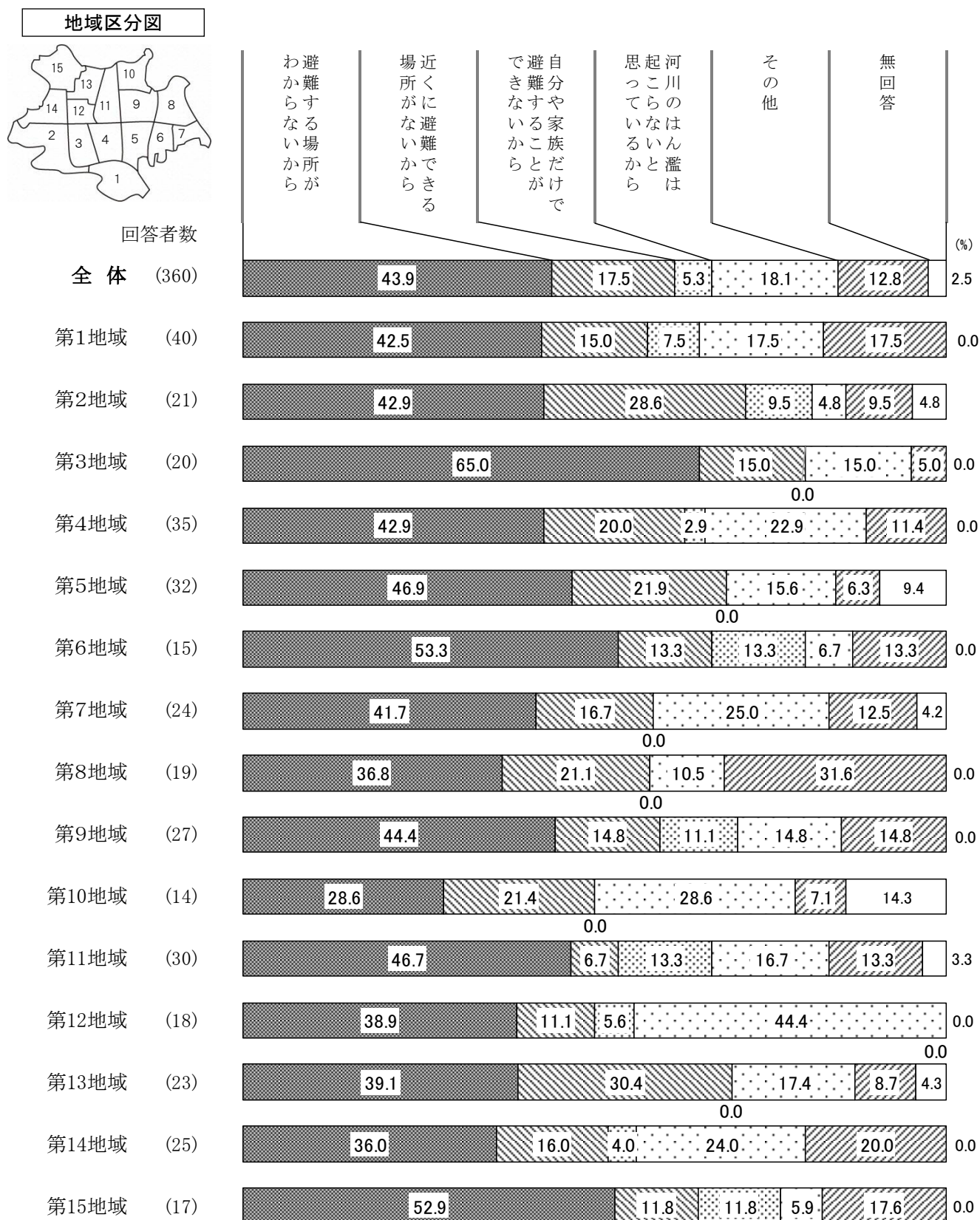
図3-4-1 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、事前に決めていない理由を単数回答で聞いた結果は、「避難する場所がわからないから」が43.9%と4割台半ばを占めて最も多く、これに「河川のはん濫は起こらないと思っているから」（18.1%）と「近くに避難できる場所がないから」（17.5%）の2項目がともに2割弱の僅差で並んで上位となっている。

地域別にみると、サンプル数の少ない点に留意する必要があるが、「避難する場所がわからないから」は第3地域で6割台半ばと高く、第10地域で3割弱と低い。また、「近くに避難できる場所がないから」は第13地域と第2地域で3割前後と高く、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は第12地域で4割台半ばと高い。

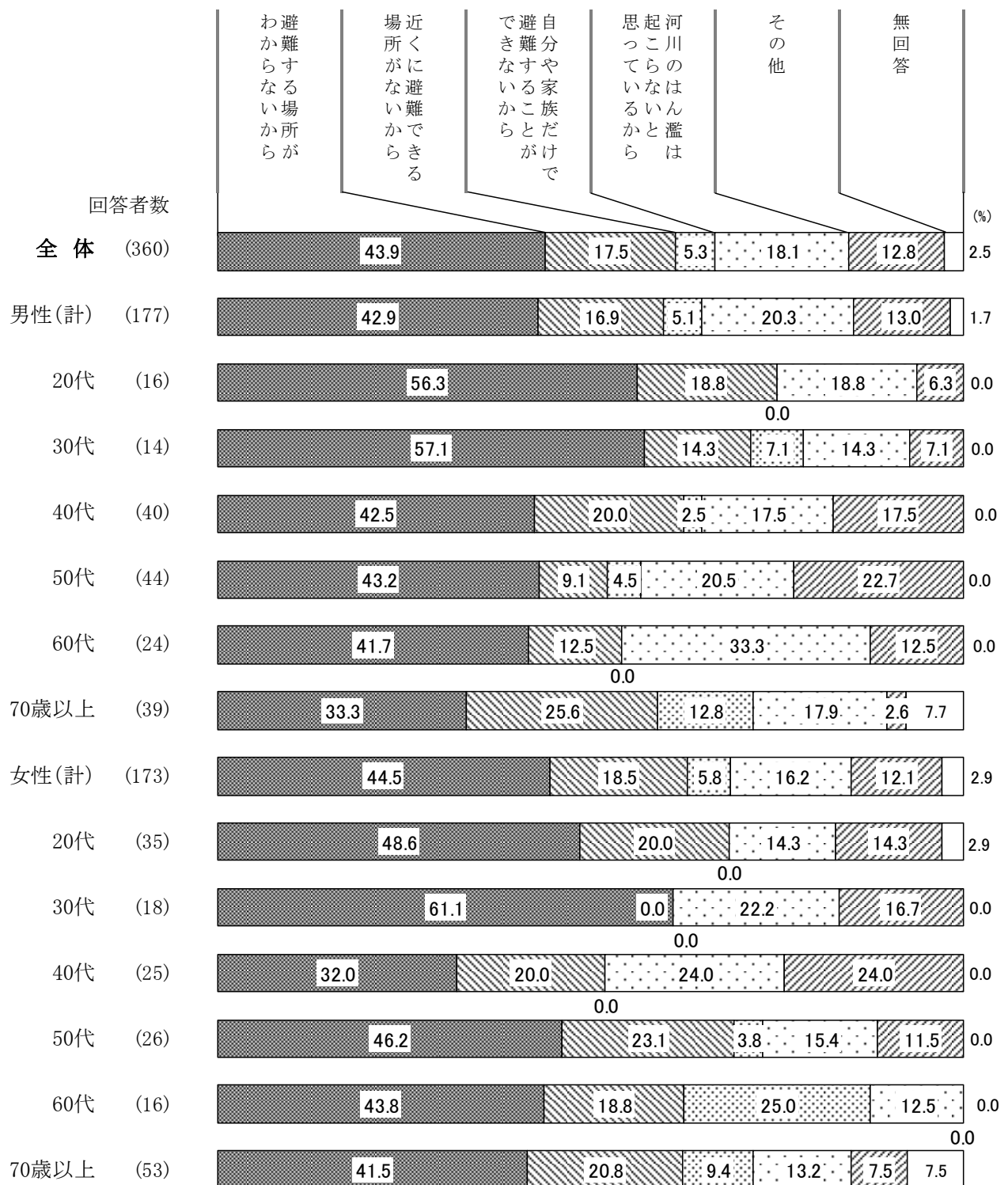
図3-4-2 地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



性別にみると、男女別の回答分布に目立った大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、サンプル数の少ない点に留意する必要があるが、「避難する場所がわからないから」は女性の30代で6割強と高く、男性の70歳以上と女性の40代で3割強と低い。一方「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は男性の60代で3割台前半と高い。

図3-4-3 性別、性・年齢別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

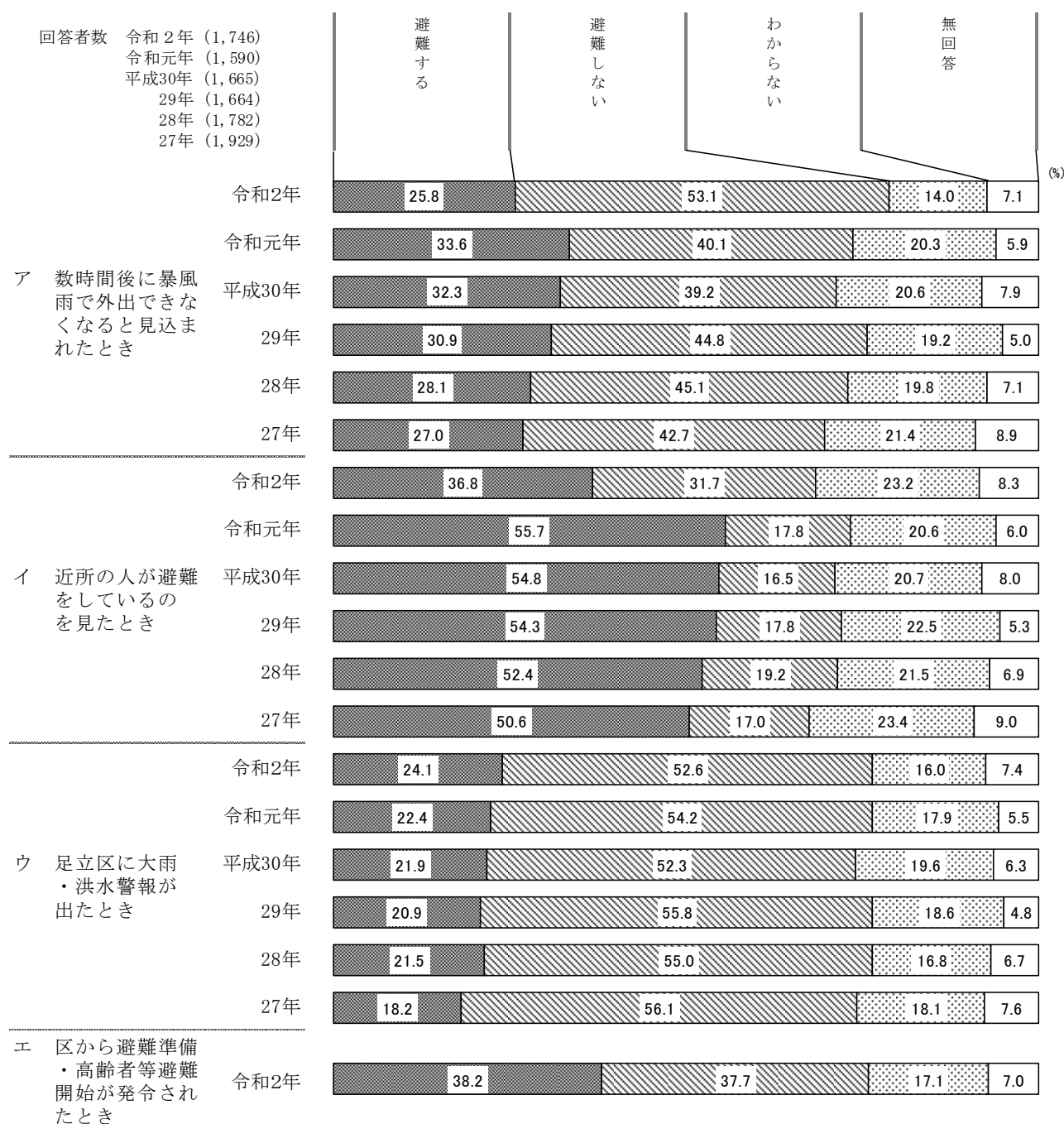


(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■「避難する」は〈区から避難勧告・指示が発令〉と〈自宅付近が浸水〉が6割台で高い

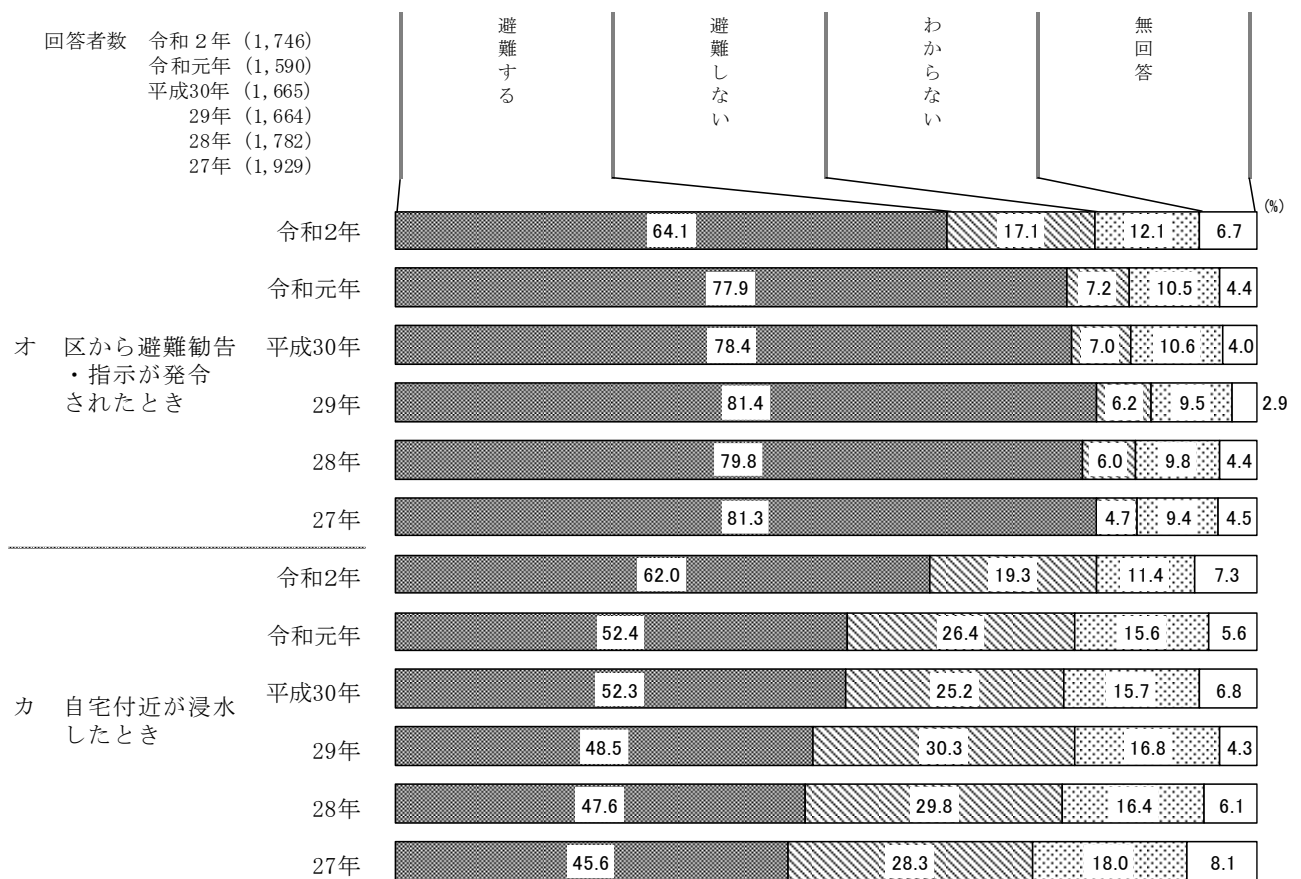
問13 河川がはん濫して、浸水被害になるような大洪水が迫っている場合、以下のア～カまでの情報を知ったとき、あなたは避難しますか（自宅内の高い場所への移動も含む）  
（○はそれぞれ1つずつ）。

図3-5-1-① 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



※「エ 区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき」は、今回の令和2年度からの新設項目。

図3-5-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかをア～カの6項目について質問した。

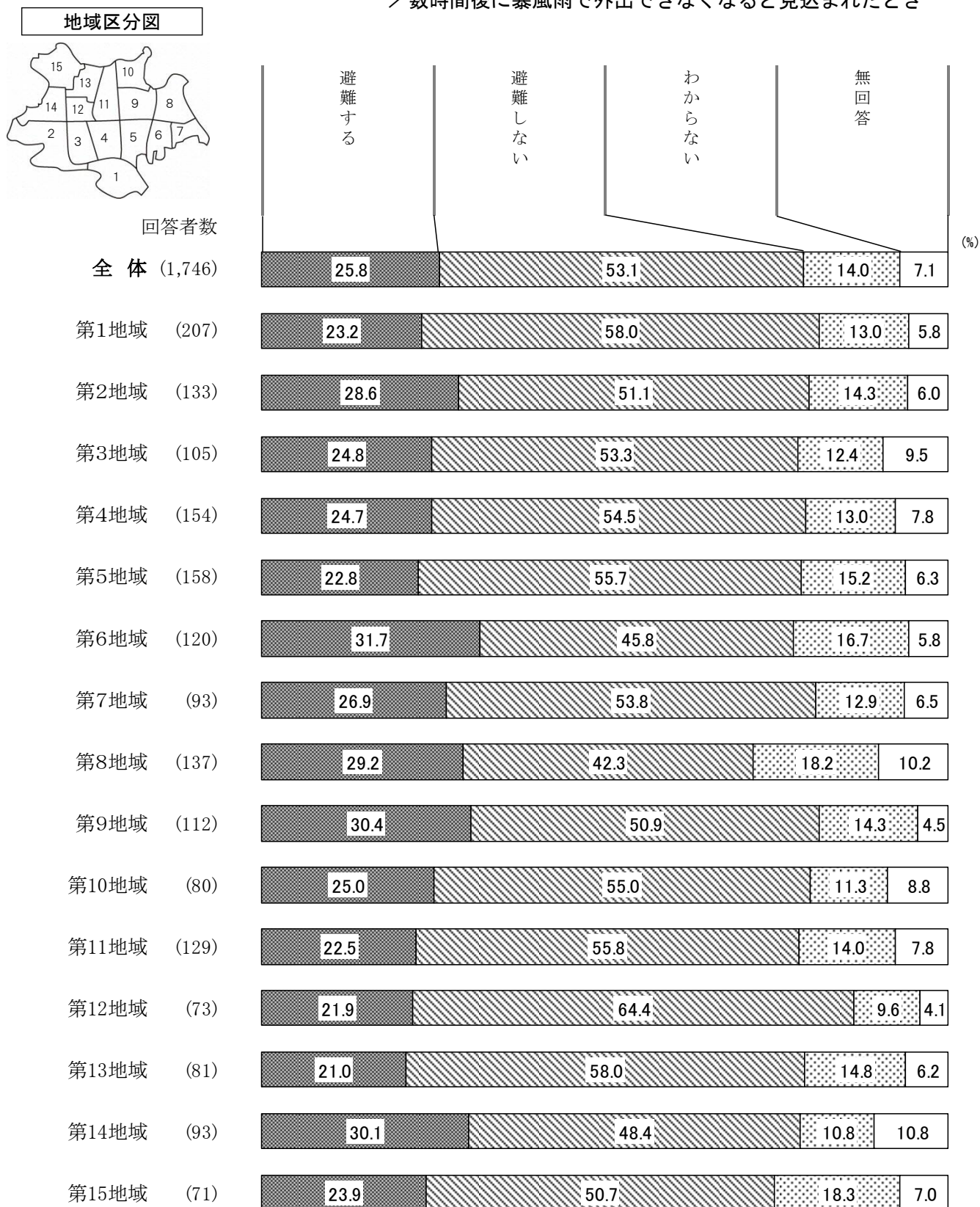
「避難する」の割合が多い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が64.1%と6割台半ばで最も高く、これに〈自宅付近が浸水したとき〉(62.0%)が僅差の6割強で続き、以下、新設の〈区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき〉(38.2%)と〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(36.8%)がともに3割台後半で並んで続いている。

経年でみると、「避難する」と回答した人の割合は、〈自宅付近が浸水したとき〉(9.6ポイント増)が前回より増加した一方で、最上位の〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉(13.8ポイント減)と4番目の〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(18.9ポイント減)の2項目は前回より大きく減少しており、項目「エ」を新設され項目順も入れ替えた今回令和2年の結果は、前回令和元年までの過去5年間の結果とは異なる回答傾向となっている。

〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について、地域別でみると、「避難しない」が第12地域で6割台半ばと最も高く、これに第1地域と第13地域がともに6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

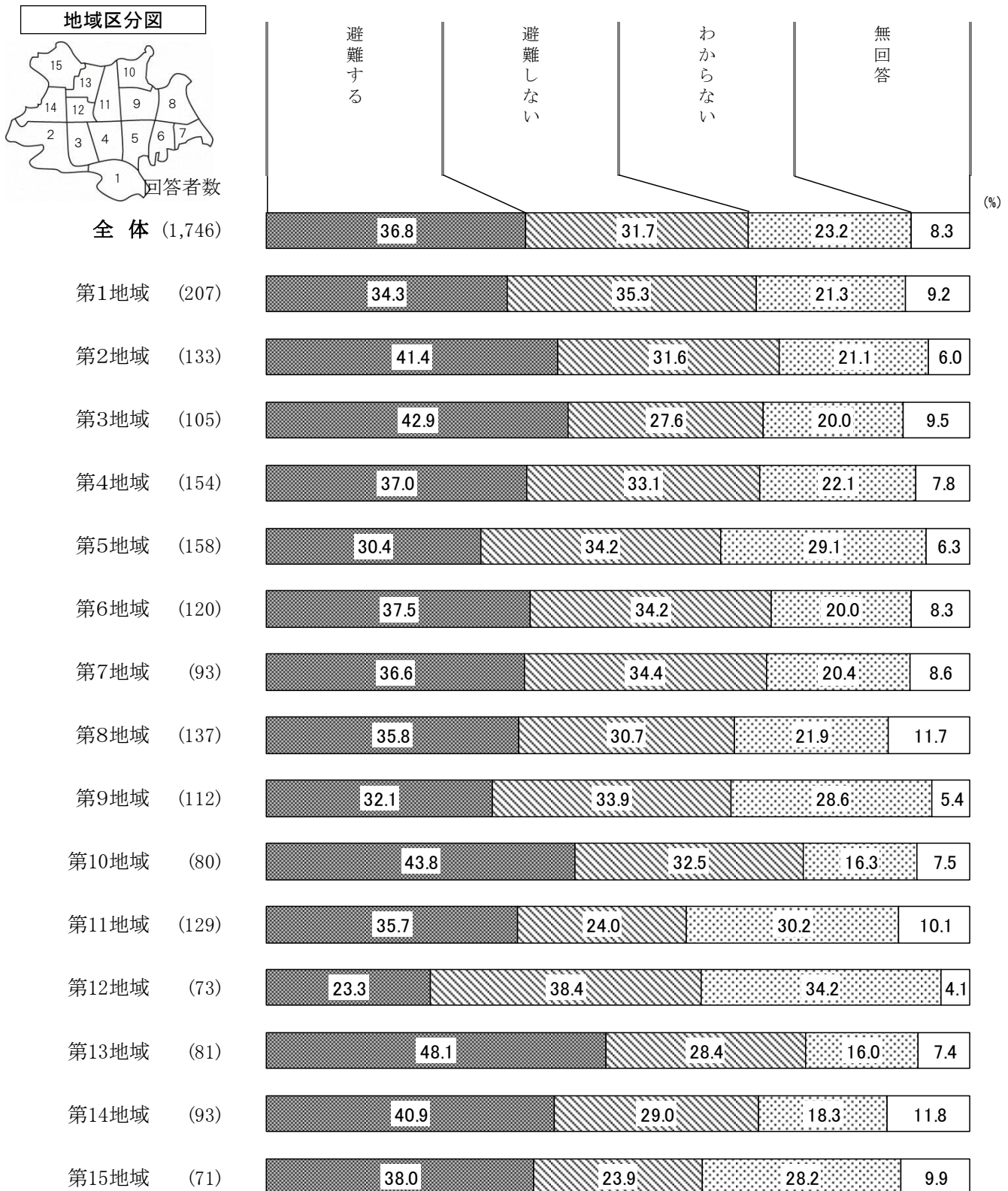
図3-5-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈近所の人が避難しているのを見たとき〉について、地域別でみると、「避難する」は第13地域が5割弱と最も高く、第10地域と第3地域も他の地域より高くなっている。一方、「避難しない」は第12地域が4割弱と最も高く、第1地域、第5地域、第6地域、第7地域、第9地域でもそれぞれ3割台半ばとやや高めとなっている。

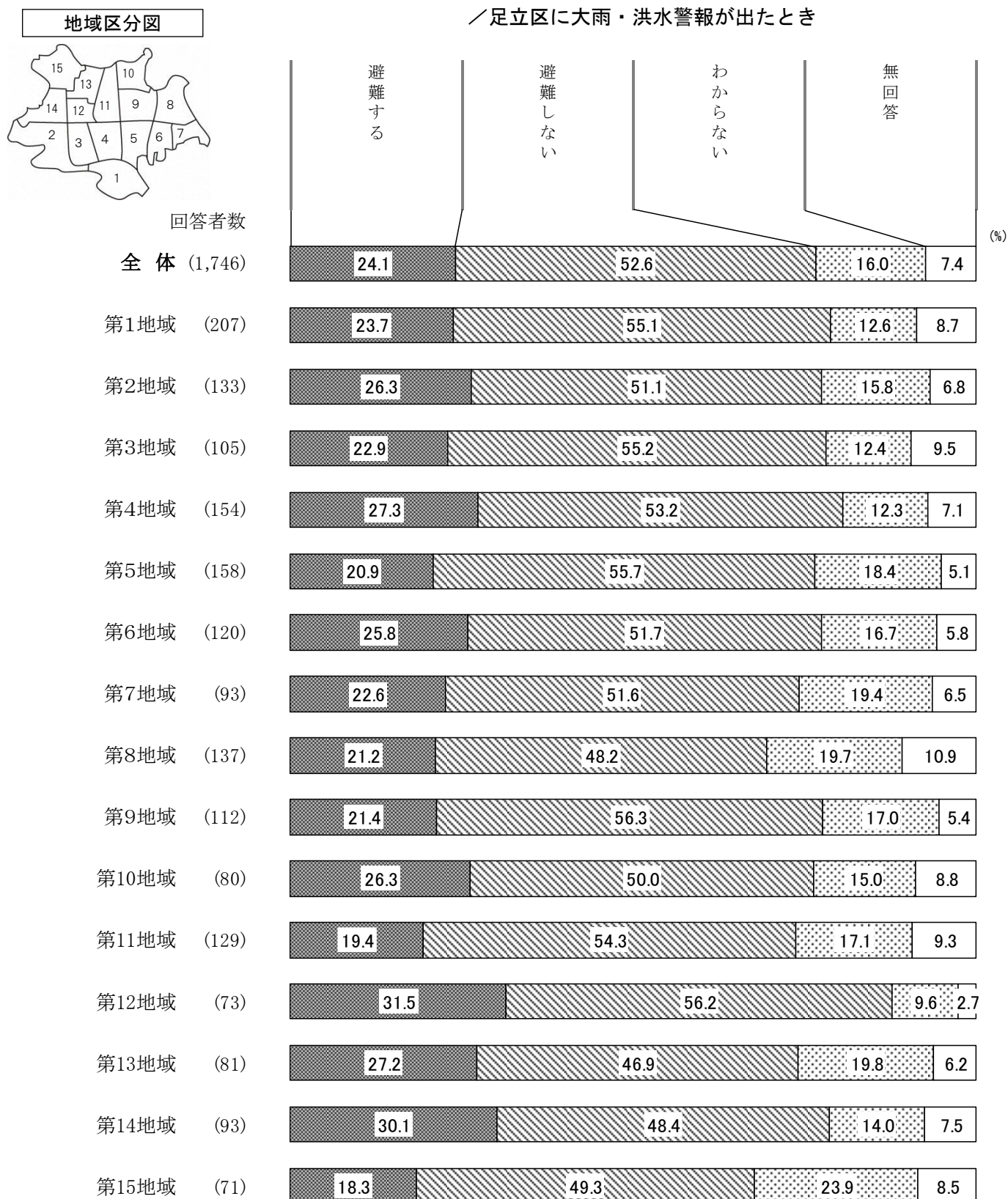
図3-5-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処  
／近所の人が避難をしているのを見たとき



### 〈第3章 調査結果の分析〈洪水対策〉〉

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別でみると、「避難しない」は第9地域や第12地域などで5割台半ばとやや高く、第13地域で4割台半ばと最も低いが、目立って大きな地域差はみられず、一方の「避難する」は第12地域と第14地域が3割台とやや高く、第11地域と第15地域で2割に届かず低めとなっている。

図3-5-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処  
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき

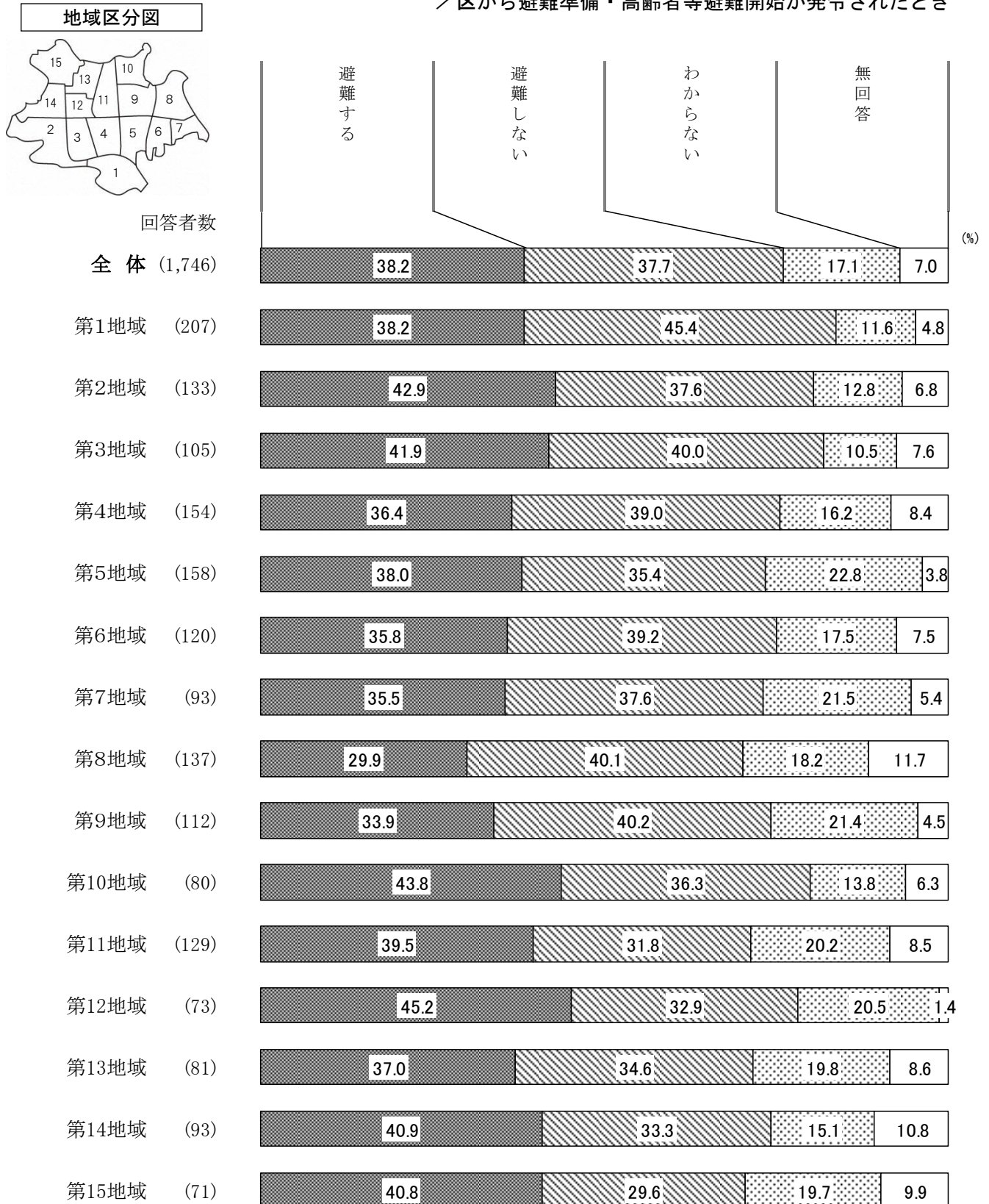




〈区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき〉について、地域別にみると、「避難する」は第12地域と第10地域で4割台半ばと高い一方で、第8地域で約3割と低くなっている。一方、「避難しない」は第1地域が4割台半ばと最も高く、第15地域が3割に届かず最も低い。

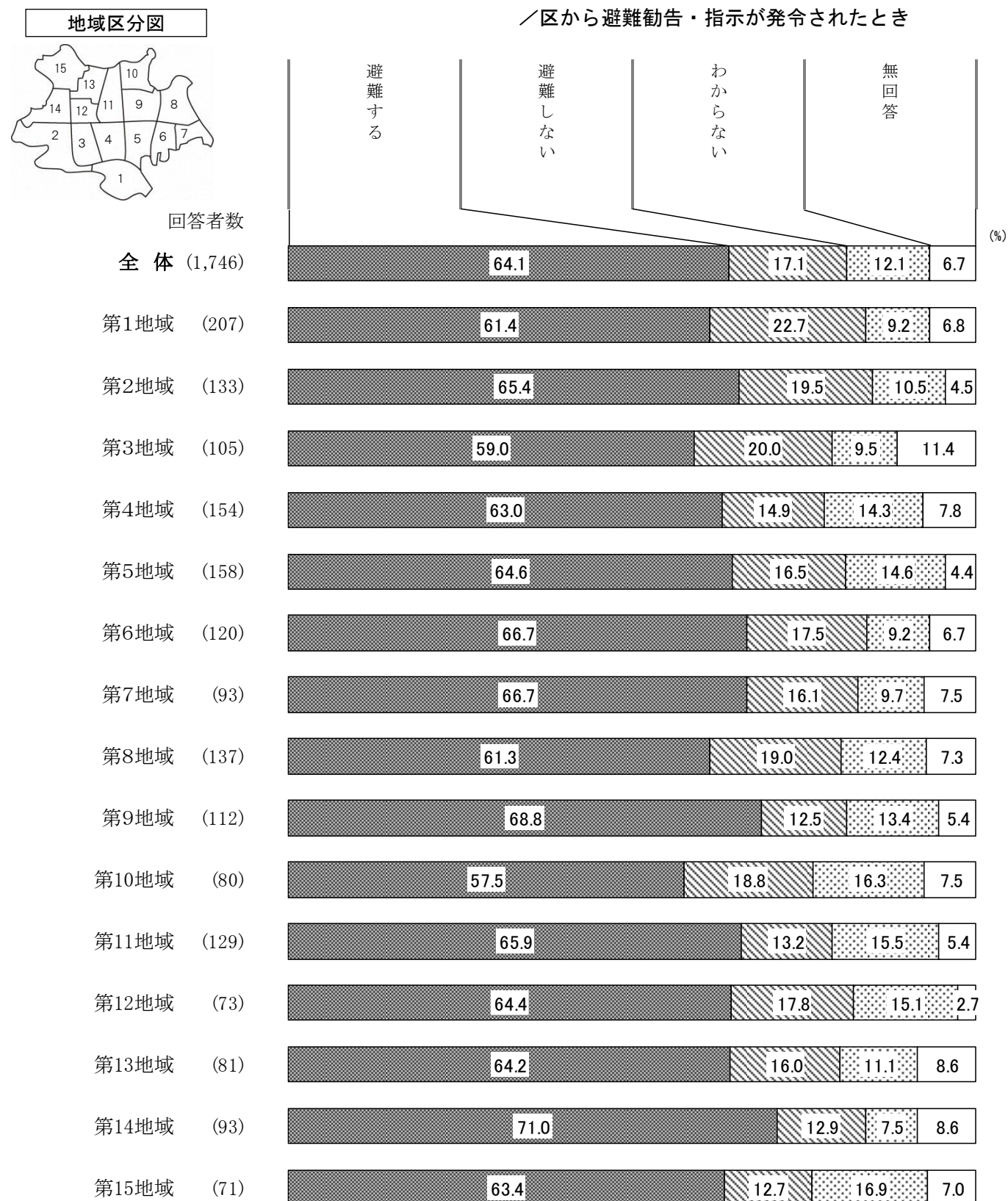
図3-5-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき



〈区から避難勧告・指示が発令された時〉について、地域別でみると、「避難する」は第14地域が7割強、第9地域が7割弱で高い一方、第10地域と第3地域では6割に届かず低めとなっている。なお「避難しない」は第1地域で2割強、第3地域で2割とやや高くなっている。

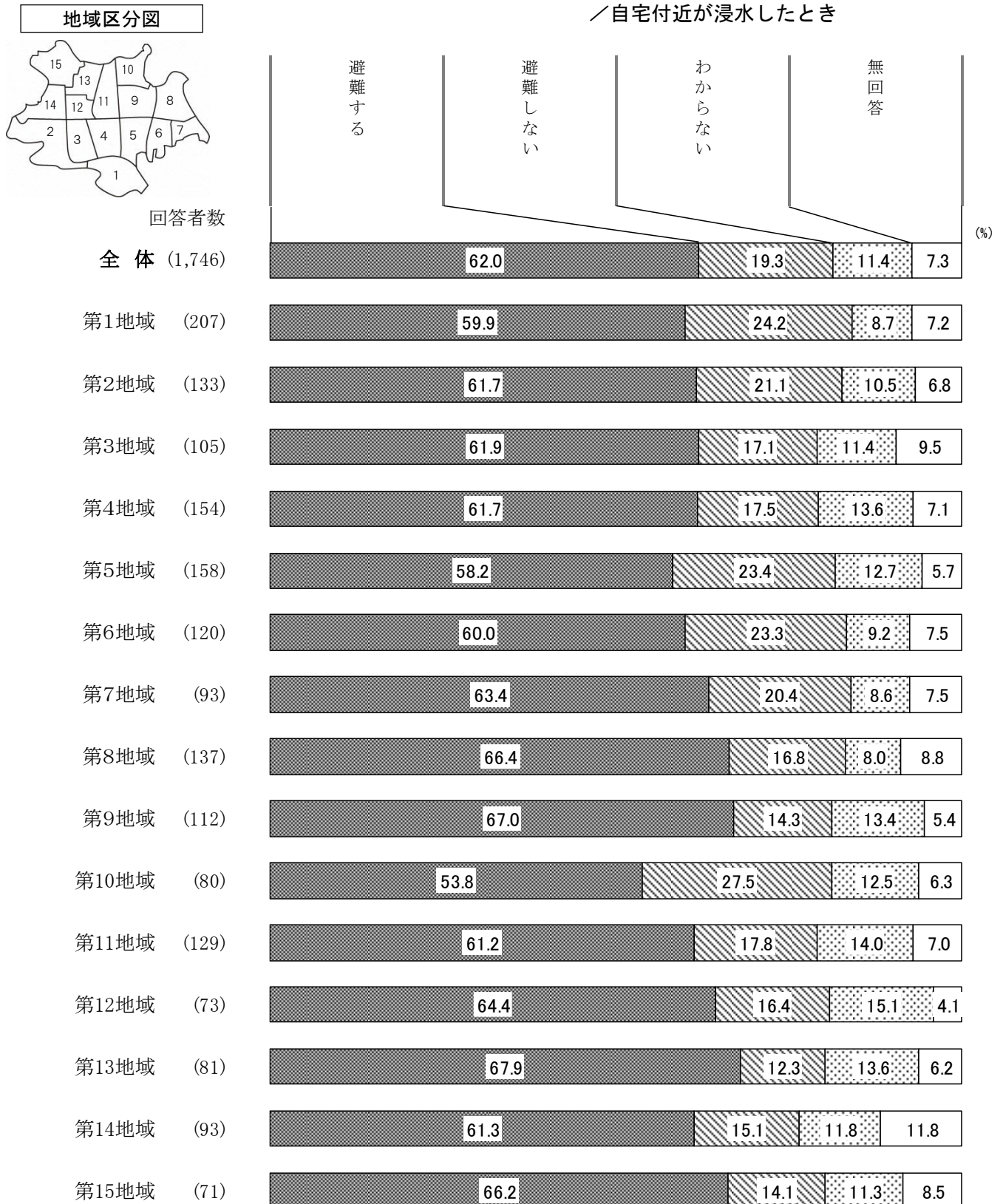
図3-5-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処



〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、「避難する」は第13地域や第9地域などで高めとなっており、第10地域で5割台半ばと低いのを除くと大きな地域差はみられない。なお「避難しない」は第10地域で3割弱と最も高くなっている。

図3-5-2-⑥ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／自宅付近が浸水したとき





## 4 区の情報発信のあり方

- 
- (1) 区情報の入手手段
  - (2) 重要と考える区情報
  - (3) 必要な時に必要とする区情報の入手状況
  - (4) 区情報が得られない理由
  - (5) 区情報が得られない理由の詳細
-



## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報入手手段

■「あだち広報」が7割弱で首位、「ときめき」や「区のホームページ」などが3割前後で続く

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

(○はあてはまるものすべて)。

図4-1-1-① 経年比較／区の情報入手手段

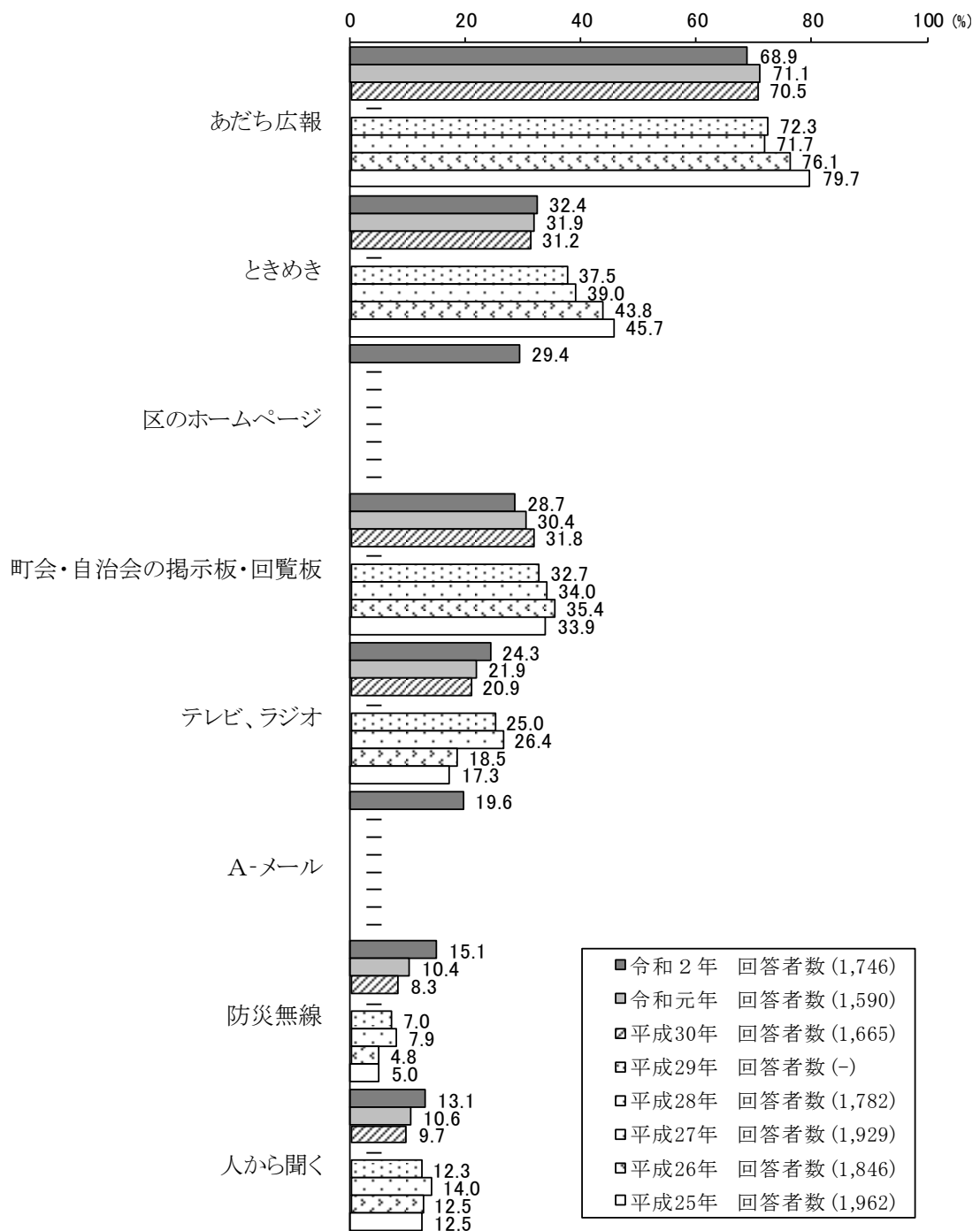
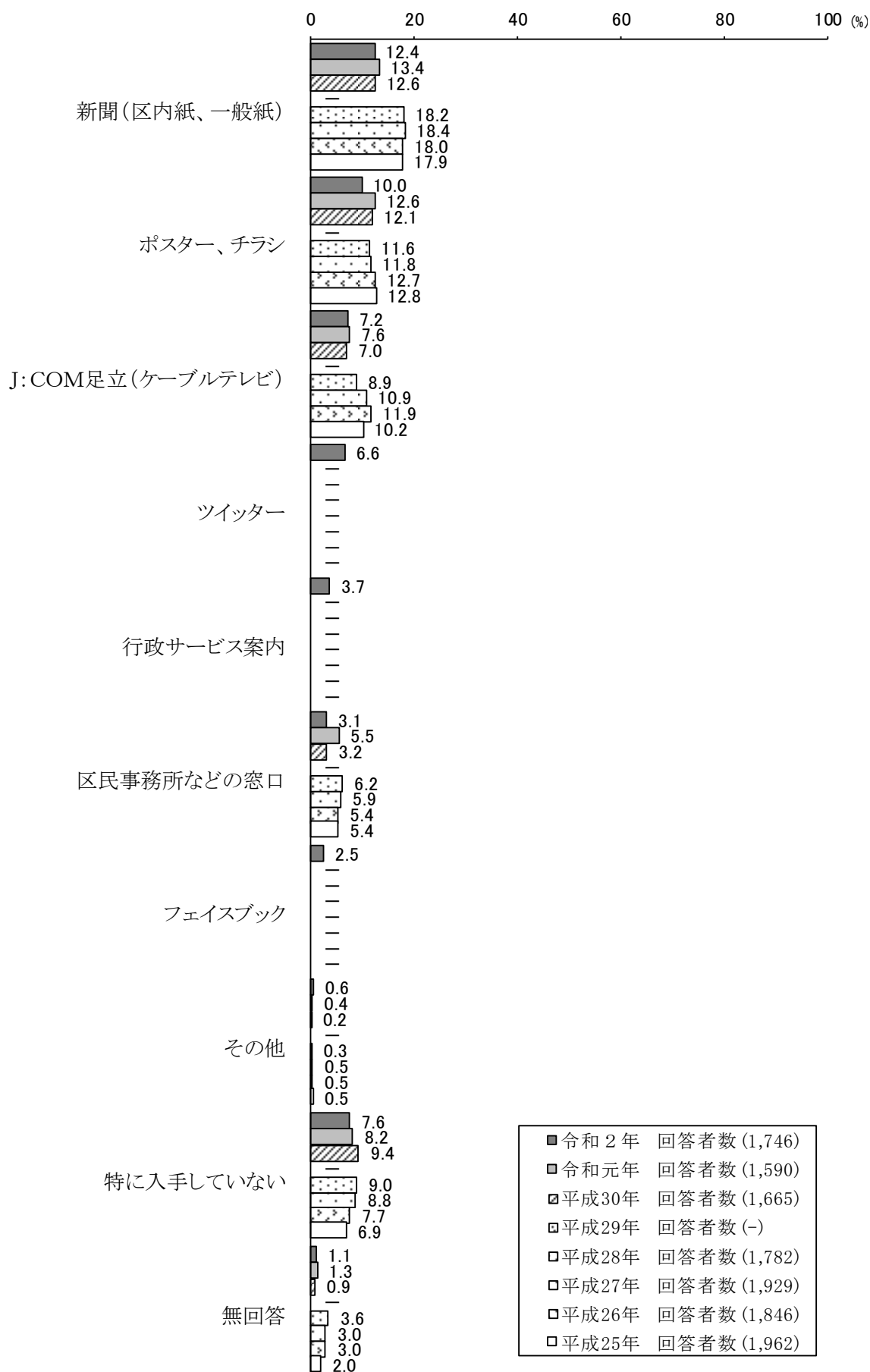


図4-1-1-② 経年比較／区情報の入手手段





- ※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。
- ※ 前年度まで「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」の単独1項目で測定していたものを、令和2年度よりそれぞれの4項目に細分化して聴取した。

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が68.9%で最も高く、以下「ときめき」(32.4%)、前回までの「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」から細分化された「区のホームページ」(29.4%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(28.7%)の3項目が3割弱で並んで上位となっている。

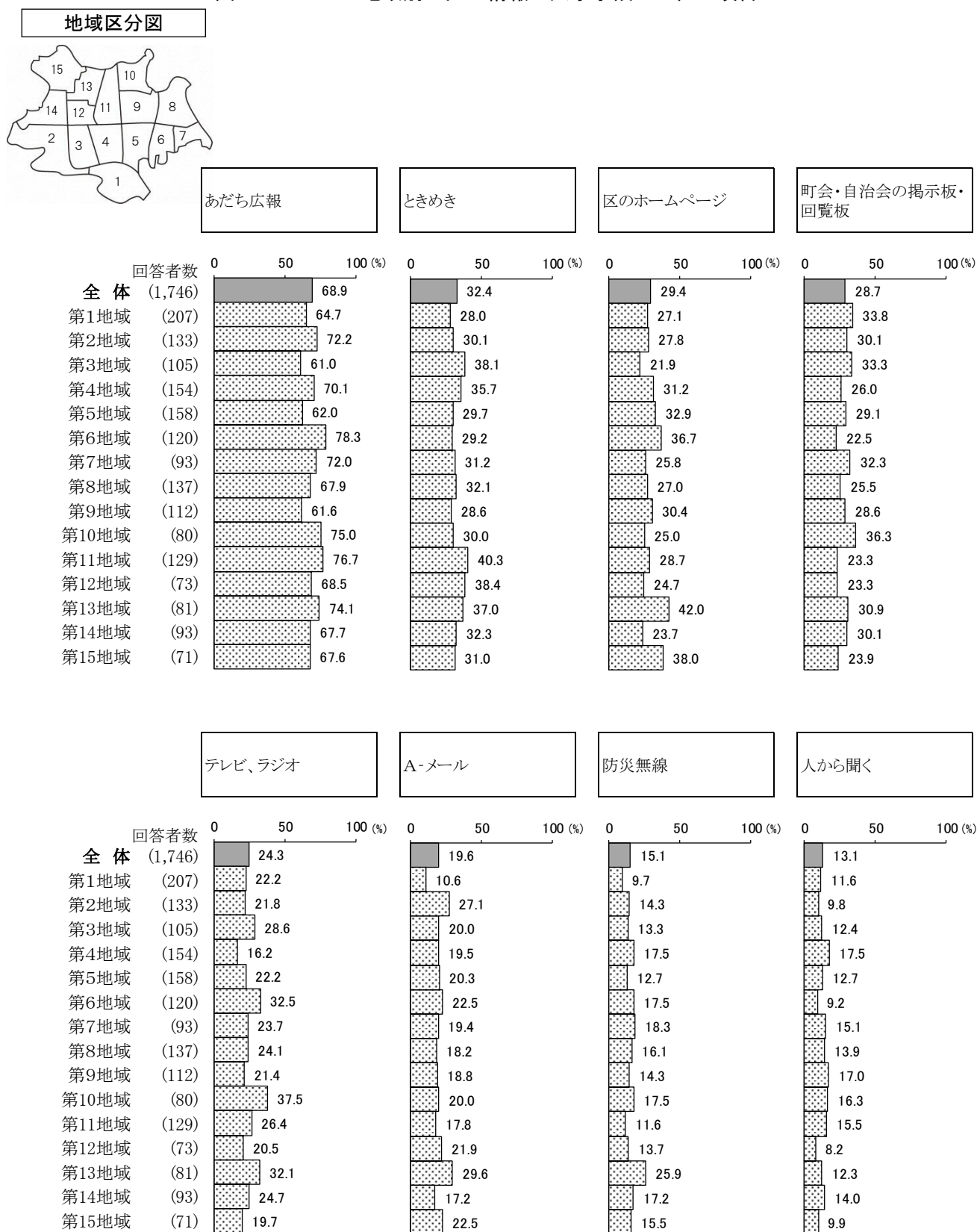
なお、前回までの「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」から細分化された各項目への反応は、上記の「区のホームページ」(29.4%)に続き、「A-メール」(19.6%)が約2割、「ツイッター」(6.6%)と「フェイスブック」(2.5%)はともに1割未満となっている。

経年でみると、「あだち広報」は平成27年調査以降ほぼ横ばいながら、今回は前回令和元年より2.2ポイント減少し、今回2位の「ときめき」もここ3年間は横ばいで、4位の「町会・自治会掲示板・回覧板」も平成26年以降漸減・横ばい傾向にある。

### 第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

地域別でみると、「あだち広報」は第6地域で8割弱、「ときめき」は第11地域で4割、「区のホームページ」は第13地域で4割強、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第10地域で3割台半ばと、それぞれ最も高くなっているが、上位項目に目立って大きな違いはみられない。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目

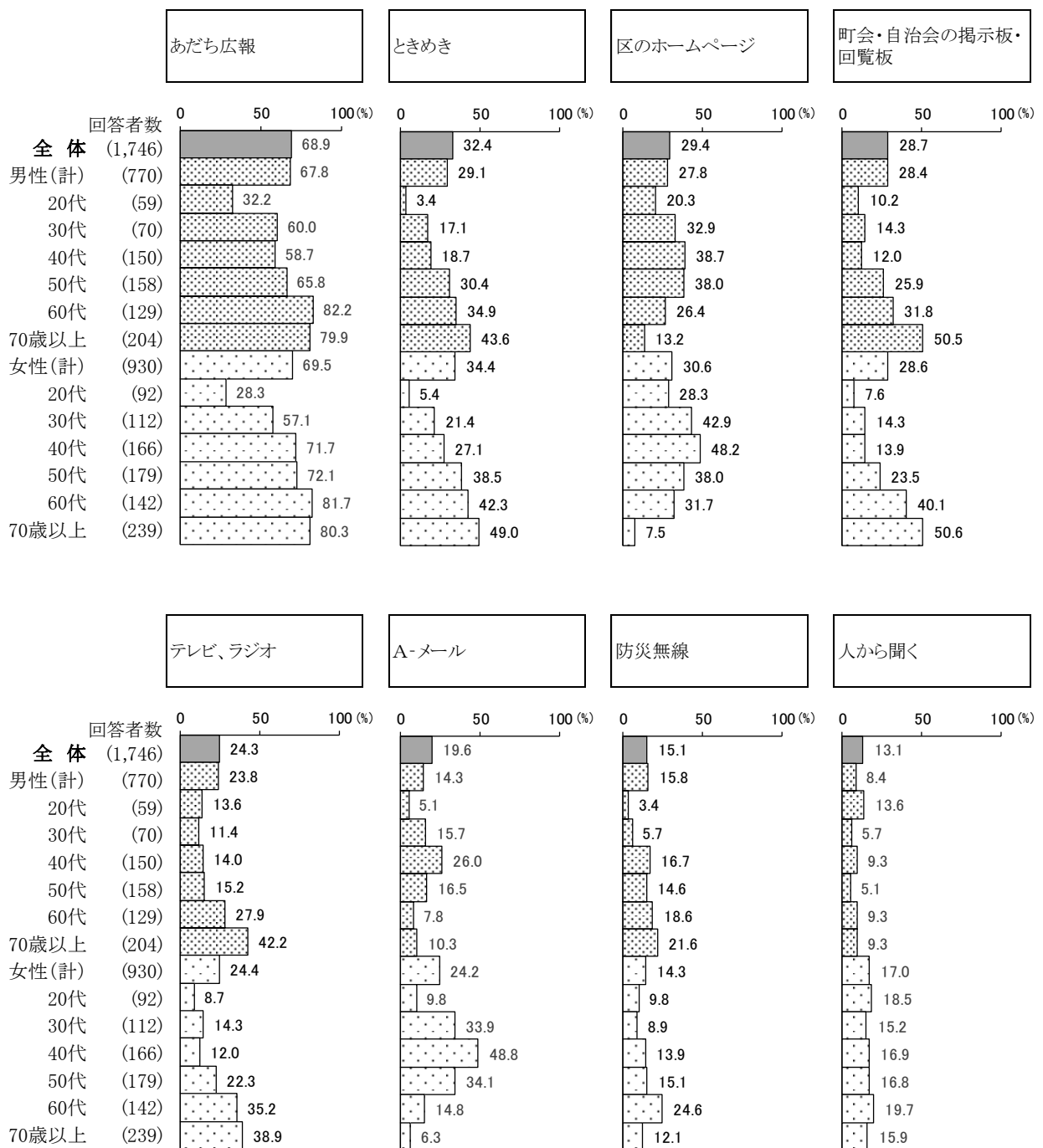


性別でみると、「A-メール」と「人から聞く」で女性の方が約10ポイント高いのを除くと、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上の両層で「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」「テレビ・ラジオ」のいずれもが他の年代層より高いが、「区のホームページ」は40代と50代が4割弱と高くなっている。

女性の場合も、男性とほぼ同様に、「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」「テレビ・ラジオ」はそれぞれ加齢とともに高まる傾向を示している。一方、「区のホームページ」と「A-メール」は40代とともに5割弱ととくに高くなっている。

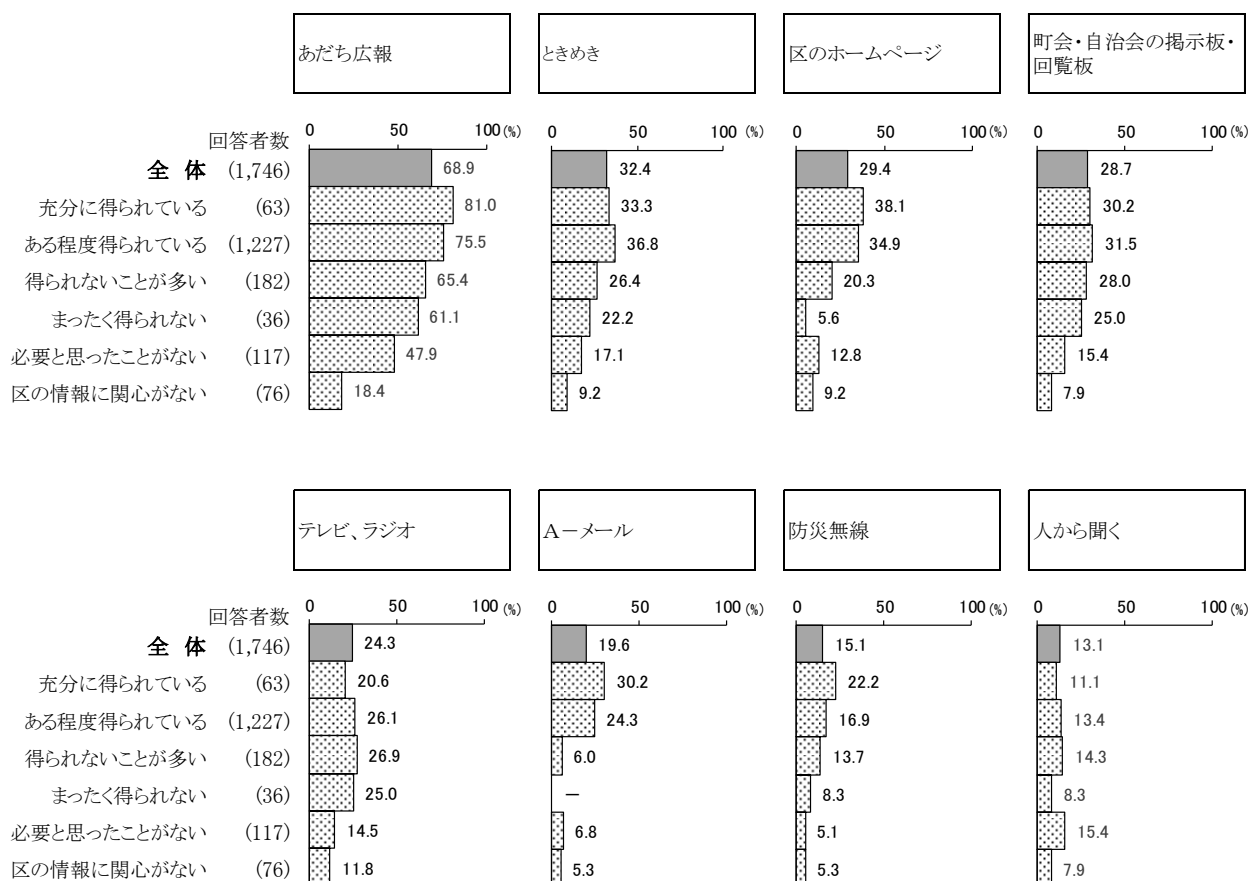
図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目



### 第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、上位の「あだち広報」「ときめき」「区のホームページ」「町会・自治体の掲示板・回覧板」などの多くの項目で、情報が得られている層ほどそれぞれの割合も高まる傾向を示している。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 重要と考える区の情報

■ “災害や気象”と“健康や福祉”がともに6割台前半で上位

問15 あなたは、区が発信するどのような情報が重要だと考えていますか

(〇はあてはまるものすべて)。

図4-2-1-① 経年比較／重要と考える区の情報

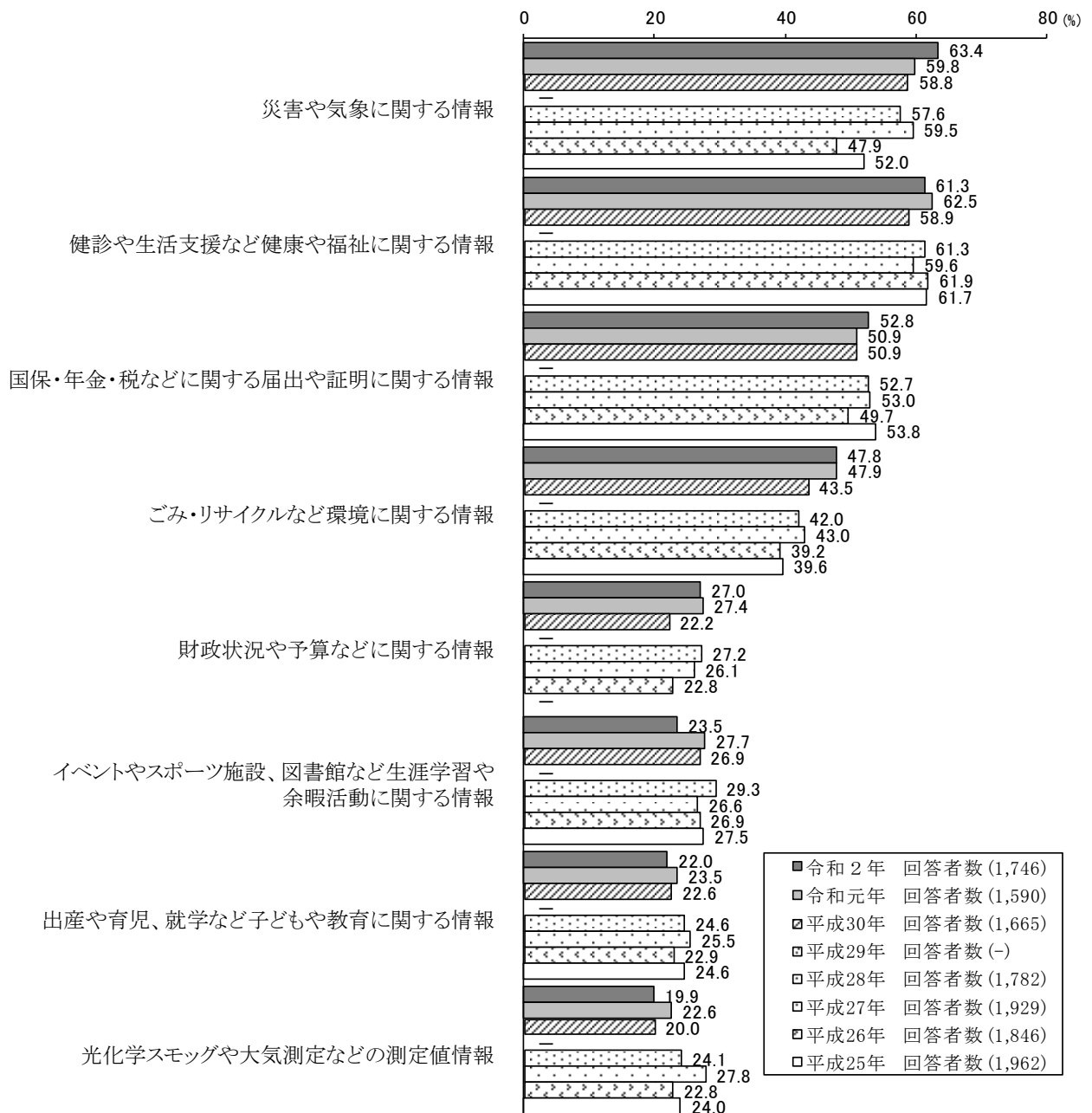
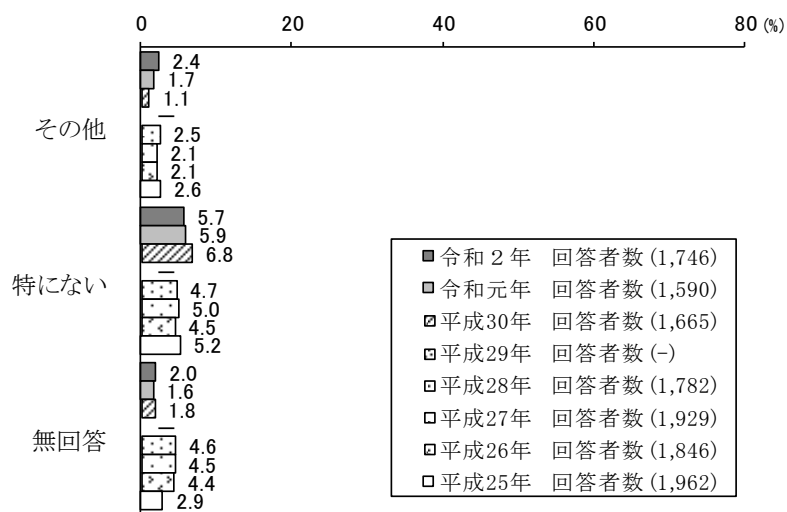


図4-2-1-② 経年比較／重要と考える区の情報



- ※ 本設問は、前回令和元年まで「どのような情報が必要だと思いますか」という設問文で聴取していたが、今回の令和2年調査から「どのような情報が重要だと考えていますか」という設問文にかえた。
- ※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。
- ※ 「財政状況や予算などに関する情報」は、平成26年度新設。

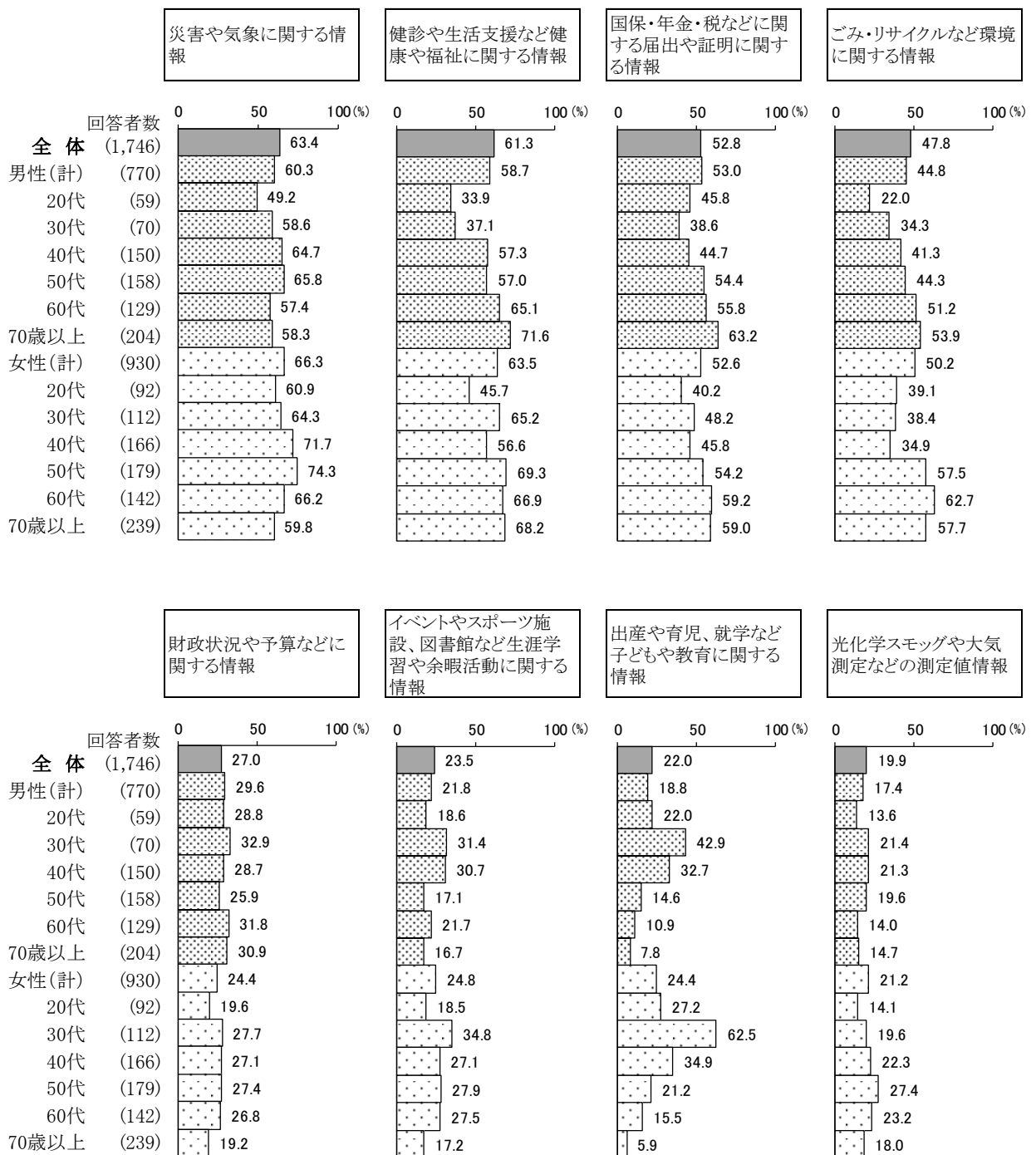
前回までの“必要だと思う”から今回より“重要と考える”に質問文を変更した、重要と考える区の情報としては、「災害や気象に関する情報」(63.4%)が6割台半ばで最も高く、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(61.3%)が6割強で続き次点に入る。以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.8%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(47.8%)の順で続いて上位となっている。

経年でみると、質問文に変更があったことに留意する必要があるが、上位項目について、比率に大きな変動はみられず、中では、前回2位だった「災害や気象に関する情報」が前回より3.6ポイント増加して、前回より1.2ポイント減の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」を上回って第1位となる動きがあった。

性別でみると、上位にある「災害や気象に関する情報」「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」の3項目は、いずれも男性より女性の方が5ポイント前後高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに『健康や福祉』『届出や証明』『環境』の3項目は年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられ、男性ではいずれも70歳以上が最も高くなっているのに対し、女性は50代以上の3年代層が拮抗して並ぶ項目が多くなっている。一方、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は女性30代の6割強を筆頭に男女ともに30代で他の年代に比べ高くなっている。

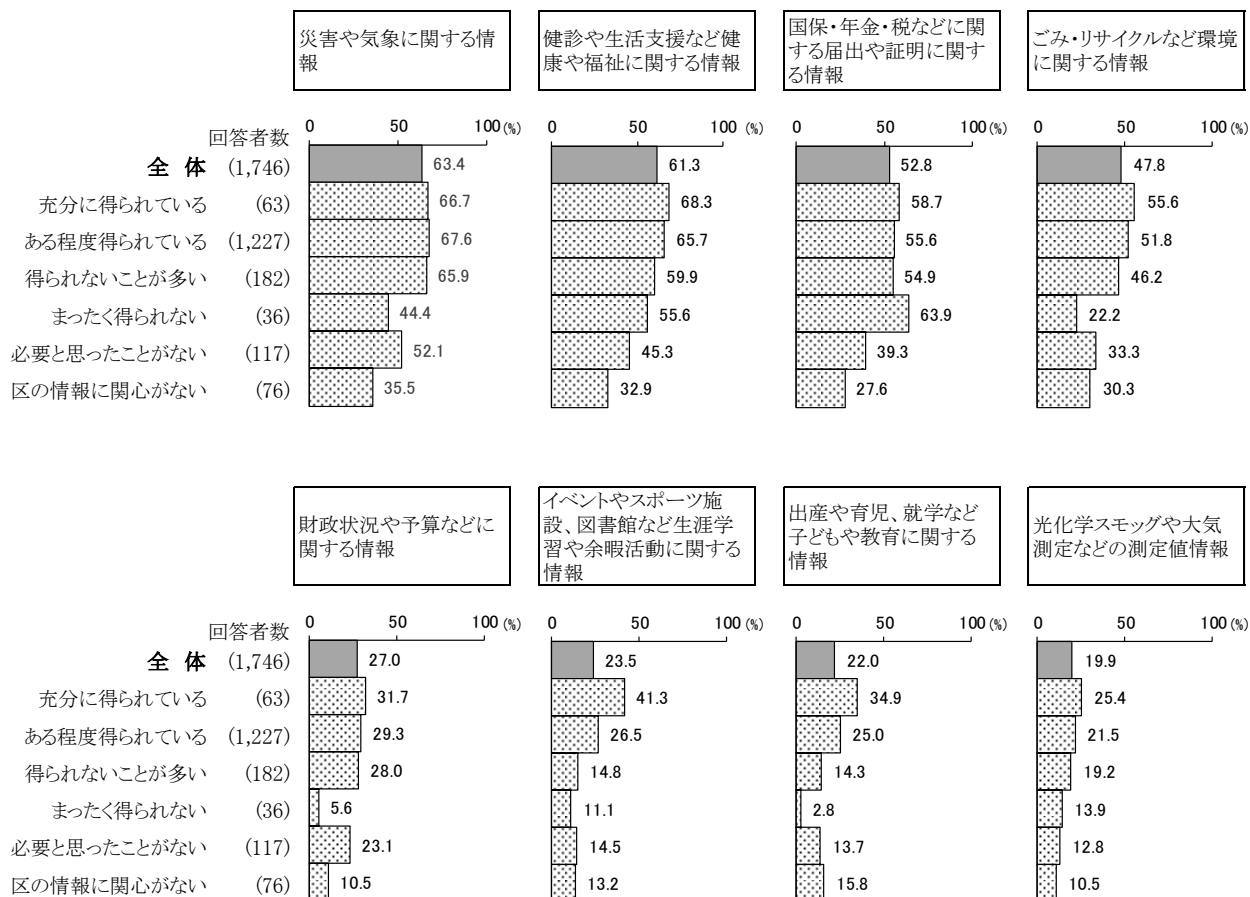
図4-2-2 性別、性・年代別／重要と考える区の情報／上位8項目



### 第3章 調査結果の分析 〈区の情報発信のあり方〉

必要な時に必要とする区の情報入手状況別でみると、多くの項目に亘って、〈まったく得られない〉と〈区の情報に関心がない〉という両層で比率が低くなっているのと除くと、〈十分に得られている〉から〈得られないことが多い〉の3層で大きな比率の差はみられず、区の情報入手程度による情報の重要性認識に目立って大きな違いはみられない結果となっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／重要と考える区の情報／上位8項目



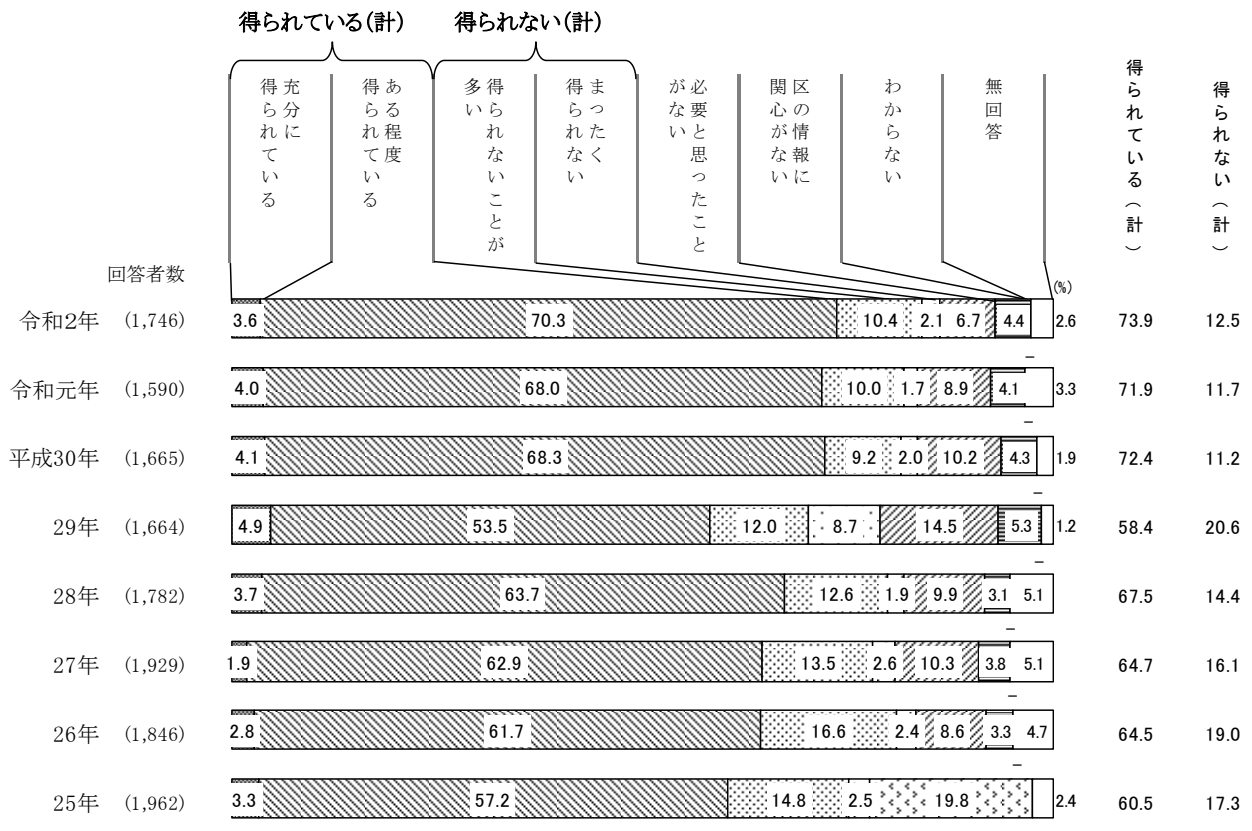


## (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

■ 必要なときに【得られている】は7割台半ばで、前回より微増

問16 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



※「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、平成26年度新設。

※「わからない」は、平成26年度から削除。

※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が3.6%で、これに「ある程度得られている」の70.3%を合わせた【得られている】は73.9%となっている。一方、「得られないことが多い」は10.4%、「まったく得られない」は2.1%で、これらを合わせた【得られない】は12.5%となっている。

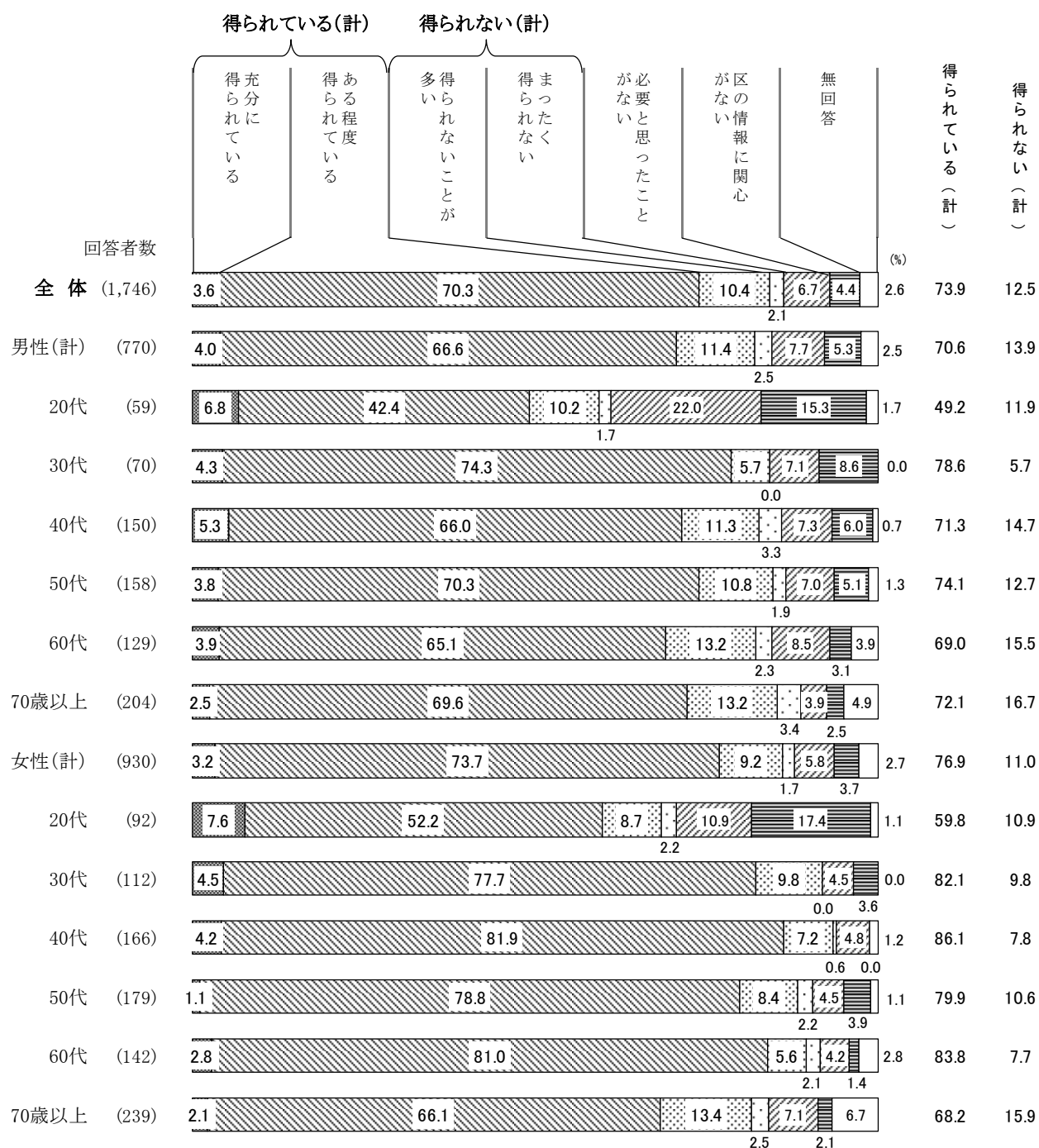
経年でみると、平成29年を除き平成25年から前回の平成30年まで漸増傾向を続けて、平成30年調査で7割を超えた【得られている】は、前回より2.0ポイント増加して今回73.9%と、平成25年以降で最も高くなっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈区の情報発信のあり方〉

性別でみると、【得られている】は男性（70.6%）より女性（76.9%）の方が6.3ポイント高い。

性・年代別でみると、【得られている】は、男性では30代（78.6%）で8割弱と最も高く、女性では40代（86.1%）で8割台半ばと最も高い一方で、「区の情報に関心がない」とともに1割台後半を占める20代男女で最も低くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

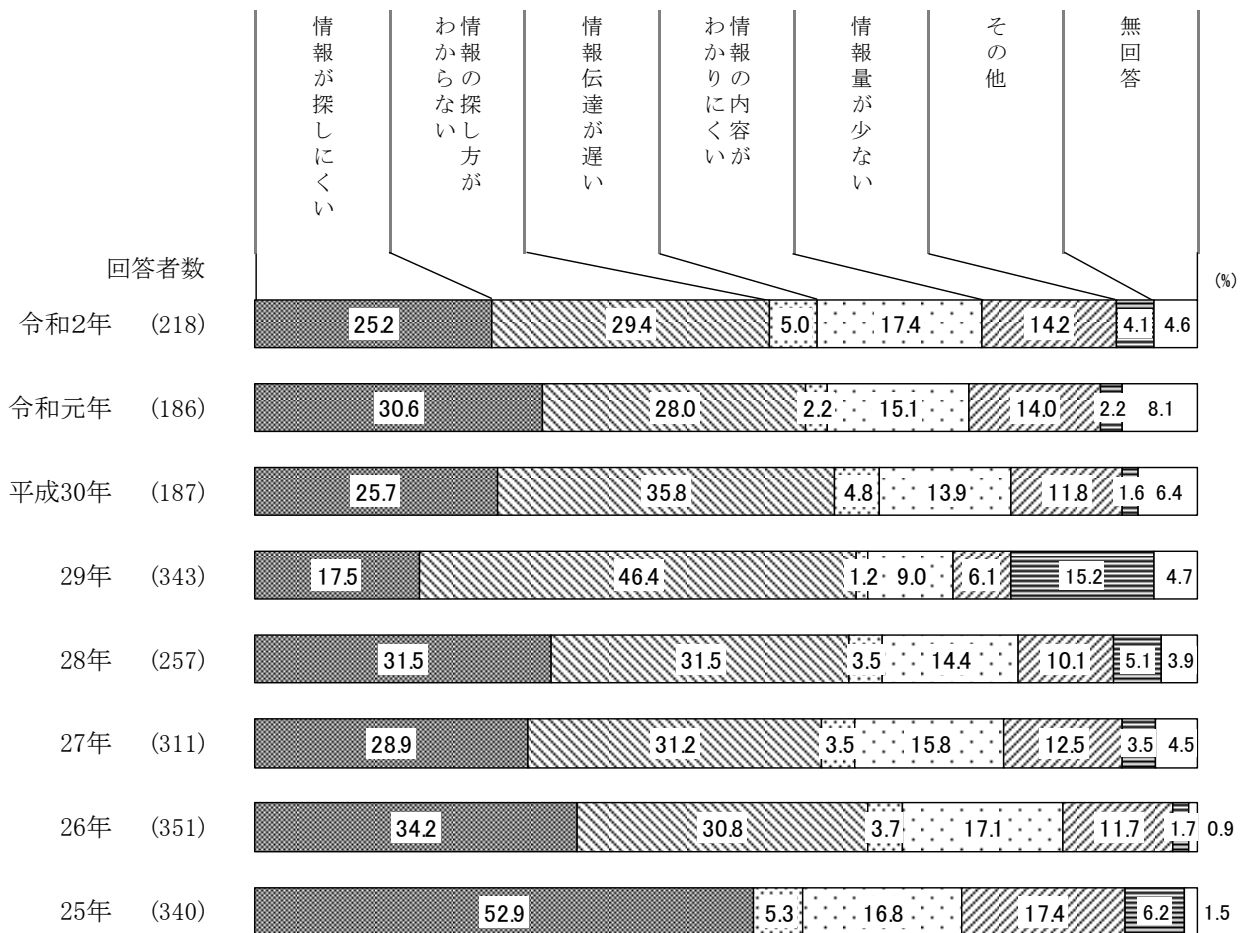


## (4) 区の情報得られない理由

■ “情報の探し方がわからない” が、約3割で最多に

問16で「3 得られないことが多い」、または「4 まったく得られない」とお答えの方に  
問16-1 主にどのような理由からですか（○は1つだけ）。

図4-4-1 経年比較／区の情報得られない理由



※ 「情報の探し方がわからない」は、平成26年度新設。

※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区情報の入手手段〉および〈必要とする区情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

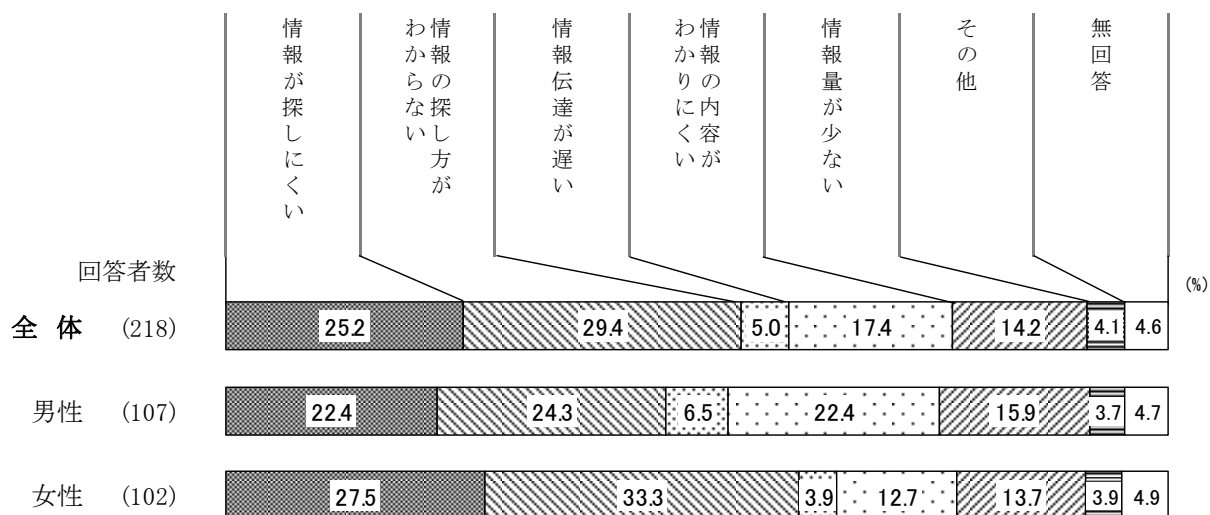
区情報が【得られない】という人に、その主な理由を単数回答で聴いたところ、「情報の探し方がわからない」が29.4%と最も多く、次いで「情報が探しにくい」が25.2%となっている。

経年でみて、前回の令和元年と今回の令和2年の結果を比較すると、前回には3割を超えていた「情報が探しにくい」が5.4ポイント減少して、前回より1.4ポイント増加した「情報の探し方がわからない」が2年ぶりに最多となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「情報の探し方がわからない」は男性（24.3%）より女性（33.3%）の方が9.0ポイント高く、「情報が探しにくい」も男性（22.4%）より女性（27.5%）の方が5.1ポイント高くなっている一方で、「情報の内容がわかりにくい」は男性（22.4%）の方が女性（12.7%）より9.7ポイント高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報 that 得られない理由



## (5) 区の情報 that 得られない理由の詳細

問16で「3 得られないことが多い」、または「4 まったく得られない」とお答えの方に  
 問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

区の情報 that 得られない理由として寄せられた自由回答の内容を「あだち広報」「区のホームページ」「その他」の3項目ごとに、主な要旨とその件数をまとめた結果は以下のようになっている。

あだち広報（74名の回答）	件数
読みづらい、わかりづらいから	26
関心がない、見る機会が少ないから	21
内容が少ない、薄いから	13
発行回数が少ない、発行日等が分からない	2
その他	16

区ホームページ（66名の回答）	件数
探しにくい、わかりづらいから	26
見ない、あまり見ないから	18
パソコンを使わない、使えないから	11
情報が不足しているから	8
インターネットを使用できる環境がないから。インターネットは使わない	4
その他	5

その他（21名の回答）	件数
情報をみつけれられない、入手方法がわからないから	5
放送が聞こえないから	4
インターネットで探しにくい、探せないから	1
その他	11



## 5 健康

- 
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
  - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
  - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
  - (4) 1日野菜350g以上の摂取
  - (5) 体調や習慣
  - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
  - (7) 自身の健康状態について
  - (8) がん検診の受診状況
  - (9) 受けたがん検診の種類
  - (10) 感染症予防のための手洗いの実践状況
  - (11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-





## 5 健康

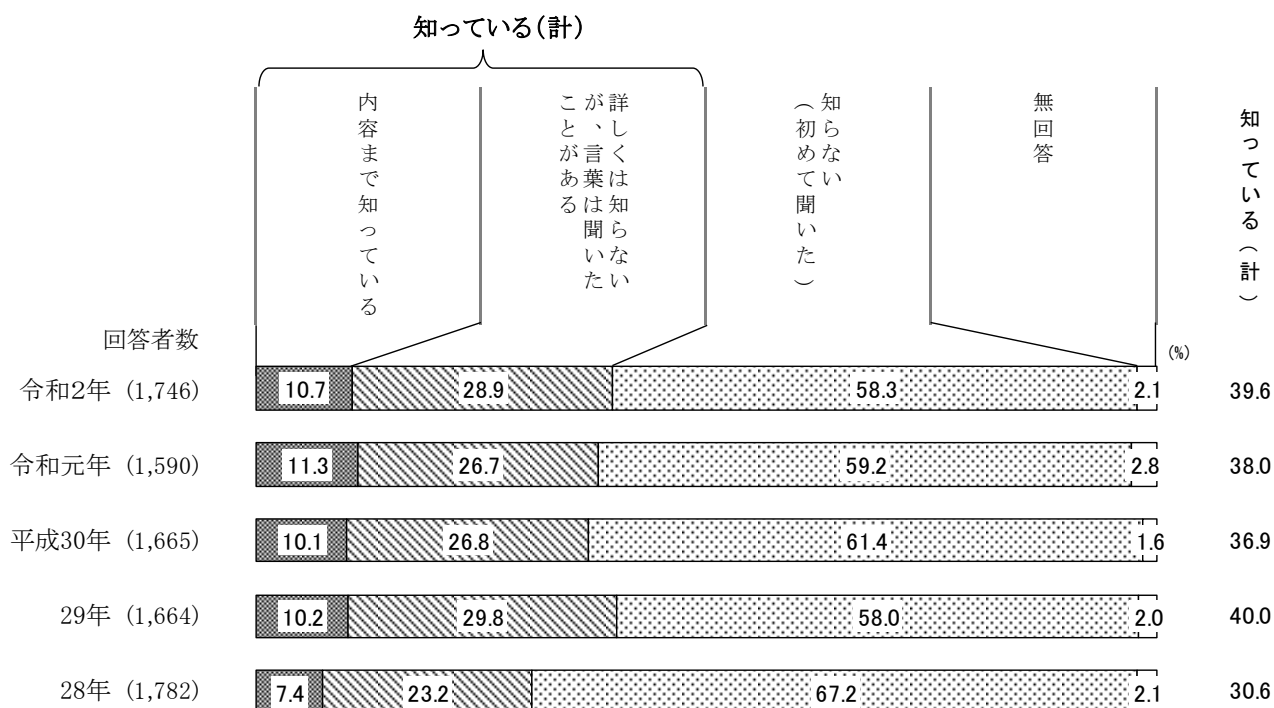
### (1) 区のキャッチフレーズの認知状況

#### ■【知っている】は約4割

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況



『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は10.7%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(28.9%)を合わせた【知っている】は39.6%となっている。一方、「知らない」は58.3%となっている。

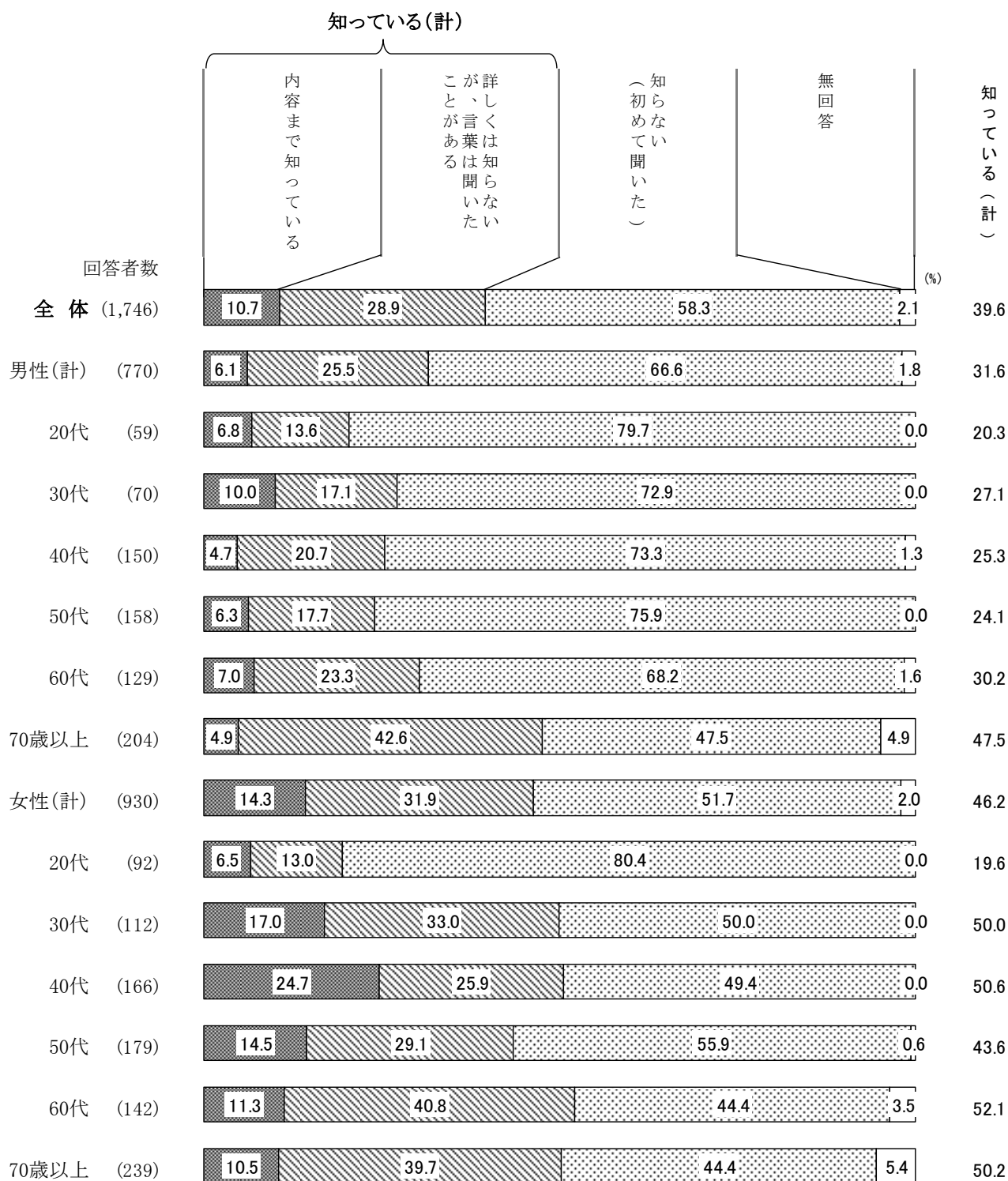
経年でみると、【知っている】は、令和元年の38.0%から今回39.6%へと1.6ポイント増加して、2年続けて微増しているが、これまで最高の平成29年の40.0%には僅かに届いていない。

### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、【知っている】は女性で46.2%と、男性（31.6%）を14.6ポイントと大きく上回っている。

性・年代別でみると、男性では、【知っている】は70歳以上で5割弱と高く、女性では、20代と50代以外の4年代層で【知っている】が5割を超えて高くなっている。一方、20代での【知っている】は男女ともに2割前後にとどまり低くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



## (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

## ■「失明」と「足の壊疽（えそ）」がともに6割台で上位

問18 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか（○はあてはまるものすべて）。

図5-2-1-① 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

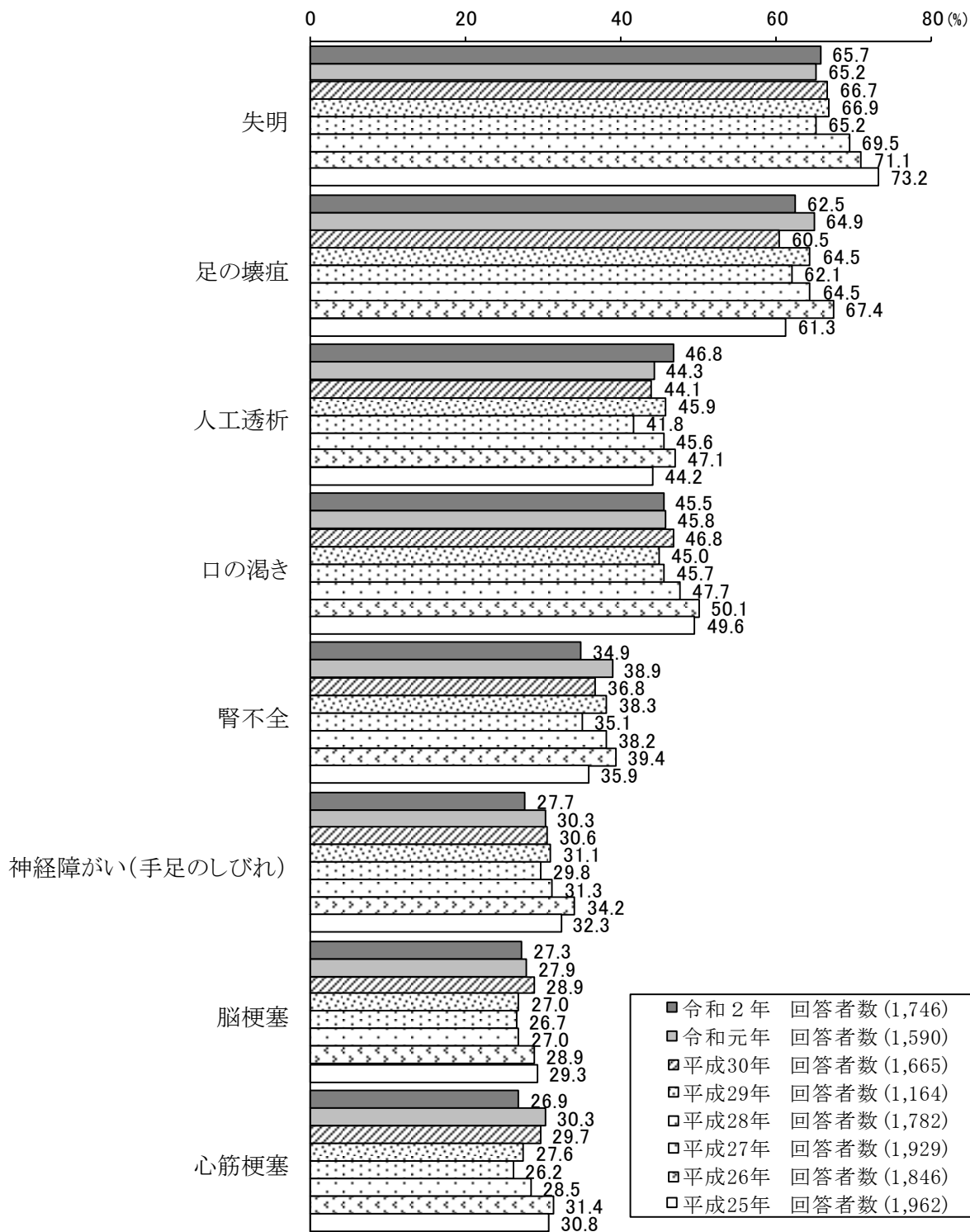
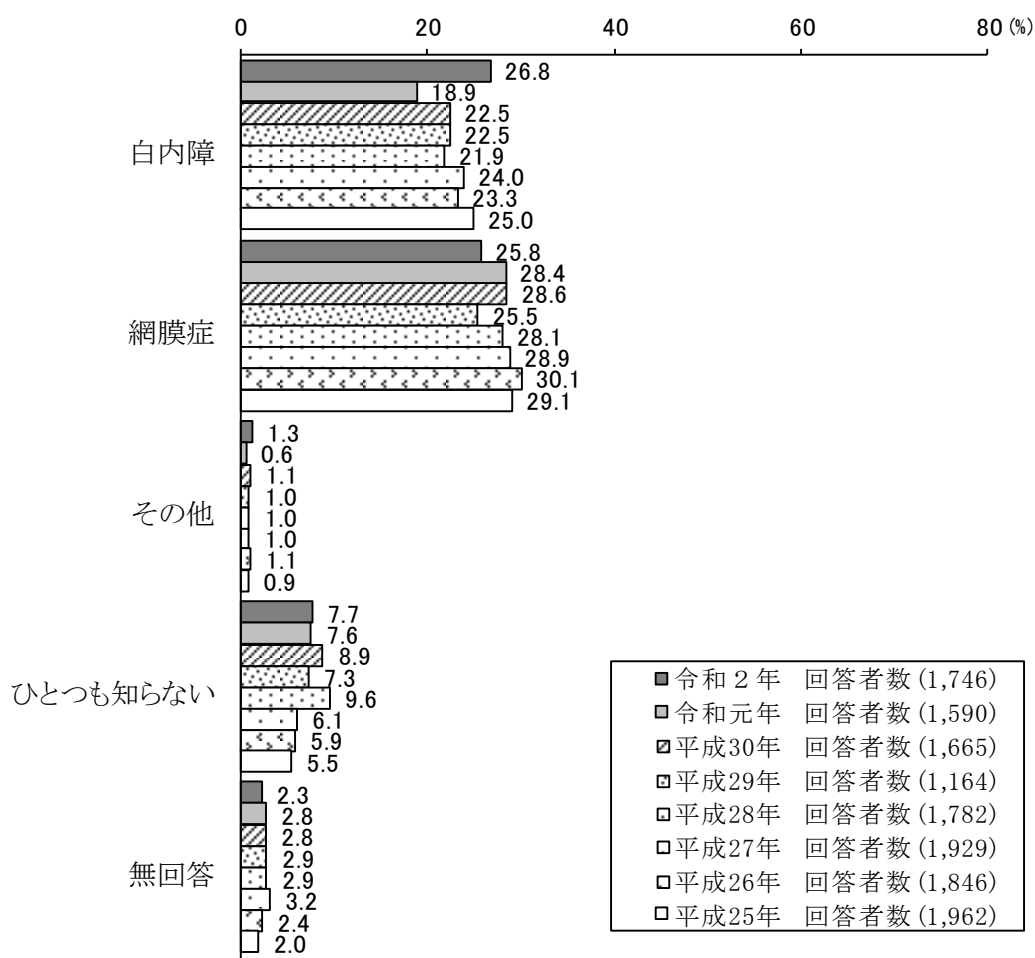


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識



※「ひとつも知らない」は、前年度まで「わからない」で聴取していた。

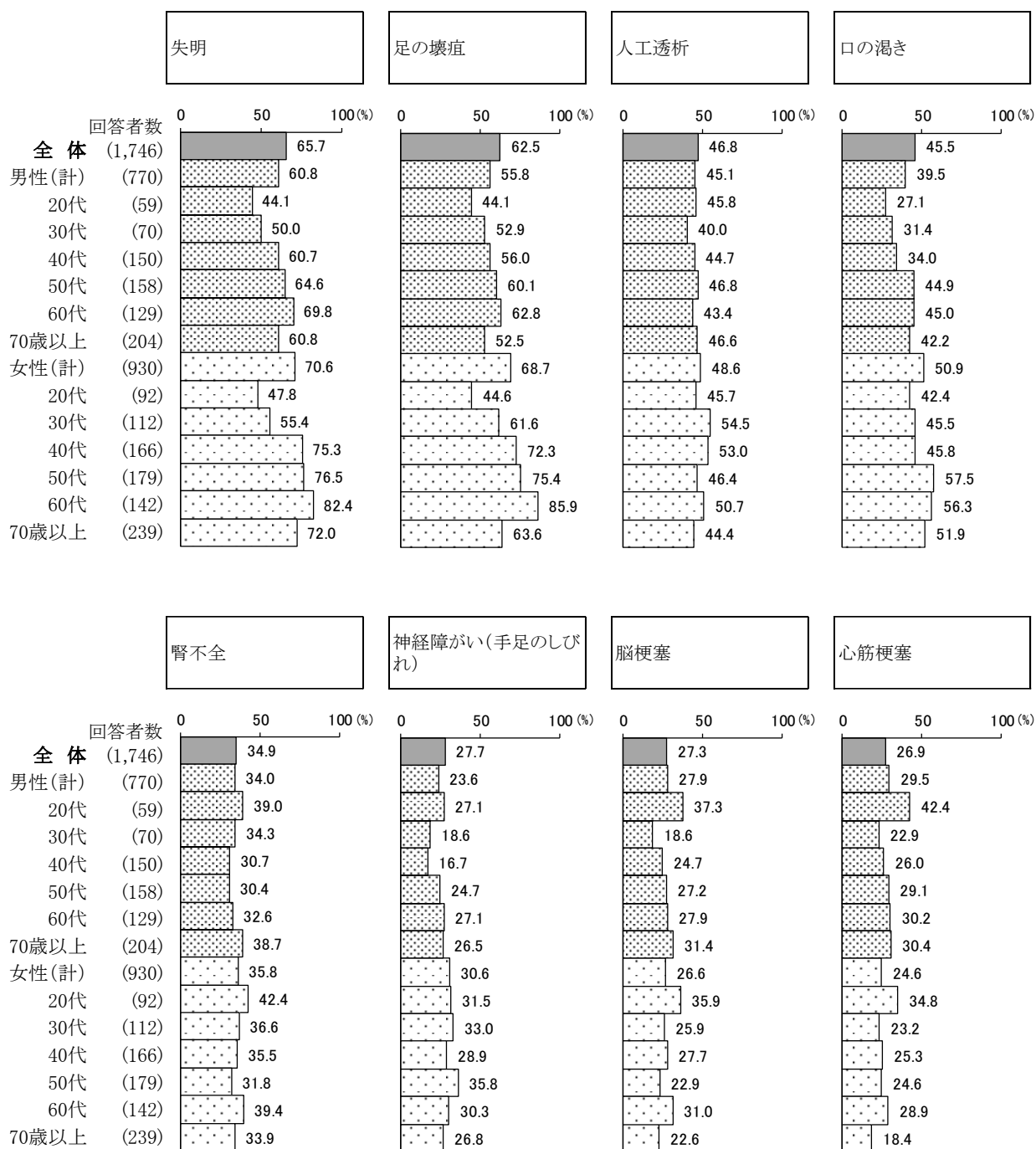
糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で“知っているもの”を回答してもらった結果は、「失明」が65.7%で最も高く、「足の壊疽（えそ）」が62.5%で続き、以下、「人工透析」（46.8%）、「口の渇き」（45.5%）、「腎不全」（34.9%）の順となっている。

経年でみると、前回までは“そう思うもの”で聴いていた質問文を、今回の令和2年から“知っているもの”に変更した点に留意して結果をみる必要があるが、下位にとどまる「白内障」が前回より7.9ポイント増加して変動幅が大きいのを除くと、上位項目に大きな経年変化はみられない。ただし、今回3位の「人工透析」が前回より2.5ポイント増加して、前回より0.3ポイント微減した「口の渇き」を上回って、この両項目は順位が逆転している。

性別でみると、上位にある「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」の3項目はいずれも男性より女性の方が10～13ポイント程度上回っており、性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」などの上位項目は、男女ともに、50代と60代の両年代層で他の年代に比べて高めとなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



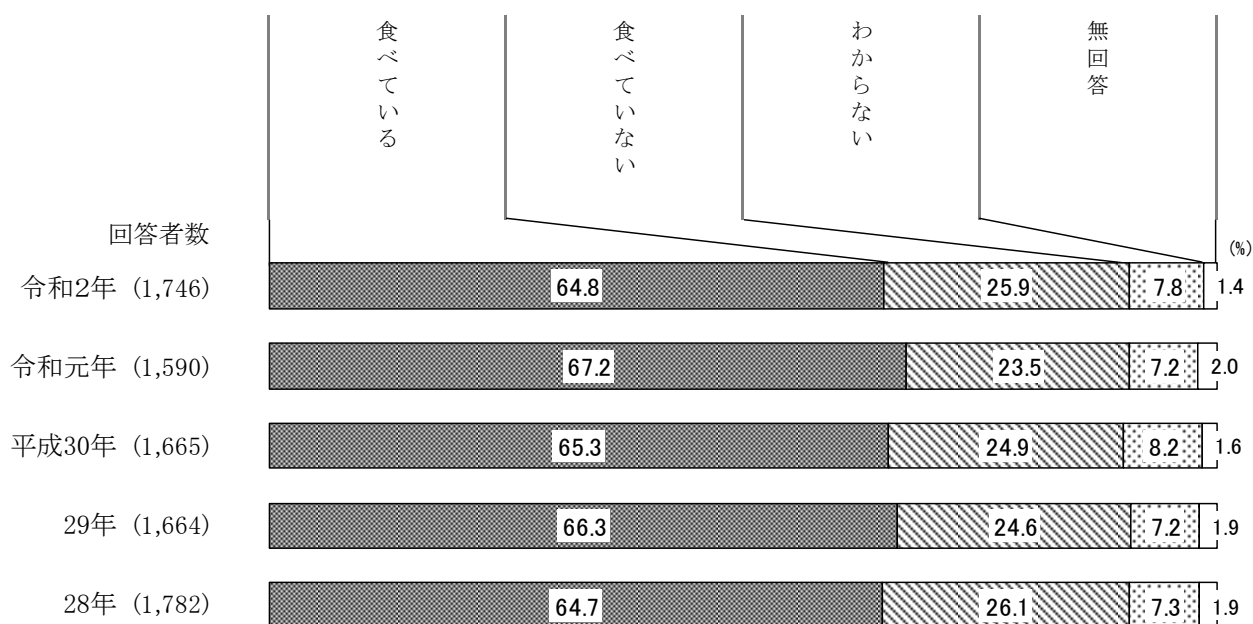
### (3) 野菜から食べ始めることの実践状況

■「食べている」が6割台半ばを占めているが、前回と比べると微減

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的です。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況



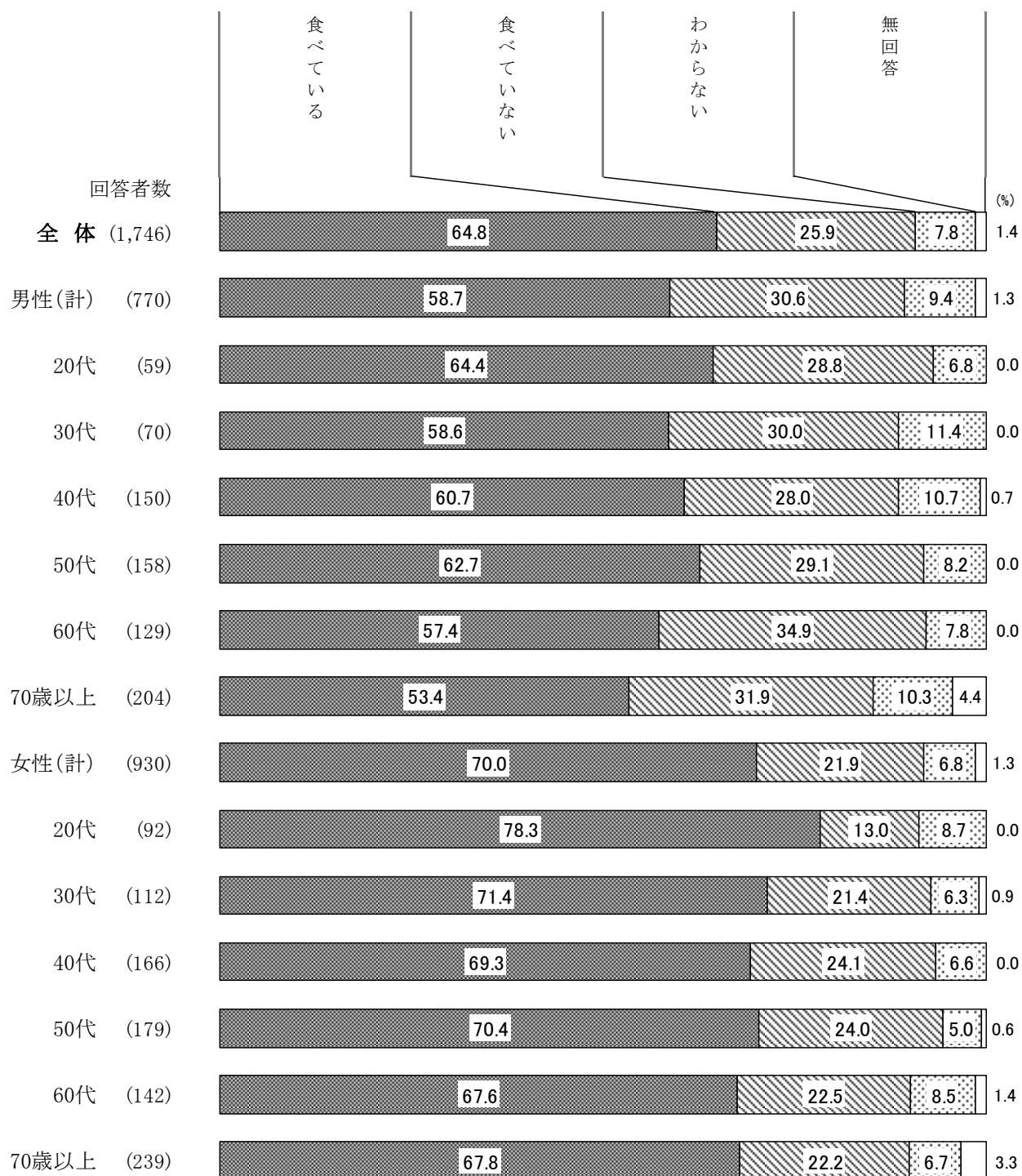
野菜から「食べている」は64.8%を占めている。一方、「食べていない」は25.9%となっている。

経年でみると、いずれの選択肢も比率に大きな変化はみられないが、「食べている」は前回より2.4ポイント減少しており、逆に「食べていない」は前回より2.4ポイント増加している。

性別でみると、女性では「食べている」が70.0%と、男性（58.7%）を大きく上回っている。

性・年代別でみると、「食べている」は、男性では20代で64.4%と最も高く、女性でも20代で78.3%と8割弱を占めて最も高くなっているが、女性の他の年代層の格差はほとんどみられない。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



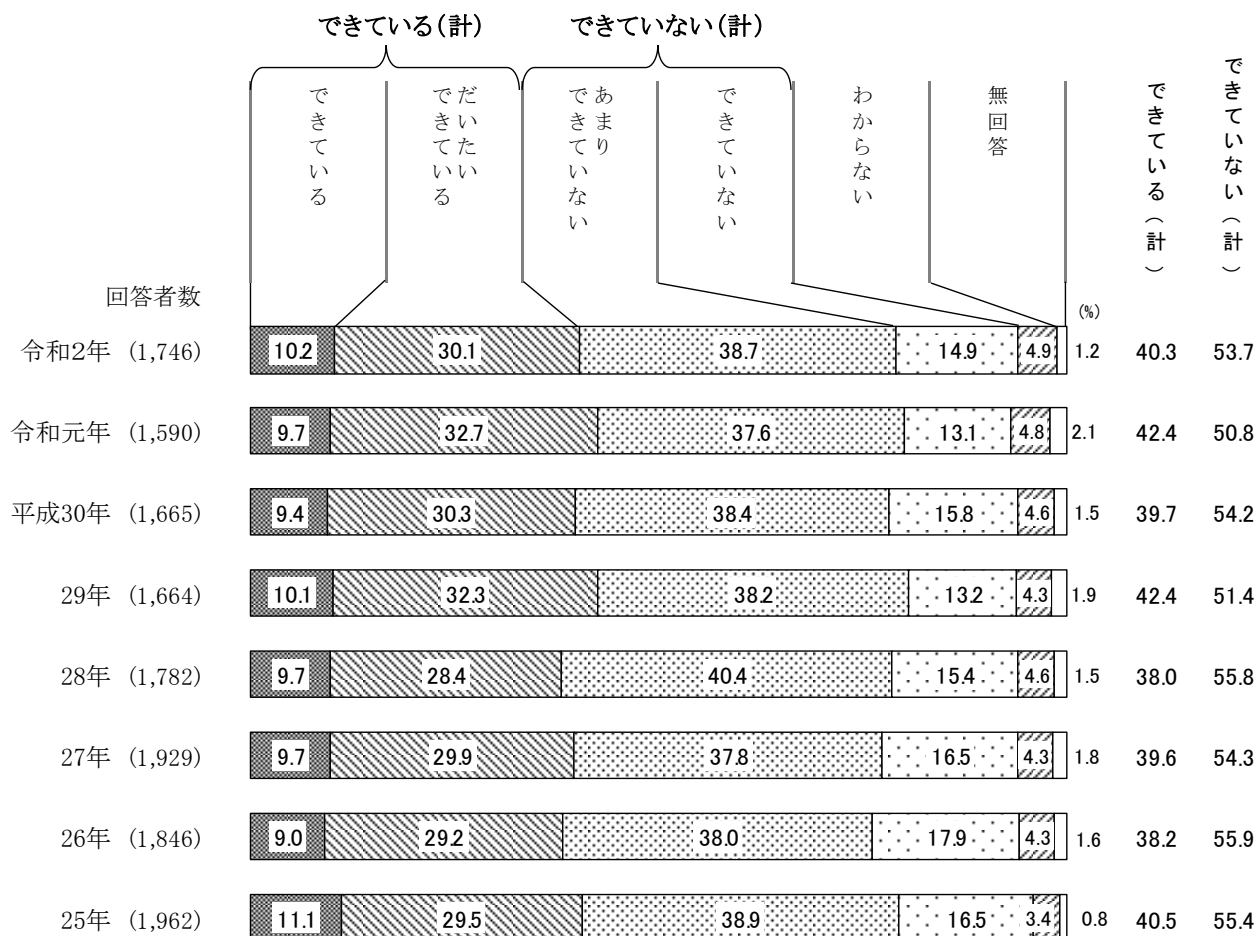
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■【できている】人は4割で、【できていない】人が5割台半ば

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取



毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が10.2%で、これに「だいたいできている」の30.1%を合わせた【できている】は40.3%となっている。一方、「あまりできていない」(38.7%)と「できていない」(14.9%)を合わせた【できていない】は53.7%となっている。

経年でみると、回答分布に大きな変化はみられないが、【できている】は今回40.3%と前回より2.1ポイント減少し、逆に【できていない】は今回53.7%と前回より2.9ポイント増加している。

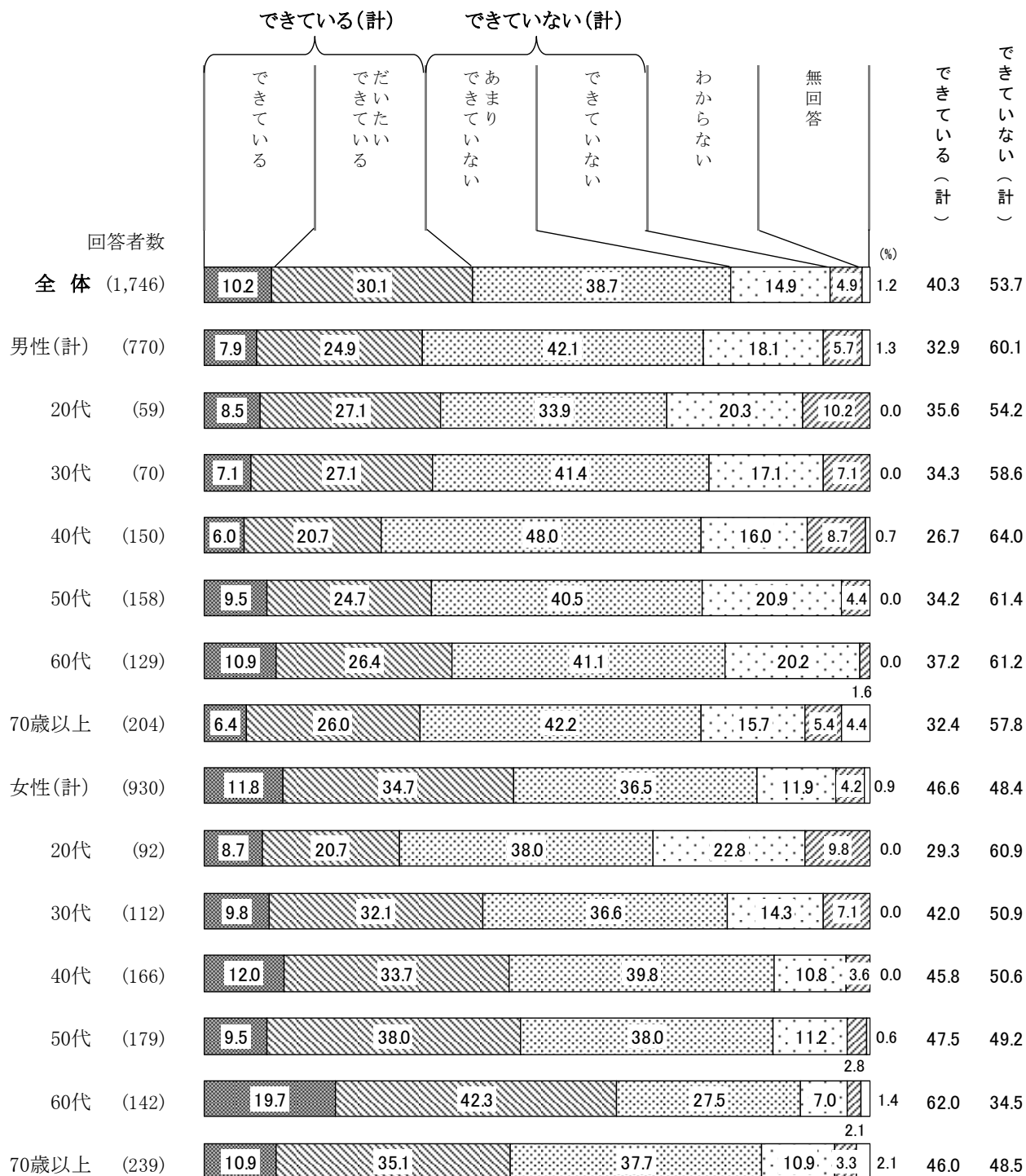


性別でみると、【できている】は、女性が46.6%と男性（32.9%）を大きく上回っている。

性・年代別でみると、男性では、【できている】が60代で4割弱とやや高くなっている。

女性では、【できている】が60代で6割強ととくに高く、他の40代以上の3年代層もそれぞれ4割台後半で30代以下の2年代層に比べて高くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

■ 〈身近に安心して受診できる医療機関あり〉という人は6割台半ばを超えている

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください

(○はそれぞれ1つずつ)。

図5-5-1-① 経年比較／体調や習慣

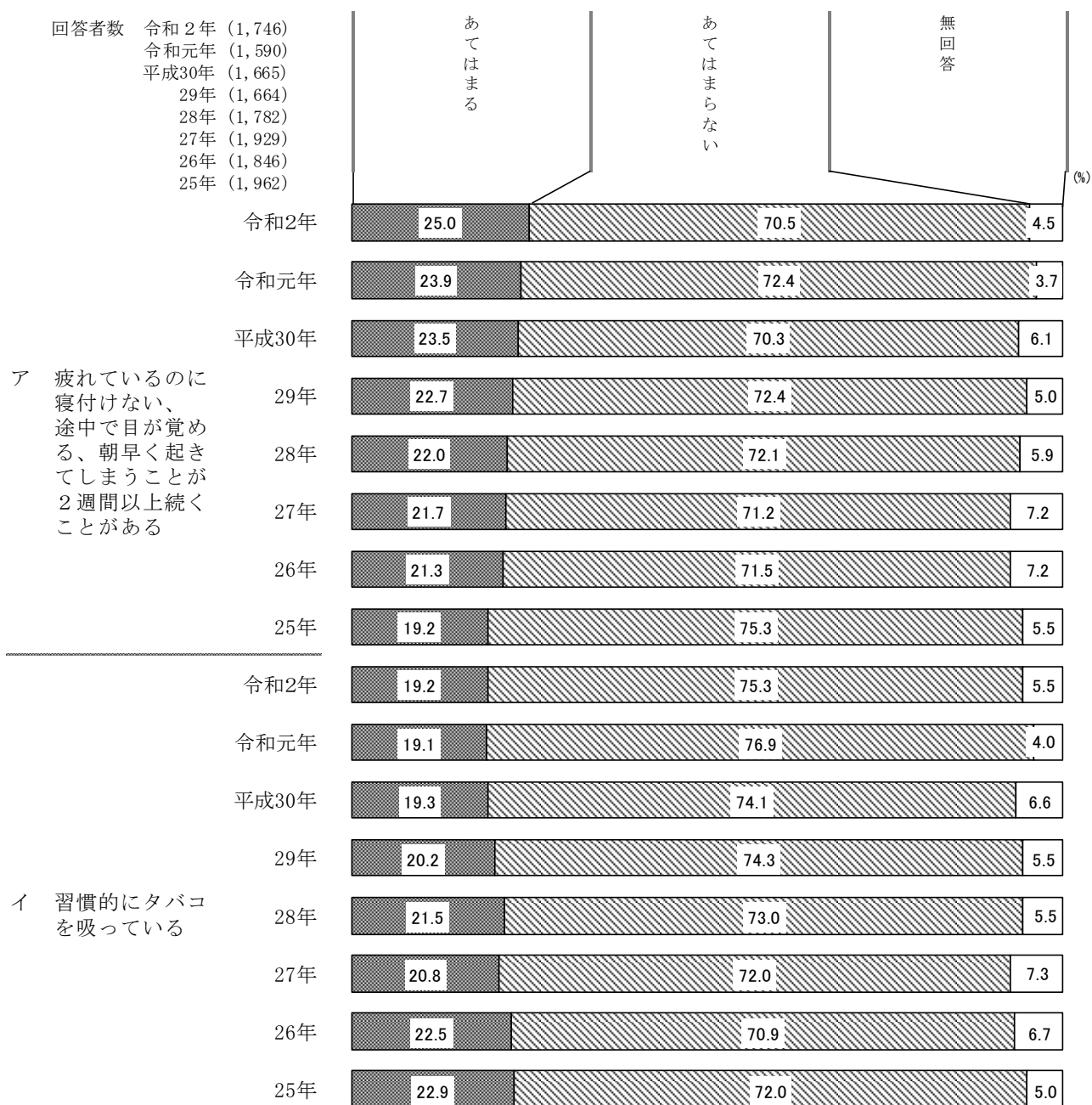
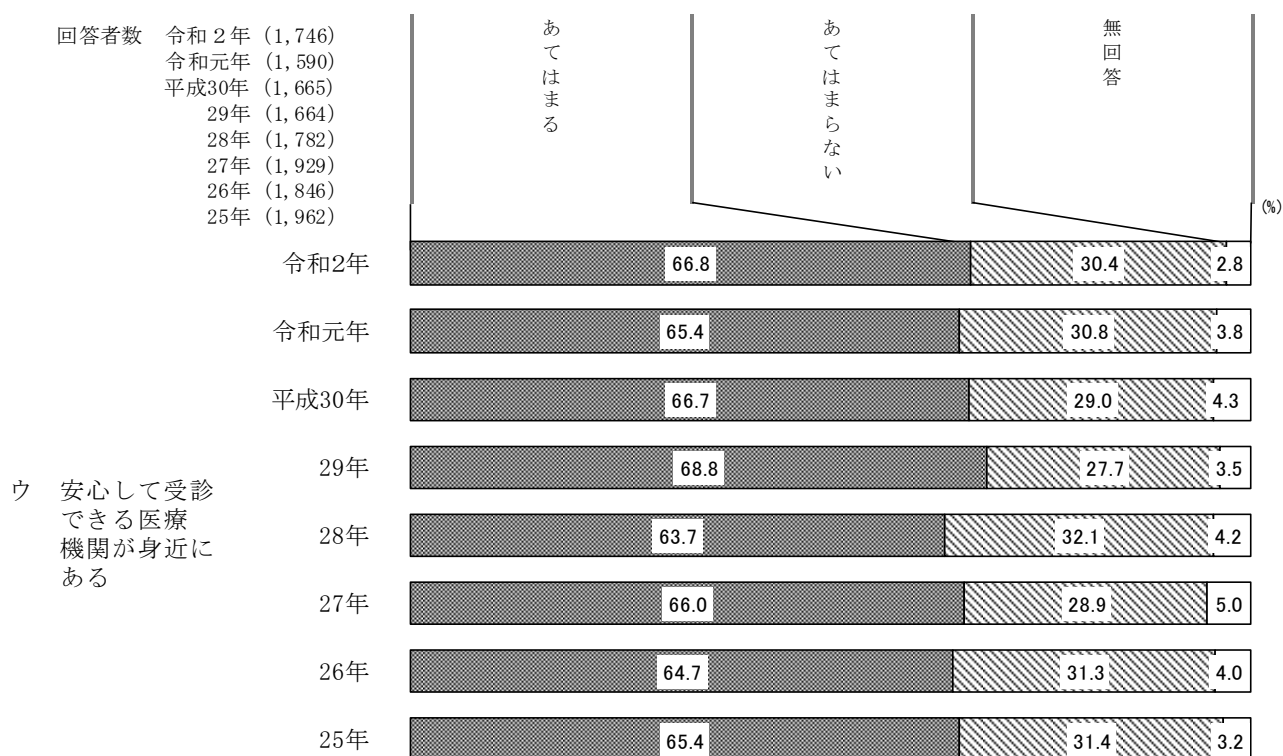


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



体調や習慣に関する3項目について、「あてはまる」の割合をみると、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(66.8%)が6割台半ばを超えて高くなっている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉と〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」がそれぞれ25.0%、19.2%となっており、ともに「あてはまらない」が7割台を占めて多くなっている。

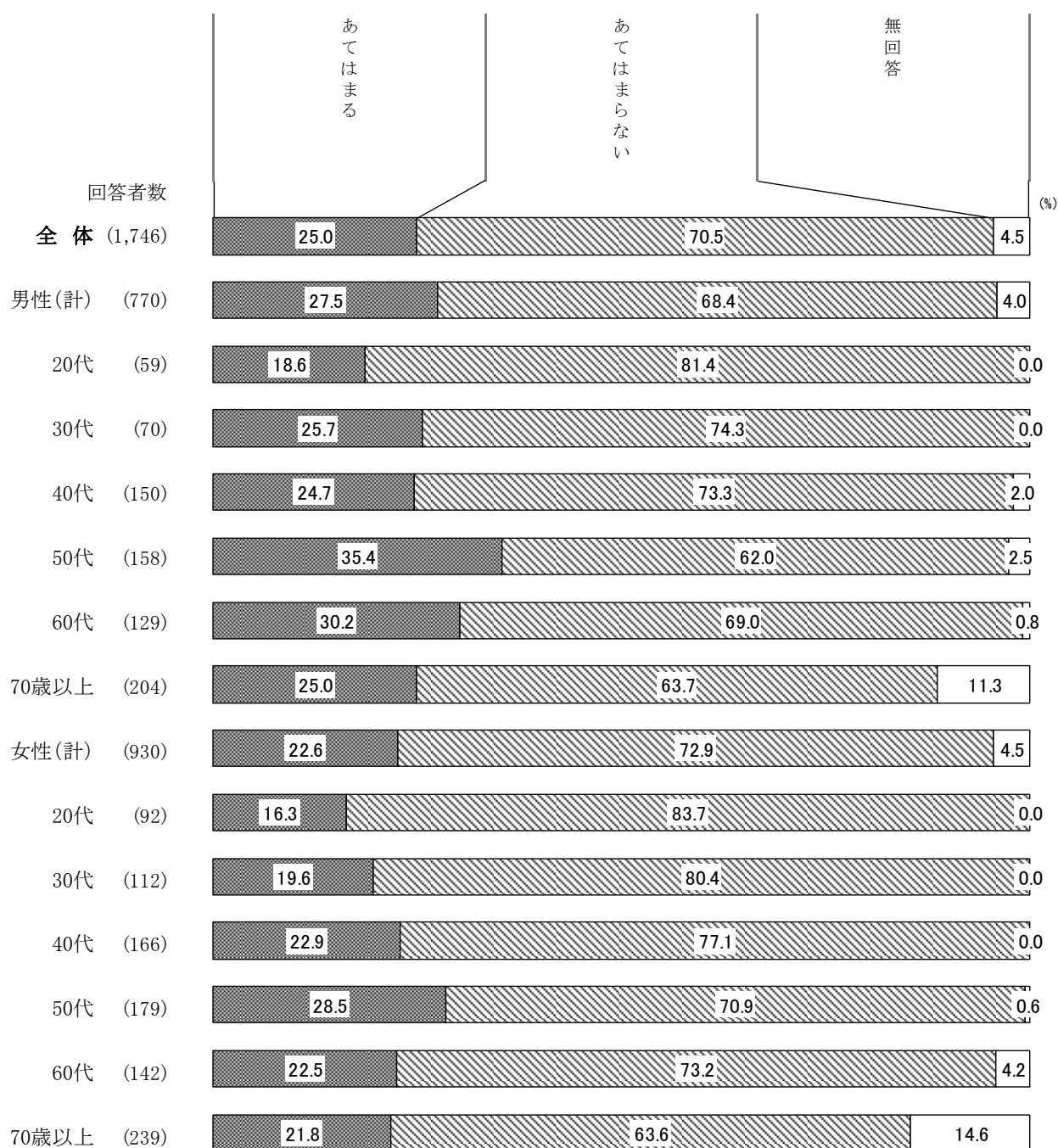
経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられないものの、〈習慣的にタバコを吸っている〉が最近3年間続けて19%台でほとんど変動がない中で、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉はともに前回より微増している。

### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別でみると、「あてはまる」は女性（22.6%）より男性（27.5%）の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「あてはまる」は、男性では50代で3割台半ばと最も高く、女性でも50代で3割弱と最も高くなっている。

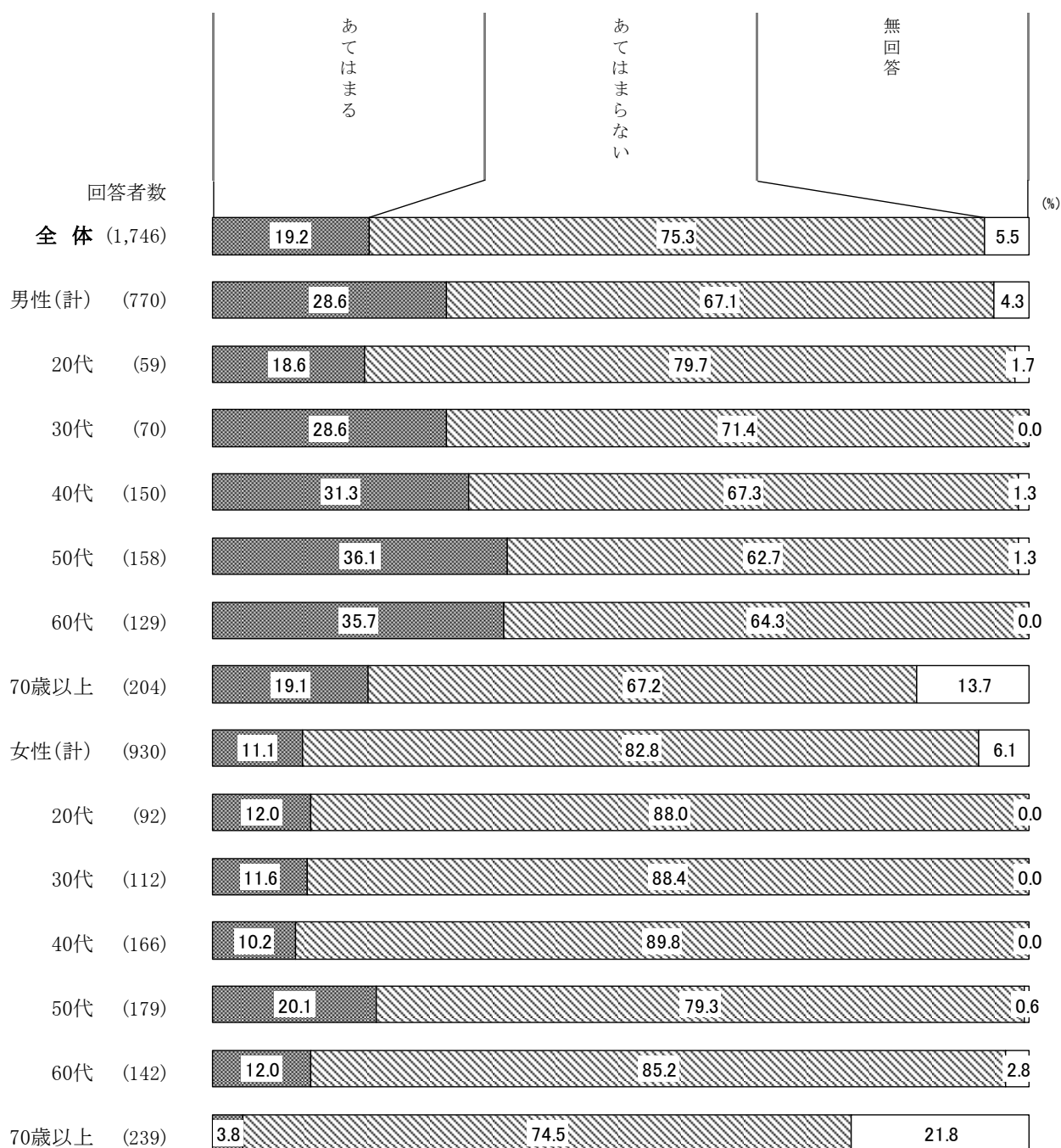
図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣  
／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性28.6%、女性11.1%と、男性が女性を大きく上回って、性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、「あてはまる」は、男性では50代と60代で3割台半ばと高く、20代と70歳以上で2割に届かず低くなっており、年代差がみられる。一方、女性では50代で2割を超えて高く、70歳以上で3.8%と低いが、この2年代層を除く他の年代層では10～12%のレベルで並んでいる。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

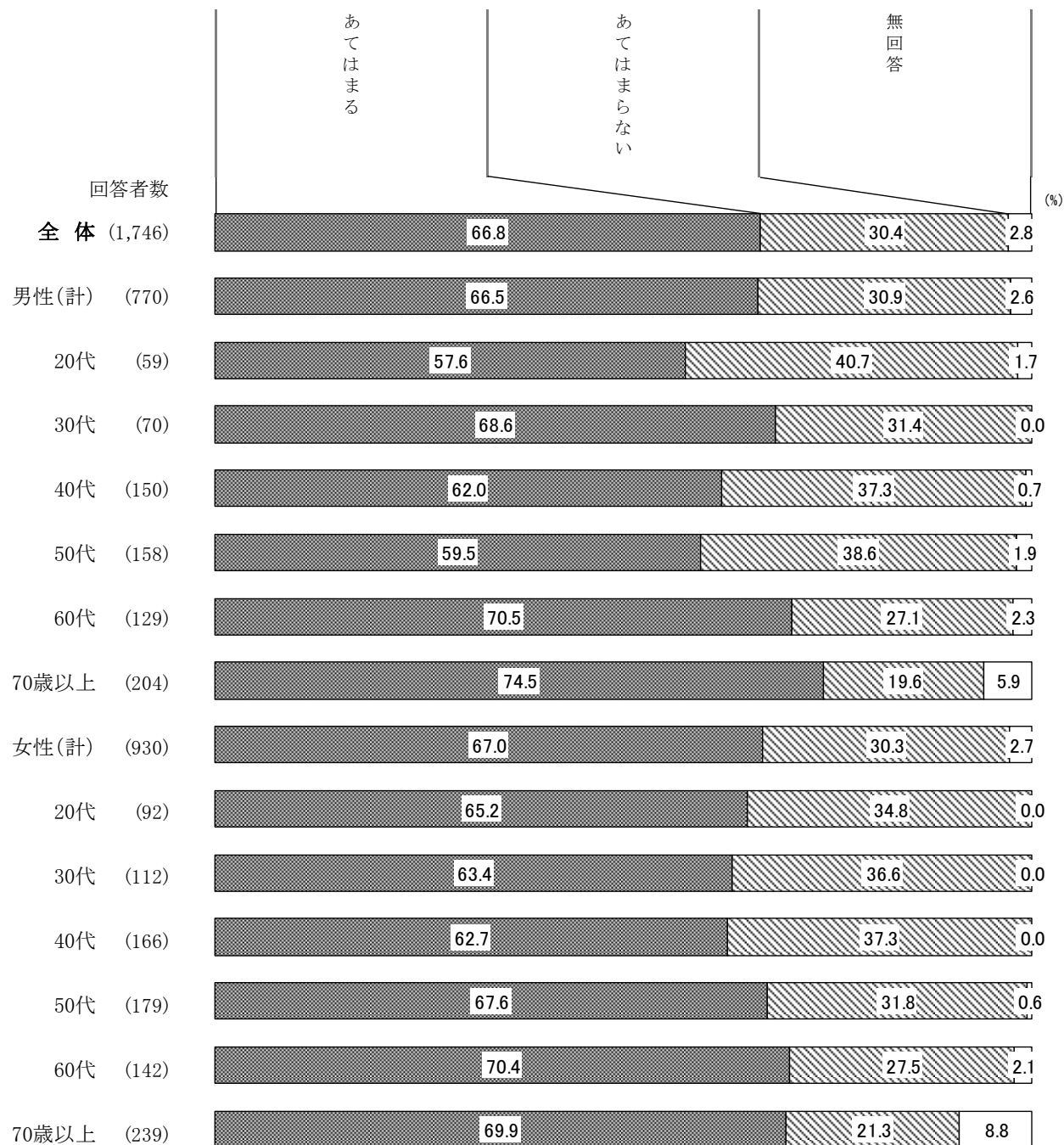


### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「あてはまる」は、男性では70歳以上で7割台半ばと最も高く、20代と50代で6割に届かず低めとなっている。女性では60代と70歳以上で7割とやや高いが、他の年代も6割強から7割弱で大きな年代差はみられない。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある



## (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■「毎日朝ごはんを食べている」と「毎年健康診断を受けている」がともに6割台半ばで上位

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

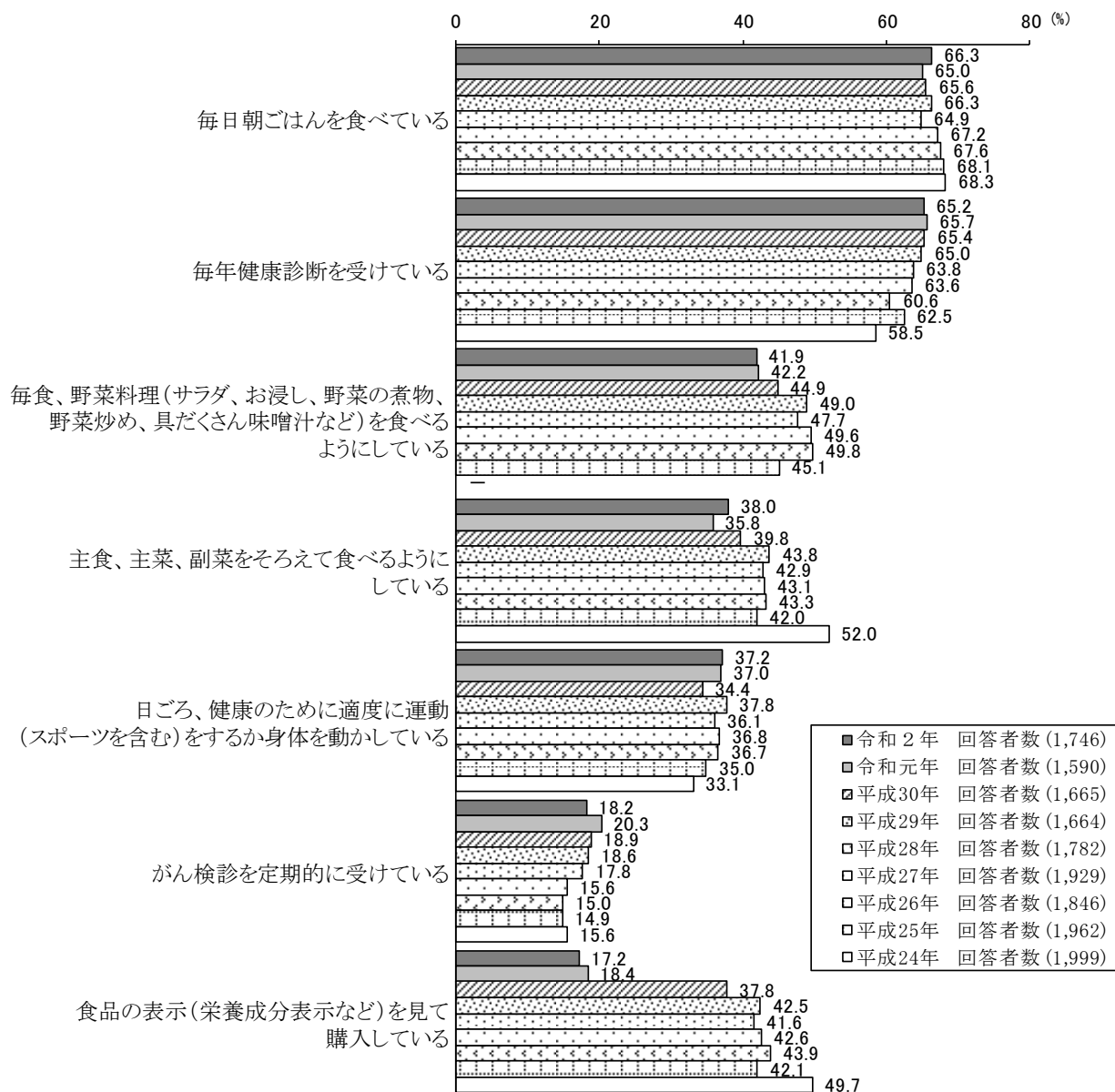
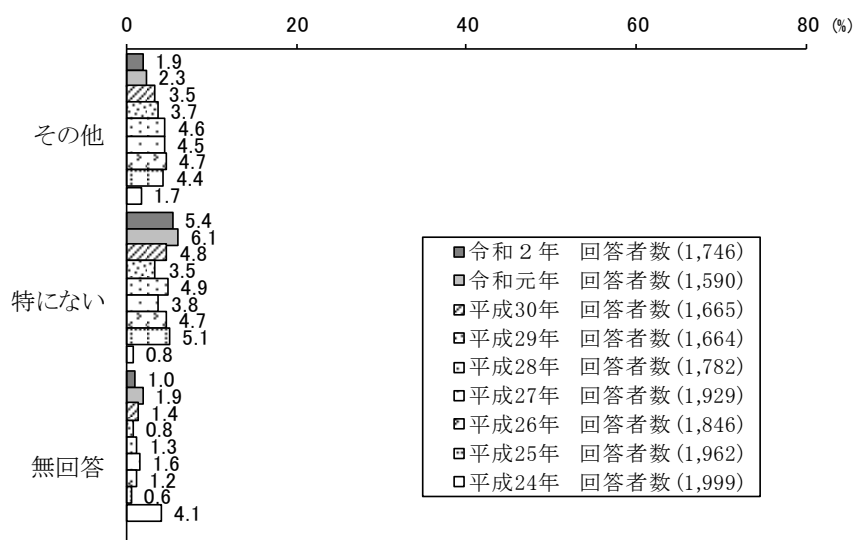


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるようにしている」は平成25年度～平成30年度までは「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」。なお、この項目は平成25年度新設。

※「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」は平成26年度～平成30年度は「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

※「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は平成24年度～平成30年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」。

※「食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している」は平成24年度～平成30年度までは「食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している」。

健康維持のために心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が66.3%で最も高く、僅差で「毎年健康診断を受けている」（65.2%）が続き、以下「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」（41.9%）、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」（38.0%）「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」（37.2%）の順となっている。

経年でみると、僅差で並ぶ上位2項目と4番目と5番目の項目の順位が前回と変わっているが、全体としては、順位、数値に前回からの大きな変動はみられない。

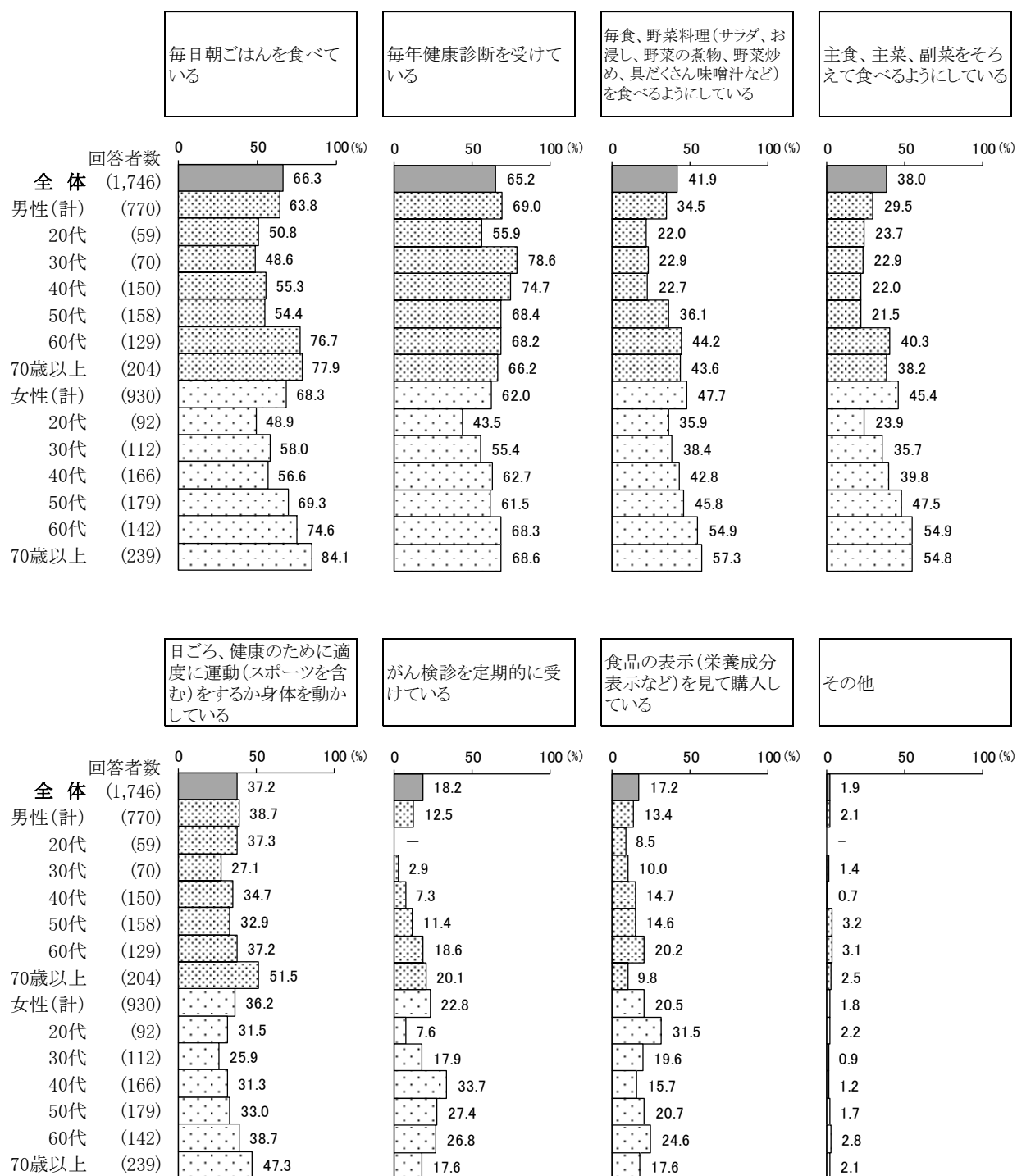
性別でみると、僅差で2位の「毎年健康診断を受けている」で女性より男性が7.0ポイント高いのを除くと、女性の方が男性より高い項目が多く、中でも「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」（男性29.5%＜女性45.4%）、「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」（男性34.5%＜女性47.7%）、「がん検診を定期的に受けている」（男性12.5%＜女性22.8%）の3項目は男性より女性が10～16ポイント程度高くなっている。



性・年代別でみると、男性では、「毎年健康診断を受けている」が30代で最も高く年代が高くなるにつれて僅かに比率が低まる傾向にあるのを除くと、他の上位項目はそれぞれ60代と70歳以上の高齢2年代層で高めの傾向がみられる。

女性では、「がん検診を定期的に受けている」が40代で最も高く、「食品の表示（栄養成分表示など）をみて購入している」が20代で最も高いのを除くと、他の上位項目それぞれは60代と70歳以上を筆頭に年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

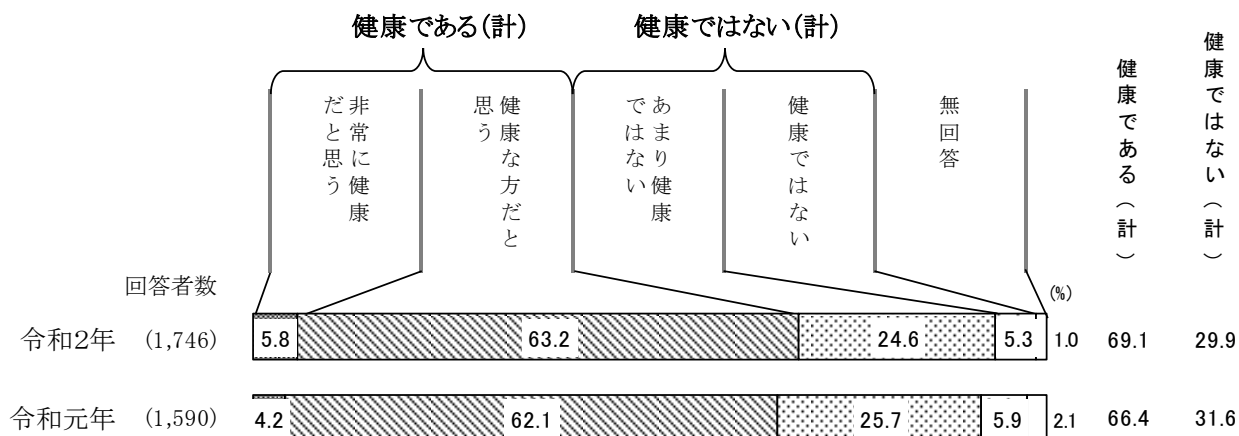


(7) 自身の健康状態について

■ 自分は【健康である】と自認している人は、前回より僅かに伸びてほぼ7割

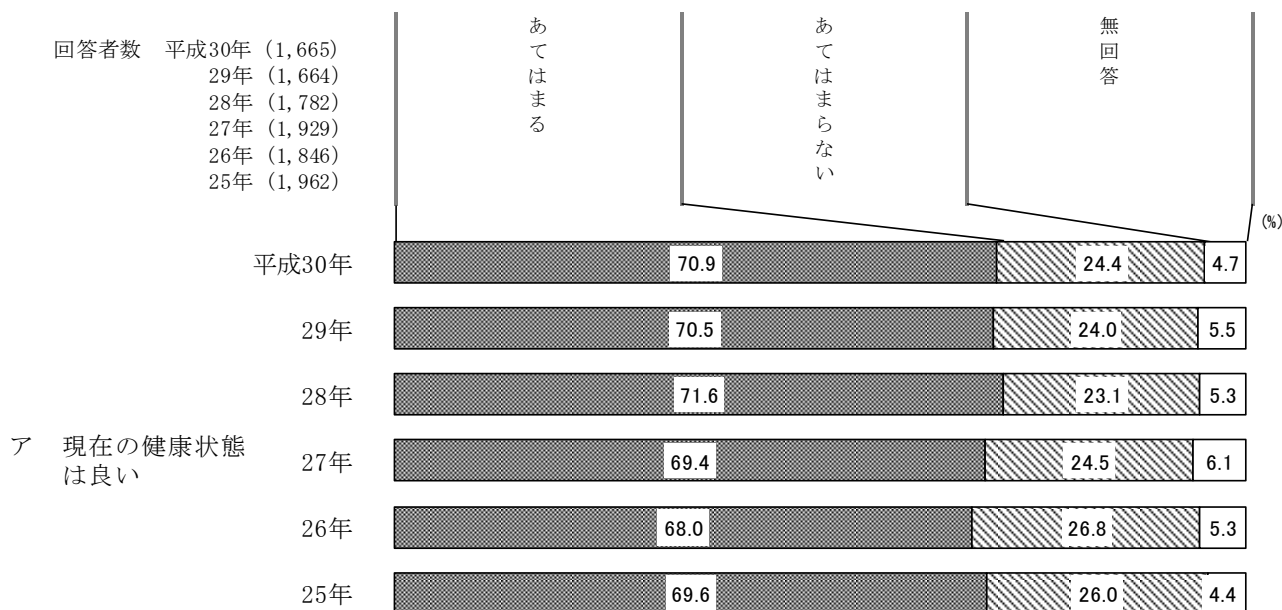
問23 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

図5-7-1 前回調査比較／自身の健康状態について



参考／体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



※ 前回の令和元年度より独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態は良い」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

前回の令和元年調査より新たに4択で聴取している「自身の健康状態」について、今回の結果をみると、「健康な方だと思ふ」が63.2%を占めて、これに「非常に健康だと思ふ」（5.8%）を合わせた【健康である】が69.1%となっている。一方、「あまり健康ではない」（24.6%）と「健康ではない」（5.3%）を合わせた【健康ではない】（29.9%）はほぼ3割となっている。

この令和2年の結果を前回の令和元年と比べると、【健康である】は今回69.1%で前回（66.4%）より2.7ポイント増加し、逆に【健康ではない】は今回29.9%で前回（31.6%）より1.7ポイント減少している。

参考までに、平成30年までの〈現在の健康状態は良い〉という項目で「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた結果と比較すると、今回令和2年調査の【健康である】（69.1%）の割合は、平成25年以降7割前後で推移していた【あてはまる】（68.0%～71.6%）の割合とほぼ同じレベルとなっている。

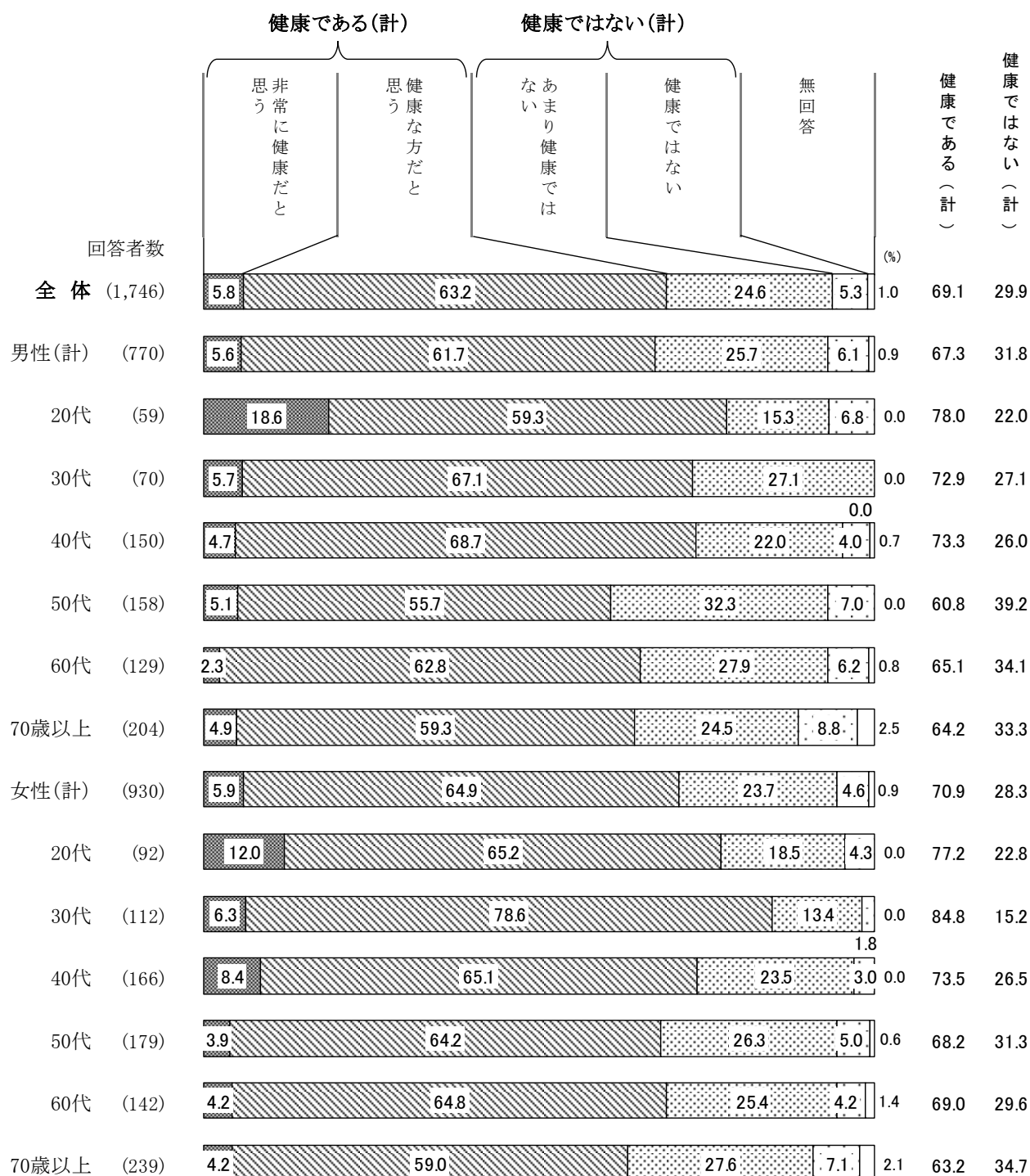
### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、【健康である】は、男性67.3%、女性70.9%で、女性の方が3.6ポイント高い。

性・年代別でみると、【健康である】は、男性では、20代で78.0%と最も高く、30代と40代でも7割台と40代以下の3年代層でやや高くなっているが、50代以上の3年代層は6割強から6割台半ばにとどまり、中でも50代で60.8%と最も低くなっている。

女性では、【健康である】は30代で84.8%と最も高く、男性同様40代以下の3年代層で高めの傾向がみられ、70歳以上で63.2%と最も低くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について

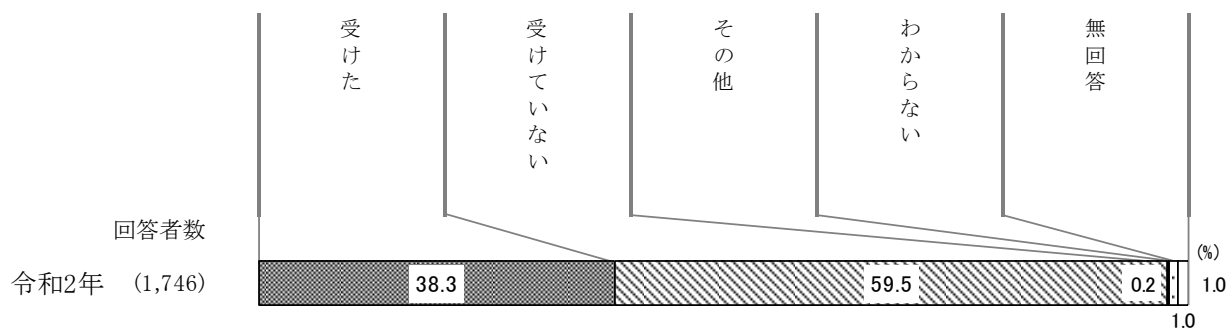


## (8) がん検診の受診状況

■ この一年間にがん検診を受けた人の割合は4割弱で、「受けていない」がほぼ6割

問24 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。

図5-8-1 がん検診の受診状況



今回の令和2年調査からの新設設問となる、この一年間のがん検診の受診状況の結果をみると、「受けていない」が59.5%で最も多く、「受けた」は38.3%で4割弱となっている。

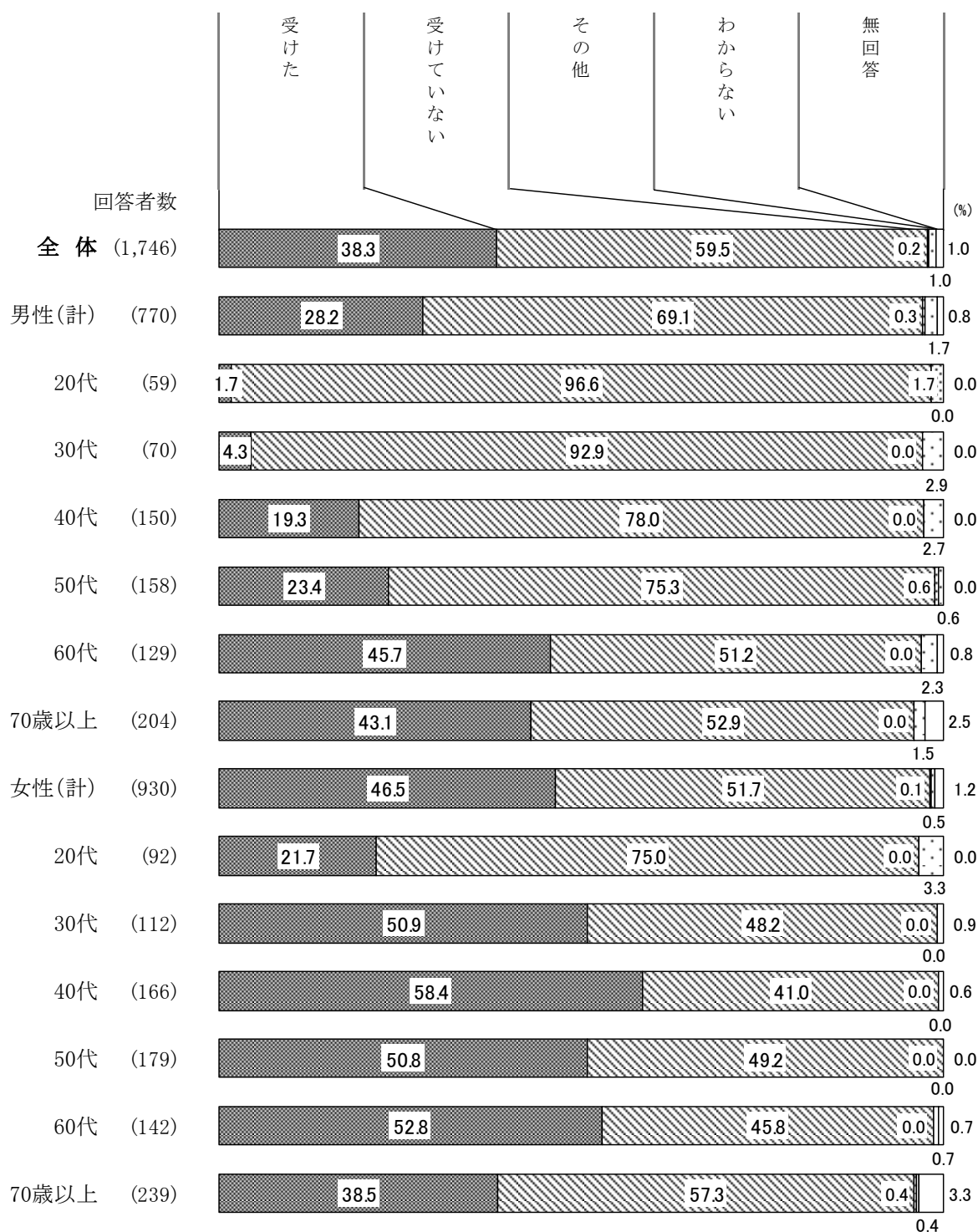
### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、「受けた」は、男性は28.2%、女性は46.5%で、女性の方が18.3ポイントも高く、性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、男性では、「受けた」は60代（45.7%）と70歳以上（43.1%）が4割強から4割台半ばで高く、次いで50代（23.4%）と40代（19.3%）が2割前後で続くが、20代（1.7%）と30代（4.3%）は1割未満と低く、高齢層ほど高い上に年代差が大きくなっている。

女性での「受けた」は、40代（58.4%）が6割弱で最も高く、30代、50代、60代の3年代層がいずれも5割強（50.8%～52.8%）で並んで続くが、70歳以上（38.5%）は4割弱で、20代（21.7%）は2割強で最も低くなっている。

図5-8-2 性別、性・年代別／がん検診制度の受診状況



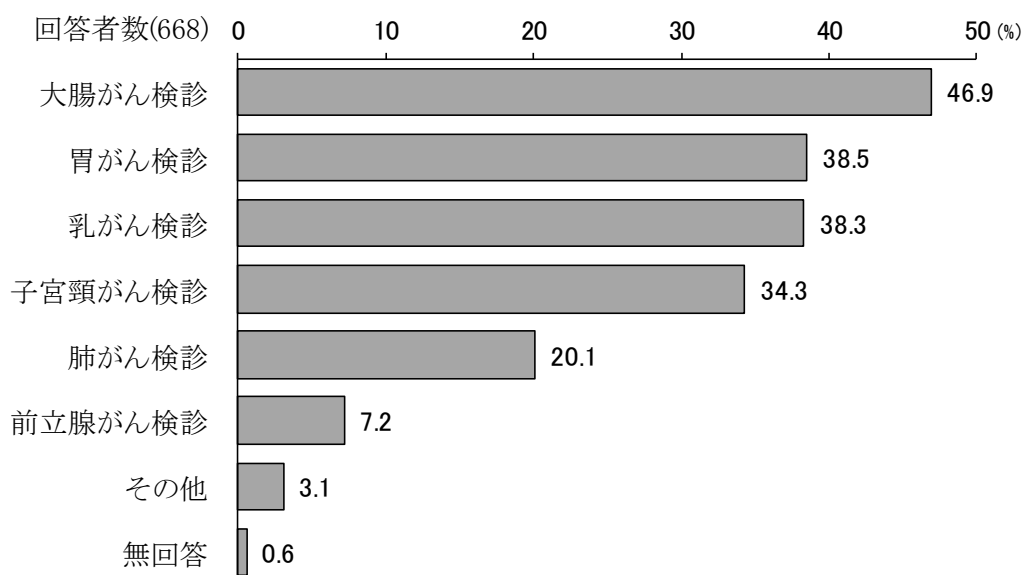
## (9) 受けたがん検診の種類

■「大腸がん検診」が4割台半ばを超えて、「胃がん検診」と「乳がん検診」が4割弱で並ぶ

## 問24で「1 受けた」とお答えの方に

問24-1 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。

図5-9-1 受けたがん検診の種類



この一年間に受けたがん検診を受けた人の、受けたがん検診の種類をみると、「大腸がん検診」が46.9%で最も高く、これに「胃がん検診」(38.5%)と「乳がん検診」(38.3%)が4割弱で並んで続き、以下「子宮頸がん検診」(34.3%)、「肺がん検診」(20.1%)、「前立腺がん検診」(7.2%)の順となっている。

性別でみると、がん検診の種類に応じて性差が大きく、男性では、「大腸がん検診」(62.2%)が6割強で最も高く、「胃がん検診」(55.3%)が5割台半ば、「肺がん検診」(30.0%)が3割、「前立腺がん検診」(22.1%)となっている。

一方、女性では、「乳がん検診」(56.9%)が5割台半ばを超えて最も高く、「子宮頸がん検診」(52.5%)が5割強の比較的小差で続き、以下「大腸がん検診」(39.1%)が4割弱、「胃がん検診」(29.9%)が約3割、「肺がん検診」(15.5%)が1割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、男性の場合は、「大腸がん検診」で70歳以上が7割弱でやや高いのを除くと、上位項目のほとんどで目立った年代別の格差はみられない。

女性の場合は、「子宮頸がん検診」で20代(95.0%)が9割台半ばと高いのを筆頭に、年代が高くなるにつれて比率が低まる傾向が明確にみられ、「乳がん検診」は40代(81.4%)での8割強をピークに山型の比率分布となっているのに対して、「大腸がん検診」「胃がん検診」「肺がん検診」の3種は概ね60代をピークに、年代が高まるにつれて比率も高まる傾向がみられ、がん検診の種類によって年代別の傾向が異なっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

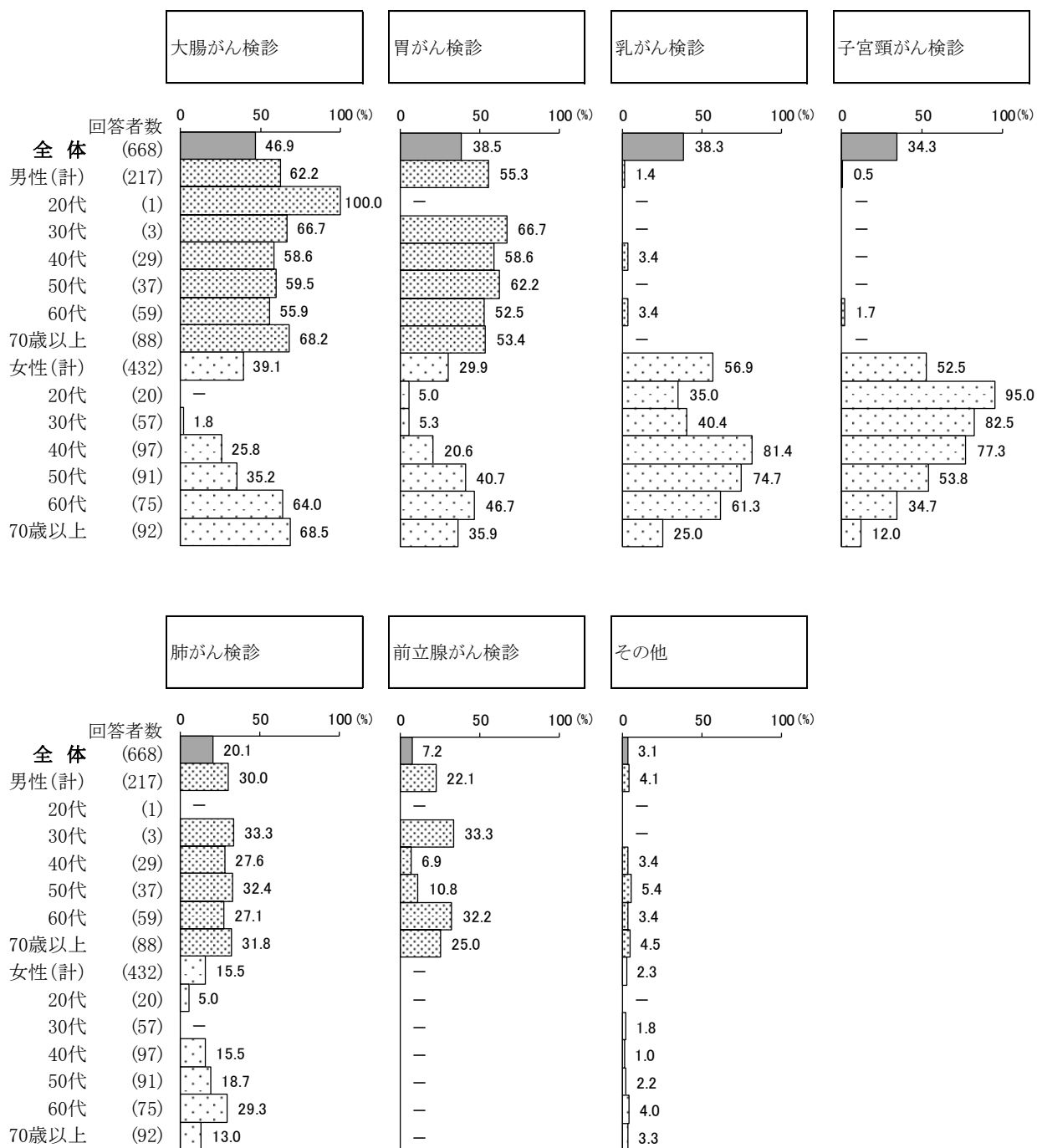
さらに、「大腸がん検診」を例として、がん検診の受診方法について考えてみる。

がん検診の受診方法には、定期的な健康診断を行う「職場の検診」、40代以上を対象として区が行う「区の検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがある。

男性の場合は、各年代層ともに5割を超えて高い傾向にあることから、定期的な健康診断を行っている「職場の検診」を利用している人が多いと思われる。

一方、女性の場合は、40代から比率が高まる傾向がみられ、60代以上の高齢層が最も高くなることから、「区の検診」を利用している人が多いと思われる。

図5-9-2 性別、性・年代別／受けたがん検診の種類



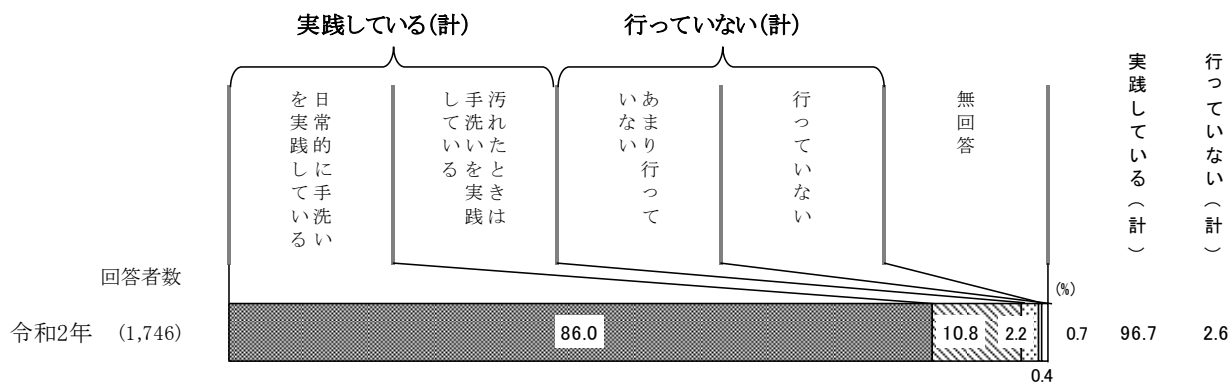


## (10) 感染症予防のための手洗いの実践状況

■「日常的に手洗いを実践している」人が8割台半ばを占めている

問25 あなたは、日頃から感染症予防としての手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

図5-10-1 感染症予防としての手洗いの実践状況

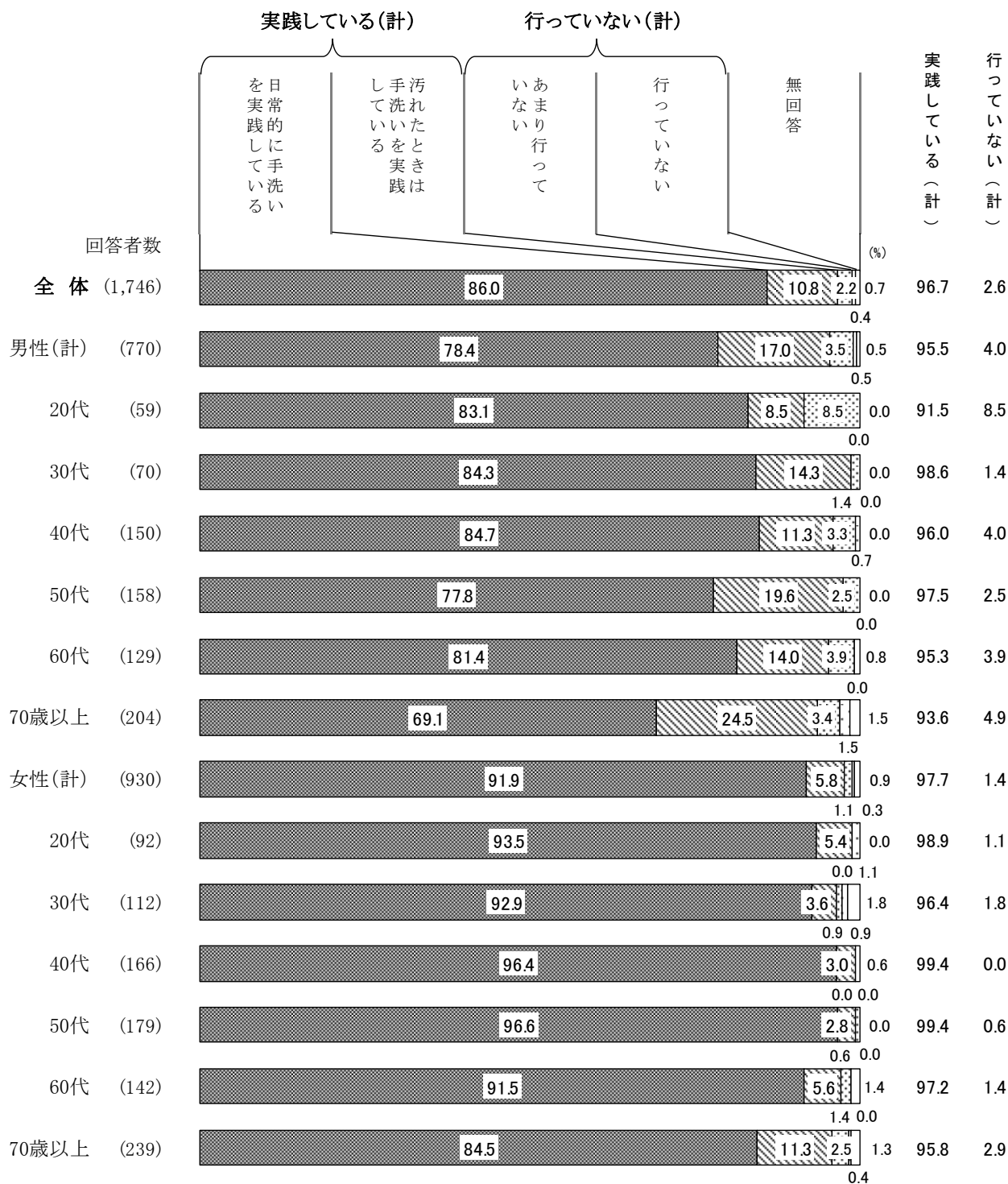


感染症予防としての手洗いの日頃からの実践状況の結果をみると、「日常的に手洗いを実践している」が86.0%を占めて最も多く、これに「汚れたときは手洗いを実践している」(10.8%)を合わせた【実践している】(96.7%)は9割台半ばを超えて大多数を占めている。一方、あまり行っていない(2.2%)と「行っていない」(0.4%)を合わせた【行っていない】(2.6%)は僅かとなっている。

性別にみると、【実践している】では大きな違いがみられないものの、「日常的に手洗いを実践している」は男性（78.4%）より女性の（91.9%）の方が13.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、【実践している】では、男性の20代（91.5%）で9割強にとどまるのを除くと、各性・年代層ともに9割台半ば以上となっているが、「日常的に手洗いを実践している」では、男性の70歳以上（69.1%）で最も低く、女性の70歳以上（84.5%）も女性の年代別の中では低めとなっている。

図5-10-2 性別、性・年代別／感染症予防としての手洗いの実践状況



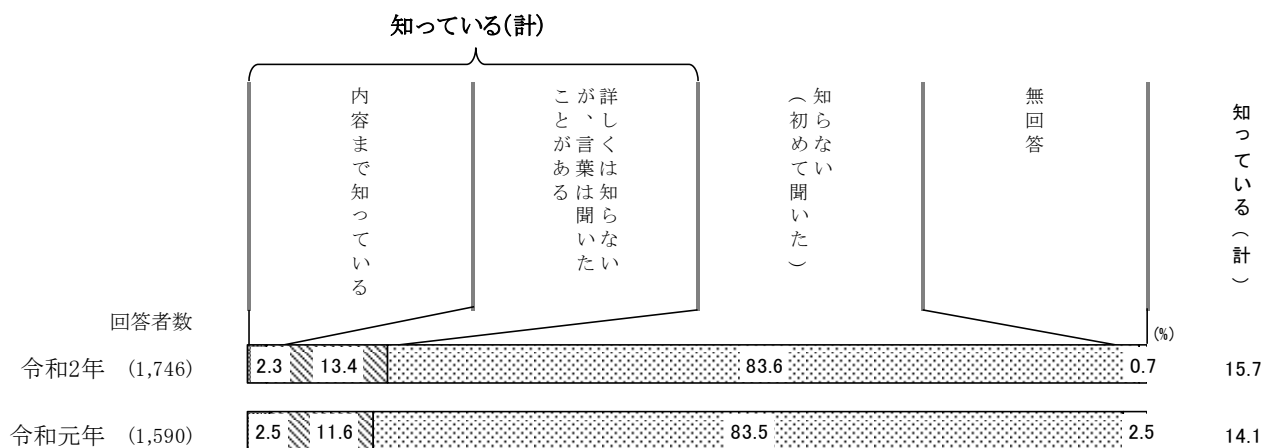
## (11)「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

■【知っている】は1割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ばを占めている

問26 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

図5-11-1 前回調査比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が83.6%を占めて多く、「内容まで知っている」（2.3%）はかなり少ない。この「内容まで知っている」に「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（13.4%）を合わせた【知っている】は15.7%と1割台半ばとなっている。

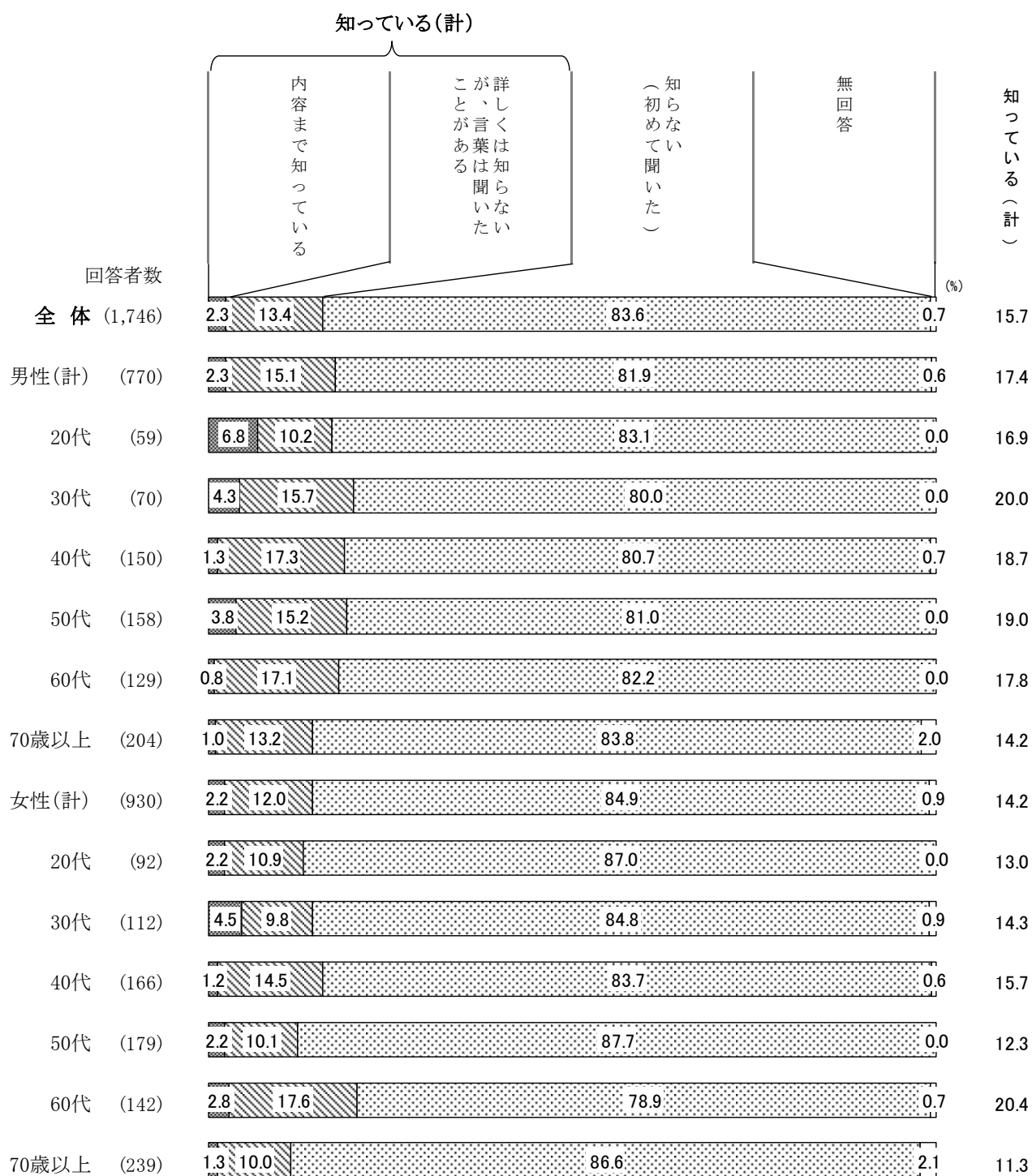
経年でみると、2回目の聴取となった今回も前回の令和元年調査と似た回答分布で大きな違いはみられないが、【知っている】は今回15.7%で、前回（14.1%）より1.6ポイント微増している。

### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、【知っている】は男性で17.4%、女性で14.2%と、男女別に大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、【知っている】は、男性では70歳以上でやや低めなのを除くと大きな年代差はみられず、女性では60代で2割を超えてやや高いのを除くと、他の各年代ともに1割強から1割台半ばでほとんど違いはみられない。

図5-11-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



## 6 スポーツ・読書

- 
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
  - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
  - (3) 運動・スポーツを行っている場所
  - (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ
  - (5) 東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること
  - (6) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無
  - (7) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動
  - (8) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ
  - (9) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
  - (10) 読書に関わる行動状況
  - (11) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由
-



## 6 スポーツ・読書

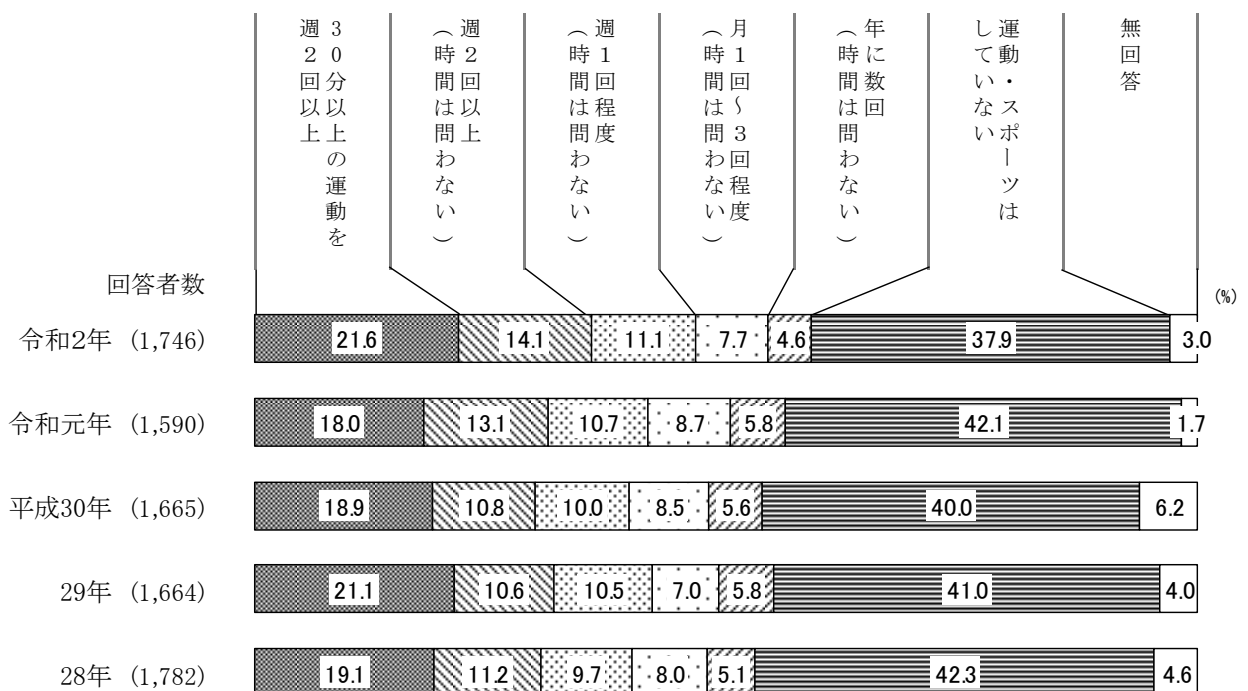
### (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

#### ■「運動・スポーツはしていない」という人は4割弱

問27 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週2回以上」が21.6%で最も多く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（14.1%）、「週1回程度（時間は問わない）」（11.1%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は37.9%を占めている。

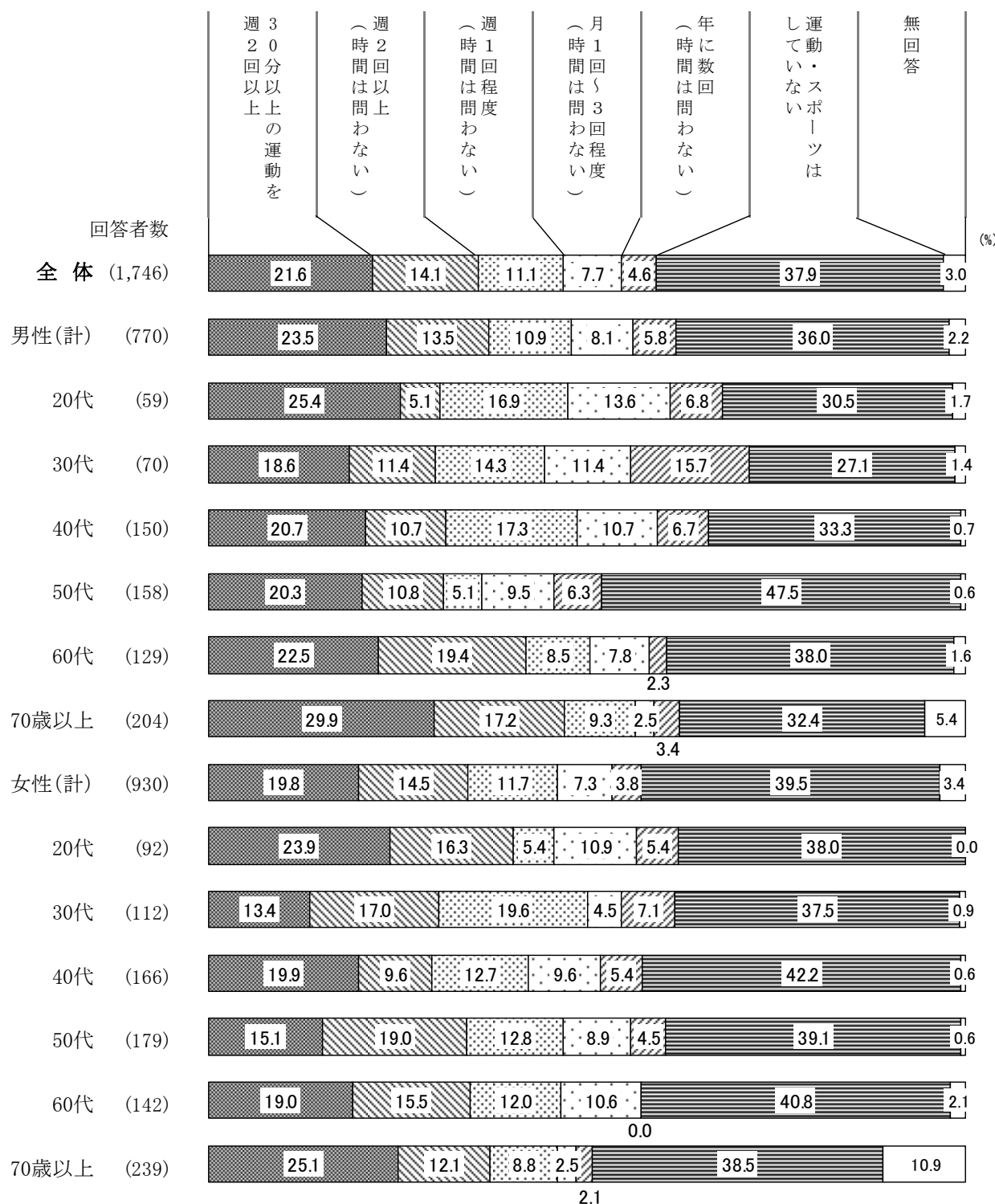
経年でみると、各年の回答分布に大きな変化はみられないが、今回「運動・スポーツはしていない」（37.9%）は、前回より4.2ポイント減少して、平成28年以降の中で初めて4割を下回った。

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」が約3割と他の年代より高くなっている。一方、50代では「運動・スポーツはしていない」が47.5%と他の年代に比べて高くなっている。

女性では、20代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」がともに2割台半ばとやや高くなっている一方で、30代と50代ではともに1割台半ばとやや低くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況





(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

■「ウォーキング」が5割強で突出し、「健康体操」と「筋力トレーニング」が2割台で続く

問27で1～5のいずれかをお答えの方に

問27-1 あなたが最近、継続的にやっている運動・スポーツは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-2-1-① 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

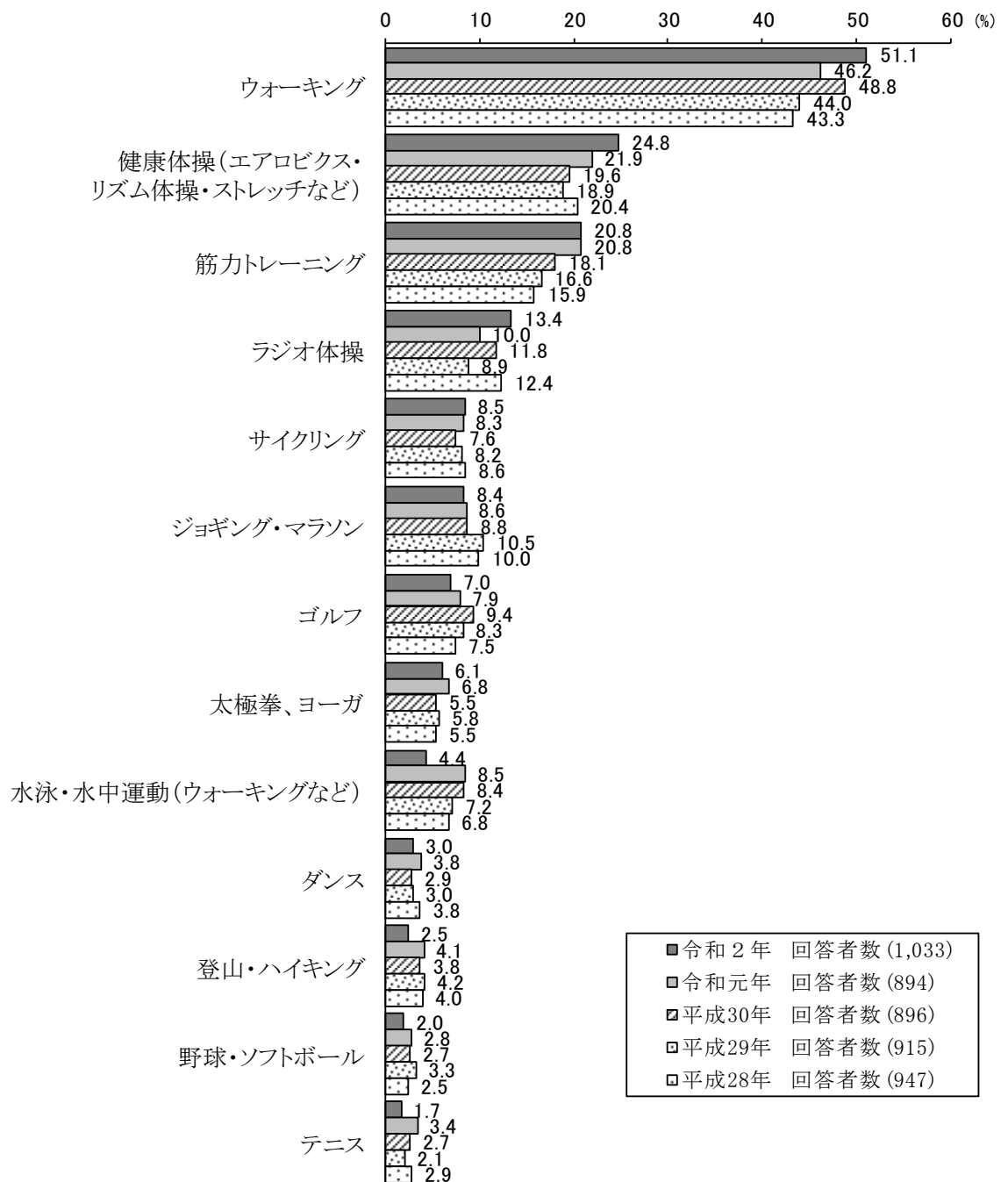
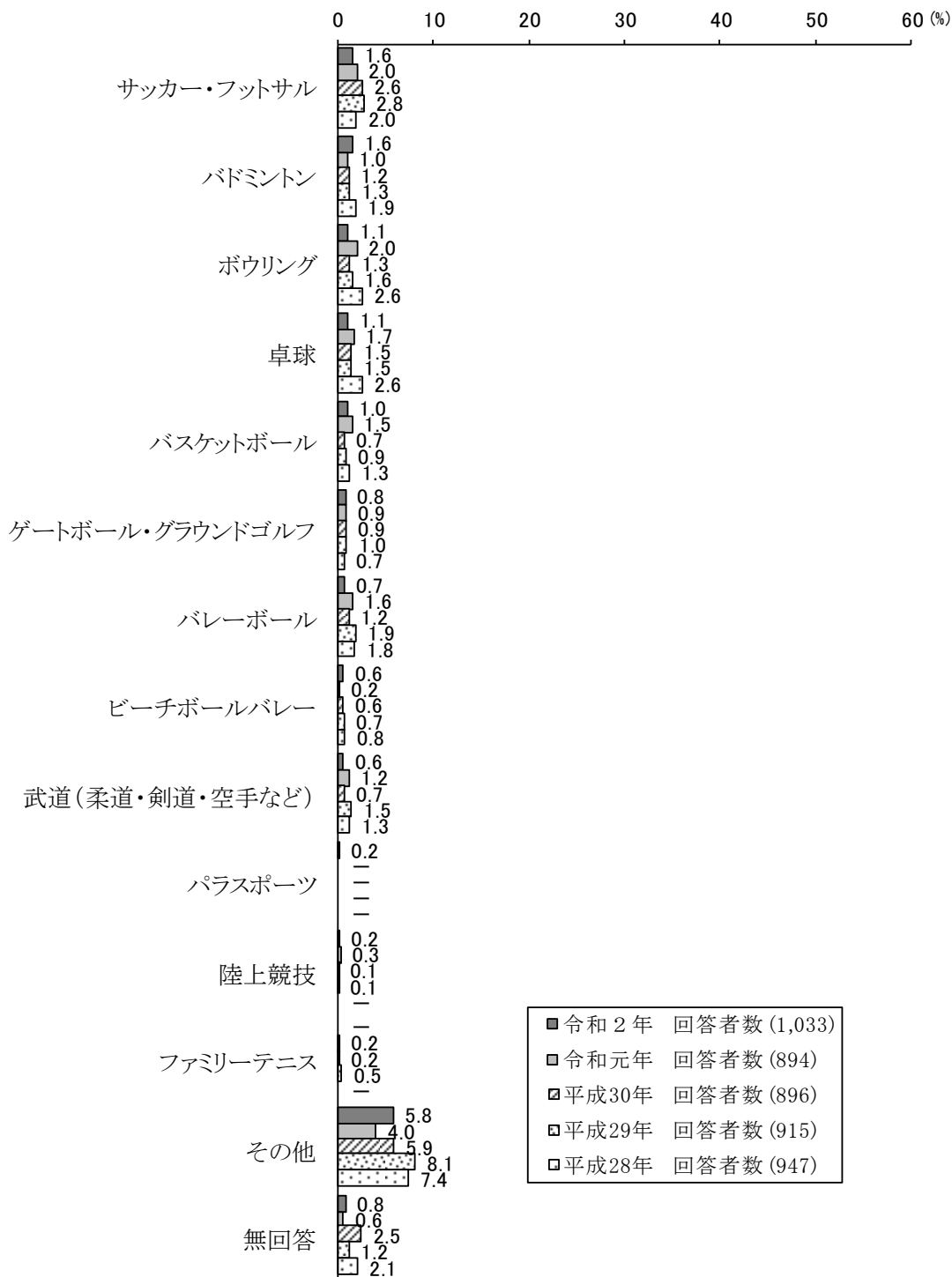


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、「ウォーキング」が51.1%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（24.8%）、「筋力トレーニング」（20.8%）の順で続いている。

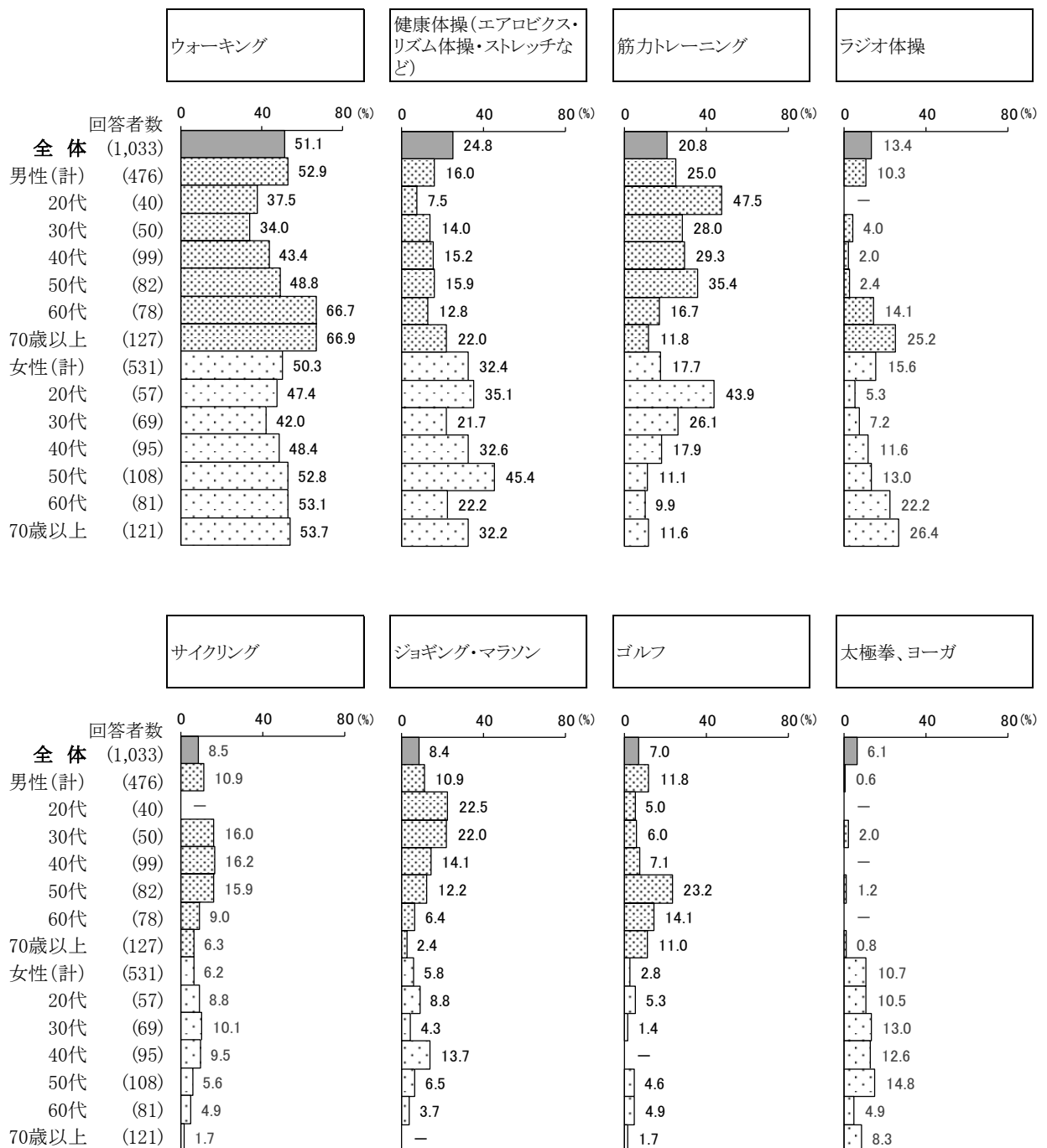
経年でみると、上位3項目の順位に変動はないが、1位の「ウォーキング」は前回より4.9ポイント増加し、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」もやや増加だが、平成29年以降3年続けて漸増傾向にあった3位の「筋力トレーニング」は前回と同率となっている。

性別でみると、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」は女性の方が16.4ポイント高く、「太極拳、ヨーガ」も女性の方が約10ポイント高いが、「筋力トレーニング」と「ゴルフ」は男性の方が女性よりそれぞれ7～9ポイント程度高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上で「ウォーキング」が6割台半ば以上ととくに高く、「筋力トレーニング」は20代で5割弱ととくに高い。

女性では、50代で「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が4割台半ばで最も高く、20代は「筋力トレーニング」が4割台半ばでとくに高い。一方、「ラジオ体操」は70歳以上の2割台半ばを筆頭に年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



### （3）運動・スポーツを行っている場所

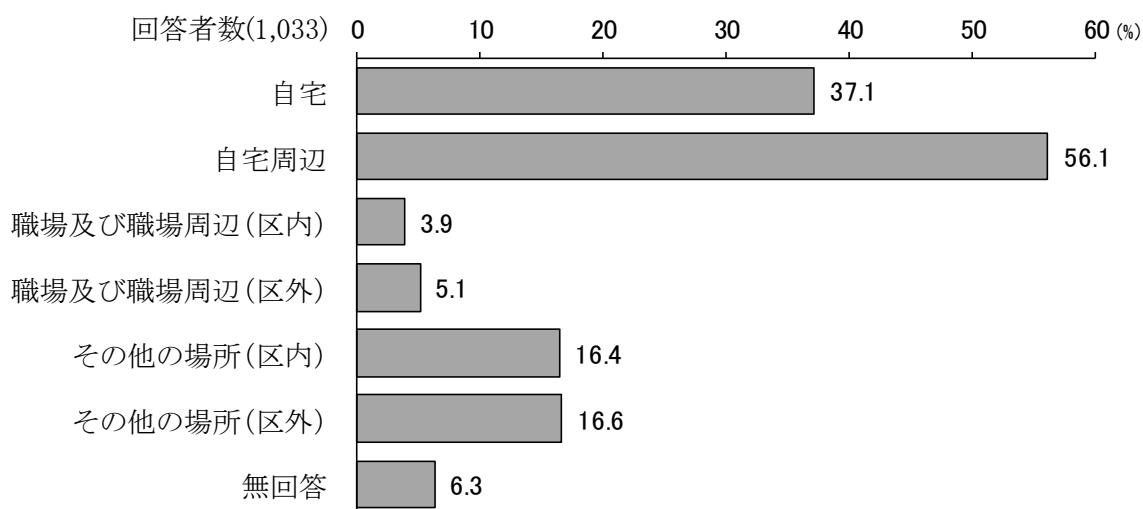
■「自宅周辺」が5割台半ば、「自宅」が4割弱で上位

問27で1～5のいずれかをお答えの方に

問27-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか

（〇はあてはまるものすべて）。

図6-3-1 運動・スポーツを行っている場所

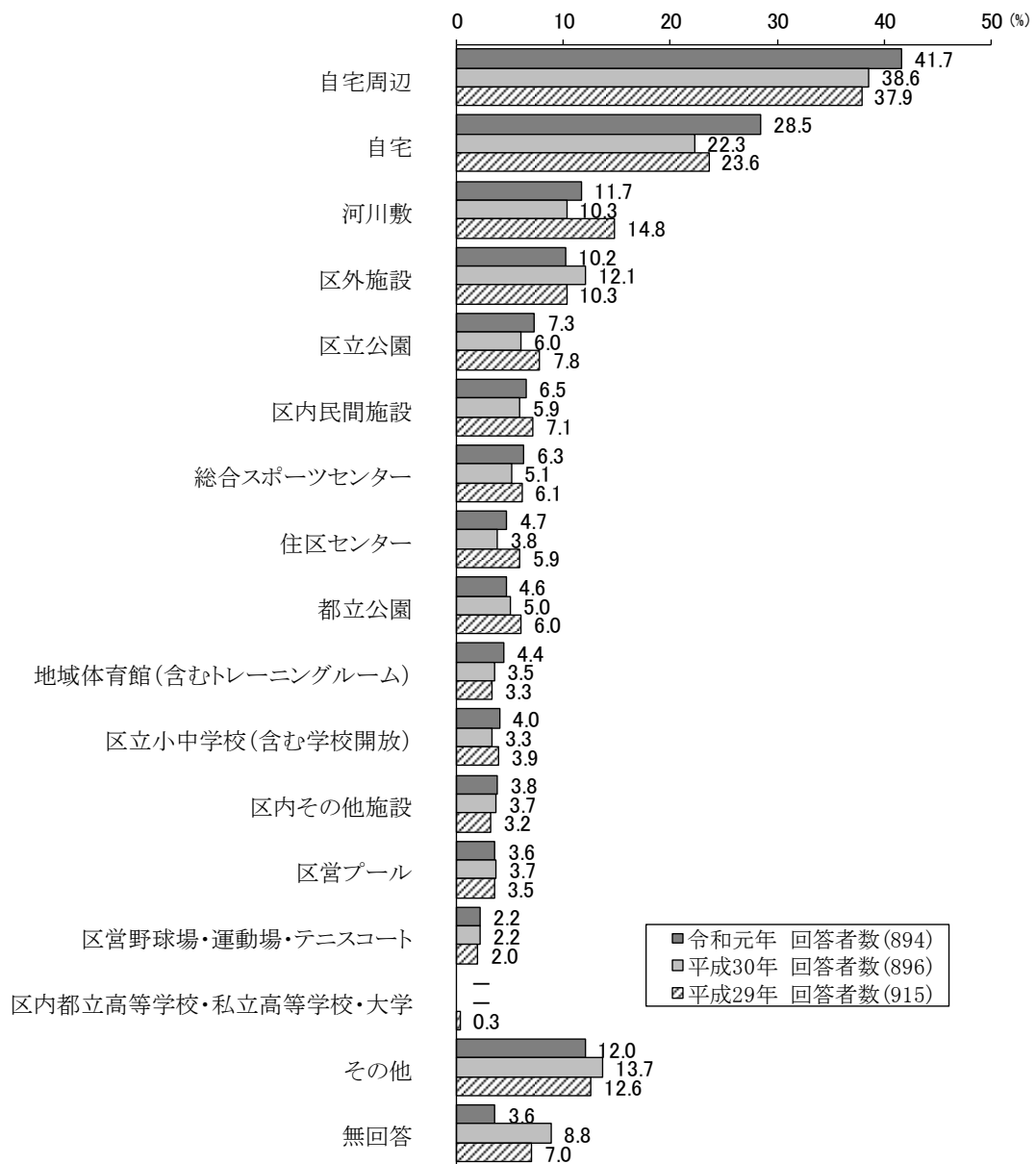


運動・スポーツを行っている人に対して、今回の令和2年度調査から選択肢数を減らして聴取した、運動・スポーツの実施場所の結果をみると、「自宅周辺」（56.1%）が5割台半ばで最も高く、次いで「自宅」（37.1%）が4割弱、これに「その他の場所（区外）」（16.6%）と「その他の場所（区内）」（16.4%）の2項目がそれぞれ1割台半ばで並んで続き、上位となっている。

この結果を、参考までに、同一選択肢について、選択肢変更前の前回令和元年調査の結果と比較すると、「自宅周辺」（56.1%）は前回（41.7%）より14.4ポイント増加し、「自宅」（37.1%）も前回（28.5%）より8.6ポイント増加している。

参考／運動・スポーツを行っている場所

問 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか（〇はあてはまるものすべて）。

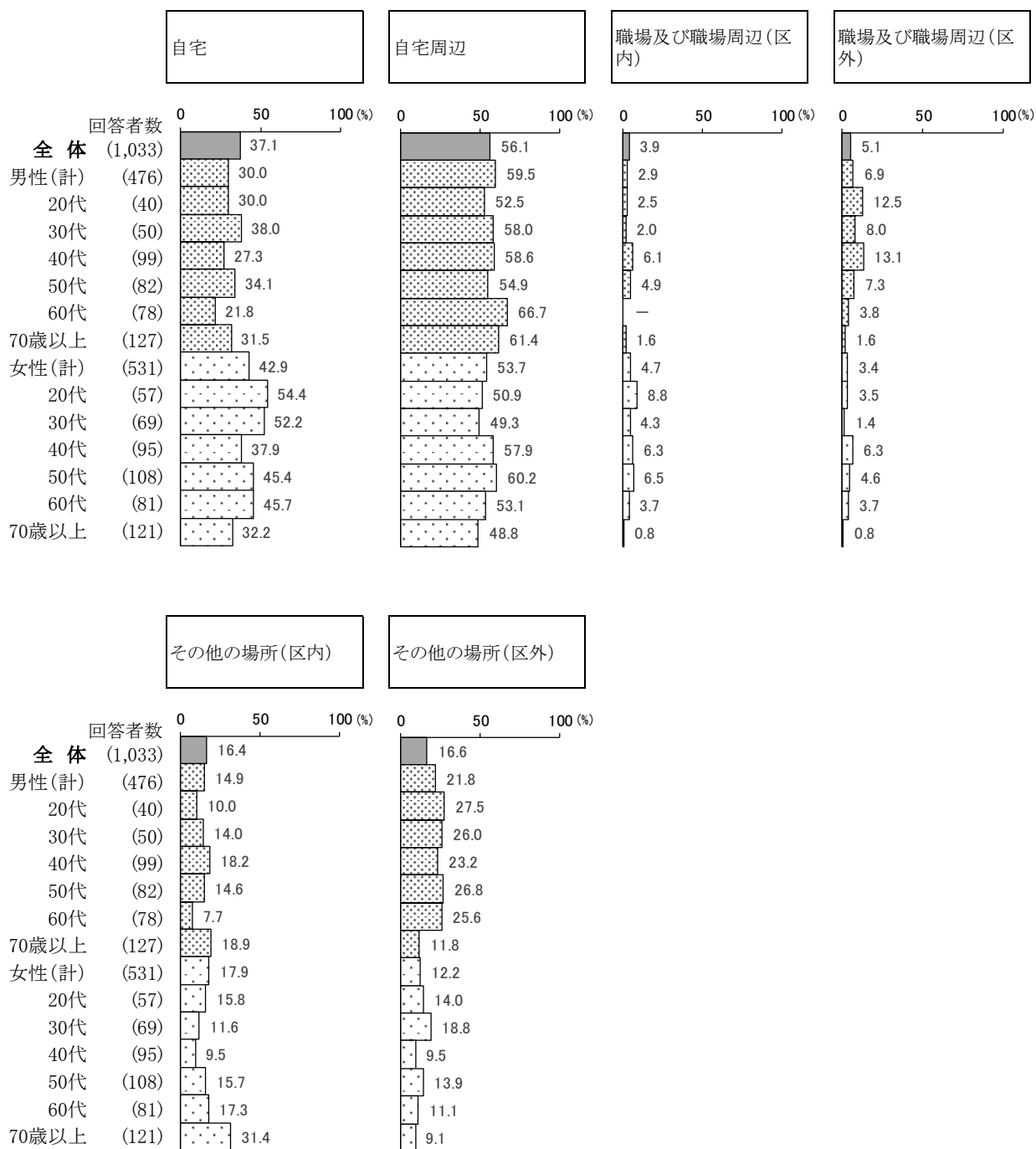


### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

性別でみると、6項目のうち、「自宅」は女性が42.9%と男性（30.0%）より高いが、「自宅周辺」と「その他の場所（区外）」は男性の方が6～10ポイント程度高くなっており、この3項目で性差が大きめとなっている。

性・年代別でみると、「自宅」は女性の20代と30代で5割台と高く、「自宅周辺」は男性の60代と70歳以上及び女性の50代でそれぞれ6割台とやや高いのを除くと、大きな違いはみられない。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行っている場所



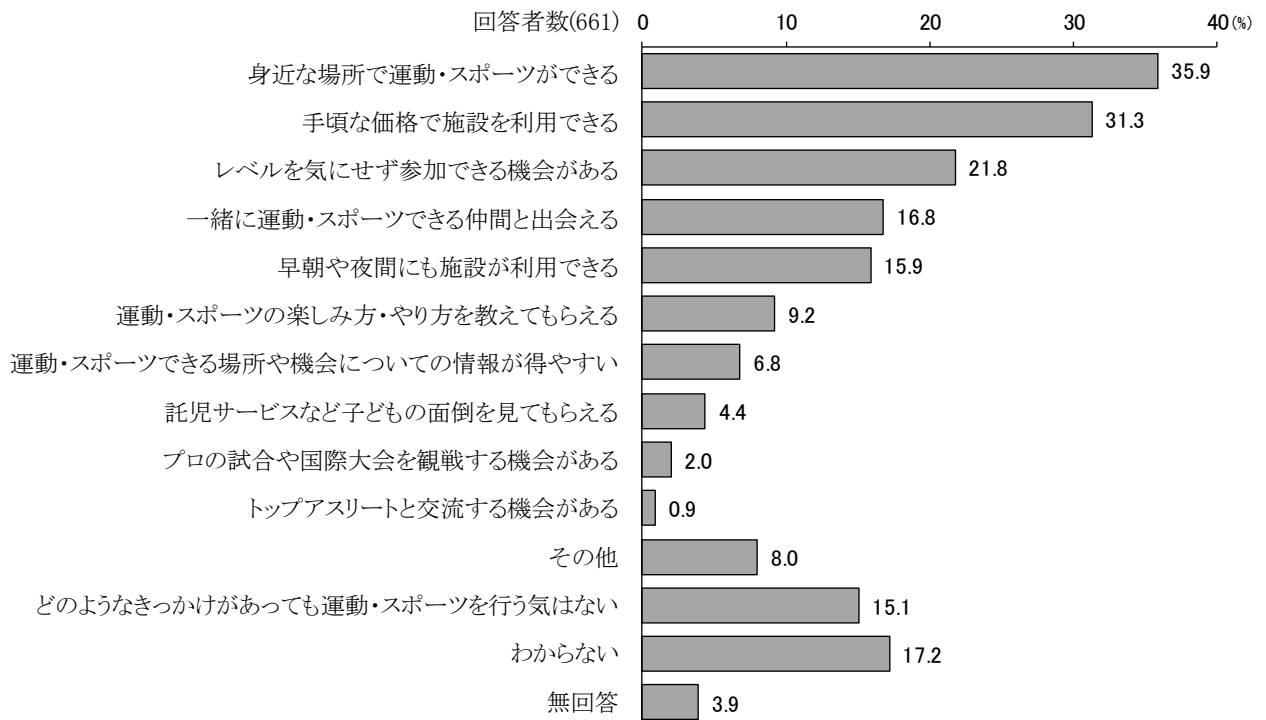
## (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ

## ■「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ばでトップ

問27で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に

問28 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか  
(〇はあてはまるものすべて)。

図6-4-1 運動・スポーツを行うためのきっかけ



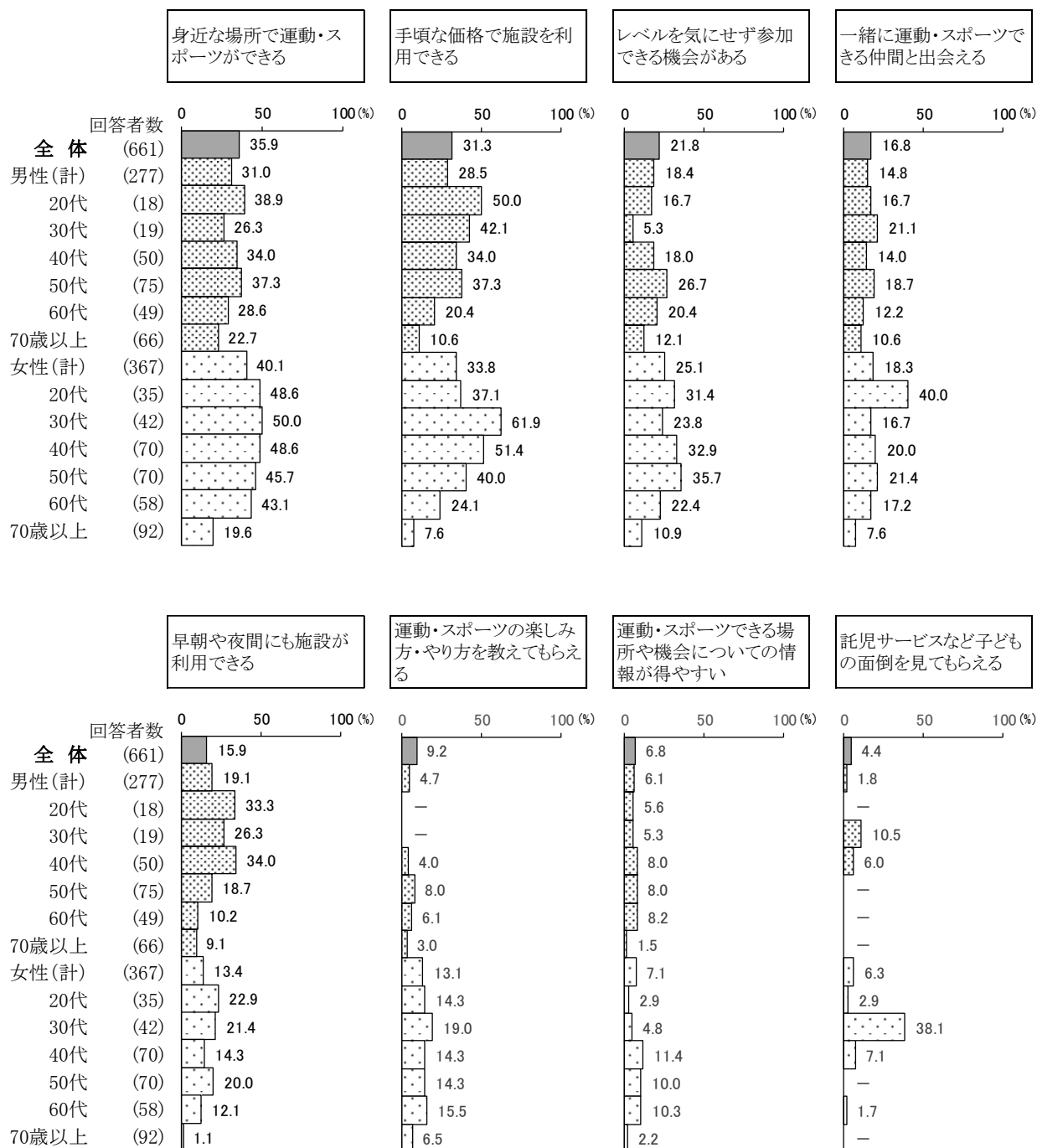
日常的に「運動・スポーツはしていない」と回答した人に、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思うか聞いた結果は、「身近な場所で運動・スポーツができる」が35.9%と3割台半ばで最も高く、次いで「手頃な価格で施設が利用できる」(31.3%)が3割強で続き、以下「レベルを気にせず参加できる機会がある」(21.8%)、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」(16.8%)、「早朝や夜間にも施設が利用できる」(15.9%)の順で続いている。一方、「どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない」は15.1%となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

性別でみると、10ポイントを超えるような大きな男女差はみられないが、男性の方が約6ポイント高めな「早朝や夜間にも施設が利用できる」を除くと、女性の方が9ポイント高い「身近な場所で運動・スポーツができる」をはじめ、ほとんどの項目で男性より女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「手軽な価格で施設を利用できる」と「託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる」の両項目は女性の30代でとくに高く、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会う」が女性の20代でとくに高いのを除くと、目立った大きな格差はみられない。

図6-4-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ／上位8項目





(5) 東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること

■「交通網・交通インフラの整備」が2割で最多も、「特にない」が4割に達する

問29 来年に延期となった2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みに関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

図6-5-1-① 経年比較

／東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること

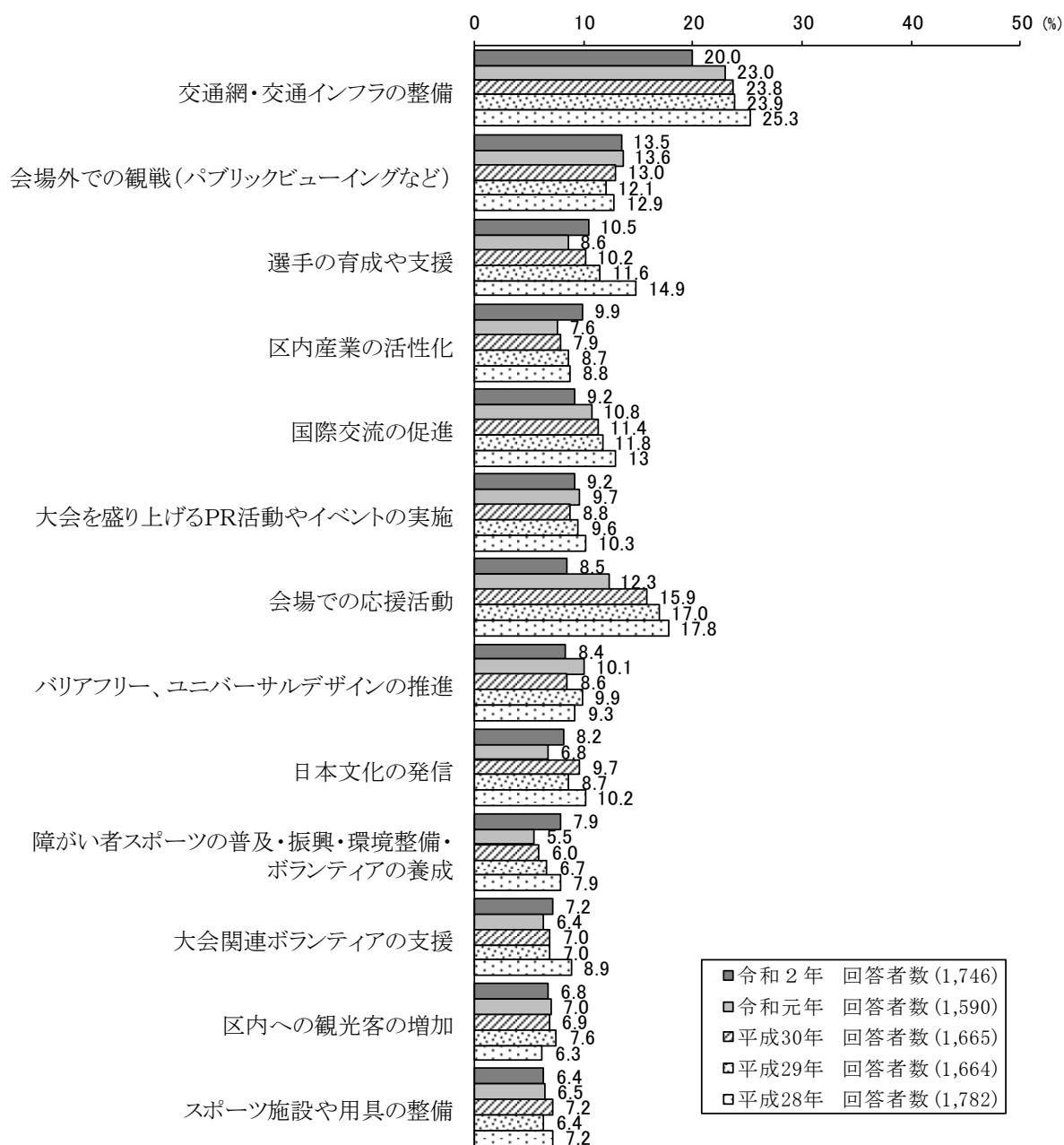
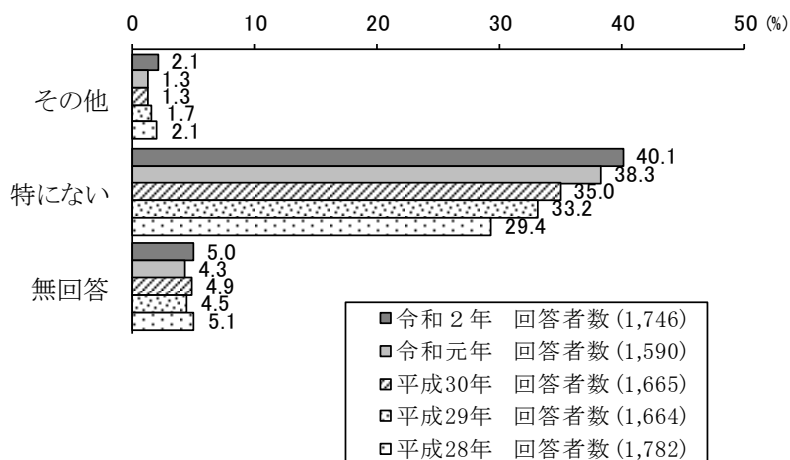


図6-5-1-② 経年比較  
／東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること



来年に延期となった東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みに関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が20.0%で最も高く、以下「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」（13.5%）、「選手の育成や支援」（10.5%）、「区内産業の活性化」（9.9%）、「国際交流の促進」「大会を盛り上げるPR活動やイベントの実施（各9.2%）の順で続いている。一方、「特にない」が40.1%となっている。

経年でみると、順位や比率に変化がみられ、今回の上位項目の中で、「交通網・交通インフラの整備」は最上位を維持しながら3.0ポイント減少し、前回3位だった「会場での応援活動」も2年続けての減少で前回より3.8ポイント減少して、今回は7位に後退している。一方、前回より1.8ポイント増の「特にない」は4年続けて漸増傾向がみられる。

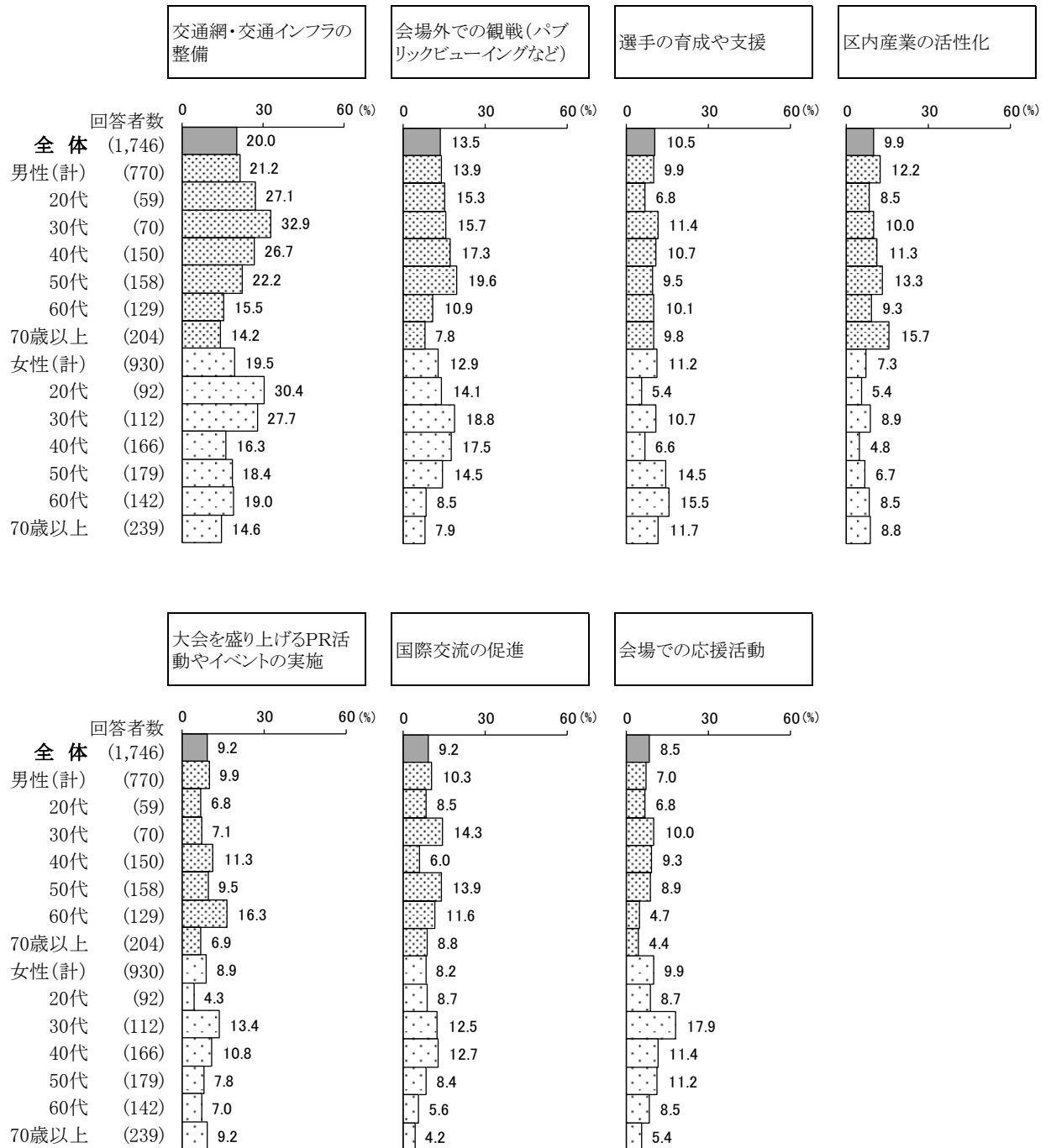
性別でみると、男女で目立った大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、「交通網・交通インフラの整備」が30代で3割強、「大会を盛り上げるPR活動やイベントの実施」が60代で1割台半ばと、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

女性では、「交通網・交通インフラの整備」が20代と30代で3割前後、「会場での応援活動」が30代で2割弱と、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

図6-5-2 性別、性・年代別

／東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること／上位7項目

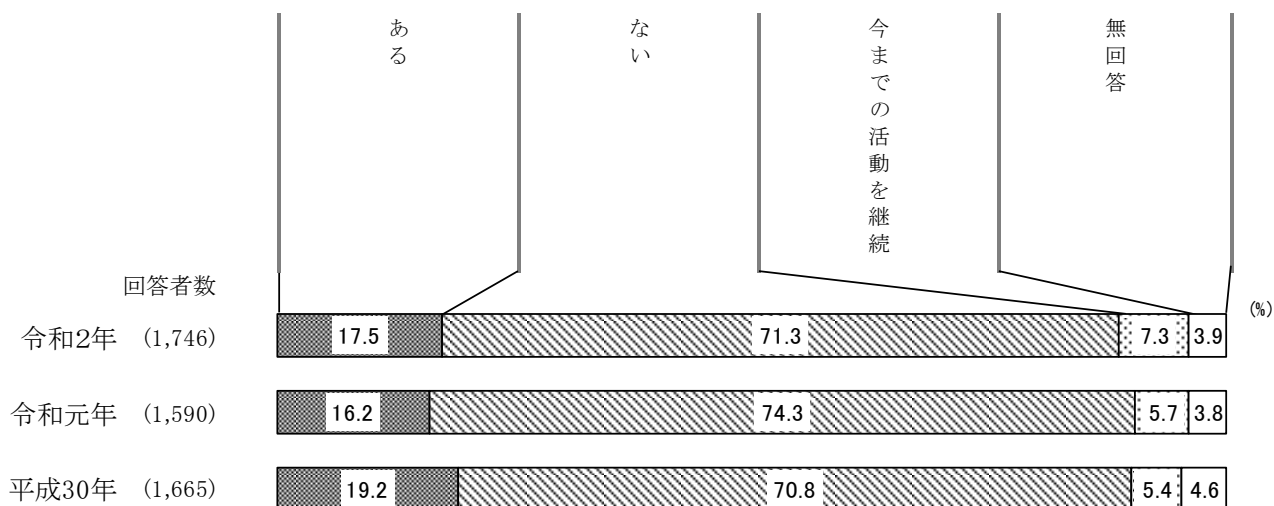


(6) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

■ 新たに始めたい活動がある人は2割弱みられるも、「ない」が7割強と多数

問30 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場でもあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などありますか（○は1つだけ）。

図6-6-1 経年比較／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



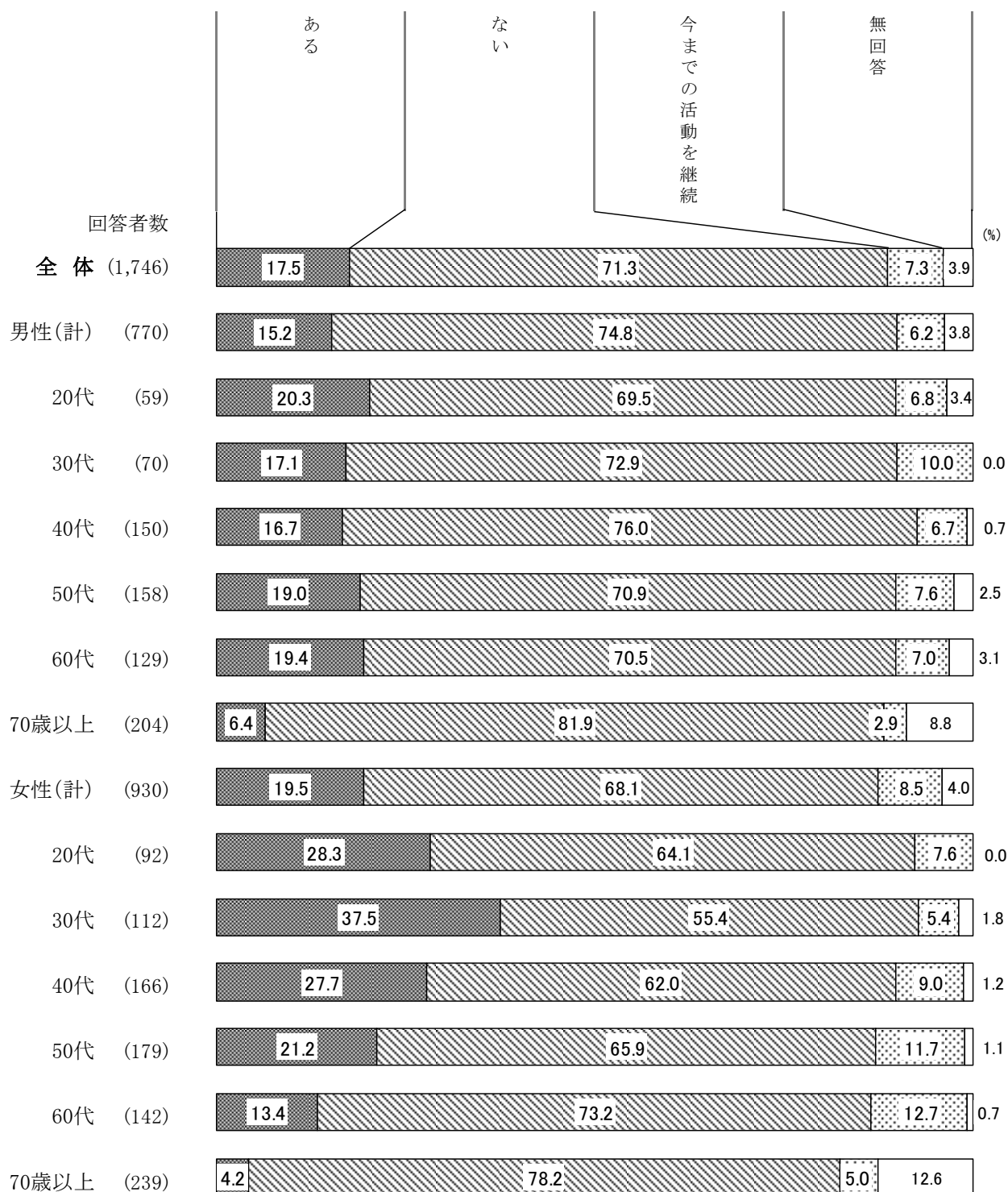
東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無をみると、「ある」が17.5%、「ない」が71.3%、「今までの活動を継続」が7.3%となっている。

今回の結果を前回と比較すると、大きな変化はみられないものの、「ある」は1.3ポイント増加し、「今までの活動を継続」も1.6ポイント増加し、「ない」は3.0ポイント減少している。

性別でみると、大きな違いはみられないが、「ある」は女性19.5%で、男性（15.2%）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は、男性では、20代が20.3%と最も高く、70歳以上が1割に満たず低いのを除くと、総じて他の年代差は小さい。一方、女性では30代が37.5%ととくに高く、70歳以上で1割に満たずに低く、30代をピークとした山型分布となっており、男性に比べて年代差が大きくなっている。

図6-6-2 性別、性・年代別／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



(7) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動

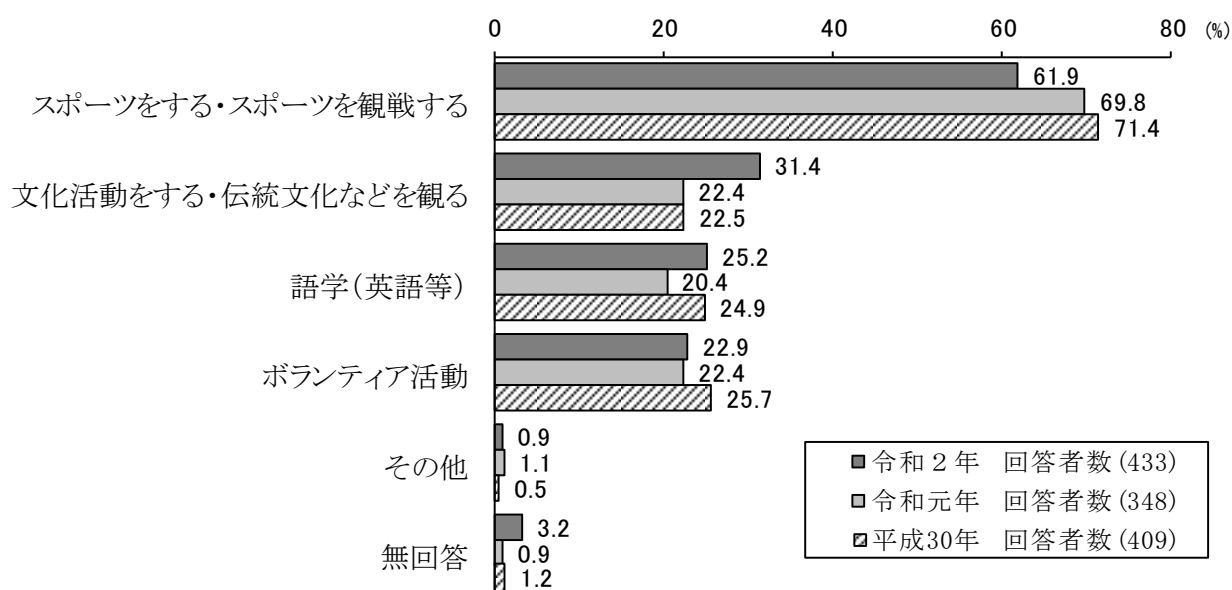
■ “スポーツをする・観戦する” が6割強で高い

問30で「1 ある」、または「3 今までの活動を継続」とお答えの方に

問30-1 それは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

※ 文化活動とは、華道、茶道、書道などの日本文化や音楽、美術、写真、舞踊などのスポーツ以外の習い事や趣味的な活動とお考えください。

図6-7-1 経年比較／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動



来年に延期された東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動がある、または、今までの活動を継続と回答した人に対して、活動の内容を聴いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が61.9%で最も高く、これに「文化活動をする・伝統文化などを観る」(31.4%)が3割強で続き、以下「語学(英語等)」(25.2%)、「ボランティア活動」(22.9%)の順となっている。

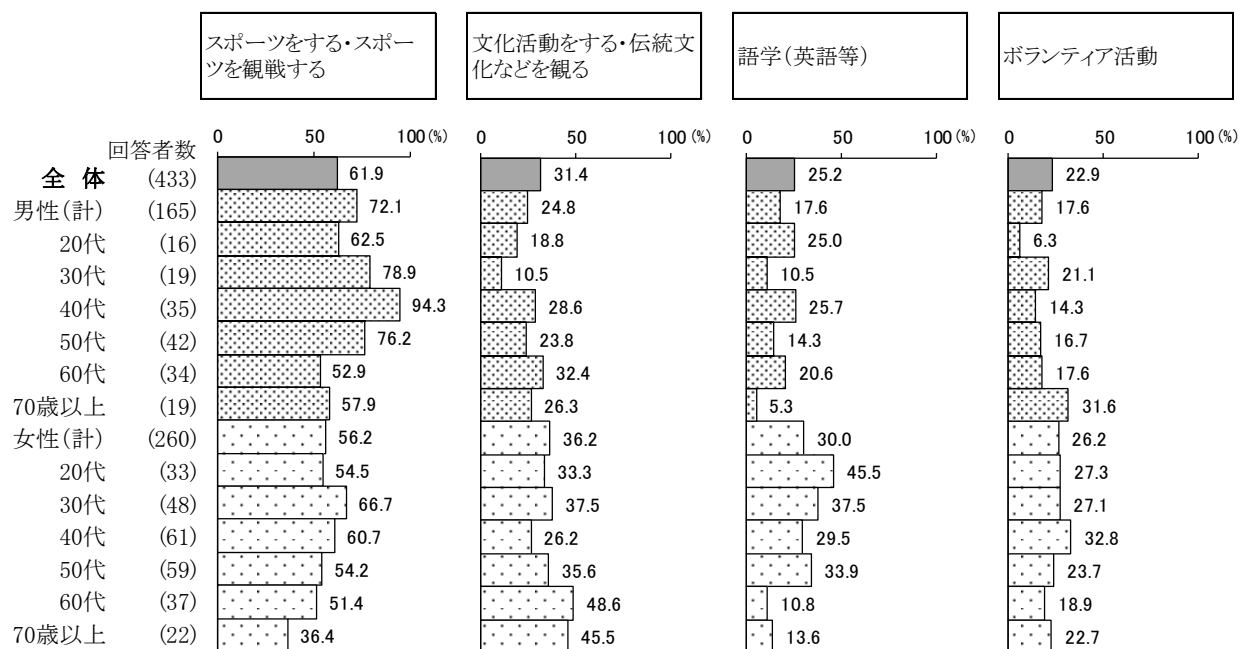
経年でみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」は今回61.9%で前回(69.8%)より7.9ポイント減少しているのに対し、前回「ボランティア活動」と同率の3位だった「文化活動をする・伝統文化などを観る」は今回31.4%で前回(22.4%)より9.0ポイント増加して、順位も上げている。

性別でみると、各項目で男女差がみられ、男性の方が約16ポイント高い「スポーツをする・スポーツを観戦する」を除く他の3項目は、いずれも女性の方が9～12ポイント程度高くなっている。

性・年代別でみると、男性では「スポーツをする・スポーツを観戦する」が40代で9割台半ばととくに高く、「ボランティア活動」が70歳以上で3割強と高いのを除くと、大きな年代差はみられない。

女性では、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が30代で6割台半ば、「文化活動をする・伝統文化などを観る」が60代と70歳以上で4割台後半、「語学（英語等）」が20代で4割台半ばと、それぞれ高くなっている。

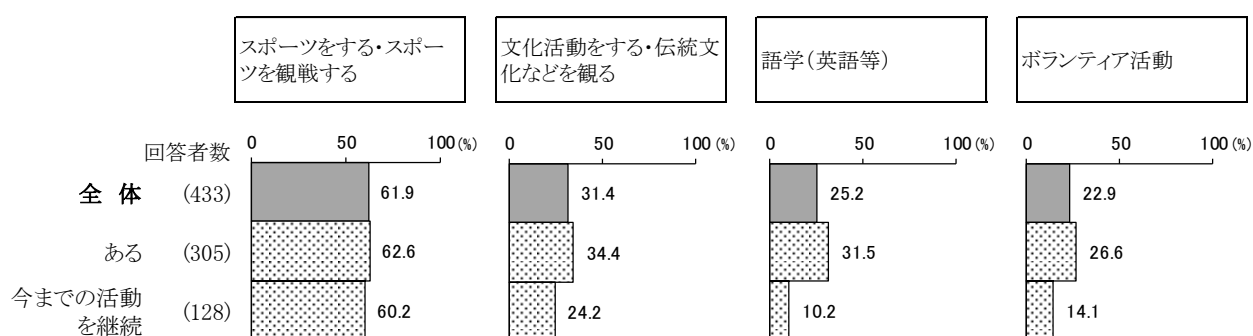
図6-7-2 性別、性・年代別  
／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層、および、今までの活動を継続と回答した層別にみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」では層別による違いはみられないが、「語学（英語等）」は、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層で31.5%と高く、今までの活動を継続とした層の10.2%を大きく上回っている。「文化活動をする・伝統文化などを観る」と「ボランティア活動」の2項目も新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層の方が10～13ポイント程度高くなっている。

図6-7-3 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無別  
／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目





## (8) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ

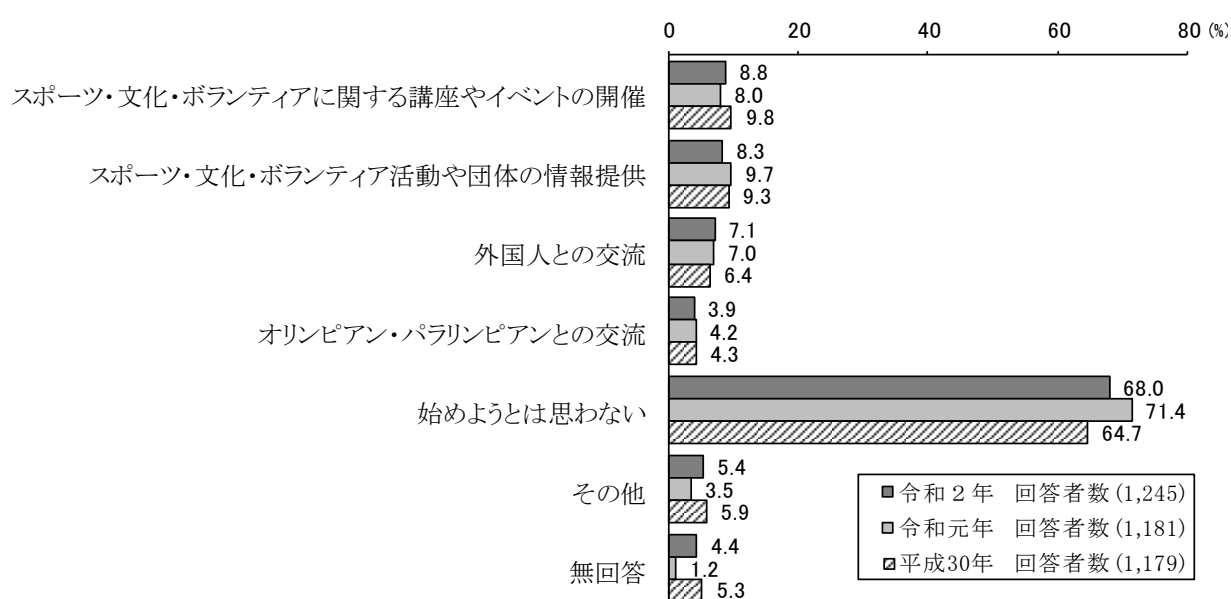
■ “講座やイベントの開催”が1割弱で最多も、「始めようとは思わない」が7割弱に達する

問30で「2 ない」とお答えの方に

問30-2 あなたは、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-8-1 経年比較／スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ



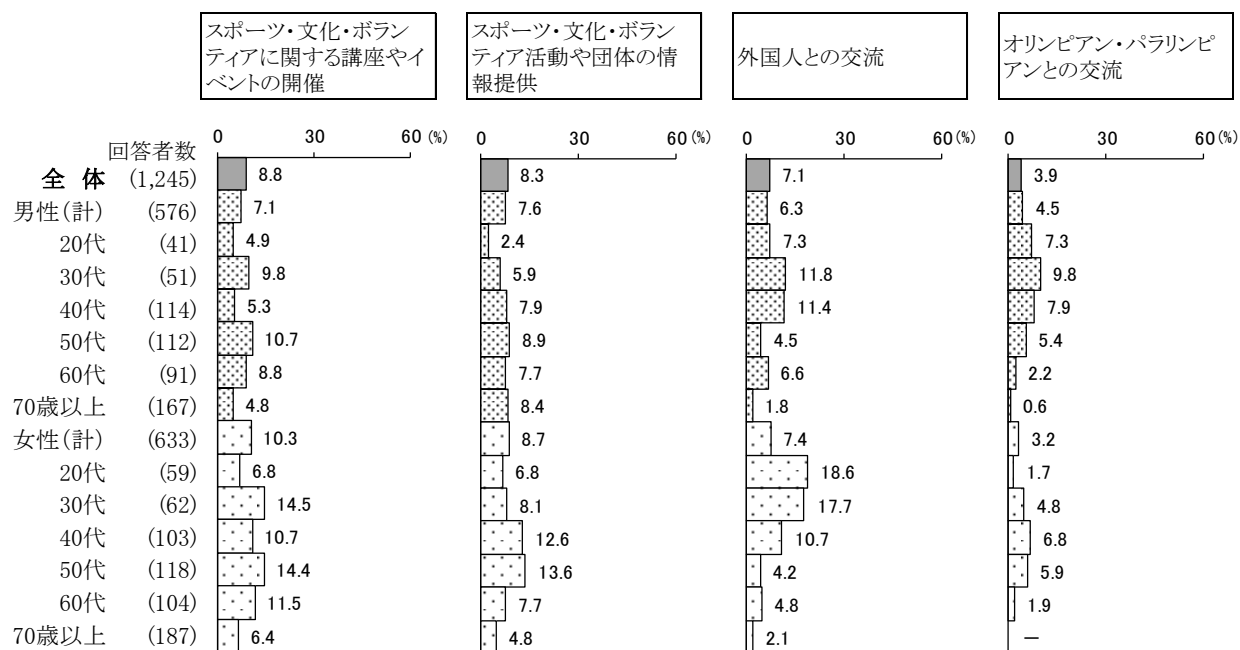
来年に延期された東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動はないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思うかを聞いたところ、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.8%)、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(8.3%)、「外国人との交流」(7.1%)の順で、3項目がいずれも1割弱の僅差で並んでいる。一方、「始めようとは思わない」は68.0%で7割弱となっている。

前回結果と比較すると、各項目の比率や順位に大きな変動はみられないが、上位2項目は僅差ながら順位が入れ替わり、「始めようとは思わない」は前回より3.4ポイント減少している。

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、目立って大きな違いはみられないが、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」は女性の30代と50代で1割台半ば、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」は女性の40代と50代で1割台前半、「外国人との交流」は女性の20代と30代で2割弱、「オリンピック・パラリンピアンとの交流」は男性の30代で約1割と、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高めとなっている。

図6-8-2 性別、性・年代別／スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ  
／上位4項目

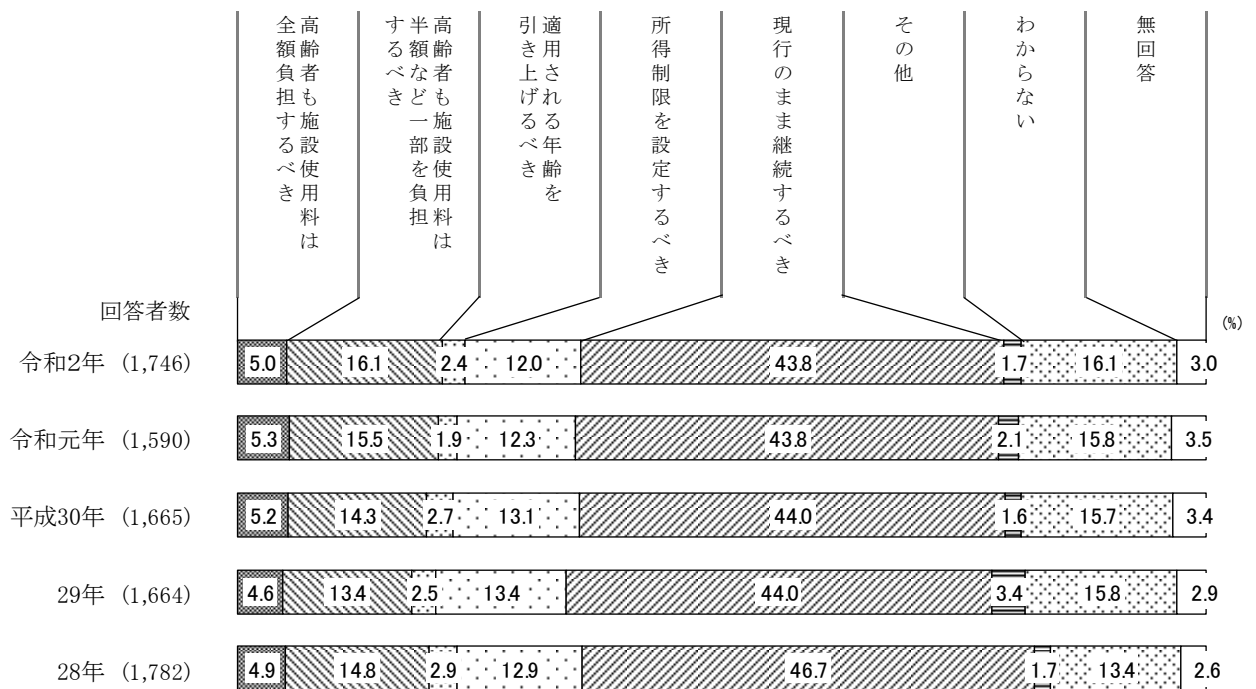


## (9) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■「現行のまま継続すべき」が、これまで同様4割台半ばで主流

問31 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-9-1 経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続すべき」が43.8%で最も多く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」（16.1%）、「所得制限を設定すべき」（12.0%）の順で続いている。

経年でみると、それぞれの回答分布に大きな変化はみられず、5年続けて似通った回答分布となっている。

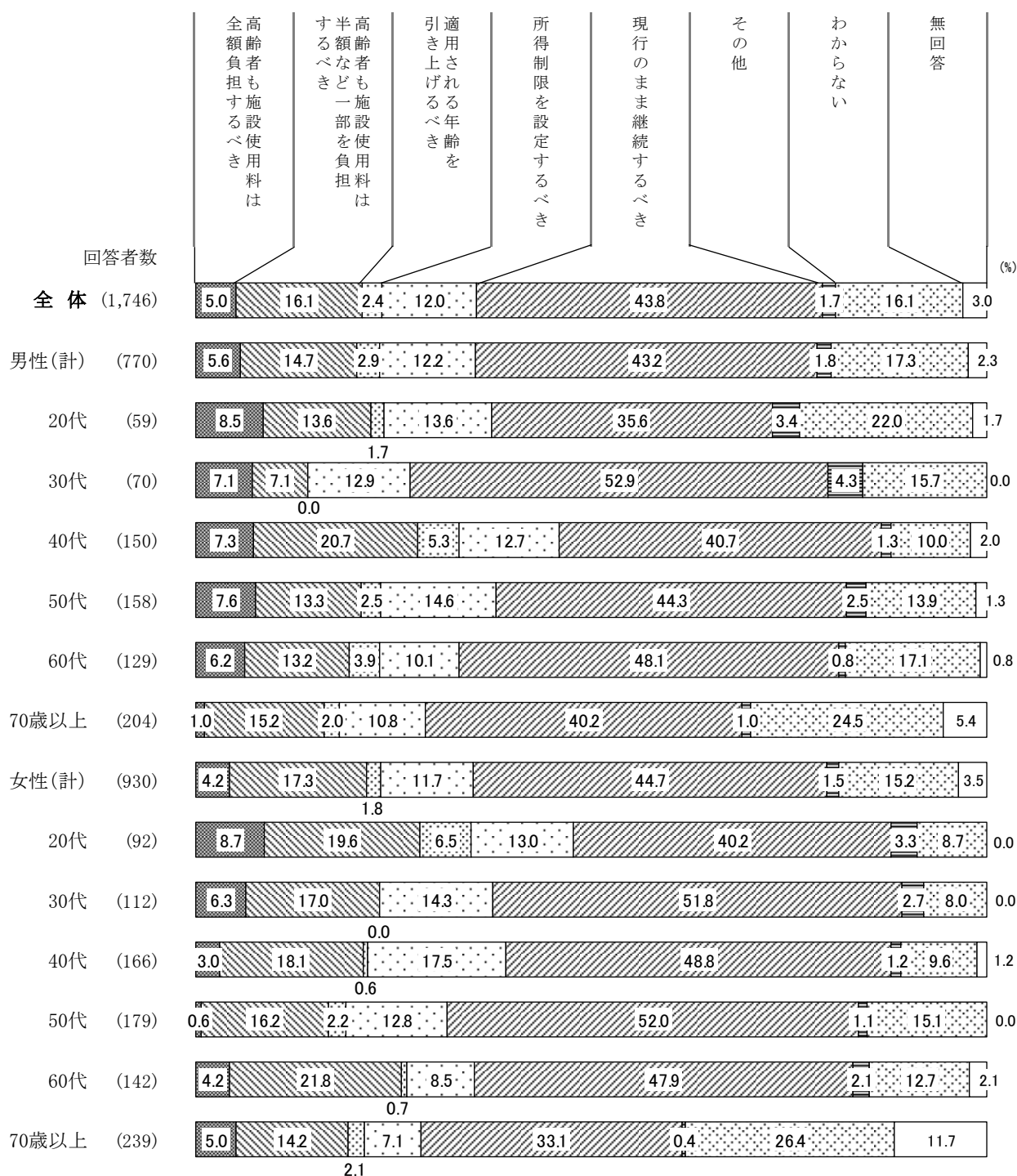
### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

性別でみると、「現行のまま継続すべき」は男性43.2%、女性44.7%で、他の選択肢の比率も含めて、男女の回答分布に大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代で「現行のまま継続すべき」が5割強と高く、40代で「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」が2割を超えてやや高くなっている。

女性では、30代と50代で「現行のまま継続すべき」が5割強、60代で「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」が2割強、70歳以上で「わからない」が2割台半ばと、それぞれ他の年代層に比べてやや高くなっている。

図6-9-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



## (10) 読書に関わる行動状況

■「新聞を読む」が5割を超えて最も高く、【読書に関わる行動なし】は1割強にとどまる

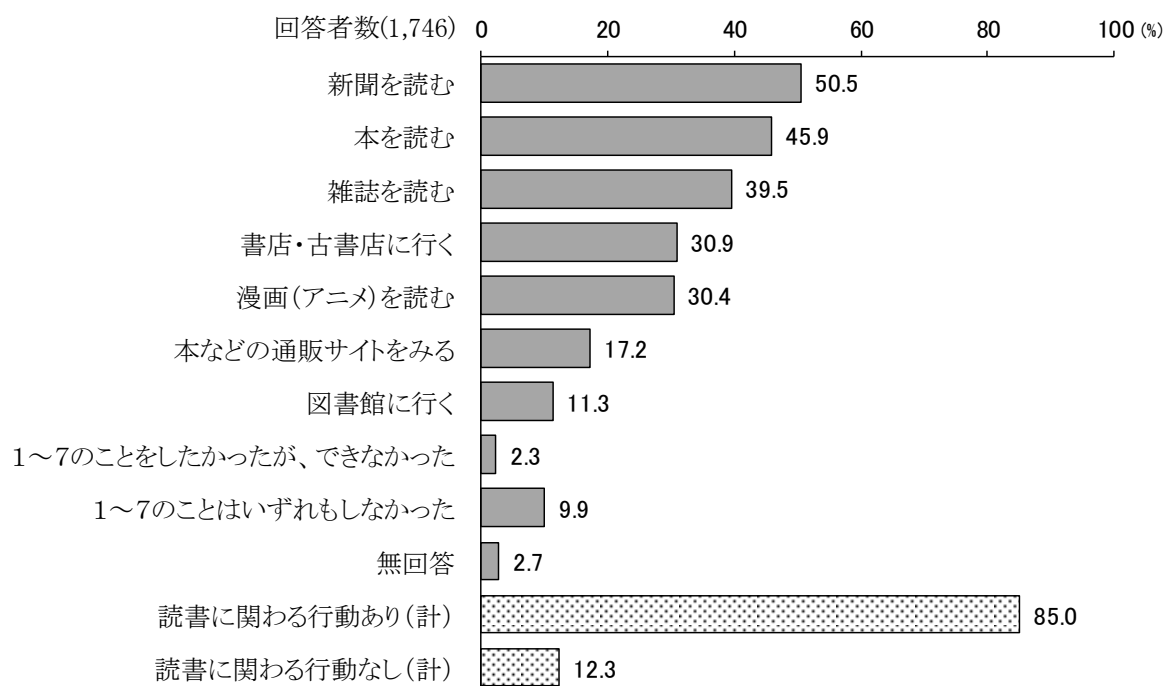
問32 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（○はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画（アニメ）」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含みます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含みます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含みません。

図6-10-1 読書に関わる行動状況



今回の令和2年調査から新たに聴取した、最近1か月に行った読書に関わる行動の結果をみると、「新聞を読む」が50.5%で最も高く、以下、「本を読む」(45.9%)、「雑誌を読む」(39.5%)、「書店・古書店に行く」(30.9%)、「漫画(アニメ)を読む」(30.4%)の順となっている。

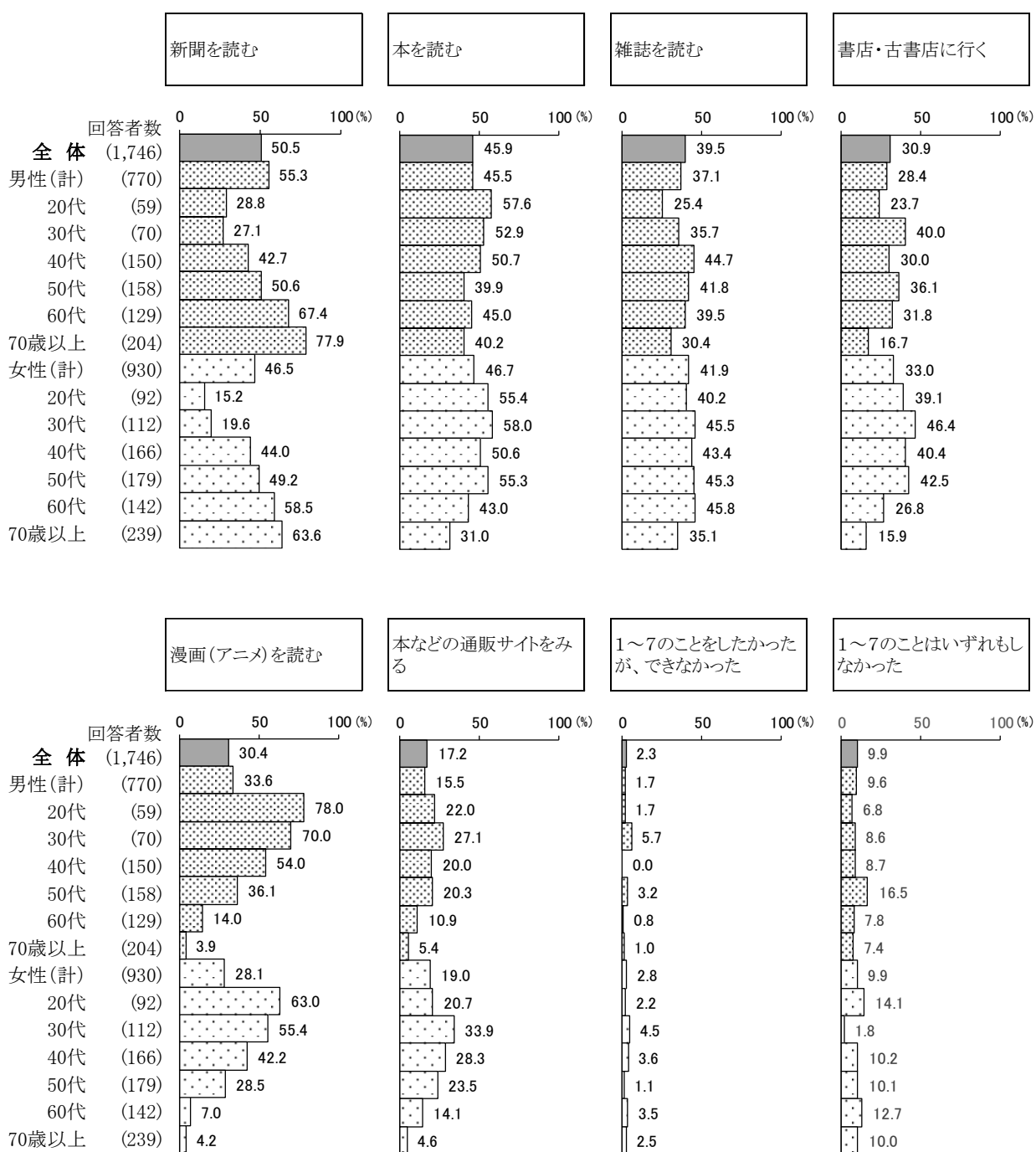
一方、「したかったが、できなかった」は2.3%、「いずれもしなかった」は9.9%となっており、これら両者を合わせた【読書に関わる行動なし】は12.3%で1割強となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

性別にみると、最上位の「新聞を読む」で男性の方が女性より約9ポイント高いのを除くと、大きな男女差はみられない。

性・年代別にみると、男女ともに、「新聞を読む」は70歳以上を筆頭に、年代が高くなるにつれてその比率も高まるのに対し、「漫画（アニメ）を読む」は20代を筆頭に年代が低い層ほどその比率が高まる傾向が明確で、この両項目で年代格差が大きい、「したかったが、できなかった」と「いずれもしなかった」の両項目含めて、目立った性・年代別の違いがみられない項目が多い。

図6-10-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動状況／上位6項目＋なし2項目



## (11) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

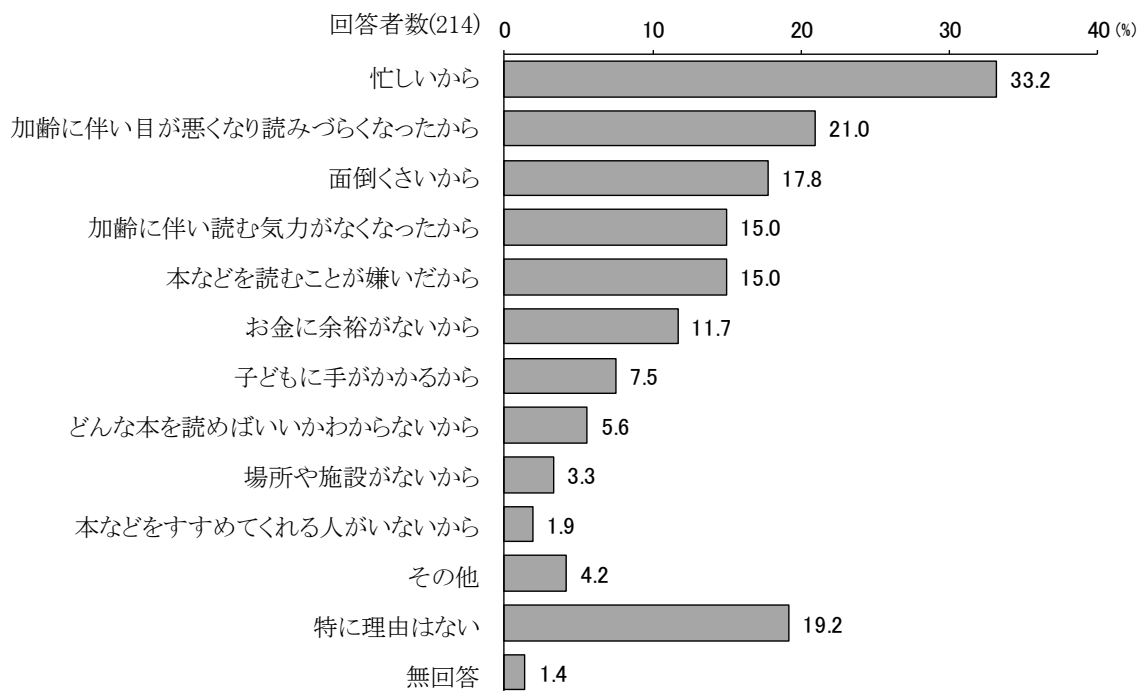
■「忙しいから」が3割強で最も高く、「加齢で目が悪く読みづらくなった」が2割強で次点

問32で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」を選んだ方のみお答えください

問32-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-11-1 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由



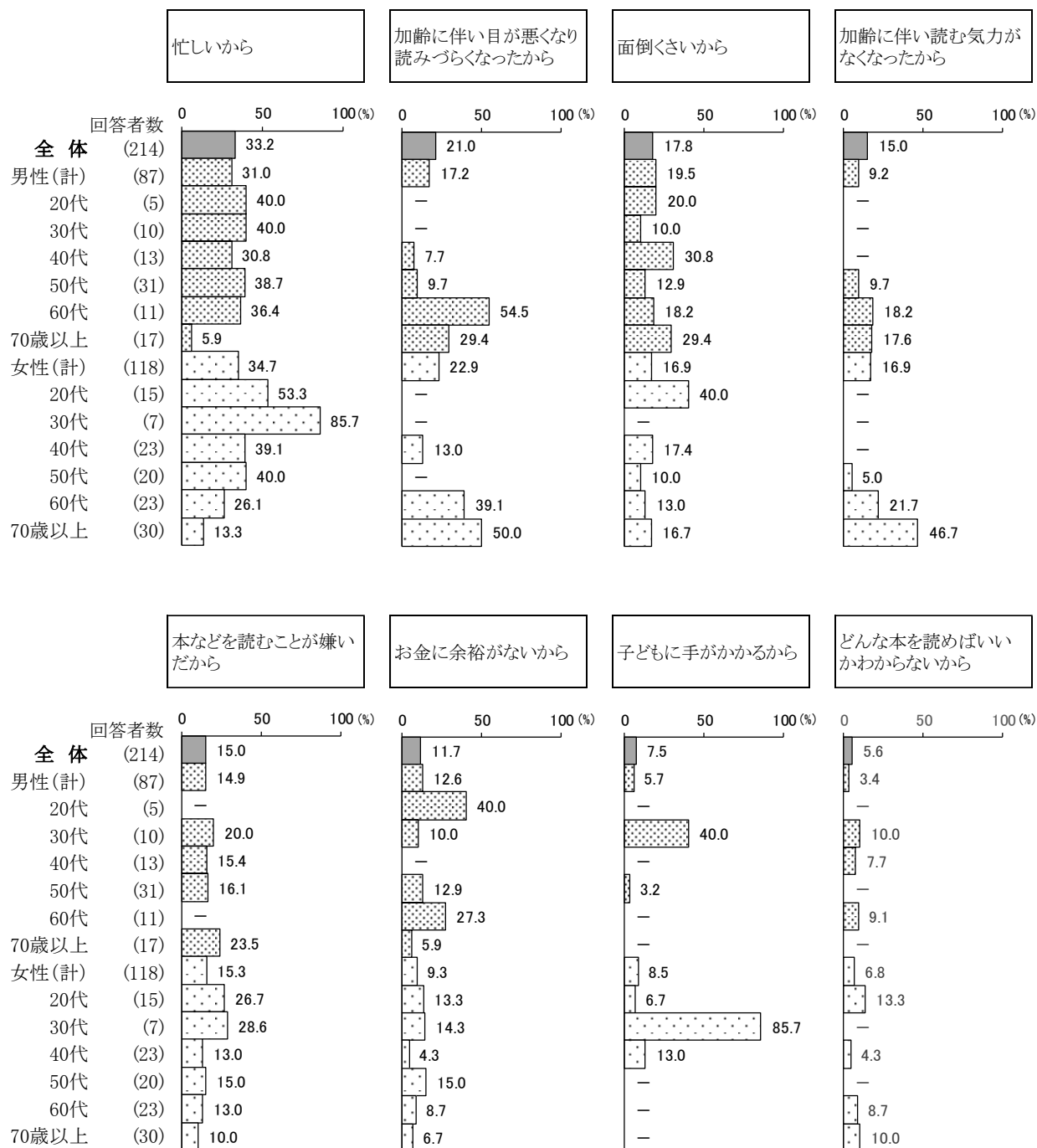
最近1か月間に読書に関わる行動が「できなかった」か「しなかった」と回答した人に、その理由を聞いた結果は、「忙しいから」(33.2%)が3割強で最も高く、「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(21.0%)が2割強で続き、以下「面倒くさいから」(17.8%)、「加齢に伴い読む気力がなくなったから」「本などを読むことが嫌いだから」(各15.0%)、「お金に余裕がないから」(11.7%)の順となっている。一方で「特に理由はない」(19.2%)も約2割となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ・読書〉

性別にみると、各項目にわたって大きな男女差はみられない。

性・年代別にみると、いくつかの項目で目立った違いがみられるものの、いずれの性・年代別層もサンプル数が少ないことから、あくまで参考値としての掲載にとどめ、コメントは割愛する。

図6-11-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由  
／上位8項目





## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

- 
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
  - (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み
  - (3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況
  - (4) 治安が改善していることの認知
  - (5) 居住地域の治安状況
  - (6) 区内の治安が良いと感じる点
  - (7) 区内の治安が悪いと感じる点
  - (8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
  - (9) 駐車時の鍵かけ状況
-



## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

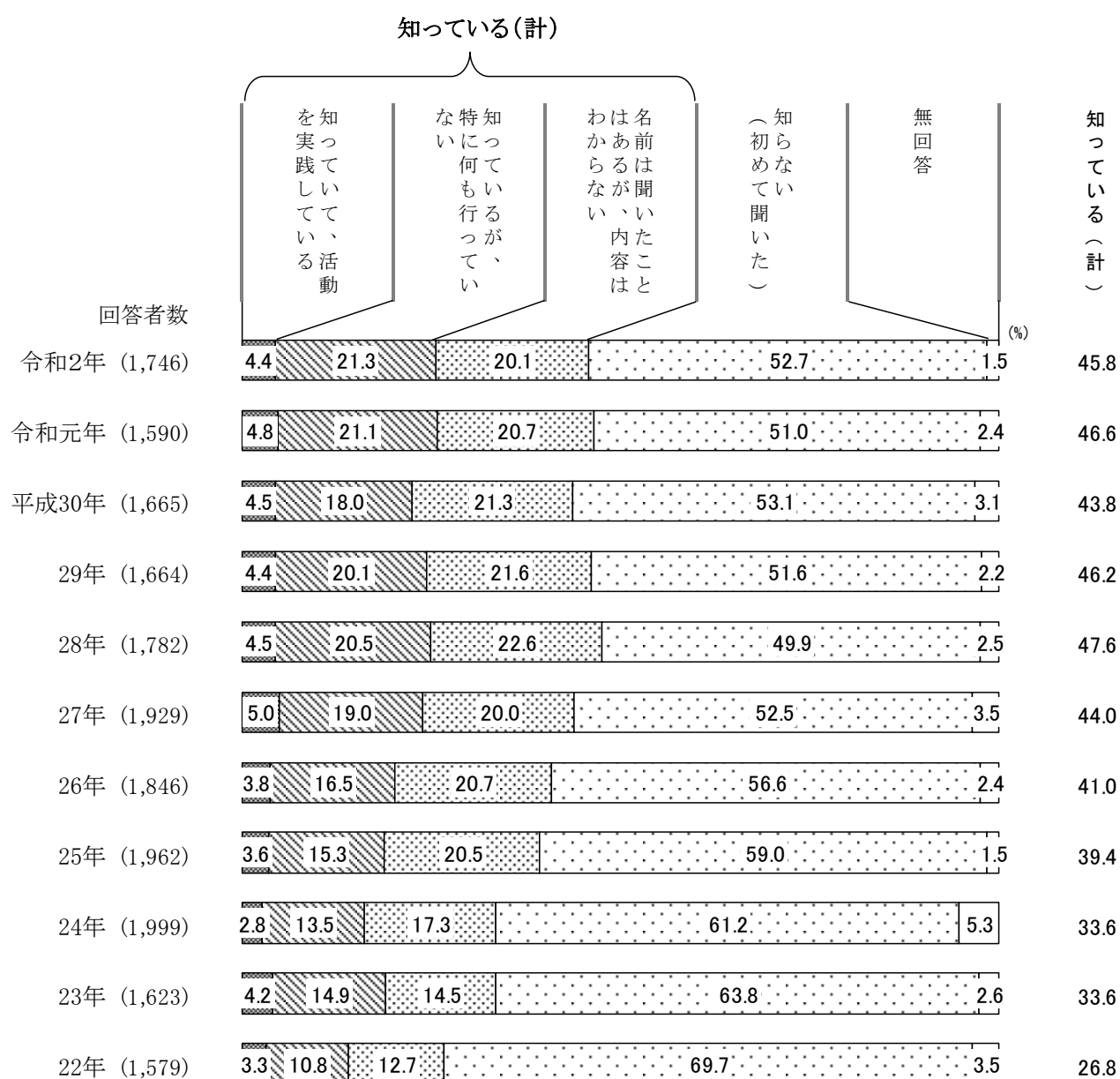
### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■【知っている】が4割台半ばで、「知らない」が5割強を占めている

問33 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図7-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



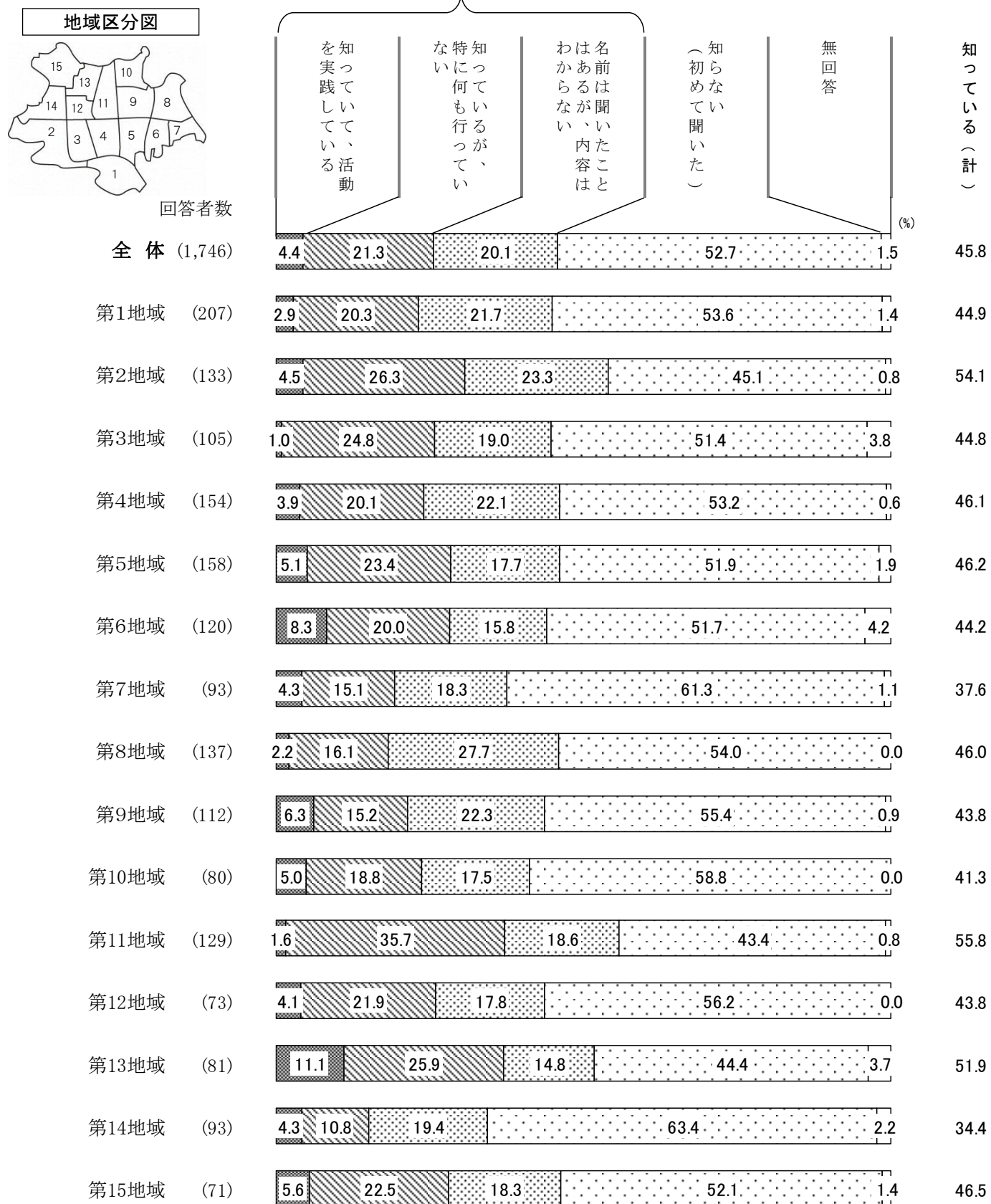
### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は4.4%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」（21.3%）、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」（20.1%）を合わせた【知っている】は45.8%となっている。

経年でみると、【知っている】は、平成28年の47.6%を頂点として平成29年以降は2年続けて微減していたものが、前回の令和元年で2.8ポイント増加した。今回の【知っている】は45.8%と前回（46.6%）より0.8ポイントながら微減している。

地域別でみると、【知っている】は、第11地域で55.8%と最も高いほか、第2地域でも54.1%と高くなっているが、第14地域（34.4%）と第7地域（37.6%）では3割台で低くなっている。

図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況  
知っている(計)



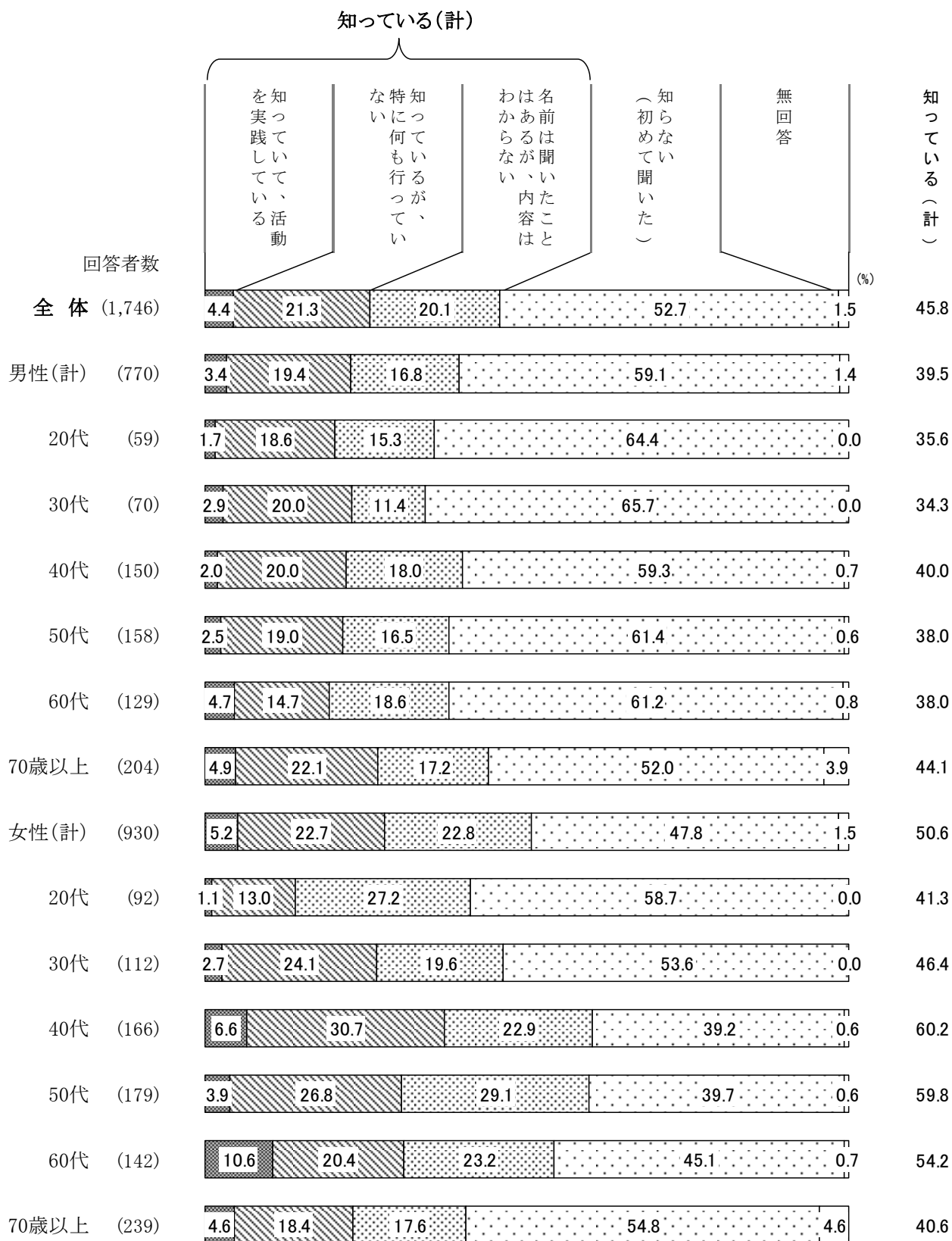
### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、【知っている】は男性39.5%、女性50.6%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、【知っている】は70歳以上で4割台半ばと高くなっているが、20代と30代では3割台半ばとやや低くなっている。

女性では、【知っている】は40代と50代で6割程度と高いが、20代と70歳以上では4割強とやや低くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



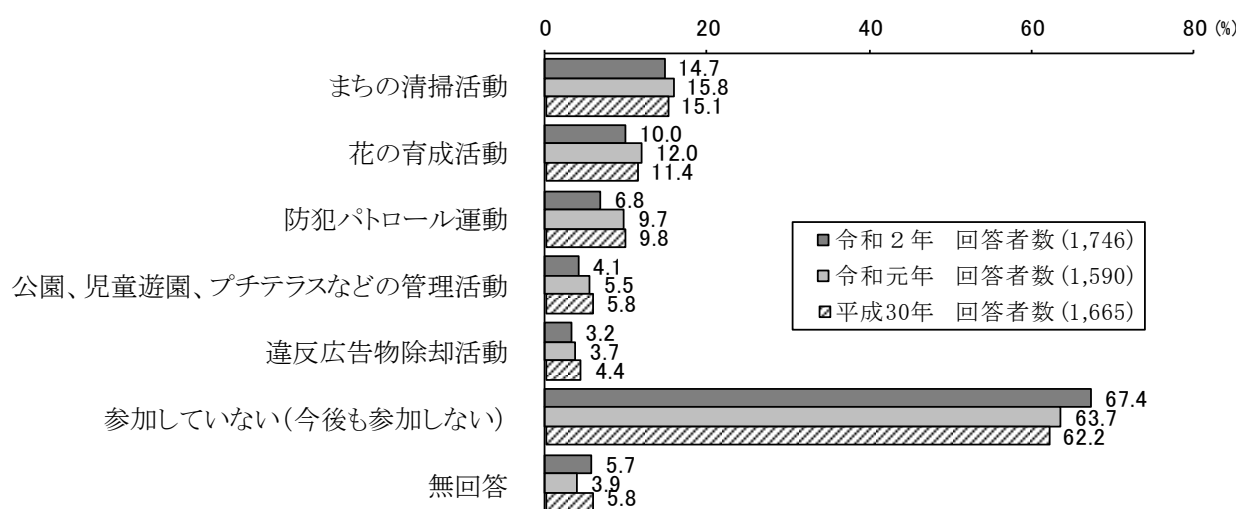
## (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

■「まちの清掃活動」が1割台半ばと最多も、「参加していない(今後も参加しない)」が7割弱に達している

問34「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図7-2-1 経年比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関する取り組みのうち、現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みを聞いたところ、「まちの清掃活動」が14.7%で最も高く、以下「花の育成活動」（10.0%）、「防犯パトロール運動」（6.8%）の順となっている。

一方、「参加していない（今後も参加しない）」は67.4%となっている。

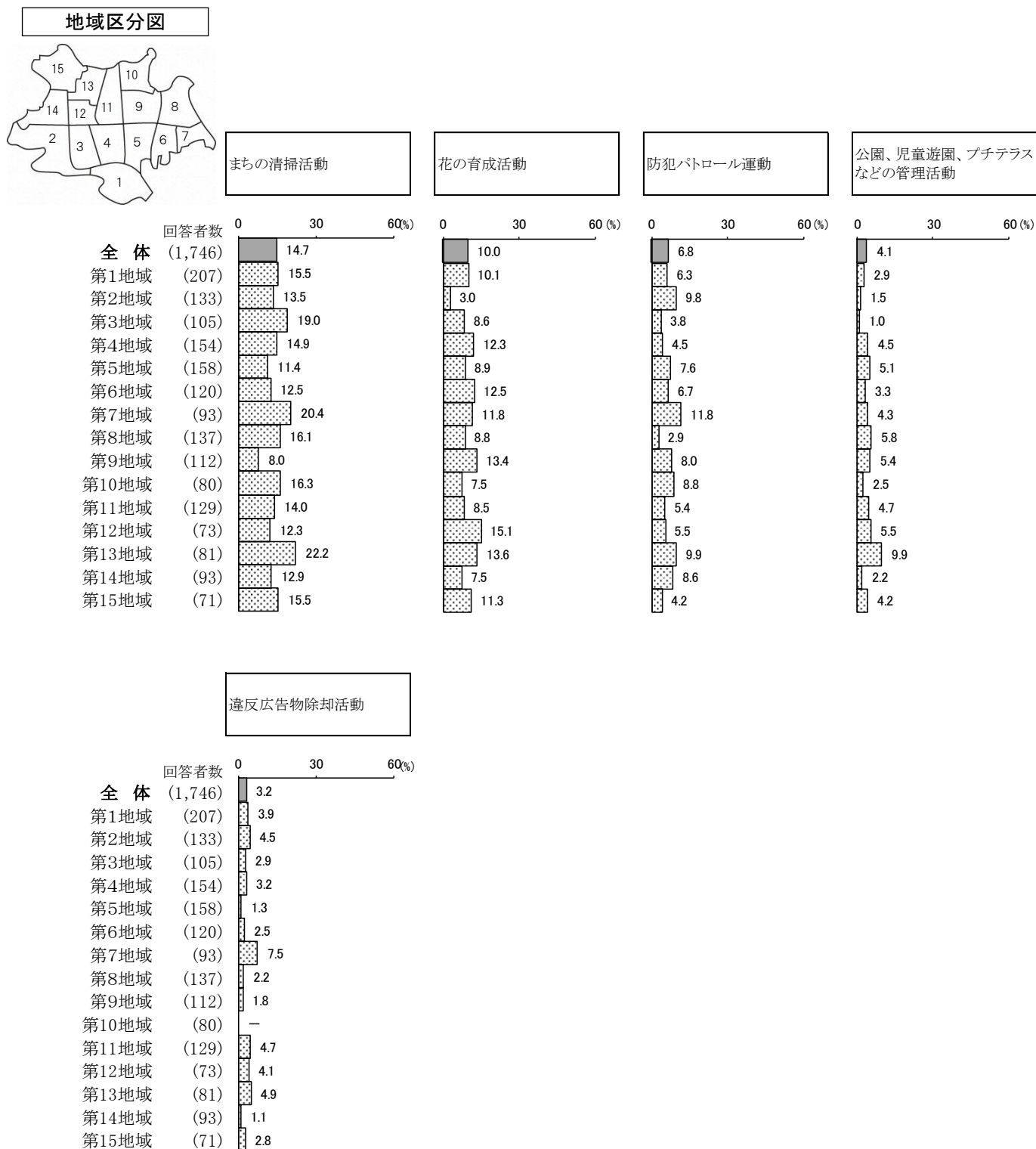
経年でみると、今回の回答割合に平成30年と令和元年の過去の2回と大きな違いはみられないが、具体的な活動を示す選択肢5項目はいずれも前回の比率を僅かずつ下回って減少している一方で、「参加していない（今後も参加しない）」は2年続けて微増している。

### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「まちの清掃活動」は第13地域と第7地域で2割を超え、「防犯パトロール」は第7地域で1割強と、それぞれ他の地域に比べてやや高くなっているが、各項目ともに地域別に目立って大きな違いはみられない。

図7-2-2 地域別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

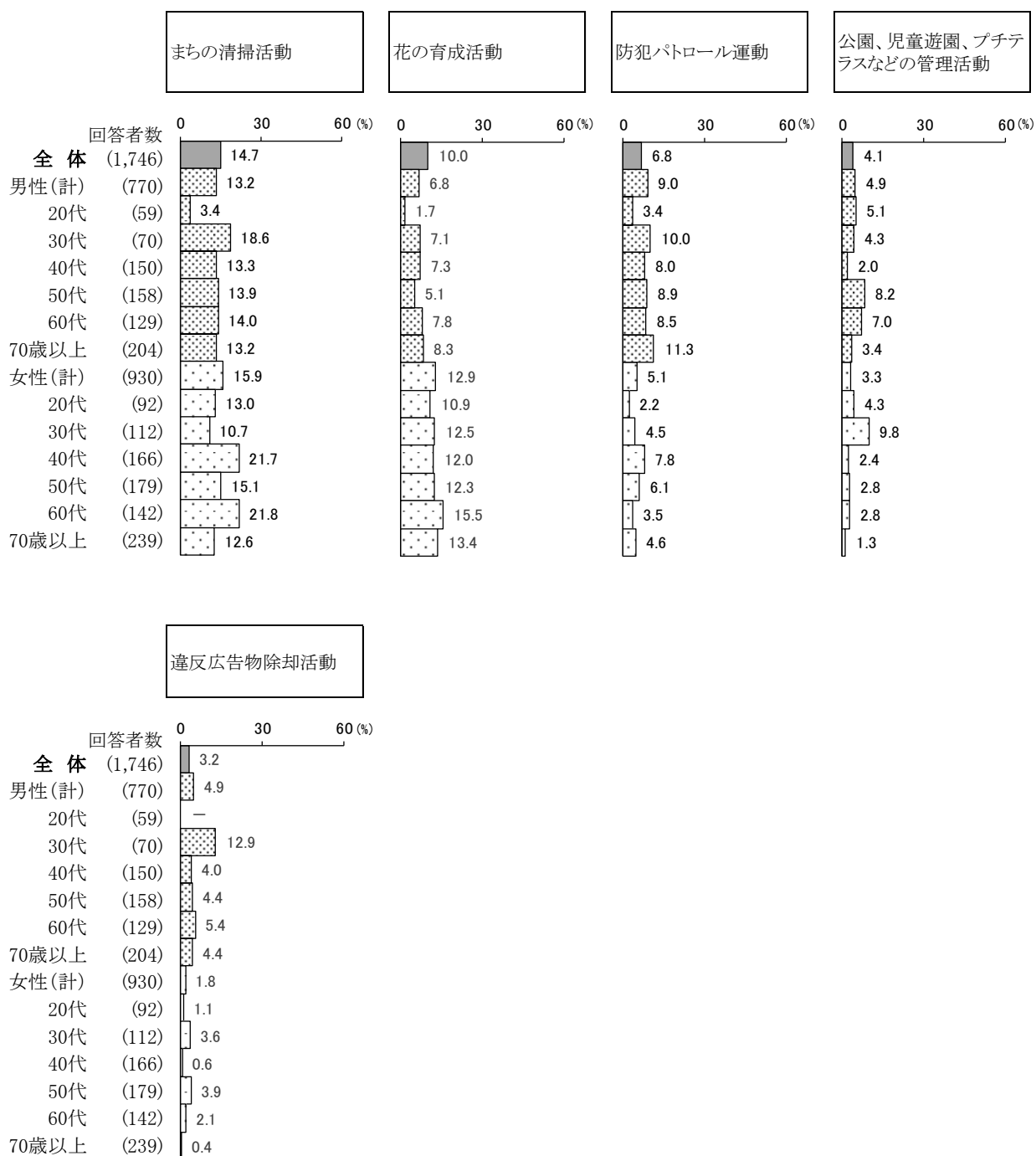




性別でみると、「花の育成活動」で女性が12.9%と男性（6.8%）を上回ってやや高いのを除くと、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「まちの清掃活動」が女性の40代と60代で2割強、「違反広告物除却活動」が男性の30代で1割強、「公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動」が女性の30代で約1割と、それぞれやや高いのを除くと、目立った違いはみられない。

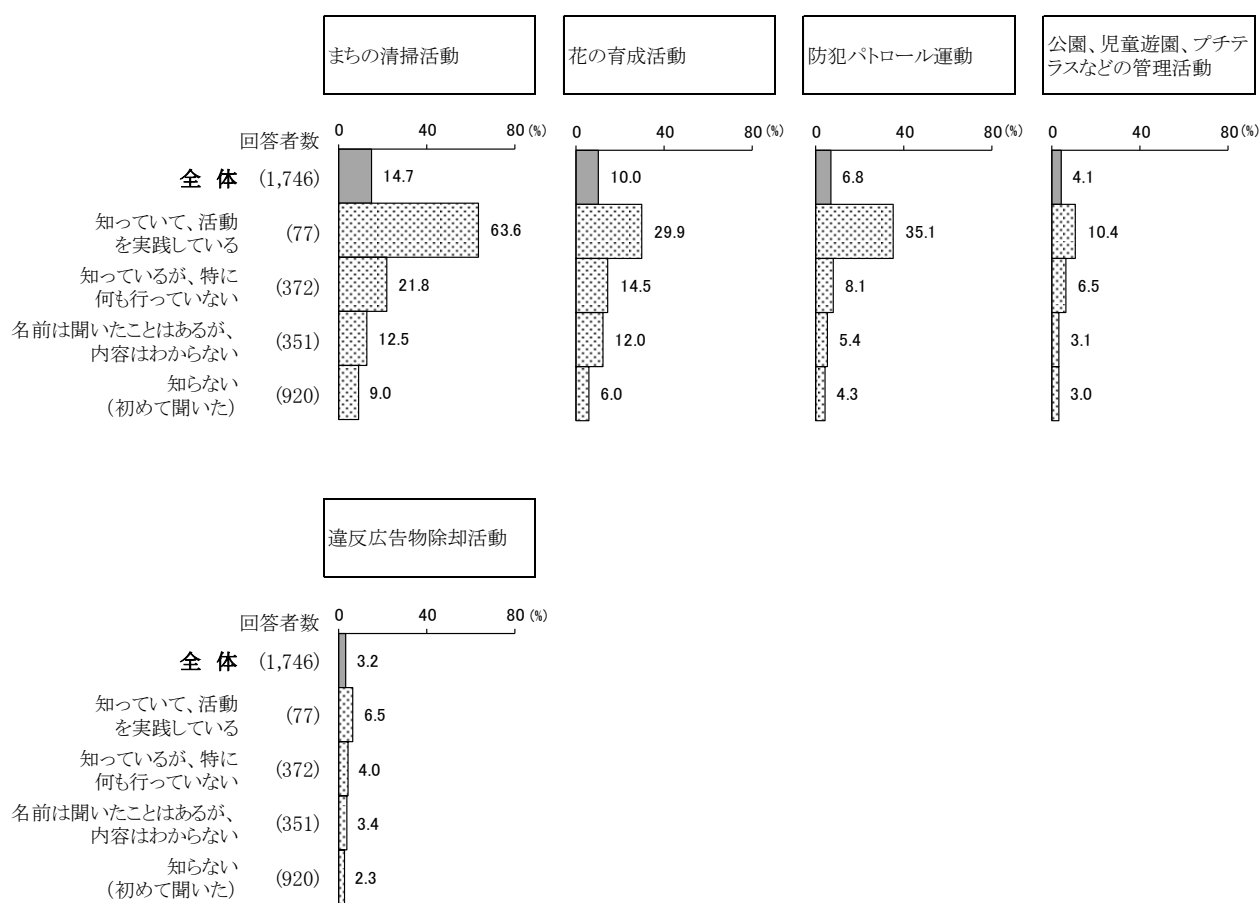
図7-2-3 性別、性・年代別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別にみると、上位3項目については認知・実践レベルが高いほど、それぞれの取り組みに対する参加率、参加意向は高くなる傾向がみられ、その傾向は“知っていて、活動を実践している”層でとくに顕著で、「まちの清掃活動」（63.6％）で50ポイント近く、「防犯パトロール運動」（35.1％）で30ポイント近く、それぞれ全体に比べて高くなっている。

図7-2-4 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



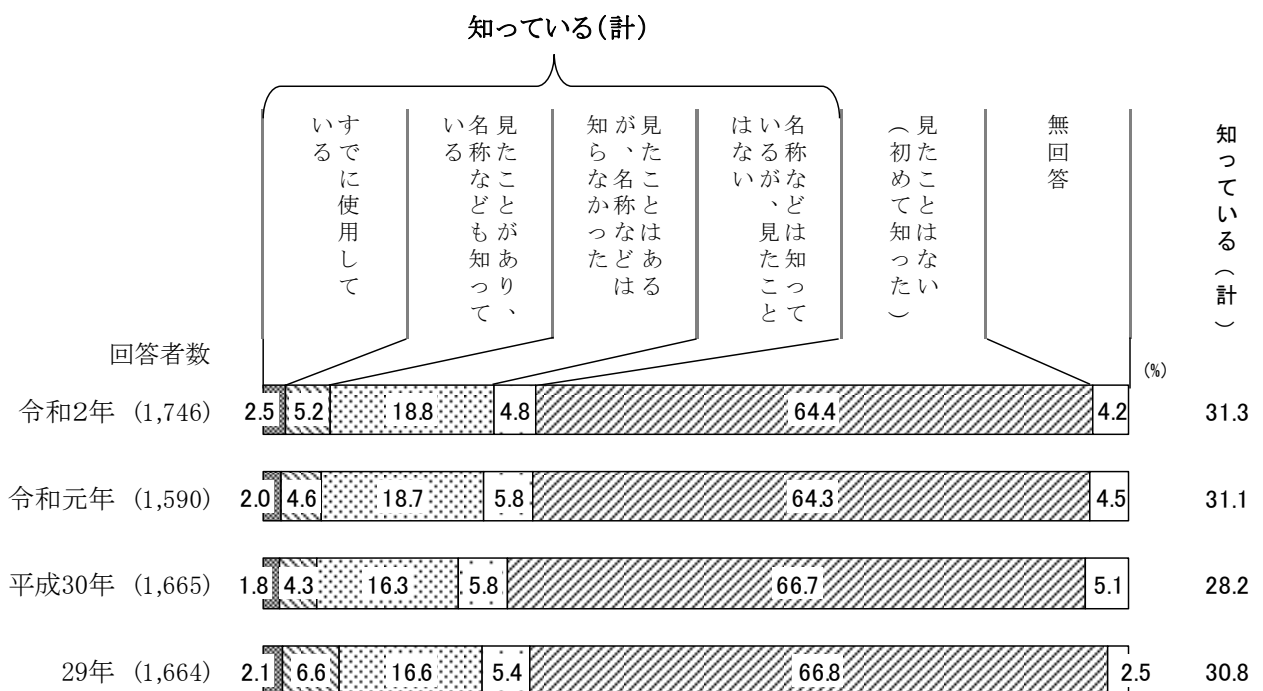
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況

■「見たことはない（初めて知った）」が、6割台半ばと傾向は変わらず

問35 あなたの行動範囲で、「花のあるまちかど事業（※）」の『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』を見たことがありますか（○はそれぞれ1つつ）。

※「花のあるまちかど事業」とは、玄関先や店先で鉢植えやプランターを飾ったり、公園や公共施設などの花壇で花を育てることにより、まちを彩ることと、花の手入れを行う際の人の目で犯罪を抑止しようとする事業です。植木鉢などに『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』をさして、事業をアピールしています。

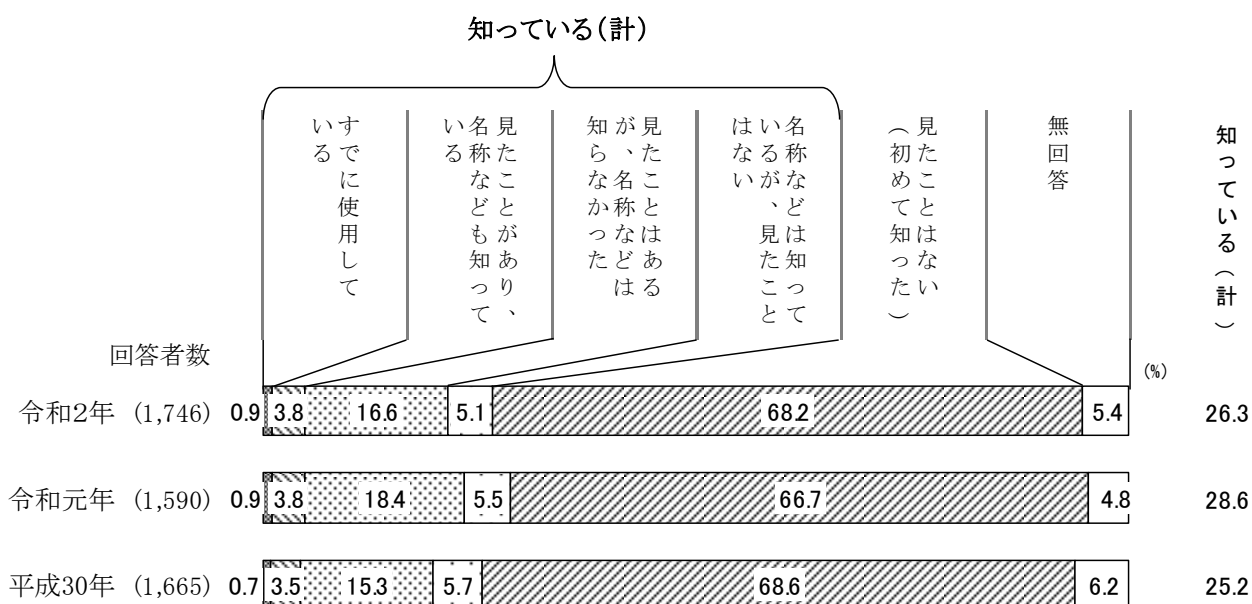
図7-3-1-① 経年比較／『花のビュー坊プレート』の認知状況



『花のビュー坊プレート』を「すでに使用している」は2.5%で、これに「見たことがあり、名称なども知っている」（5.2%）、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」（18.8%）、「名称などは知っているが、見たことはない」（4.8%）を合わせた【知っている】は31.3%となっている。一方、「見たことはない（初めて知った）」は64.4%となっている。

経年でみると、【知っている】は31.3%と前回（31.1%）とほぼ同じで、回答分布もほぼ前回の令和元年調査と同じとなっている。

図7-3-1-② 経年比較／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



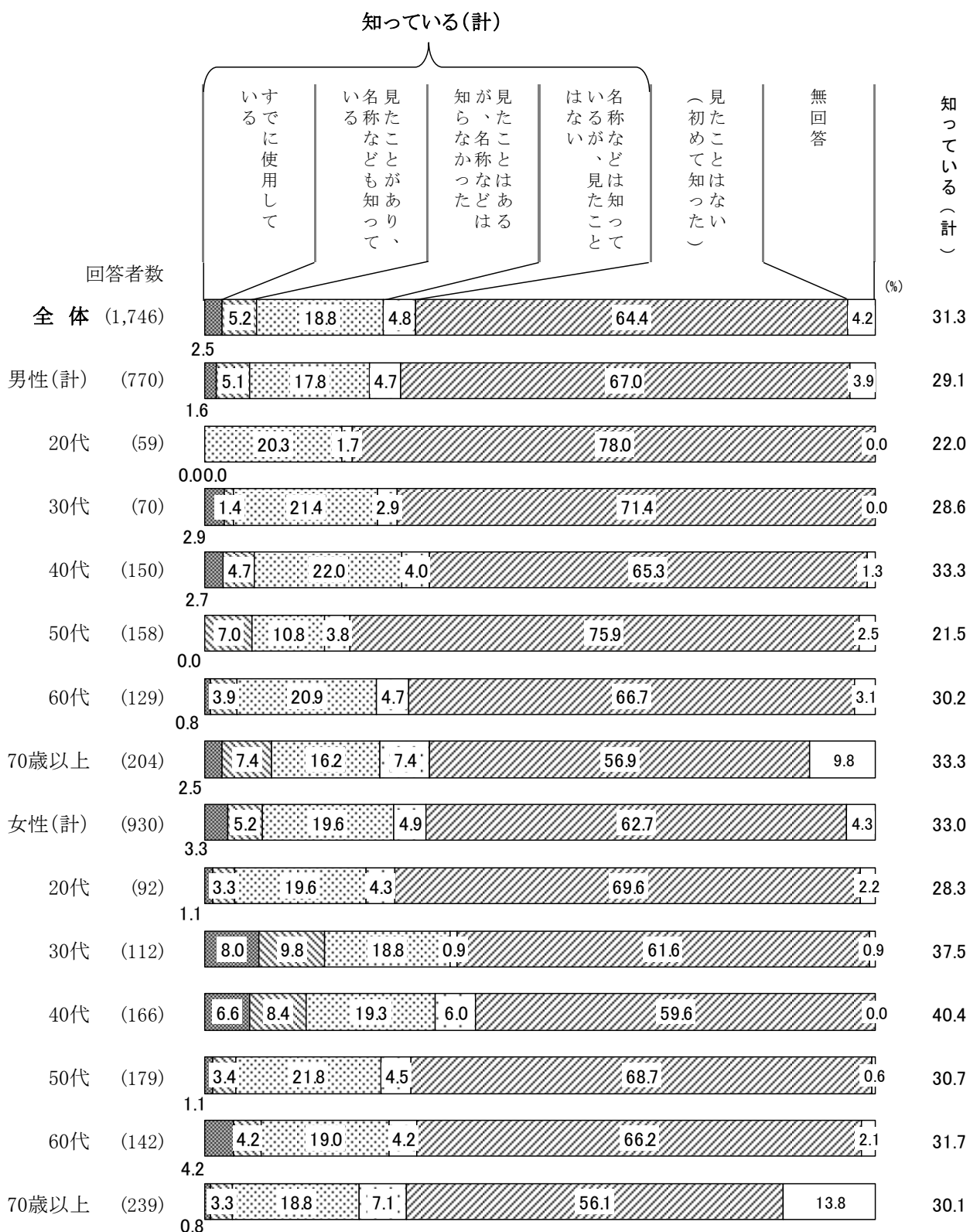
『ビュー坊のガーデンピック』を「すでに使用している」は0.9%で、これに「見たことがあり、名称なども知っている」(3.8%)、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」(16.6%)、「名称などは知っているが、見たことはない」(5.1%)を合わせた【知っている】は26.3%となっている。一方、「見たことはない(初めて知った)」は68.2%となっている。

経年でみると、回答分布に大きな違いはみられないが、【知っている】は今回26.3%で、前回(28.6%)より2.3ポイント減少しており、「見たことはない(初めて知った)」が今回68.2%と前回(66.7%)より1.5ポイント増加している。

『花のビュー坊プレート』の認知状況を性別でみると、【知っている】は男性29.1%、女性33.0%で女性の方がやや高めとなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では40代と70歳以上で3割強とやや高く、女性では40代で4割を超えて最も高く、30代も4割弱とやや高くなっている。

図7-3-2-① 性別、性・年代別／『花のビュー坊プレート』の認知状況

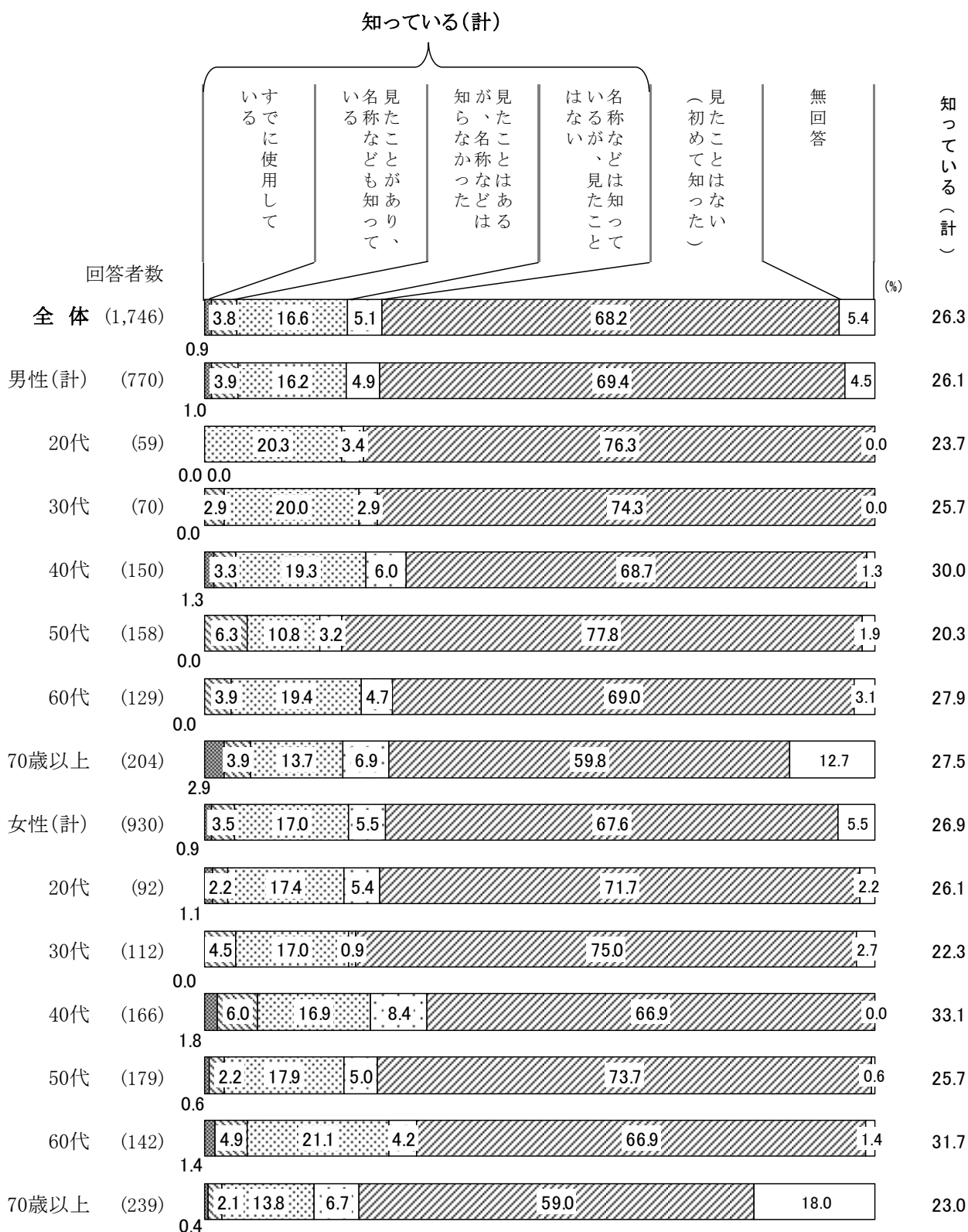


### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況を性別でみると、【知っている】は、男性26.1%、女性26.9%でほとんど違いはみられない。

性・年代別でみると、目立って大きな違いはみられないが、【知っている】は、男性では40代で、女性では40代と60代で、それぞれ3割台とやや高くなっている。

図7-3-2-② 性別、性・年代別／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



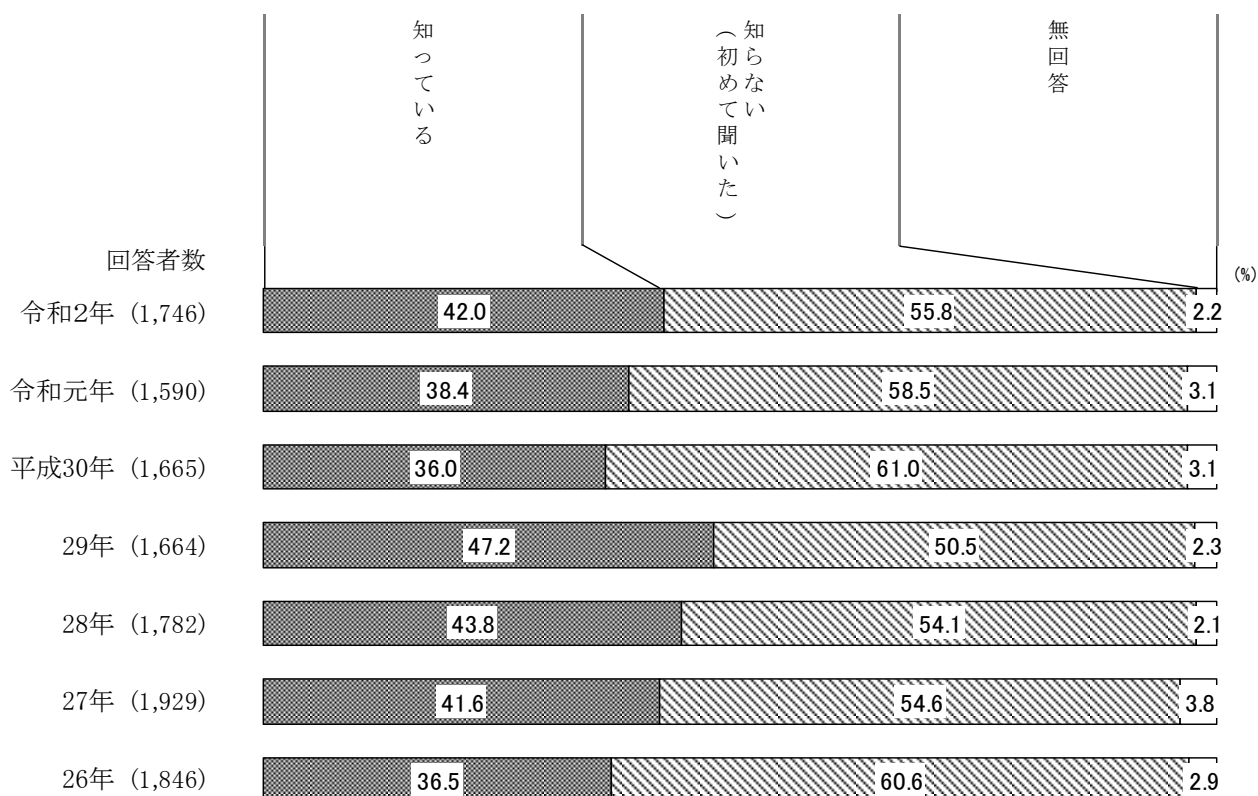
## (4) 治安が改善していることの認知

■「知っている」が4割強、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

問36 あなたは、足立区内の刑法犯認知件数（※）が、ピークであった平成13年と比較して1万件以上、減少していることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

図7-4-1 経年比較／治安が改善していることの認知



※ 平成29年度までの設問文は、「あなたは、平成○年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか。

（※）は質問文に続き「警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。」の説明文あり。

※ 平成30年度と令和元年度の設問文は、「あなたは、足立区内の刑法犯認知件数（※）がピーク時から1万件以上、減少していることをご存知ですか。」で聴取。なお、（※）の説明文は今年度と同じで変更なし。

足立区内の刑法犯認知件数がピークであった平成13年と比較して1万件以上、減少していることについて、「知っている」は42.0%で4割強となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は55.8%で5割台半ばとなっている。

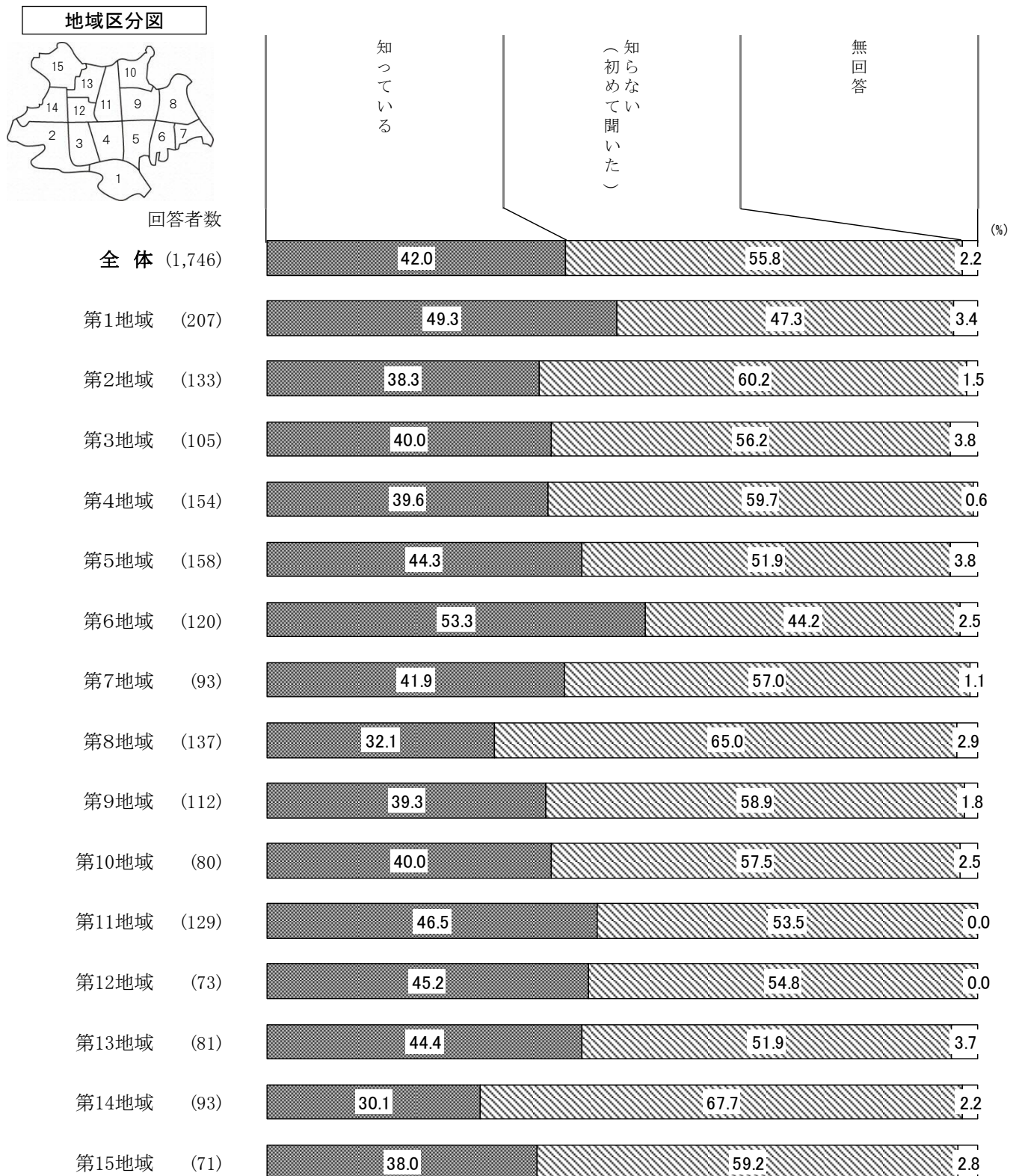
経年でみると、設問文の一部変更に留意する必要があるものの、「知っている」は今回42.0%で前回（38.4%）より3.6ポイント増加して2年続けて増加傾向となっている。

なお、平成26年から平成29年までの調査結果は、設問文が部分的に異なるため、参考として掲載するが、単純に比較はできないためコメントはつけていない。

### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「知っている」は第6地域で53.3%と最も高く、第1地域も49.3%で続き高いが、第5地域、第11地域、第12地域、第13地域の4地域でも4割台半ばとやや高くなっている。一方、「知らない」は第8地域と第14地域の2地域で6割台後半と高くなっている。

図7-4-2 地域別／治安が改善していることの認知

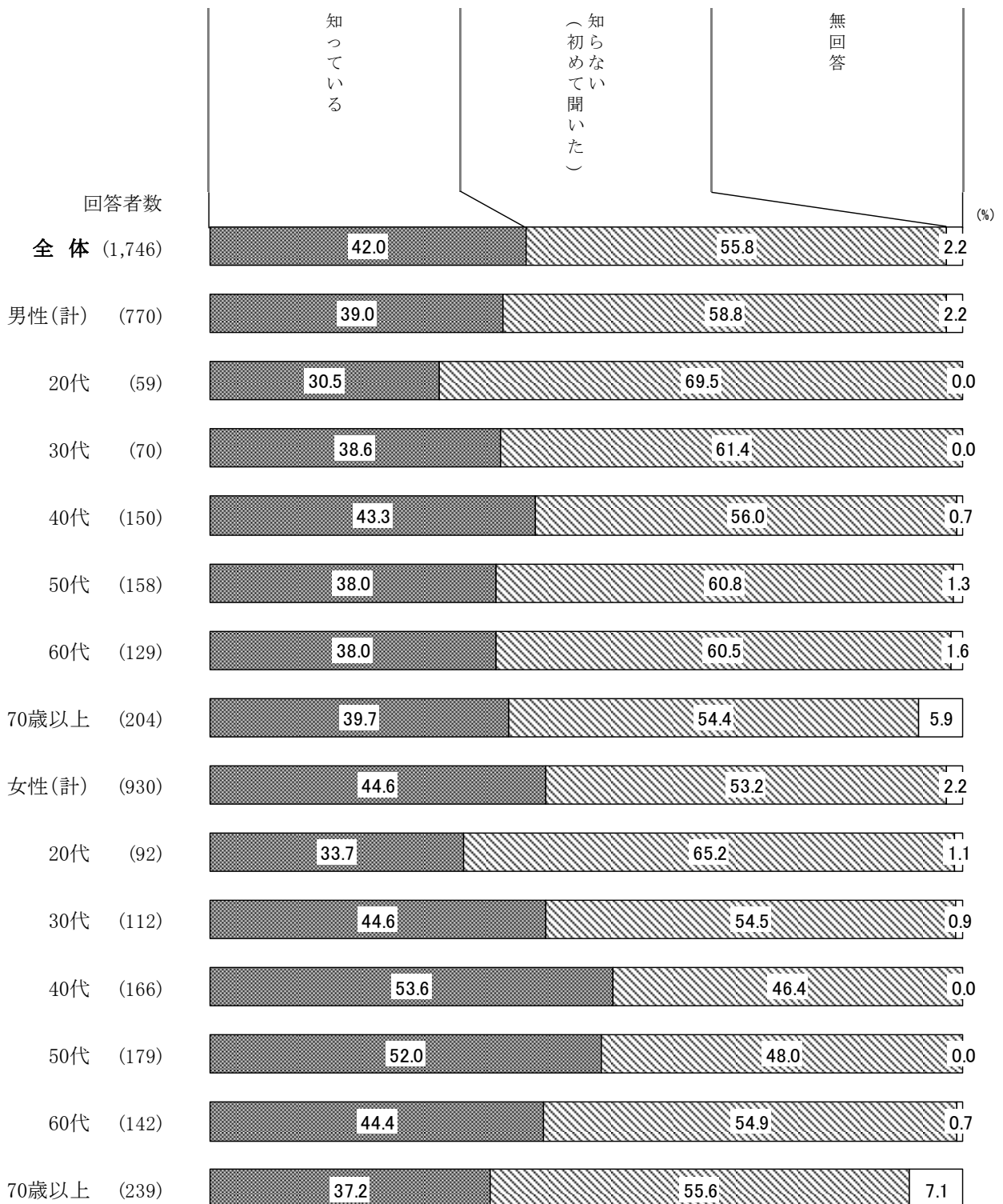




性別でみると、「知っている」は男性39.0%、女性44.6%で女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「知っている」は、男性では40代で4割台半ば近くと高めな一方、20代で3割強と低くなっており、女性では40代と50代で5割台前半と高い一方で、3割台半ばの20代と4割弱の70歳以上でそれぞれ低くなっている。

図7-4-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



## (5) 居住地域の治安状況

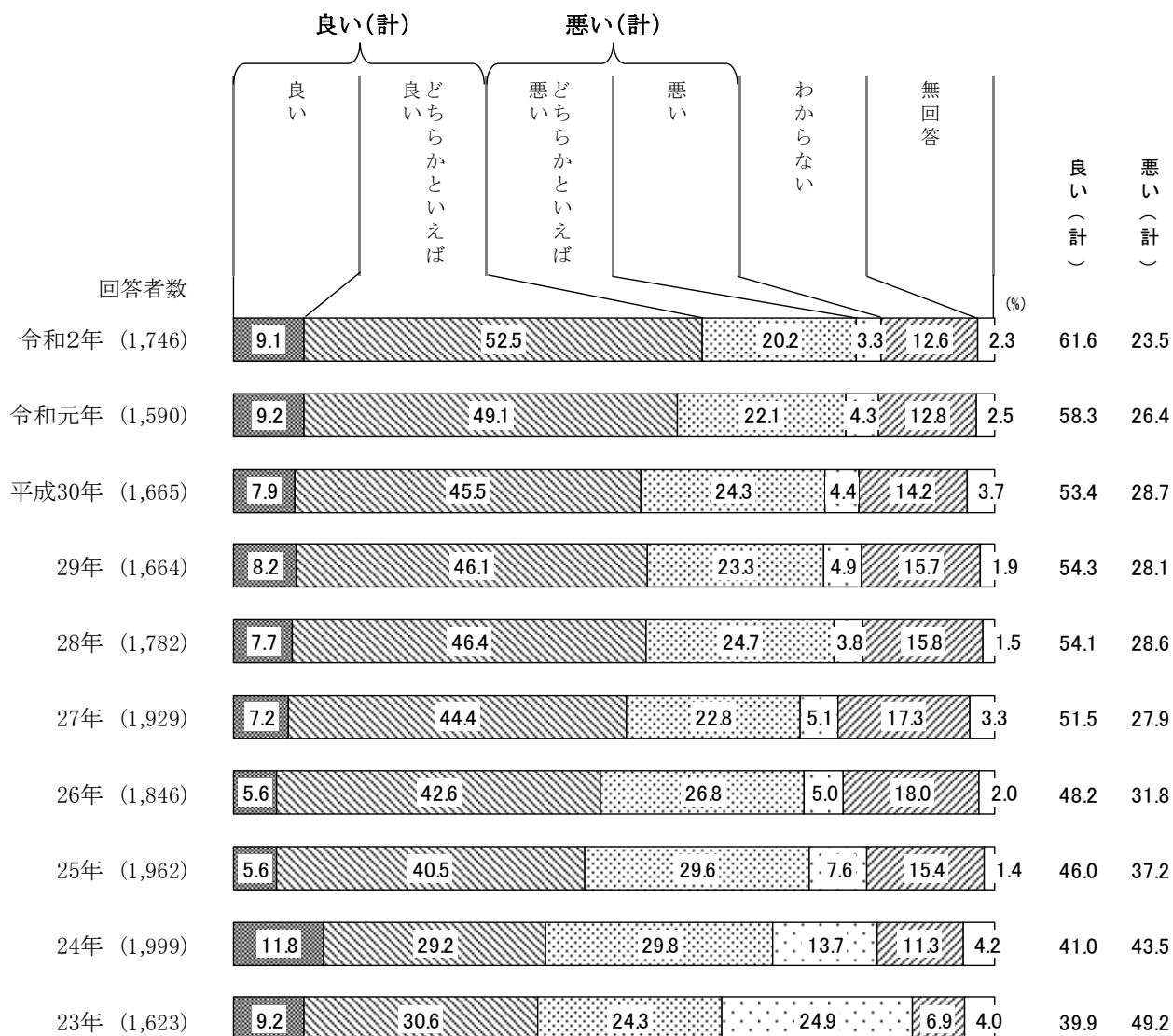
■【良い】は6割強で、初めての6割台となり、平成23年以降の中で最も高い

問37 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか

（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図7-5-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い」が9.1%で、これに「どちらかといえば良い」の52.5%を合わせた【良い】は61.6%となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(20.2%)と「悪い」(3.3%)を合わせた【悪い】は23.5%である。

経年でみると、【良い】は、平成28年から30年まではほぼ横ばいの状態となっていたが、令和元年から上昇に転じている。今回の令和2年の【良い】は61.6%と前回(58.3%)より更に3.3ポイント伸びて、最初に聴取した平成23年以降の10年間で最も高く、初めて6割台となっている。

地域別でみると、【良い】は第1地域で71.5%と最も高く、僅差で第2地域（69.9%）が続き、この両地域で高く、第7地域と第12地域も6割台後半とやや高くなっている。一方、【悪い】は第11地域と第15地域でともに3割弱と、他の地域に比べてやや高くなっている。

図7-5-2 地域別／居住地域の治安状況

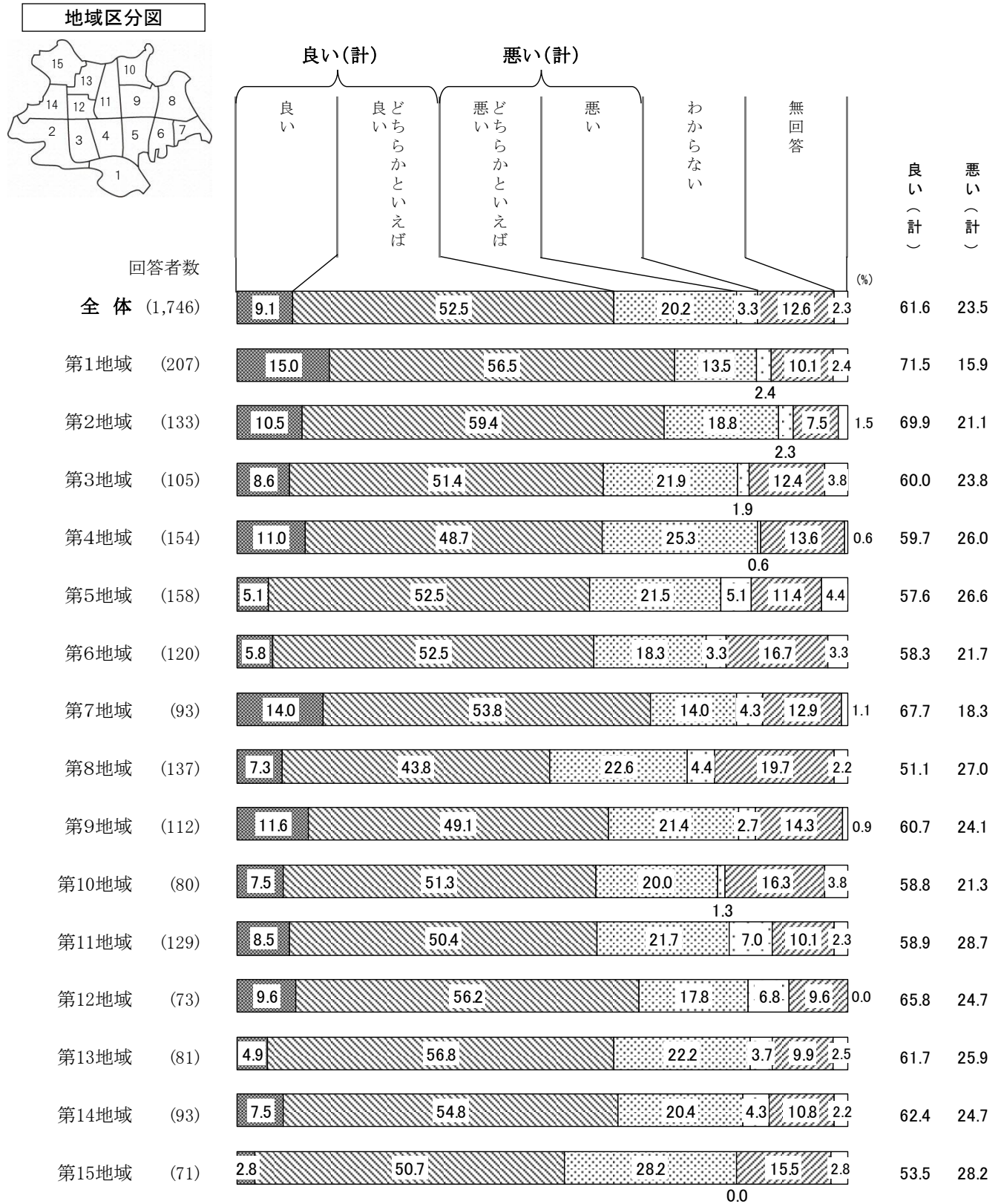
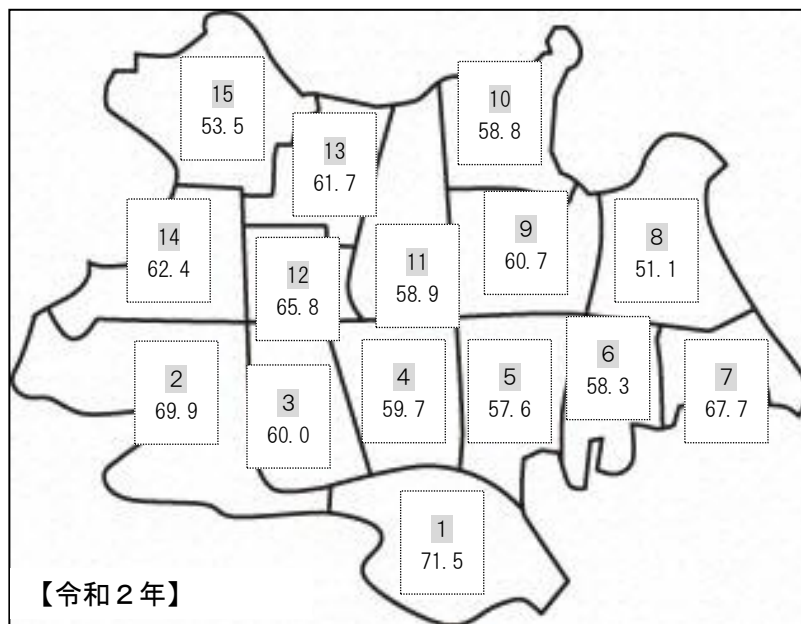
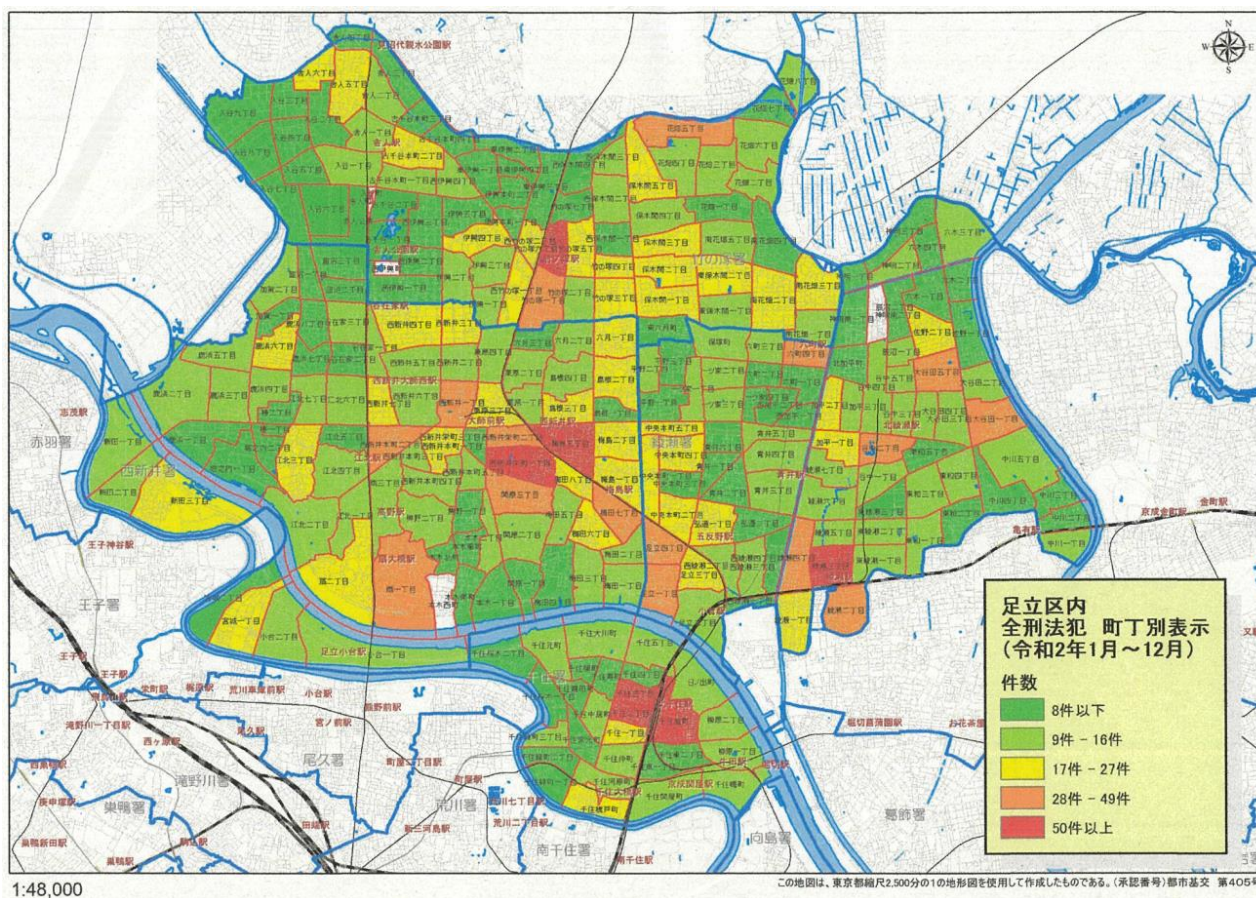


図7-5-3 地域区分図／居住地域の治安状況  
(上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



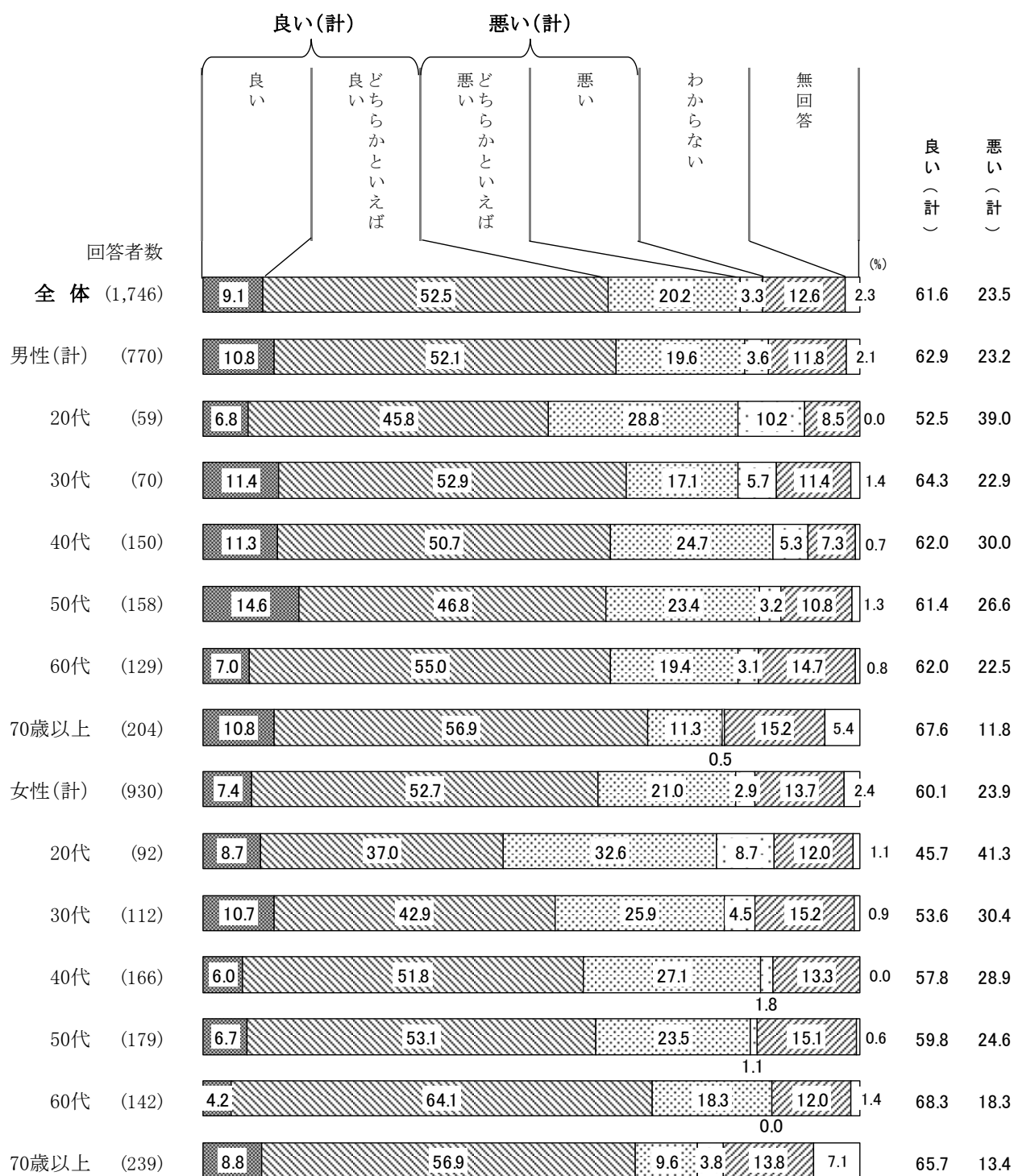
【参考資料】区内全刑法犯認知件数（令和2年1月～12月）



性別でみると、【良い】は男性62.9%、女性60.1%で男性の方がやや高いが、男女差は小さい。

性・年代別でみると、【良い】は、男性では70歳以上で67.6%と最も高く、30代も64.3%でやや高いが、20代で52.5%と低い。女性では60代で68.3%と最も高く、70歳以上も65.7%と高くなっているが、男性と同様に、20代で45.7%ととくに低くなっている。

図7-5-4 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



(6) 区内の治安が良いと感じる点

■ “犯罪に巻き込まれた人がいないから” がほぼ5割で、これまで同様、最も高い

問37で「1 良い」、または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に

問37-1 どのような点で治安が良いと感じますか (〇は2つまで)。

図7-6-1-① 経年比較／区内の治安が良いと感じる点

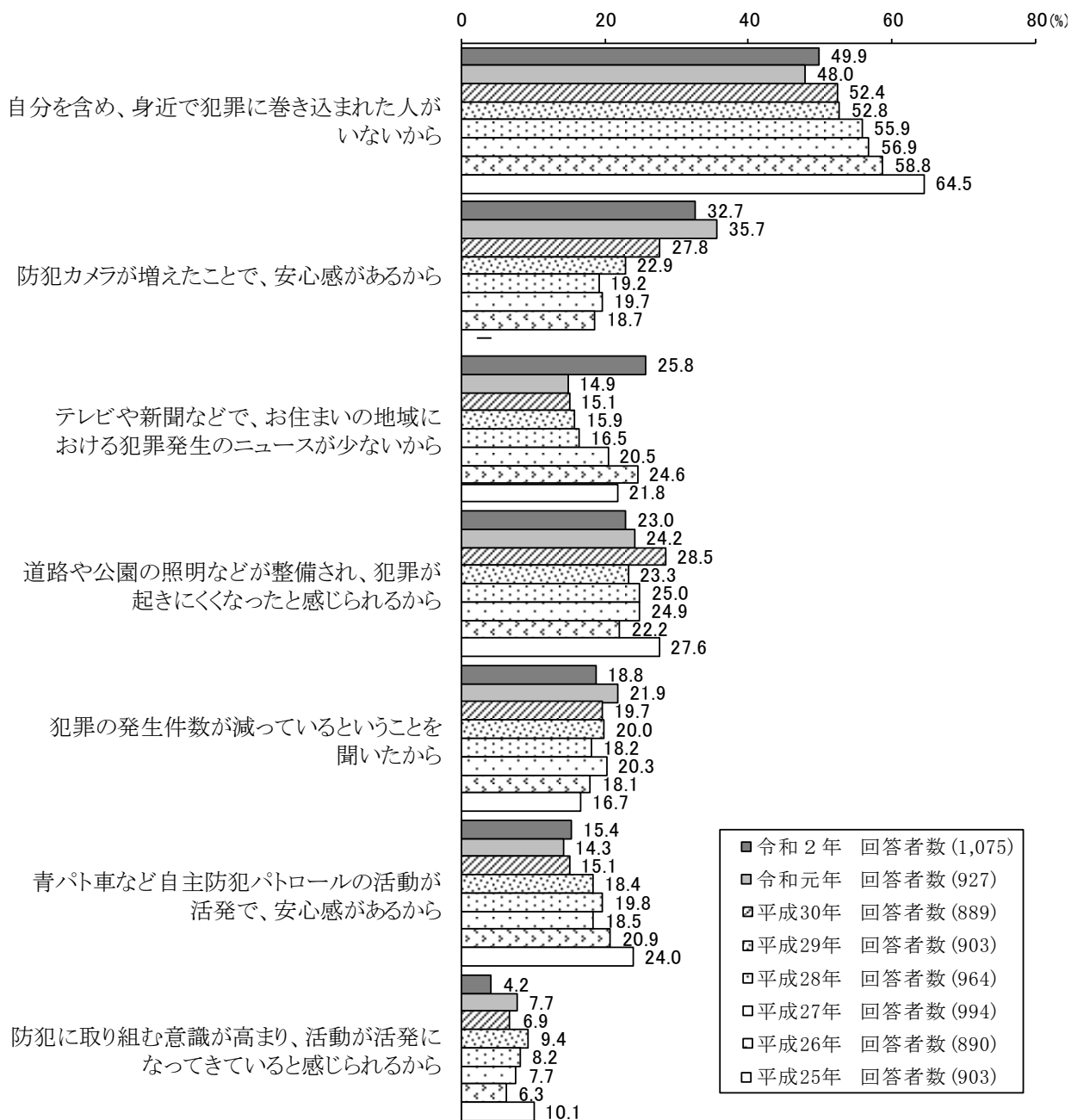
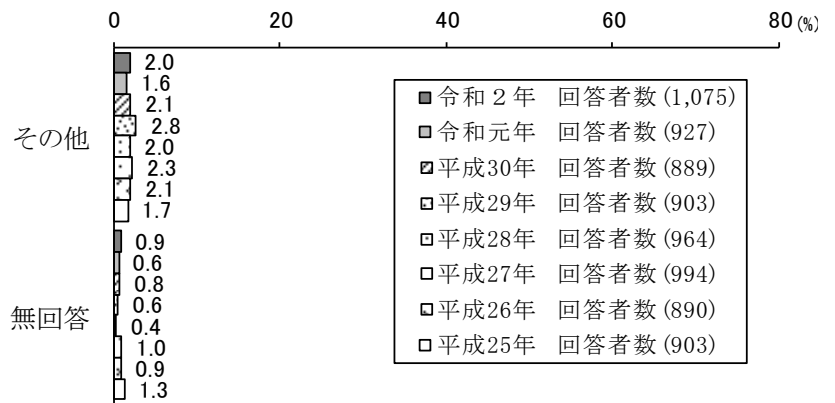




図7-6-1-② 経年比較／区内の治安が良いと感じる点



※「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、平成26年度新設。

※「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は、令和元年度までは「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」。

※「犯罪に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから」は、令和元年度までは「犯罪に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」、平成25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

居住地域の治安を【良い】と評価した人に、その理由を聴くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が49.9%で最も高く、以下「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」(32.7%)、「テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから」(25.8%)、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」(23.0%)の順となっている。

経年でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は今回49.9%で前回(48.0%)より微増しているが、平成25年以降の漸減傾向の流れを変えるまでには至っていない。

一方、平成29年以降3年続けて漸増傾向にあって、とくに前回大きく伸びた「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は今回32.7%と前回(35.7%)に比べると3.0ポイント減少しているが、このように上位項目の比率に目立って大きな増減がみられない中で、前回より大きく比率を伸ばした項目には「テレビや新聞などでお住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから」があり、今回25.8%と前回(14.9%)より10.9ポイント増加して、順位も前回の5位から今回は3位となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第14地域で6割弱と最も高く、第3地域、第4地域、第9地域でも5割台後半と高めとなっている一方、第10地域で3割台半ばと低い。「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第10地域と第13地域で4割を超え、第3地域と第7地域も4割弱とやや高いが、第4地域と第15地域で2割台前半と低くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は第10地域で3割台半ば、「犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから」は第6地域で3割強と、それぞれ高くなっている。

地域区分図

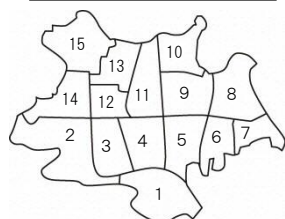
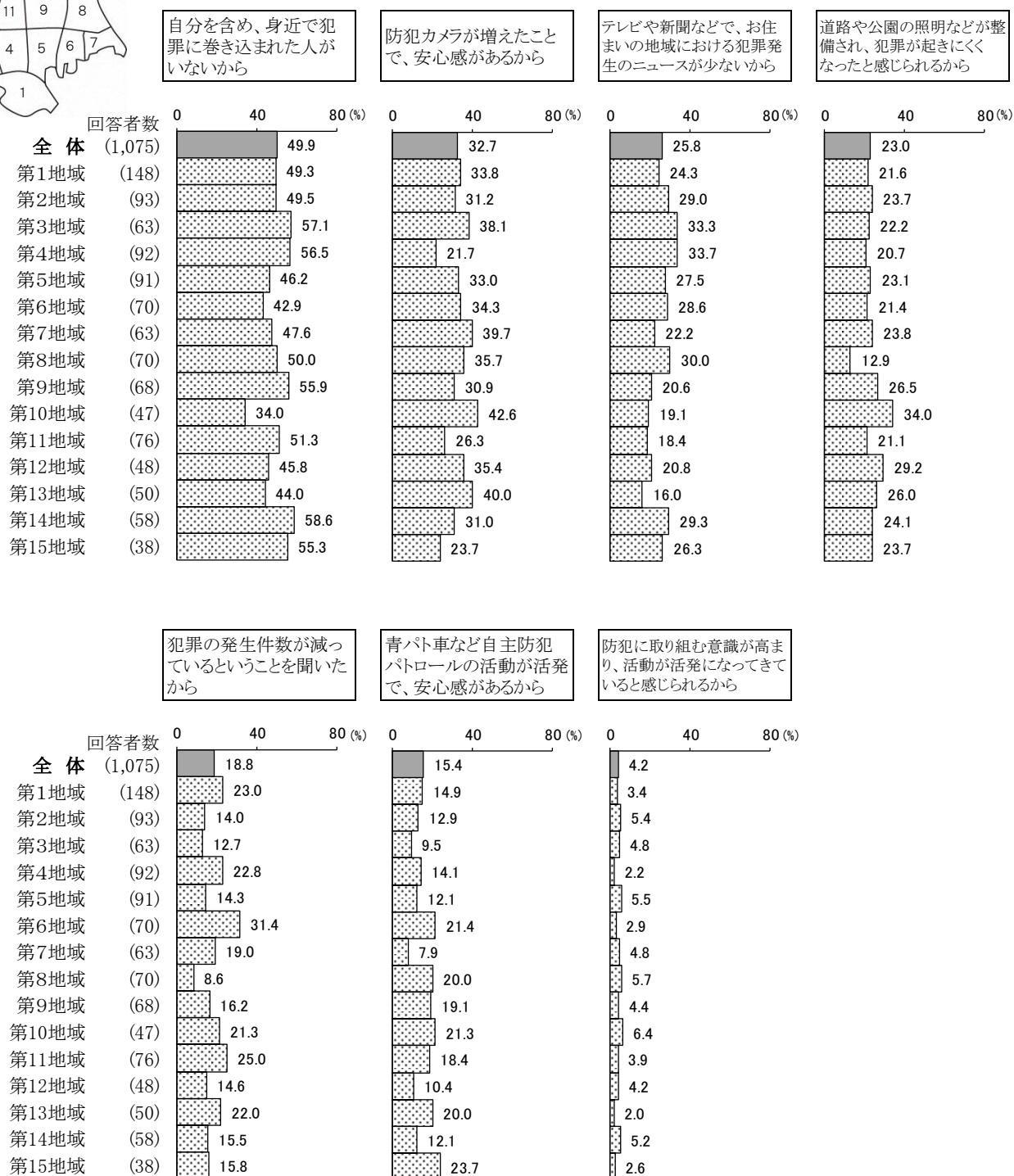


図7-6-2 地域別／区内の治安が良いと感じる点





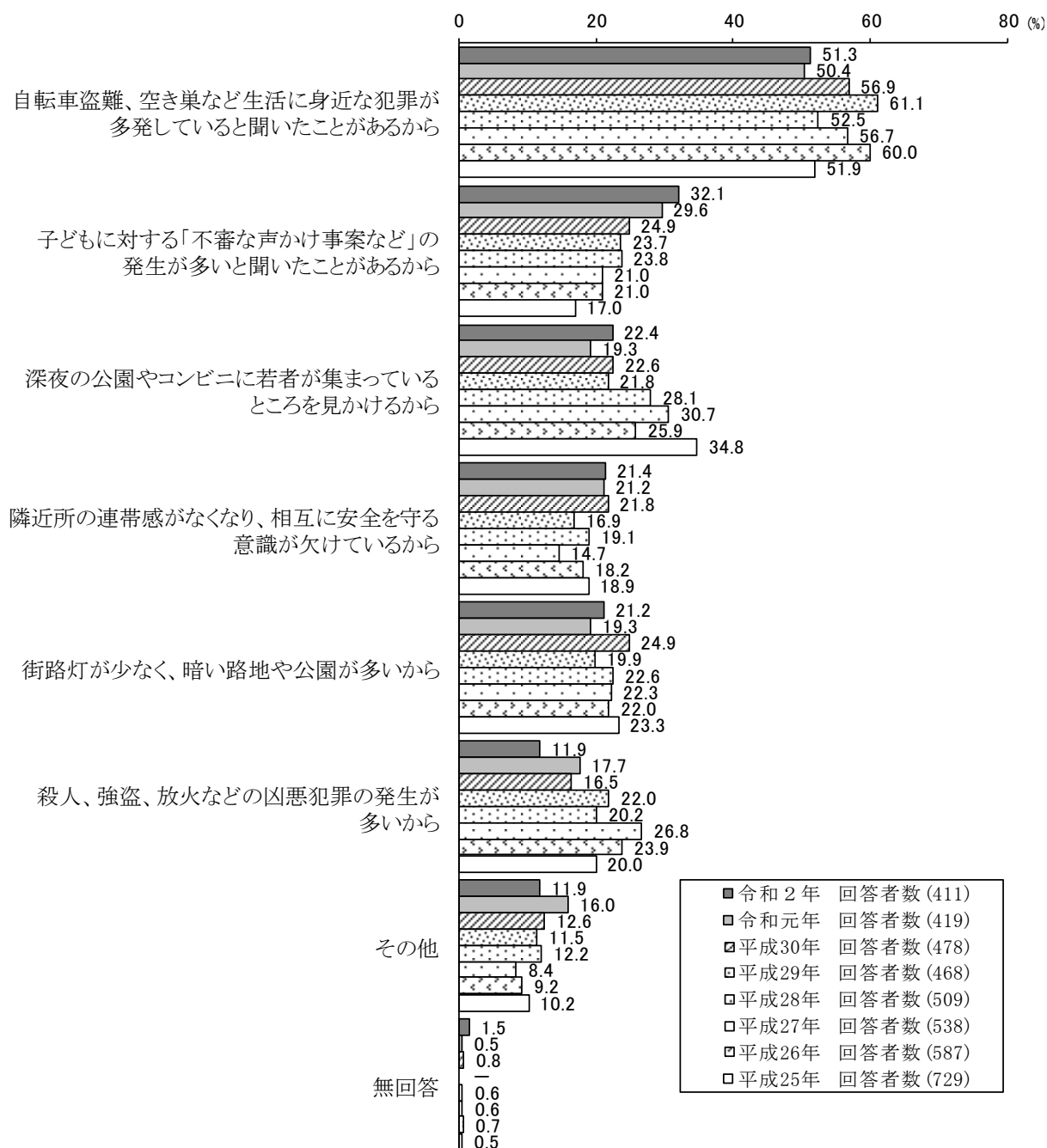
(7) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発していると聞いた” が5割を超えて突出

問37で「3 どちらかといえば悪い」、または「4 悪い」とお答えの方に

問37-2 どのような点で治安が悪いと感じますか (〇は2つまで)。

図7-7-1 経年比較／区内の治安が悪いと感じる点



### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

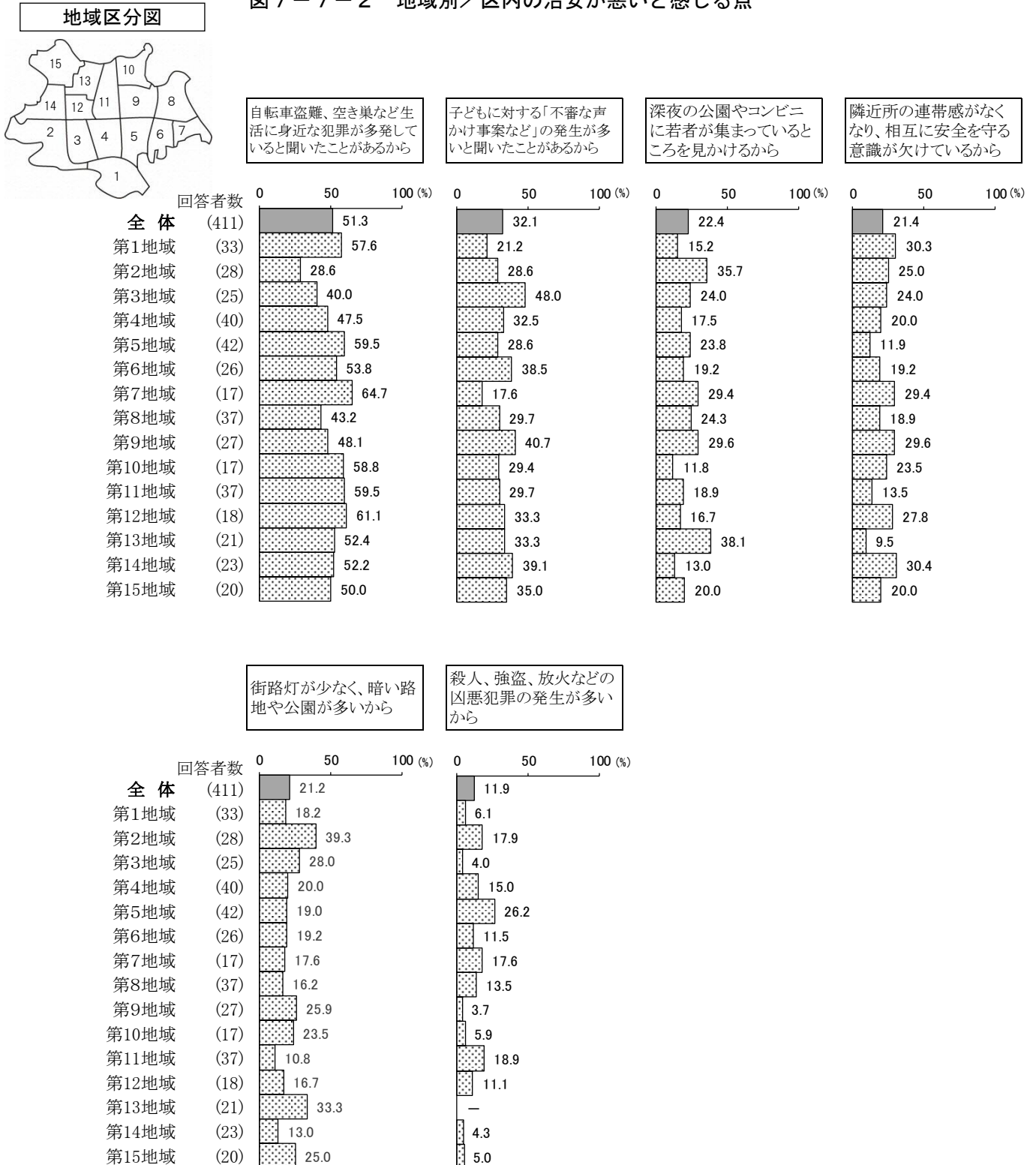
- ※「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、平成25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。
- ※「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は、平成25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

居住地域の治安を【悪い】と評価した人に、その理由を聴くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が51.3%で最も高く、以下、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」(32.1%)、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」(22.4%)、「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」(21.4%)、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」(21.2%)との順となっている。

経年でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」などの上位3項目のいずれも前回より1～3ポイント程度微増しているが、それらの比率に大きな変動がみられない中で、今回6位の「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」は今回11.9%と前回(17.7%)より5.8ポイント減少し、ピークだった平成27年以降の漸減傾向が今回も続けてみられる結果となっている。

地域別でみると、一部の地域で回答者数が少ないことに留意して参考値としてみる必要があるが、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は第7地域（64.7%）で高く、第2地域（28.6%）で低くなっている。また、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は第3地域で、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は第13地域で、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は第2地域で、それぞれ他の地域より高くなっている。

図7-7-2 地域別／区内の治安が悪いと感じる点

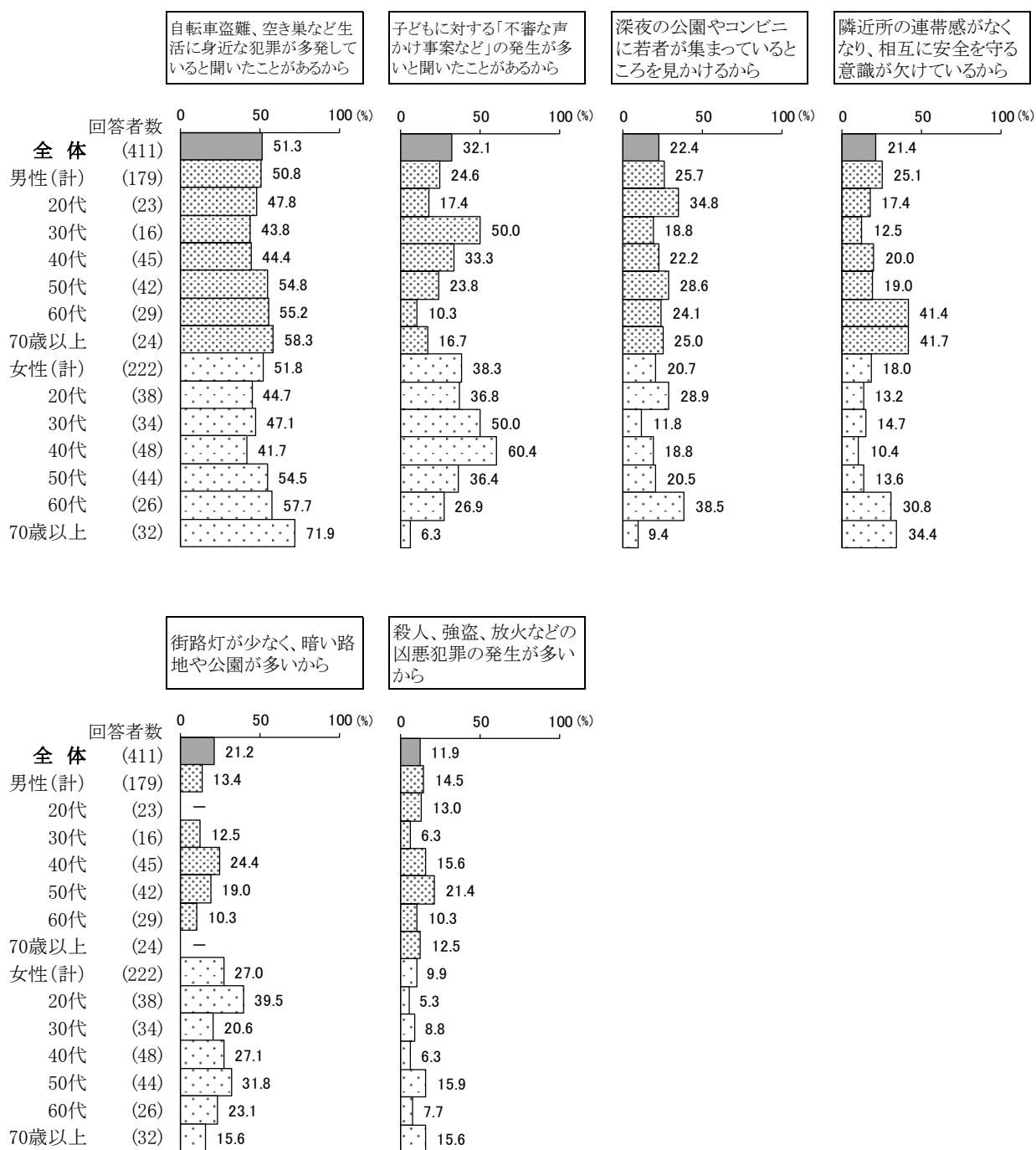


### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」と「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は男性より約14ポイント程度女性の方が高く、男女差が大きくなっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は女性70歳以上で7割強、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は女性の40代で6割超、「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」は男性の60代と70歳以上で4割強と、それぞれやや高くなっている。

図7-7-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点



(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割強、「安全に配慮した道路、公園の整備」と“防犯パトロール”がともに4割弱で上位

問38 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか  
(〇は2つまで)。

図7-8-1-① 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

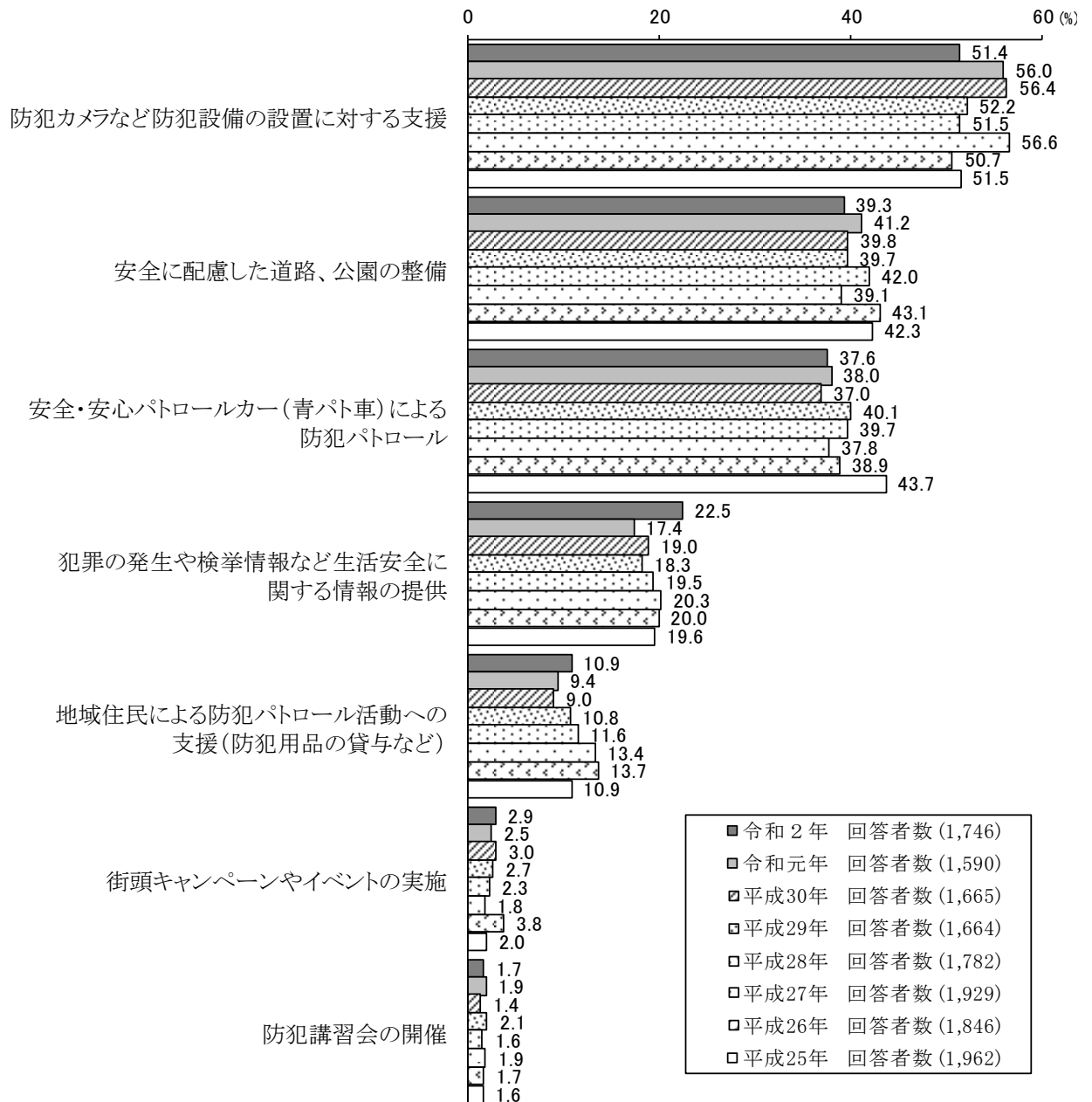
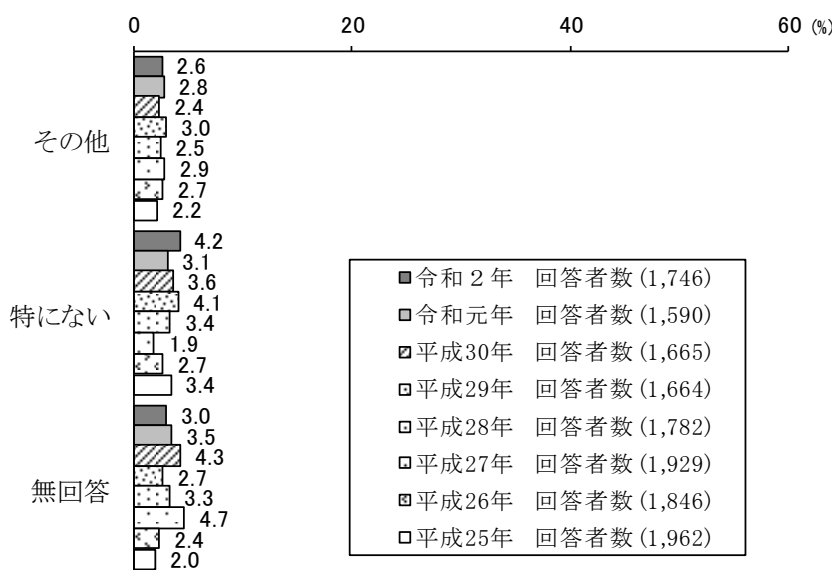


図7-8-1-② 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



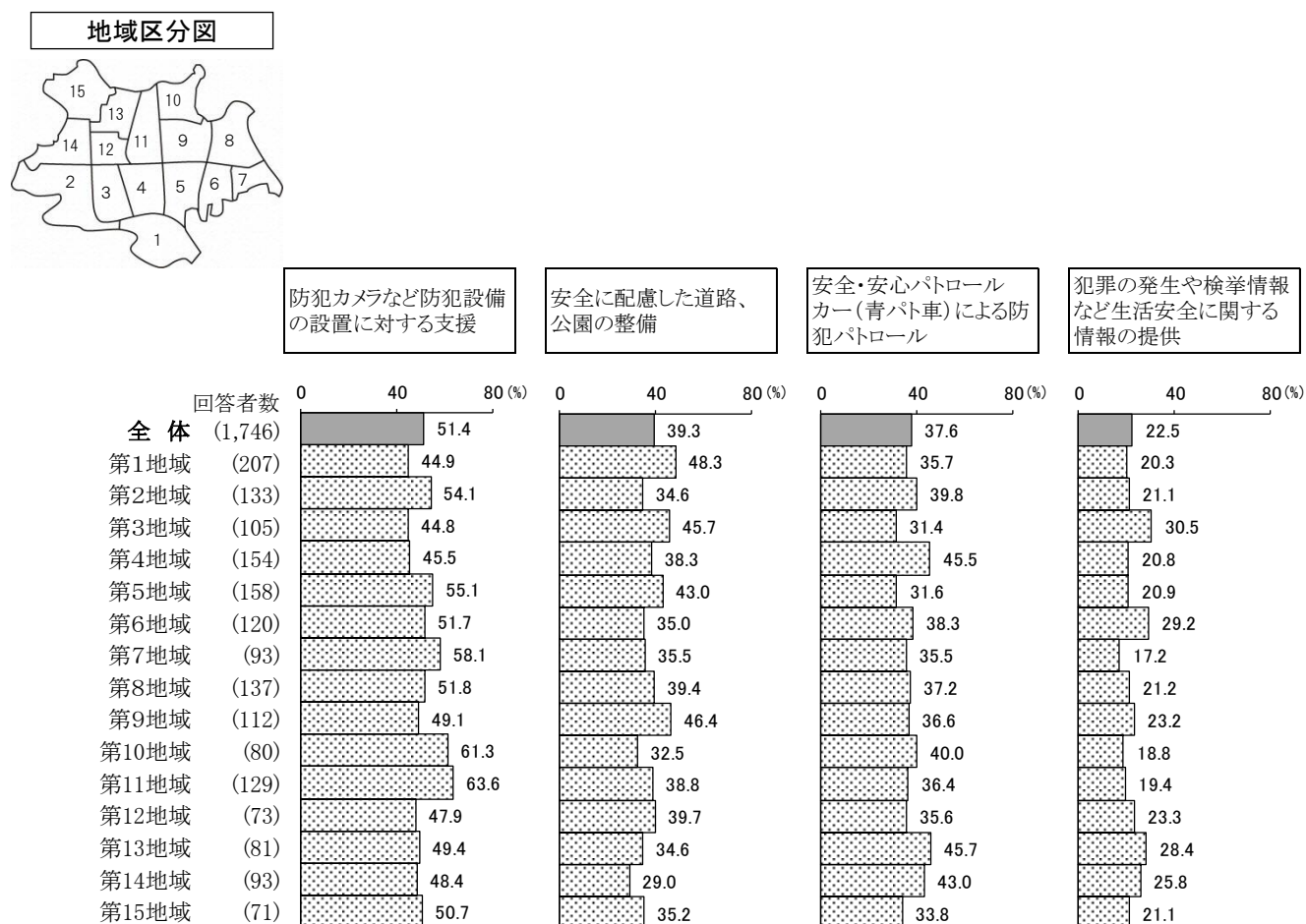
※「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は、平成28年度までは「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」

治安対策として足立区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が51.4%で最も高く、以下「安全に配慮した道路、公園の整備」(39.3%)、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」(37.6%)の順となっている。

経年でみると、順位に変動はみられないが、最上位の「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は今回51.4%で前回より4.6ポイント減少し、4位の「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は今回22.5%で前回(17.4%)より5.1ポイント増加している。

地域別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第10地域と第11地域で6割台、「安全に配慮した道路、公園の整備」は第1地域、第3地域、第9地域で4割台半ば以上、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は第4地域と第13地域で4割台半ば、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は第3地域、第6地域、第13地域で3割前後と、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。

図7-8-2 地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目

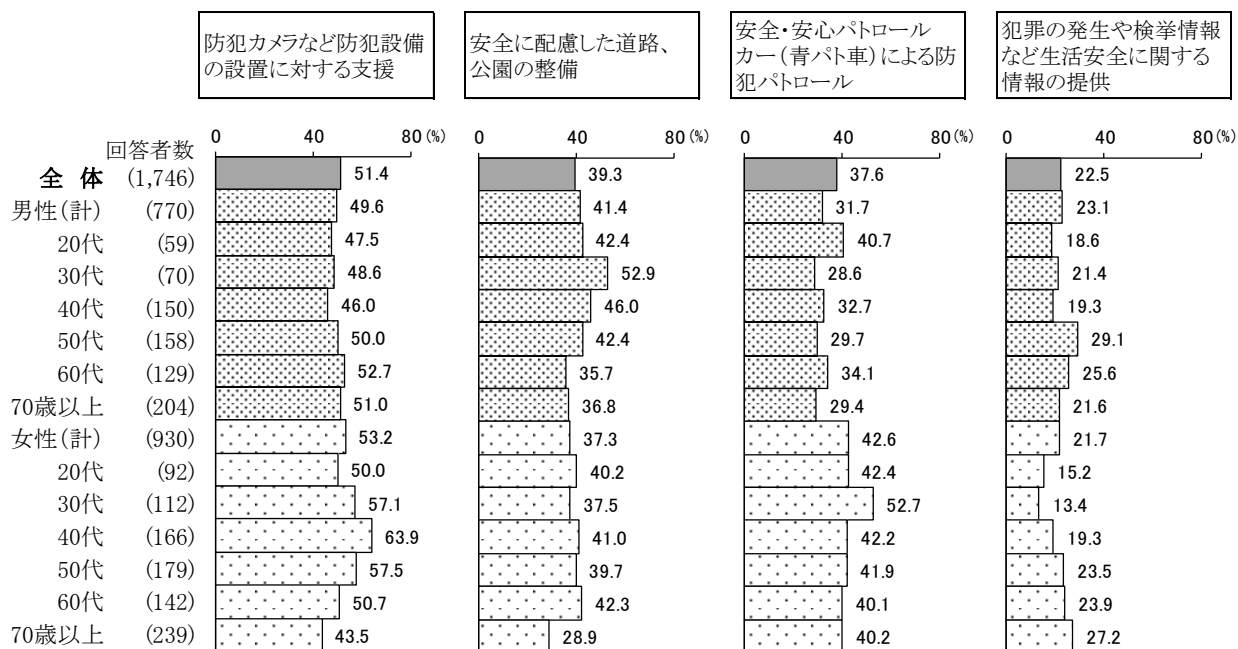


### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は男性31.7%、女性42.6%で女性の方が約11ポイント高いが、他の3項目に目立った男女差はみられない。

性・年代別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は女性の40代で6割台半ば、「安全に配慮した道路、公園の整備」は男性の30代で5割強、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は女性の30代で5割強、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は男性の50代と女性の70歳以上で3割弱と、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高くなっているが、目立って大きな違いはあまりみられない。

図7-8-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目





(9) 駐車時の鍵かけ状況

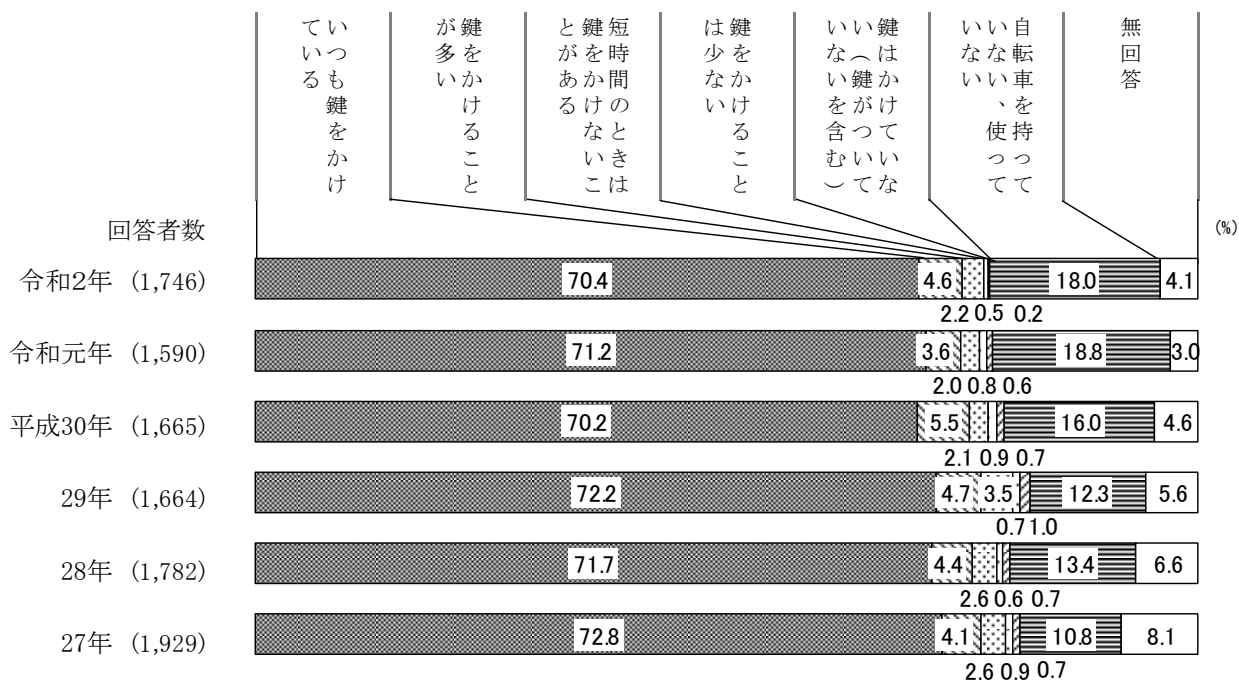
■「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割超、敷地内が6割弱と、傾向は変わらず

問39 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか

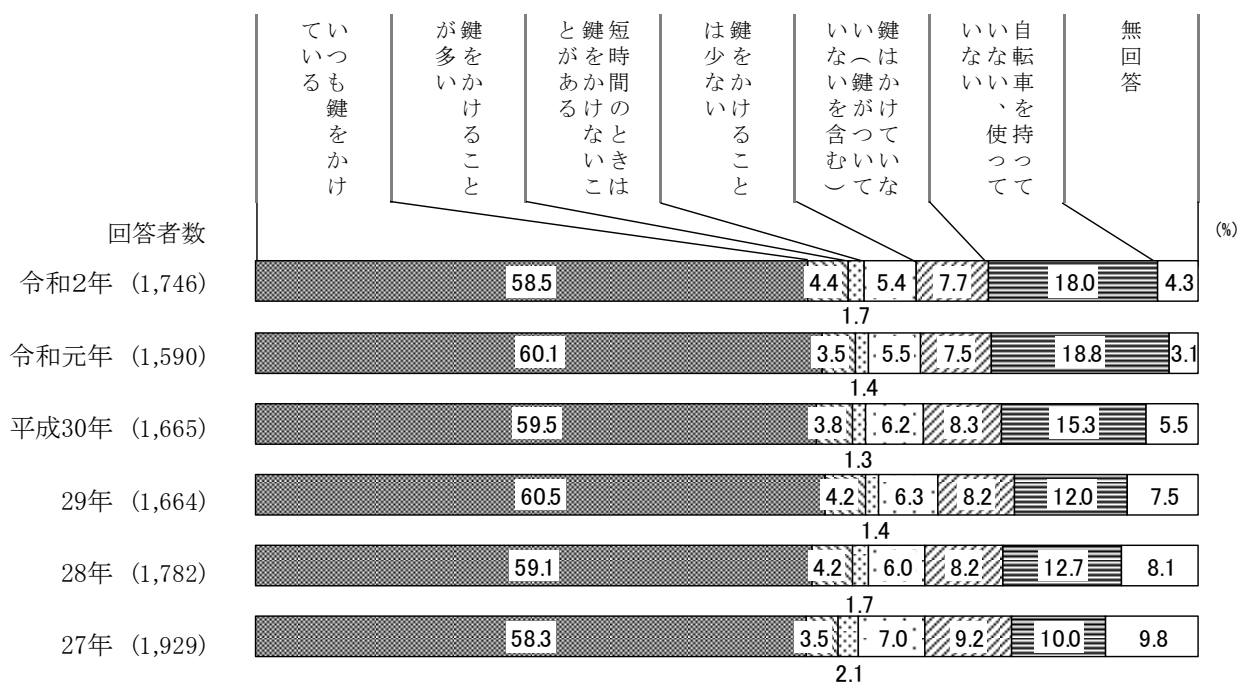
(○はそれぞれ1つずつ)。

図 7-9-1 経年比較／駐車時の鍵かけ状況

ア 外出先で駐車するとき



イ 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき



### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについては、「いつも鍵をかけている」が70.4%を占めて最も多く、次いで「鍵をかけることが多い」(4.6%)となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は2.2%、「鍵をかけることは少ない」は0.5%、「鍵はかけていない(鍵がついていないを含む)」は0.2%となっている。

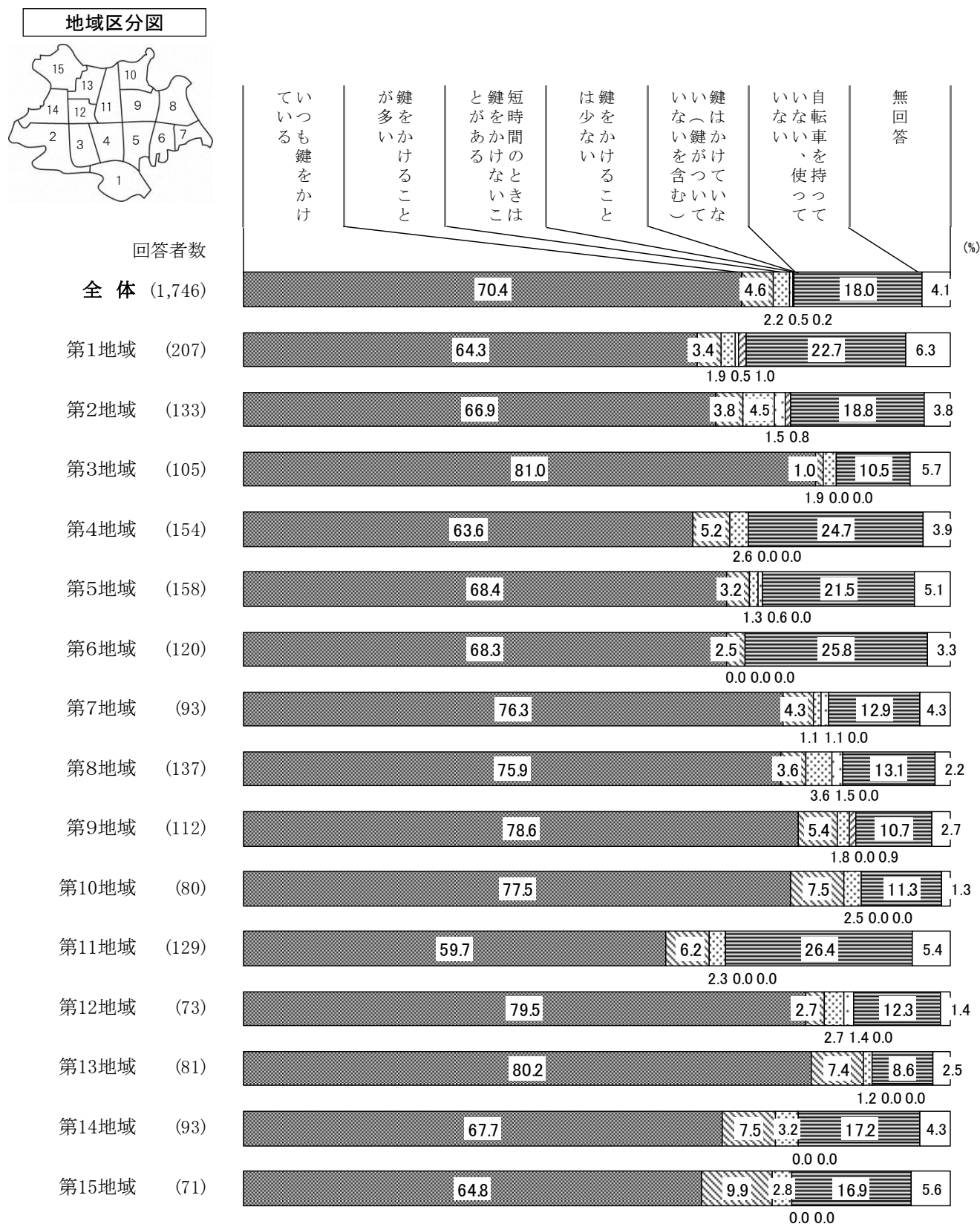
経年でみると、平成27年以降「いつも鍵をかけている」は各年7割強程度で、回答傾向に大きな変化はみられない。

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについては、「いつも鍵をかけている」が58.5%で最も多く、「鍵をかけることが多い」は4.4%となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は1.7%、「鍵をかけることは少ない」は5.4%、「鍵はかけていない(鍵がついていないを含む)」は7.7%となっており、外出先に比べると鍵をかけない割合が増える様子が、これまでと同様にみられる。

経年でみると、平成27年以降「いつも鍵をかけている」は各年6割前後で、外出先同様、回答傾向に大きな変化はみられない。

外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域別でみると、「いつも鍵をかけている」は第3地域と第13地域が8割台前半と高い一方で、「自転車を持っていない・使っていない」(26.4%)が高い第11地域で約6割と最も低くなっている。

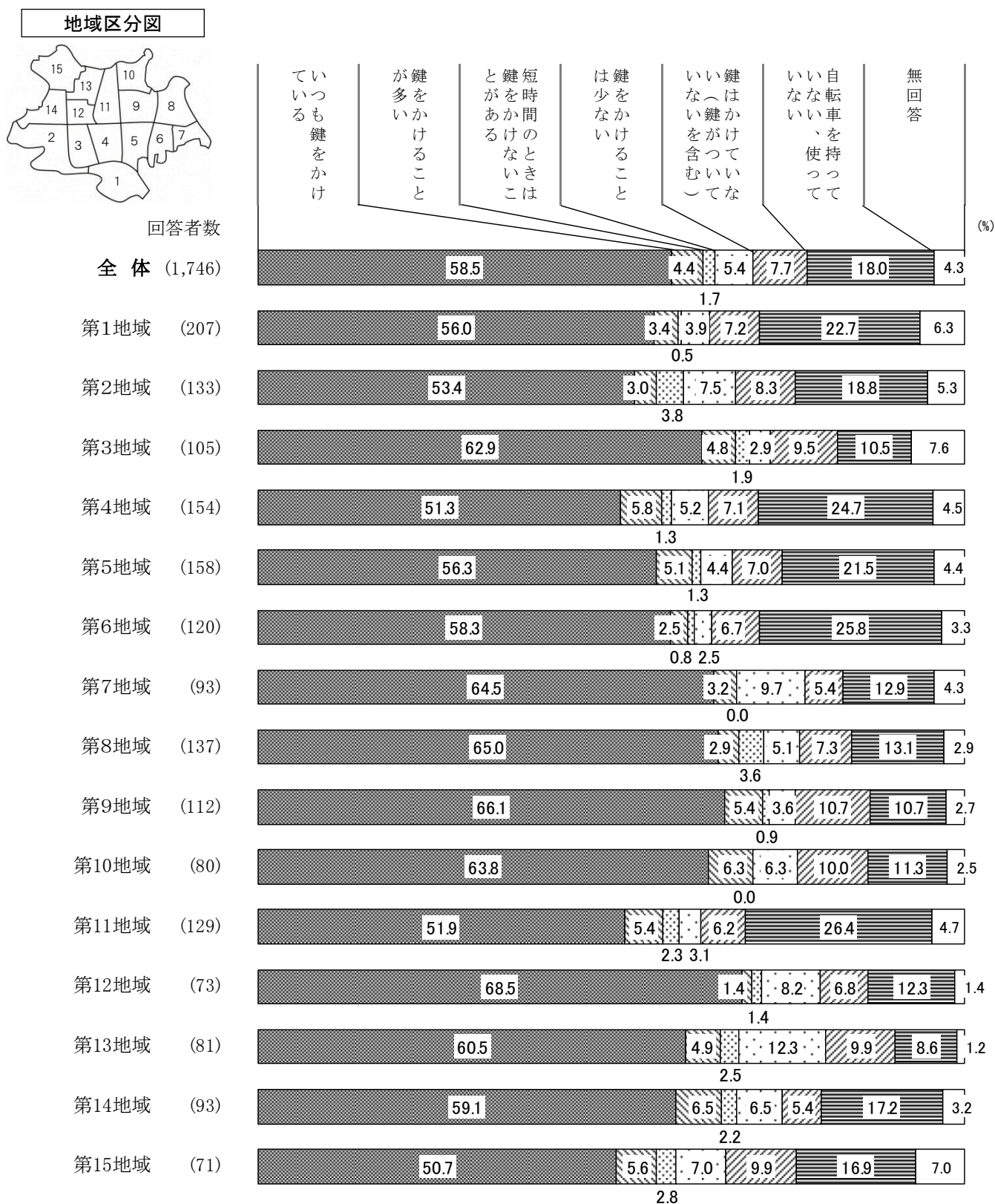
図7-9-2-① 地域別／駐車時の鍵かけ状況／外出先



### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域別でみると、「いつも鍵をかけている」は第12地域で7割弱と高く、第7地域、第8地域、第9地域の3地域も6割台半ばとやや高いが、第4地域、第11地域、第15地域の3地域はいずれも5割強で、他の地域に比べて低くなっている。

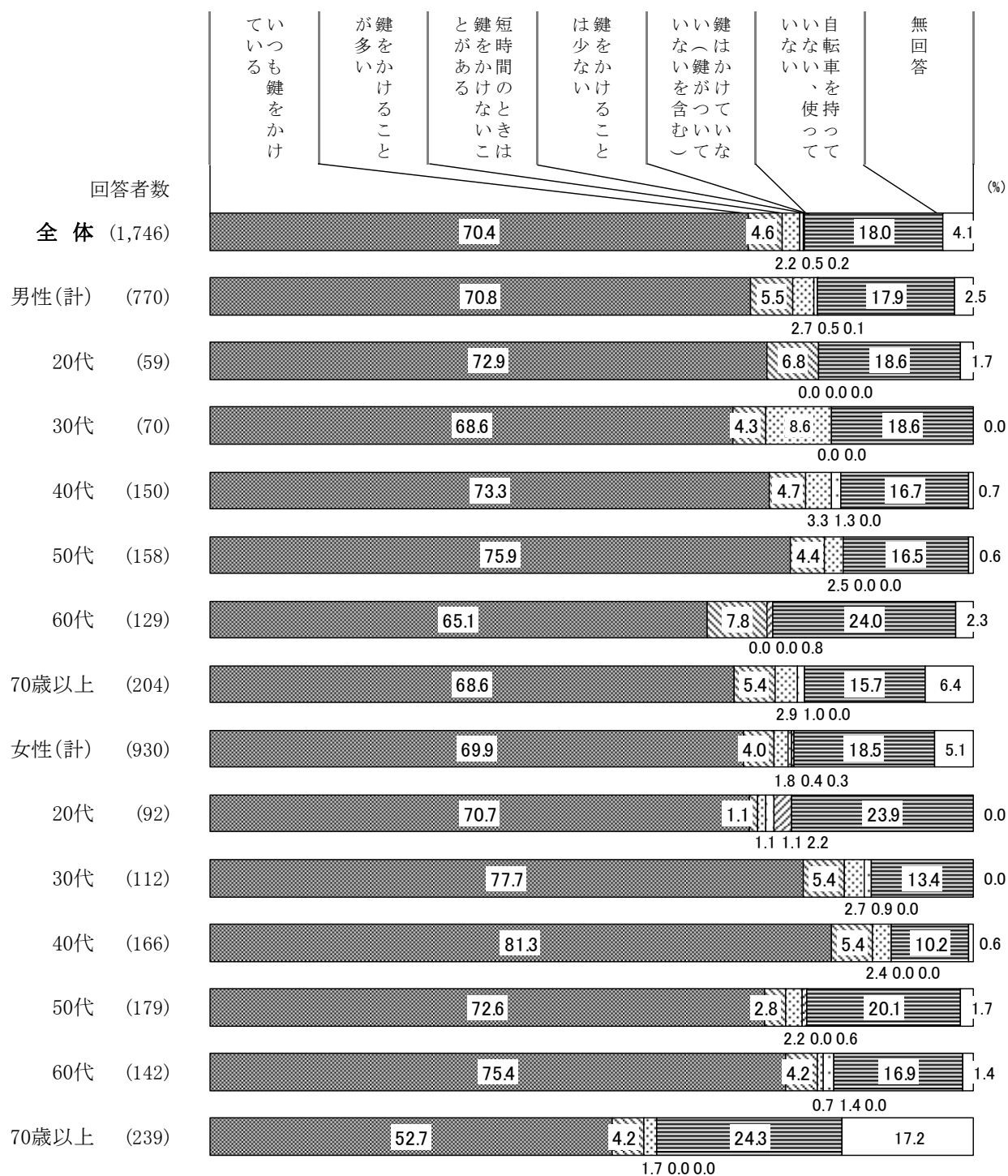
図7-9-2-② 地域別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内



外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性70.8%、女性69.9%となっており、ほとんど違いはみられない。

性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性では50代が7割台半ばで、女性では40代が8割強で、それぞれ最も高くなっているが、男性の60代、女性の20代と70歳以上では「自転車を持っていない・使っていない」がそれぞれ2割台半ばでやや高くなっている。

図7-9-3-① 性別、性・年代別／駐車時の鍵かけ状況／外出先

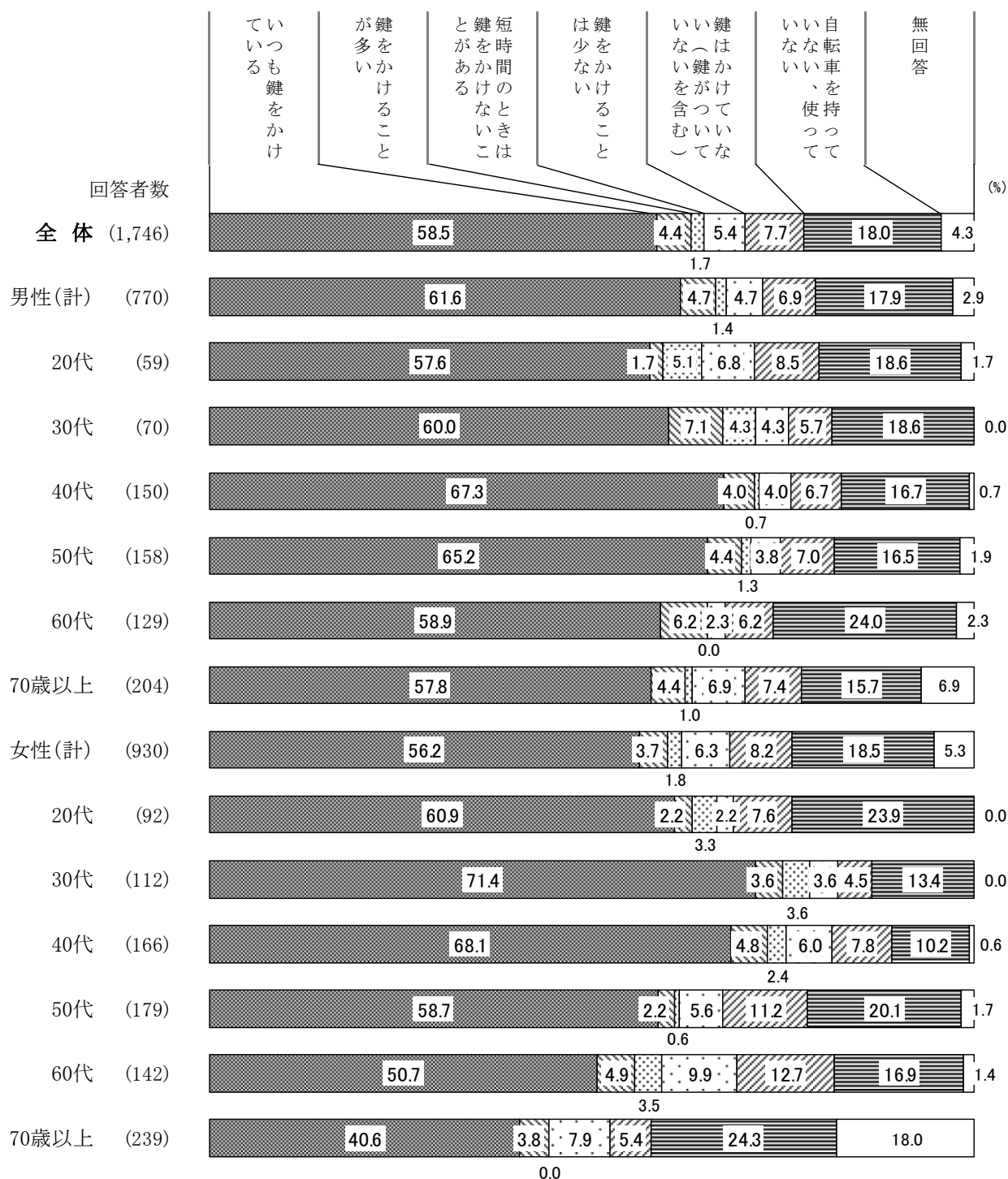


### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性が61.6%、女性が56.2%と男性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性では40代と50代で6割台後半とやや高く、女性では30代と40代で7割前後と高くなっている。

図7-9-3-② 性別、性・年代別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内



## 8 環境・地域活動

- 
- (1) 環境のために心がけていること
  - (2) 「食品ロス」という言葉の認知
  - (3) 食品ロス削減のために心がけていること
  - (4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
-





## 8 環境・地域活動

## (1) 環境のために心がけていること

■ “ごみと資源の分別”が9割弱、“不要なレジ袋を断る”が7割台半ばまで増加して、上位

問40 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

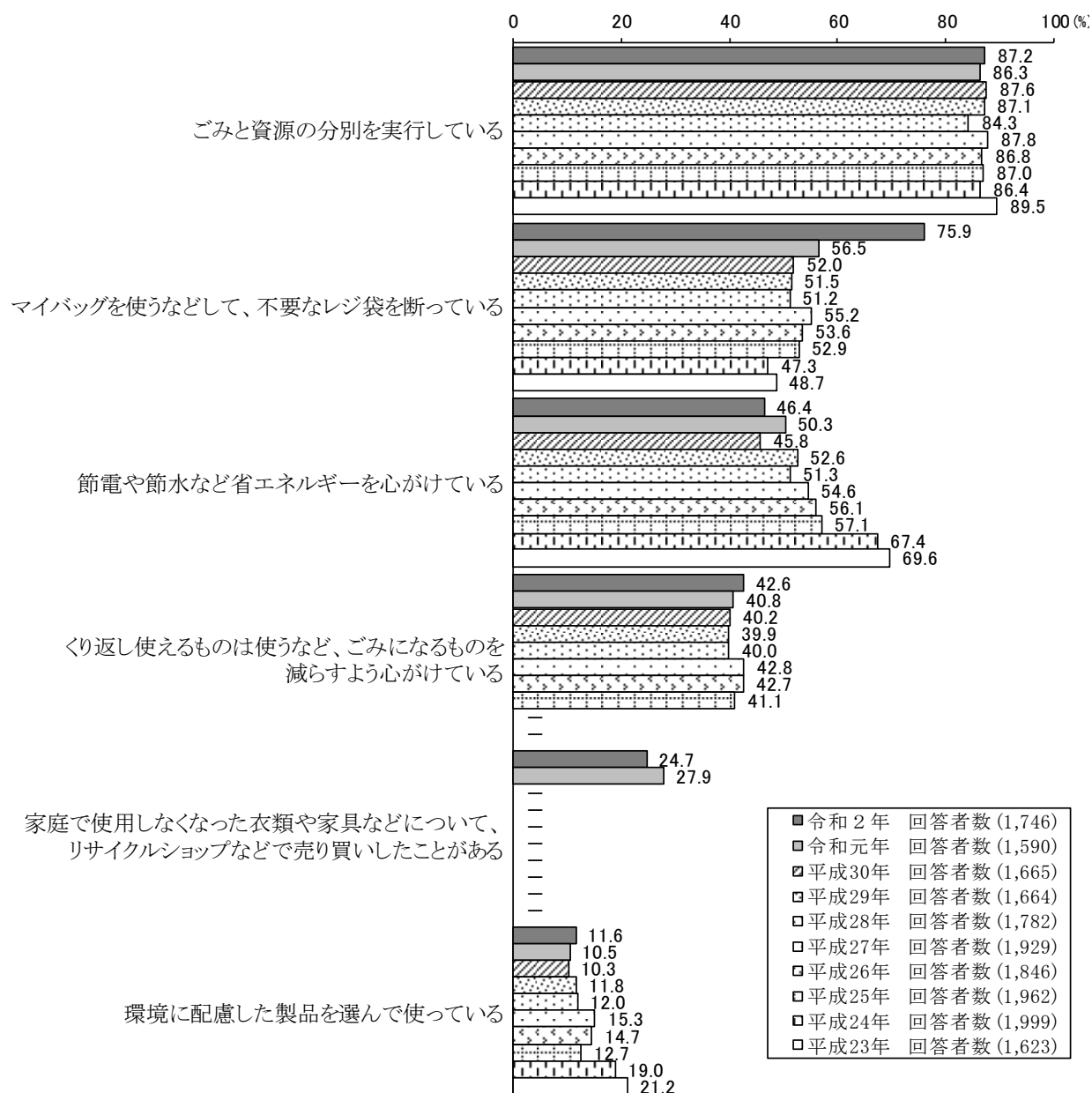
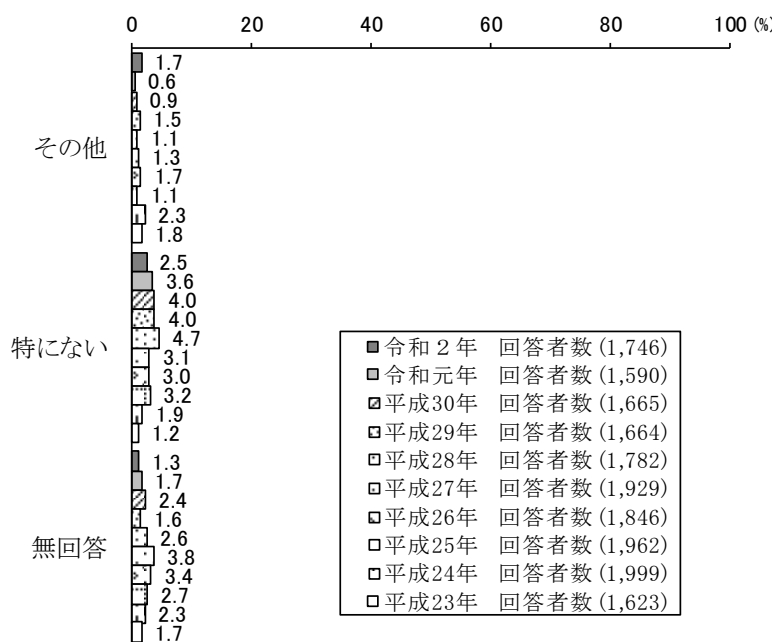


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



※「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は、平成25年度新設。  
 ※「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は令和元年度新設。

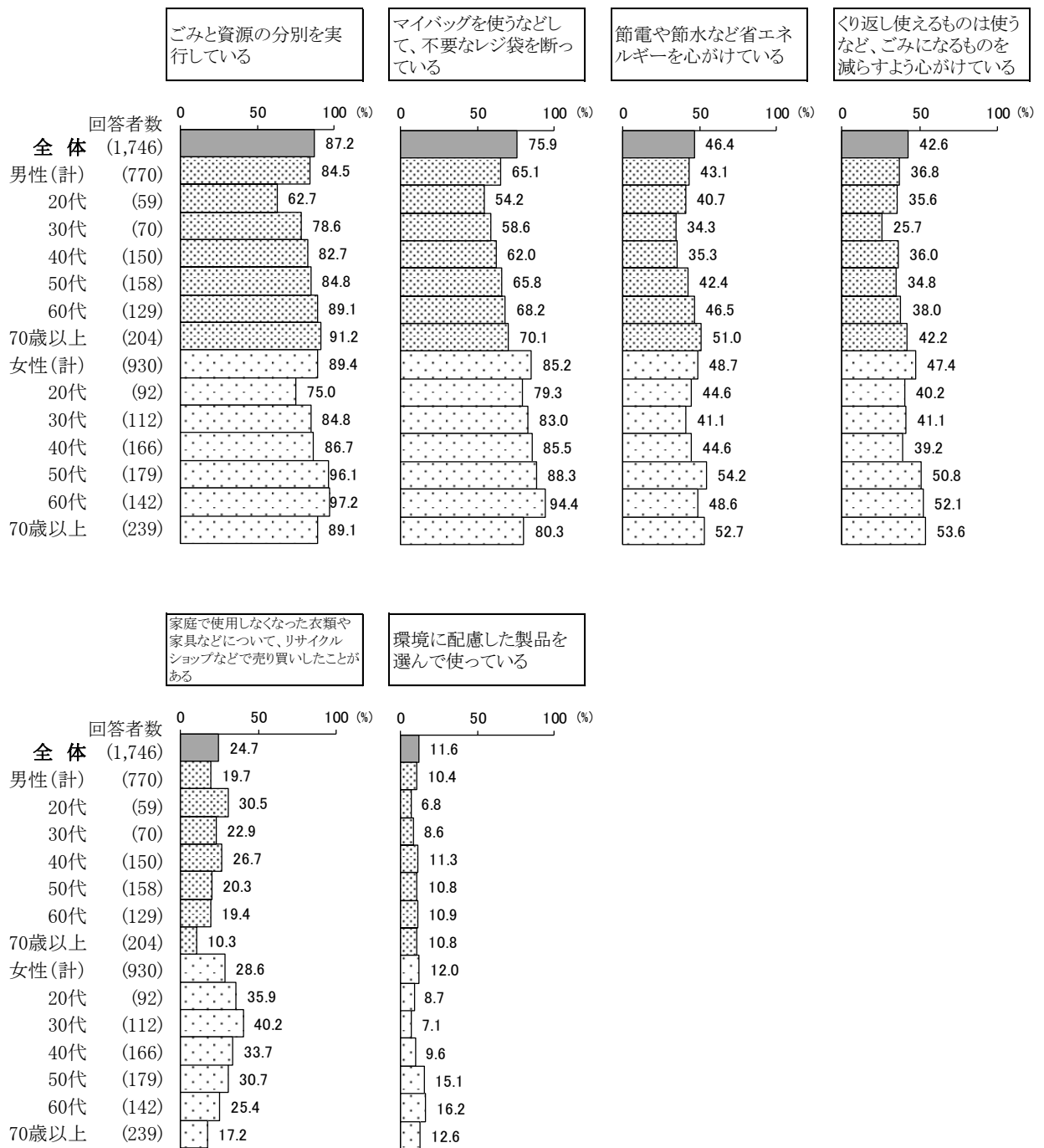
環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.2%で最も高く、これに「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が75.9%で続き、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(46.4%)、「くり返して使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」(42.6%)の順となっている。

経年でみると、ほとんどの項目で大きな比率の変動や順位の入替えなどがみられない中で、令和2年の7月から小売店にレジ袋有料化が義務付けられた影響を受けて、2位の「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は今回75.9%と前回(56.5%)より19.4ポイント増と大きく増加している。

性別でみると、女性はすべての項目で男性より高くなっており、中でも「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（女性85.2%＞男性65.1%）で性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、上位項目のほとんどで、男女ともに、50代以上の高齢3年代層が40代以下の中若年3年代層を上回って高めとなっているが、特定の性・年代層が目立って高い項目はみられず、同性の年代別の格差も総じてあまり大きくない傾向となっている。

図8－1－2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

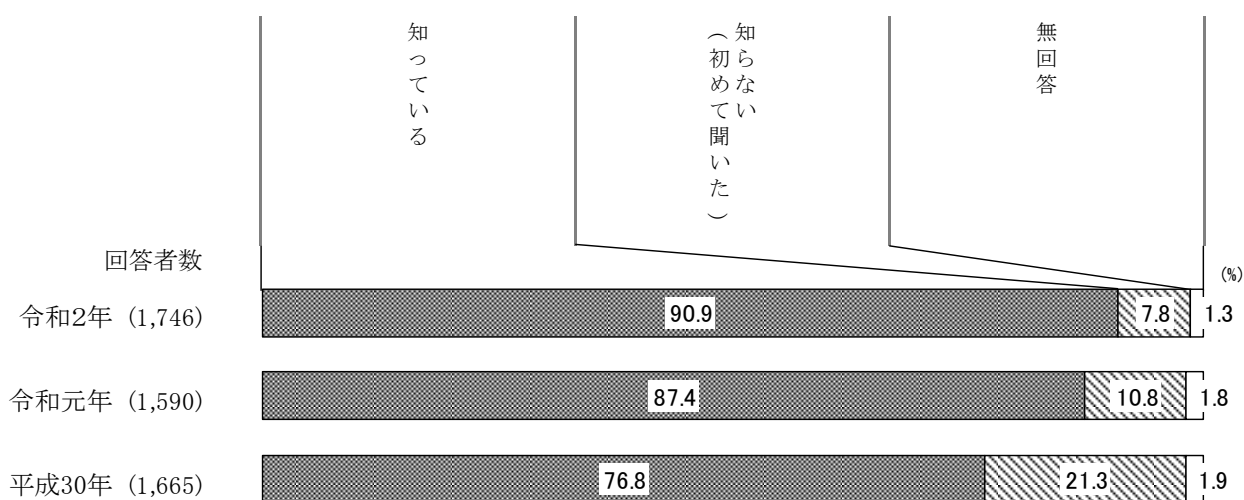


(2)「食品ロス」という言葉の認知

■ 9割強の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知率は2年続けて伸長している

問41 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

図8-2-1 経年比較／「食品ロス」という言葉の認知



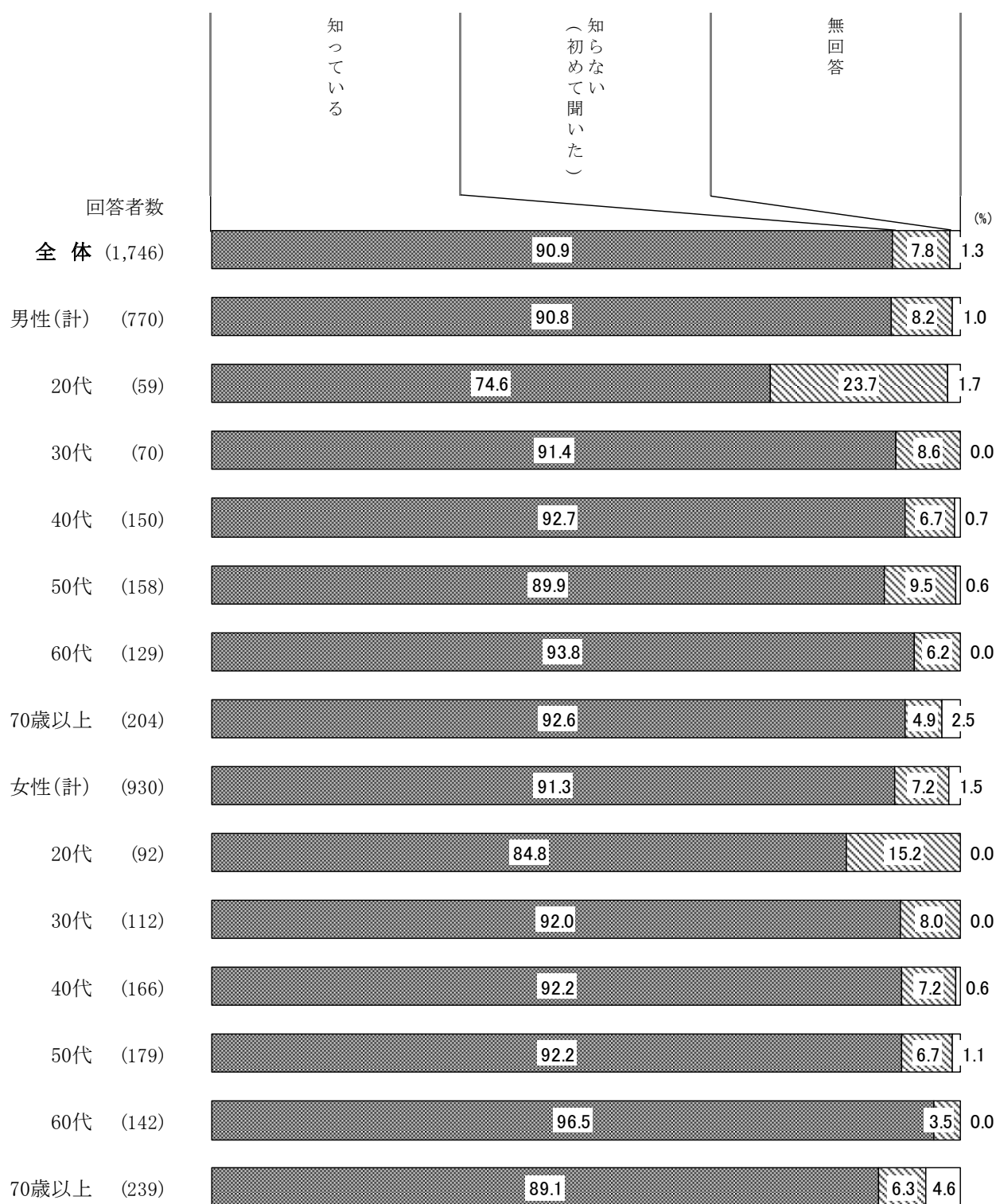
「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が90.9%を占めて多く、「知らない（初めて聞いた）」は7.8%。

経年でみると、「知っている」は初めて聴取した前々回平成30年の76.8%から前回の87.4%へと大きく伸長した後、今回も90.9%と前回より3.5ポイント増加して、9割を超える知名認知率となっている。

性別でみると、「知っている」は、男性90.8%、女性91.3%と、ほとんど男女差はみられない。

性・年代別でみると、「知っている」は、男性の20代で74.6%ととくに低く、女性の20代も84.8%と低い一方、女性の60代で96.5%と最も高く、これらの高低が目立つ3層を除くと、他の性・年代層では概ね9割前後となっており、他の性・年代層では目立った違いはみられない。

図8-2-2 性別、性・年代別／「食品ロス」という言葉の認知



### (3) 食品ロス削減のために心がけていること

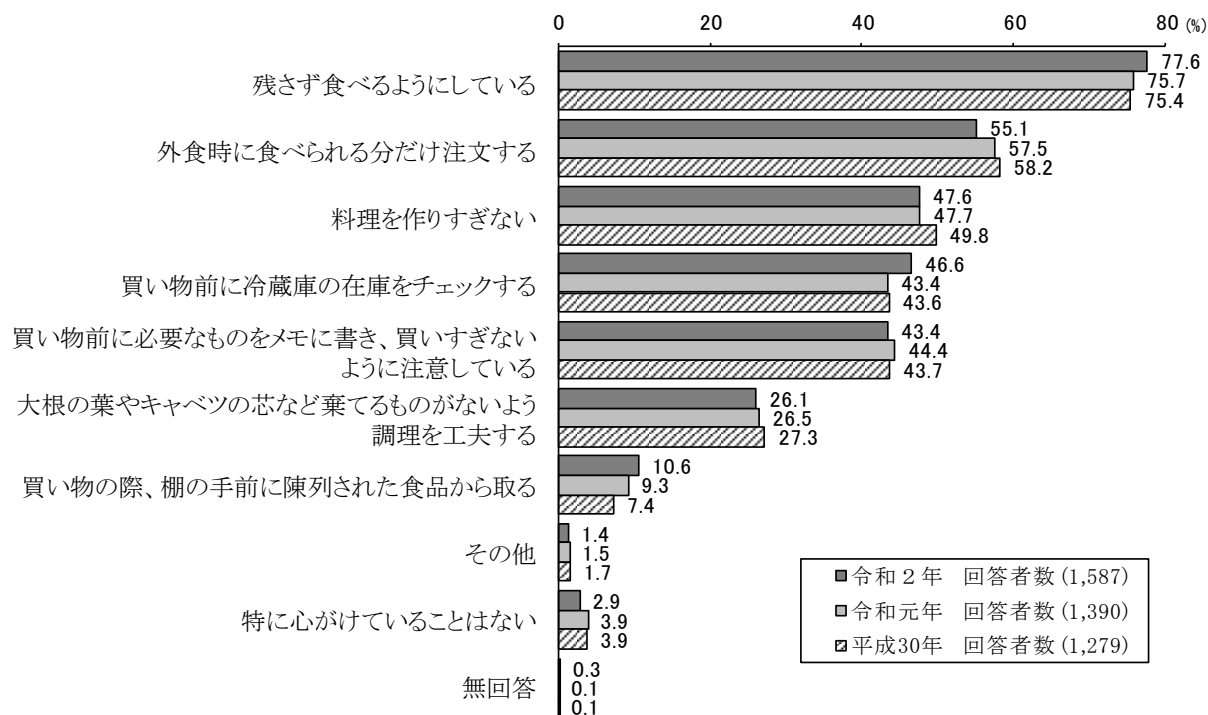
#### ■「残さず食べるようにしている」が8割弱

問41で「1 知っている」とお答えの方に

問41－1 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図8－3－1 経年比較／食品ロス削減のために心がけていること



※「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」は、令和元年度までの「買い物前に必要なものをメモに書く」から表現をかえた。

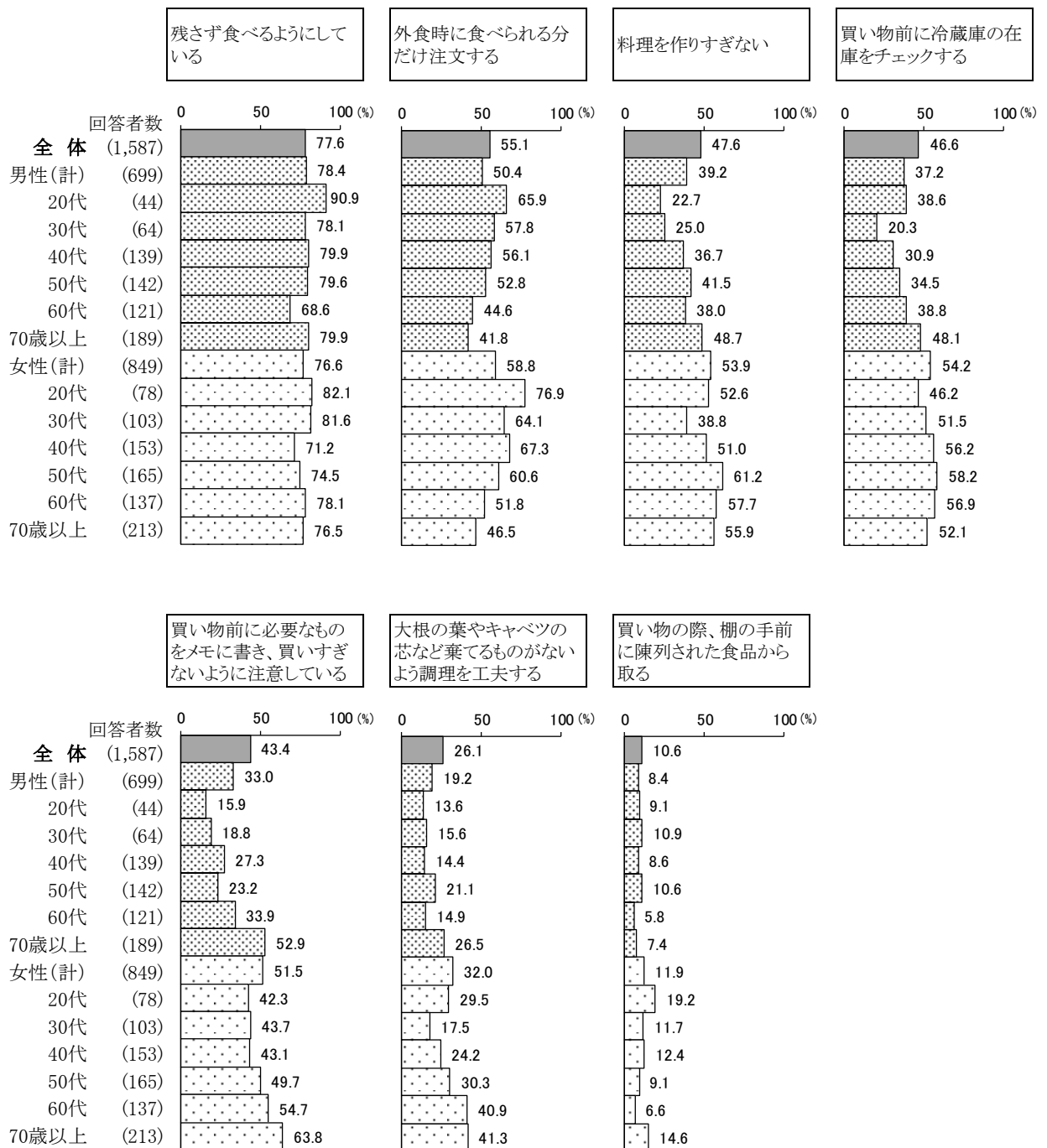
「食品ロス」という言葉を知っている人に、食品ロス削減に心がけていることを聞いた結果は、「残さず食べるようにしている」が77.6%で最も高く、以下「外食時に食べられる分だけ注文する」(55.1%)、「料理を作りすぎない」(47.6%)、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(46.6%)、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」(43.4%)、の順となっている。

前回の結果と比較すると、各項目の比率や順位に大きな変動はみられない。

性別でみると、多くの項目で男性より女性の方がかなり高くなっているが、今回最も高い「残さず食べるようにしている」だけは男性78.4%、女性76.6%で男性の方が僅かに高くなっている。

性・年代別でみると、「残さず食べるようにしている」は男性の20代で9割強、次点の「外食時に食べられる分だけ注文する」は女性の20代で8割弱、「料理を作りすぎない」は女性の50代と60代で6割前後、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」は女性の70歳以上で6割台半ば、「大根の葉やキャベツの芯など棄てるものがないよう調理を工夫する」は女性の60代と70歳以上で4割強と、それぞれ他の性・年代層より高くなっている。

図8-3-2 性別、性・年代別／食品ロス削減のために心がけていること



(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験では、コロナ禍の影響で“イベントや催し物系”への参加が例年より減少

問42 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

図8-4-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動

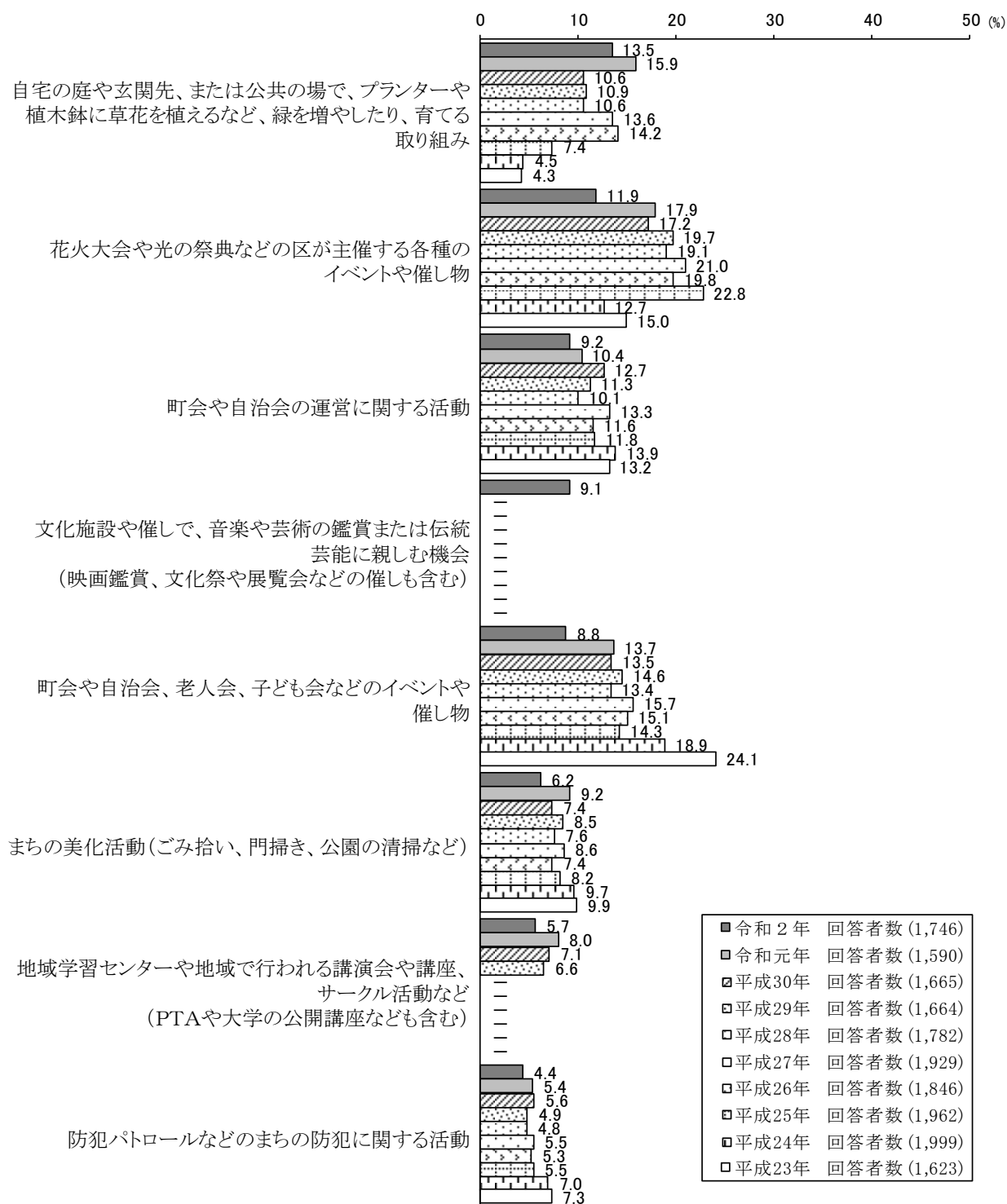




図8-4-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



※「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

※「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度から新設。

※ 令和元年度に「8 区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、令和2年度の同項目の補足項目「8-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会」の新設に伴い、項目文巻頭の「区内の」の表記を割愛した。

※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

この1年間で参加した活動としては、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が13.5%で最も高く、以下「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(11.9%)、「町会や自治会の運営に関する活動」(9.2%)、今回から新設の「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(9.1%)の順で続き、「特に参加していない」は48.1%となっている。

経年でみると、比率を減少させている項目が多く、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント中止の影響を受けてか、「区が主催する各種のイベントや催し物」(6.0ポイント減)と「町会などのイベントや催し物」(4.9ポイント減)の2項目で減少幅が大きくなっている。

図8-4-2-① 経年比較／今後の参加意向

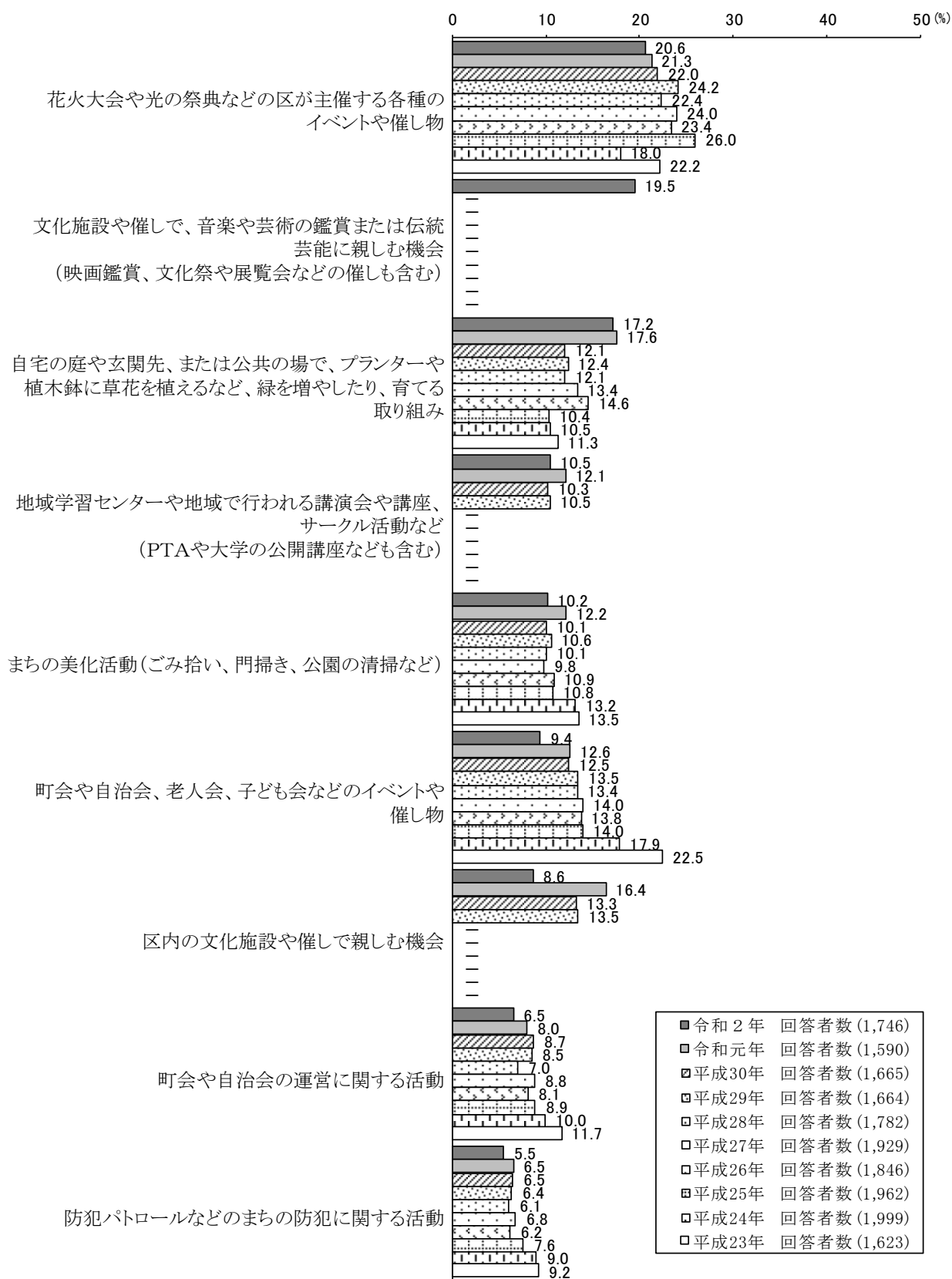
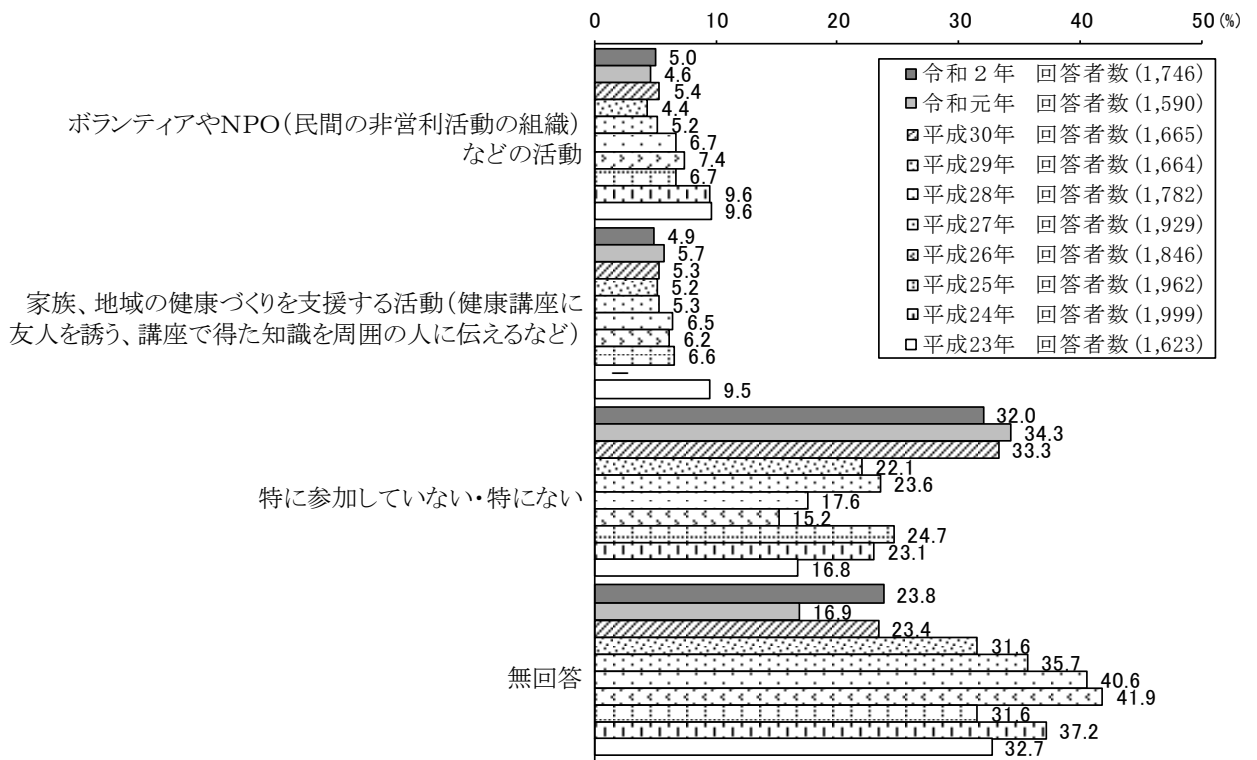


図8-4-2-② 経年比較／今後の参加意向



※「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

※「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度新設。

※ 令和元年度に「8 区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、令和2年度の同項目の補足項目「8-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会」の新設に伴い、項目文巻頭の「区内の」の表記を割愛した。

※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

今後参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が20.6%で最も高く、以下、新設扱いの「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」（19.5%）、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」（17.2%）の順で続き、「特にない」は32.0%で、「無回答」も23.8%。

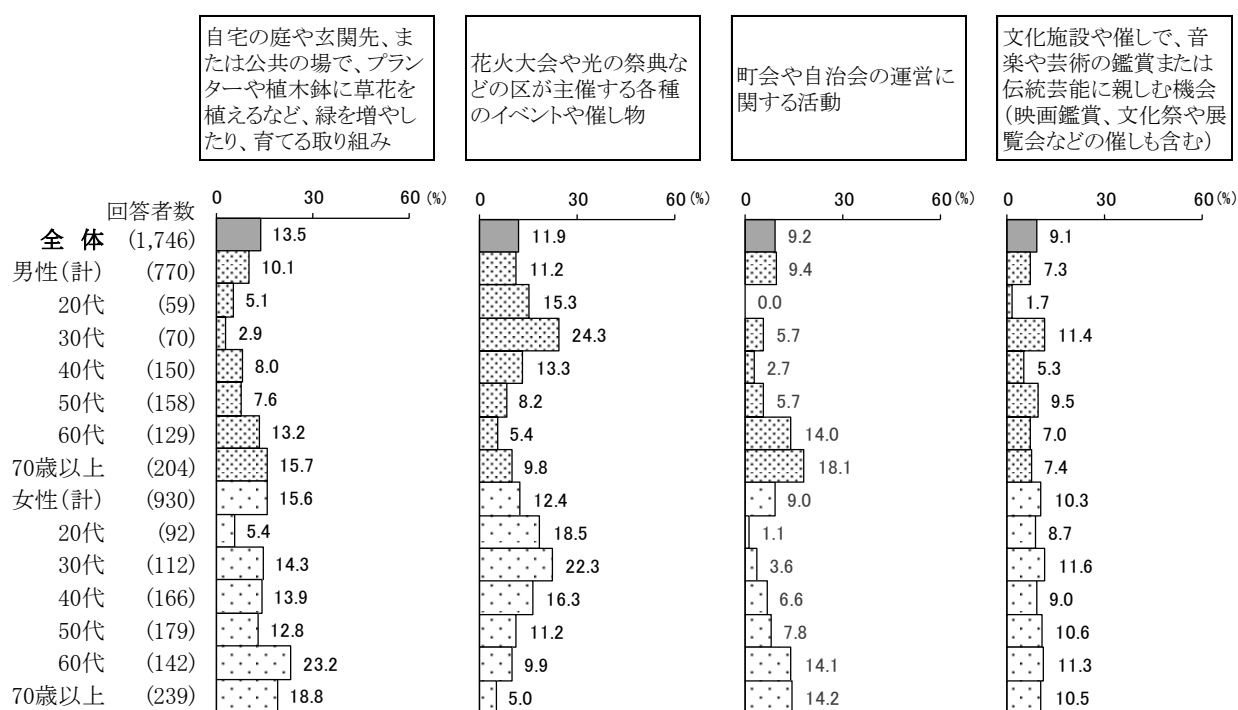
経年でみると、〈参加した活動〉と同様に、新設扱いの「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」以外は前回より比率が僅かに減少している項目が多く、中でも「区内の文化施設や催しで親しむ機会」（7.8ポイント減）で減少幅が大きめとなっている。一方で、前回減少幅の大きかった「無回答」が6.9ポイント増加して平成30年のレベルに戻っている。

### 第3章 調査結果の分析 〈 環境・地域活動 〉

〈参加した活動〉の上位4項目について性別でみると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で女性の方が約6ポイント高めなのを除くと、目立って大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の60代と70歳以上で2割前後、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は男女の30代で2割台前半、「町会や自治会の運営に関する活動」は男性の70歳以上で2割弱と、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高くなっている。

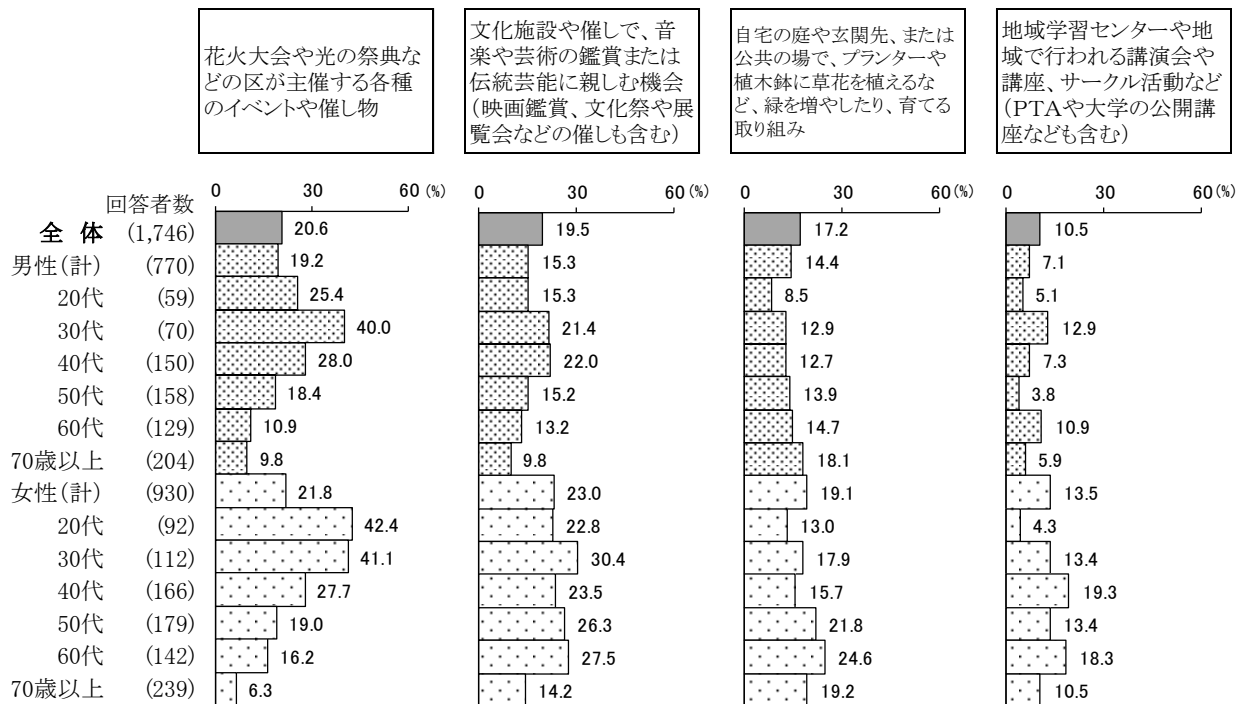
図8-4-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後参加したい活動〉の上位4項目について性別でみると、4項目はいずれも女性の方が男性よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は女性の20代と男女の30代で4割から4割強と高く、概ね男女ともに若い層ほど高めとなる傾向がみられる。なお、「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性30代で3割強、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の60代で2割台半ばと、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高くなっているが、目立って大きな違いはみられない。

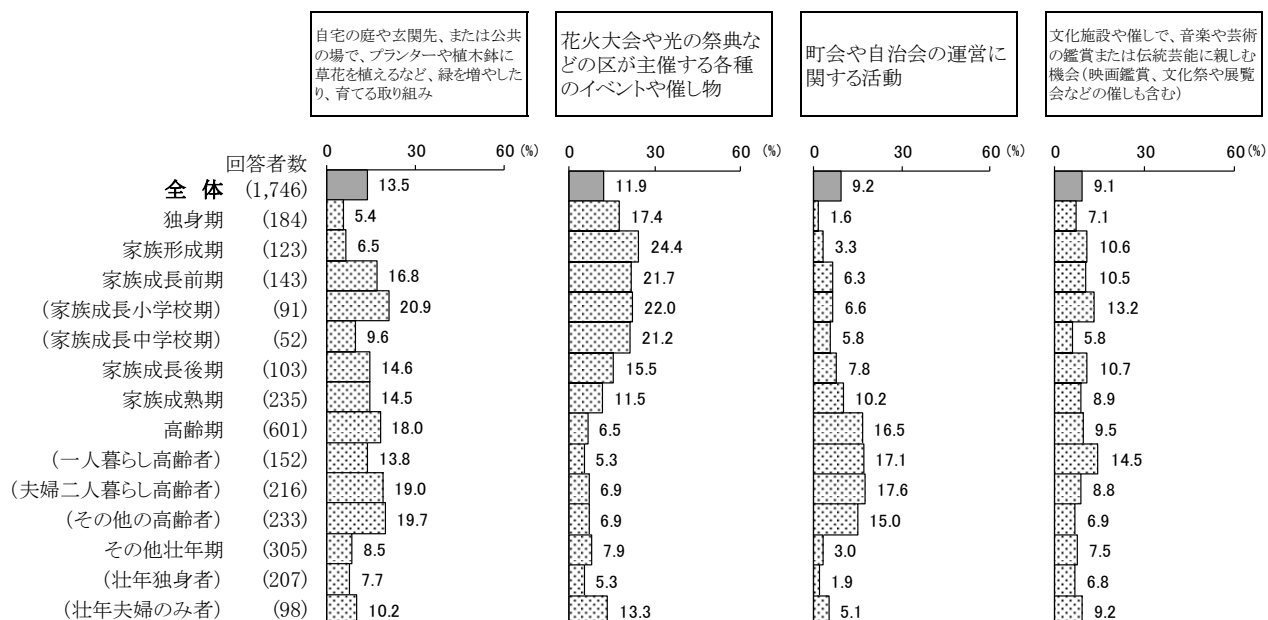
図8-4-4 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目



### 第3章 調査結果の分析〈環境・地域活動〉

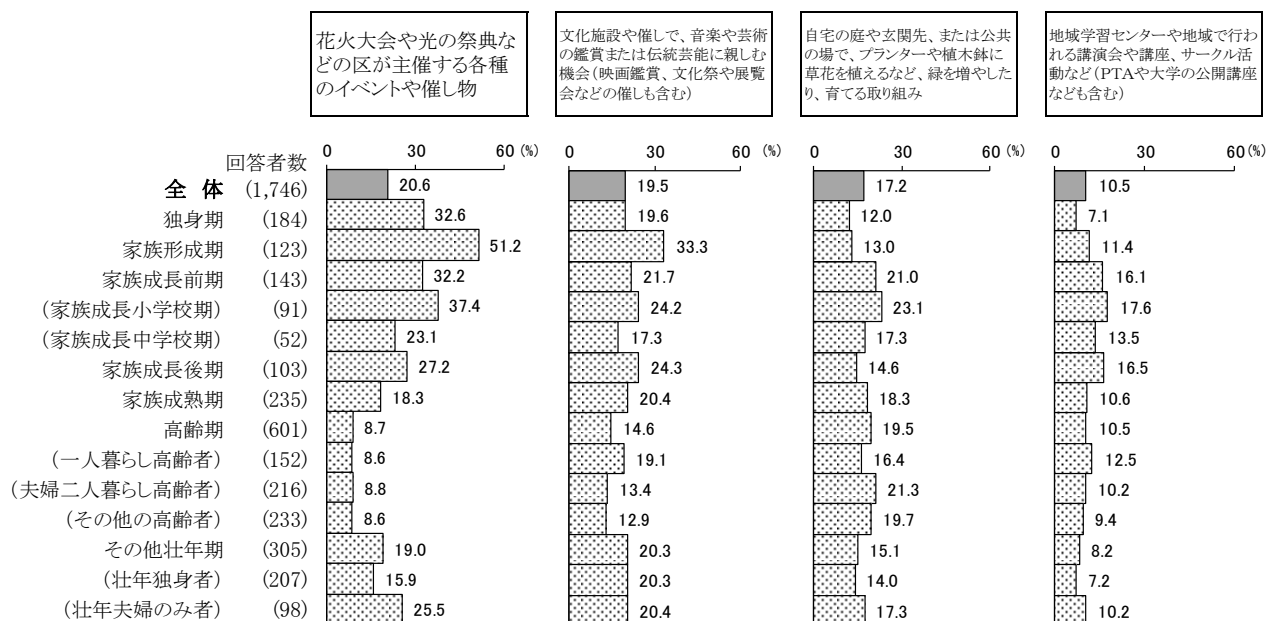
〈参加した活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は家族形成期と家族成長前期で2割強から2割台半ば、「町会や自治会の運営に関する活動」は高齢期で1割台半ばと、それぞれ他のライフステージ層より高めとなっており、この2項目はライフステージ別の格差もやや大きい傾向がみられる。

図8-4-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後参加したい活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は家族形成期で5割を超えてとくに高く、「文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」も家族形成期が3割台前半で高くなっている。

図8-4-6 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目



## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- 
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
  - (2) 「地域包括支援センター」の認知状況
  - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
  - (4) 協力意向がある活動内容
  - (5) 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況
  - (6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況
-





## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

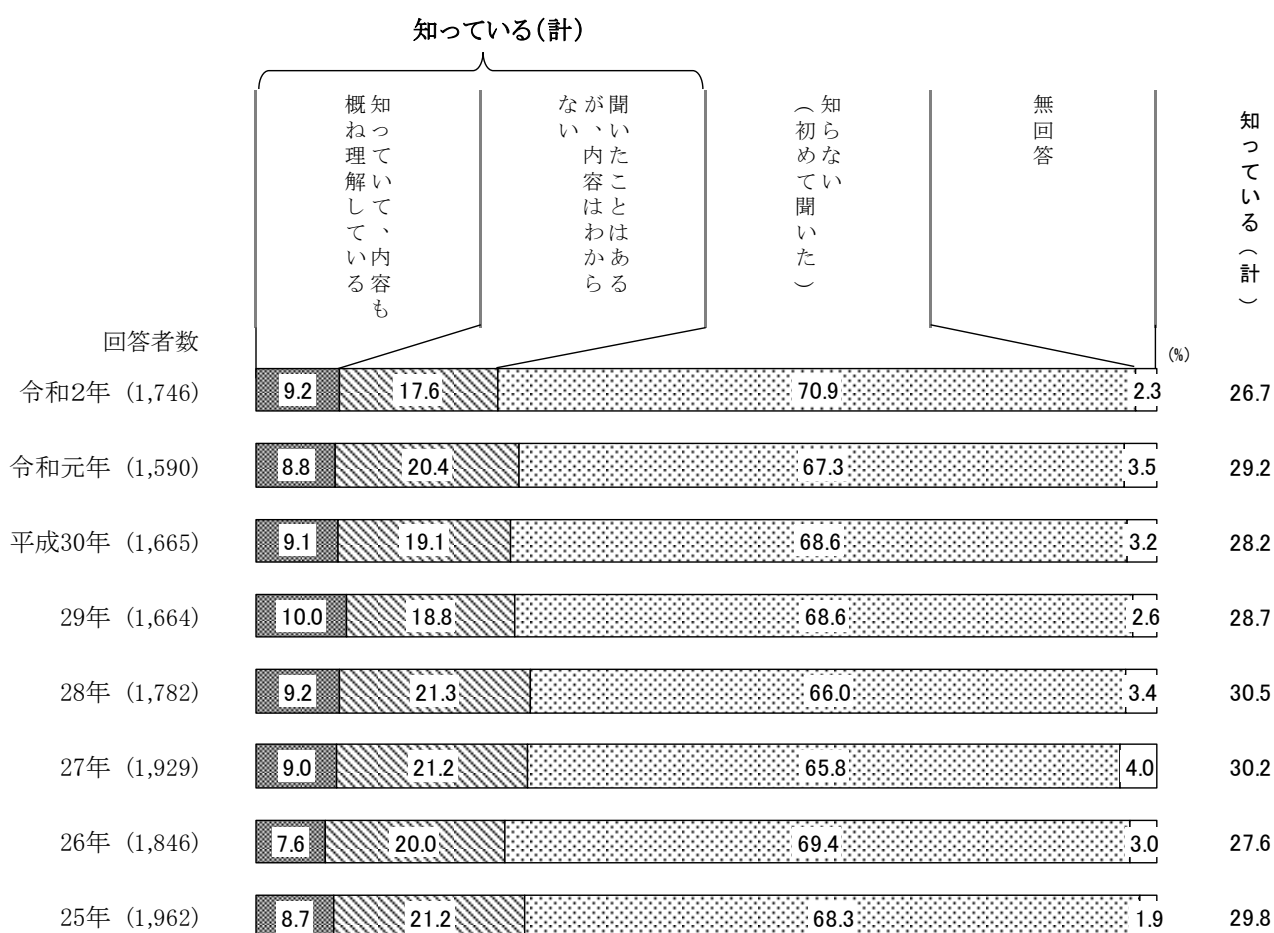
■【知っている】は2割台後半で、「知らない（初めて聞いた）」が7割強

問43 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか

（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



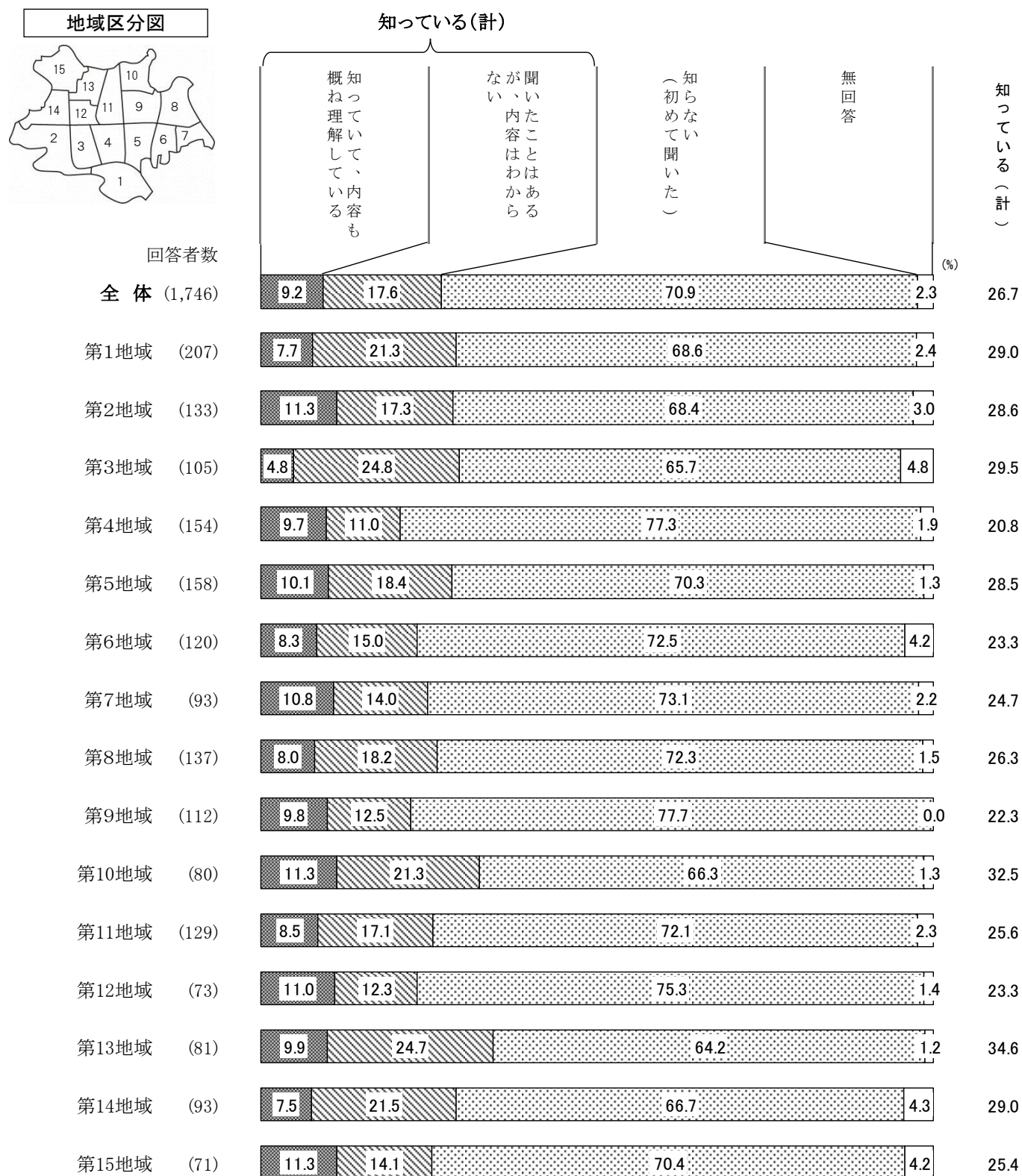
「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が9.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の17.6%を合わせた【知っている】は26.7%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は70.9%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回26.7%で、平成25年以降3割前後で推移していたが、前回(29.2%)に比べると2.5ポイント減少し、僅差ながら平成25年以降で最も低くなっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【知っている】は第13地域で34.6%と最も高く、第10地域が32.5%で続き、この両地域で高くなっている。一方、第4地域では【知っている】が20.8%と最も低く、「知らない（初めて聞いた）」が8割弱と、第9地域と並んで高くなっている。

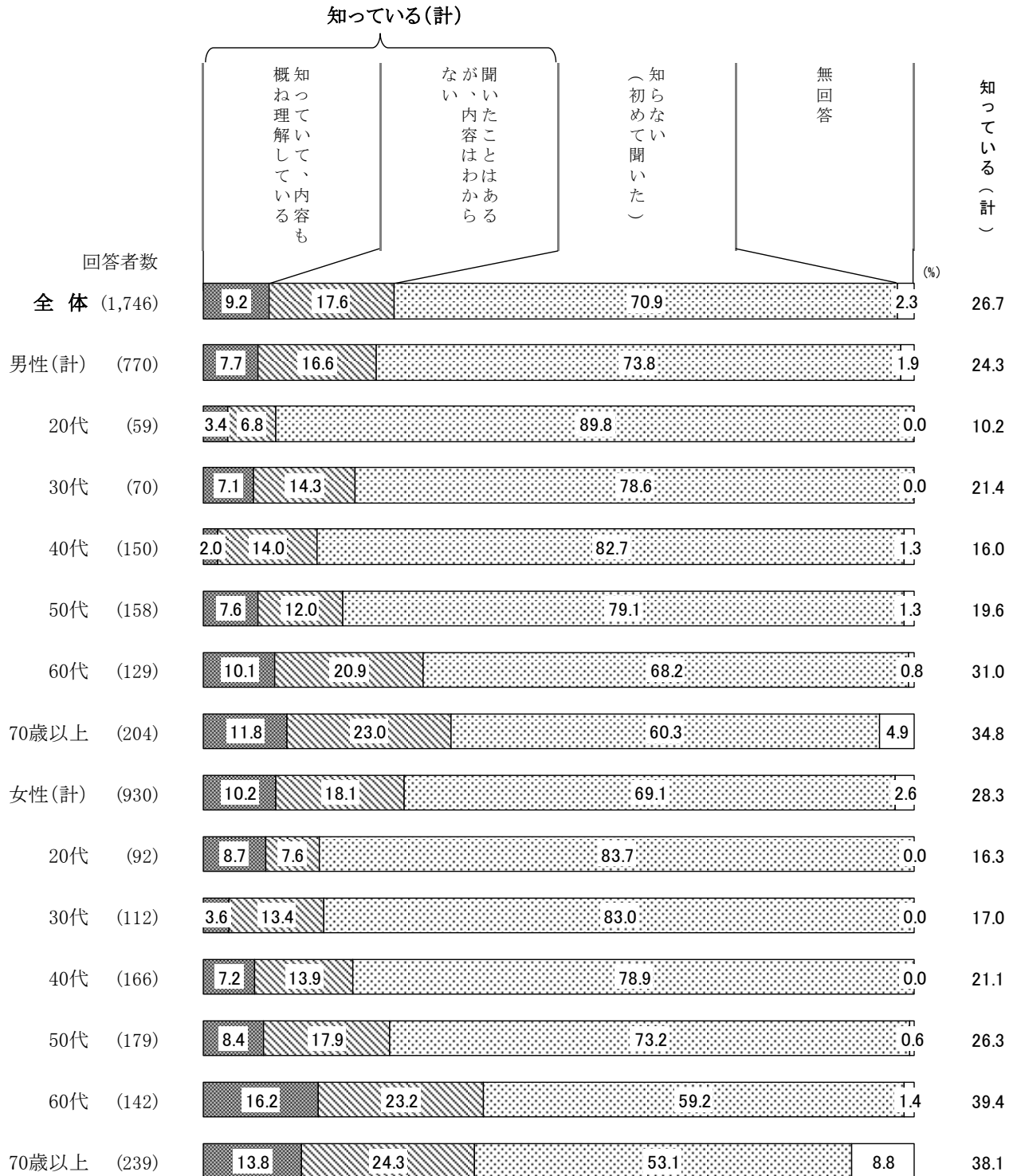
図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性24.3%、女性28.3%と、女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で3割台半ば、女性では60代と70歳以上で4割弱と、それぞれ高くなっているが、男女の20代と男性の40代、女性30代ではいずれも1割台半ば以下と低く、男女ともに概ね年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



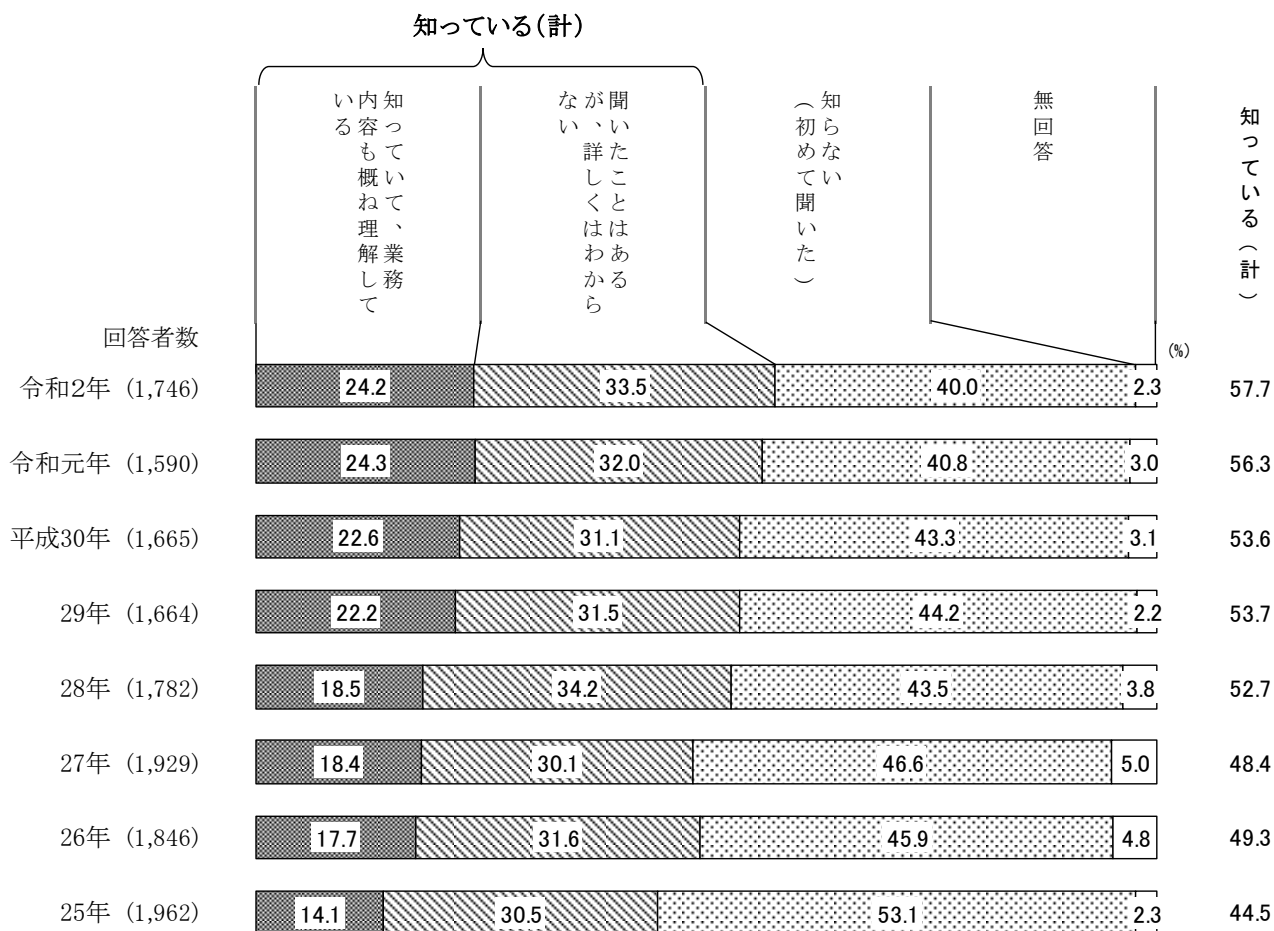
## (2)「地域包括支援センター」の認知状況

■【知っている】が、漸増傾向を続けて、今回は6割弱

問44 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」とは、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図9-2-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況

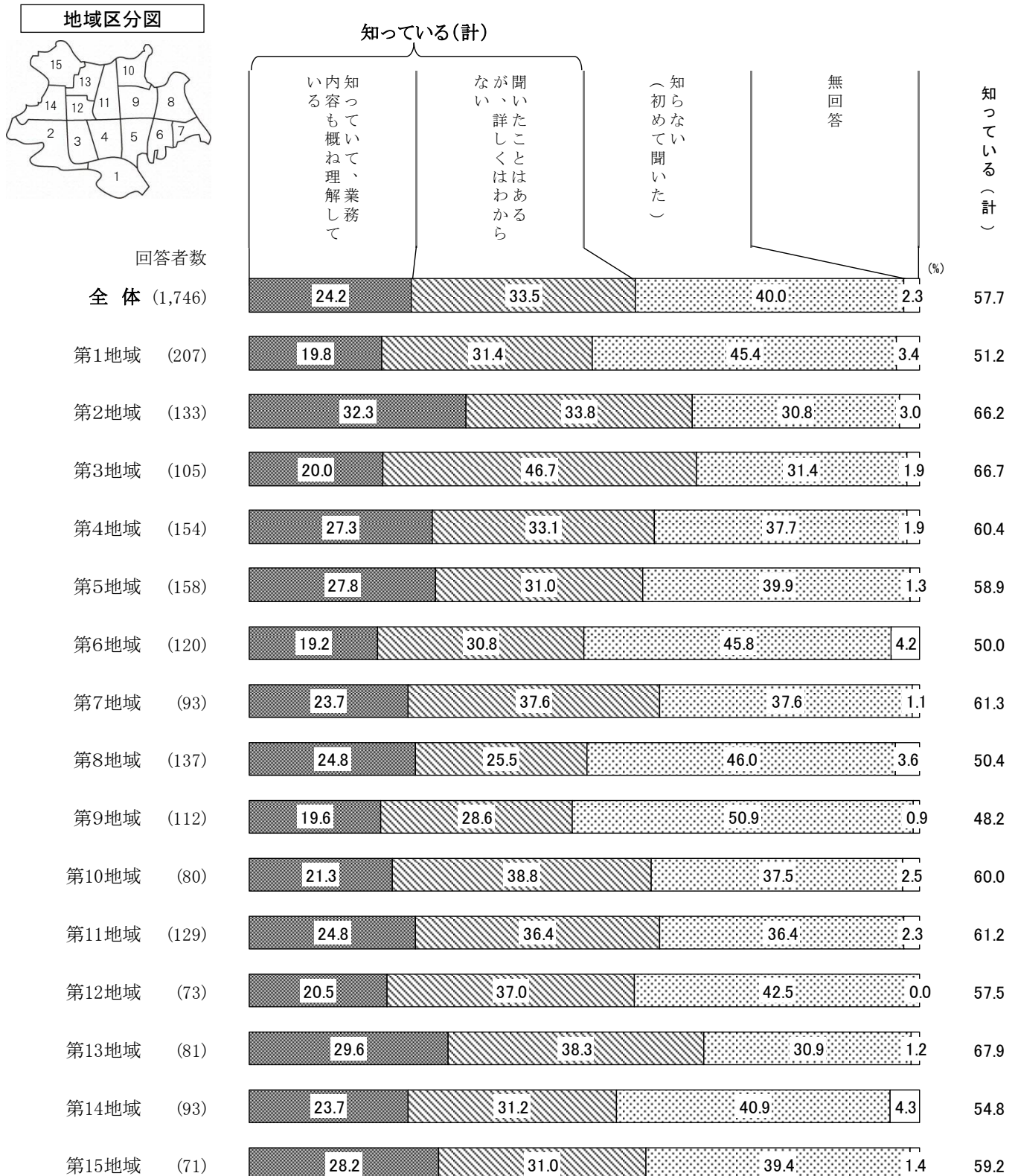


「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が24.2%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の33.5%を合わせた【知っている】は57.7%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は40.0%である。

経年でみると、回答分布に大きな変動はみられないものの、【知っている】は今回57.7%で、前回より1.4ポイント増えており、平成25年の44.5%からみると10ポイント以上増加して、引き続き漸増傾向にある。

地域別でみると、【知っている】は67.9%の第13地域で最も高く、第2地域と第3地域も僅差の6割台後半で続き、この3地域で高くなっている。一方、第9地域では【知っている】が48.2%と低く、「知らない（初めて聞いた）」が5割を超えて最も高くなっている。

図9-2-2 地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

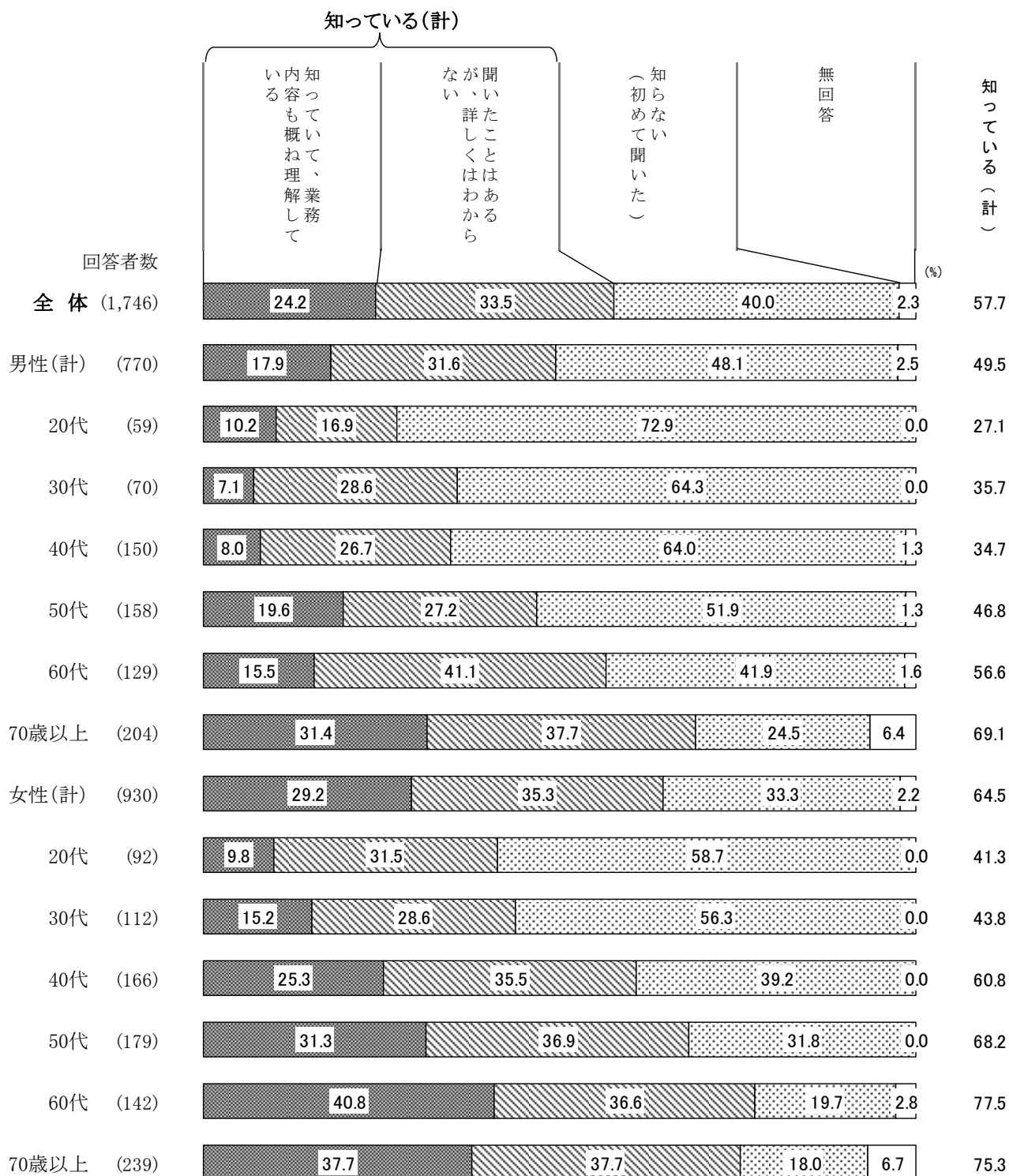


### 第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、【知っている】は男性49.5%、女性64.5%と、男性より女性の方が15.0ポイント高く、男女差が大きくなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で7割弱、女性では60代と70歳以上で7割台後半と、それぞれ高くなっており、男女ともに年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-2-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況

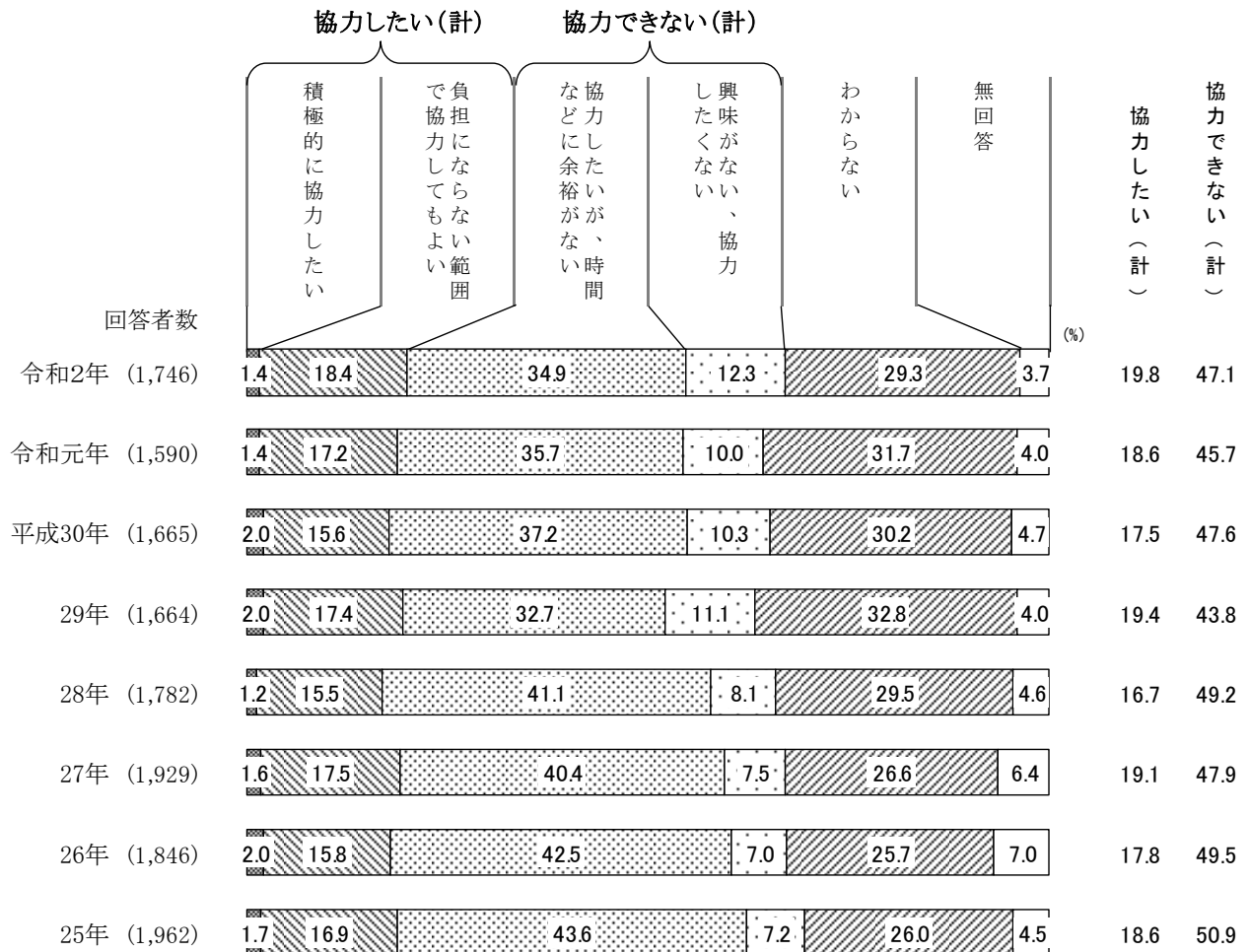


## (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■【協力したい】は約2割で、2年続けて微増も、大きな経年変化はみられず

問45 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



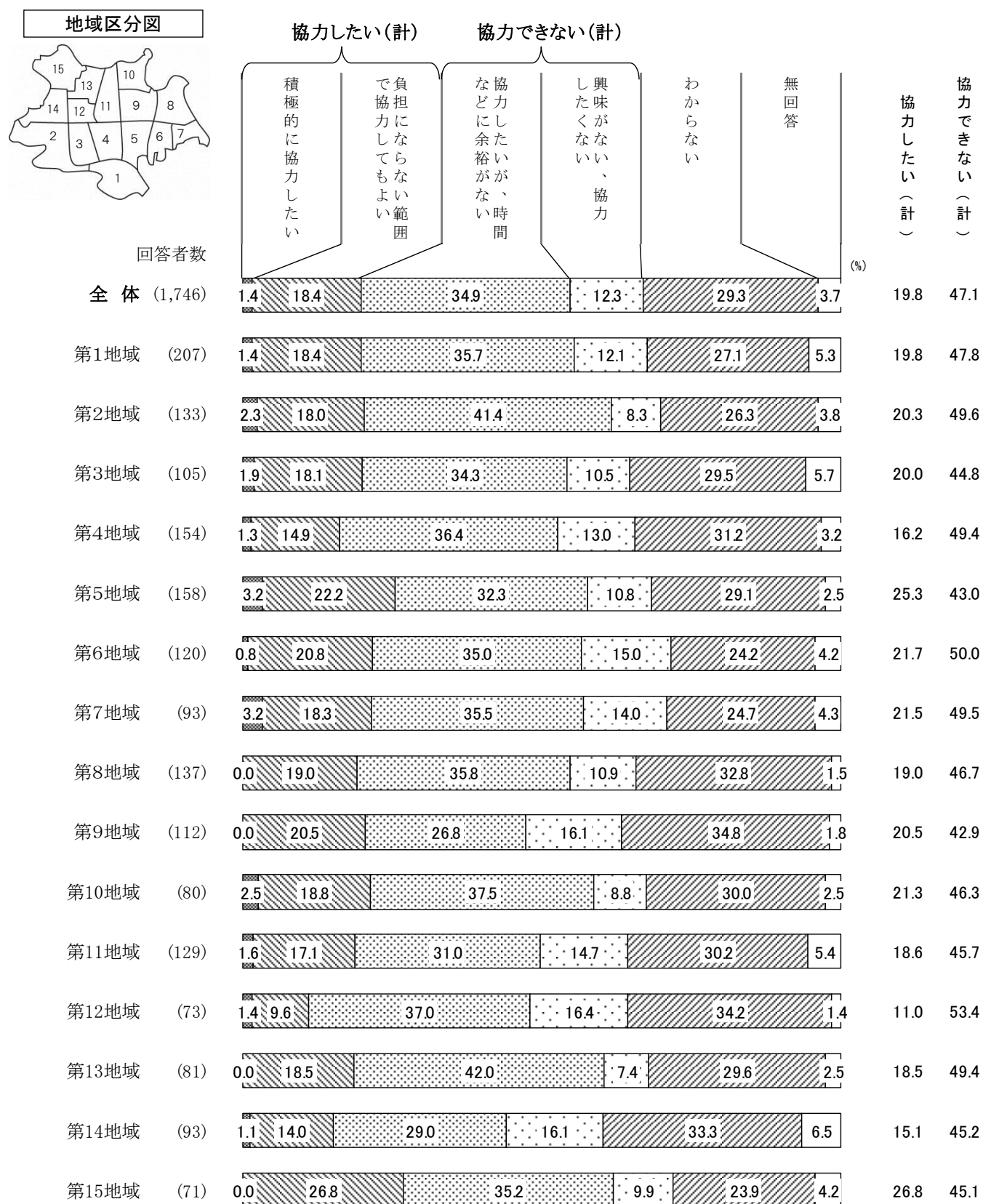
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.4%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の18.4%を合わせた【協力したい】は19.8%となっている。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は34.9%、「興味がない、協力したくない」は12.3%で、この両層を合わせた【協力できない】は47.1%となっている。

経年でみると、【協力したい】は今回19.8%と、前回の18.6%より1.2ポイント増加して、2年続けての微増で、僅差ながらこれまでで最も高いものの、平成25年以降各年2割弱のレベルで推移しており、大きな経年変化はみられない。

### 第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【協力したい】は第15地域が26.8%で最も高く、第5地域が25.3%で続き、この両地域で高くなっている。一方、【協力できない】は第12地域が5割台半ばで最も高くなっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

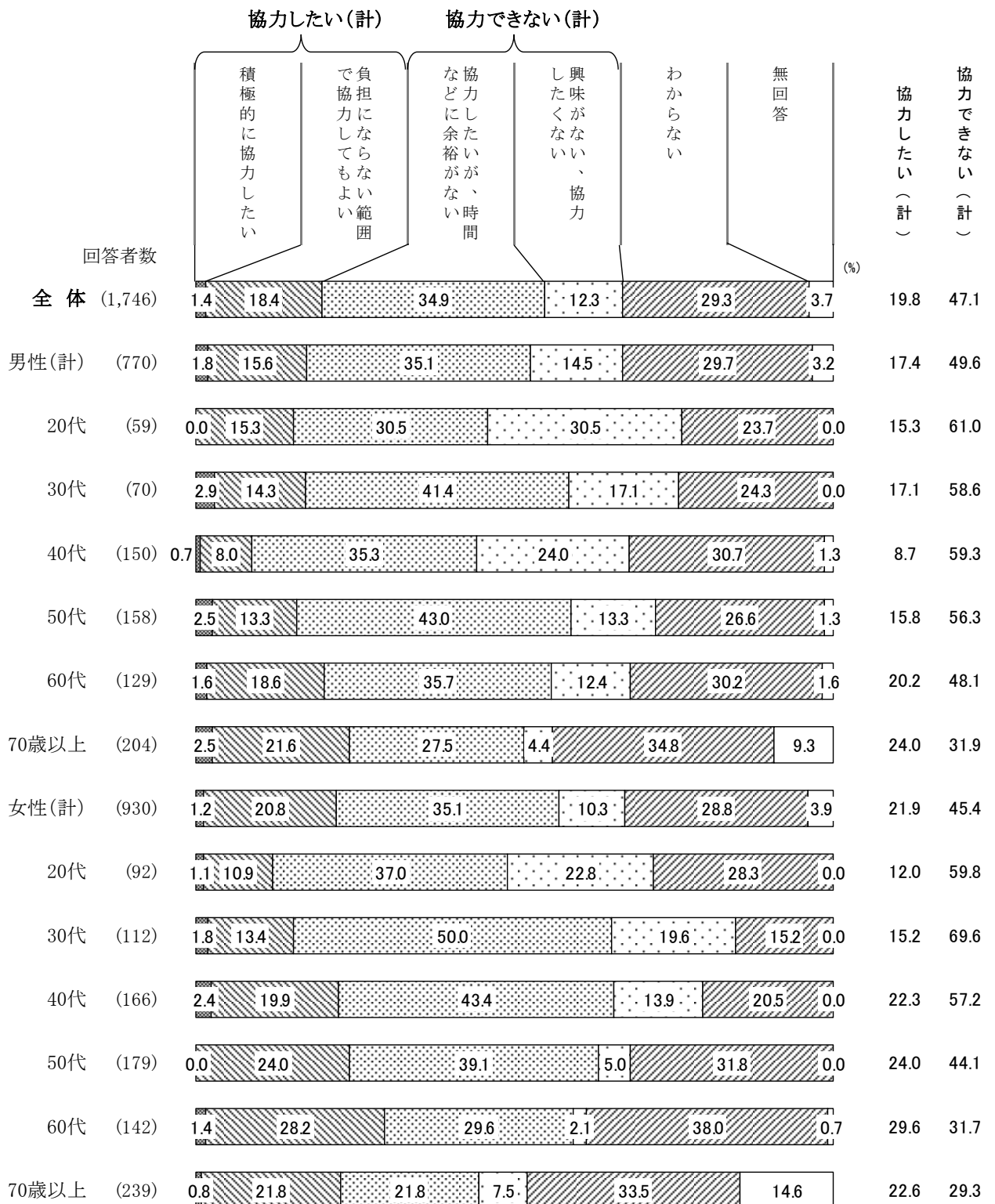




性別でみると、【協力したい】は男性17.4%、女性21.9%と女性の方がやや高めとなっている。

性・年代別でみると、【協力したい】は、男性では70歳以上で2割台半ば、女性では60代で約3割と、それぞれ高くなっている。一方、男女の30代と女性40代、男性50代の計4層では「協力したいが、時間などに余裕がない」がそれぞれ4割強から5割を占めて、他の性・年代層より高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

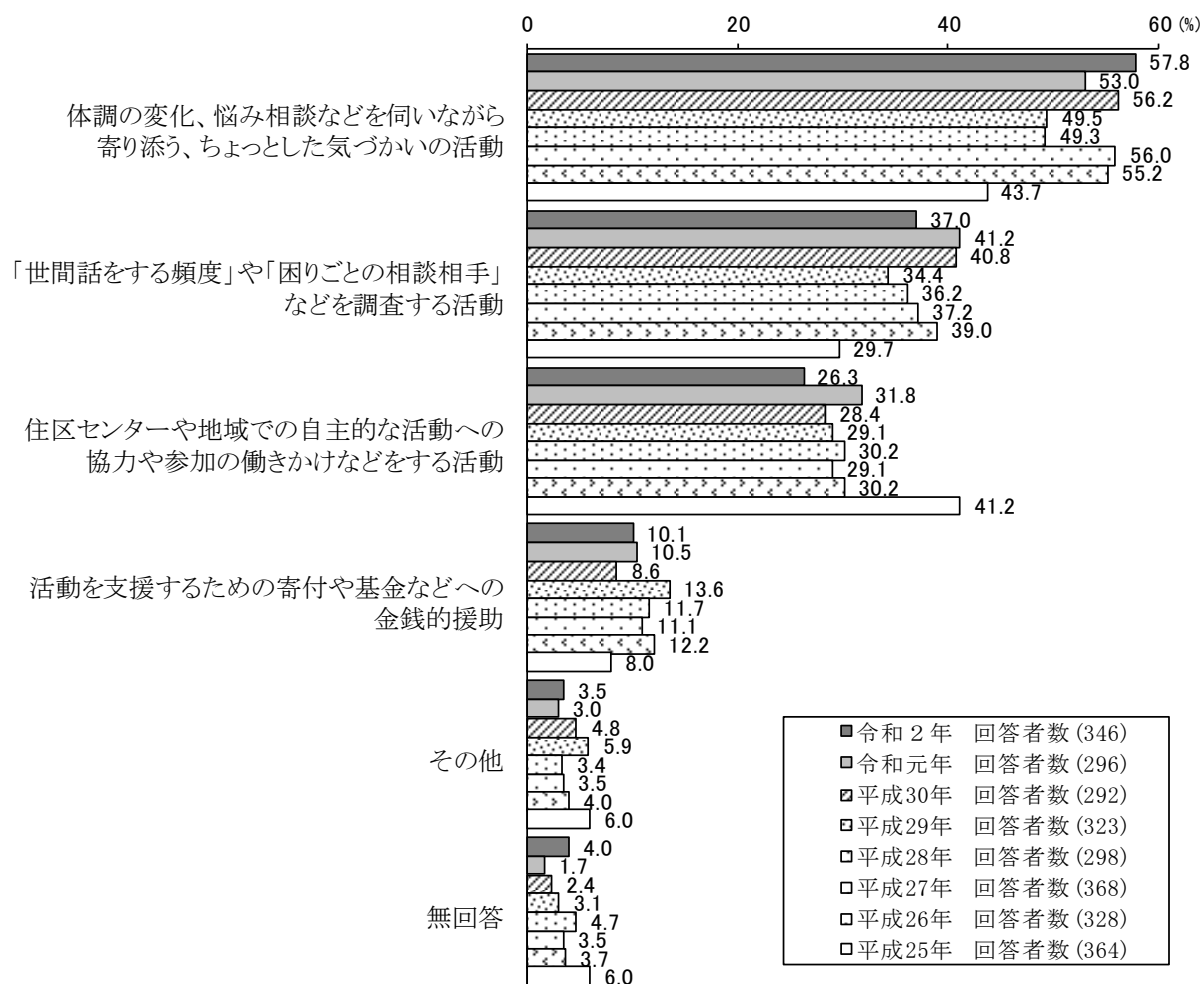


#### (4) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動” が6割弱、“調査する活動” が4割弱

問45で「1 積極的に協力～」または「2 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に  
問45-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図9-4-1 経年比較／協力意向がある活動内容



#### 平成25年度調査の選択肢について

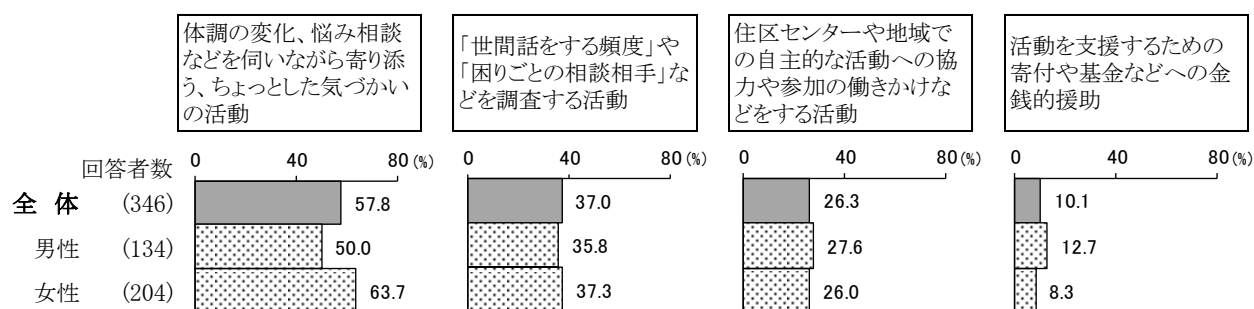
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年度調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年度調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年度調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年度調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聴くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が57.8%で最も高く、以下『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』（37.0%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（26.3%）の順で続いている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないものの、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は前回より4.8ポイント増加する一方で、『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』（4.2ポイント減）と「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（5.5ポイント減）の2項目は前回より比率を減少させている。

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は男性50.0%、女性63.7%で、男性より女性の方が13.7ポイント高く、性差がみられるのに対して、他の3項目では目立った違いはみられない。

図9-4-2 性別／協力意向がある活動内容

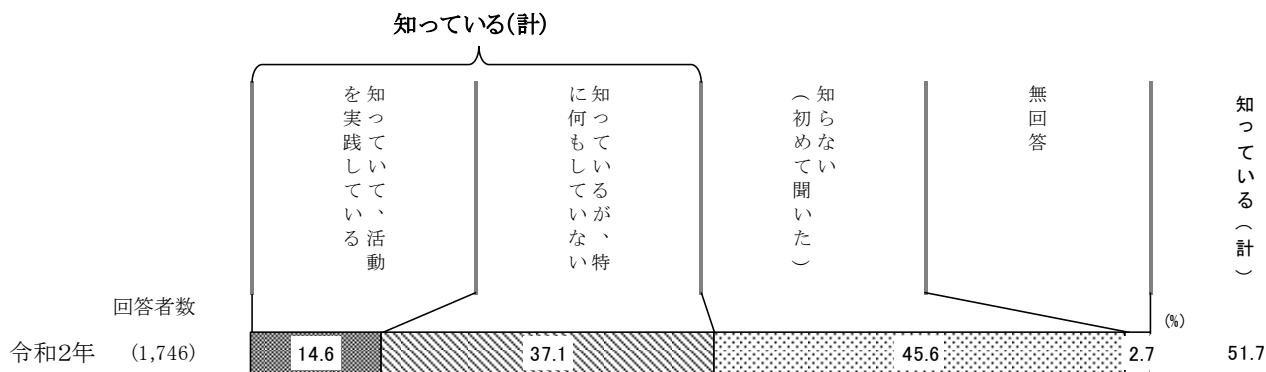


(5)「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

■【知っている】は5割強で、そのうち“活動を実践”は全体の1割台半ば

問46 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状況「フレイル」にならないために、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

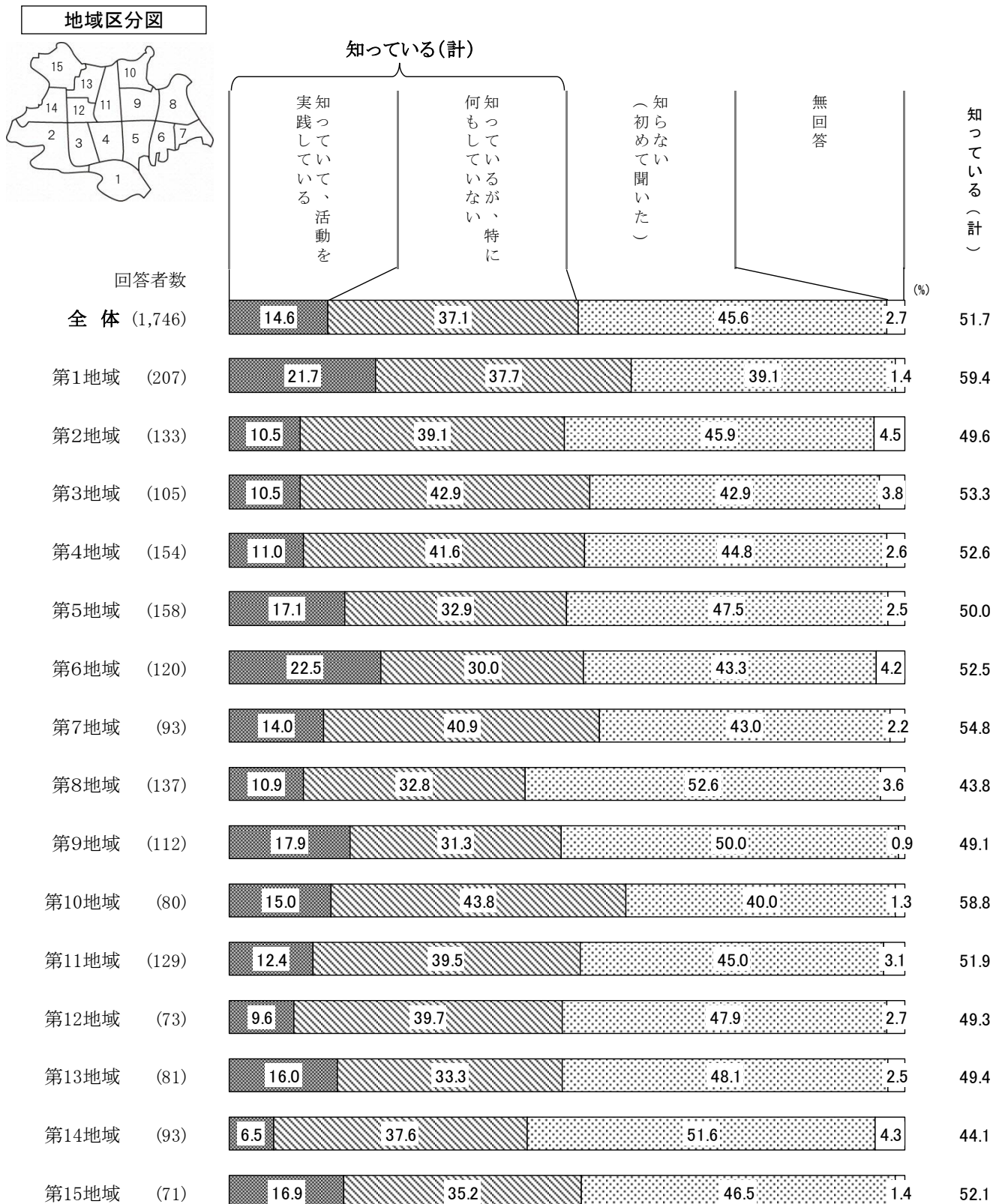
図9-5-1 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況



令和2年調査から新設された、「フレイル」の認知と予防活動の実践状況については、「知っていて、活動を実践している」が14.6%で、これに「知っているが、特に何もしていない」の37.1%を合わせた【知っている】は51.7%で5割強となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は45.6%となっている。

地域別でみると、【知っている】は第1地域が59.4%で最も高く、これに第10地域が僅差の58.8%で続き、この両地域で高くなっている。一方、第8地域と第14地域では【知っている】が4割台半ばとやや低く、「知らない」がともに5割強とやや高くなっている。

図9-5-2 地域別／「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

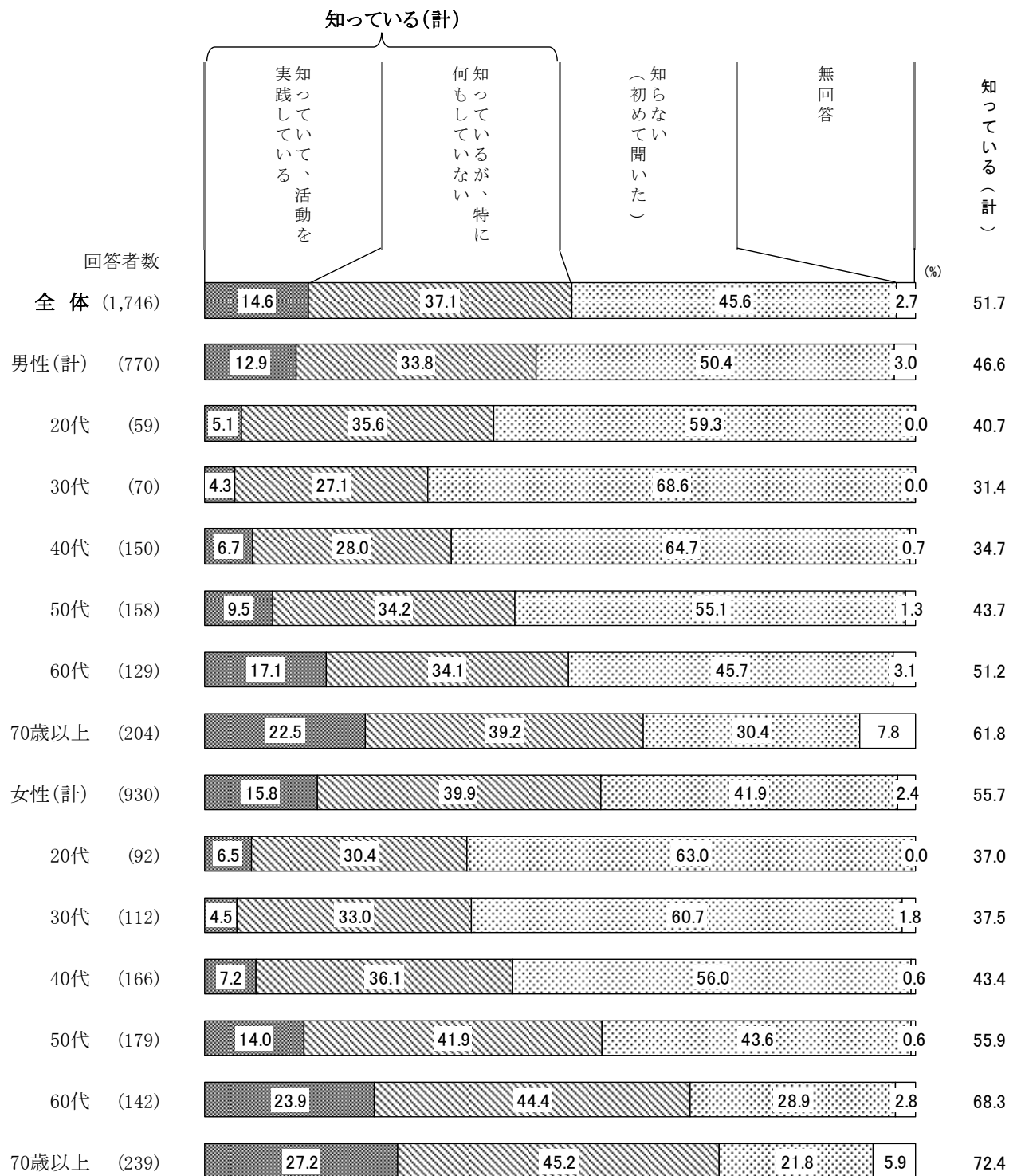


### 第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、【知っている】は男性46.6%、女性55.7%で女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で6割強、女性でも60代と70歳以上で7割前後と、それぞれ高くなっており、男女ともに概ね年代が高くなるにつれて認知率に加えて、活動実践率もそれぞれ高まる傾向がみられる。

図9-5-3 性別、性・年代別／「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

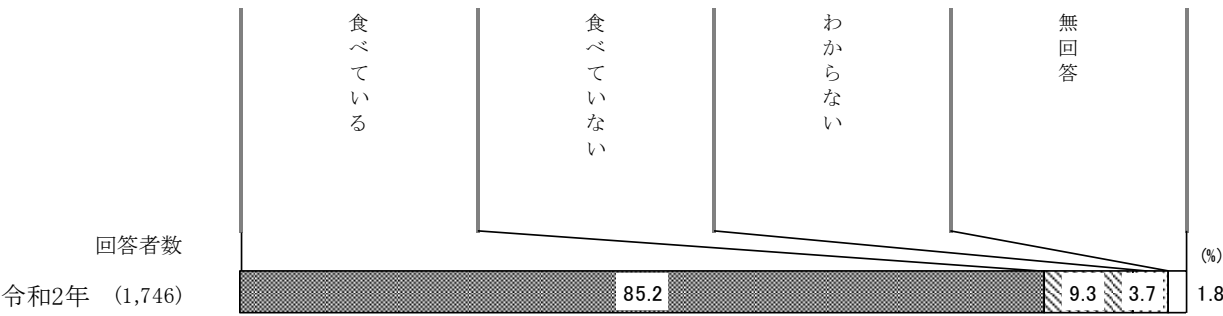


(6)「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

■【食べている】が8割台半ばに達している。

問47 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）1種類以上食べていますか（○は1つだけ）。

図9－6－1 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

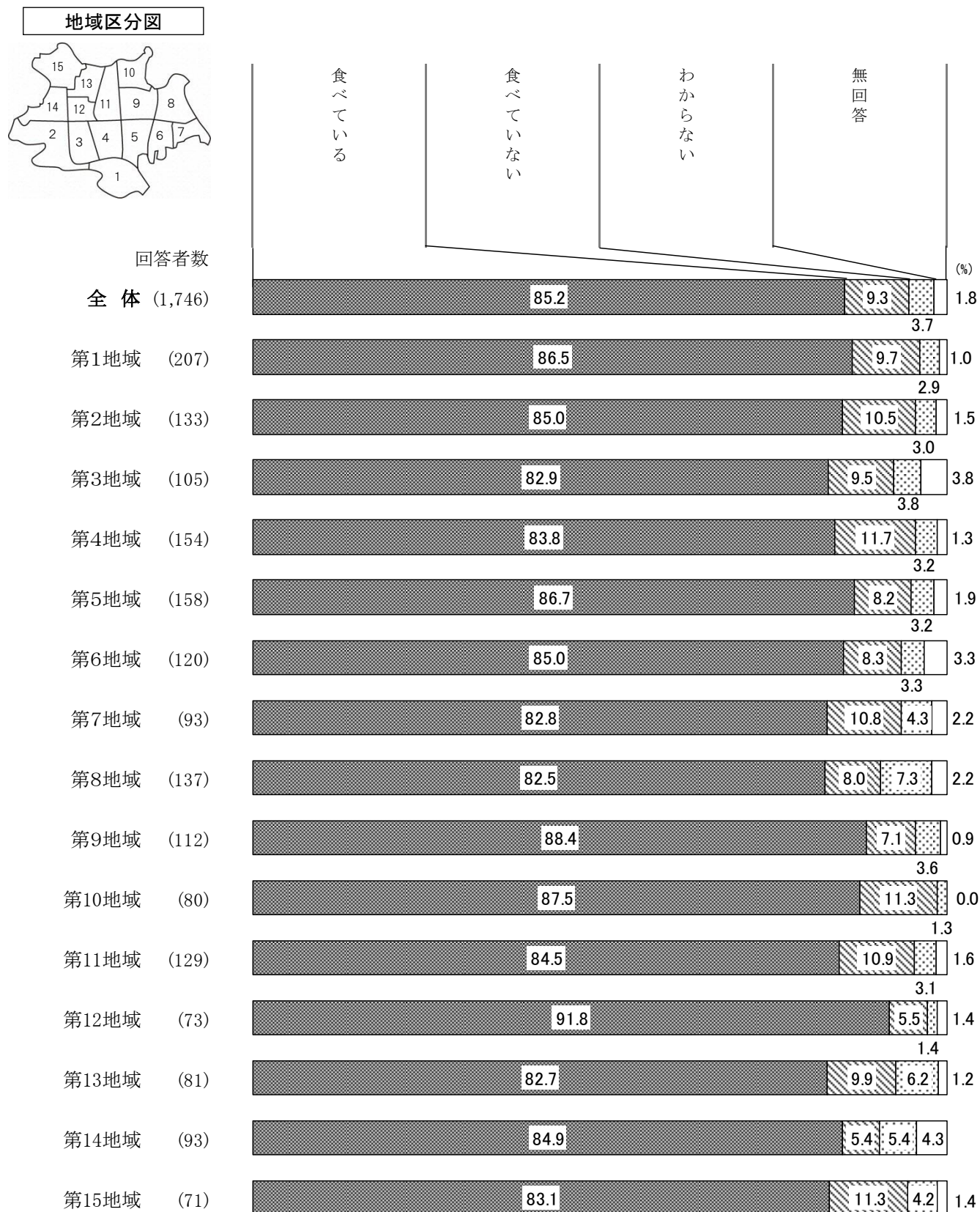


令和2年調査から新設された、「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況については、「食べている」が85.2%を占めて多く、「食べていない」が9.3%、「わからない」が3.7%となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、「食べている」は第12地域が91.8%と9割を超えて最も高く、これに第9地域と第10地域がそれぞれ9割弱で続き、これらの地域でやや高くなっているが、すべての地域で8割を超えており、地域別での目立った大きな違いはみられない。

図9-6-2 地域別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

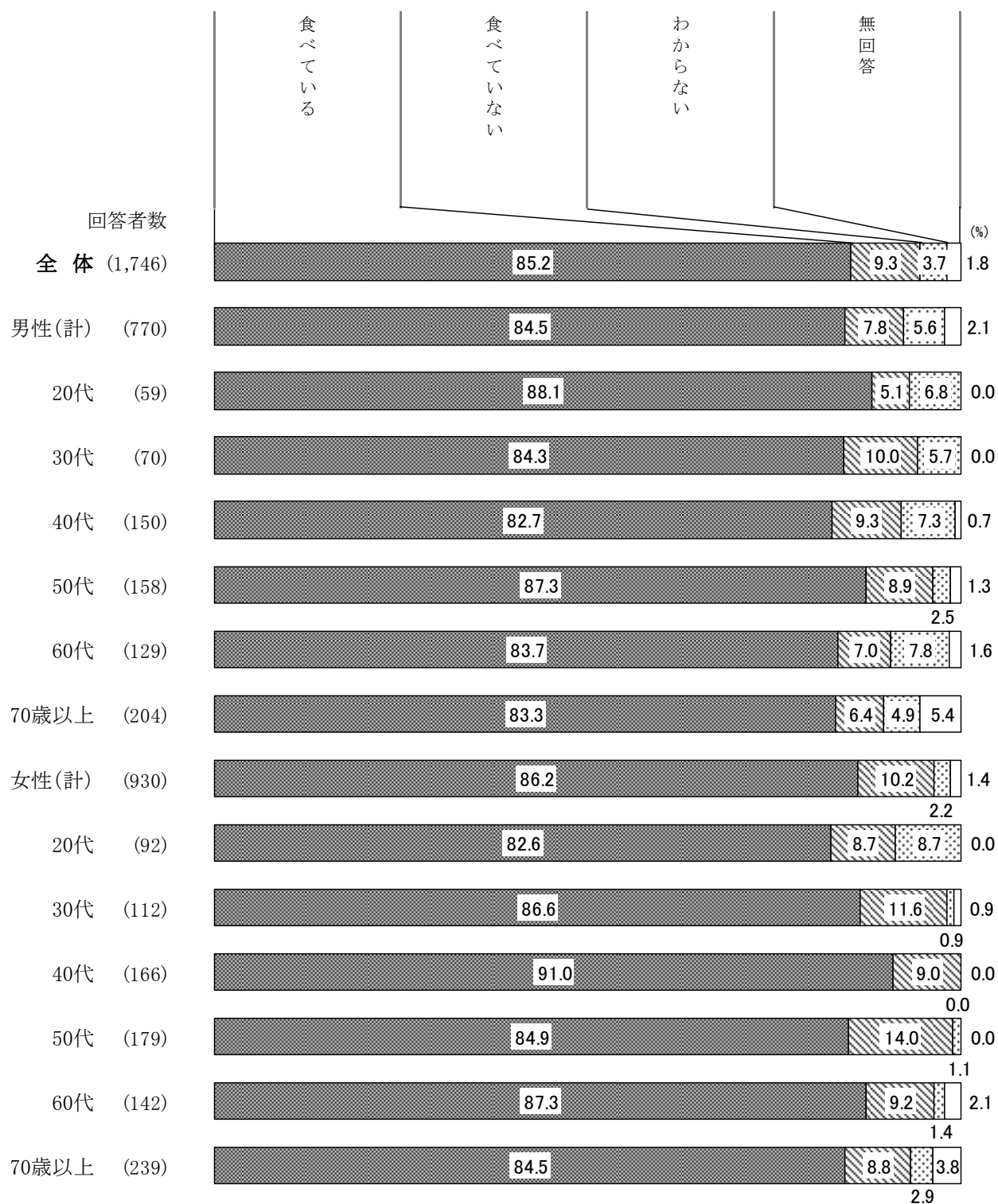




性別でみると、「食べている」は男性84.5%、女性86.2%でほとんど違いはみられない。

性・年代別でみると、「食べている」は、男性では20代と50代で、女性では40代と60代で、それぞれ9割前後とやや高くなっているが、すべての性・年代層で8割を超えており、性・年代別の目立った大きな違いはみられない。

図9-6-3 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況





## 10 協働・協創

- 
- (1) 「協創」の認知
  - (2) 協働・協創の実践
  - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
-



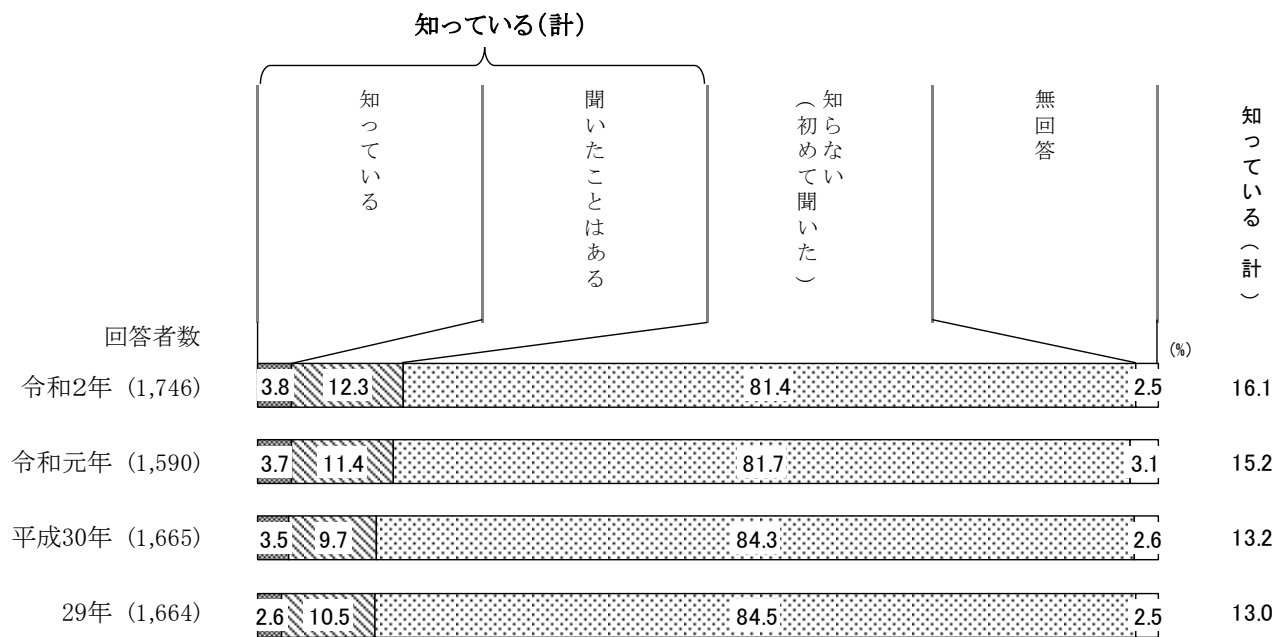
## 10 協働・協創

### (1) 「協創」の認知

■【知っている】は、前年より微増したが、依然1割台半ばにとどまる

問48 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」を知っていますか（○は1つだけ）。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知



「協創」について「知っている」が3.8%で、これに「聞いたことはある」（12.3%）を合わせた【知っている】は16.1%となっている。一方、「知らない」は81.4%を占めている。

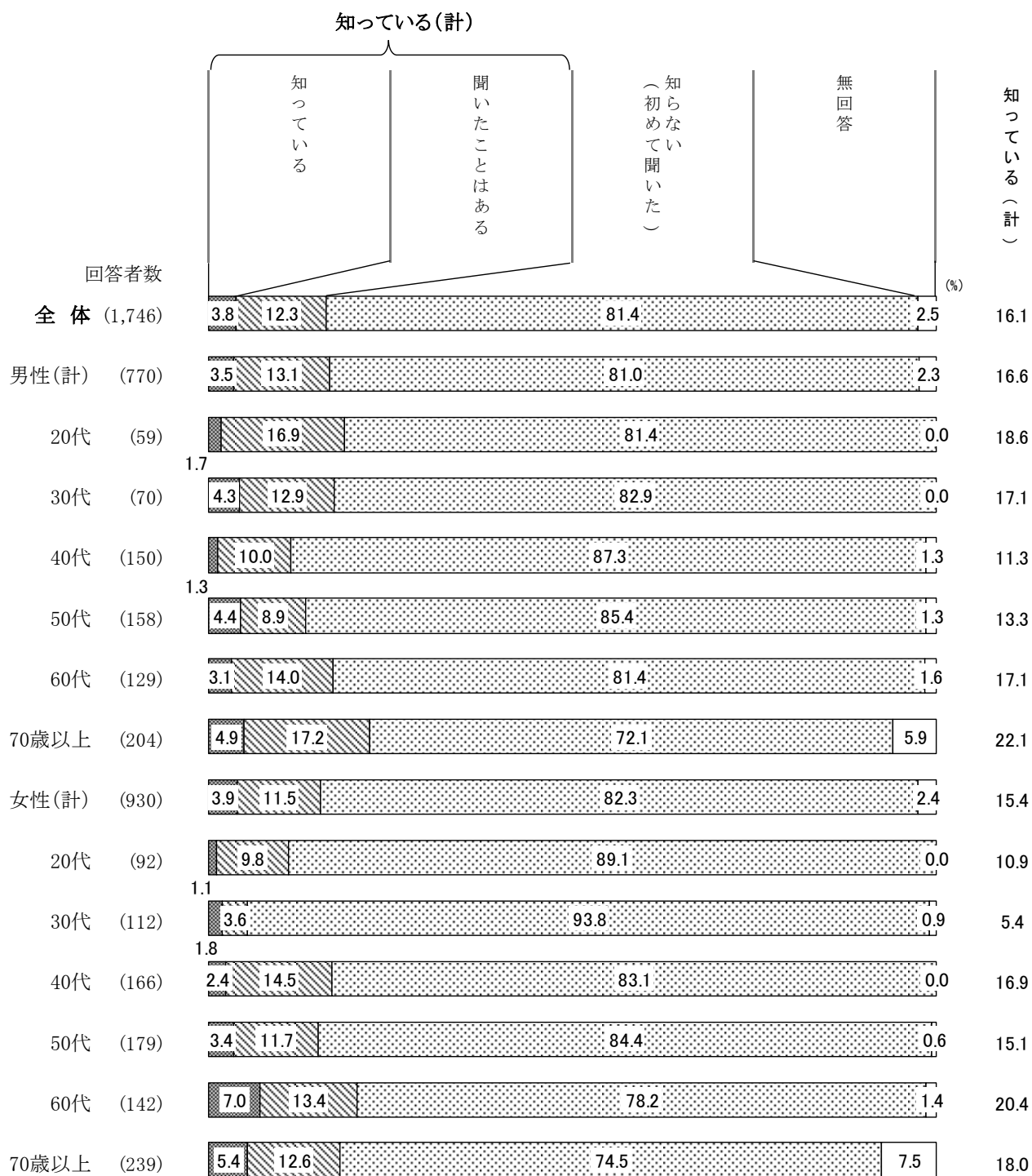
経年でみると、前回までと似通った回答分布ながら、今回の令和2年調査の【知っている】は16.1%で、前回の15.2%から0.9ポイントと僅かながら増加しており、平成29年の13.0%から3年続けて緩やかな漸増傾向にある。

### 第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

性別でみると、【知っている】は男性16.6%、女性15.4%で男女差はみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で2割強とやや高く、女性では60代で2割を超えてやや高いが、30代では1割未満と低くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



## (2) 協働・協創の実践

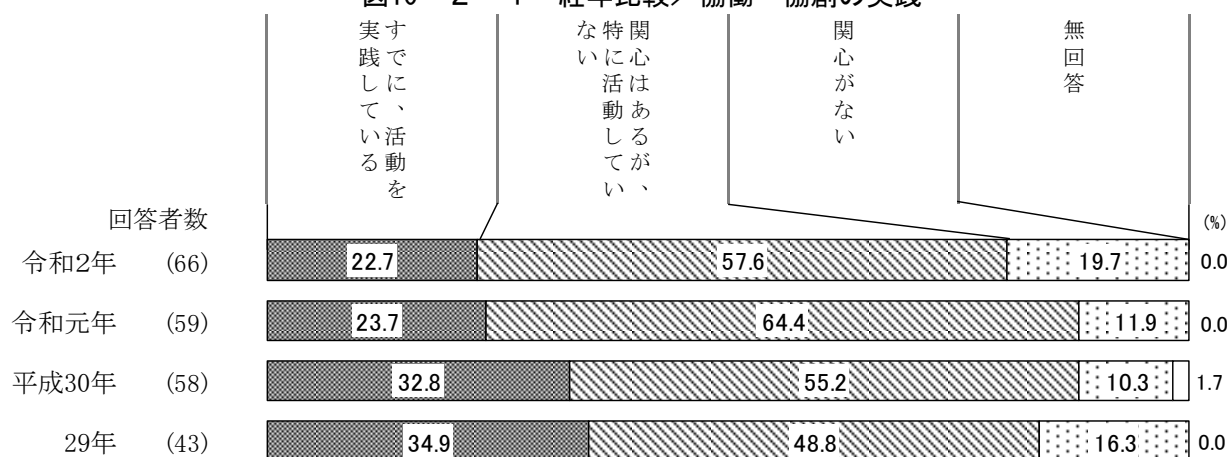
■「関心はあるが、特に活動していない」が6割弱で多いも、「関心がない」が約2割に増加

問48で「1 知っている」とお答えの方に

問48－1 あなたは、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）

（○は1つだけ）。

図10－2－1 経年比較／協働・協創の実践

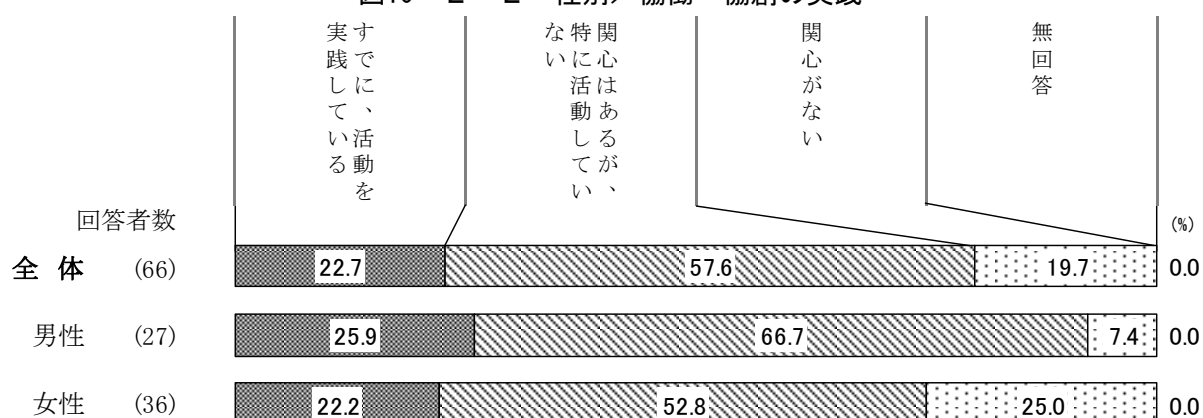


「協創」を「知っている」という人について、その実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が22.7%、「関心はあるが、特に活動していない」が57.6%となっている。一方、「関心がない」は19.7%となっている。

経年でみると、前回に比べて、「すでに、活動を実践している」にはほとんど変動はないが、2年続けて増加していた「関心はあるが特に活動していない」は前回より6.8ポイント減少し、「関心がない」が7.8ポイント増加している。

性別でみると、「すでに、活動を実践している」は女性（22.2%）より男性（25.9%）が僅かに高めな一方で、「関心がない」は男性（7.4%）より女性（25.0%）で高い。

図10－2－2 性別／協働・協創の実践



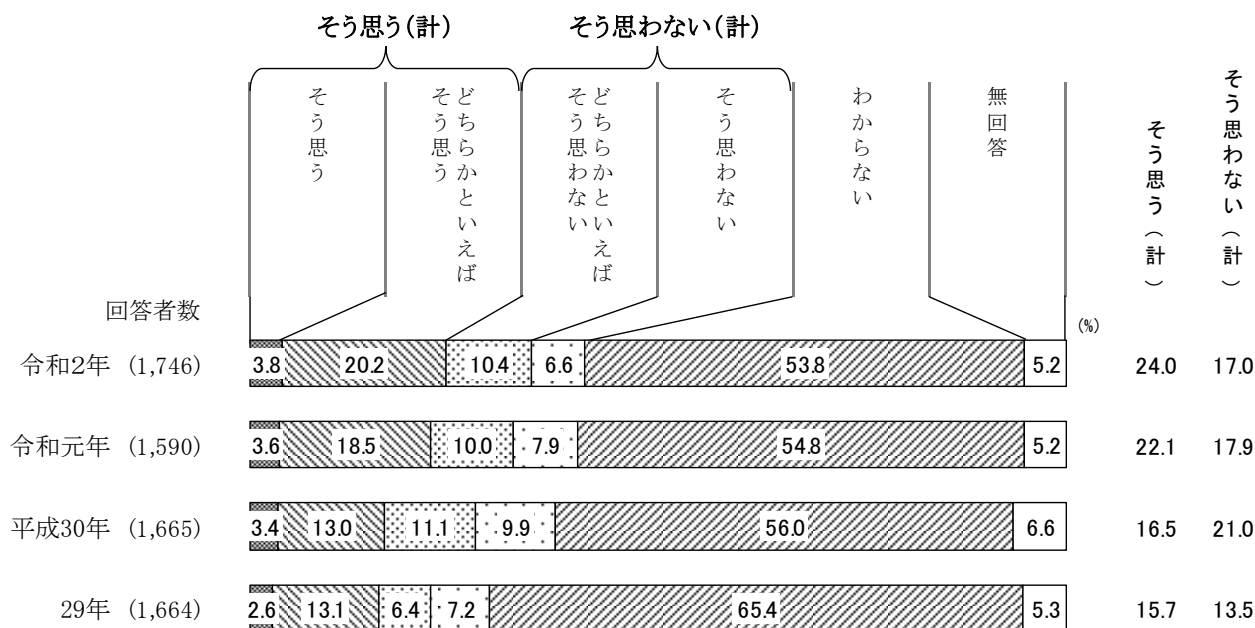
### (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

■【そう思う】が2割台半ばで、【そう思わない】を上回って多くなっている

問49 あなたは、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）

（○は1つだけ）。

図10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わった上に、「子どもの貧困対策」が追加挿入されたが、令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

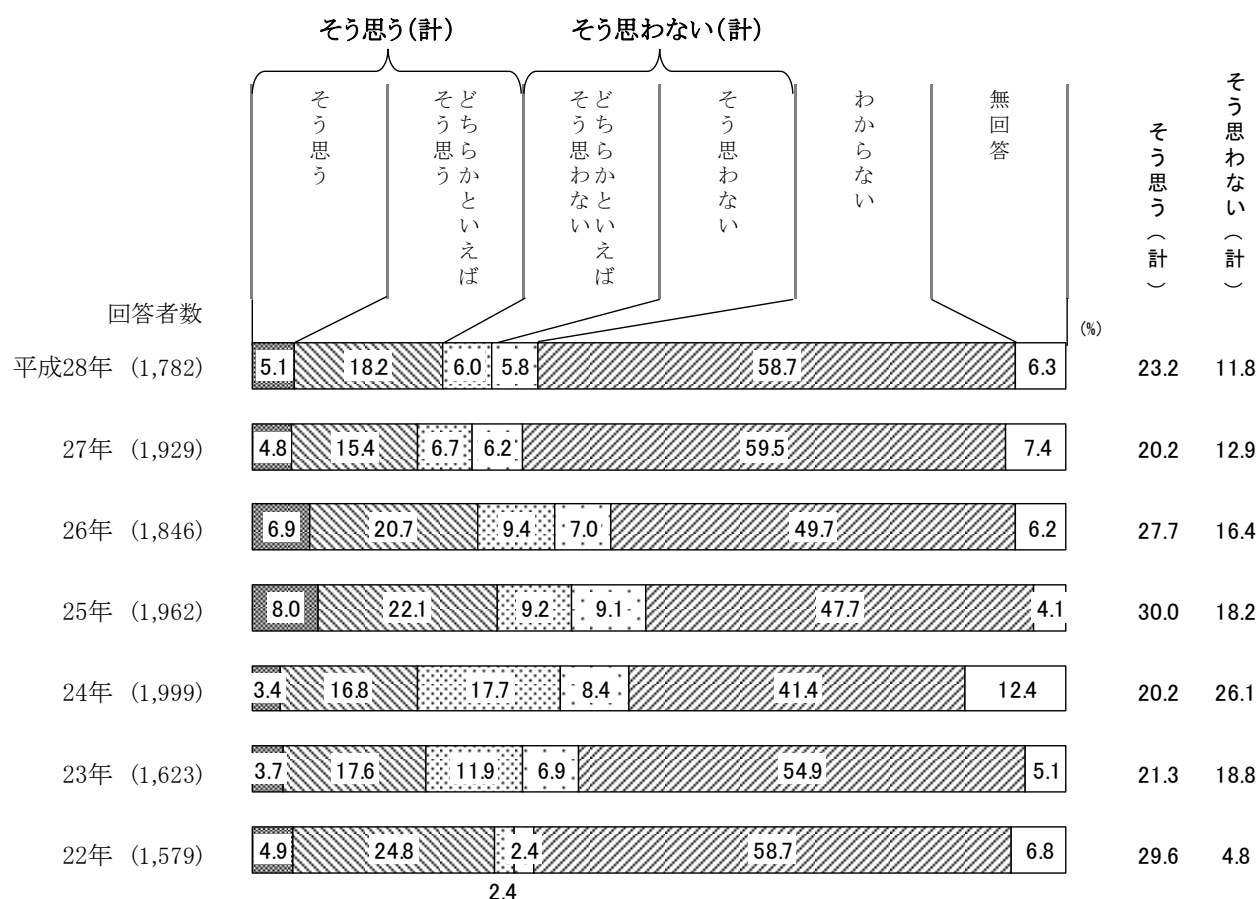
協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が3.8%で、これに「どちらかといえばそう思う」(20.2%)を合わせた【そう思う】は24.0%で2割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.4%)と「そう思わない」(6.6%)を合わせた【そう思わない】は17.0%で2割弱となっており、〈協働・協創〉評価の測定を始めて4回目の今回初めて【そう思う】が2割台半ばに達して、2割弱の【そう思わない】を7.0ポイント上回る結果となっている。一方、「わからない」は2年続けて漸減傾向にあるものの、依然として53.8%と過半数を占めて多くなっている。

今回の調査は、前回の令和元年とも設問文が部分的に異なるため、経年比較はあくまでも参考とすべきながら、【そう思う】という評価層が2割台半ばに達して【そう思わない】という非評価層を7ポイント上回り、3年続けて漸増傾向にあることは注目に値すると思われる。



参考／区役所・区民・団体との協力・連携（協働）した事業推進の評価

問 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。



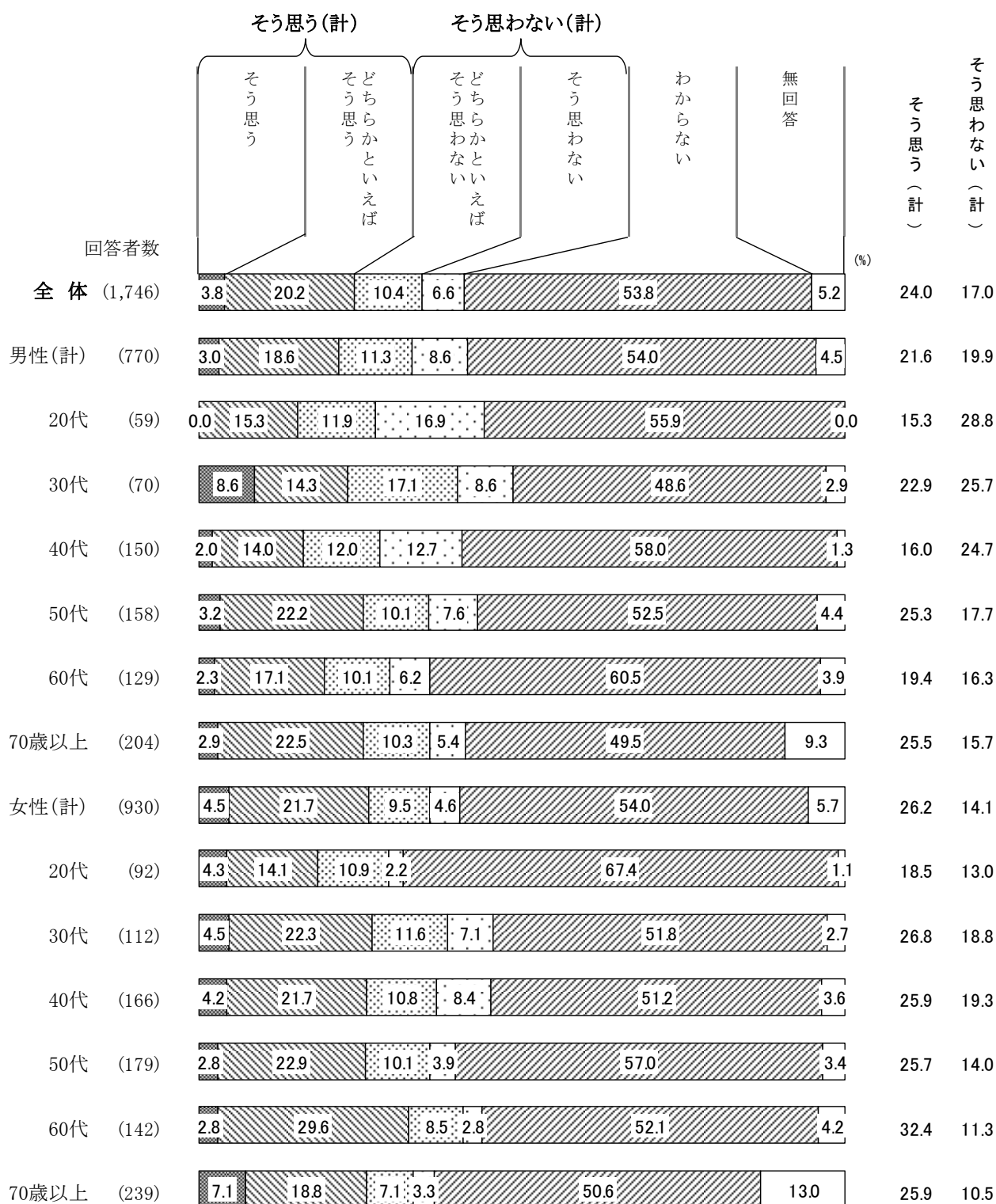
※ 平成28年度までは、「協創」の部分にふれておらず、設問文も違うため、結果を単純に比較することはできない。

### 第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】は男性21.6%、女性26.2%で、女性の方が4.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「わからない」が多数を占める傾向は男女の各年代ともに共通しているが、【そう思う】の方が【そう思わない】を10ポイント程度以上上回って多いのは、男性では70歳以上に限られるのに対し、女性では、20ポイント以上【そう思う】が上回る60代を筆頭に、50代以上の3年代層となっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



## 11 区の取り組み

- 
- (1) 満足度と重要度
  - (2) 区政への区民意見の反映度
  - (3) 区に対する気持ち
  - (4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）
  - (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
  - (6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-



## 11 区の取り組み

### (1) 満足度と重要度

■ 満足度は「情報提供」が、重要度は同率の「防災対策」と「治安対策」が、それぞれ最上位

問50 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、ア～ニの項目ごとに、最も近いものを選んでください

（○はいずれも、それぞれ1つずつ）。

選択肢（区の取り組み）	内容
ア 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
イ 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ウ 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
エ 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
オ 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
カ 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
キ 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ク 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
ケ 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
コ 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
サ 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
シ 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ス 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
セ 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ソ 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
タ 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
チ 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
ツ 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
テ 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ト 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など
ナ 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
ニ 区政全体として	

図11-1-1-① 経年比較／現状評価（満足度）

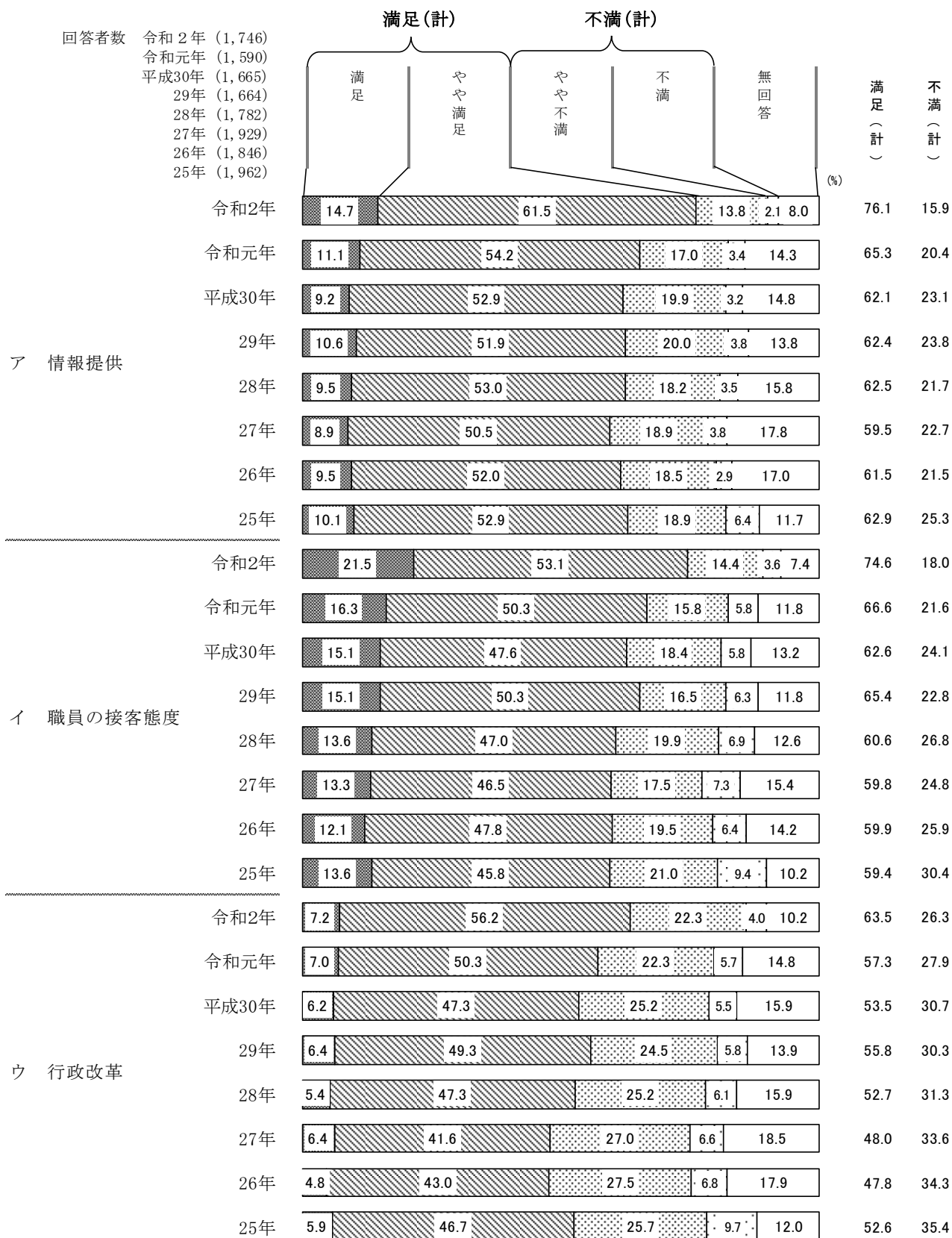


図11-1-1-② 経年比較／現状評価（満足度）

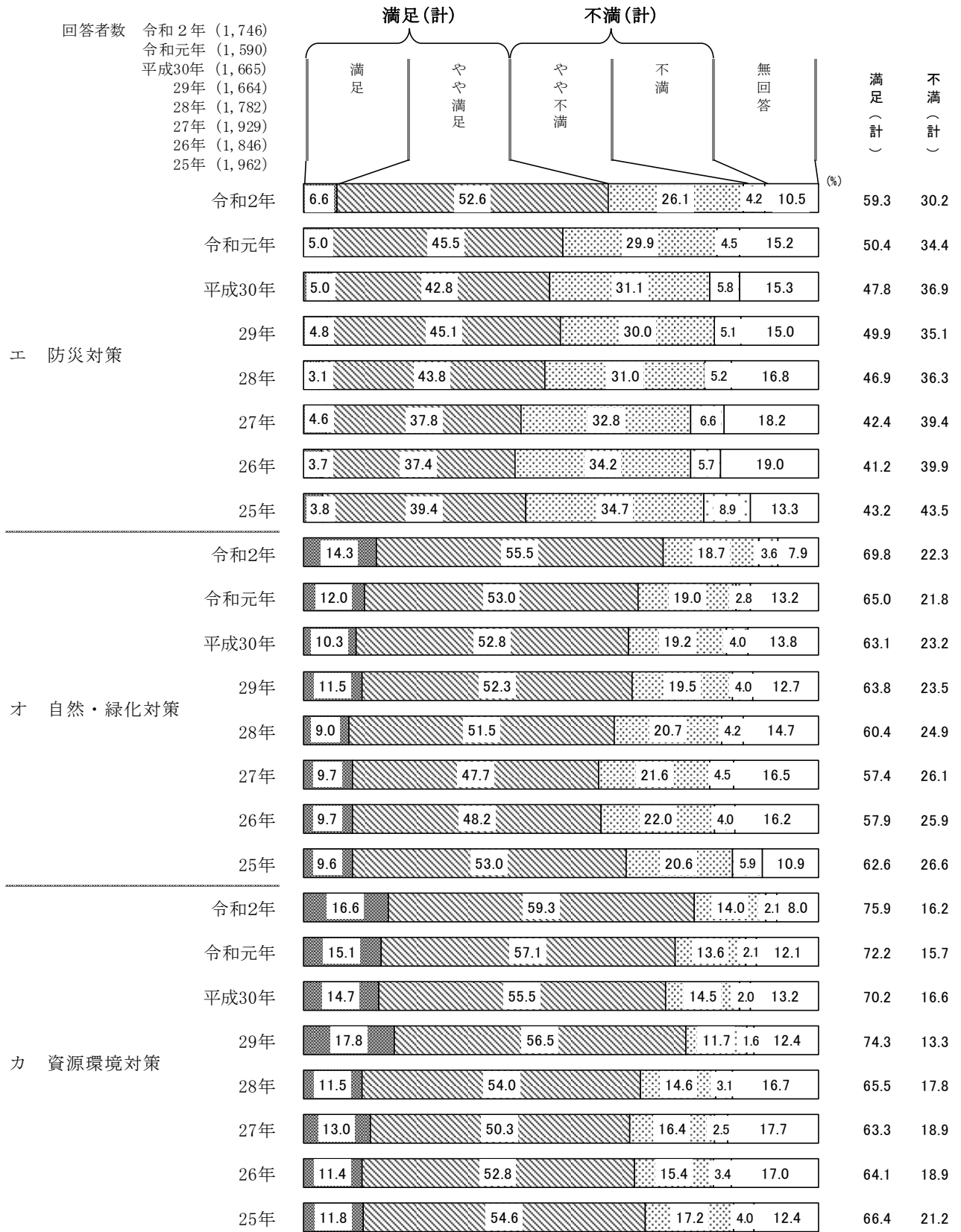


図11-1-1-③ 経年比較／現状評価（満足度）

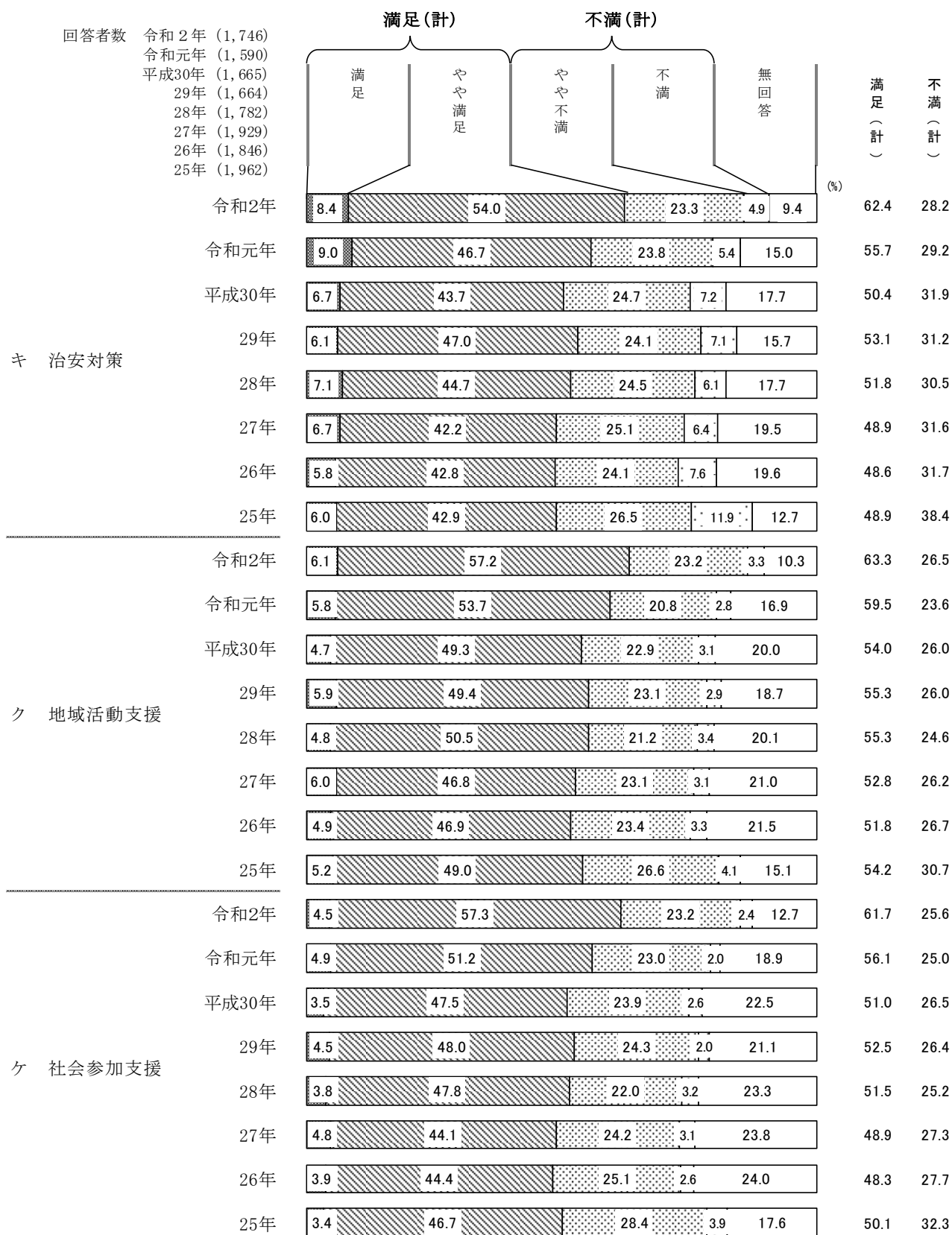




図11-1-1-④ 経年比較／現状評価（満足度）

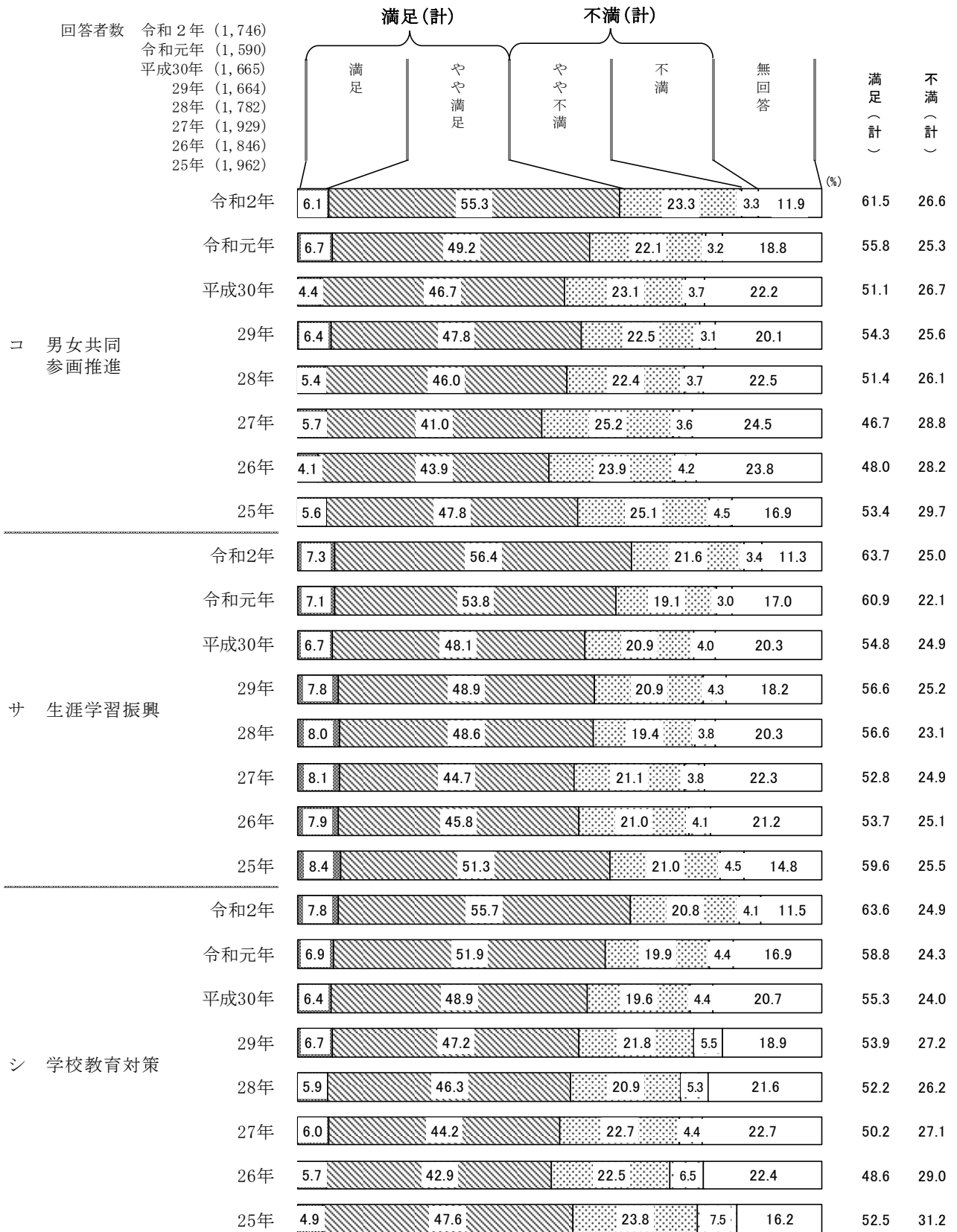


図11-1-1-⑤ 経年比較／現状評価（満足度）

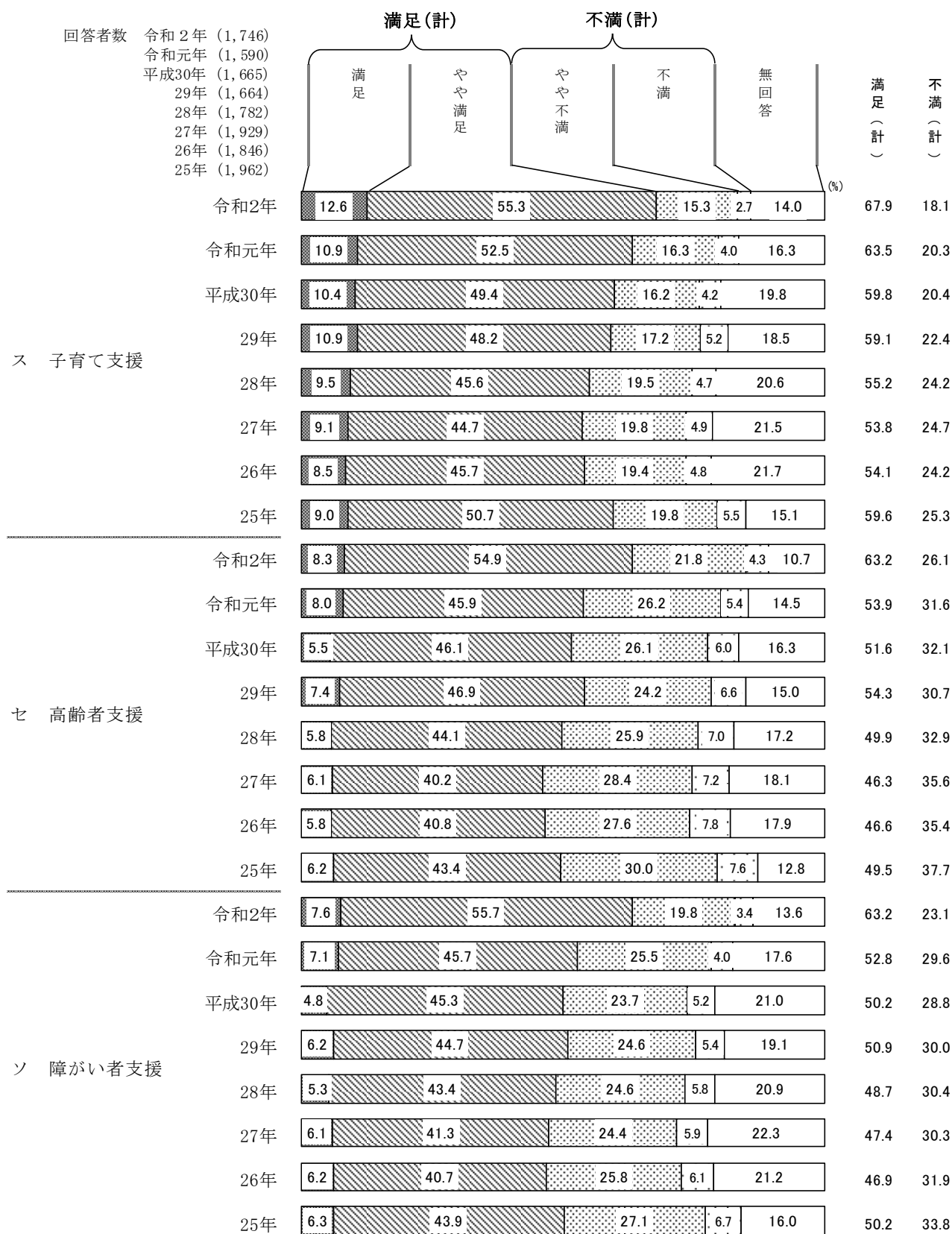


図11-1-1-⑥ 経年比較／現状評価（満足度）

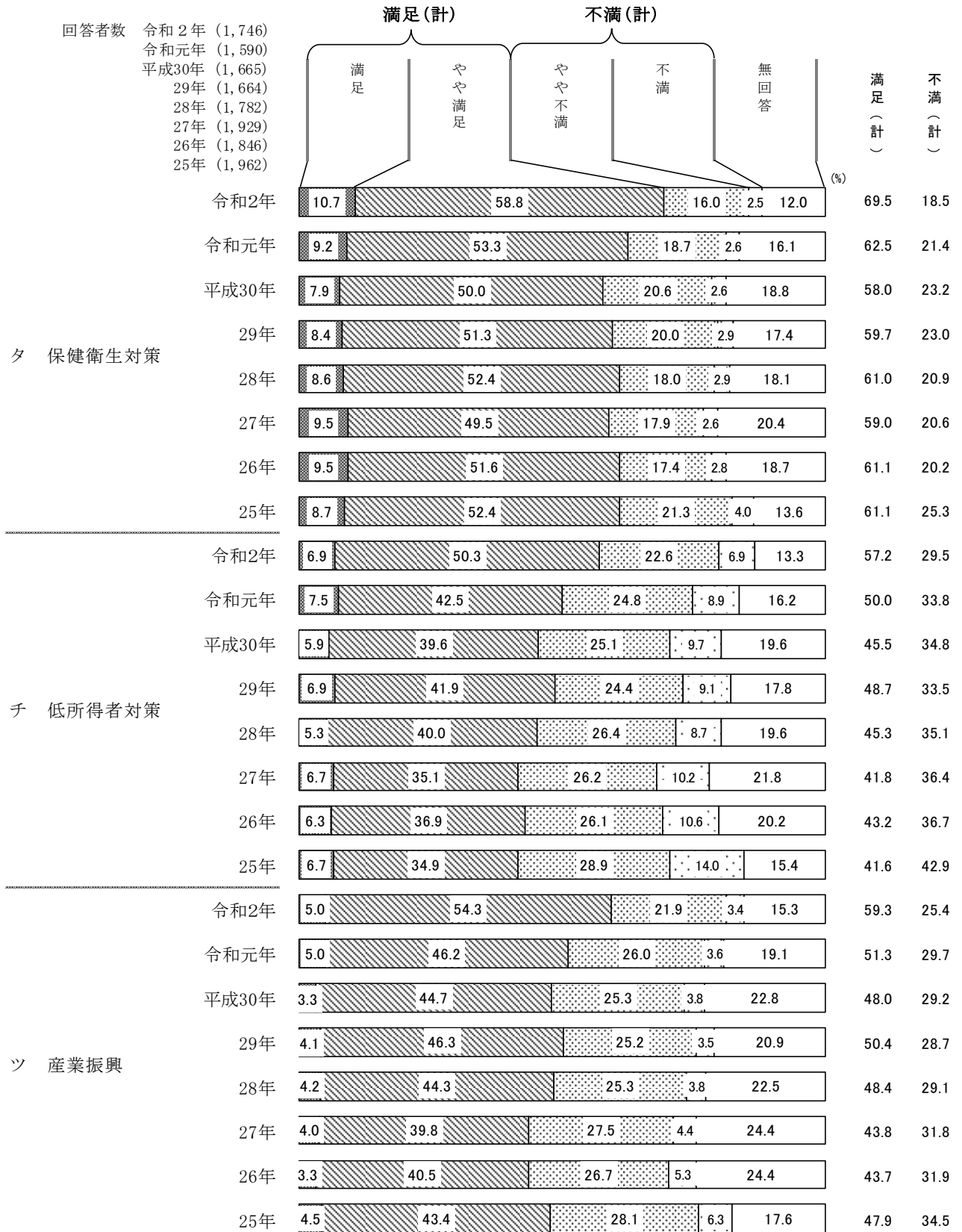
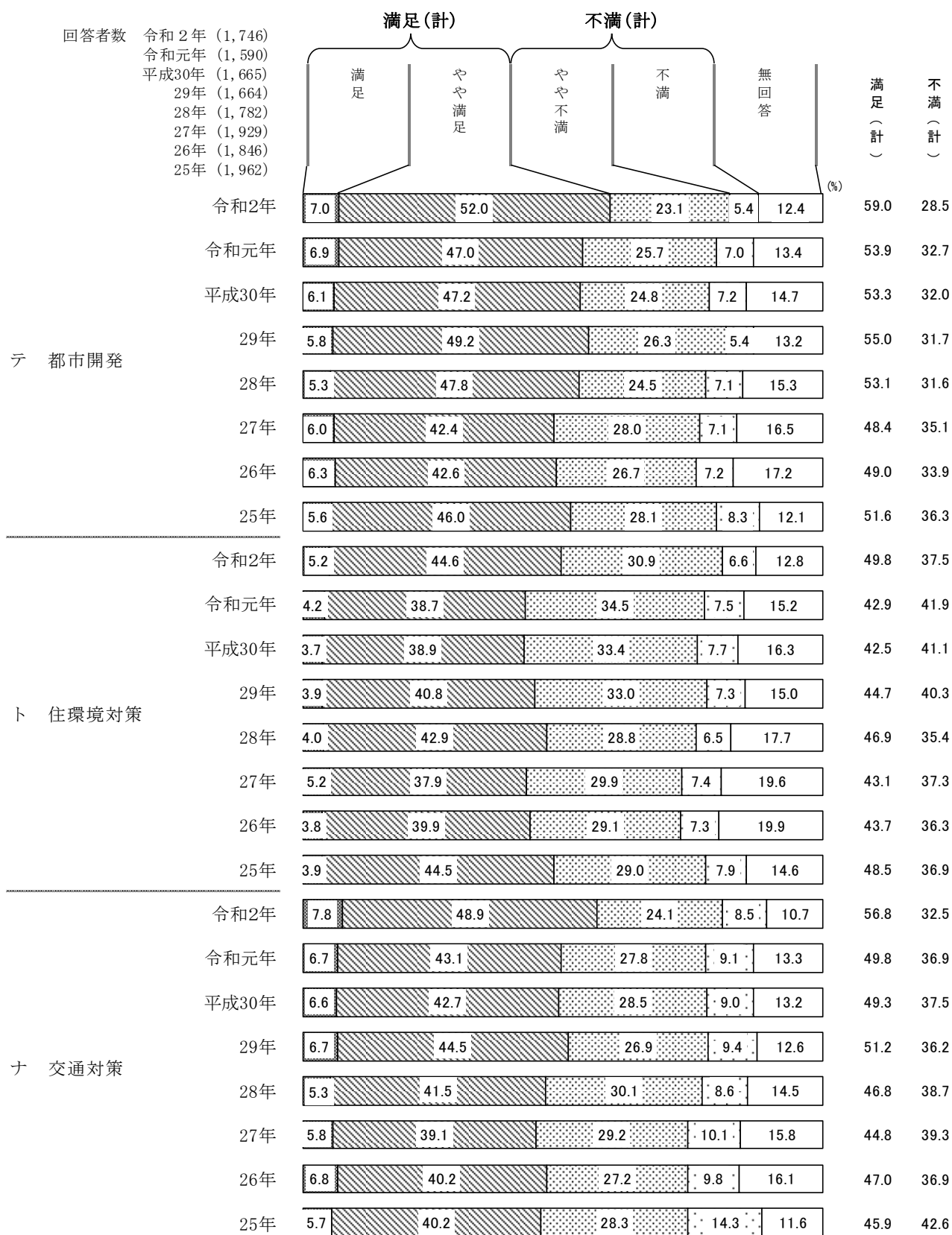
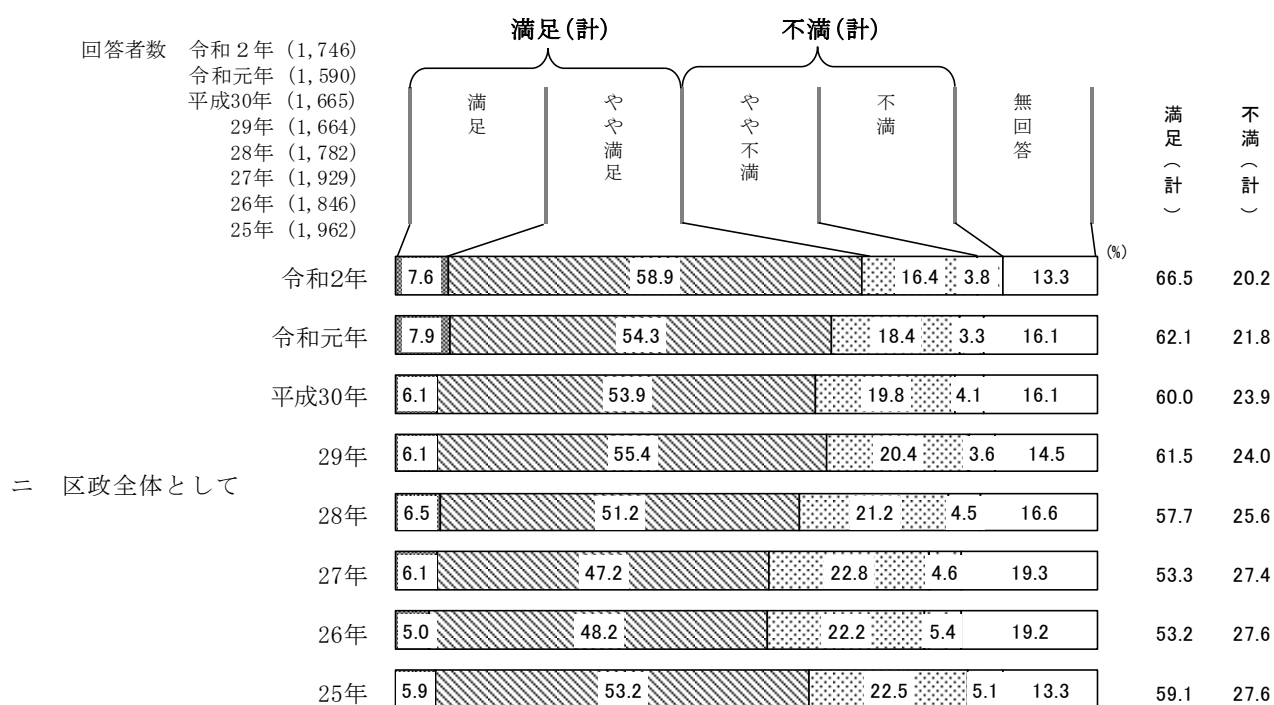


図11-1-1-⑦ 経年比較／現状評価（満足度）



※「ト 住環境対策」は、平成28年度までは「住宅対策」。

図11-1-1-⑧ 経年比較／現状評価（満足度）



区の取り組みについて、各分野に対する現状評価（満足度）を聞いた。【満足】（「満足」＋「やや満足」）の高い順でみると、「情報提供」が76.1%で最も高く、以下「資源環境対策」（75.9%）、「職員の接客態度」（74.6%）、「自然・緑化対策」（69.8%）、「保健衛生対策」（69.5%）の順で続いている。

一方、【不満】（「やや不満」＋「不満」）の高いものとしては、「住環境対策」（37.5%）、「交通対策」（32.5%）、「防災対策」（30.2%）、「低所得者対策」（29.5%）などがあげられる。

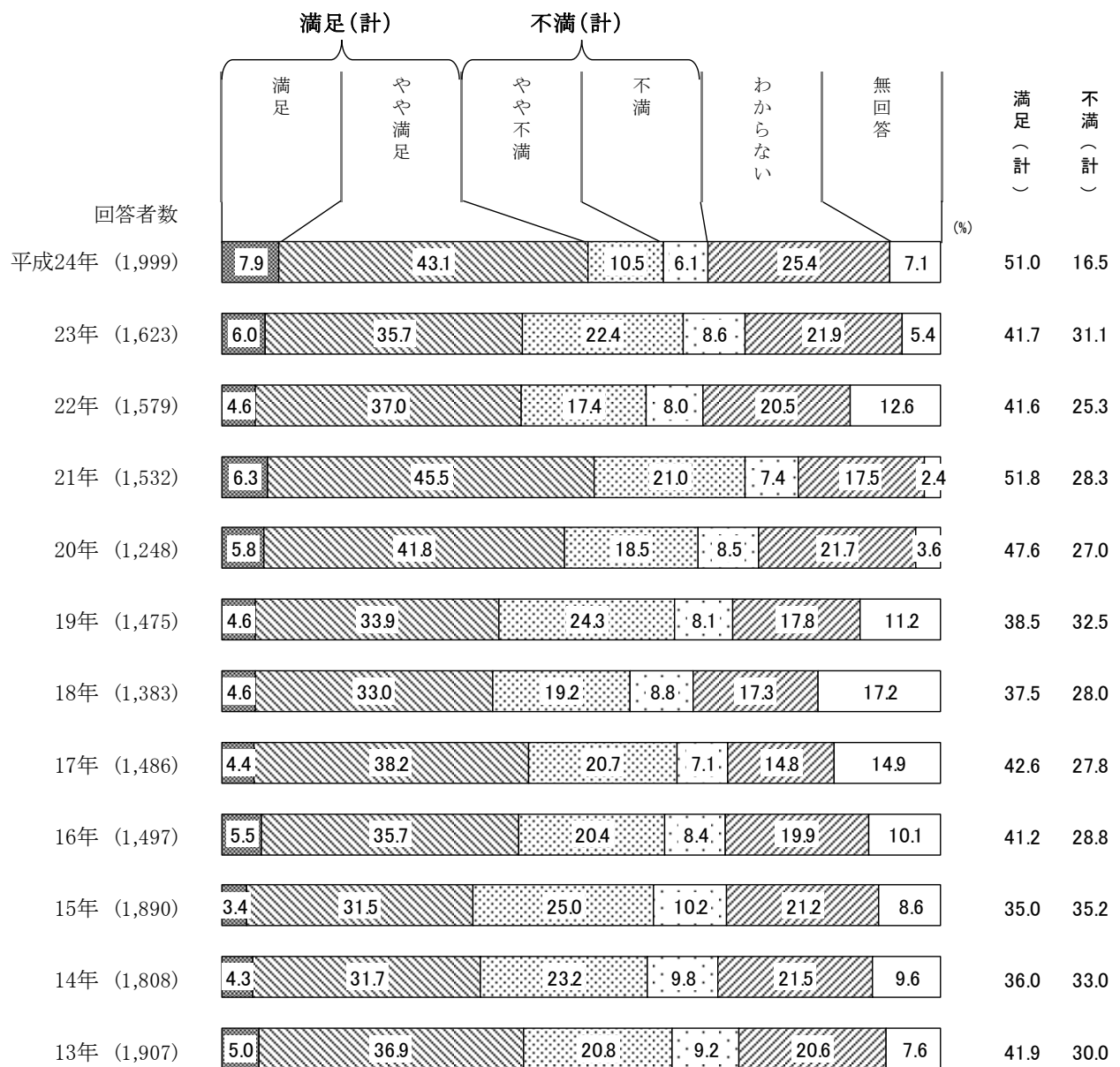
経年でみて、前回令和元年との比較では、【満足】で3.0ポイント以上の増加をしている項目が21項目に及び、中でも「情報提供」（＋10.8ポイント）、「障がい者支援」（＋10.4ポイント）、「高齢者支援」（＋9.3ポイント）、「防災対策」（＋8.9ポイント）などで増加が大きくなっている。また、【不満足】で3.0ポイント以上の減少をしている項目が10項目あり、中でも「障がい者支援」（－6.5ポイント）、「高齢者支援」（－5.5ポイント）などで減少が大きめとなっている。一方、【満足】での3.0ポイント以上の減少や【不満足】で3.0ポイント以上の増加がみられる項目はひとつもみられない。

なお、平成25年と今回の結果を比較して【満足】が10.0ポイント以上増加している項目として「防災対策」（平成25年43.2%→今回59.3%）「低所得者対策」（平成25年41.6%→今回57.2%）、「職員の接客態度」（平成25年59.4%→今回74.6%）など全12項目があげられる。

一方、【不満】で平成25年と今回の結果を比較すると、「住環境対策」（平成25年36.9%→今回37.5%）以外のすべての項目で減少しており、とくに「低所得者対策」（平成25年42.9%→今回29.5%）、「防災対策」（平成25年43.5%→今回30.2%）、「職員の接客態度」（平成25年30.4%→今回18.0%）などで減少幅が大きくなっている。

参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか（○は1つだけ）。



※ 平成24年度までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない。

図11-1-2-① 経年比較／重要度

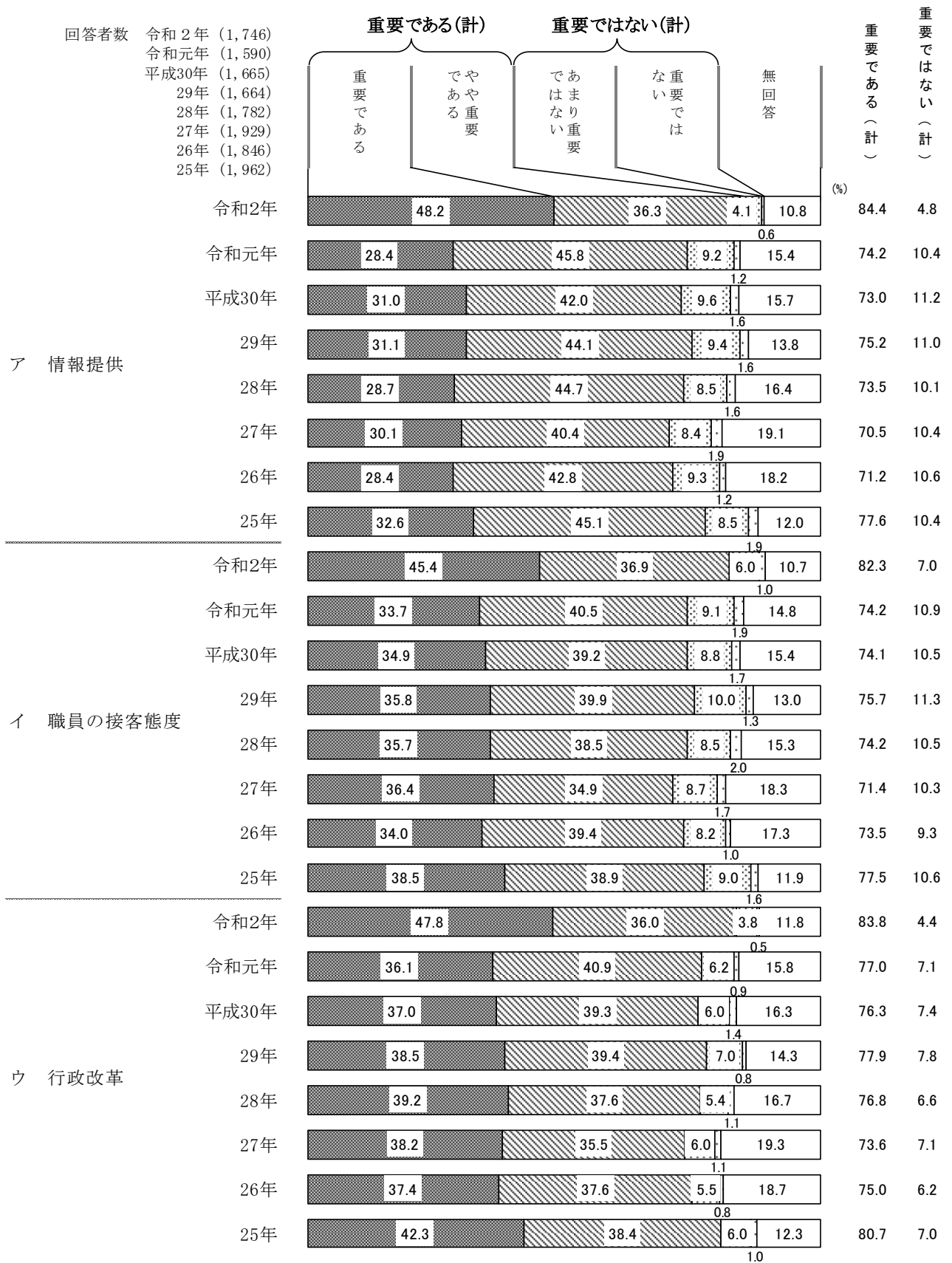


図11-1-2-② 経年比較／重要度

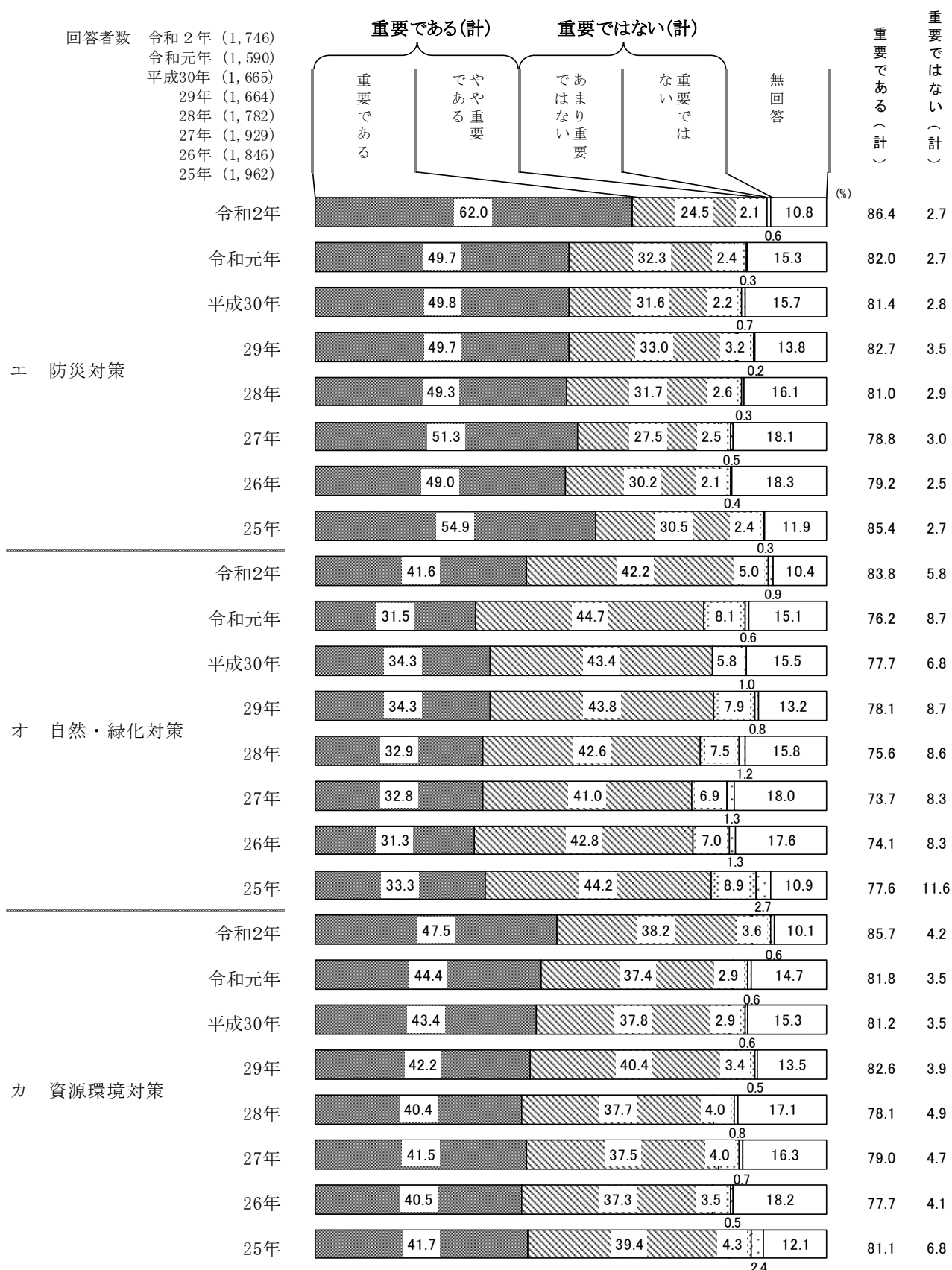




図11-1-2-③ 経年比較／重要度

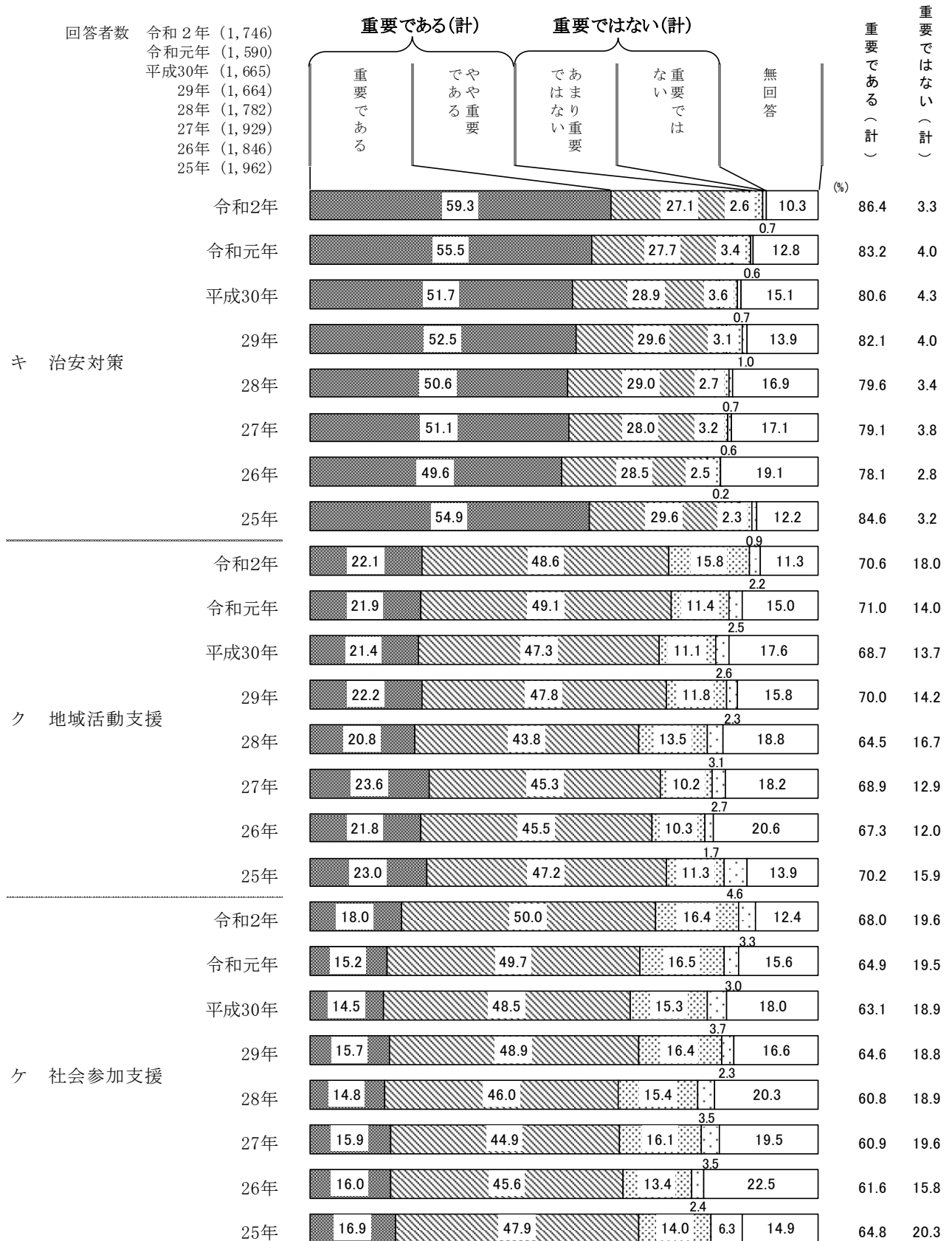


図11-1-2-④ 経年比較／重要度

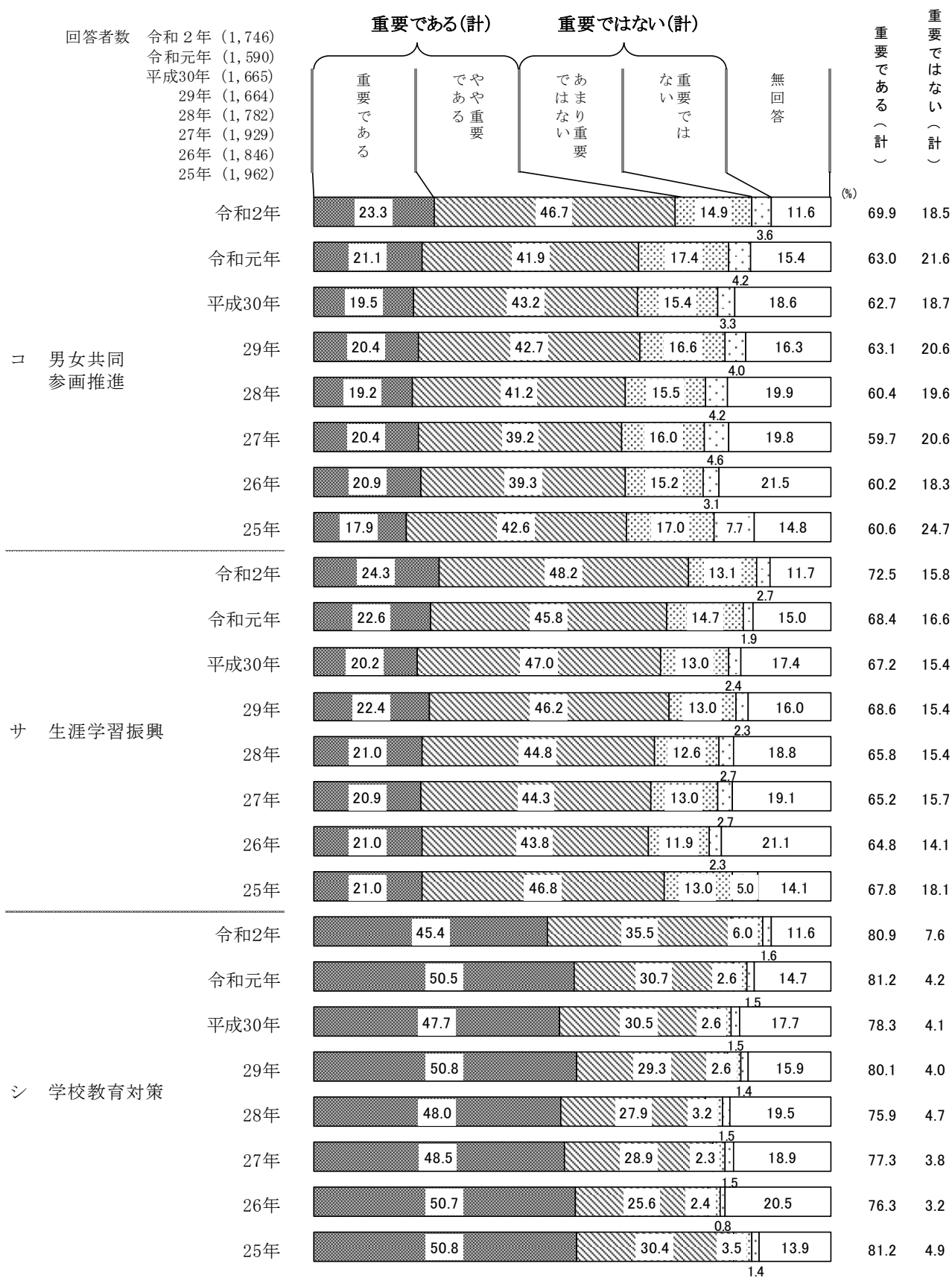


図11-1-2-⑤ 経年比較／重要度

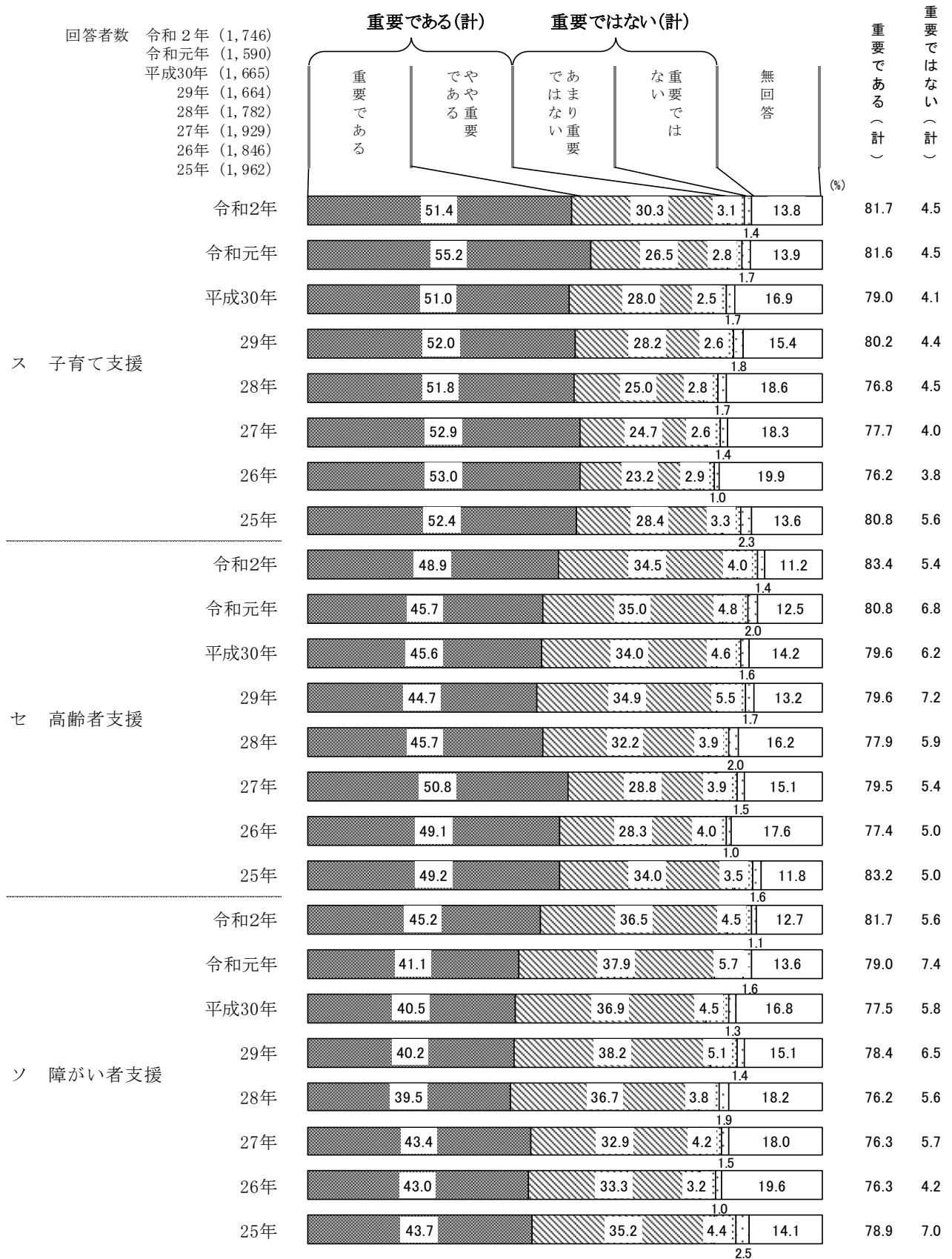


図11-1-2-⑥ 経年比較／重要度

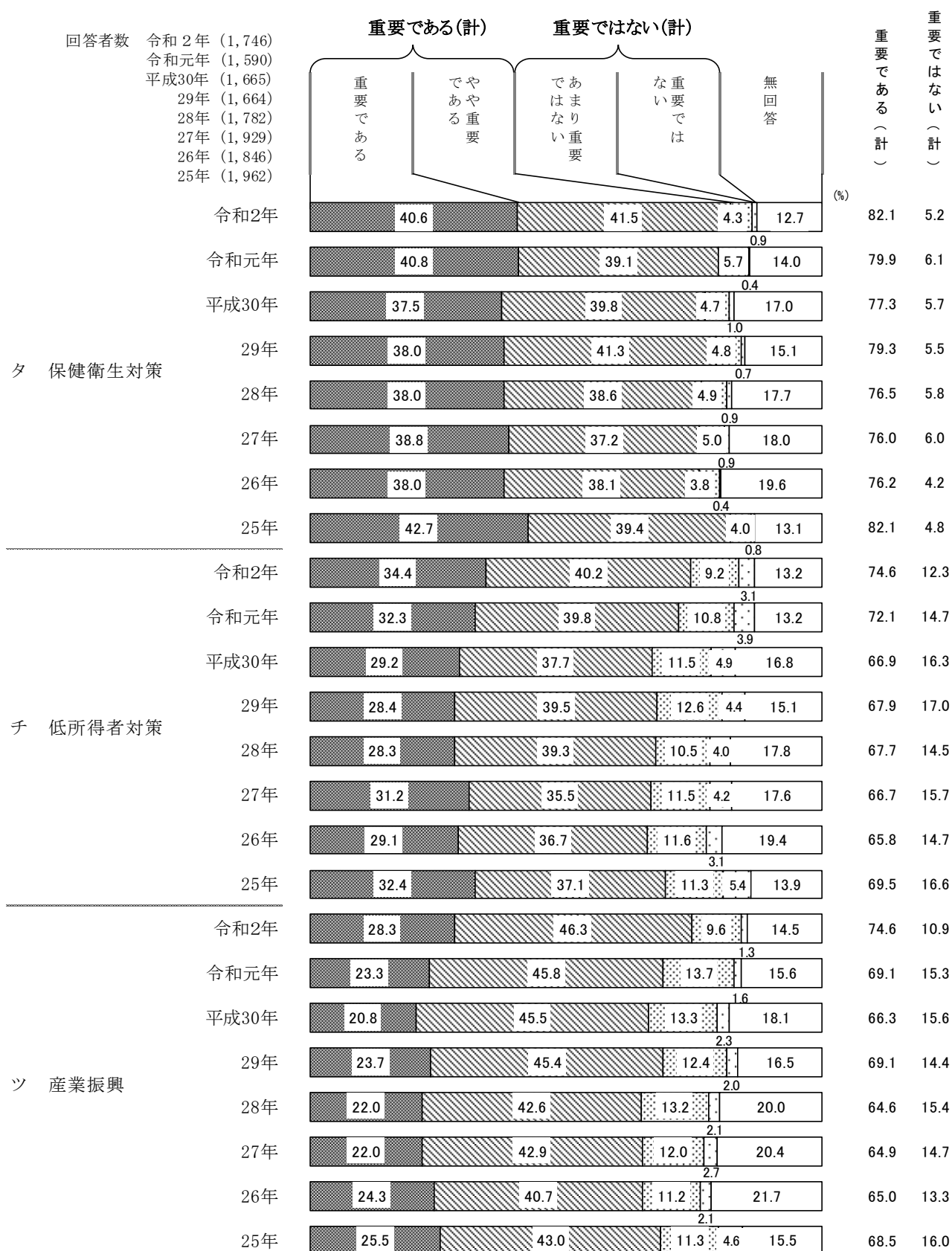
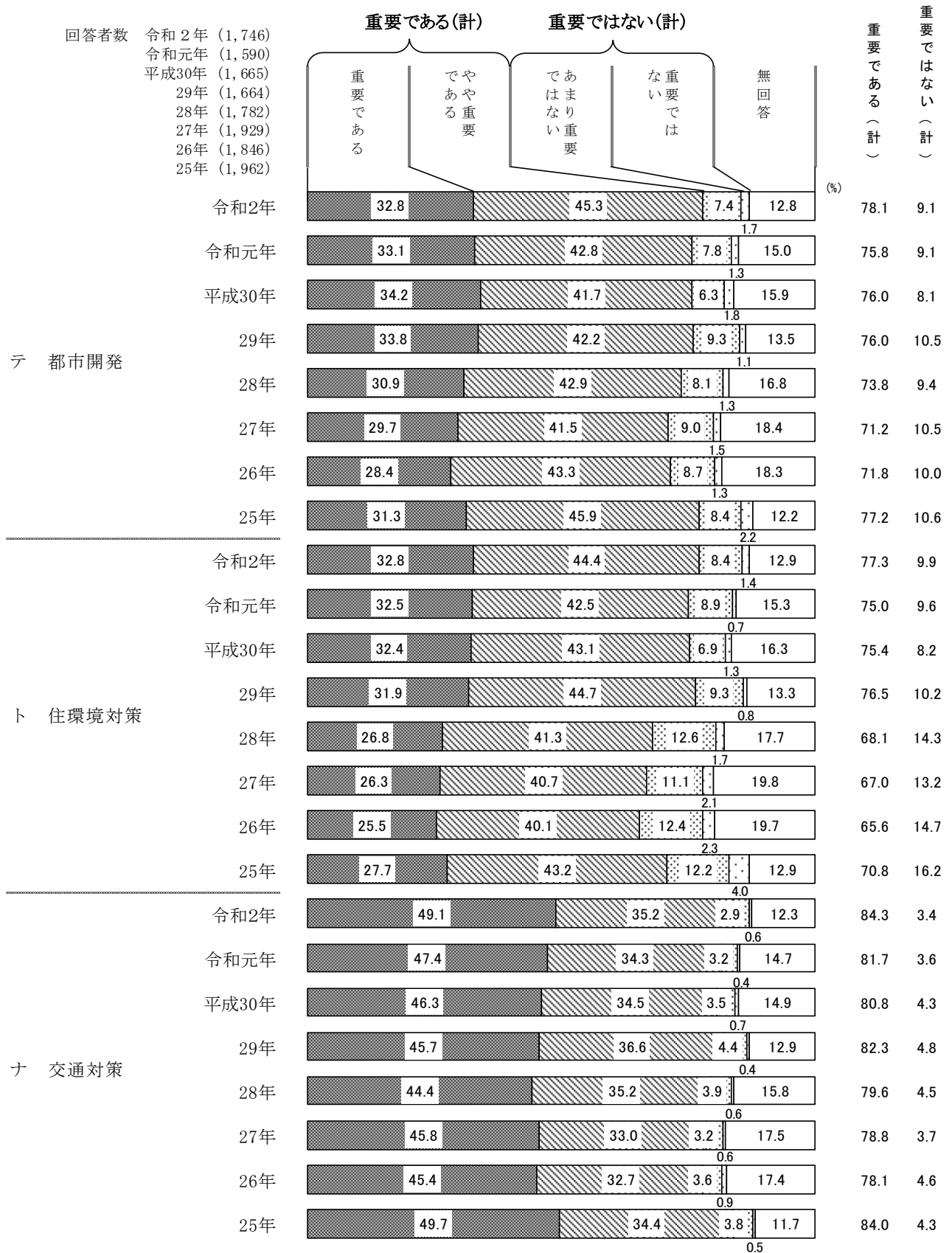


図11-1-2-⑦ 経年比較／重要度



### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

区の取り組みについて、各分野に対する重要度を聞いた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の高い順でみると、「防災対策」と「治安対策」が86.4%の同率で並んで最も高く、以下「資源環境対策」（85.7%）、「情報提供」（84.4%）、「交通対策」（84.3%）、「行政改革」「自然・緑化対策」（ともに83.8%で同率）の順で続いている。

経年でみて、前回令和元年との比較では、【重要である】が3.0ポイント以上の増加をしている項目が11項目に及び、中でも「情報提供」（＋10.2ポイント）、「職員の接客態度」（＋8.1ポイント）、「自然・緑化対策」（＋7.6ポイント）などで増加が大きくなっている一方で、【重要である】が3.0ポイント以上減少した項目はひとつもみられない。

また、【重要ではない】が3.0ポイント以上の減少をした項目が「情報提供」（－5.6ポイント）、「産業振興」（－4.4ポイント）、「職員の接客態度」（－3.9ポイント）など計4項目ある一方で、【重要ではない】が3.0ポイント以上増加したのは「地域活動支援」（＋4.0ポイント）と「学校教育対策」（＋3.4ポイント）の2項目のみとなっている。

なお、平成25年と今回の結果を比較して【重要である】が5.0ポイント以上高くなっている項目には「男女共同参画推進」（平成25年60.6%→今回69.9%）、「情報提供」（平成25年77.6%→今回84.4%）、「住環境対策」（平成25年70.8%→今回77.3%）、「自然・緑化対策」（平成25年77.6%→83.8%）、「産業振興」（平成25年68.5%→今回74.6%）、「低所得者対策」（平成25年69.5%→74.6%）の計6項目があげられる。一方、【重要でない】が3.0ポイント以上高くなっている項目はひとつもないが、3.0ポイント以上減少している項目は計7項目あり、「住環境対策」（平成25年16.2%→今回9.9%）、「男女共同参画推進」（平成25年24.7%→今回18.5%）、「自然・緑化対策」（平成25年11.6%→今回5.8%）、「情報提供」（平成25年10.4%→今回4.8%）などで減少が大きくなっている。

表11－1 満足度・重要度の上位5項目

満足度				重要度			
1	↑	情報提供	76.1%	1	↑	防災対策	86.4%
2	↓	資源環境対策	75.9	1	－	治安対策	86.4
3	↓	職員の接客態度	74.6	3	－	資源環境対策	85.7
4	－	自然・緑化対策	69.8	4	↑	情報提供	84.4
5	↑	保健衛生対策	69.5	5	↓	交通対策	84.3

※ 矢印は前回順位との比較

## 《 現状評価（満足度）、重要度について 》

## （１）現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

〔 得点配分 〕

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	－2
不満	重要ではない	－4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

〔 計 算 式 〕

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重 要 度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

## （２）現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、同得点で並んで最も高い〈資源環境対策〉と〈職員の接客態度〉の1.61から、最も低い〈住環境対策〉の0.25の間に分布している。

分野別でみると、前回までと同様に、資源や自然・緑化等の環境面や保健衛生面、情報提供、職員の接客態度、子育て支援等で評価が高く、住環境、交通、低所得者、防災、都市開発や産業振興等については低くなっている。

## （３）重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈防災対策〉の3.25から、最も低い〈社会参加支援〉の1.44の間に分布している。

分野別でみると、防災や治安、子育て支援、交通対策、行政改革等で重要度のポイントが高く、社会参加、男女共同参画、地域活動、生涯学習等で低くなっている。

(4) 現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとって21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.99、重要度平均値2.50）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

**A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目**

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の取り組みの方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

**B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目**

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.99）			
《重要度》	《Aゾーン》 現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より高い	《Bゾーン》 現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より高い	重要度 平均値 (2.50)
	《Cゾーン》 現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より低い	《Dゾーン》 現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より低い	
《 現状評価（満足度）》			

**C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目**

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の取り組みの方向の改善を検討することが求められる。

**D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目**

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。



表11-1-1-① 地域別／現状評価（満足度）

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	情報提供	1.58	1.72	1.74	1.55	1.48	1.64	1.42	1.73	1.34	1.60
イ	職員の接客態度	1.61	1.61	1.74	1.76	1.78	1.54	1.44	1.37	1.39	1.54
ウ	行政改革	0.90	1.03	1.06	0.81	0.88	1.04	0.65	0.52	0.63	1.08
エ	防災対策	0.70	0.84	0.83	0.64	0.41	0.63	0.37	0.74	0.24	0.79
オ	自然・緑化対策	1.26	1.29	1.53	0.78	1.24	1.33	1.28	1.08	0.55	1.12
カ	資源環境対策	1.61	1.83	1.85	1.42	1.38	1.65	1.18	1.51	1.33	1.85
キ	治安対策	0.83	1.04	0.85	0.51	0.95	1.06	0.96	1.17	0.41	0.87
ク	地域活動支援	0.88	1.22	1.22	0.24	0.93	1.05	0.63	0.73	0.55	0.91
ケ	社会参加支援	0.87	1.07	0.89	0.56	0.65	1.04	0.70	0.78	0.45	1.00
コ	男女共同参画推進	0.85	1.07	0.68	0.55	0.59	0.94	0.72	0.79	0.54	1.15
サ	生涯学習振興	0.96	1.12	0.63	0.87	0.97	0.92	0.81	0.89	0.66	1.28
シ	学校教育対策	0.96	1.08	0.78	0.99	1.12	0.68	1.01	1.08	0.36	0.93
ス	子育て支援	1.39	1.37	1.50	1.26	1.40	1.33	1.45	1.52	0.81	1.50
セ	高齢者支援	0.92	0.93	0.76	0.74	1.01	1.15	0.92	0.96	0.40	0.97
ソ	障がい者支援	1.03	1.11	1.01	0.79	0.98	1.10	0.91	1.16	0.40	1.33
タ	保健衛生対策	1.34	1.47	1.43	0.91	1.42	1.50	1.12	1.19	0.90	1.66
チ	低所得者対策	0.64	0.91	0.81	0.53	0.54	0.80	0.55	0.87	-0.03	1.12
ツ	産業振興	0.84	0.92	1.03	1.12	0.75	1.00	0.60	0.92	0.13	1.19
テ	都市開発	0.74	0.80	1.04	0.37	0.84	0.68	0.37	0.74	0.28	1.12
ト	住環境対策	0.25	0.20	0.39	0.17	0.17	0.43	0.26	0.41	-0.41	0.50
ナ	交通対策	0.53	1.01	0.20	0.09	0.76	0.61	0.70	0.29	-0.08	0.40
ニ	区政全体として	1.15	1.35	0.92	1.20	1.30	1.13	1.20	1.02	0.51	1.31

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

表11-1-1-② 地域別／現状評価（満足度）

		区全体	第10	第11	第12	第13	第14	第15
ア	情報提供	1.58	1.59	1.51	1.43	2.11	1.42	1.39
イ	職員の接客態度	1.61	1.45	1.75	2.00	1.64	1.66	1.44
ウ	行政改革	0.90	0.59	1.00	0.84	1.59	0.89	0.58
エ	防災対策	0.70	0.74	0.92	1.13	1.14	0.78	0.69
オ	自然・緑化対策	1.26	1.59	1.20	1.59	1.65	1.62	1.54
カ	資源環境対策	1.61	2.06	1.48	1.76	1.92	1.45	1.69
キ	治安対策	0.83	0.92	0.72	0.48	1.17	0.53	0.41
ク	地域活動支援	0.88	0.94	0.75	0.87	1.49	0.57	0.83
ケ	社会参加支援	0.87	0.60	0.93	0.97	1.32	1.00	1.28
コ	男女共同参画推進	0.85	0.85	1.14	0.86	1.30	0.86	0.74
サ	生涯学習振興	0.96	1.41	0.98	1.00	1.18	0.95	0.92
シ	学校教育対策	0.96	1.06	1.06	1.36	1.23	1.13	0.81
ス	子育て支援	1.39	1.53	1.25	1.44	1.92	1.61	1.24
セ	高齢者支援	0.92	1.00	1.10	1.06	0.93	0.89	1.03
ソ	障がい者支援	1.03	1.18	1.30	0.91	1.57	0.96	0.69
タ	保健衛生対策	1.34	1.42	1.45	0.98	2.03	1.32	1.16
チ	低所得者対策	0.64	0.15	0.58	0.51	0.86	0.44	0.60
ツ	産業振興	0.84	0.76	1.01	0.70	1.17	0.53	0.73
テ	都市開発	0.74	0.65	0.83	0.94	1.08	0.72	0.53
ト	住環境対策	0.25	-0.18	0.42	0.21	0.48	0.71	0.00
ナ	交通対策	0.53	0.57	0.83	0.47	0.58	0.61	0.41
ニ	区政全体として	1.15	1.20	1.34	1.20	1.44	1.15	1.03

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表11-1-2-① 地域別／重要度

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	情報提供	2.85	2.89	2.95	2.73	2.76	2.73	2.98	2.77	2.68	2.50
イ	職員の接客態度	2.68	2.65	2.52	2.72	2.58	2.49	2.44	2.74	2.65	2.63
ウ	行政改革	2.88	2.89	2.83	2.86	2.84	2.83	2.89	2.71	2.80	2.82
エ	防災対策	3.25	3.27	3.15	3.43	3.15	3.17	3.31	3.20	3.23	3.22
オ	自然・緑化対策	2.65	2.52	2.54	2.94	2.54	2.67	2.56	2.47	2.86	2.54
カ	資源環境対策	2.86	2.96	2.67	3.23	2.77	2.58	2.76	2.75	2.87	2.75
キ	治安対策	3.16	3.12	3.06	2.91	3.19	3.30	3.04	3.17	3.10	3.25
ク	地域活動支援	1.63	1.59	1.76	1.64	1.46	1.62	1.46	1.36	1.73	1.18
ケ	社会参加支援	1.44	1.36	1.39	1.49	1.42	1.32	1.19	1.54	1.37	1.08
コ	男女共同参画推進	1.61	1.57	1.62	2.11	1.38	1.35	1.64	1.62	1.78	1.24
サ	生涯学習振興	1.77	1.65	1.64	2.11	1.59	1.72	1.57	1.74	2.13	1.65
シ	学校教育対策	2.65	2.72	2.82	2.80	2.41	2.44	2.57	2.38	2.78	2.39
ス	子育て支援	2.95	2.92	3.04	2.93	3.03	2.83	2.93	2.54	2.80	2.95
セ	高齢者支援	2.82	2.85	2.95	2.97	2.73	2.75	2.43	2.63	2.81	2.51
ソ	障がい者支援	2.75	2.85	2.92	3.07	2.78	2.68	2.37	2.62	2.91	2.47
タ	保健衛生対策	2.67	2.63	2.72	2.82	2.85	2.57	2.68	2.61	2.39	2.55
チ	低所得者対策	2.16	2.01	2.25	2.42	2.12	2.13	1.81	2.12	2.32	1.60
ツ	産業振興	2.12	2.19	2.09	2.09	2.29	2.22	1.83	2.07	1.95	1.70
テ	都市開発	2.30	2.41	2.09	2.61	2.12	2.32	2.20	2.39	2.12	2.13
ト	住環境対策	2.27	2.51	2.21	2.21	2.09	2.33	2.11	2.32	2.33	2.27
ナ	交通対策	2.95	2.78	3.07	3.09	2.73	2.90	2.78	2.81	2.93	2.93

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

表11-1-2-② 地域別／重要度

		区全体	第10	第11	第12	第13	第14	第15
ア	情報提供	2.85	3.01	2.91	2.95	3.14	2.78	3.39
イ	職員の接客態度	2.68	2.85	2.71	3.12	2.99	2.69	3.13
ウ	行政改革	2.88	2.99	2.85	2.97	2.97	2.93	3.19
エ	防災対策	3.25	3.27	3.33	3.26	3.36	3.09	3.52
オ	自然・緑化対策	2.65	2.63	2.67	2.45	3.11	2.61	2.84
カ	資源環境対策	2.86	2.94	2.81	3.06	3.32	2.71	3.14
キ	治安対策	3.16	3.27	3.33	3.09	3.31	2.87	3.31
ク	地域活動支援	1.63	2.17	1.75	1.55	1.86	1.75	2.00
ケ	社会参加支援	1.44	1.71	1.57	1.82	1.73	1.39	1.78
コ	男女共同参画推進	1.61	1.57	1.40	1.88	1.89	1.62	2.10
サ	生涯学習振興	1.77	1.66	1.97	1.88	2.00	1.56	1.97
シ	学校教育対策	2.65	2.90	2.79	2.77	2.59	2.69	2.88
ス	子育て支援	2.95	3.22	3.09	3.10	3.22	2.74	3.13
セ	高齢者支援	2.82	3.23	2.99	2.74	3.35	2.75	2.95
ソ	障がい者支援	2.75	3.06	2.81	2.58	3.04	2.39	2.66
タ	保健衛生対策	2.67	2.84	2.80	2.52	2.90	2.46	2.84
チ	低所得者対策	2.16	2.76	2.50	2.00	2.31	2.28	2.00
ツ	産業振興	2.12	2.30	2.20	2.48	2.39	2.00	2.13
テ	都市開発	2.30	2.41	2.50	2.54	2.61	1.92	2.23
ト	住環境対策	2.27	2.51	2.21	2.21	2.36	2.08	2.10
ナ	交通対策	2.95	3.41	3.03	3.28	3.06	3.11	2.80

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。《区全体》では、

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「防災対策」「治安対策」「交通対策」などは、現状評価（満足度）が低く、重要度が高くなっている。また「行政改革」「高齢者支援」などもここにあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」「情報提供」「子育て支援」「障がい者対策」「保健衛生対策」など計7項目は、現状評価（満足度）と重要度の両面で高くなっている。

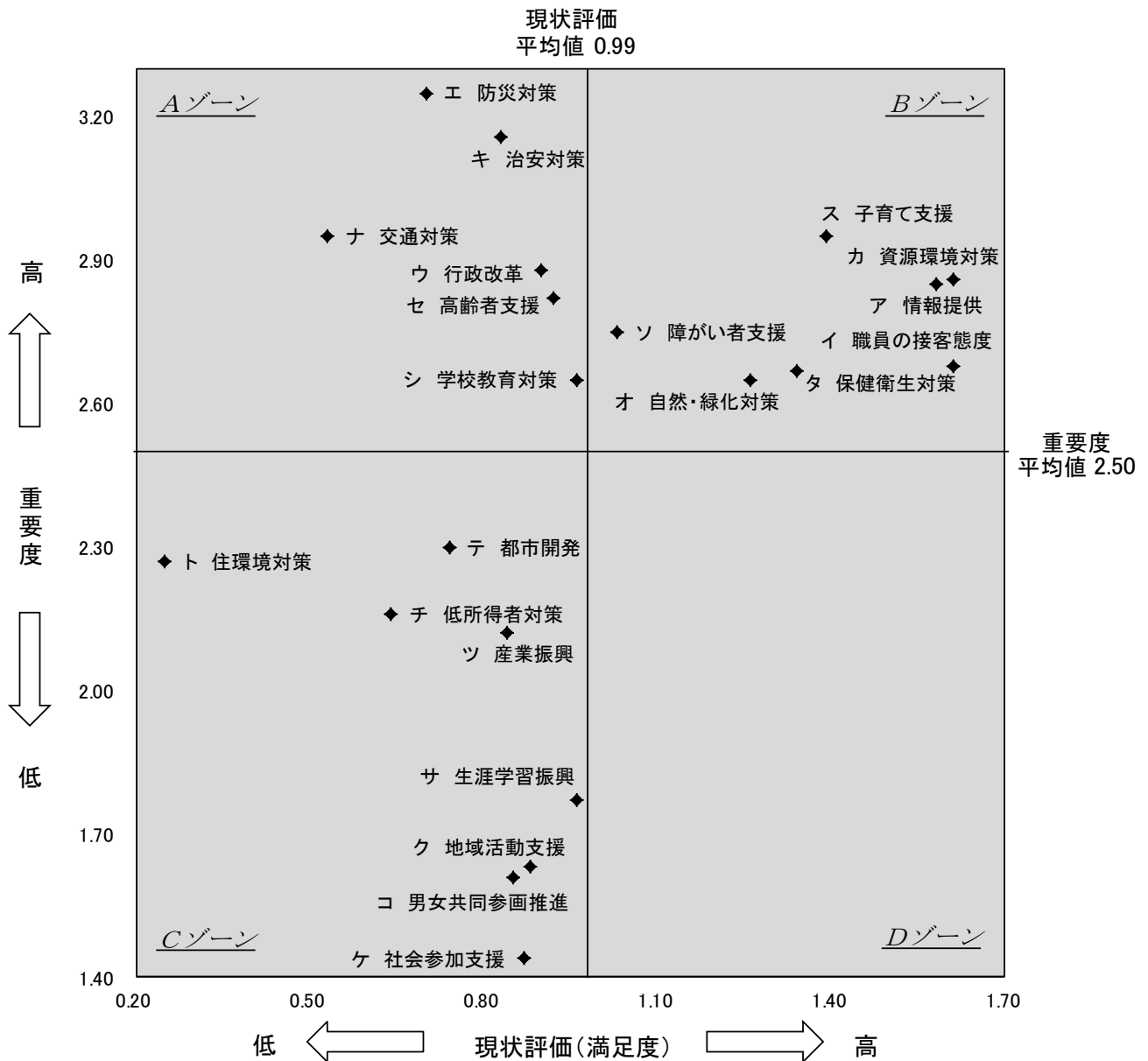
**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「都市開発」「低所得者対策」「産業振興」などは、現状評価（満足度）と重要度の両面で低くなっている。また、「住環境対策」は、現状評価（満足度）がとくに低くなっている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

このゾーンに含まれる項目はひとつもない結果となっている。

図11-1-3 現状評価（満足度）と重要度の関係



### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

各地域の現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。《第1地域》では、

#### A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度は高くなっているほか、「治安対策」「住環境対策」「交通対策」「高齢者支援」など計8項目があげられている。

#### B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度と重要度が高く、「子育て支援」などの計6項目が含まれている。

#### C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

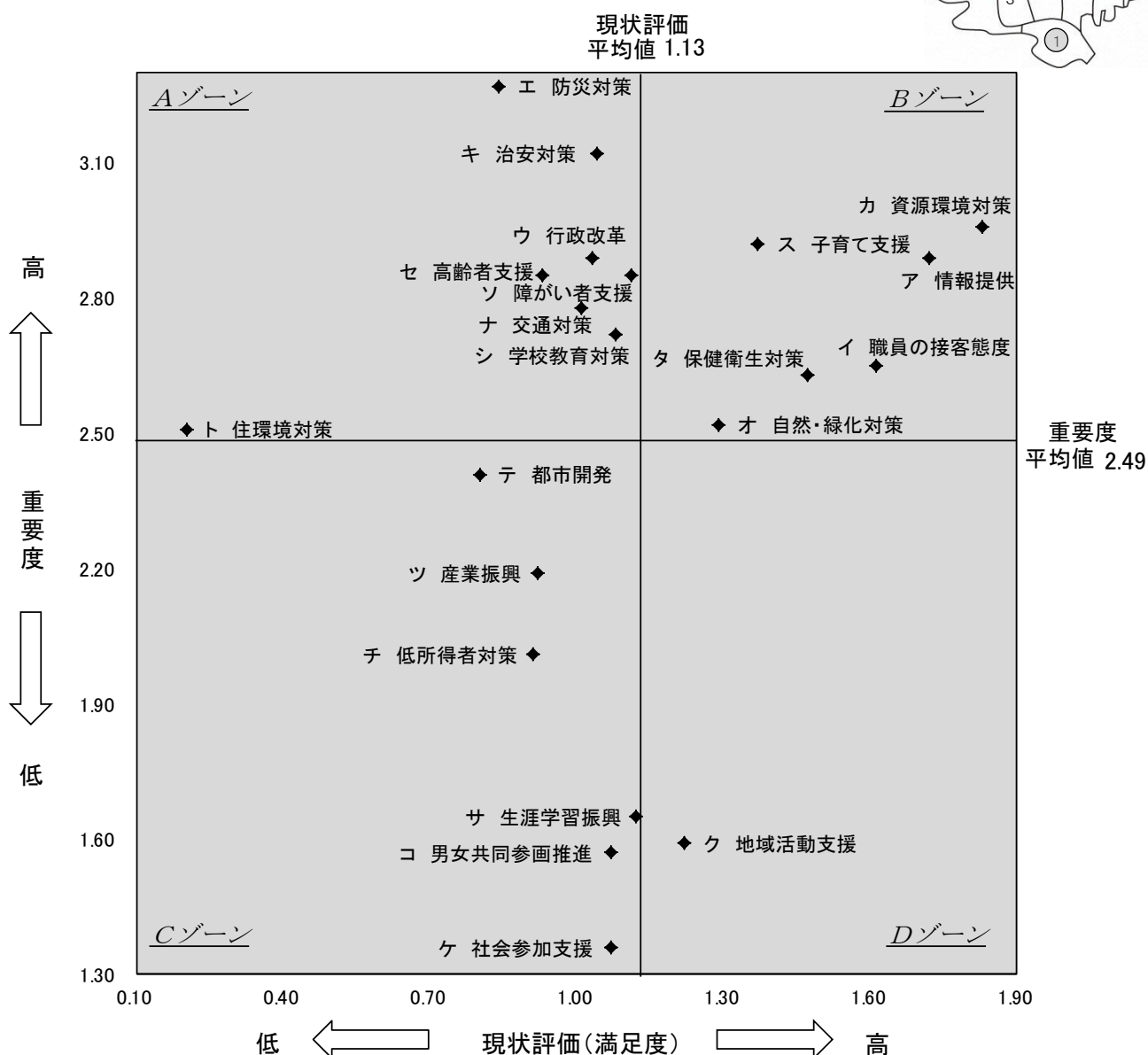
「都市開発」の満足度が低く、「低所得者対策」など計6項目があげられている。

#### D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

このゾーンにあてはまるのは「地域活動支援」のみとなっている。



図11-1-4-① 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第1地域



《第2地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」でとくに満足度が低いほか、「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「学校教育対策」「障がい者支援」の計6項目がこのゾーンにあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」「情報提供」などで満足度が高く、「子育て支援」で重要度がとくに高い。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

計7項目が含まれ、「住環境対策」で満足度が低い

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

このゾーンでは「地域活動支援」だけがあげられている。

地域区分図

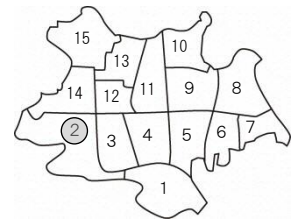
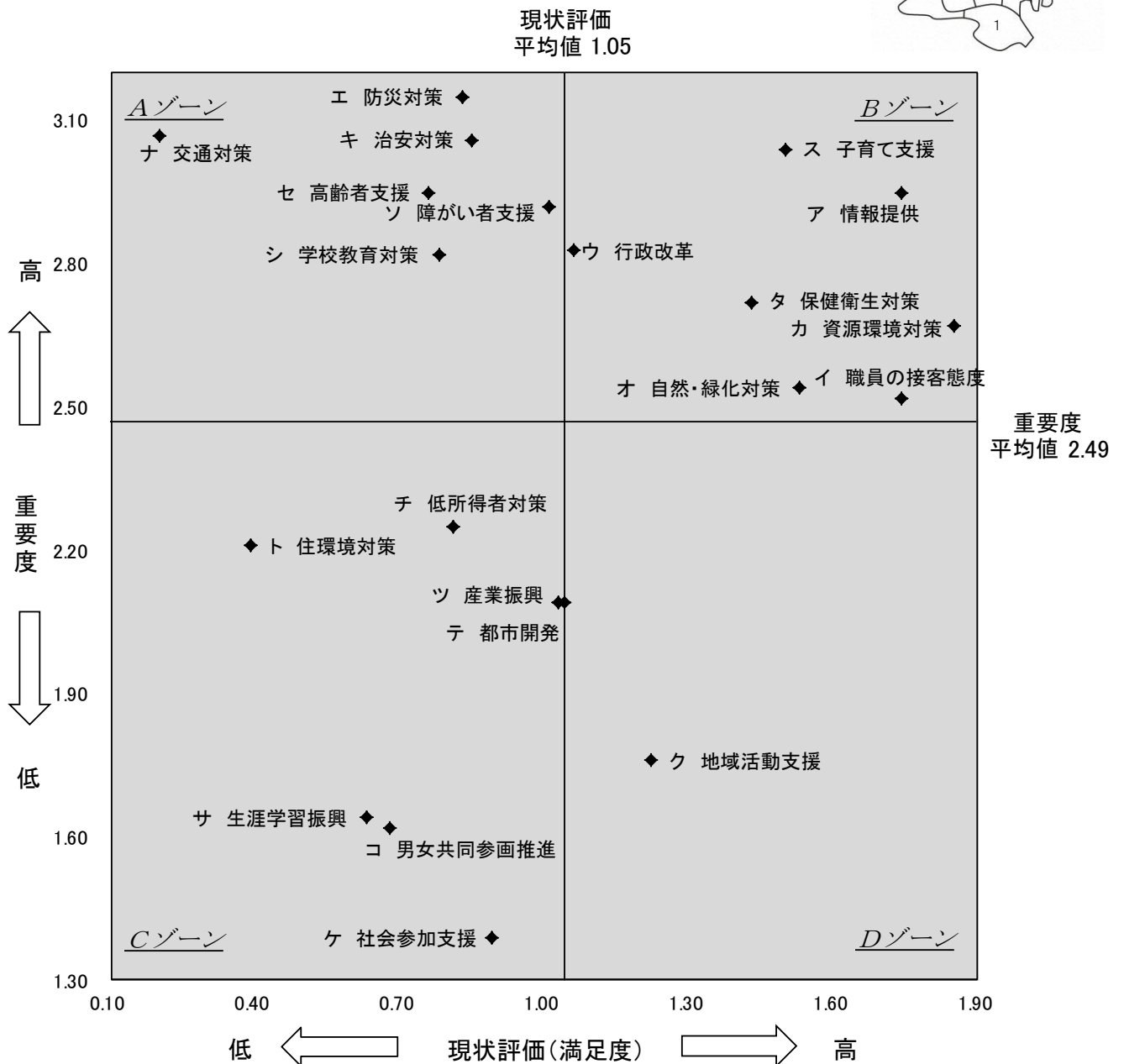


図11-1-4-② 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第2地域



《第3地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「防災対策」でとくに重要度が高く、「交通対策」で重要度が高く満足度が低いほか、「治安対策」「高齢者支援」「自然・緑化対策」を加えた計5項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「職員の接客態度」の満足度がとくに高く、重要度の高い「資源環境対策」など、計8項目がこのゾーンに含まれている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

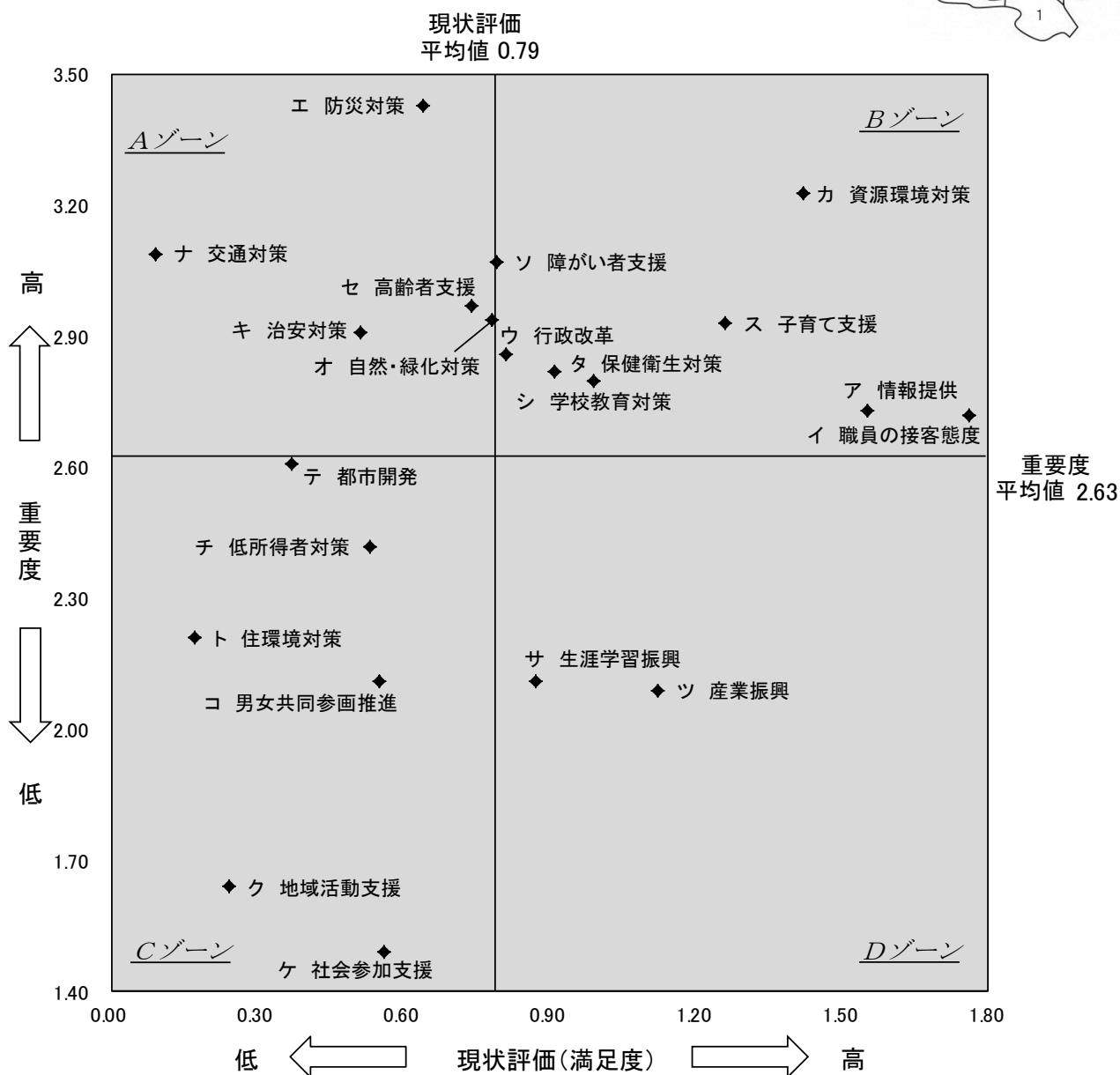
満足度の低い「住環境対策」とともに「地域活動支援」など計6項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「生涯学習振興」と「産業振興」があげられている。



図11-1-4-③ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第3地域





《第4地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高く、満足度が低い「防災対策」、重要度の高い「治安対策」のほか、「交通対策」と「行政改革」の計4項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度の高い「職員の接客態度」や重要度と満足度がともに高めの「子育て支援」など、計8項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

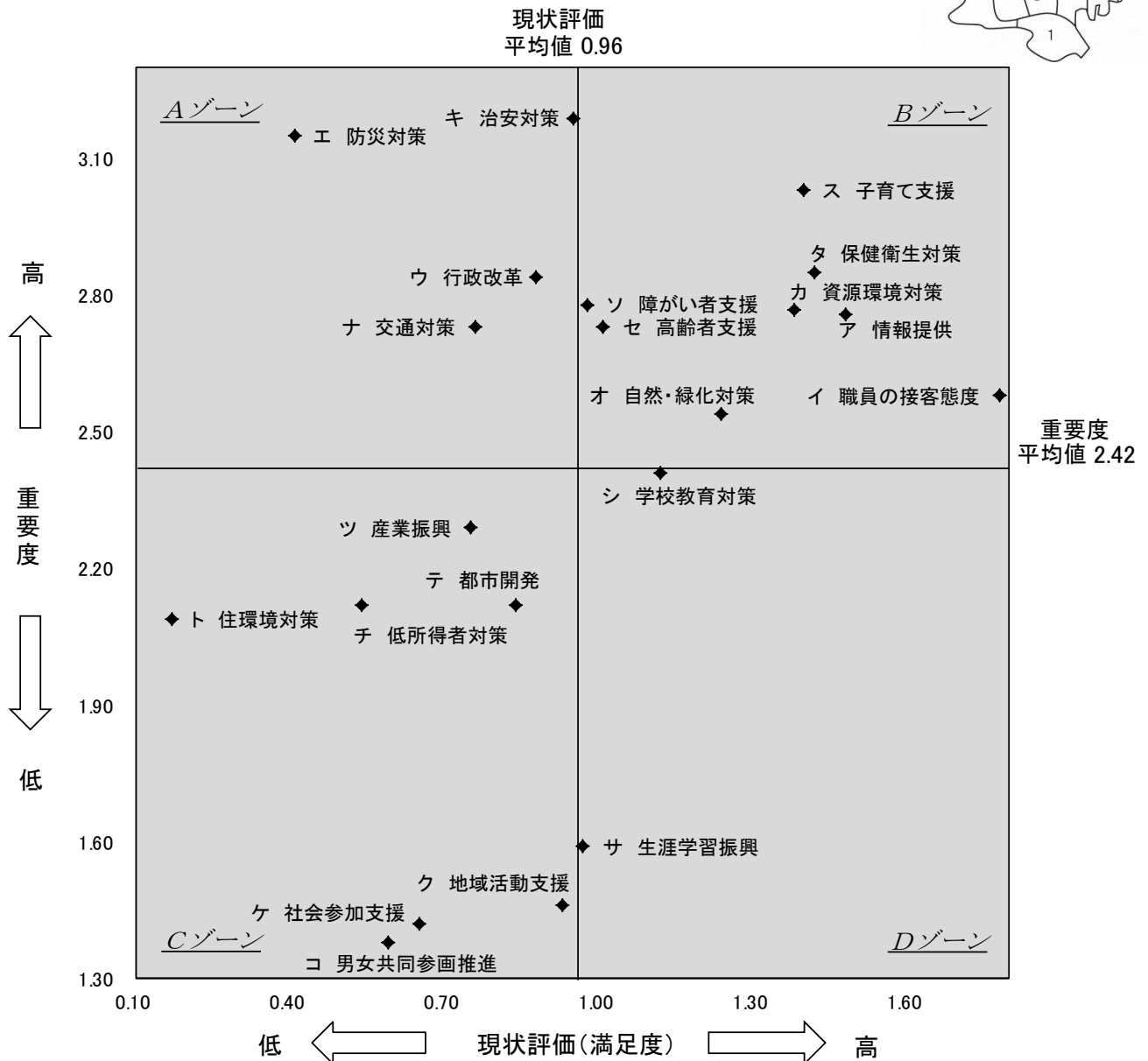
「住環境対策」の満足度が低く、ほかに「低所得者対策」など計7項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「学校教育対策」と「生涯学習振興」があげられている。



図11-1-4-④ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第4地域



《第5地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高く満足度が低い「防災対策」と満足度の低い「交通対策」のほか、「行政改革」と「学校教育対策」の計4項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度が高い「資源環境対策」と「情報提供」や重要度の高い「治安対策」など、計9項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

満足度の低い「住環境対策」など計7項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

Cゾーンとの境目に「地域活動支援」があげられている。

地域区分図

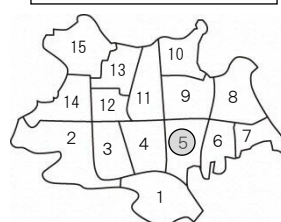
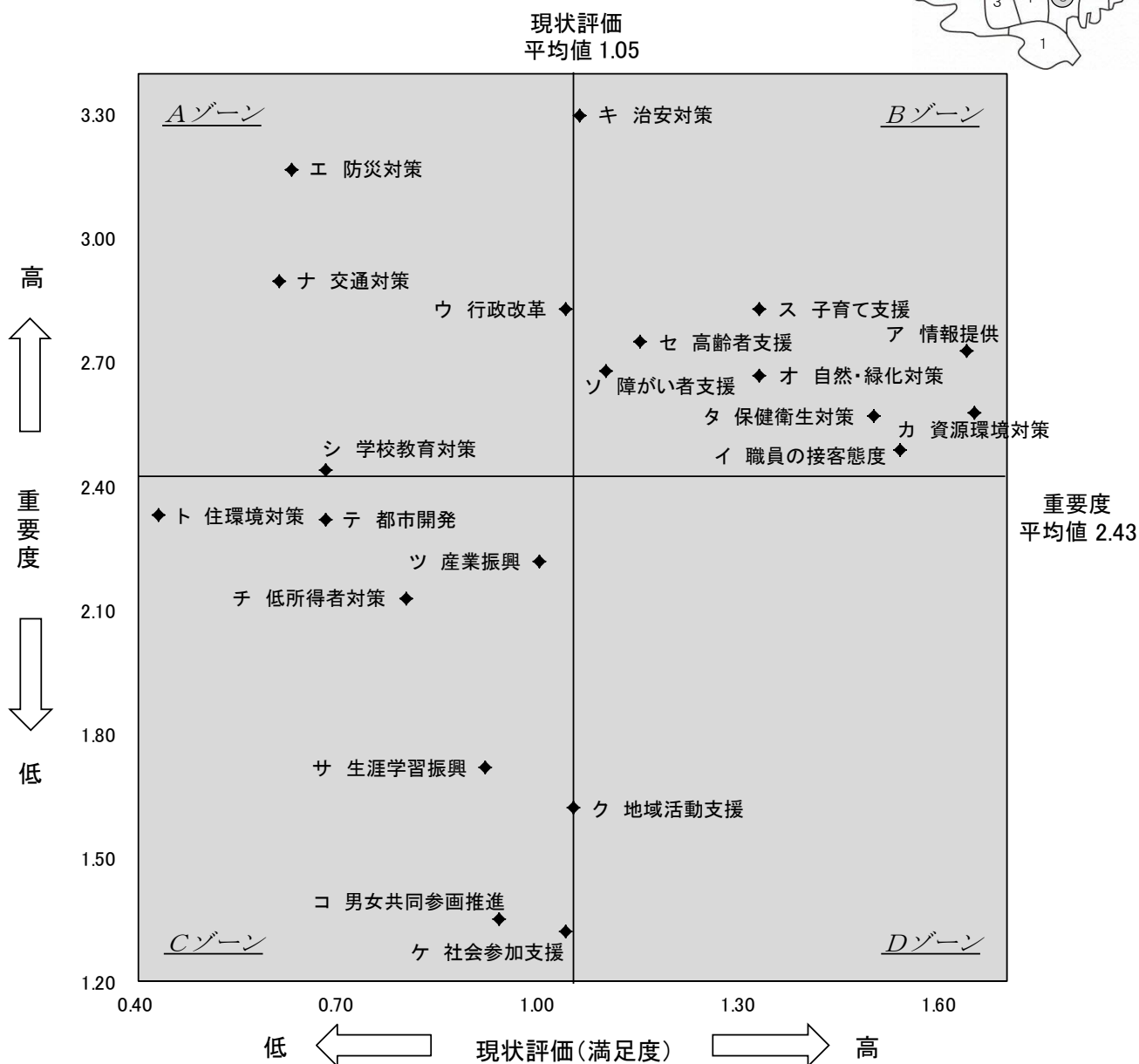


図11-1-4-⑤ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第5地域



## 《第6地域》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

重要度が高く、満足度の低い「防災対策」とともに、「行政改革」と「交通対策」の計3項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度と重要度がともに高い「情報提供」と「子育て支援」のほか、重要度の高い「治安対策」や満足度の高い「職員の接客態度」など計10項目があげられている。

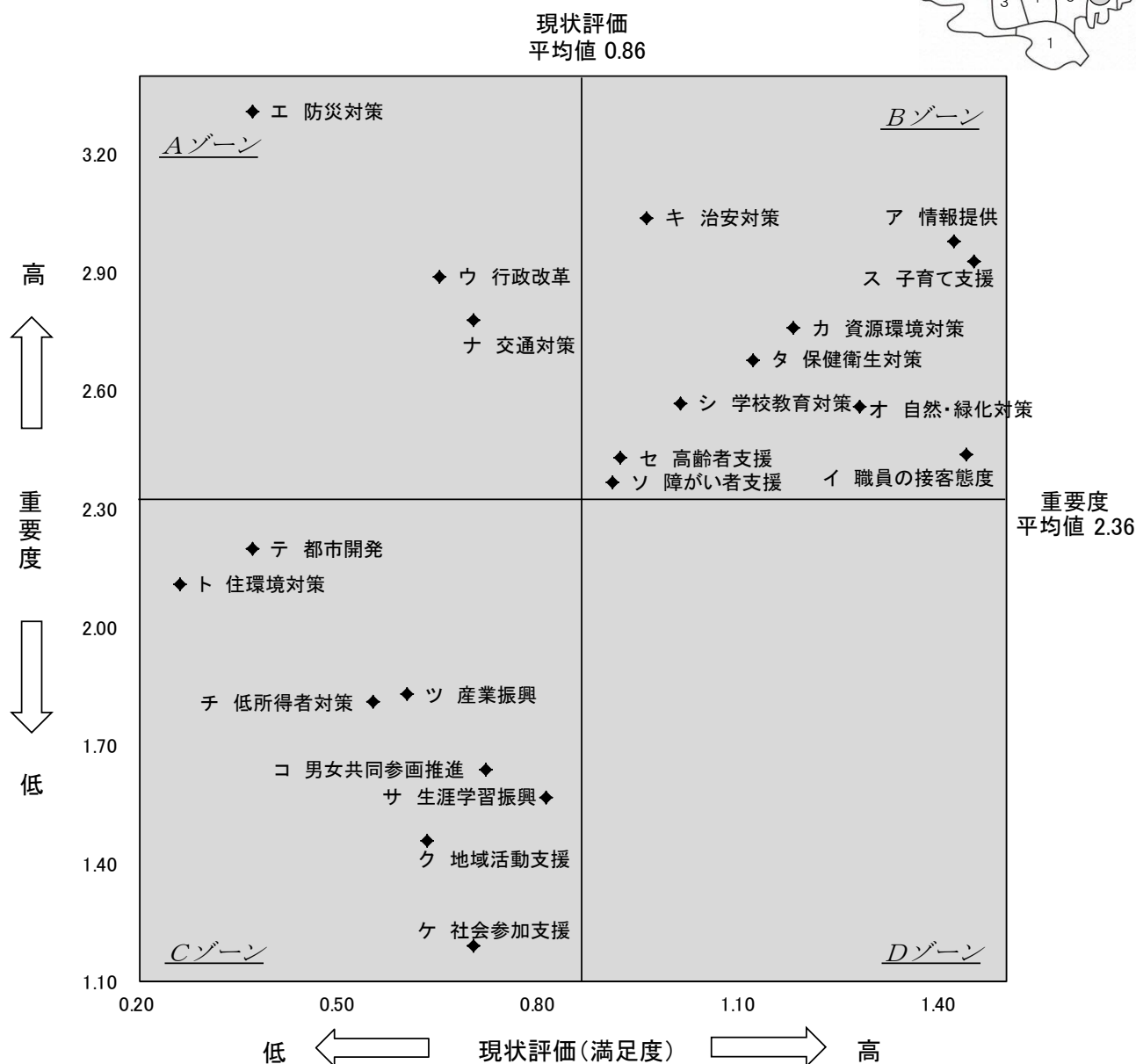
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

満足度の低い「住環境対策」と「都市開発」など計8項目があげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

このゾーンに含まれる項目はひとつもない。

図11-1-4-⑥ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第6地域



《第7地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度の高い「防災対策」、満足度の低い「交通対策」のほか、「行政改革」と「高齢者支援」の計4項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

重要度の高い「治安対策」、満足度の高い「情報提供」のほか、「資源環境対策」「子育て支援」「職員の接客態度」「障がい者支援」など、計8項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

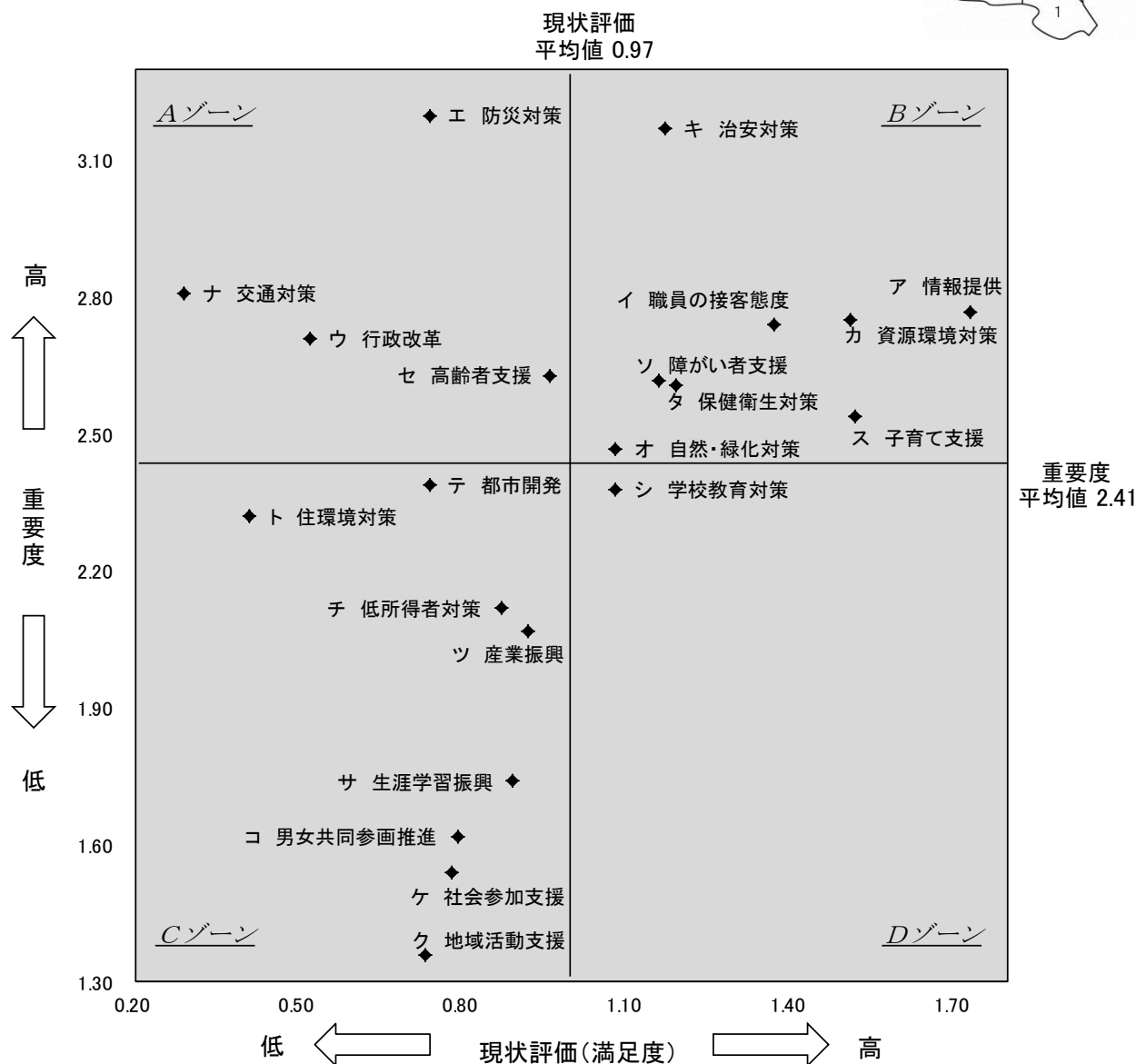
満足度が低く、重要度が高めな「住環境対策」のほか、「都市開発」や「低所得者対策」など計8項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

このゾーンには「学校教育対策」のみがあげられている。



図11-1-4-⑦ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第7地域



《第8地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度の高い「防災対策」と「治安対策」、満足度の低い「交通対策」のほかに、「高齢者支援」「障がい者支援」「学校教育対策」の計6項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度が高く、重要度も高めな「資源環境対策」、満足度が高い「情報提供」「職員の接客態度」のほか、「子育て支援」や「自然・緑化対策」など計6項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

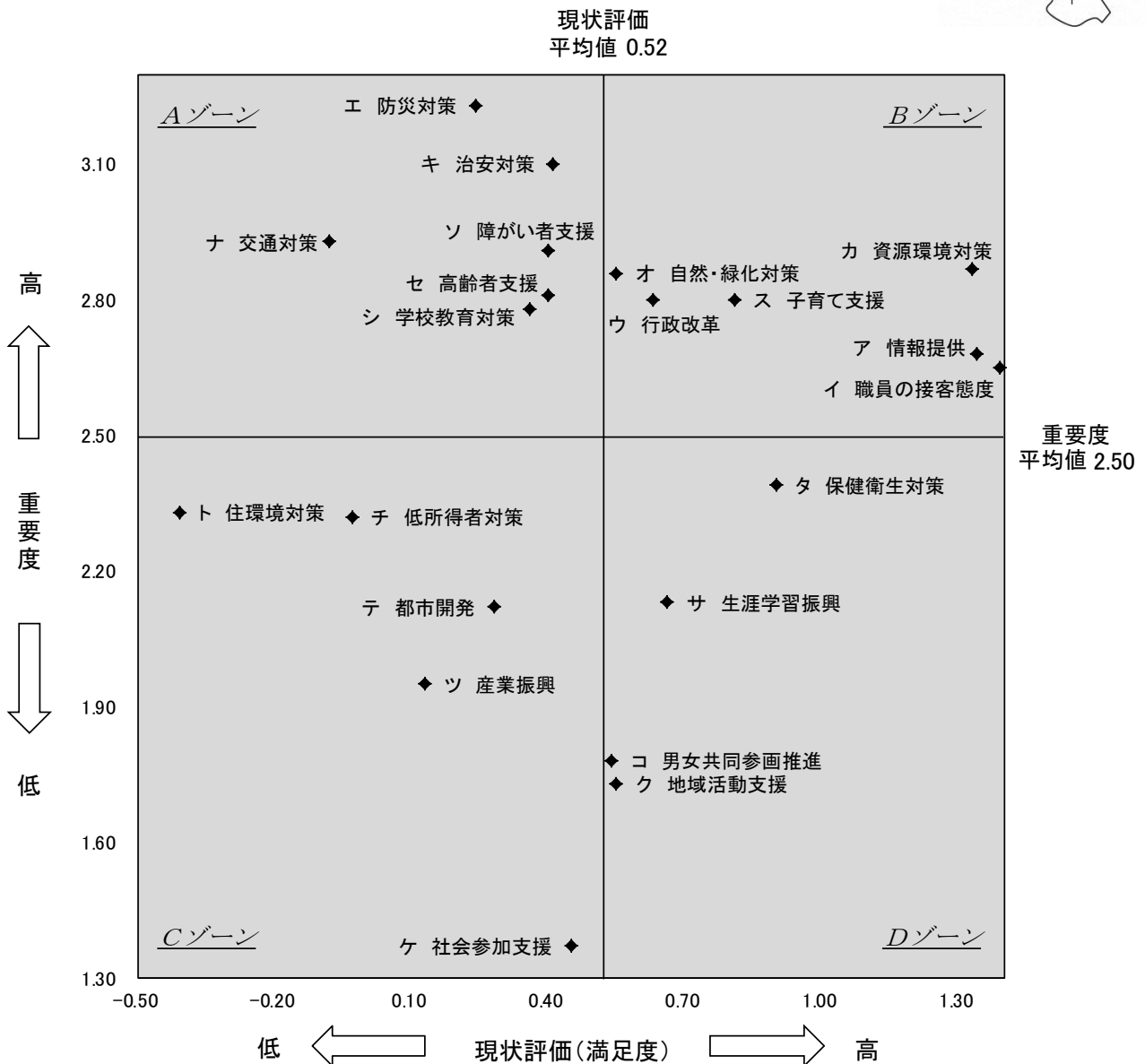
満足度が低く、重要度が高めな「住環境対策」など、計5項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

このゾーンの中では満足度が低めな「地域活動支援」や「男女共同参画」など、計4項目があげられている。



図11-1-4-⑧ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第8地域



《第9地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度の高い「治安対策」と「防災対策」、満足度の低い「交通対策」のほか、「行政改革」「高齢者支援」「学校教育支援」「自然・緑化対策」の計7項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度の高い「資源環境対策」、重要度の高い「子育て支援」のほか、「職員の接客態度」「障がい者支援」など、計6項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

満足度の低い「住環境対策」、重要度の低い「社会参加支援」と「地域活動支援」など計5項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「生涯学習振興」など、計3項目があげられている。

地域区分図

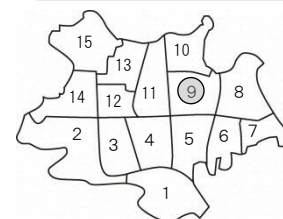
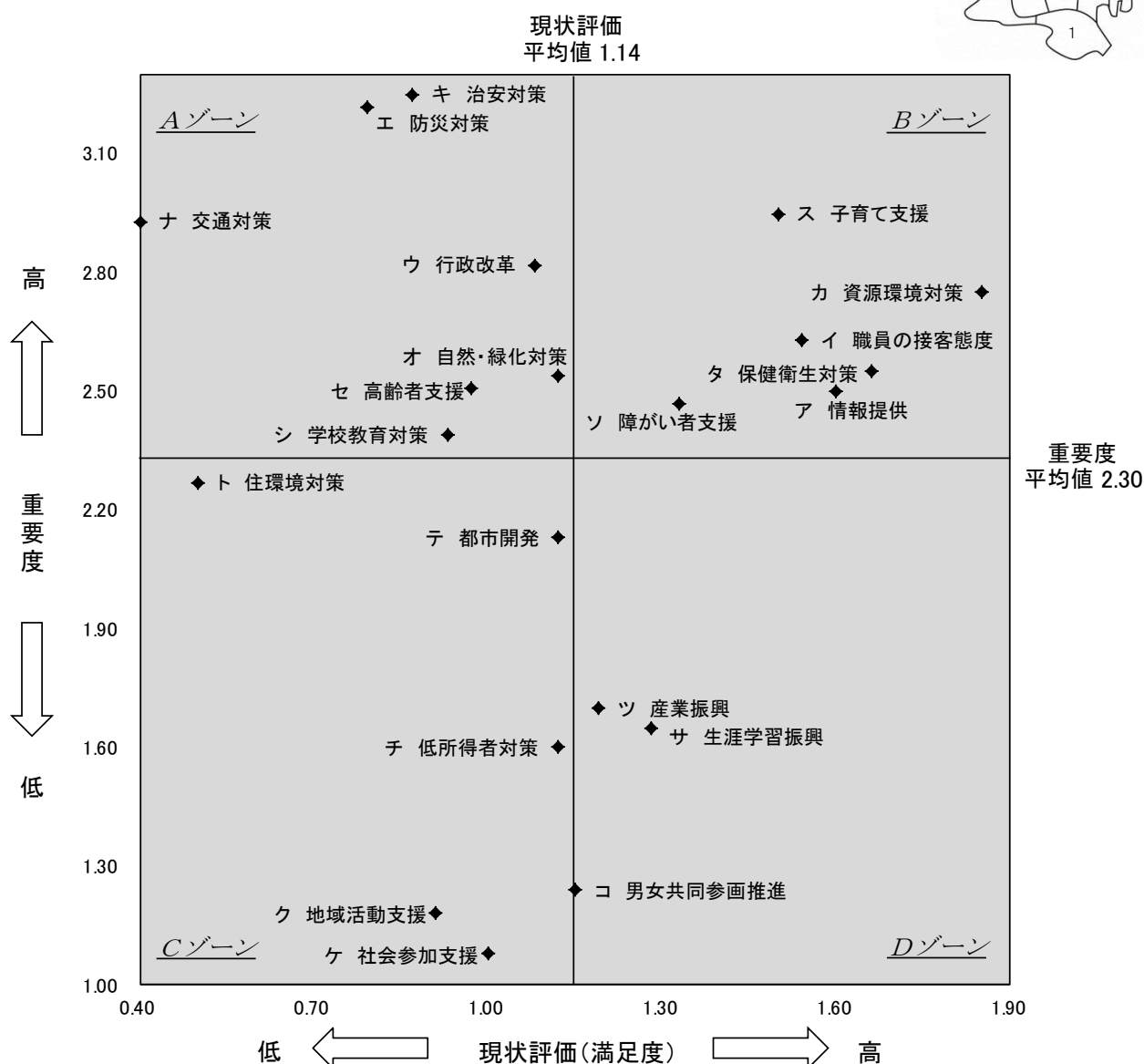


図11-1-4-⑨ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第9地域



《第10地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高く、満足度が低い「交通対策」や満足度が低い「低所得者対策」のほか、「防災対策」「治安対策」「行政改革」の計5項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度の高い「資源環境対策」、重要度の高い「子育て支援」と「高齢者支援」のほか、「情報提供」や「障がい者支援」などの計8項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

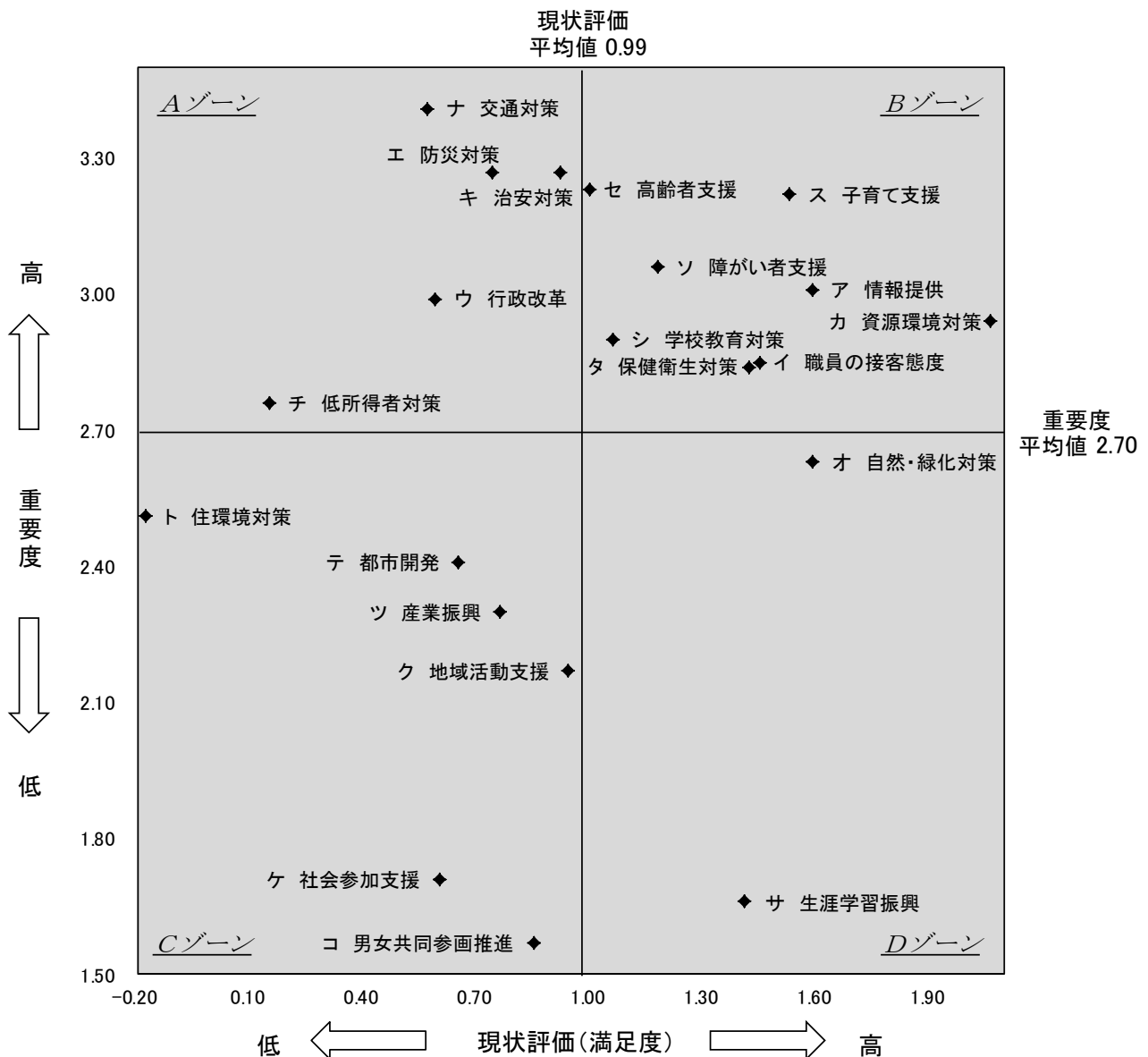
満足度のとくに低い「住環境対策」のほか、「都市開発」など計6項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「自然・緑化対策」と「生涯学習振興」の2項目があげられている。



図11－1－4－⑩ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第10地域



《第11地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高く、満足度の低い「治安対策」、重要度の高い「防災対策」のほか、「交通対策」「行政改革」など計5項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

重要度の高い「子育て支援」、満足度の高い「職員の接客態度」のほか、「情報提供」や「資源環境対策」など計8項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

満足度の低い「住環境対策」と「低所得者対策」のほか、「都市開発」や「産業振興」など計7項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

重要度がとくに低い「男女共同参画推進」のみとなっている。

地域区分図

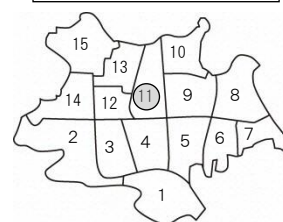
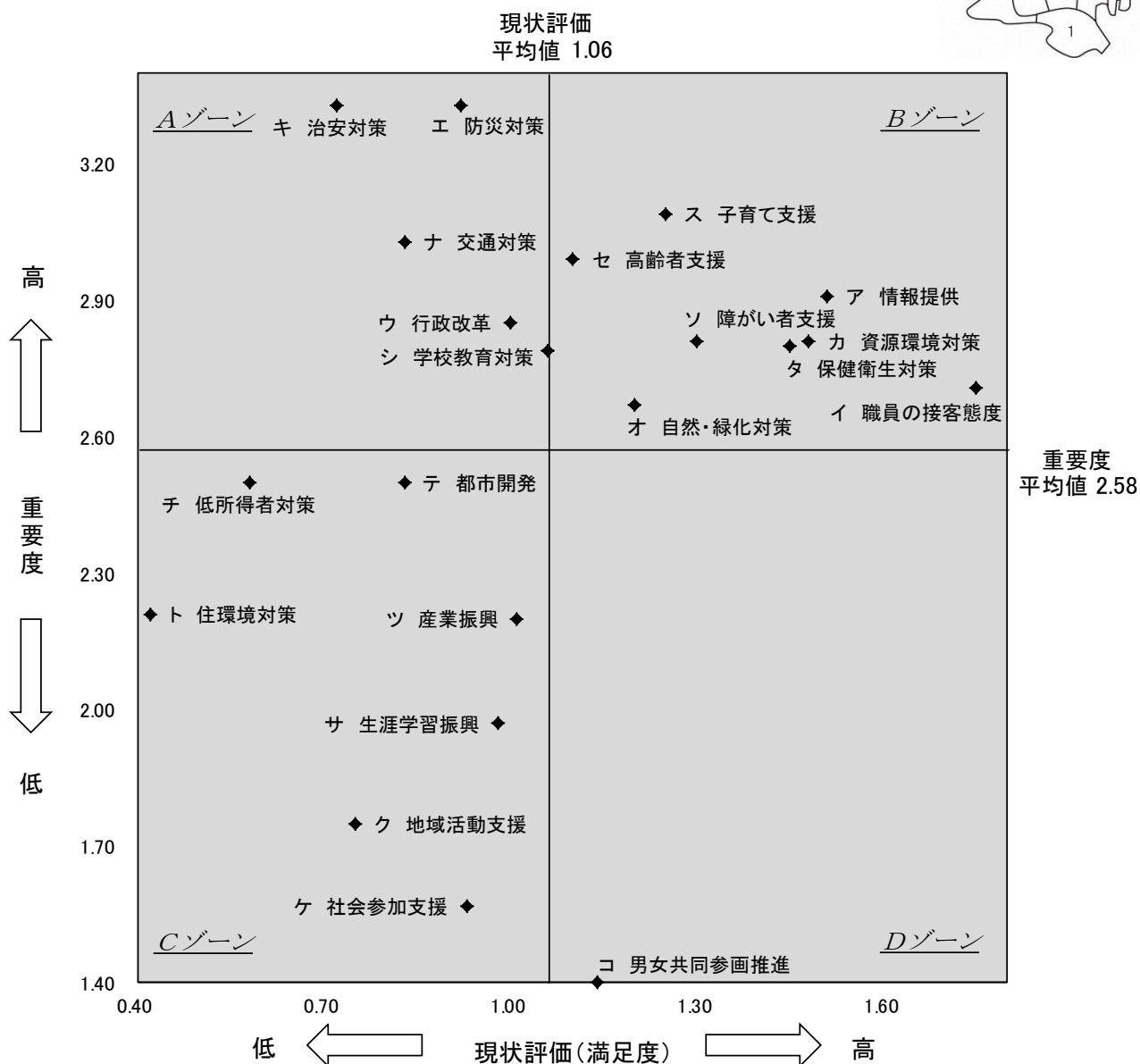


図11－1－4－⑪ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第11地域





《第12地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度がとくに高い「交通対策」のほか、「治安対策」「行政改革」「障がい者支援」の計4項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

重要度のとくに高い「防災対策」、満足度のとくに高い「職員の接客態度」、重要度と満足度がともに高い「資源環境対策」と「子育て支援」など、計7項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

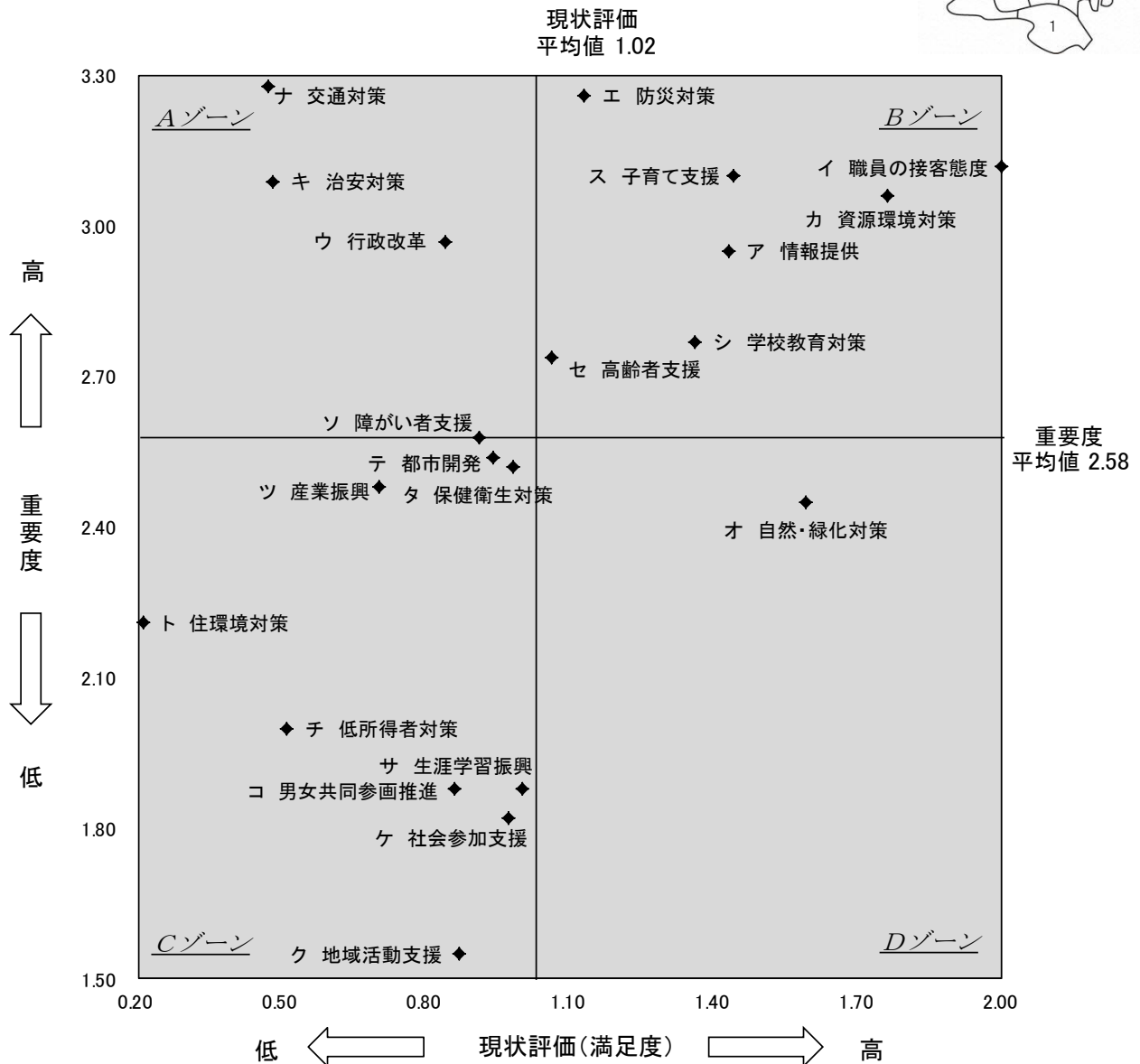
満足度がとくに低い「住環境対策」のほか、「産業振興」や「低所得者対策」など、計9項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「自然・緑化対策」の1項目のみがあげられている。



図11-1-4-⑫ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第12地域



《第13地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高い「高齢者支援」「防災対策」「治安対策」のほか、満足度が低い「交通対策」の計4項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度と重要度がともに高い「子育て支援」と「資源環境対策」、満足度の高い「情報提供」と「保健衛生対策」のほか、「自然・緑化対策」など、計8項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項**

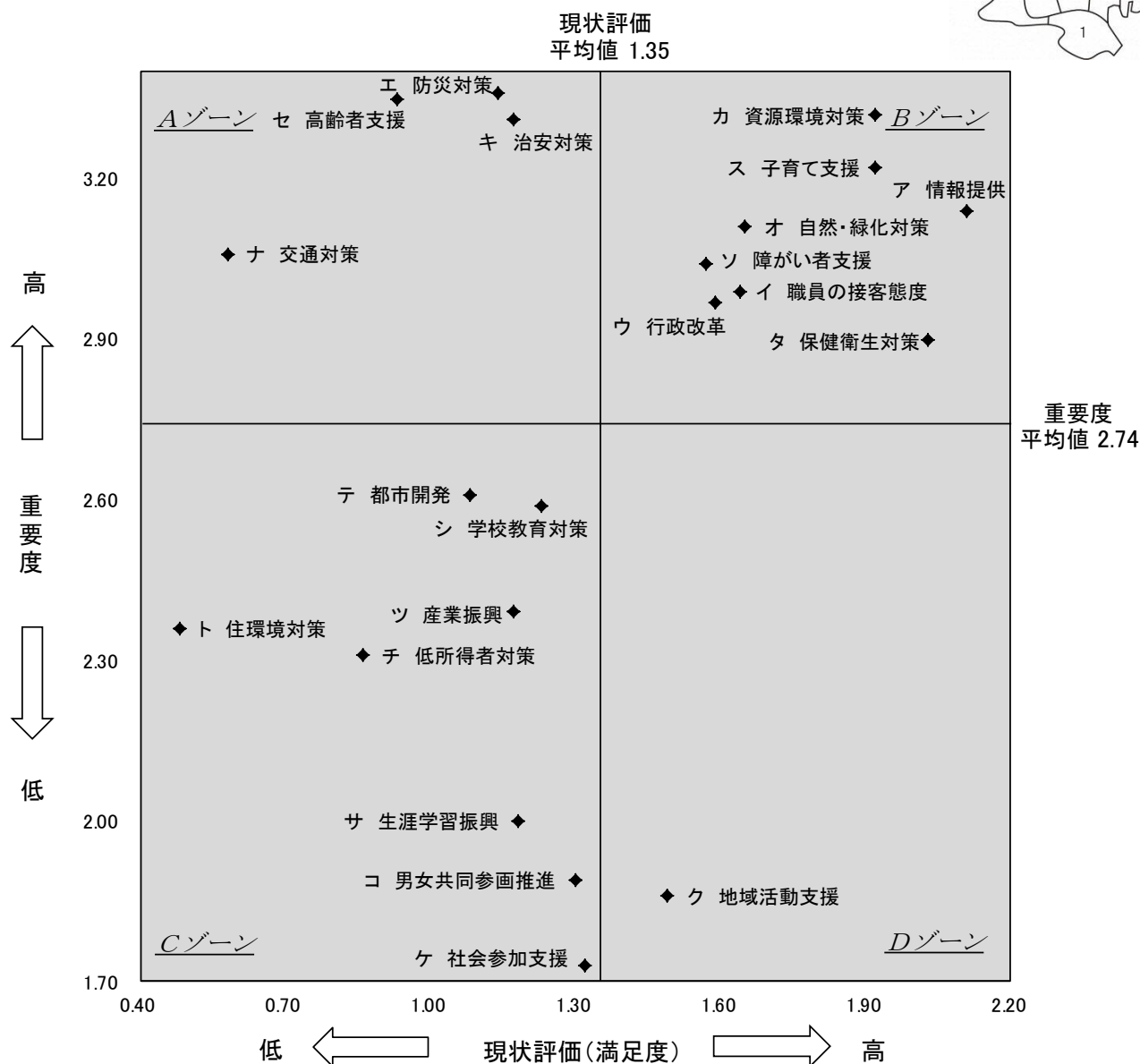
満足度の低い「住環境対策」のほか「低所得者対策」など計8項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

重要度の低い「地域活動支援」のみがあげられている。



図11-1-4-⑬ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第13地域



《第14地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高く、満足度が低い「交通対策」、重要度が高い「防災対策」、満足度が低い「治安対策」のほか、「行政改革」と「高齢者支援」の計5項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度と重要度がともに高い「子育て支援」、満足度の高い「職員の接客態度」、重要度の高い「情報提供」など、計7項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

満足度の低い「低所得者対策」と「産業振興」のほか、計8項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「社会参加支援」のみの1項目があげられている。

地域区分図

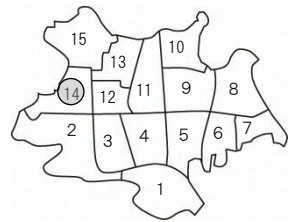
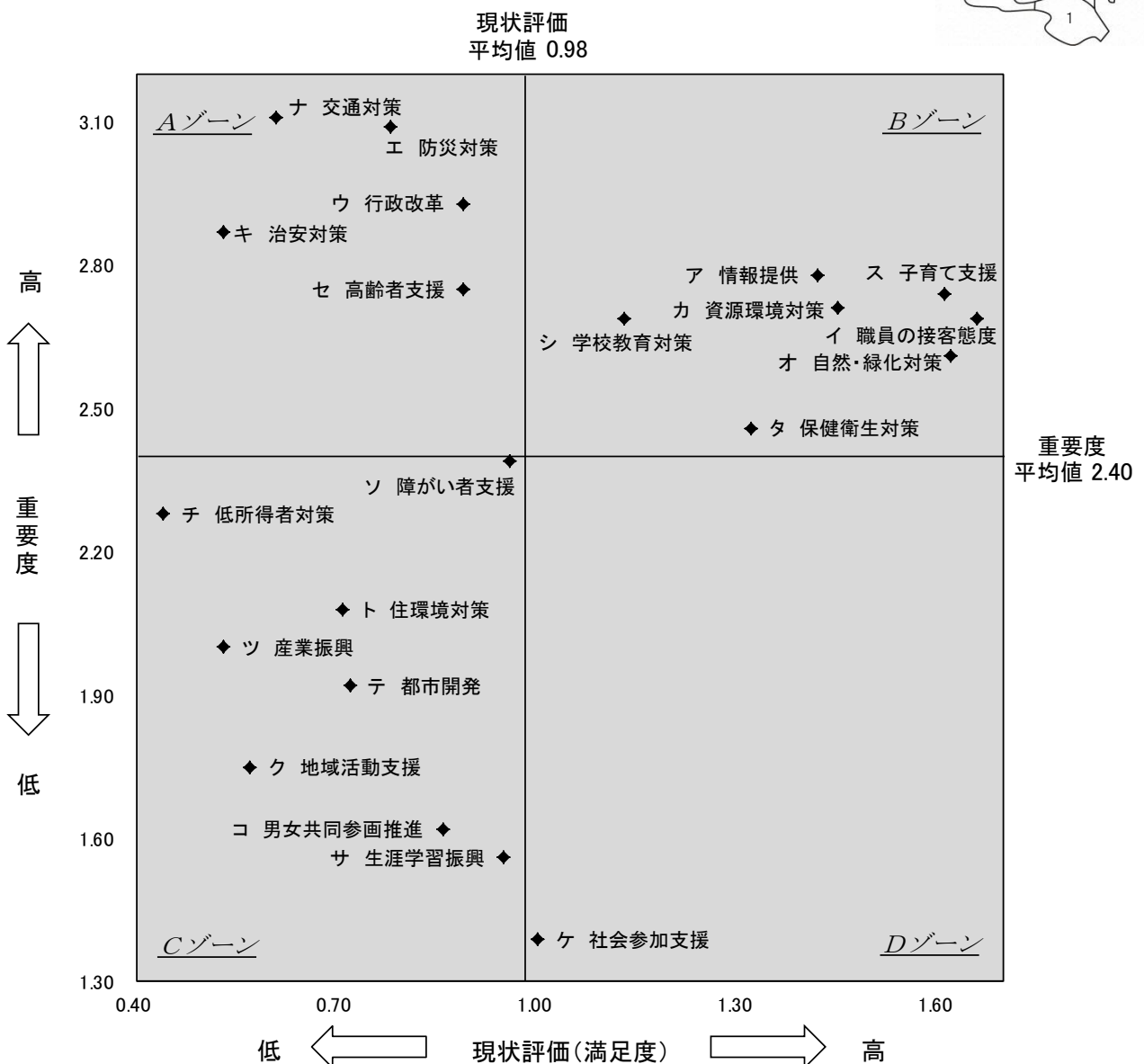


図11－1－4－⑭ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第14地域



《第15地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高い「防災対策」、満足度が低めな「交通対策」と「治安対策」のほか、「行政改革」と「学校教育支援」の計5項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

満足度と重要度がともに高い「情報提供」、満足度の高い「資源環境対策」のほか、「職員の接客態度」、「子育て支援」など、計7項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

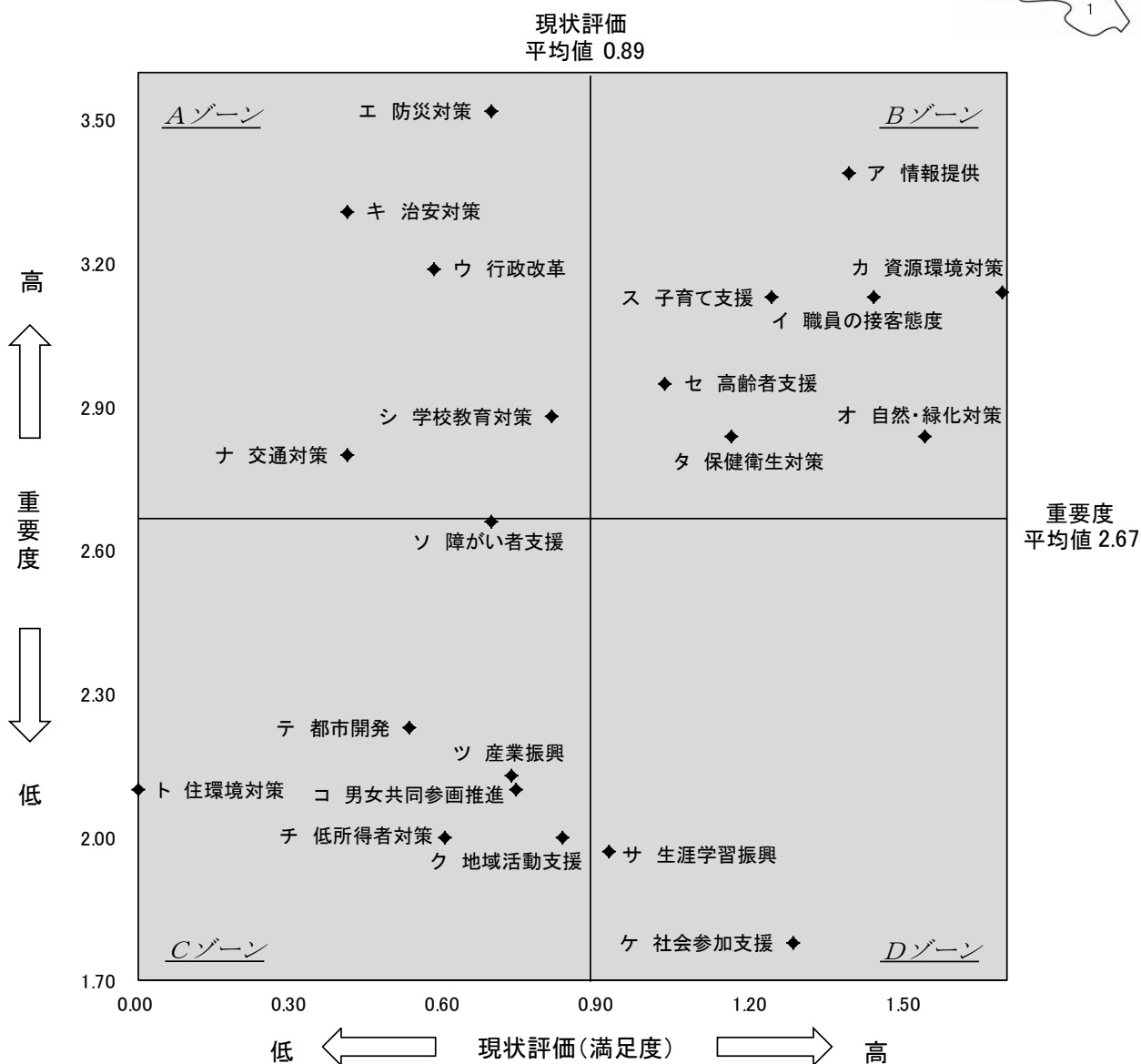
満足度の低い「住環境対策」のほかに、「低所得者対策」など計7項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「社会参加支援」と「生涯学習振興」の2項目があげられている。



図11-1-4-⑮ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第15地域

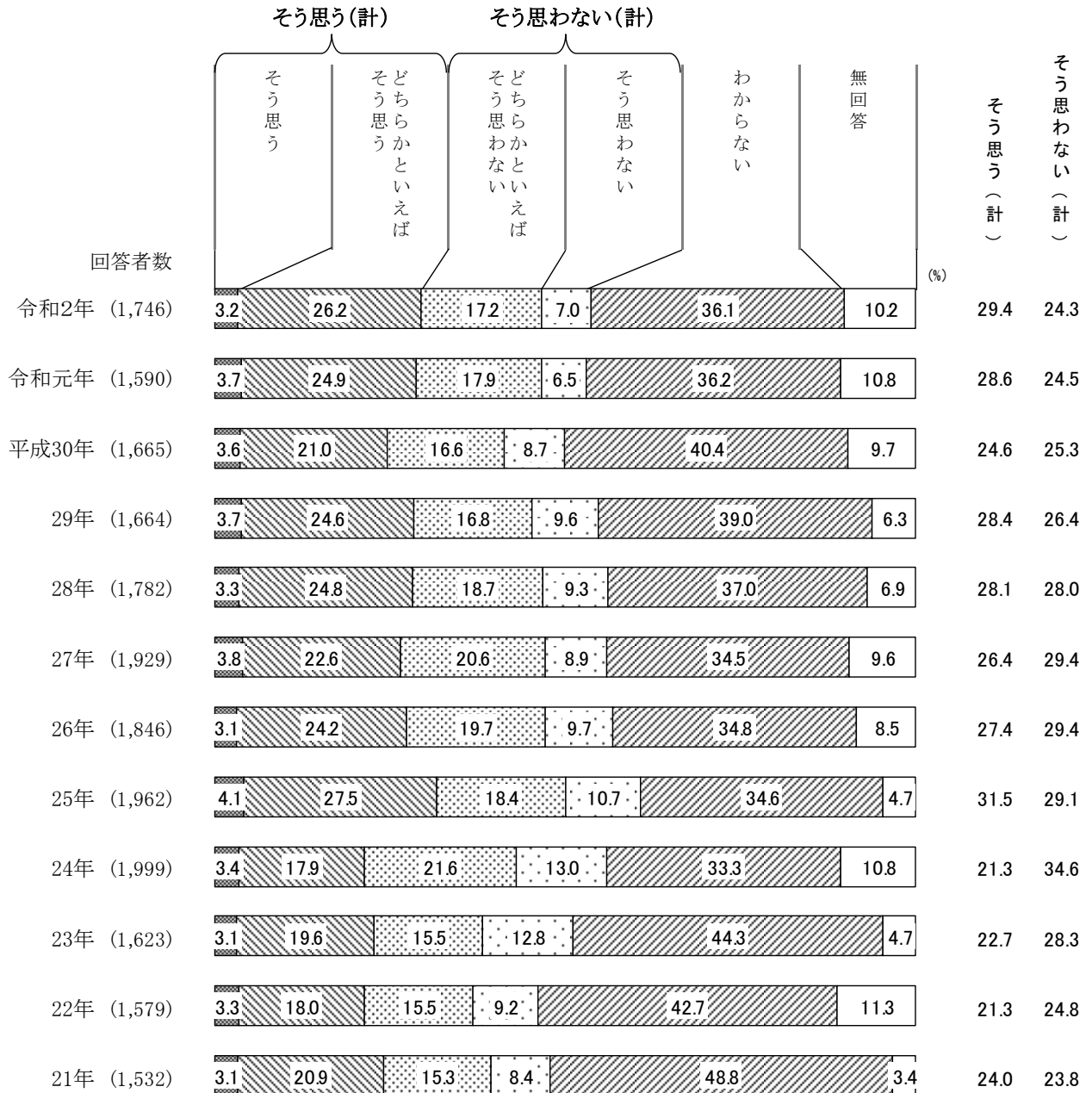


(2) 区政への区民意見の反映度

■【そう思う】は、前年より微増してほぼ3割で、【そう思わない】を上回っている

問51 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

図11-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度



区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(3.2%)と「どちらかといえばそう思う」(26.2%)を合わせた【そう思う】は29.4%で、「どちらかといえばそう思わない」(17.2%)と「そう思わない」(7.0%)を合わせた【そう思わない】(24.3%)を5.1ポイントながら上回っている。

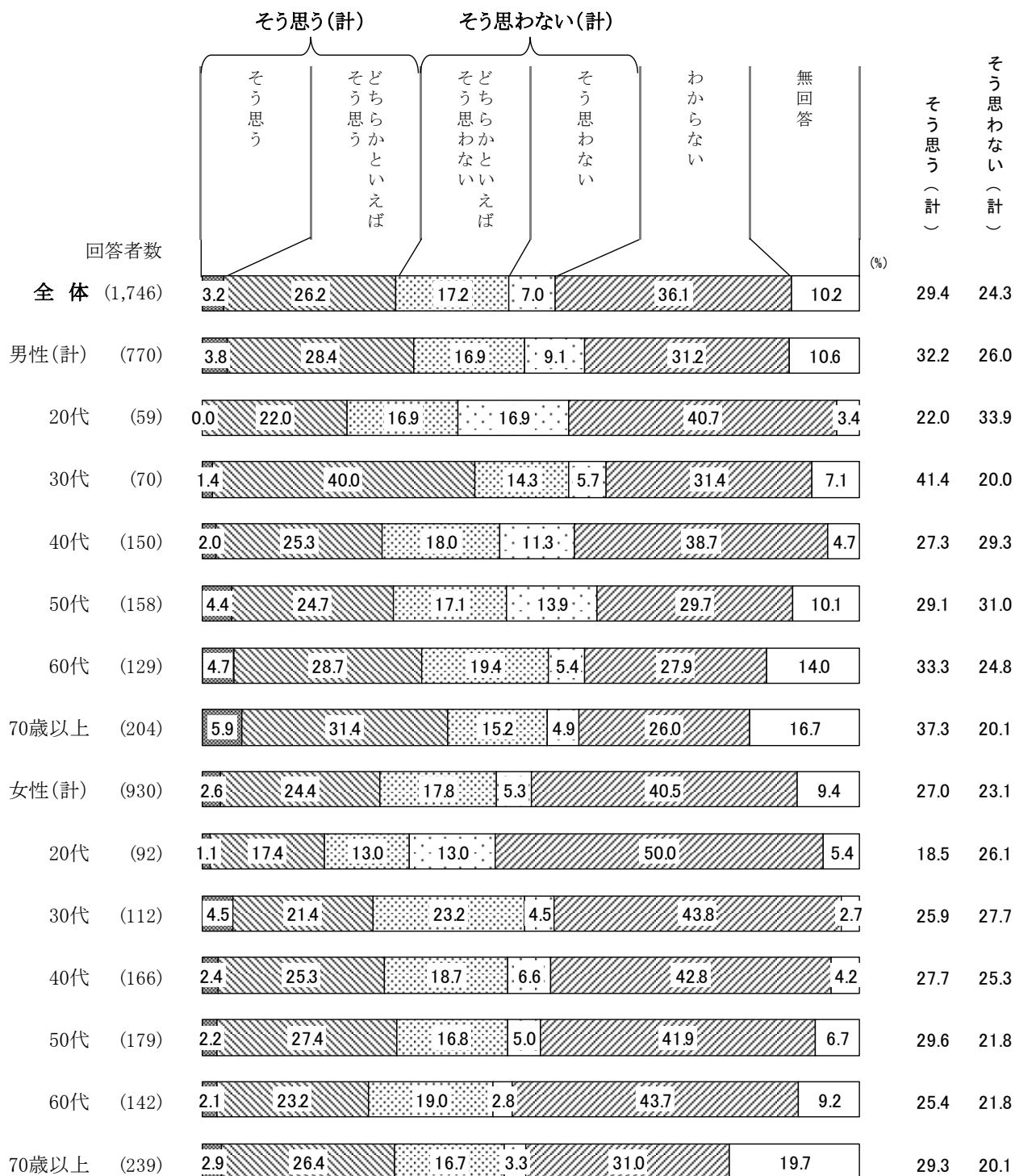
経年でみると、【そう思う】は今回29.4%と、前回の28.6%から0.8ポイントと僅かながら増加している。

### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

性別でみると、【そう思う】は男性で32.2%と、女性（27.0%）よりやや高くなっている。

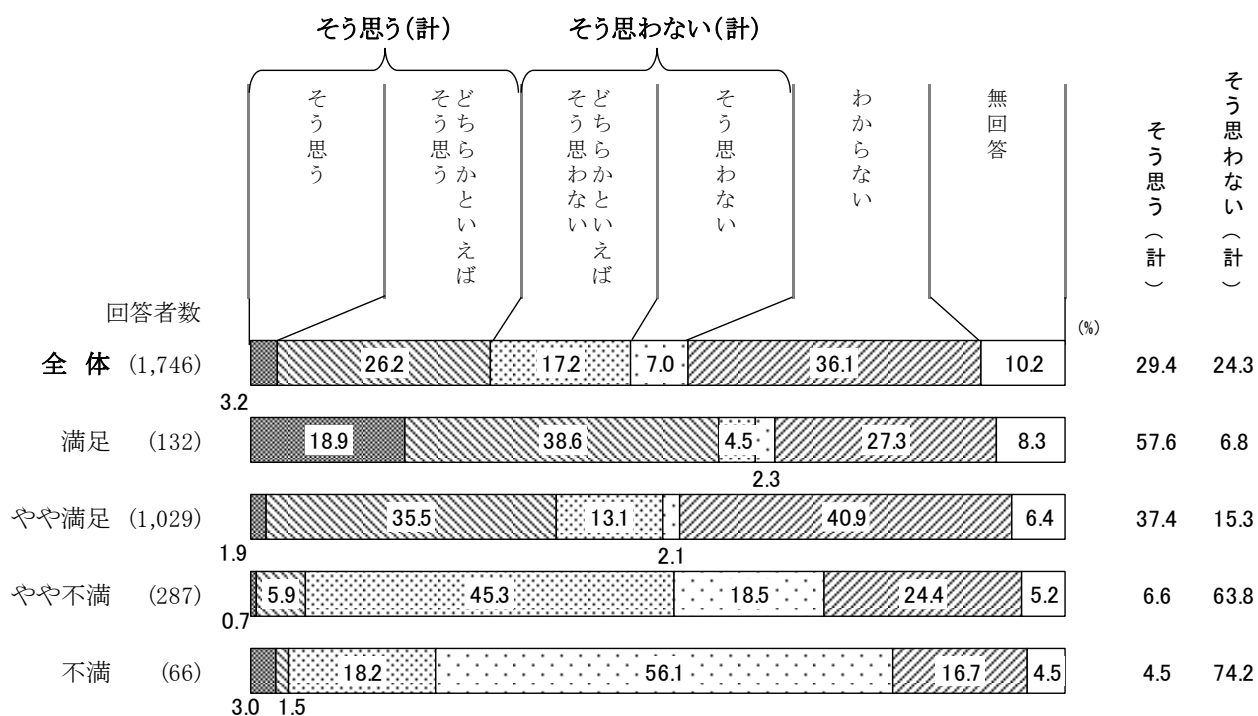
性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代で4割強ととくに高く、70歳以上も4割弱と高くなっており、男性のこの両年代層は【そう思わない】を20ポイント前後上回っている。女性では50代と70歳以上で【そう思う】が3割弱と高くなっており、女性のこの層では【そう思わない】を10ポイント近く上回っている。一方、男女の20代は【そう思わない】が【そう思う】を10ポイント前後上回っている。

図11-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



区政満足度別でみると、【そう思う】の割合は、区政への満足度が高くなるほど増加し、満足している層では57.6%で6割弱と高くなっている。

図11-2-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(3) 区に対する気持ち

■ “足立区に愛着”と“足立区を良いまちにする活動をする人に共感”がともに7割台後半

問52 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

図11-3-1-① 経年比較／区に対する気持ち

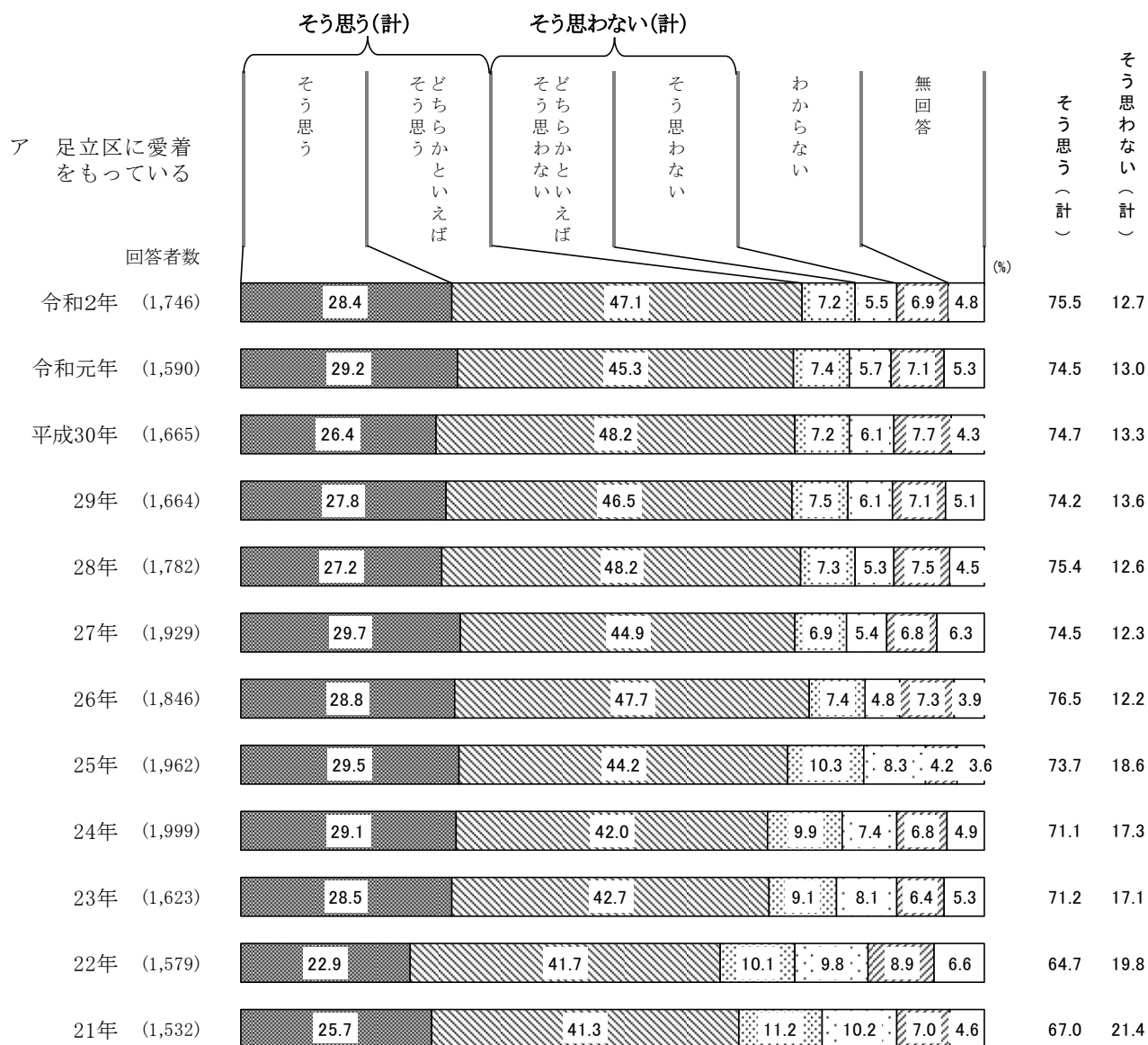




図11-3-1-② 経年比較／区に対する気持ち

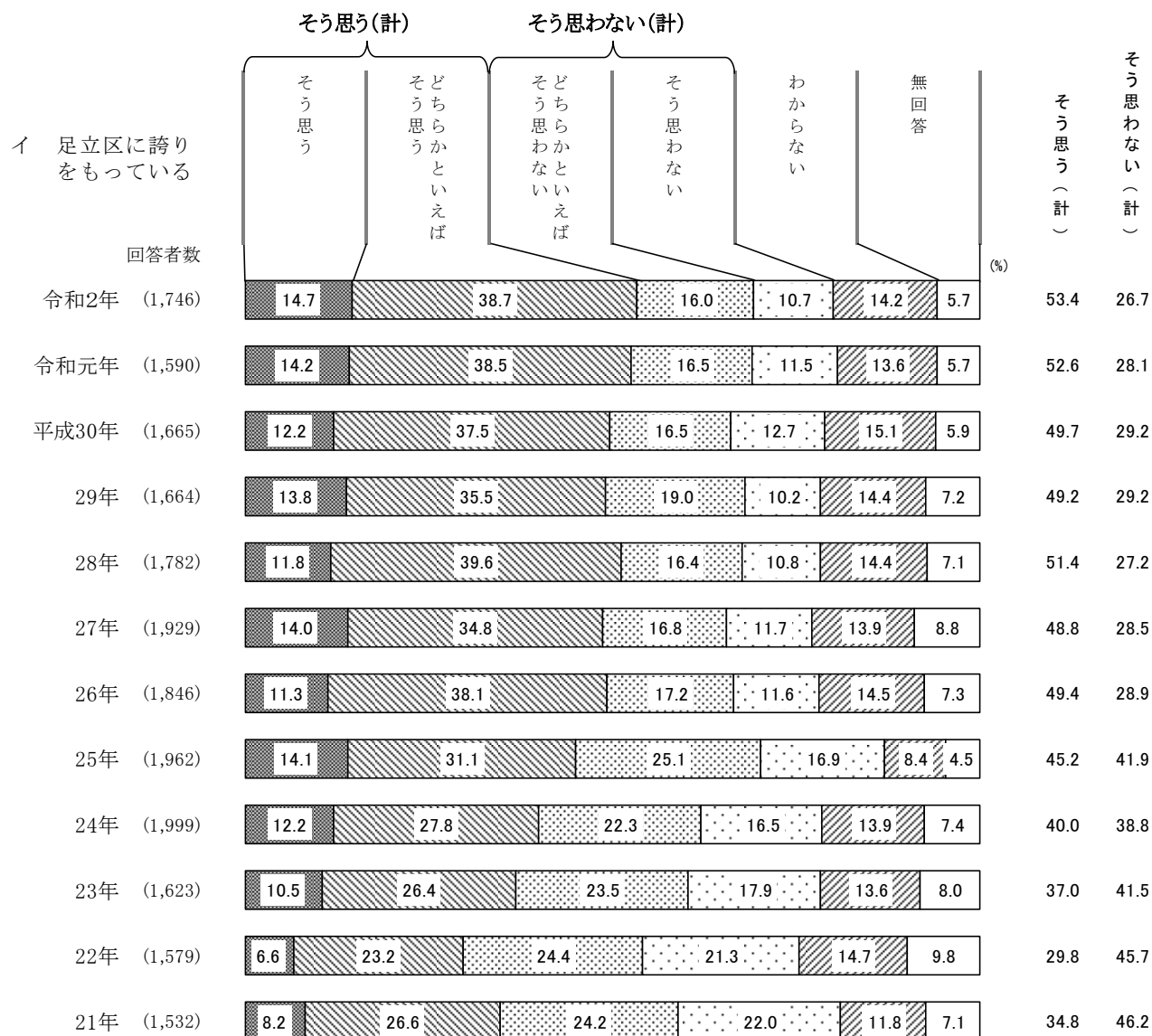


図11-3-1-③ 経年比較／区に対する気持ち

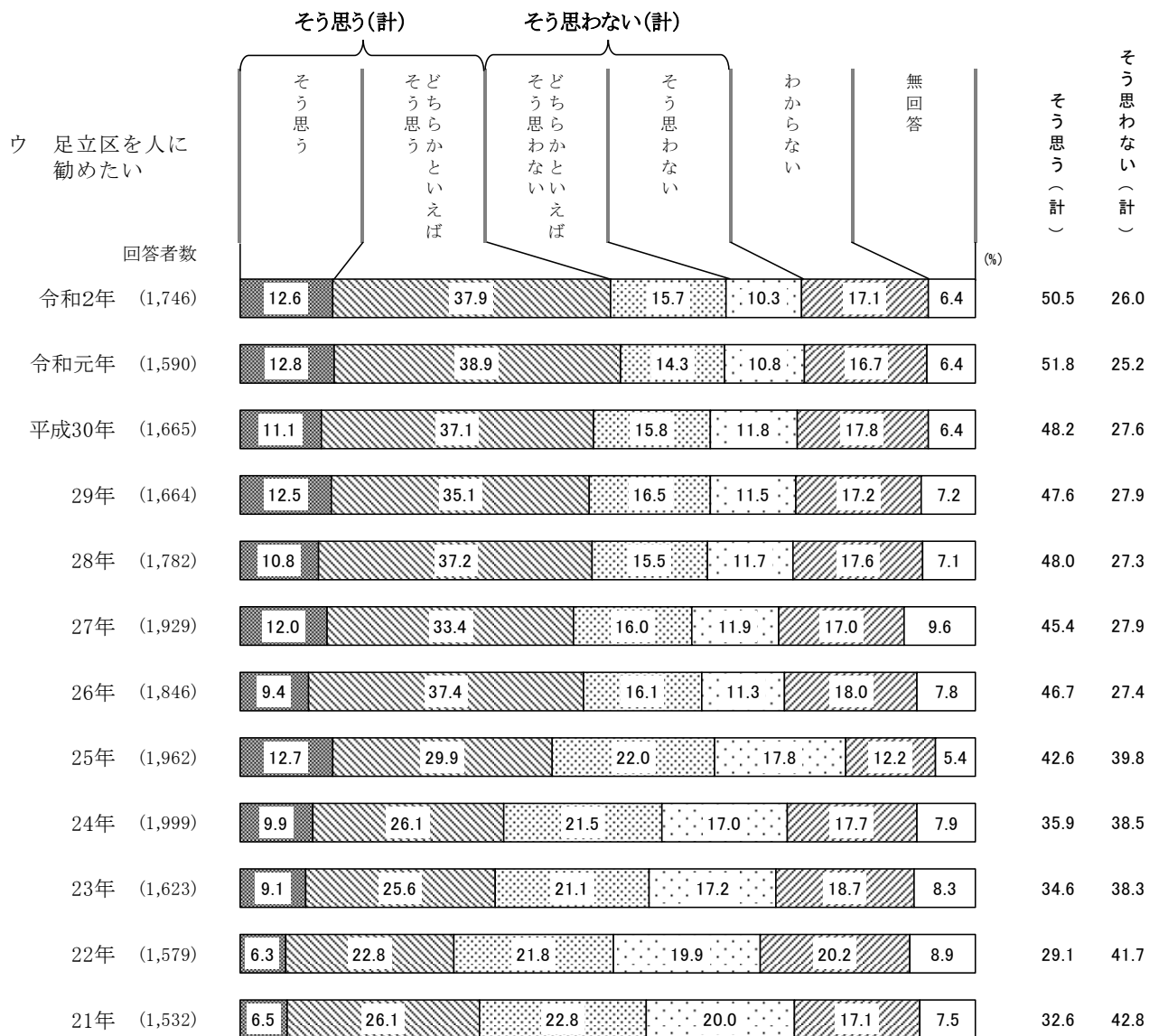
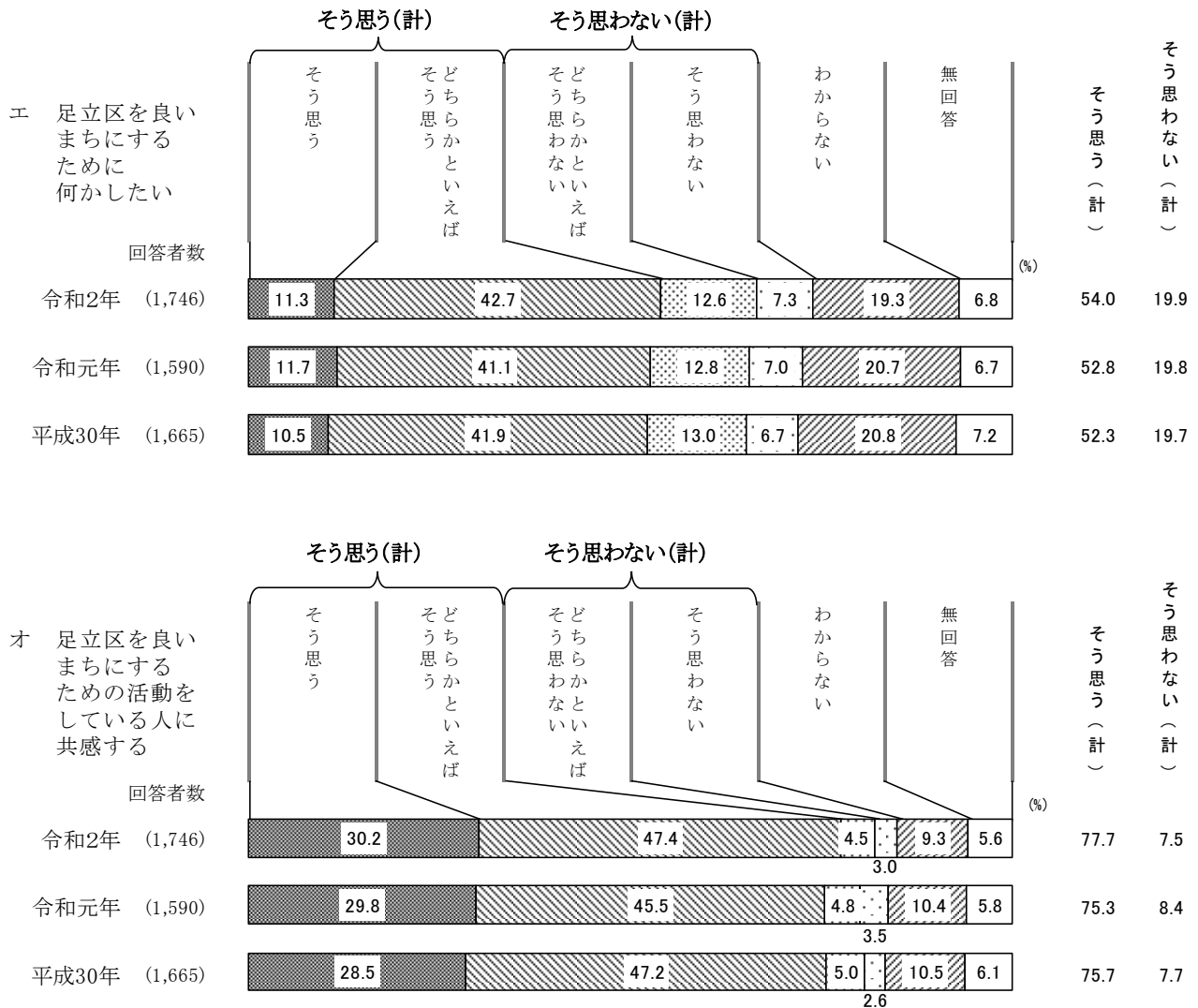


図11-3-1-④ 経年比較／区に対する気持ち



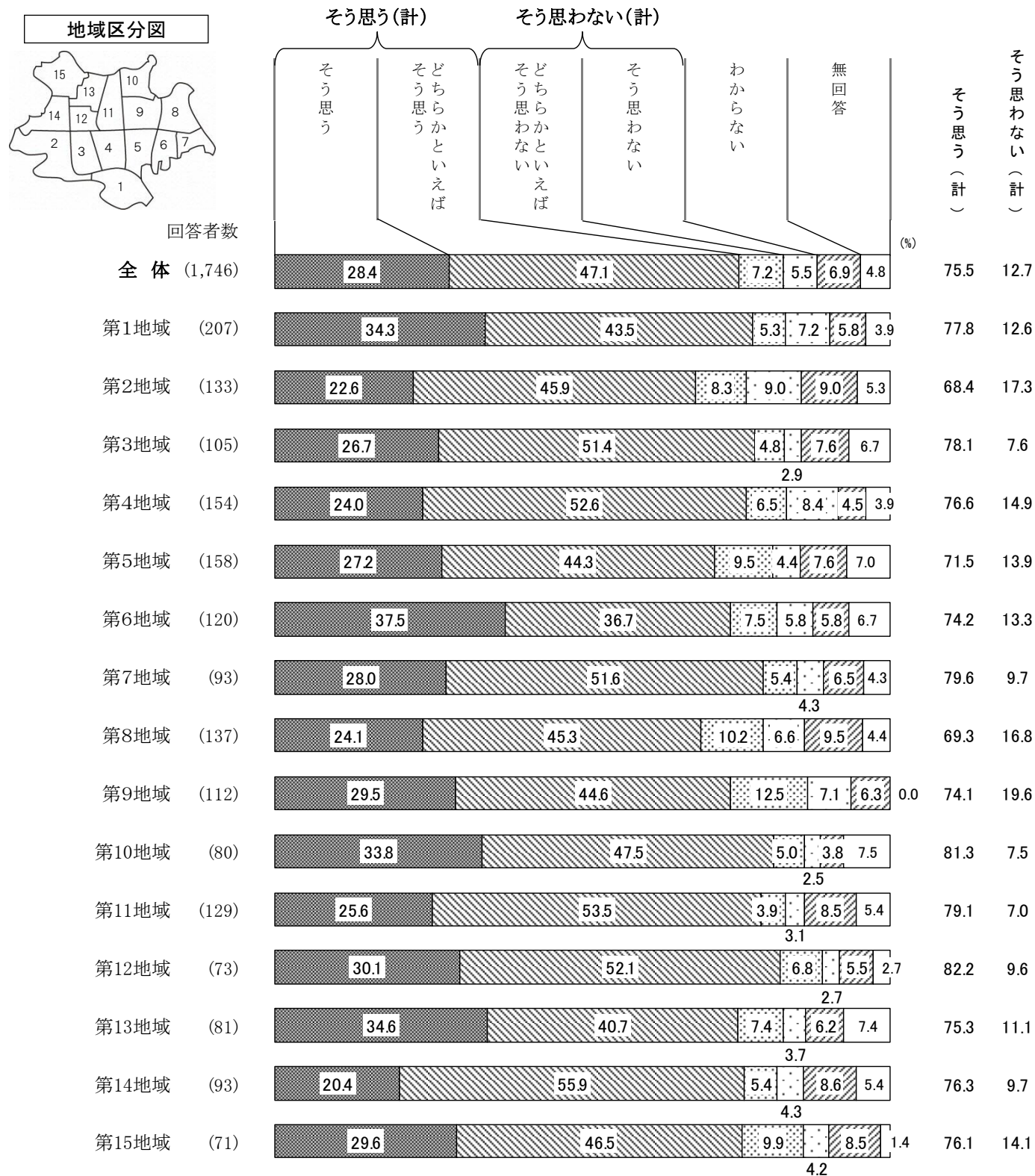
区に対する気持ちについて計5項目に亘って聴いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉が77.7%、〈足立区に愛着をもっている〉が75.5%で、この2項目が7割台半ばから8割弱の僅差で並んで高く、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉が54.0%、〈足立区に誇りをもっている〉が53.4%、〈足立区を人に勧めたい〉が50.5%で、この3項目も5割強から5割台半ばで並んで続く結果となっている。

平成21年から測定している3項目の【そう思う】の結果を経年でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は前回より1.0ポイント増加ながら、ここ6年間ほどは各年7割台半ばでほぼ横ばい状態にある。〈足立区に誇りをもっている〉は前回より0.8ポイント増と微増ながらこれまでで最も高くなっている。一方、前回初めて5割を超えた〈足立区を人に勧めたい〉は前回より1.3ポイント減少したが5割超を保っており、3項目共に高いレベルを維持して推移している。

### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

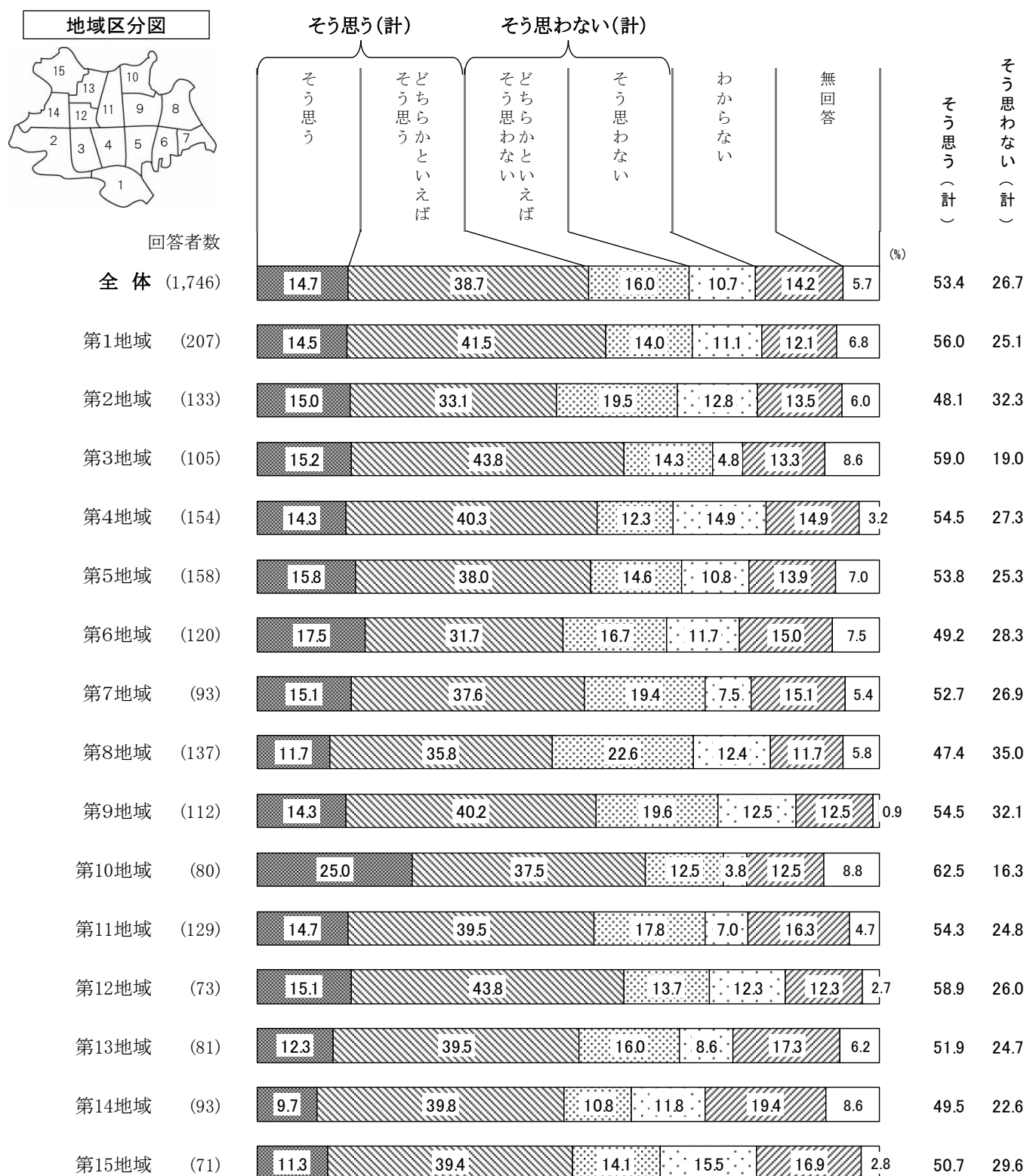
地域別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、【そう思う】は第12地域と第10地域で8割を超えて高くなっており、第1地域、第3地域、第7地域、第11地域もそれぞれ8割弱とやや高くなっている。一方で、【そう思う】が低めなのは、6割台にとどまる第2地域と第8地域となっている。

図11-3-2-① 地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



地域別でみると、〈足立区に誇りをもっている〉では、【そう思う】が、第10地域で6割強と最も高く、第3地域と第12地域も6割弱で高いが、第2地域、第6地域、第8地域、第14地域の4地域では5割に届かず、他の地域より低めとなっている。

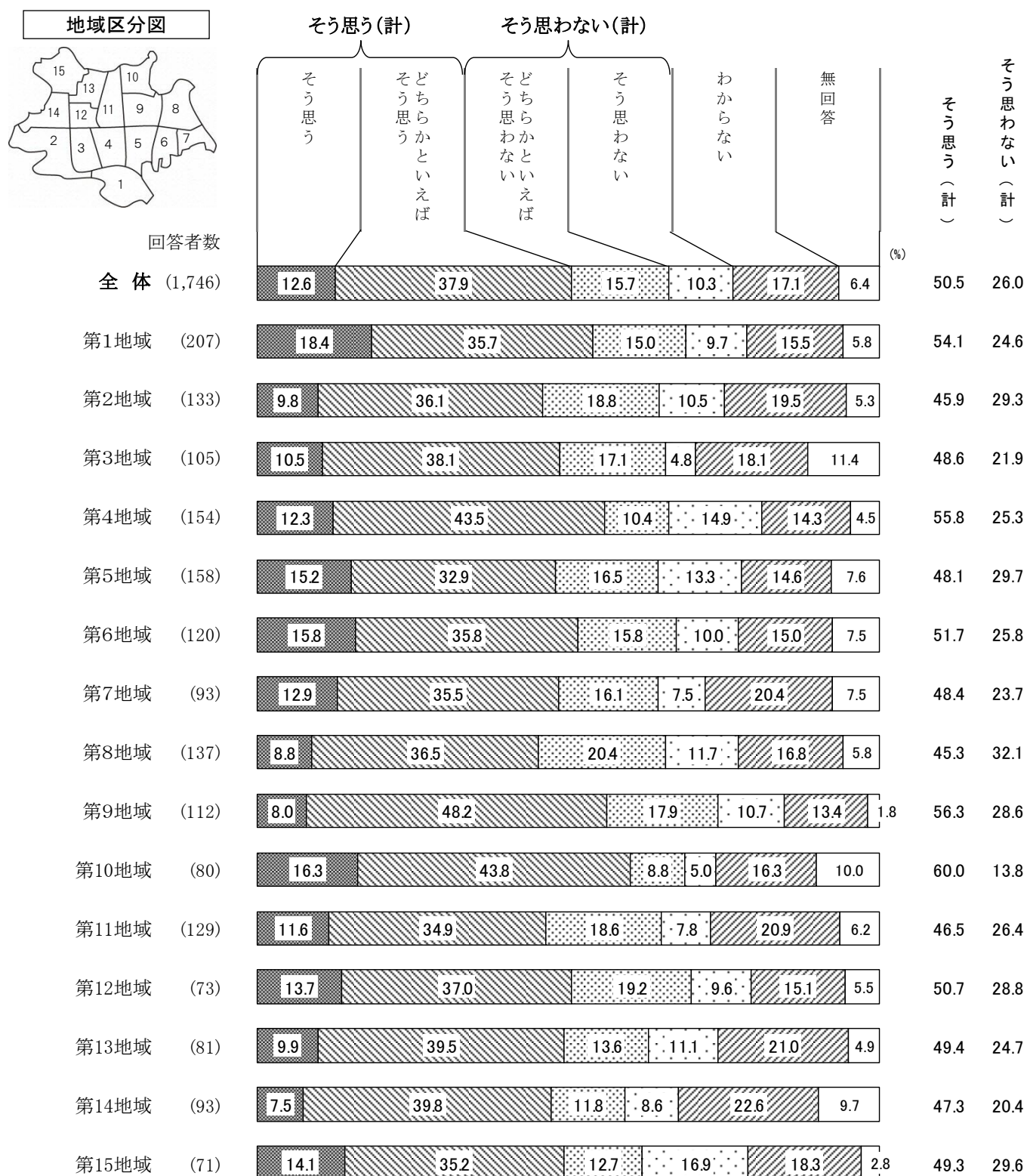
図11-3-2-② 地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

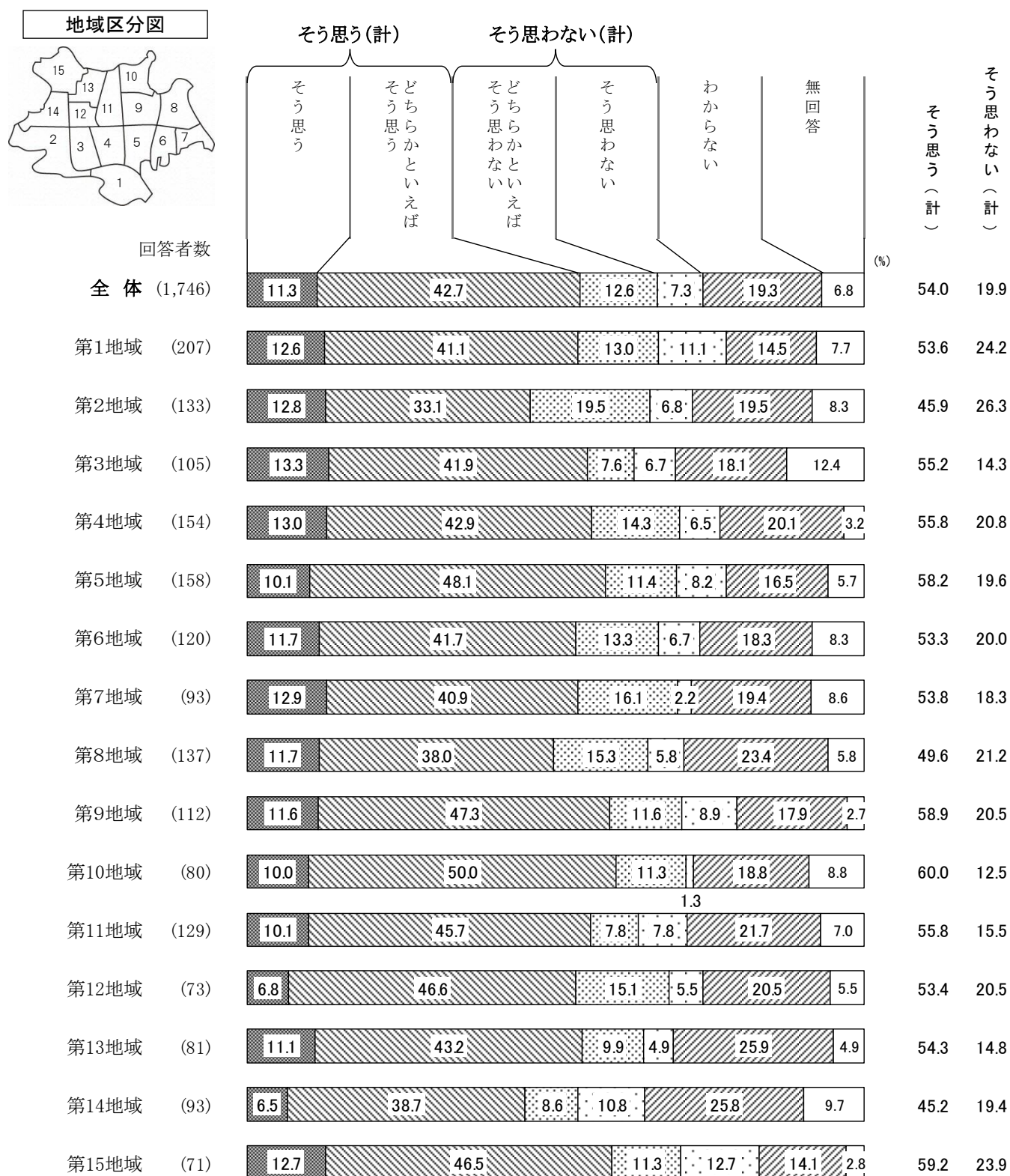
地域別でみると、〈足立区を人に勧めたい〉では、【**そう思う**】が、第10地域で6割に達して最も高く、第1地域、第4地域、第9地区でも5割台半ばで高めとなっているが、第2地域、第8地域、第11地域の3地域では4割台半ばにとどまり、他の地域より低めとなっている。

図11-3-2-③ 地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



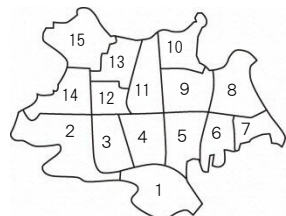
地域別でみると、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉では、【**そう思う**】が、第10地域で6割に達して最も高く、第5地域、第9地域、第15地域もそれぞれ6割弱で続いて高めだが、第2地域と第14地域では4割台半ばにとどまり、他の地域より低くなっている。

図11-3-2-④ 地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



地域別でみると、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では、【そう思う】が、第15地域で8割台半ばととくに高いのを除くと、すべての地域が7割台半ば以上となっており、地域による大きな違いはみられない。

地域区分図



回答者数

全体 (1,746)

第1地域 (207)

第2地域 (133)

第3地域 (105)

第4地域 (154)

第5地域 (158)

第6地域 (120)

第7地域 (93)

第8地域 (137)

第9地域 (112)

第10地域 (80)

第11地域 (129)

第12地域 (73)

第13地域 (81)

第14地域 (93)

第15地域 (71)

そう思う(計)

そう思わない(計)

そ

そと

そど

そ

わ

無

そう思う（計）

そう思わない（計

(%)

9.3	5.6
-----	-----

7.7	6.3
-----	-----

9.0	6.0
-----	-----

	10.5
--	------

9.7	3
-----	---

0.1	5.1
-----	-----

6.7	7.5
-----	-----

3.6	6.5
-----	-----

2.4	5.1
-----	-----

11.6

5	7.5
---	-----

0.1	5.4
-----	-----

6.8 4.1

9.9	4.9
-----	-----

7	7.5
---	-----

2	:	.	5.6
---	---	---	-----

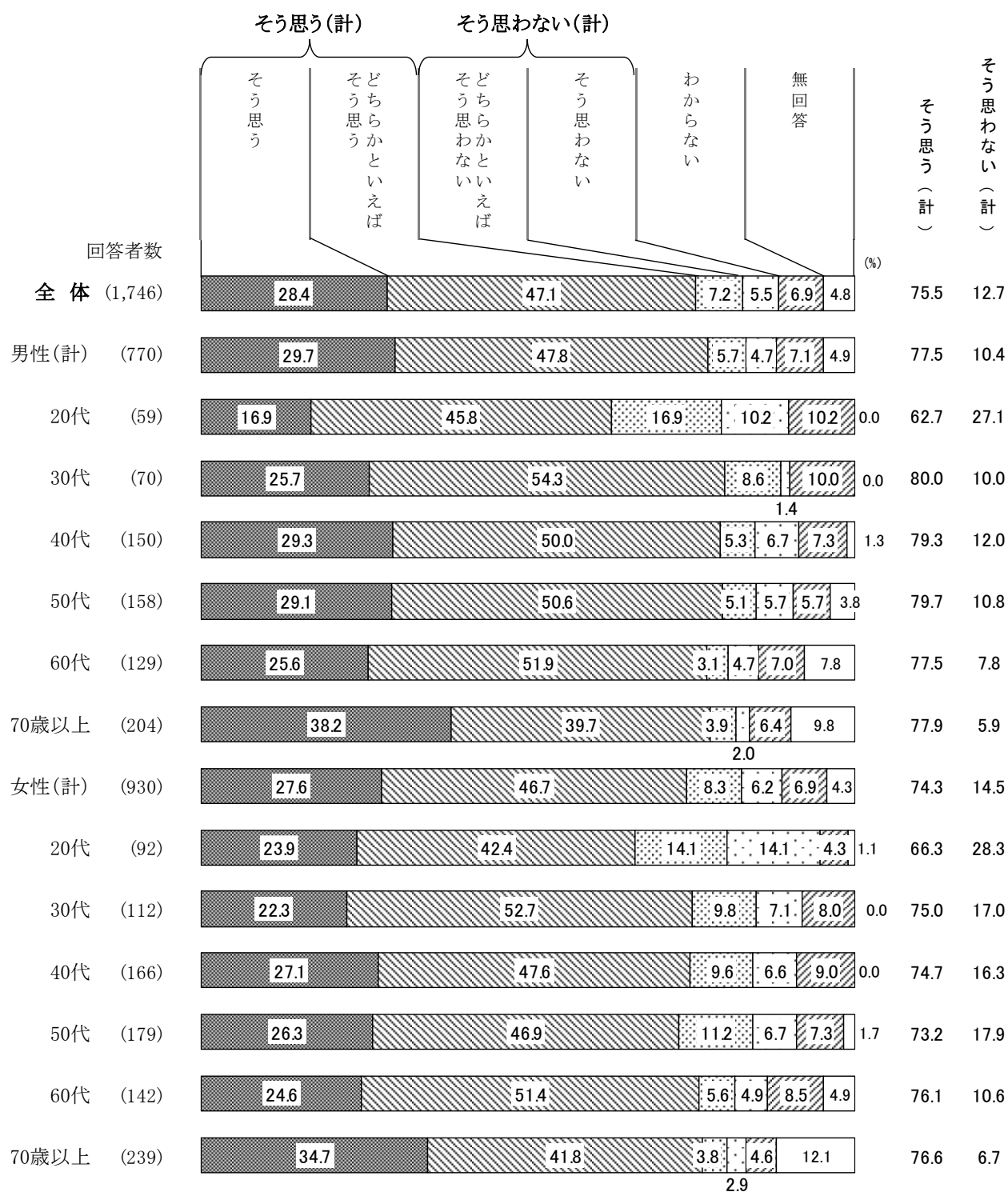
2.8



〈足立区に愛着をもっている〉について性別でみると、【そう思う】は男性77.5%、女性74.3%となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男女ともに20代で6割台と低いのを除くと、他の性・年代層で目立った大きな違いはみられない。

図11-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

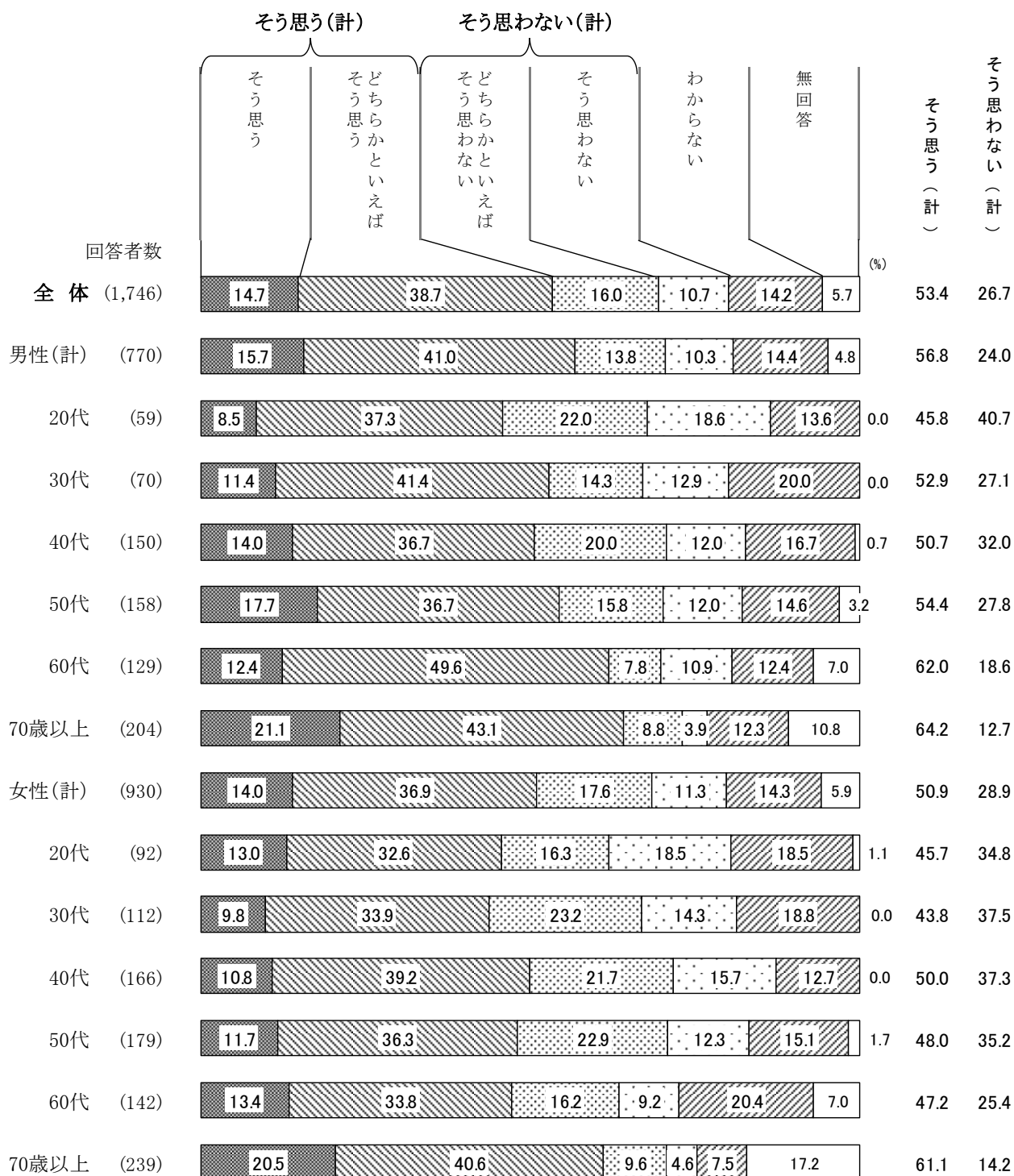


### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

〈足立区に誇りをもっている〉について性別でみると、【そう思う】は男性56.8%、女性50.9%となっており、男性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では60代と70歳以上で、女性では70歳以上で、それぞれ6割台前半と、他の性・年代層に比べて高くなっている。

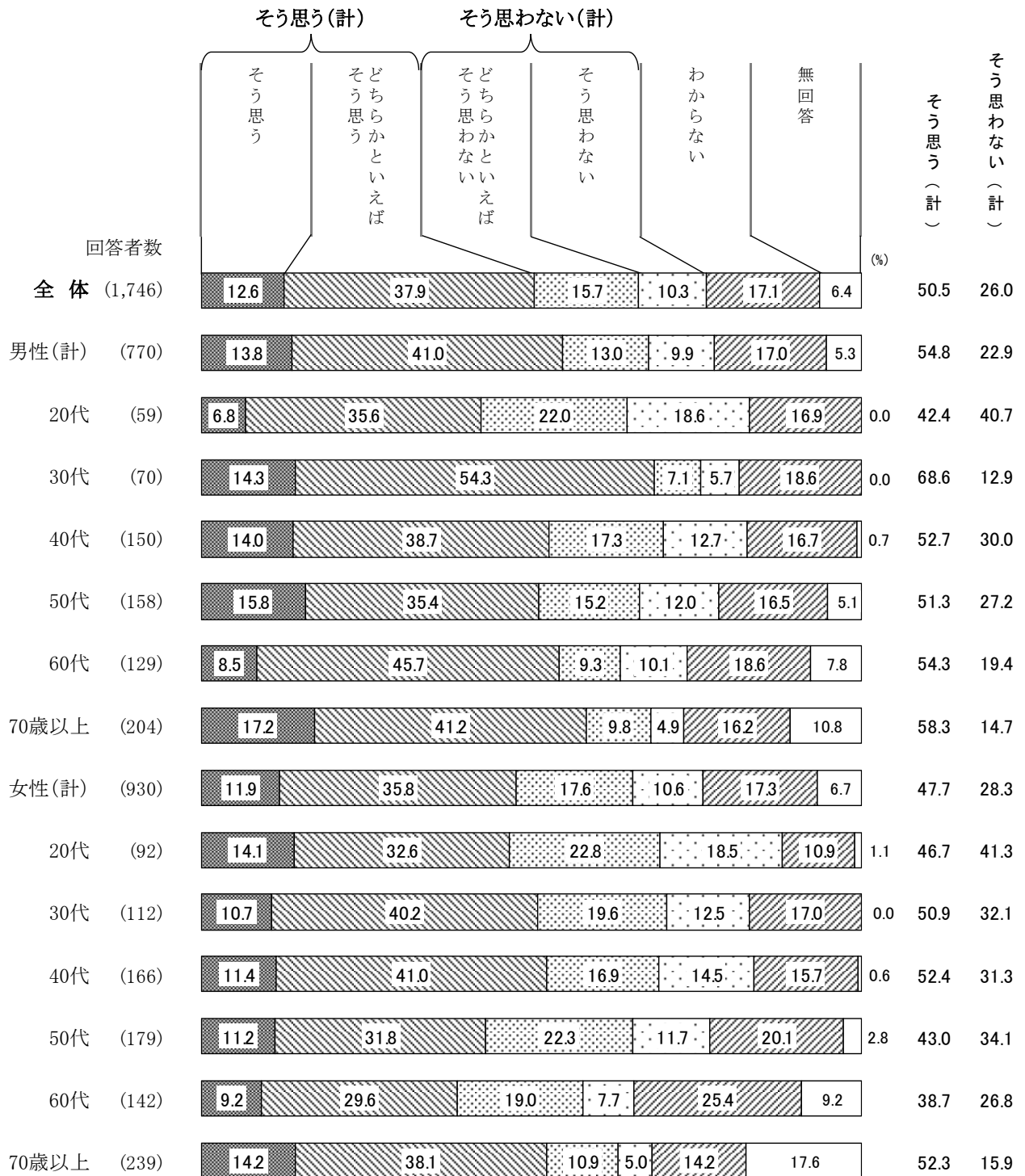
図11-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



〈足立区を人に勧めたい〉について性別でみると、【そう思う】は男性54.8%、女性47.7%で、男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代が7割弱でとくに高く、女性では40代と70歳以上が5割強でやや高くなっている。

図11-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

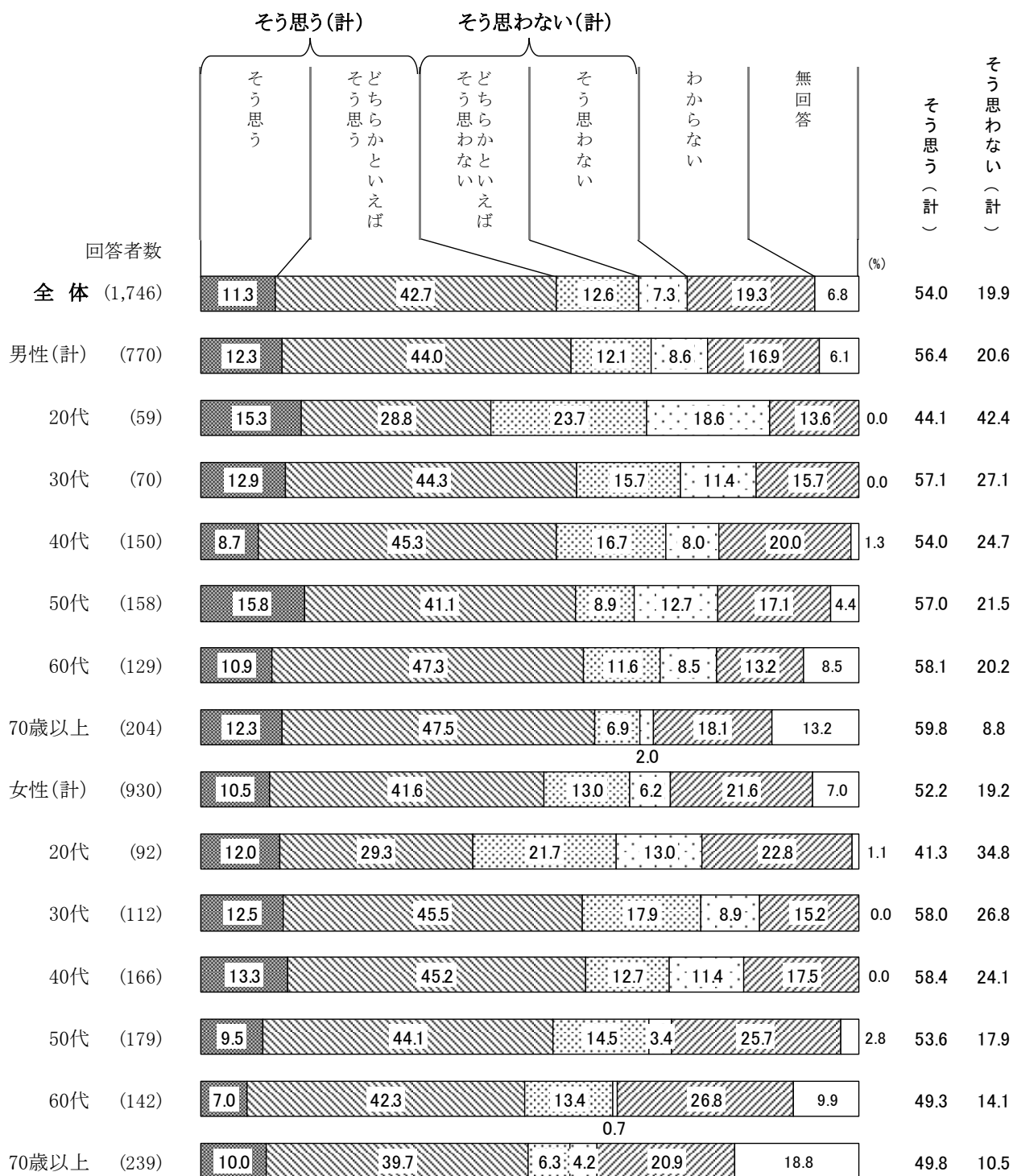


### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について性別でみると、【そう思う】は男性56.4%、女性52.2%となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では60代と70歳以上で、女性では30代と40代で、それぞれ6割弱とやや高くなっている。

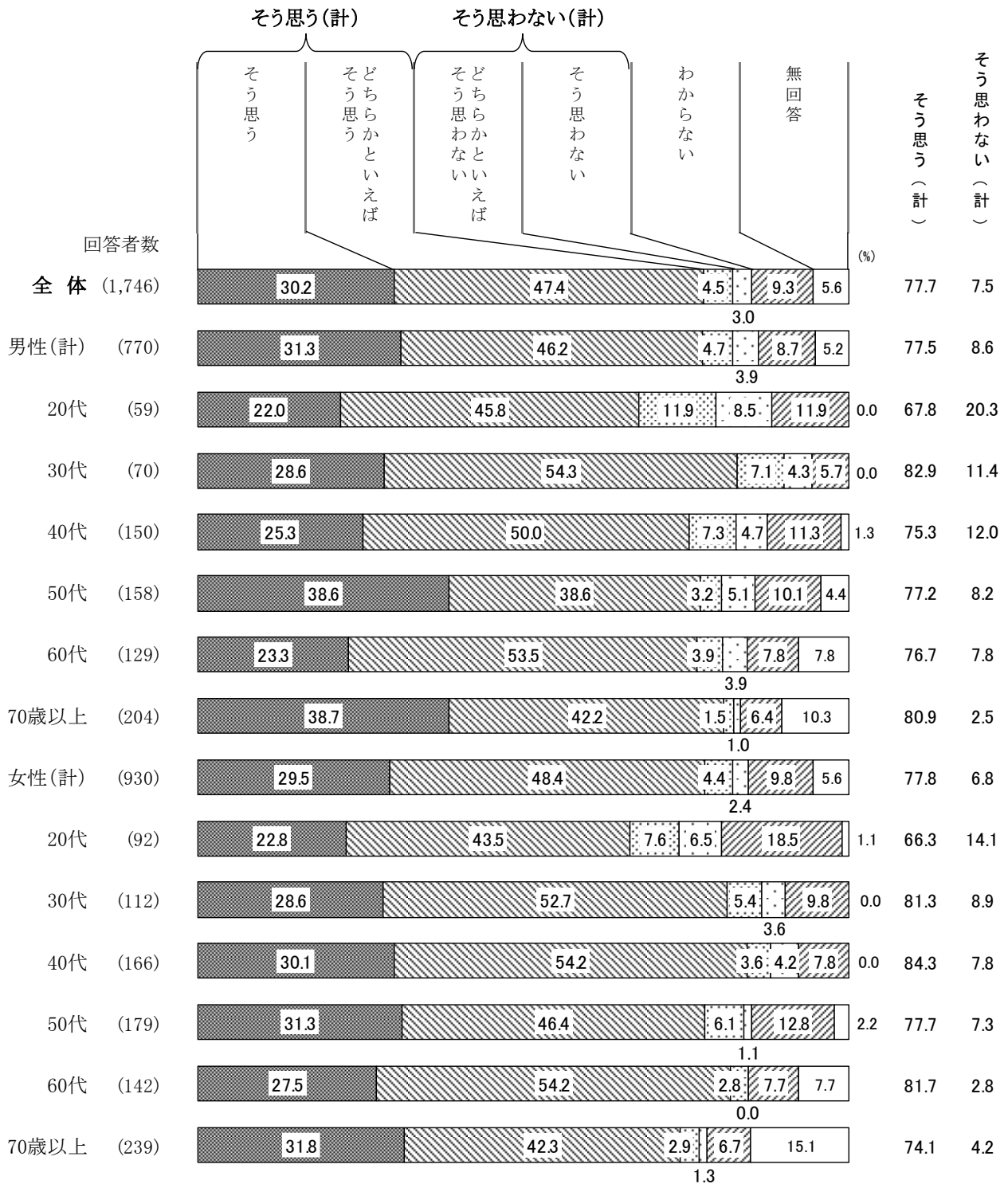
図11-3-3-④ 性別、性・年代別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい



〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について性別でみると、【そう思う】は男性77.5%、女性77.8%とほぼ同率となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代で8割強、女性では40代で8割台半ばと、それぞれやや高くなっている一方、男女の20代でそれぞれ6割台後半と低くなっている。

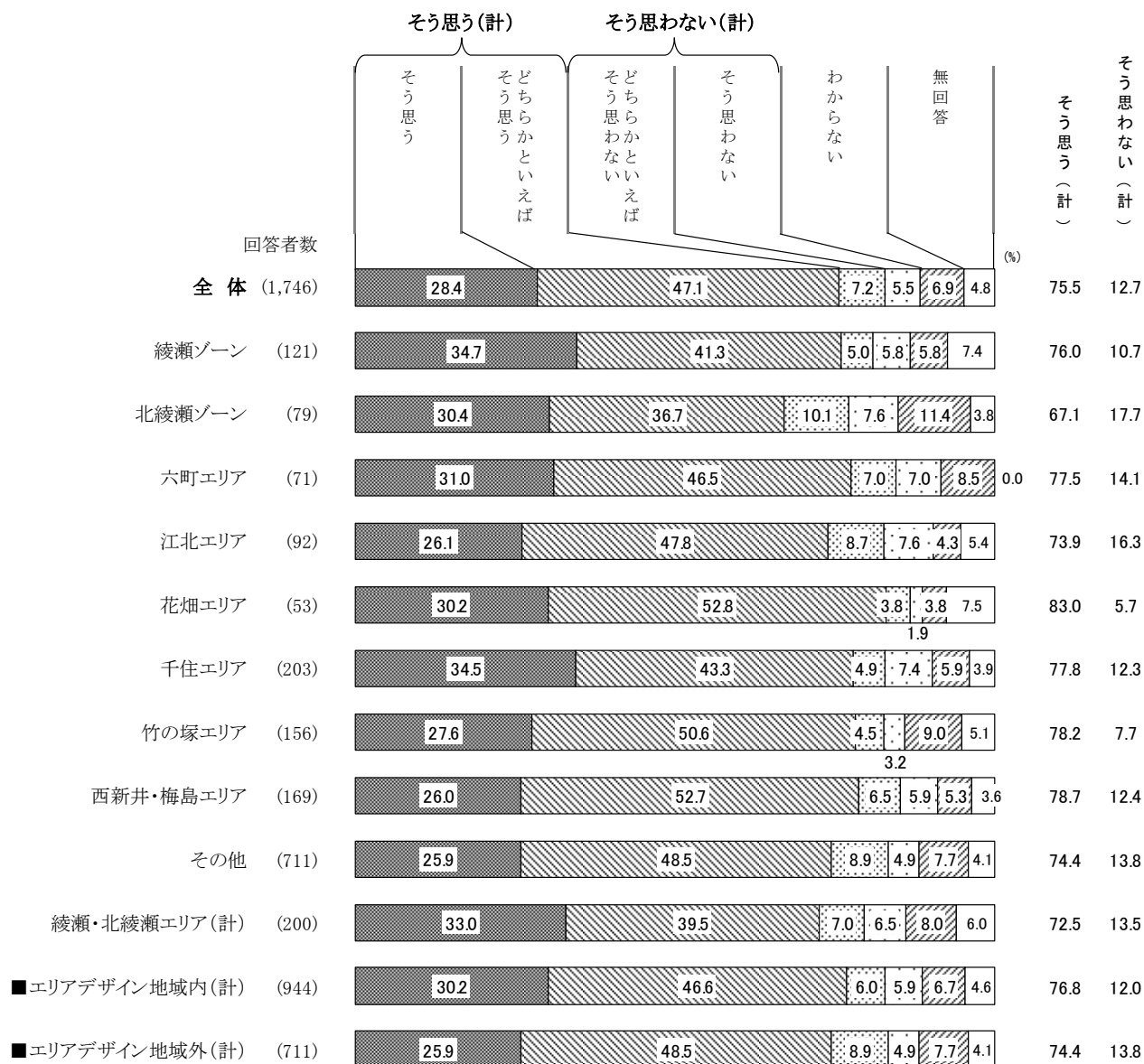
図11-3-3-⑤ 性別、性・年代別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

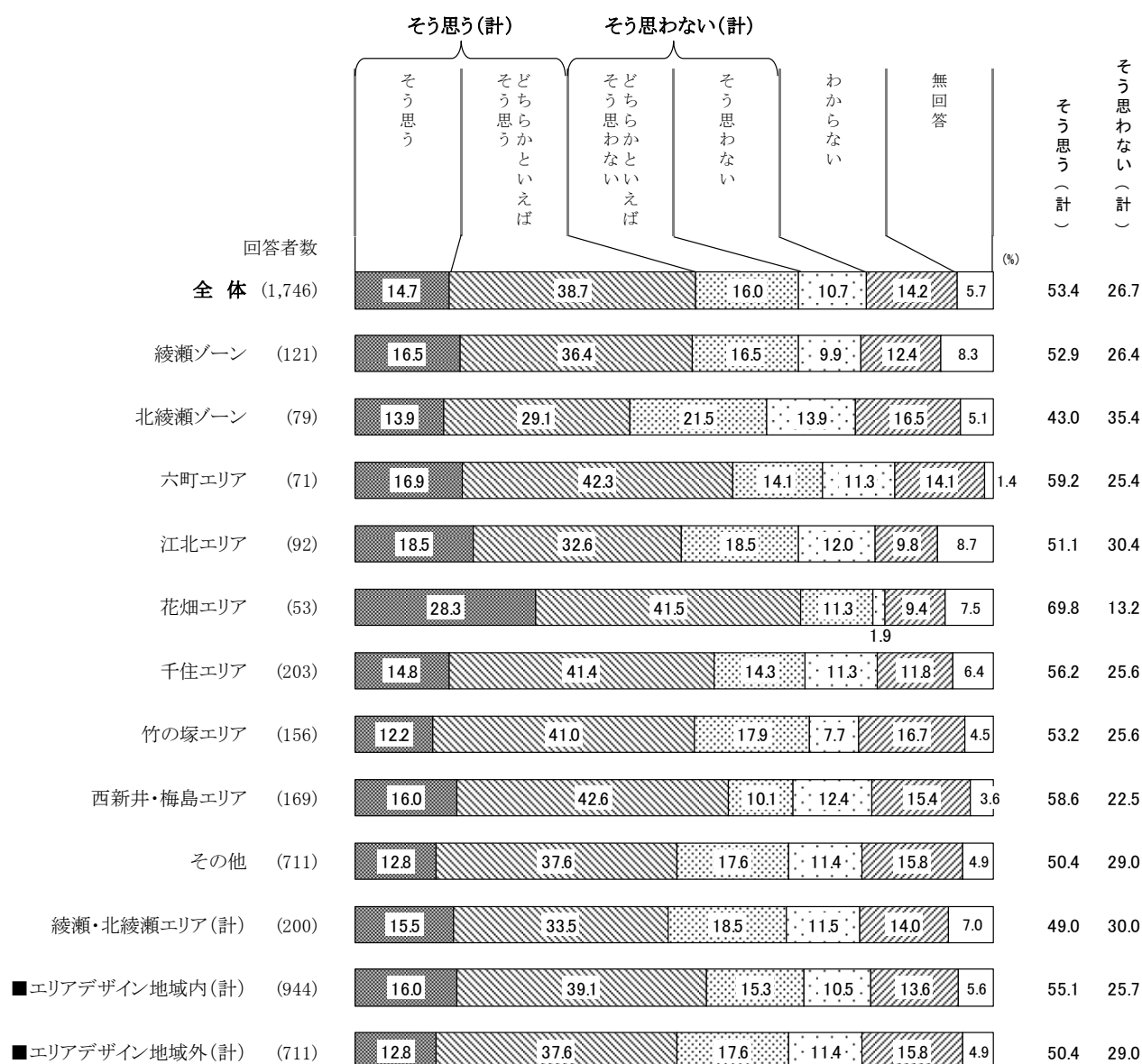
〈足立区に愛着をもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、花畑エリアで8割強と高く、北綾瀬ゾーンで7割弱と低いのを除くと、大きな違いはみられず、また、エリアデザインの地域内（76.8%）と地域外（74.4%）にもあまり違いはみられない。

図11-3-4-① エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、花畑エリアで約7割と高く、北綾瀬ゾーンで4割強と低いのを除くと、目立って大きな違いはみられず、また、エリアデザインの地域内（55.1%）と地域外（50.4%）にも大きな違いはみられない。

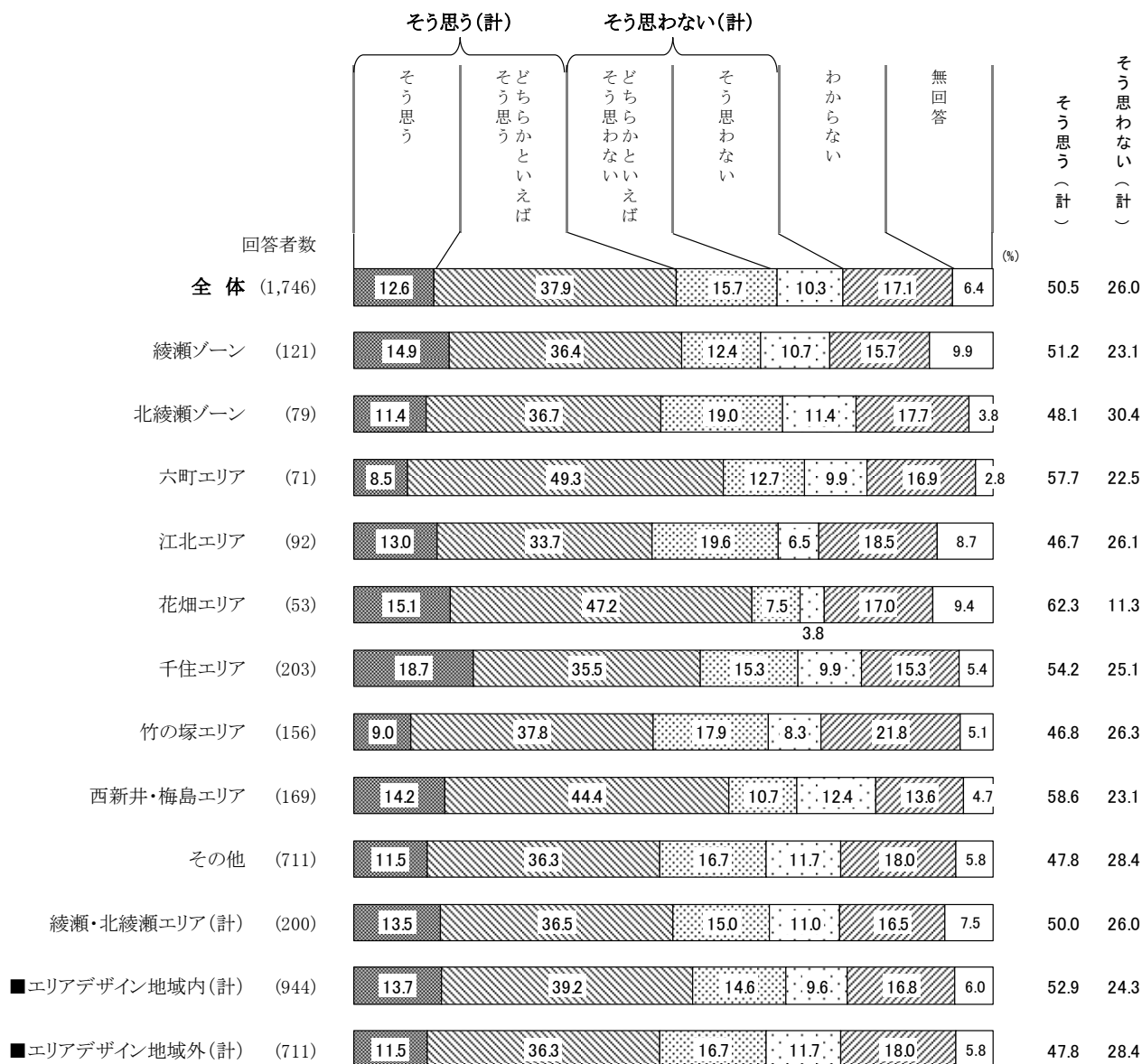
図11-3-4-② エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区に誇りをもっている



### 第3章 調査結果の分析 〈 区 の 取 り 組 み 〉

〈足立区を人に勧めたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、花畑エリアで6割強と高く、江北エリアと竹ノ塚エリアで4割台半ばとやや低いのを除くと大きな違いはみられず、また、エリアデザインの地域内（52.9%）と地域外（47.8%）に大きな違いはみられない。

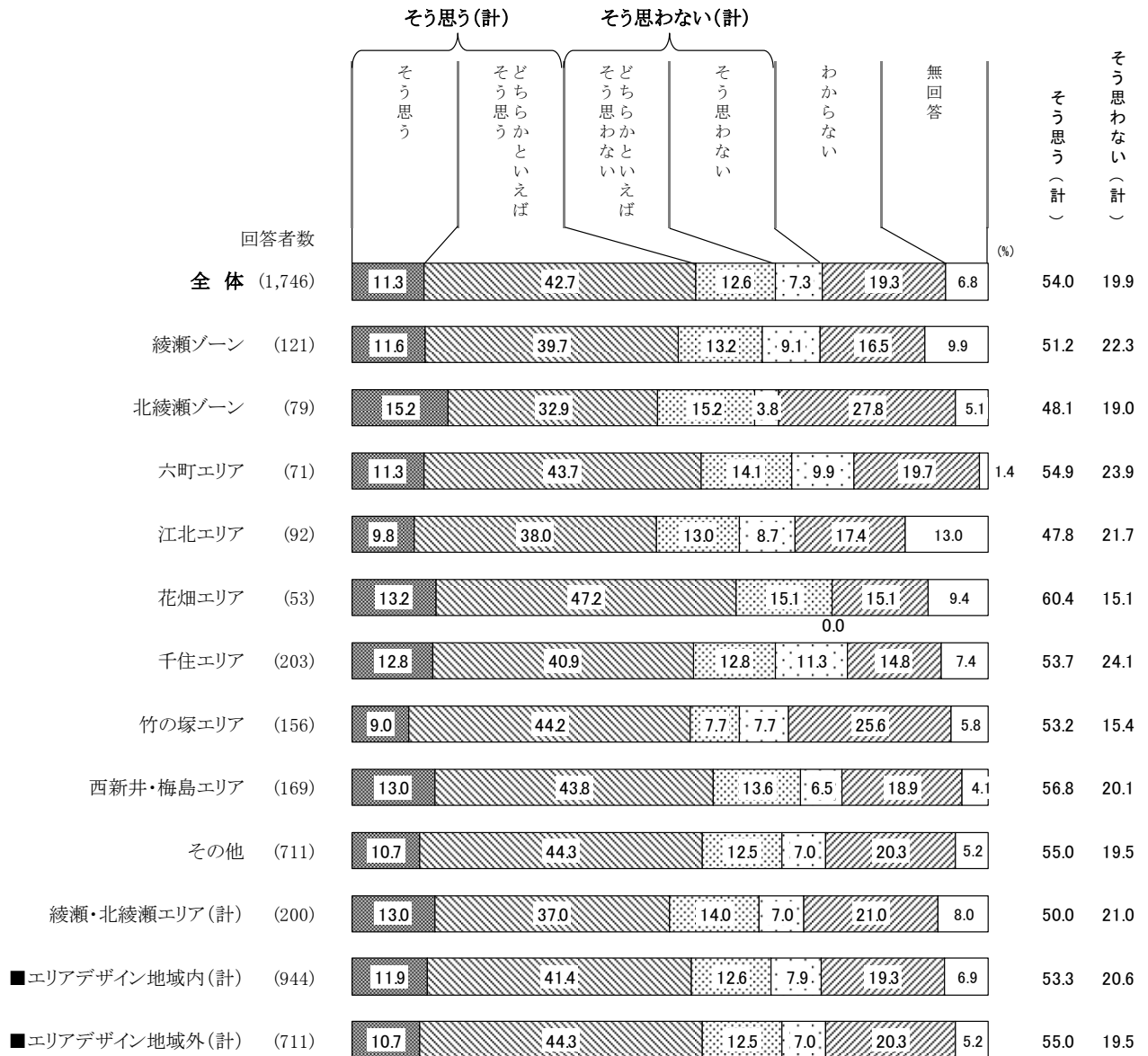
図11-3-4-③ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を人に勧めたい





〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、花畑エリアで6割を超えてやや高く、北綾瀬ゾーンと江北エリアで5割に届かずやや低いのを除くと大きな違いはみられず、また、エリアデザインの地域内(53.3%)と地域外(55.0%)にもほとんど違いはみられない。

図11-3-4-④ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい

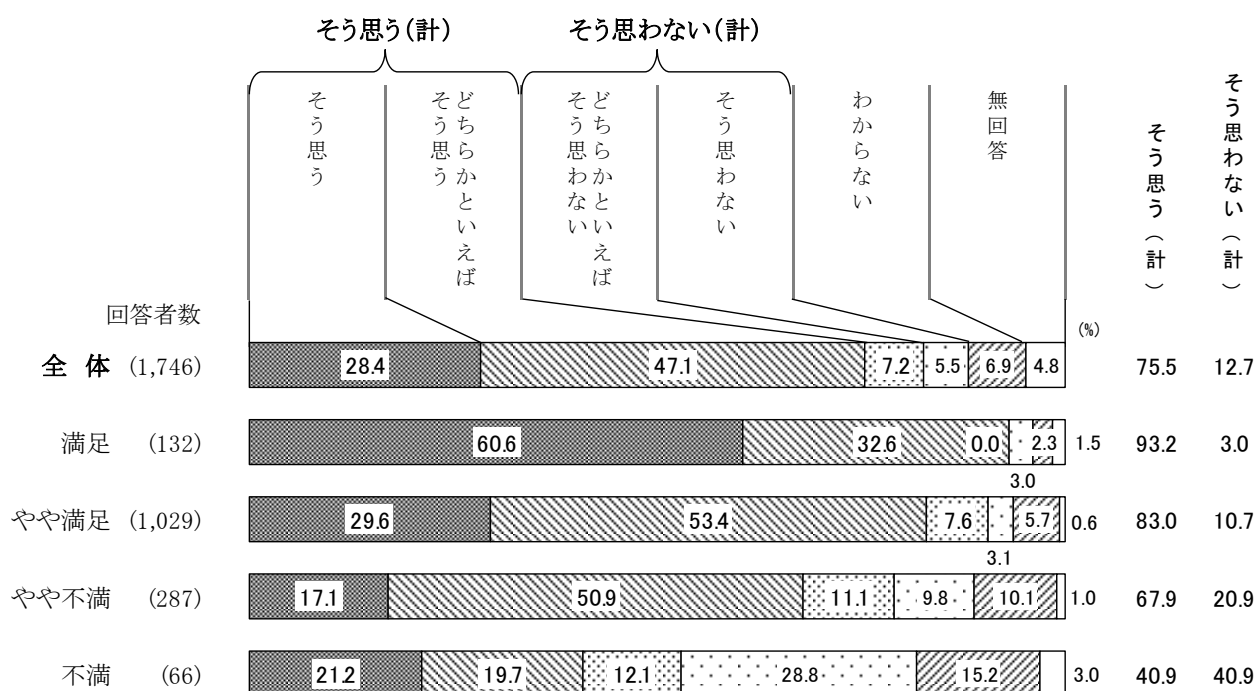


〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、花畑エリアが8割強とやや高く、北綾瀬ゾーンが7割弱と低いのを除くと大きな違いはみられず、また、エリアデザインの地域内（76.5%）と地域外（78.9%）にもほとんど違いはみられない。

回答者数	そう思う(計)					そう思わない(計)					わからない	無回答	そう思う(計)	そう思わない(計)
	そう思う	どちらかといえば	そう思う	どちらかといえば	そう思わない									
全体 (1,746)	30.2	47.4	4.5	9.3	5.6	3.0	77.7	7.5						
順澤ン (121)	33.9	45.5	3.3	5.8	9.1	2.5	79.3	5.8						
順澤ン (79)	32.9	35.4	5.1	5.1	15.2	6.3	68.4	10.1						
町エリア (71)	26.8	47.9	4.2	16.9	0.0	4.2	74.6	8.5						
北エリア (92)	28.3	44.6	6.5	10.9	7.6	2.2	72.8	8.7						
畑エリア (53)	35.8	45.3	0.0	11.3	7.5	0.0	81.1	0.0						
主エリア (203)	29.6	47.3	5.9	7.4	5.9	3.9	76.8	9.9						
家エリア (156)	28.2	49.4	3.8	10.9	5.1	2.6	77.6	6.4						
島エリア (169)	32.5	45.6	4.1	9.5	4.1	4.1	78.1	8.3						
その他 (711)	29.1	49.8	4.9	8.4	4.6	3.1	78.9	8.0						
ア(計) (200)	33.5	41.5	4.0	9.5	8.0	3.5	75.0	7.5						
内(計) (944)	30.7	45.8	4.4	10.1	5.7	3.3	76.5	7.7						
外(計) (711)	29.1	49.8	4.9	8.4	4.6	3.1	78.9	8.0						

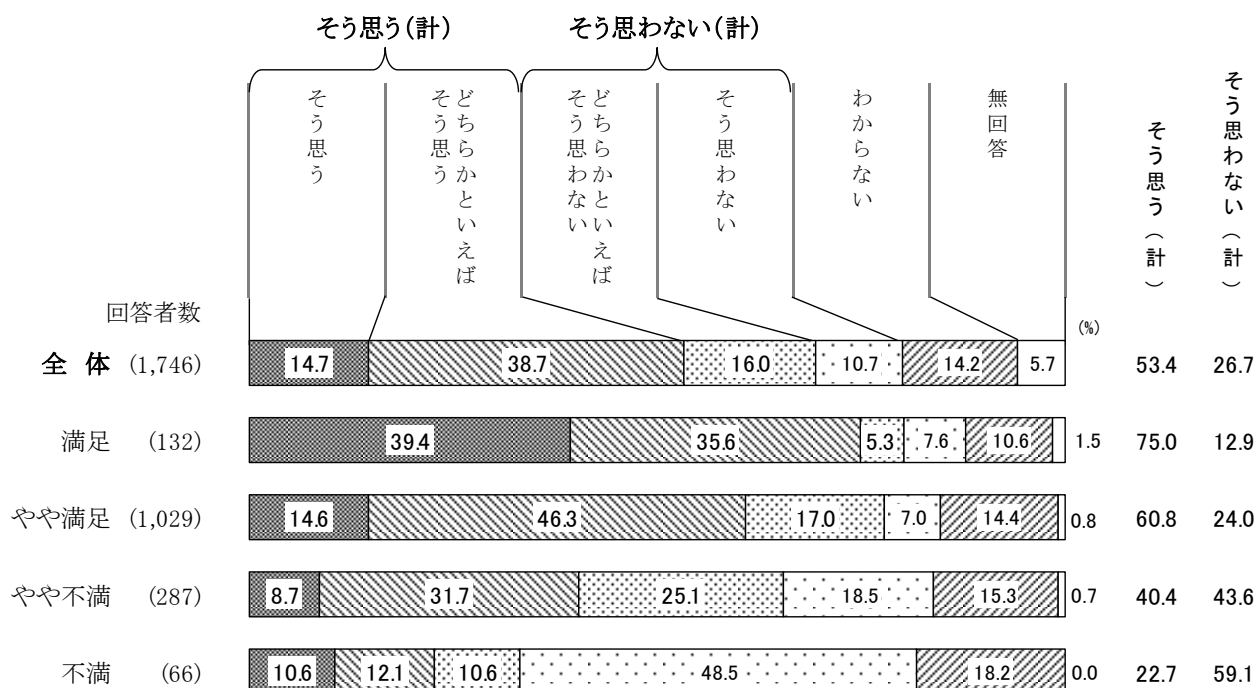
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が93.2%と9割を超えている。

図11-3-5-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が75.0%と7割台半ばで高くなっている。

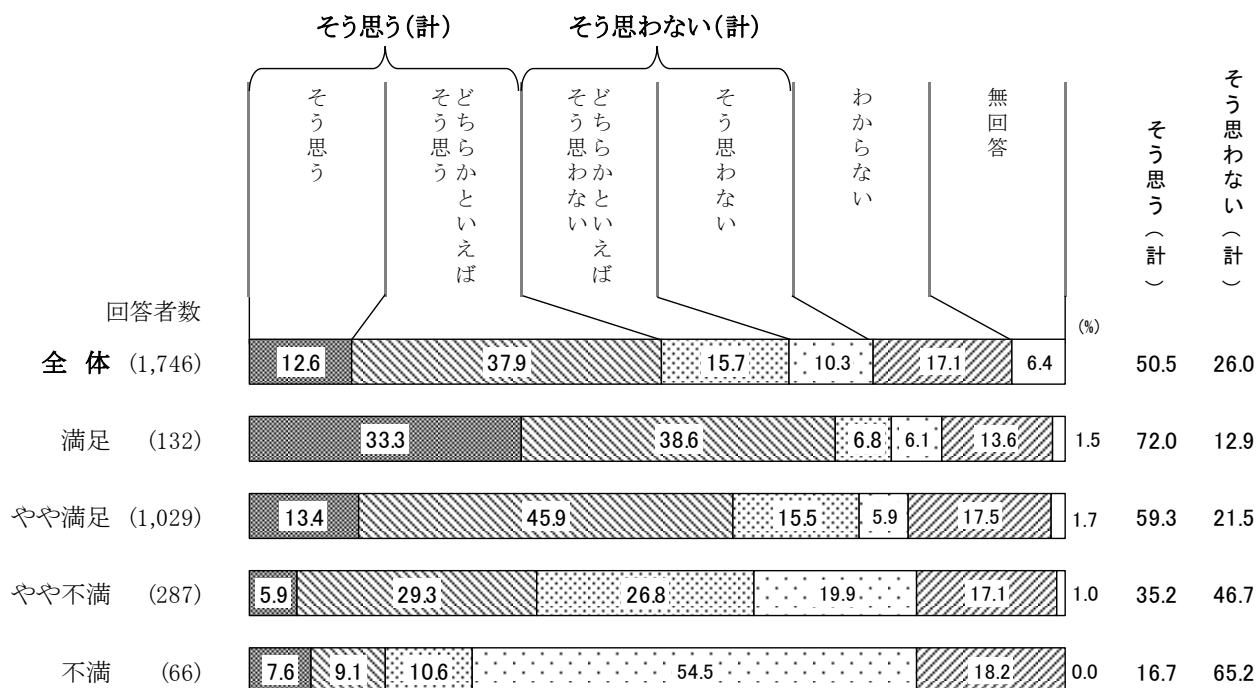
図11-3-5-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

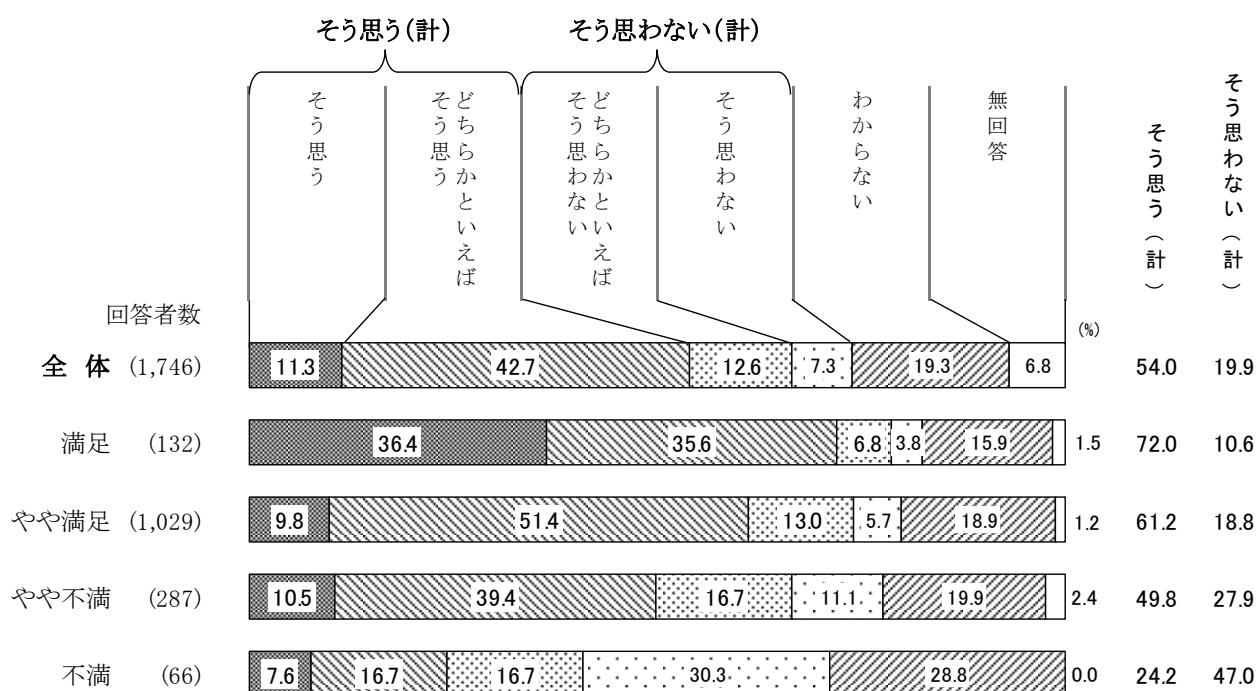
〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が72.0%と7割を超えている。

図11-3-5-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



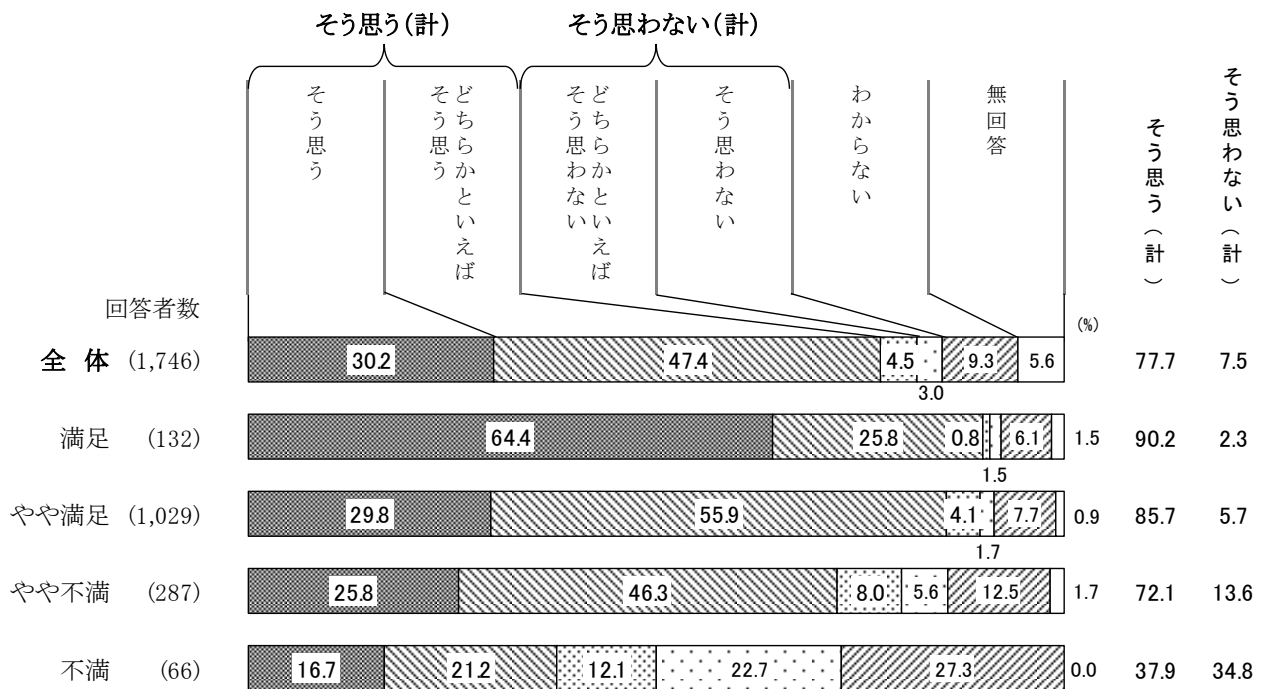
〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について区政満足度別でみると、【そう思う】は、満足している層で72.0%と7割を超えており、やや満足している層で61.2%と6割を超えている。

図11-3-5-④ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について区政満足度別でみると、【**そう思う**】は、満足している層で90.2%と9割を超え、やや満足している層でも85.7%と8割台半ばと高くなっている。

図11-3-5-⑤ 区政満足度別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

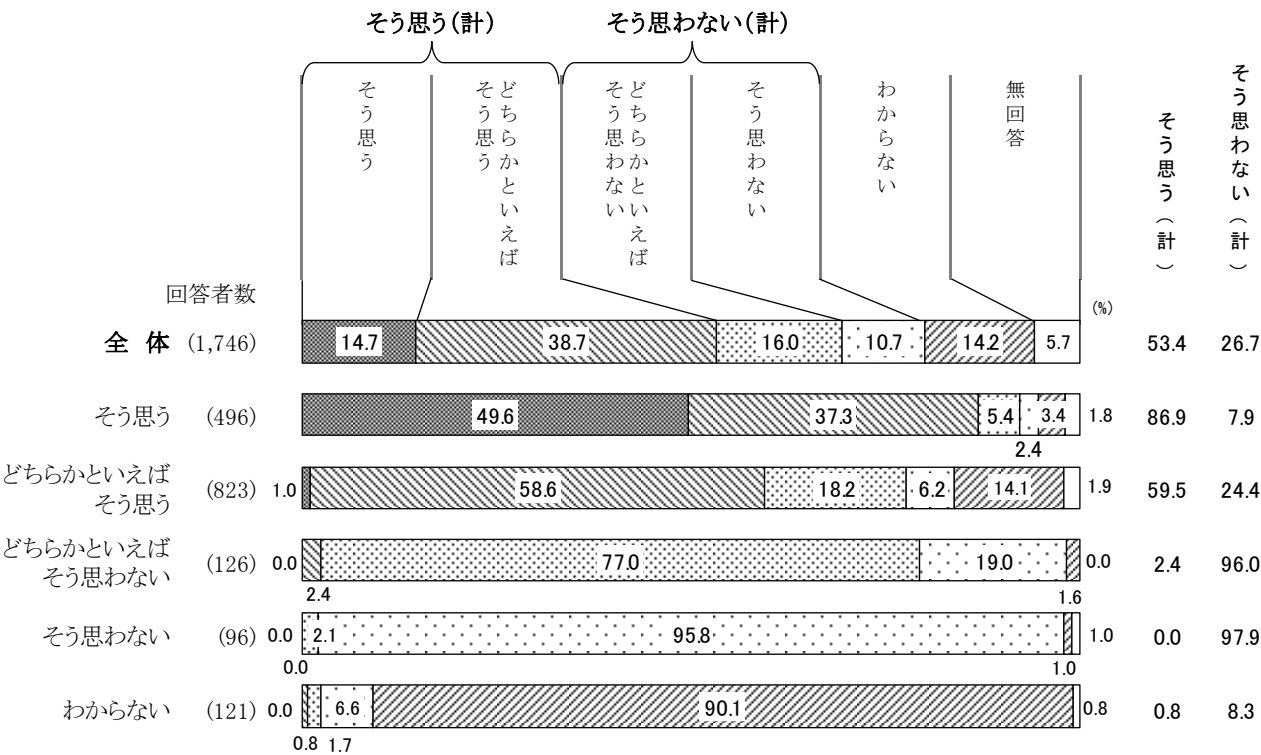


区に対する気持ちの全5項目をそれぞれ区政満足度別にみた結果、全5項目ともに“区政への満足度が高い層ほど、足立区に対する前向きな意識が高まる”という『正の相関関係』があることが窺えて、各項目ともに、満足層と不満層で【**そう思う**】の比率に50ポイント前後の格差がみられるが、その格差が最も大きいのは、他項目と僅差ながら、〈足立区を人に勧めたい〉（両層の格差：55.3P）となっている。

第3章 調査結果の分析 〈 区 の 取 り 組 み 〉

次に、区への愛着度別に『区への誇り』をみると、愛着が強まるにつれて【**そう思う**】割合は増加し、『区に愛着をもっている』に〈**そう思う**〉と回答した層では86.9%と8割台半ばを超えているのに対して、【**そう思わない**】と回答した層では『区への誇り』で〈**そう思う**〉はほとんどみられず、『区への愛着度』と『区への誇り』が強い正の相関関係にあることがわかる。

図11-3-6 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）

問52の項目のア．イ．ウ．のいずれかで、「3 どちらかといえばそう思わない」、または「4 そう思わない」に○のついた方に

問52－1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと回答した人に、そう思う理由を記述していただいたところ、441名から延べ593件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■ 足立区のイメージ（139件）

- ・ 地域によって治安の悪い所と良い所の差がありすぎる。ニュースなどで「足立区」とひとまとめにして地名がでしてしまうので、友人などに治安の悪い所とされているのが残念。
- ・ 街並みや景観づくりが手つかずで、下町的で治安が悪いイメージがある。主要駅前の開発に注力頂きたい。
- ・ 駅の近くにパチンコ店やパブ、キャバクラなどの店が多く、治安が悪いため。足立区在住という差別的な言動を受けることが多いため。
- ・ 昔の犯罪の多いネガティブなイメージを持つ人が多いため、人に勧めたいとは思わない。
- ・ 区外の人からは治安が悪いイメージがある。
- ・ 足立区は環境や多種の福祉等、他区より優れている面がある割には、マスコミ等により、おもしろおかしくマイナスイメージが多くの人に蔓延していて、「また、足立区」「やっぱり足立区」のイメージが強い。もっとプラスの面をPRしてほしい。
- ・ 23区での世評が良くない。引っ越してきた当時、お友達を呼べなかった。
- ・ 足立区民とあまり人に言いたくない、悪いイメージが付いている。住んでみると、さほど他区と比べても悪くないと思いますが、昔からのイメージを払拭することが難しく残念です。
- ・ メディアでよく「ヤンキーの町」とかいじられがち。ここ数年が改善されてきていても、地域によってやはりまだ治安が悪いので、イメージを撤回しづらい。
- ・ 住みやすい区であると思っているが、社会全般でのイメージがまだ向上していないと思う。

■ 治安・防犯（90件）

- ・ 治安が良くないと感じるため。街の防犯対策が充分でないと感じるため。
- ・ 住宅があつまっている所に意外と街灯が少ない。
- ・ 生活保護を受けている人が多いと聞きます。治安、環境等に問題が出てくると思う。外国の人が多いのも、家賃が安いからなのかと思うと、やはり治安に不安を感じる。
- ・ 他の区にくらべて、治安が悪いと感じており、人に勧めるにはきびしいと感じる。
- ・ Aメールなどを見ると軽犯罪も多発しているので、治安に不安があります。
- ・ やはり子ども達が安心して住めるか？といったら、不審者が多いのですすすめられない。足立区に愛着はあるが、軽犯罪等があり誇りはもてない。
- ・ まだまだ犯罪が多くて、安心出来ないからです。
- ・ 住んでいる地域の環境は気に入っているが、区全体としては、空き巣等の犯罪が多く感じられるからです。

### ■ 住民の質や意識面（61件）

- ・ 足立区は慣れれば住みやすいと思う。ただ、今まで住んできた土地で一番民度が低いので、あまり勧めたくない。足立区は嫌いじゃないけど、好きといえるほど何かがある街でもないから、誇りもない。
- ・ 高齢者が非常識すぎる。公園がゴミだらけ。深夜の公園で子どもも大人も大さわぎ。注意すると、法律では11時までOKなど、注意した方が悪く言われる。外の区は夜、人は居るがどこも静かです。夜、うるさい所に友人は呼べない。
- ・ ちまたで反社会勢力の人が多く、低所得者が多いとかよく耳にします。住んでいる分には感じませんが、他人に勧めるには自信がありません。
- ・ 品が無いように思う。歩きタバコや、休み前の夜や朝方の酔っ払いや、ゴミのポイ捨て、嘔吐跡など、他の地域より多いように感じるから。
- ・ 都営住宅が多く、自分勝手な方が多いように思います。

### ■ 道路・交通（45件）

- ・ 舍人ライナーの混雑がストレス。運賃が高すぎる。
- ・ ちゃんと動いてない信号機があつて危ない。
- ・ 一部道路が狭く、危ない場所がある。
- ・ 道路がせまいところが多く、自転車マナーが悪い人がいるなど、まだ改善が必要とを感じるため。
- ・ コミュニティバスの料金が安い（他の区は¥100）。
- ・ 北千住以外は交通の便が悪い。
- ・ 交通の便が悪い。一部地域だけ人気。ほとんどの地域は駅なし、バスも来ない（少ない）。

### ■ マナー（43件）

- ・ マナーが悪い人が多い（特に犬の散歩をしている人、フン尿を他人の家の前や横でする人が多いので）。
- ・ ゴミの不法投棄が多くて汚い。
- ・ 実際に車・自転車の運転マナーの悪さ、タバコやゴミのポイ捨て（歩きタバコ）などを目の当たりにしているので、人に勧めたりすることは出来ない。
- ・ 動物のフンの放置が多い。また、ゴミ出しを曜日に関係なく行っている人が多く、道路にゴミがひろがってしまっている所が多く、全体的に汚い。
- ・ タバコを、歩きながらや、自転車やバイクに乗りながら、吸っている人が多く、バイクや車の音がうるさい。
- ・ 自転車は歩道を走る（自転車から降りない、車道を走らない）、赤信号無視など、マナーの悪い人が多い。
- ・ 街中でマナーの悪い方を目にすることが多いため。
- ・ 交通のマナーがあまり良くない（車道を歩く歩行者・逆走自転車・無灯火の自転車・ライトが片方付いてない自動車がけっこう多いです）。



#### ■ 環境・衛生・公園（30件）

- ・ 北千住以外の地域は、あまり街づくりが進んでいないように思います。他の区に比べて暗い感じがします。
- ・ 西新井駅周辺の整備、開発がなされていない（東口）。キレイな町と言えない。
- ・ 公園がゴミだらけ。深夜の公園で子どもも大人も大さわぎ。
- ・ 歩道が汚れている。
- ・ 街の景観がよくない。
- ・ 街並みが雑然としていて、美しくないから。
- ・ 人が集う自然豊かな公園がない。

#### ■ 学校・教育（17件）

- ・ 区内の高校が全体的に低レベルで、ここが良いと胸を張って言える所がない。
- ・ もっと子育てに対して、対策してほしい。
- ・ 23区中で、学力の低下や親として子育てに対する責任や意識が低い。
- ・ 23区内で学力（小中学校）が低い方から数えた方が早い。

#### ■ 飲食店やお店が少ない（16件）

- ・ 綾瀬駅前も何もなくなり、前に比べて不便になりました。もう少し駅前で買い物などができたり、生活に便利な商業施設を建設してほしい。
- ・ ららぽーとのような商業施設がなく、まとめ買いしたい時に不便を感じる。
- ・ 日々の暮らしにあったらいいなと思えるお店はほとんどない。

#### ■ 所得や収入の低さ（15件）

- ・ 足立区は、低所得の人が多いと言われるから。
- ・ 低所得者が多く、他の区と比較して働く場所が少ない。
- ・ 生活保護受給世帯が多い為か、とても住民税が高いと感じる。

#### ■ 足立区以外に良い区がある（12件）

- ・ 仕事をしている日は足立区にいないし、休日は足立区内で楽しめるところが少ないので、違うところへ行くか、家にいるため。
- ・ 過去に何度か、他区に比べ遅れていると思う事がありました。今でもそう思っています。
- ・ 以前からくらべるとだいぶ良くなっていると思う。テレビなどでも良い取り組みが放送されるとうれしく思う。でも、他の区とくらべるとまだまだ。

#### ■ 区の見どころ・観光・文化・施設（11件）

- ・ 名所と誇れる施設が無い為。近隣区で言うと、柴又や亀有・葛西臨海公園等。
- ・ 面積と人口の割合に対して、区施設が少なすぎる。
- ・ 北千住から歩いて10分以内で行ける大きな総合病院（例：聖路加のような病院）があるという。足立区は、便の良いところに充実した大きな医療施設がない。

■ その他（114件）

- ・ 年をとってから足立区に住んだので、自分と足立区との思い出も歴史もない為、嫌いではないが、特別な感情がわからない。
- ・ 愛着はあるが誇りまでいかない。支援・対策の成果があまり見られない。
- ・ 足立区は低地が多く、海拔0m地帯もあり、洪水の時の避難地も見当たらず、人に住むことを勧められないと思う。区として、もっともっと災害から生活を守る方法等を発信して頂きたい。
- ・ 正直、住みはじめて3年未満なので、愛着や誇りをもてる程、慣れ親しんでいない。でも、緑や公園も多く、買い物も便利なので、自分の住む町（綾瀬）は人に勧めても良いと思う。
- ・ 足立区は中小企業、個人事業の人が多いので、区でもっと支援、アイデアを出して（区の職員の人も）盛り立てると良い。
- ・ 長く住んでいるが、愛着を持つまでは何となくいかない。住んでいる地域の地域格差を感じる事がある。
- ・ 特に不満はないが、ここが良いということもないから。
- ・ 生活保護の人にお金を使い過ぎている。生活保護の必要がない人がいっぱい居る。もっと子どもや将来の足立区のために必要な事を考えてほしい。高齢者、低所得者の票を得るための政策しか行っていないから、そういう人が集まる。
- ・ 区役所職員の勤務態勢の怠慢。コロナ禍においても、区民に対しての対応無く、最低な区と感じている。

## (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問53 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、508名から延べ656件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見・ご要望を掲載いたします。

### ■ 区政全般（120件）

- ・ 区のがんばりで、最近ではマスメディアによく足立区の名前がでてきます。良い情報が多く、うれしいです。区長はじめ、皆でよくしようとの結果ではないかと思います。
- ・ 足立区民への区政の取り組みが届いていない。普及活動をもっとしていくべきだと思う。
- ・ 行政の仕事を会社に委託している量が他区より多いと聞いています。会社は必ず利益を追求し、非正規派遣とか使いますので、知り得た情報を口外するかもと言う心配は総務省からの通達の通りです。経費削減だけで考える事は止める様にとともに思います。
- ・ 高校の無償化など収入による差をなくしてほしい。がんばって大学に行った人など税金を払っているのに何も恩恵がない。足立区はがんばっていない人への税金からの手あてが良過ぎです。
- ・ 以前、学校給食がすばらしいと話題になり、区民として誇らしく思いました。近年の足立区政は、近藤区長を筆頭に大変なご努力で功績をあげていると思います。
- ・ 昔と比べて本当に治安も良く、住みやすくなったと感じています。一方で、「足立区といえば北千住」とよく言われますが、その他にも良い場所は沢山あるので、もっと区外の認知が上げれば良いなと思います。
- ・ 区長にもっと頑張っていただき、治安の向上や区民のモラル意識向上、きれいな町づくりに尽力して欲しい。区長には期待しています。
- ・ 高齢者や低所得者対策はとても充実していると思うが、限られた財源がそちらに重点がおかれて、働く人に対する対策（たとえば交通網の整備や通勤時間帯のバス不足など）や、都市開発がおこなわれているように感じます。また、在宅勤務が増えて、30代・40代の人たちも自宅にいることも増えているので、その人達がもっと地域や町会などの活動に参加しやすいように（お年寄り達で仕切られている事が多い）支援してほしいと思います。
- ・ エリアデザイン外のその他エリアに住んでいるため、区のサービスを利用しづらい。エリア外に対して新しいまちづくり等の対象にならない事を不満に思います。足立区全体が対象でないのはなぜでしょうか。
- ・ アンケートにより足立区の取り組み（ビューティフル・ウィンドウズ運動や、孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ等々）で、知らない事が多過ぎる事に気が付きました。年代的にカタカナキャッチフレーズは身に付かないのかも？（耳にのこらない）。美しい日本語表示を希望します。
- ・ 高齢者や子ども、子どもがいる世帯への福祉の充実が必要なのは理解していますが、独身者や、子どものいない世帯には、これといったサービスがなく不公平を感じる。

### ■ 交通機関・道路の整備（50件）

- ・ 電線がたくさんあるので景観があまり良くないと思います。自転車の通行も多く危ない時もあるので、電柱を埋めて自転車、歩行者スペースを十分に確保してほしいです。
- ・ 東西（足立区の）をつなぐ交通を発達させていただきたいです。
- ・ 交通網（電車、バス）を、もう少し都心とつなげてほしい。
- ・ 自転車事故減少のため、駐輪スペースの拡充や街路樹の剪定、自転車用通行レーンの充実化を図ってほしい。
- ・ 交通網の拡充（舍人ライナーの延伸、はるかぜ増便）をしてほしい。
- ・ 区内の道路のパトロールをしていますか？ 道路に穴があってもなかなか修理をしていません。

### ■ 都市開発（47件）

- ・ 23区でやはり一番田舎のイメージが強い。学校や会社を誘致して活気のある区にしてもらいたい。
- ・ 新しいまちづくりのエリア以外は住みづらい街になっている。一戸建ての買い入れを考えて不動産を探したが、エリア内とエリア外の生活環境に差があること、この差が少なくなってきたら人に勧められると思います。
- ・ 綾瀬駅前の土地がここ数年間空地のままになっています。早く商業施設を建ててほしいです。できれば「アリオ」のような商業施設が希望です。綾瀬駅近辺に総合病院を建設してほしいです。
- ・ 竹ノ塚駅前の再開発。治安が悪いイメージがあるので、再開発してイメージアップしてもらいたい。
- ・ 地域に飲食店や病院を増やして欲しい。

### ■ コロナ対応・対策（35件）

- ・ PCR検査を希望者全員に受けることが出来るように取り組み、病院も複数指定をしていただき、誰でも行く事が出来ますようお願い致します。
- ・ コロナ対策がとてもしっかりしていると感じています（感染者数やクラスター発生の情報をしっかりと明らかにしている）。
- ・ コロナ対策の在宅支援は良かったし、誇らしかった。自分が高齢者なのでコロナの発生場所の情報がもっと欲しかった。
- ・ 学校現場での対策は各校に任かされているのか、体育の有無等が学校によって差がある様に見られます。
- ・ 足立区でのコロナ対策（感染者の自宅へ非常食の配布）には、感銘を受けました。ただし、感染者は減らず不安は募るばかりです。既に普及しているマスクを依然としてしていない方々も多く、区としての対策を毎日望むばかりです。

### ■ 広報・情報公開（34件）

- ・ 若者向けの支援やクラブなどの情報がもっと分かりやすくして欲しい。施設などは揃っているのにもったいないと感じます。
- ・ 区民、国民にとって良い情報のアピールが少な過ぎる（補助金等の金銭的に得をする情報）。
- ・ 防災無線がよくわからないという人がたくさんいます。部屋にいて聞こえないので、外に出るのですが、やっぱり何を言っているかわかりません。
- ・ 区の情報が何でもホームページにというのではなく、パソコンやケイタイを持っていない人もいるという事も少し考えていただけたらと思います（区の広報紙にもう少しくわしい情報をのせてもらうなど）。
- ・ ネットで見られる情報の充実、探しやすさを希望します。

### ■ この調査について（31件）

- ・ 内容が多過ぎて時間が掛かり、次回から遠慮したいと思う人も少なからずいるのでは？と思う。
- ・ 足立区取り組みについての現状評価のアンケートで、内容がよくわからないものについて、満足度を選ぶのに困った。「わからない」があると助かる。
- ・ 初めて世論調査に参加しました。記入しながら考える事で区や生活にあたって意識が深まりました。こういった意味で足立区の取組に接する事が出来、とてもいいと思いました。区民参加型の区政がいいと思います。
- ・ この世論調査を含め、環境及び効率化の為、ペーパーレスにするべきだと思います。また、世論調査内容について、20代から対象となっているかと思いますが、内容が極めて高齢の方向けだと思います。

### ■ 治安対策（30件）

- ・ 夜間パトロールをして欲しい。
- ・ 住宅街に防犯カメラを増やして欲しい。
- ・ わざわざ音をうるさくしているバイクや車は、どうにかなりませんか。春、学校が休校のため自宅で勉強させなくてはならない時、1時間に何台もうるさいバイクが通るのは本当にたえられません。
- ・ 在日居住エリアの治安がとても悪い。不法滞在者も多いと思うので、対策をしっかりして欲しい。
- ・ 不法投棄が多く、夜な夜な不良が集まり飲み物、食べゴミ、タバコの吸い殻を散らかし、悩みのたねとなっている。

### ■ マナー（29件）

- ・ 歩きタバコが非常に多いです。もっときびしく取り締まってほしいです。
- ・ 高校生の自転車のマナーが悪すぎて危ない。区内に高校が何校もあるので、高校生にも学校で指導するようにして欲しい。
- ・ 近所の騒音が気になります。夜11時過ぎの外で大声でのおしゃべり、昼間から歌謡曲、民謡がかなりの音量で流れている。
- ・ 道にゴミを捨てない、ゴミの分別、電車で降りる人が先など、あたりまえの事ができない若者、大人がいる。
- ・ 自動車、自転車どちらも、他の22区と比べて、かなり自分勝手な運転をする人がとても多い。

### ■ 防災対策（29件）

- ・ 台風、水害など、川が多い地域なのでとても心配です。防災関係に今後も力を入れてほしいです。
- ・ 荒川が氾濫しないように堤防の再整備をしっかりと行ってほしい。
- ・ 昨年の大雨の時、車で避難しました。学校の校庭など開放していただけたら、良かったなと思いました。車のまま避難できるとありがたいです。ペットとの避難について、対策をもう少ししていただけたらうれしいです。
- ・ 足立区を流れる河川が氾濫の危険水位を超えた場合、その氾濫や決壊などの危険を事前に住民に知らせていただけるシステム等がありますでしょうか。また荒川が足立区で決壊した場合の避難場所（高い場所）などの案内はありますでしょうか。
- ・ 地震や川の氾濫、災害などのとき、どこでどうしたらいいのか？家族でも話し合っていますが、区としても避難場所などをわかりやすくしてほしい。

### ■ 医療・福祉（27件）

- ・ 健診について。足立区は、健診の時に病院を選んで受診しているが、実際に病院に予約してみると、対応が曖昧だったり、ガン検診については、何ヶ所もの病院を回らなくてはならず何日もかかる。他の区のように区独自の健診センターを設立して1回でまかなえるようにしてほしい。
- ・ 子育て支援に力を入れるだけでなく、不妊治療の助成や妊婦への支援にも力を入れて欲しい。助成金の所得上限の緩和や撤廃など、区独自の助成を作って欲しい。
- ・ 国保・介護保険が高すぎる。生活を圧迫している。
- ・ 綾瀬駅近辺に総合病院を建設してほしいです。
- ・ 障がい者への福祉サービスをもう少し充実してほしいです。軽度の障がい者に対してもサポートを手厚くしていただけるようお願いしたいです。

### ■ 環境対策・公園（25件）

- ・ 中川公園等の広い公園はキレイなのですが、小さい公園は正直汚いです。朝からずっとベンチに座っている年配の方々、子ども達が近づきにくい時があります。下ネタを子どもに言って楽しんでいたりもあります。みんなの公園なので何も言えないけど、近寄れない公園があります。
- ・ 区内の公園は小学生達がボール遊びをすると必ずしかられて、ボール遊びが出来なくて大変困ってしまいます。
- ・ 街路樹の剪定を頻繁に行ってもらいたいです。
- ・ 荒川区の土手（すみだ川沿い）に比べ、土手が美しくない。有名な土手なので、是非、美しい土手にしてほしい。
- ・ 雑草がはびこらない公園や庭の樹木で街灯の効果が半減しないような、安全で安心な心配りのある街づくりを希望します。

## ■ 子育て支援（22件）

- ・ 子育て支援をもう少し充実して欲しい。教育支金の援助など低所得世帯だけではなく、中所得世帯も幅広く支援して欲しい。
- ・ 保育園の待機児童は減ってきているとの話をコンシェルジュから聞きましたが、息子は結局待機になりました。もっともっと保育園を増やしてください。子どもと暮らすには適さない区だと思えません。
- ・ 子育てに関し、とても良い環境だと思っています。区長さんが女性だからでしょうか？子育てサロンや子どもの一時預かり、公園の充実等とても助かっております。ありがとうございます。周りのママ友も、足立区で良かったという声が大変多いです。今後も更に子育て環境が充実すると嬉しいです。
- ・ とにかく、子育て世代に手厚い政策を。人が増えなければ財政がまわらない。他の区より良い子育て支援を実施し、「子育ての足立区」として有名になって欲しい。

## ■ 税金（21件）

- ・ 区長をはじめ、職員の方々が頑張っているのはわかっていますが、住民税が高すぎます。もう少し安くならないでしょうか。
- ・ 本当に必要な人に必要な助けがや援助が届くような政策が必要だと思います。私はそのような助成など利用してはいませんが、納税している身として、きちんと使われていてほしいと思います。色々な抜け道みたいな感じで利用している人を見かけるような気がします。
- ・ 生活保護、子どもの医療費は無料など子どもの居る世帯は色々と補償されている。30代40代50代の働きざかりの世代は何の得もない！税金を払うばかり！特に独身は何だか損している気がしてならない。40代は就職氷河期世代です。お金に自由が利かないです。区で何かしてほしいです。

## ■ 議員・職員（20件）

- ・ 区職員に余裕が無い様に見える。電話でも窓口でも、対応が出来る様にするのが区職員ではないのかと思ってしまうところがある。
- ・ 区役所で働いている方の不親切な対応に、悲観しています。役所で働く方々の心ある対応を求めます。
- ・ 先日、用事があり区役所へ行きましたが、それぞれの担当課の事は知っているけど、それ以外は知らないのか、教えてもらえない。結局何ヶ所か回っても答えがみえない。職員に3,600人もの方が必要なのか疑問。
- ・ 選挙で選ばれた人、区議に当選した人は、しっかりと足立区民としての仕事をして下さい。
- ・ 区の議員は、人数だけ多く、何をしているのかわからない。個人の仕事を内容を知りたい。

## ■ 学校教育（17件）

- ・ 子どもの学力が東京23区の中で低いため、小・中学校の教育が充実するように力を入れてほしい。
- ・ 教育面に於いて、まだまだいじめ問題を耳にします。難しいとは思いますが一人の子どもの事です。良く話し合って進めて下さい。
- ・ 新田学園の大規模すぎることをよく考えて頂きたいです。第二校舎は校庭がなく、子ども達が休み時間も自由に遊べずに、かわいそうでなりません。新田学園に入学させたくない為、区外へ引っ越す方もいることが残念です。
- ・ 食育に力を入れていて、給食は本当に親からみてもうらやましいと思うほどです。偏食の多いうちの子が、「おいしかった」と「おかわりした」ということが多いので、そこは本当に充実していると思っています。ありがとうございます。

■ 高齢者支援・介護（14件）

- ・ 高齢者がだれでもすぐに入れる特養をもっと作って下さい。
- ・ 独身なので高齢になった時に住みよい区であり、支援など充実してほしいと思います。
- ・ 高齢者に対しての支援が割と少ない様に感じます。

■ 資源環境・ゴミ対策（14件）

- ・ ごみ収集は、道路集積方式から、戸別収集方式に関する条例の制定をしてほしい。夜のゴミ出し（前日）、不法ゴミ、悪臭（大量に出る）などの対応もお願いしたい。
- ・ 家のまわり（周辺地域）にゴミが散乱している。不法投棄、タバコのポイ捨て、空き缶のポイ捨ては日常的。買った物を家に持ち帰る意識が全くない。特に自転車に乗る若い男に多い。
- ・ 食用油（廃油）や衣服のリサイクルBoxなどを設置して欲しい。

■ 生活保護・低所得（9件）

- ・ 生活保護制度の運用方法の見直しが特に必要。特に支給審査の厳格化（新規及び継続時）。法制度に甘えて、自主独立の意欲が見られない。誰が見ても働ける身体でありながら、酒ばかり飲んでいる。
- ・ 子どもの貧困対策をもっと強めて欲しい。ひとり親家庭の支援、低収入の方の支援を強めて欲しい。

■ その他（82件）

- ・ 足立区に引っ越して来てから10年以上が過ぎました。初めは、足立区は犯罪や事件の多い町で、怖い町という印象でしたが、いざ住んで生活してみると、公園や自然も多く、とても便利な町で、これからもずっと足立区に住みたいと思います。
- ・ 高齢の親がいます。気軽に散歩く為にも歩道にちょっと休めるベンチがあると助かります。葛飾区亀有に行った時に座れる場所がたくさんあり、うらやましく思いました。
- ・ 一人暮らしで周りに知り合いもいないので、地域とつながりたくてもどうしようもないところがあります。何かきっかけがあればよいと思っています。
- ・ 長年足立区に住んでいますが、段々と住みよくなっていると思います。これからの足立区に期待します。
- ・ 地元の者と外部（区外）の者とで感じ方に大きな差があります。区外の人たちの足立区の評判が極めて良くないです。偏見もあると思いますが、対外的な印象も変えていけたら良いと思います。
- ・ 行政に携わっている皆様、いろいろ大変だと思いますが頑張ってください。感謝しています。

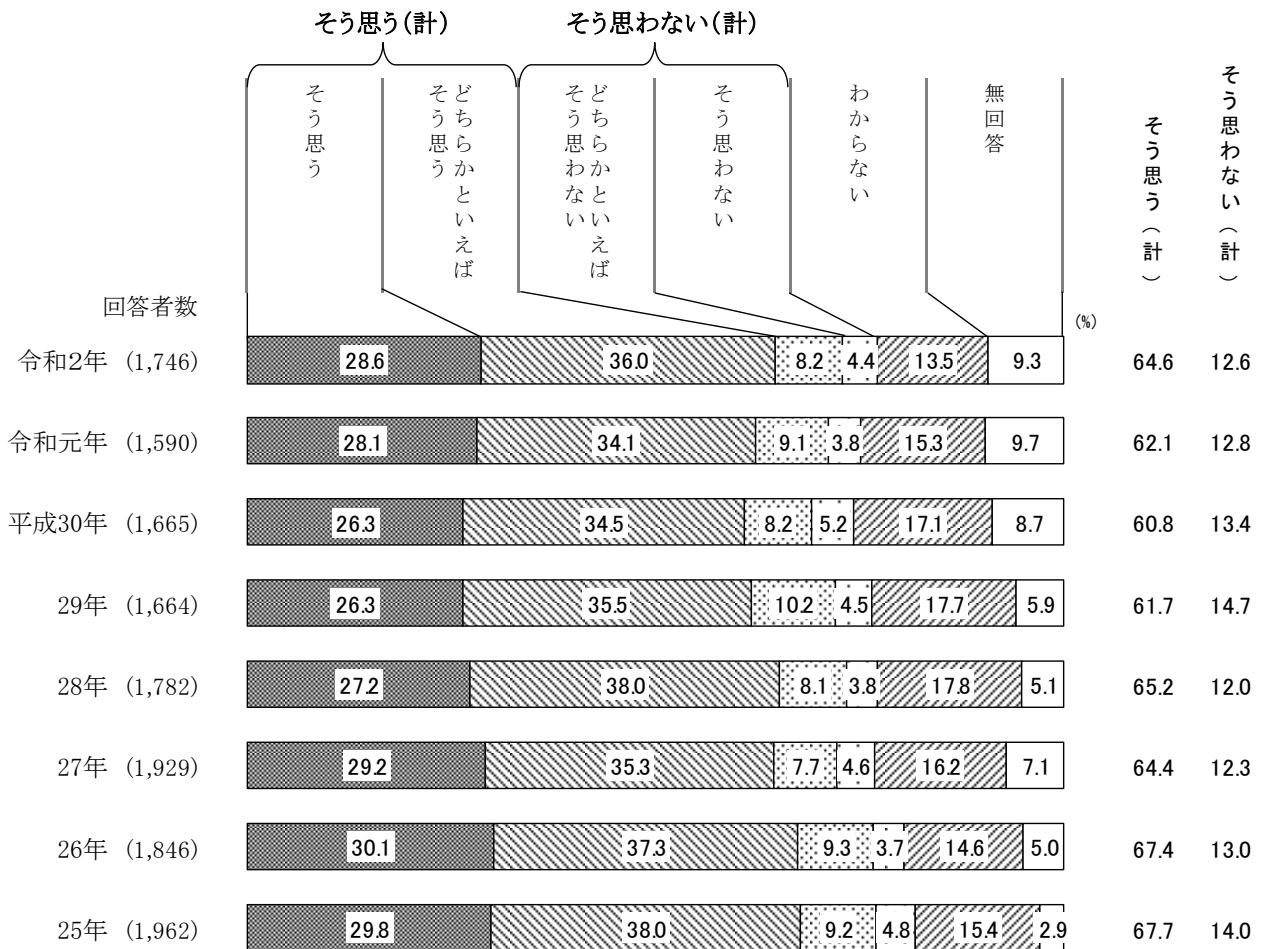


(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 本調査を有効な内容だと思う人は6割台半ば、一方、そう思わない人は1割強

問54 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。  
 今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか  
 (○は1つだけ)。

図11-6-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



本調査の質問内容が、区民ニーズや意識を把握するうえで有効かを聞いたところ、「そう思う」が28.6%で、これに「どちらかといえばそう思う」(36.0%)を合わせた【そう思う】は64.6%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」は8.2%、「そう思わない」は4.4%で両者を合わせた【そう思わない】は12.6%となっている。

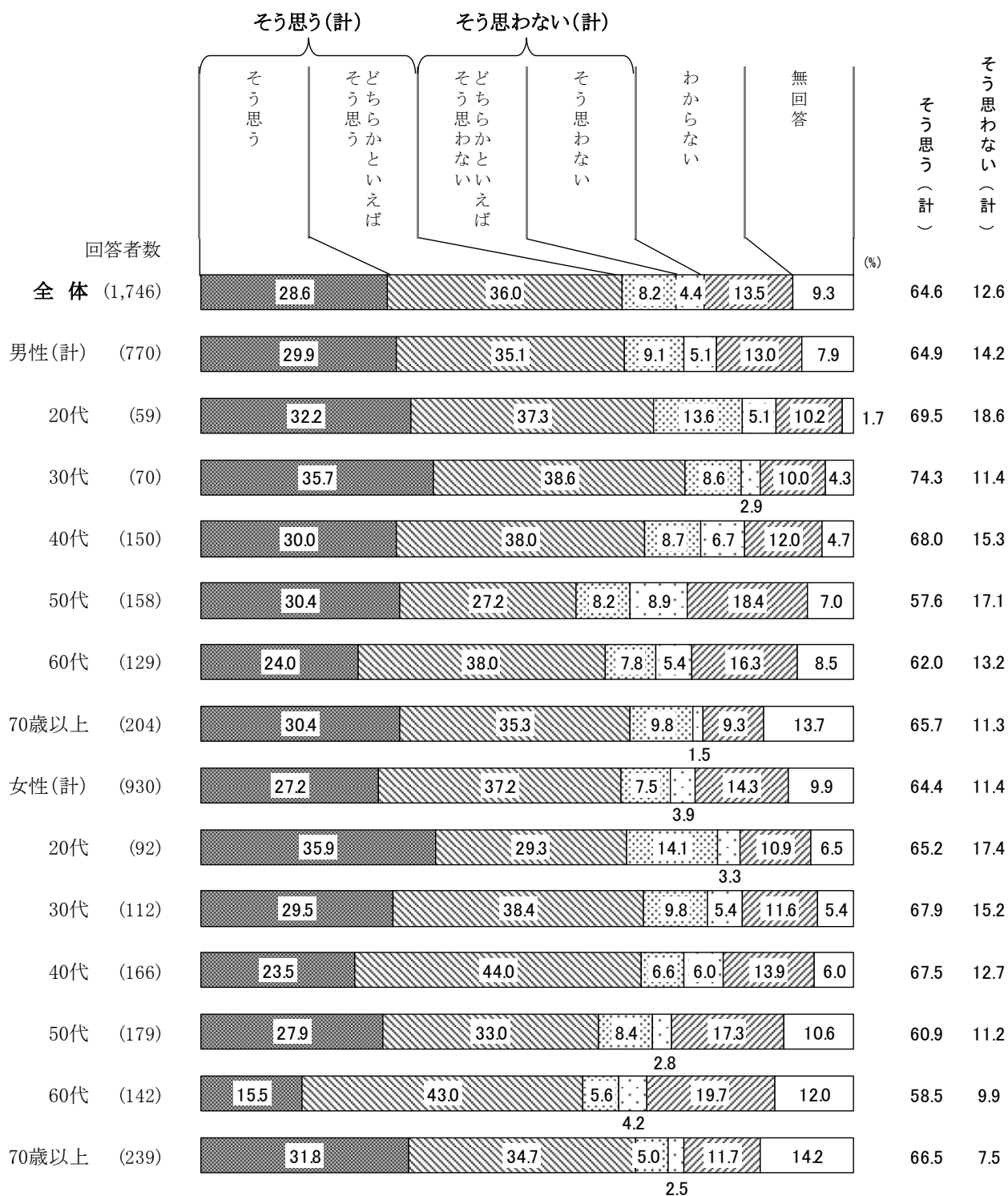
経年でみると、【そう思う】は前回より2.5ポイント増加して、【そう思わない】は前回より0.2ポイント減と、前回の令和元年から大きな変化はみられないものの、平成25年の67.7%から平成30年の60.8%にかけて漸減傾向にあった【そう思う】は、2年続けて僅かずつ増加している。

### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

性別でみると、【そう思う】は男性64.9%、女性64.4%でほとんど違いはみられない。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代で7割台半ばと高い一方、50代で6割弱と低く、女性では50代と60代で6割前後とやや低いのを除くと、大きな年代差はみられない。

図11-6-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



## 第4章 使用した調査票



## 令和2年度（第49回）足立区政に関する世論調査

### ご回答にあたって

- 1 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
- 2 ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- 3 お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 4 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
- 5 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
- 6 この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありませんので、記入なさらないようお願いします。
- 7 このページの右上の「地域No.」は、区内を15の地域に分けて分析する際の区別のために用いるもので、これによってお名前やご住所が判明するということはありません。
- 8 お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理します。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

### ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**9月11日（金）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



〔調査主体〕 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課  
区政情報係

足立区中央本町1-17-1

〔お問合せ先〕 お問い合わせコール あだち  
03-3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日）

〔調査受託機関〕 株式会社 マーケティング・サービス

## ※ 調査票内の集計母数について

特にサンプル数表記のない設問は、全数ベース（回答者数1,746）で集計しており、母数の記載を割愛した。一部の該当設問については、設問ごとに回答者数を表記した。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	男 性	44.1%	2	女 性	53.3	3	その他	0.2	無回答	2.5
---	-----	-------	---	-----	------	---	-----	-----	-----	-----

F 2 あなたは、何歳ですか（○は1つだけ）。

1	20～24歳	4.0%	5	40～44歳	8.1	9	60～64歳	7.0
2	25～29歳	4.6	6	45～49歳	10.0	10	65～69歳	8.5
3	30～34歳	4.8	7	50～54歳	10.7	11	70～79歳	17.6
4	35～39歳	5.8	8	55～59歳	8.6	12	80歳以上	8.3
							無回答	1.9

F 3 あなたは、足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1	1年未満	2.9%	3	3～5年未満	4.6	5	10～20年未満	13.4
2	1～3年未満	4.2	4	5～10年未満	7.7	6	20年以上	65.2
							無回答	1.9

F 4 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	一戸建て持家	40.6%	6	社宅・公務員住宅・寮	1.3
2	一戸建て借家	1.6	7	間借り・住み込み	0.2
3	分譲マンション	21.5	8	その他	0.6
4	賃貸マンション・アパート	21.1		無回答	2.1
5	都市再生機構（旧公団）・公社 ・都営住宅・区営住宅	10.9			

F 5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	自営業・事業主	9.2%	5	主に家事に従事（専業主婦など）	10.8
2	自由業 （開業医、弁護士、芸術家など）	1.0	6	学 生	1.4
3	会社員・公務員	37.9	7	無 職（年金生活を含む）	22.7
4	パート・アルバイト	14.3	8	その他	0.2
				無回答	2.5

(F5で「1」～「4」または「6」か「8」とお答えの方に)

F 6 あなたの就労場所（就学場所）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

回答者数 1,116

1 自宅	7.7%	4 23区以外の東京	2.3
2 足立区内	30.1	5 茨城、神奈川、埼玉、千葉	9.1
3 足立区外の東京22区	46.4	6 その他	2.0
		無回答	2.4

F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか（○はあてはまるものすべて）。

1 ひとり暮らし	18.4%	4 祖父・祖母	1.2	7 兄弟・姉妹	5.7
2 配偶者	54.4	5 子ども	38.7	8 その他	1.9
3 父・母	17.2	6 孫	2.7	無回答	2.8

F 8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	.....	1	27.5%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	.....	2	0.2
一番上の子どもが小学生	.....	3	0.5
一番上の子どもが中学生	.....	4	0.3
一番上の子どもが高校・大学生	.....	5	0.5
一番上の子どもが学校卒業	.....	6	10.3
◎ 配偶者がいて子どもがいない	.....	7	11.2
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	.....	8	4.6
一番上の子どもが小学生	.....	9	4.7
一番上の子どもが中学生	.....	10	2.6
一番上の子どもが高校・大学生	.....	11	5.7
一番上の子どもが学校卒業	.....	12	24.6
無回答			7.2

F9 足立区では、「綾瀬」「北綾瀬」「六町」「江北」「花畑」「千住」「竹の塚」「西新井・梅島」のゾーン・エリアにおいて、新しいまちづくりを進めています。あなたのお住まいは、下段枠内の1～9の選択肢のうち、どの範囲に入っていますか（○は1つだけ）。

1	綾瀬ゾーン	（綾瀬1～7、東和1・3、東綾瀬1～3）	6.9%
2	北綾瀬ゾーン	（加平1～3、谷中1～4、大谷田4、東和5）	4.5
3	六町エリア	（西加平1～2、一ツ家2～4、六町1～4、保塚町、南花畑1～3、北加平町、神明南1）	4.1
4	江北エリア	（江北1～7、椿1～2、堀之内1～2、西新井7、西新井本町2、扇3）	5.3
5	花畑エリア	（花畑1～7、保木間4～5）	3.0
6	千住エリア	（千住関屋町、千住曙町、千住東1～2、千住旭町、柳原1～2、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町1～3、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木1～2、千住1～5、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町）	11.6
7	竹の塚エリア	（竹の塚1～7、西竹の塚1～2、六月1～3、栗原2・4、西保木間1～4、伊興1～5、伊興本町1～2、東伊興1～4）	8.9
8	西新井・梅島エリア	（梅島1～3、梅田5～8、西新井栄1～2、関原3、島根3、栗原1・3）	9.7
9	その他	（お住まいの町丁が1～8のゾーン・エリア以外の場合）	40.7
	無回答		5.2



# お住まいの地域について、おうかがいします

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア 自転車利用者の交通ルール、 走行マナーが良いと感じる	4.2%	26.1	28.9	34.7	3.7	2.4
イ 快適で安全なまちである	9.6	49.7	24.4	10.7	2.9	2.7
ウ 景観・街並みが良好である	9.5	42.3	27.8	14.5	3.2	2.7
エ 普段の買い物が便利である	36.0	40.6	13.1	8.3	0.6	1.4
オ 通勤や通学などの交通の便が良い	29.9	38.7	15.1	12.3	1.9	2.0
カ よく行く、または行きたい公園がある	17.1	31.0	17.9	20.7	10.9	2.3
キ 子育て環境（保育所、学童クラブ など）が整っている	11.1	34.4	12.9	6.4	32.4	2.9
ク 地域の施設（建物や道路など）は、 高齢者や障がいのある方なども 利用しやすいよう配慮されている	5.9	28.2	25.7	14.2	24.2	1.8
ケ 地域の人々が、日常生活で高齢者や 障がいのある方などに配慮している	4.0	29.3	24.4	13.6	27.0	1.8
コ 男女が対等な立場で意思表示や活動が でき、また責任も分かちあっている	3.6	27.1	19.7	10.4	37.0	2.2

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

		<div>減少 ←</div> <div>増加 →</div>					
		明らかに 減っている	どちらか といえば減っ ている	以前と変わ らない	どちらか といえば増え ている	明らかに 増えている	わからない 無回答
ア ごみやタバコのポイ捨て	13.2%	39.8	30.7	6.2	3.6	5.1	1.4
イ ペットのふん	14.4	37.9	28.0	8.0	3.5	6.9	1.3
ウ まちなかの花や緑	2.7	10.0	52.0	22.7	4.5	6.8	1.3
エ 防犯パトロール	2.6	8.9	45.4	17.2	3.3	21.2	1.4

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

1 暮らしやすい	27.7%	3 どちらかといえば暮らしにくい	14.2
2 どちらかといえば暮らしやすい	54.7	4 暮らしにくい	1.8
		無回答	1.6

（問3で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に）

問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。 回答者数 279

1 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	45.2%
2 地域の人間関係が希薄なこと	20.4
3 治安が良くないこと	27.2
4 自然が少ないこと	10.0
5 災害対策が不十分なこと	20.1
6 交通の便が悪いこと	41.2
7 職場や学校から遠いこと	5.0
8 買い物がしにくいこと	28.0
9 子育て環境が悪いこと	3.6
10 教育環境が整っていないこと	4.3
11 家の広さなどの居住環境が悪いこと	10.8
12 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	18.3
13 行政のサービスが良くないこと	11.5
14 その他	8.6
無回答	1.1

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1 ずっと住み続けたい	34.8%	3 区外に転出したい	5.6
2 当分は住み続けたい	43.6	4 わからない	13.8
		無回答	2.3

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

1 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	22.0%
2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	51.3
3 特に用意していない ⇒次ページの問6へお進みください	25.0
無回答	1.8

（問5で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,279

1 水	83.9%	10 消火器	24.9
2 食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）	80.0	11 ペット対策用品（ケージ、エサなど）	9.5
3 あかり（ろうそく、懐中電灯など）	80.8	12 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	26.9
4 情報収集手段（携帯ラジオなど）	47.7	13 救助用工具（バール、ハンマーなど）	9.0
5 医薬品（常備薬を含む）	44.3	14 ヘルメット	17.9
6 衣類	28.3	15 救急セット	21.7
7 生理用品	22.0	16 避難ロープ	6.3
8 簡易トイレ	25.8	17 防災袋（非常用持出袋）	30.2
9 電池・予備バッテリー	54.3	18 その他	2.5
		無回答	1.7

（問5-1で「1 水」または「2 食料」とお答えの方に）

問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。

「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です

（○はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

ア 水 回答者数 1,073 / イ 食料 回答者数 1,023

	1週間分以上	3日以上1週間分未満	1日以上3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア 水	13.0%	31.8	42.0	9.4	2.4	1.3
イ 食料	10.5	32.3	43.5	10.4	2.1	1.4

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

回答者数 436

1 町会・自治会からもらう	6.0%	5 通常どおりスーパーなどで購入する	33.3
2 知人、親戚からもらう	2.5	6 その他	7.1
3 区役所からもらう	2.3	7 考えていない	29.8
4 避難所でもらう	17.4	無回答	1.6

ここから再び、すべての方におうかがいします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1 すべての家具類に対策を行っている	3.0%	3 対策をしている家具類は少ない	35.1
2 対策をしている家具類が多い	24.1	4 対策を行っていない	35.2
		無回答	2.7

（問7で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に）

問7ー1 どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,227

1 方法がわからない	10.9%
2 金具などが高価である	7.3
3 家具にキズをつけたくない	8.0
4 建物の壁にキズをつけたくない	23.6
5 建物に取り付ける場所がない	12.6
6 室内に危険性のある家具類がないため不要である	27.5
7 面倒である	28.0
8 手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない	13.3
9 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	6.6
10 （賃貸のため）勝手に取り付けられない	21.8
11 その他	4.5
無回答	2.3

問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなた  
の地域の避難場所とその意味を知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

		知って いる	なんとなく 見当がつく	知らない	無回答
ア 一時集合場所	意 味	27.3%	34.0	23.1	15.6
	あなたの地域の場所	32.1	33.8	23.9	10.2
イ 避難場所	意 味	29.9	35.1	18.3	16.7
	あなたの地域の場所	36.9	35.7	18.4	9.0
ウ 第一次避難所	意 味	19.6	28.8	33.4	18.3
	あなたの地域の場所	23.1	29.2	35.3	12.4

（問8のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に）

問8ー1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

回答者数 838

1	あだち広報	28.8%
2	タウンページ内の行政情報（旧 わたしの便利帳）	12.6
3	インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）	15.6
4	足立区防災ナビ	23.6
5	あだち防災マップ&ガイド	42.8
6	ポスター、チラシ	5.4
7	区が配布した資料	18.7
8	町会・自治会の掲示板・回覧板	24.7
9	新聞（区内紙）	1.8
10	J:COM足立（ケーブルテレビ）	1.3
11	防災訓練	12.3
12	人から聞いた	10.9
13	その他	5.5
14	覚えていない	5.5
	無回答	2.3

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しよう  
と考えていますか（〇は1つだけ）。

1	避難所	45.5%	4	車や公園など	8.5
2	別居している家族や親戚の家	27.3	5	その他	2.7
3	友人・知人などの家	2.6	6	考えていない	12.2
				無回答	1.1

問10 あなたが、大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

1	町会・自治会などへの地域の防災力向上に係る支援	19.9%
2	子どもへの防災教育の充実	7.9
3	講演会などによる普及啓発や区主催の訓練	2.1
4	耐震診断・耐震改修事業などの促進	15.2
5	木造密集地域など災害危険箇所の解消	13.5
6	ライフラインやエネルギーの確保	57.2
7	関係機関・他自治体などとの応援体制の充実	11.1
8	災害に関する情報提供体制の充実	24.7
9	災害時医療体制の充実	45.2
10	帰宅困難者対策	17.0
11	避難所の管理運営体制の充実	18.8
12	避難所施設の設備などの充実	40.0
13	災害時における要配慮者（※）対策の充実	13.2
14	女性の視点に立った防災対策	14.4
15	災害時のペット対策	13.1
16	水・食料の備蓄の充実	57.4
17	非常用トイレの確保など衛生対策の充実	58.9
18	その他	1.3
19	特にない	1.2
	無回答	2.9

## 洪水対策について、おうかがいします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

1 見て、自宅の浸水深を確認した	26.5%	3 見たが、内容までは覚えていない	33.8
2 見て、内容は確認した	24.3	4 そのような地図は見たことがない	12.9
		無回答	2.4

問12 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか（○は1つだけ）。

1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）	77.0%	2 決めていない	20.6→	下段の問12-2へ お進みください
		無回答	2.3	

（問12で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に）

問12-1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。 回答者数 1,345

1 自宅にとどまる （自宅内の高い階への移動を含む）	65.8%	5 車や公共交通機関で浸水 しない地域へ行く	1.1
2 区内の親戚や知人の家	4.8	6 近くにある高い建物	5.1
3 区外の親戚や知人の家	3.3	7 その他	0.8
4 近隣の小・中学校など区が 開設する水害時の避難所	18.7	無回答	0.4

（問12で「2 決めていない」とお答えの方に）

問12-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか（○は1つだけ）。 回答者数 360

1 避難する場所がわからないから	43.9%	4 河川のはん濫は起こらない と思っているから	18.1
2 近くに避難できる場所がないから	17.5	5 その他	12.8
3 自分や家族だけで避難することが できないから	5.3	無回答	2.5

問13 河川がはん濫して、浸水被害になるような大洪水が迫っている場合、以下のア～カまでの情報を知ったとき、あなたは避難しますか（自宅内の高い場所への移動も含む）。

（○はそれぞれ1つずつ）。

	避難する	避難しない	わからない	無回答
ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき	25.8%	53.1	14.0	7.1
イ 近所の人が避難をしているのを見たとき	36.8	31.7	23.2	8.3
ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき	24.1	52.6	16.0	7.4
エ 区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき	38.2	37.7	17.1	7.0
オ 区から避難勧告・指示が発令されたとき	64.1	17.1	12.1	6.7
カ 自宅付近が浸水したとき	62.0	19.3	11.4	7.3

### 区の情報発信のあり方について、おうかがいします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム（A-メール）などで区の情報を発信するほか、平成25年度からはツイッターやフェイスブックによる情報発信も開始しました。

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

（○はあてはまるものすべて）。

1 あだち広報	68.9%	10 町会・自治会の掲示板・回覧版	28.7
2 ときめき	32.4	11 新聞（区内紙、一般紙）	12.4
3 区のホームページ	29.4	12 テレビ、ラジオ	24.3
4 A-メール	19.6	13 J:COM足立（ケーブルテレビ）	7.2
5 ツイッター	6.6	14 人から聞く	13.1
6 フェイスブック	2.5	15 防災無線	15.1
7 ポスター、チラシ	10.0	16 その他	0.6
8 行政サービス案内	3.7	17 特に入手していない	7.6
9 区民事務所などの窓口	3.1	無回答	1.1



問15 あなたは、区が発信するどのような情報が重要だと考えていますか

(〇はあてはまるものすべて)。

1 財政状況や予算などに関する情報	27.0%
2 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	52.8
3 健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	61.3
4 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	22.0
5 イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	23.5
6 災害や気象に関する情報	63.4
7 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	19.9
8 ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	47.8
9 その他	2.4
10 特になし	5.7
無回答	2.0

問16 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか (〇は1つだけ)。

1 十分に得られている	3.6%	3 得られないことが多い	10.4	5 必要と思ったことがない	6.7
2 ある程度得られている	70.3	4 まったく得られない	2.1	6 区の情報に関心がない	4.4
				無回答	2.6

問16-1、2へお進みください

※ 問16で、選択肢の「1」「2」「5」「6」のいずれかに〇のついた方は、

次ページの「健康について」にお進みください。

(問16で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に)

問16-1 主にどのような理由からですか (〇は1つだけ)。

回答者数 218

1 情報が探しにくい	25.2%	4 情報の内容がわかりにくい	17.4
2 情報の探し方がわからない	29.4	5 情報量が少ない	14.2
3 情報伝達が遅い	5.0	6 その他	4.1
		無回答	4.6

(同様に、問16で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に)

問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報	
区ホームページ	
その他	

### 健康について、おうかがいします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～(※)」を知っていますか(○は1つだけ)。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」

「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。



1 内容まで知っている	10.7%	3 知らない(初めて聞いた)	58.3
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	28.9	無回答	2.1

問18 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。

1 神経障がい (手足のしびれ)	27.7%	5 脳梗塞 <sup>こうそく</sup>	27.3	9 失明	65.7
2 網膜症	25.8	6 心筋梗塞 <sup>こうそく</sup>	26.9	10 足の壊疽 <sup>えいそ</sup>	62.5
3 白内障	26.8	7 口の渇き	45.5	11 その他	1.3
4 腎不全	34.9	8 人工透析	46.8	12 ひとつも知らない	7.7
				無回答	2.3

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか(○は1つだけ)。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

1 食べている	64.8%	2 食べていない	25.9	3 わからない	7.8	無回答	1.4
---------	-------	----------	------	---------	-----	-----	-----

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1	できている	10.2%	3	あまりできていない	38.7	5	わからない	4.9
2	だいたいできている	30.1	4	できていない	14.9		無回答	1.2

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	25.0%	70.5	4.5
イ 習慣的にタバコを吸っている	19.2	75.3	5.5
ウ 安心して受診できる医療機関が身近にある	66.8	30.4	2.8

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（○はあてはまるものすべて）。

1	毎年健康診断を受けている	65.2%
2	がん検診を定期的に受けている	18.2
3	毎日朝ごはんを食べている	66.3
4	毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるようにしている	41.9
5	主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている	38.0
6	食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している	17.2
7	日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	37.2
8	その他	1.9
9	特にない	5.4
	無回答	1.0

問23 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

1	非常に健康だと思う	5.8%	3	あまり健康ではない	24.6
2	健康な方だと思う	63.2	4	健康ではない	5.3
				無回答	1.0

問24 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。

1 受けた	38.3%	3 その他	0.2	無回答	1.0
2 受けていない	59.5	4 わからない	1.0		

（問24で「1 受けた」とお答えの方に）

問24-1 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。

回答者数 668

1 胃がん検診	38.5%	5 乳がん検診	38.3
2 肺がん検診	20.1	6 前立腺がん検診	7.2
3 大腸がん検診	46.9	7 その他	3.1
4 子宮頸がん検診	34.3	無回答	0.6

問25 あなたは、日頃から感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

1 日常的に手洗いを実践している	86.0%	3 あまり行っていない	2.2
2 汚れたときは手洗いを実践している	10.8	4 行っていない	0.4
		無回答	0.7

問26 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

1 内容まで知っている	2.3%	3 知らない	
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	13.4	（初めて聞いた）	83.6
		無回答	0.7

## スポーツ・読書について おうかがいします

問27 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1	30分以上の運動を週2回以上	21.6%	6	運動・スポーツはしていない	37.9
2	週2回以上（時間は問わない）	14.1	⇒ 問28へお進みください		
3	週1回程度（時間は問わない）	11.1	無回答		3.0
4	月1回～3回程度（時間は問わない）	7.7			
5	年に数回（時間は問わない）	4.6			

（問27で1～5のいずれかをお答えの方に）

問27-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,033

1	野球・ソフトボール	2.0	14	健康体操（エアロビクス	24.8
2	サッカー・フットサル	1.6		・リズム体操・ストレッチなど）	
3	バスケットボール	1.0	15	ラジオ体操	13.4
4	バレーボール	0.7	16	武道（柔道・剣道・空手など）	0.6
5	ビーチボールバレー	0.6	17	ダンス	3.0
6	テニス	1.7	18	水泳・水中運動（ウォーキングなど）	4.4
7	ファミリーテニス	0.0	19	登山・ハイキング	2.5
8	バドミントン	1.6	20	陸上競技	0.2
9	卓球	1.1	21	ウォーキング	51.1
10	ゴルフ	7.0	22	ジョギング・マラソン	8.4
11	ゲートボール	0.8	23	サイクリング	8.5
	・グラウンドゴルフ		24	太極拳、ヨーガ	6.1
12	ボウリング	1.1	25	パラスポーツ	0.2
13	筋力トレーニング	20.8		（パラリンピック種目に限らない）	
			26	その他	5.8
				無回答	0.8

(同様に、問27で1～5のいずれかをお答えの方に)

問27-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか（〇はあてはまるものすべて）。

回答者数 1,033

1	自 宅	37.1%
2	自宅周辺	56.1
3	職場及び職場周辺（区内）	3.9
4	職場及び職場周辺（区外）	5.1
5	その他の場所（区内）	16.4
6	その他の場所（区外）	16.6
	無回答	6.3

(問27で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に)

問28 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか

（〇はあてはまるものすべて）。 回答者数 661

1	手頃な価格で施設を利用できる	31.3%
2	身近な場所で運動・スポーツができる	35.9
3	早朝や夜間にも施設が利用できる	15.9
4	一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える	16.8
5	レベルを気にせず参加できる機会がある	21.8
6	運動・スポーツの楽しみ方・やり方を教えてもらえる	9.2
7	運動・スポーツできる場所や機会についての情報が得やすい	6.8
8	プロの試合や国際大会を観戦する機会がある	2.0
9	トップアスリートと交流する機会がある	0.9
10	託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる	4.4
11	その他	8.0
12	どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない	15.1
13	わからない	17.2
	無回答	3.9

※ 問29からは、再び、すべての方におうかがいします。

問29 来年に延期となった2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区での取り組みで関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

1 会場での応援活動	8.5%
2 会場外での観戦（パブリックビューイングなど）	13.5
3 大会を盛り上げるPR活動やイベントの実施	9.2
4 選手の育成や支援	10.5
5 大会関連ボランティアの支援	7.2
6 障がい者スポーツの普及・振興・環境整備・ボランティアの養成	7.9
7 バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	8.4
8 国際交流の促進	9.2
9 日本文化の発信	8.2
10 交通網・交通インフラの整備	20.0
11 スポーツ施設や用具の整備	6.4
12 区内への観光客の増加	6.8
13 区内産業の活性化	9.9
14 その他	2.1
15 特になし	40.1
無回答	5.0

問30 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場もあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などがありますか（〇は1つだけ）。

1 ある 17.5%	3 今までの活動を継続 7.3
2 なし 71.3	無回答 3.9

→ 次ページの問30-2へ  
お進みください

→（問30で「1 ある」または「3 今までの活動を継続」とお答えの方に）

問30-1 それは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

※ 文化活動とは、華道、茶道、書道などの日本文化や音楽、美術、写真、舞踊などのスポーツ以外の習い事や趣味的な活動とお考えください。 回答者数 433

1 スポーツをする・スポーツを観戦する	61.9%	4 ボランティア活動	22.9
2 文化活動をする（※）・伝統文化などを観る	31.4	5 その他	0.9
3 語学（英語等）	25.2	無回答	3.2

(問30-2は、問30で「2 ない」とお答えの方におうかがいします。)

問30-2 あなたは、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか

(〇はあてはまるものすべて)。 回答者数 1,245

1	スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催	8.8%	4	スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供	8.3
2	オリンピック・パラリンピアンとの交流	3.9	5	始めようとは思わない	68.0
3	外国人との交流	7.1	6	その他	5.4
				無回答	4.4

問31 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。

この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（〇は1つだけ）。

1	高齢者も施設使用料は全額負担するべき	5.0%
2	高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき	16.1
3	適用される年齢を引き上げるべき	2.4
4	所得制限を設定するべき	12.0
5	現行のまま継続するべき	43.8
6	その他	1.7
7	わからない	16.1
	無回答	3.0

問32 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（〇はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画（アニメ）」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含みません。

1	本を読む	45.9%
2	漫画（アニメ）を読む	30.4
3	雑誌を読む	39.5
4	新聞を読む	50.5
5	図書館に行く	11.3
6	書店・古書店に行く	30.9
7	本などの通販サイトをみる	17.2
8	1～7のことをしたかったが、できなかった	2.3 ⇒ 理由を問32-1でお答えください
9	1～7のことはいずれもしなかった	9.9 ⇒ 理由を問32-1でお答えください
	無回答	2.7



(問32-1は、「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」を選んだ方のみお答えください)

問32-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。 回答者数 214

1	子どもに手がかかるから	7.5%
2	忙しいから	33.2
3	加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから	21.0
4	加齢に伴い読む気力がなくなったから	15.0
5	場所や施設がないから	3.3
6	本などをすすめてくれる人がいないから	1.9
7	どんな本を読めばいいかわからないから	5.6
8	お金に余裕がないから	11.7
9	本などを読むことが嫌いだから	15.0
10	面倒くさいから	17.8
11	その他	4.2
12	特に理由はない	19.2
	無回答	1.4

### 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、すべての方におうかがいします

問33 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1	知っていて、活動を実践している	4.4%	3	名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	20.1
2	知っているが、特に何も行ってない	21.3	4	知らない（初めて聞いた）	52.7
				無回答	1.5

問34 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1 防犯パトロール運動	6.8%	4 公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動	4.1
2 花の育成活動	10.0	5 違反広告物除却活動	3.2
3 まちの清掃活動	14.7	6 参加していない（今後も参加しない）	67.4
		無回答	5.7

問35 あなたの行動範囲で、「花のあるまちかど事業（※）」の『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』を見たことがありますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

※「花のあるまちかど事業」とは、玄関先や店先で鉢植えやプランターを飾ったり、公園や公共施設などの花壇で花を育てることにより、まちを彩ることと、花の手入れを行う際の人の目で犯罪を抑止しようとする事業です。植木鉢などに『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』をさして、事業をアピールしています。



プレート



ピック

	すでに使用している	見たことがあり、名称なども知っている	見たことはあるが、名称などは知らなかった	名称などは知っているが、見たことはない	見たことはない（初めて知った）	無回答
ア 花のビュー坊プレート	2.5%	5.2	18.8	4.8	64.4	4.2
イ ビュー坊のガーデンピック	0.9	3.8	16.6	5.1	68.2	5.4

問36 あなたは、現在の足立区内の刑法犯認知件数（※）が、ピークであった平成13年と比較して1万件以上、減少していることを知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

1 知っている	42.0%	2 知らない（初めて聞いた）	55.8	無回答	2.2
---------	-------	----------------	------	-----	-----

問37 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか

（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1 良 い	9.1%	3 どちらかといえば悪い	20.2	5 わからない	12.6
2 どちらかといえば良い	52.5	4 悪 い	3.3	無回答	2.3

（問37で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問37-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。 回答者数 1075

1 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	32.7%
2 テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから	25.8
3 犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから	18.8
4 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	49.9
5 青パト車など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	15.4
6 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから	23.0
7 防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから	4.2
8 その他	2.0
無回答	0.9

（問37で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に）

問37-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。 回答者数 411

1 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	11.9%
2 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	51.3
3 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	32.1
4 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	21.2
5 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	22.4
6 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	21.4
7 その他	11.9
無回答	1.5

ここから再び、すべての方におうかがいします
-----------------------

問38 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか  
(〇は2つまで)。

1	犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	22.5%
2	街頭キャンペーンやイベントの実施	2.9
3	防犯講習会の開催	1.7
4	地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与など）	10.9
5	防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援	51.4
6	安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール	37.6
7	安全に配慮した道路、公園の整備	39.3
8	その他	2.6
9	特にない	4.2
	無回答	3.0

問39 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

	いつも鍵をかけている	鍵をかけることが多い	短時間のときは鍵をかけないことがある	鍵をかけることは少ない	鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）	自転車を持っていない、使っていない	無回答
ア 外出先で駐車するとき	70.4%	4.6	2.2	0.5	0.2	18.0	4.1
イ 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき	58.5	4.4	1.7	5.4	7.7	18.0	4.3

## 環境・地域活動について、おうかがいします

問40 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

1	ごみと資源の分別を実行している	87.2
2	節電や節水など省エネルギーを心がけている	46.4
3	くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	42.6
4	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	75.9
5	環境に配慮した製品を選んで使っている	11.6
6	家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、 リサイクルショップなどで売り買いしたことがある	24.7
7	その他	1.7
8	特にない	2.5
	無回答	1.3

問41 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

1	知っている	90.9%	2	知らない（初めて聞いた）	7.8	無回答	1.3
---	-------	-------	---	--------------	-----	-----	-----

（問41で「1 知っている」とお答えの方に）

問41-1 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

（○はあてはまるものすべて）。回答者数 1,587

1	残さず食べるようにしている	77.6%
2	料理を作りすぎない	47.6
3	大根の葉やキャベツの芯など棄てるものがないよう調理を工夫する	26.1
4	買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする	46.6
5	買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している	43.4
6	買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	10.6
7	外食時に食べられる分だけ注文する	55.1
8	その他	1.4
9	特に心がけていることはない	2.9
	無回答	0.3

問42 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、また は今後参加した いと思う活動
1 町会や自治会の運営に関する活動	9.2%	6.5%
2 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	8.8	9.4
3 花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物	11.9	20.6
4 ボランティアやNPO（民間の非営利活動の組織）などの活動	2.5	5.0
5 まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、公園の清掃など）	6.2	10.2
6 自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み	13.5	17.2
7 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	4.4	5.5
8 文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）	9.1	19.5
8-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会	3.0	8.6
9 地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など（PTAや大学の公開講座なども含む）	5.7	10.5
10 家族、地域の健康づくりを支援する活動（健康講座に友人を誘う、講座で得た知識を周囲の人に伝えるなど）	1.8	4.9
11 特に参加していない・特になし	48.1	32.0
無回答	17.7	23.8

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいします

問43 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか  
（○は1つだけ）。

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1 知っていて、内容も概ね理解している	9.2%	3 知らない（初めて聞いた）	70.9
2 聞いたことはあるが、内容はわからない	17.6	無回答	2.3

問44 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」とは、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1 知っていて、業務内容も概ね理解している	24.2%	3 知らない（初めて聞いた）	40.0
2 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	33.5	無回答	2.3

問45 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1 積極的に協力したい	1.4%	4 興味がない、協力したくない	12.3
2 負担にならない範囲で協力してもよい	18.4	5 わからない	29.3
3 協力したいが、時間などに余裕がない	34.9	無回答	3.7

→（問45で「1 積極的に協力～」または「2 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に）

問45-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

回答者数 346

1 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動	37.0%
2 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動	57.8
3 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動	26.3
4 活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助	10.1
5 その他	3.5
無回答	4.0

問46 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないために、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことを知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っていて、活動を実践している	14.6%	3 知らない（初めて聞いた）	45.6
2 知っているが、特に何もしていない	37.1	無回答	2.7

問47 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品）を1種類以上食べていますか（〇は1つだけ）。

1 食べている	85.2%	3 わからない	3.7
2 食べていない	9.3	無回答	1.8

### 協働・協創について、おうかがいします

問48 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」を知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っている	3.8%	3 知らない（初めて聞いた）	81.4
2 聞いたことはある	12.3	無回答	2.5

（問48で「1 知っている」とお答えの方に）

問48-1 あなたは、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）

（〇は1つだけ）。回答者数 66

1 すでに、活動を実践している	22.7%	3 関心がない	19.7
2 関心はあるが、特に活動していない	57.6	無回答	0.0

問49 あなたは、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（〇は1つだけ）。

1 そう思う	3.8%	3 どちらかといえばそう思わない	10.4	5 わからない	53.8
2 どちらかといえばそう思う	20.2	4 そう思わない	6.6	無回答	5.2



## 足立区の取り組みについて、おうかがいします

問50 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、ア～ニの項目ごとに、最も近いものを選んでください

（〇はいずれも、それぞれ1つずつ）。

区	の取り組み	内 容	現状評価 (満足度)				
			満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	14.7%	61.5	13.8	2.1	8.0
イ	職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	21.5	53.1	14.4	3.6	7.4
ウ	行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	7.2	56.2	22.3	4.0	10.2
エ	防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	6.6	52.6	26.1	4.2	10.5
オ	自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	14.3	55.5	18.7	3.6	7.9
カ	資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	16.6	59.3	14.0	2.1	8.0
キ	治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	8.4	54.0	23.3	4.9	9.4
ク	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	6.1	57.2	23.2	3.3	10.3
ケ	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	4.5	57.3	23.2	2.4	12.7
コ	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	6.1	55.3	23.3	3.3	11.9
サ	生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	7.3	56.4	21.6	3.4	11.3
シ	学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	7.8	55.7	20.8	4.1	11.5

次ページへ続く

(前ページからの続き)

区取り組み	内 容	現状評価 (満足度)				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ス 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	12.6%	55.3	15.3	2.7	14.0
セ 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	8.3	54.9	21.8	4.3	10.7
ソ 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	7.6	55.7	19.8	3.4	13.6
タ 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	10.7	58.8	16.0	2.5	12.0
チ 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	6.9	50.3	22.6	6.9	13.3
ツ 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	5.0	54.3	21.9	3.4	15.3
テ 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	7.0	52.0	23.1	5.4	12.4
ト 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など	5.2	44.6	30.9	6.6	12.8
ナ 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	7.8	48.9	24.1	8.5	10.7
ニ 区政全体として		7.6	58.9	16.4	3.8	13.3

区取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
ア 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	48.2%	36.3	4.1	0.6	10.8
イ 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	45.4	36.9	6.0	1.0	10.7
ウ 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	47.8	36.0	3.8	0.5	11.8
エ 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	62.0	24.5	2.1	0.6	10.8
オ 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	41.6	42.2	5.0	0.9	10.4
カ 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	47.5	38.2	3.6	0.6	10.1
キ 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	59.3	27.1	2.6	0.7	10.3
ク 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	22.1	48.6	15.8	2.2	11.3
ケ 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	18.0	50.0	16.4	3.3	12.4
コ 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	23.3	46.7	14.9	3.6	11.6
サ 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	24.3	48.2	13.1	2.7	11.7
シ 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	45.4	35.5	6.0	1.6	11.6

次ページへ続く

(前ページからの続き)

区取り組み	内 容
ス 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
セ 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ソ 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
タ 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
チ 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
ツ 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
テ 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ト 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など
ナ 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
ニ 区政全体として	

重要度				
重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
51.4%	30.3	3.1	1.4	13.8
48.9	34.5	4.0	1.4	11.2
45.2	36.5	4.5	1.1	12.7
40.6	41.5	4.3	0.9	12.7
34.4	40.2	9.2	3.1	13.2
28.3	46.3	9.6	1.3	14.5
32.8	45.3	7.4	1.7	12.8
32.8	44.4	8.4	1.4	12.9
49.1	35.2	2.9	0.6	12.3

問51 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1 そう思う	3.2%	4 そう思わない	7.0
2 どちらかといえばそう思う	26.2	5 わからない	36.1
3 どちらかといえばそう思わない	17.2	無回答	10.2

問52 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア 足立区に愛着をもっている	28.4%	47.1	7.2	5.5	6.9	4.8
イ 足立区に誇りをもっている	14.7	38.7	16.0	10.7	14.2	5.7
ウ 足立区を人に勧めたい	12.6	37.9	15.7	10.3	17.1	6.4
エ 足立区を良いまちにするために 何かしたい	11.3	42.7	12.6	7.3	19.3	6.8
オ 足立区を良いまちにするため の活動をしている人に共感する	30.2	47.4	4.5	3.0	9.3	5.6

(問52の項目のア、イ、ウ、のいずれかで、

「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」に○のついた方に)

問52-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思う  
のは、どうしてですか。理由をお書きください。


問53 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。


⇒次ページにある最後の質問（問54）にもお答えください。

問54 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか  
(○は1つだけ)。

1 そう思う	28.6%	4 そう思わない	4.4
2 どちらかといえばそう思う	36.0	5 わからない	13.5
3 どちらかといえばそう思わない	8.2	無回答	9.3

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、  
返信用封筒に入れて 9月11日(金)までにご投函ください。



---

## 第49回 足立区政に関する世論調査

2021年3月発行

発 行 足立区

編 集 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課  
東京都足立区中央本町1-17-1  
電話 03-3880-5111（代表）

実 施 （株）マーケティング・サービス  
東京都中野区中央1-13-8  
電話 03-3363-3111（代表）

---



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課